

2 0 2 6 年 度

専門科目教育要項

東京科学大学歯学部歯学科

歯学部歯学科における教育の基本的理念

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康の維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成する。（指導者：歯科界の発展のために、いかなる分野においても牽引力をもって指導的役割を果たすことのできる人材）

一般教育目標

1. 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
2. 基本的な科学原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
3. 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
4. 全身の常態と病態を理解した上で、口腔・頭蓋・顎・顔面領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識および基本的技術を修得する。
5. 社会における歯科医学・医療の役割とその重要性を理解する。

歯学科カリキュラム科目構成図（２０２３年度～）

[illegible]

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	5年前期	5年後期	6年前期	6年後期	7年前期	7年後期
基礎・情報教育	アカデミック・リテラシー 英語 教養教育													
研究教育	基礎情報教育 研究教育 研究者教育													
医歯科学教育	医歯科学教育 医歯学基礎教育													
歯科医歯教育	歯科医歯教育 歯科臨床教育													
歯学部医歯教育	歯学部医歯教育 多職種連携教育・屋根瓦教育													
多職種連携教育	多職種連携教育 国際性教育													
国際性教育	国際性教育													

ディプロマ・ポリシー

歯学部歯学科では、全学共通科目・専門科目の一部を除き多くの科目が必修であり、学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、包括臨床実習受講の資格条件としての共用試験の合格、包括臨床実習終了時の臨床能力判定試験の合格とともに、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1. 幅広い教養と豊かな感性

自然科学、社会科学、人文科学の全学共通科目を履修し、幅広い教養と医療者としての豊かな人間性を涵養している。また、専門科目、関連する医学教育科目の履修を通じて、基本的な科学原理と概念を理解し、生命科学知識を修得している。

2. 問題提起、解決能力

全教育課程で修得した知識・技能・態度とともに、研究実習を通じて、科学的探求心を持ち、自ら問題を発見し、新たな課題を解決する力を涵養している。

3. 歯科医師としての基本的資質・能力

専門科目、関連する医学教育科目、多職種連携科目の履修を通じ、地域、歯科医療現場で多様な場や人をつなぎ活躍できる歯科医師としての基本的資質・能力を修得している。

4. 国際性

全学共通科目や専門科目を通じて、医歯学英语を修得するとともに、世界の歯科事情、国際貢献等の国際性を涵養している。

本学は、以上の要件を満たした卒業生が、国民の健康の維持・増進のために、使命感を持って歯科医療を実践するとともに、国際的視野に立って歯科医学・歯科医療の進歩・発展に貢献することを強く望む。

カリキュラムポリシー

東京科学大学の教育理念、および歯学部歯学科の教育理念に基づき、「豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的 な歯科医療を実践し、国民の健康の維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる 指導者を育成する」ことを見据えたディプロマ・ポリシーを実現するために、カリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

- 学生が次の資質を修得することを、カリキュラムの目的とする。
 - 臨床的な視点で研究を実践する Clinician Scientist を志す研究者としての資質
 - 科学的な視点で根拠に基づく歯科医療を実践する Scientific Clinician の資質
 - 日本および国際社会における歯科医療・歯科医学を牽引する指導者としての資質

- カリキュラムは次の方針に従って策定する。
 - 学習成果基盤型とし、最新の歯学教育モデル・コア・カリキュラムの到達目標に加えて、本学独自の到達目標を設定する。
 - 学生の興味、学習準備状況、学習進度に柔軟に対応するため、多様な学習スタイルを想定した授業配置とする。
 - 学生の好奇心、探求心に基づき、自由な発想で自律的に学習する力を養うため、学生主体のアクティブラーニングを全科目で実施する。
 - 連携力・指導力を育成するため、学科横断・学年縦断科目により、学生が共に学び共に教えあう機会を設ける。 研究マインドを涵養するため、研究室に長期間配属する研究実習を実施する。
 - 学習の動機付けと学習内容の統合を支援するため、低学年からの早期臨床体験実習を実施する。

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供する力を養うため、充実した診療参加型臨床実習を実施する。

2026年度 歯学部歯学科 専門科目授業計画表

※下記の日程は2026年4月1日時点のものなので、適宜HPやSlackを確認して最新の情報を得ること。なお、計画表に定められている休暇以外の日程は、授業が予定されていないだけであり、完全な休暇ではありません。大学からの呼び出しに応じられるようにスケジュールを管理すること。

第1学年

区分		日数	期間		
前期	入学式	1	2026年4月2日(木)	～	2026年4月2日(木)
	教養ガイダンス	1	2026年4月3日(金)	～	2026年4月3日(金)
	新入生ガイダンス（学生支援主催）	1	2026年4月5日(日)	～	2026年4月6日(月)
	TOEFL・生物学プレースメントテスト	1	2026年4月7日(火)	～	2026年4月7日(火)
	健康診断、情報ガイダンス、専門科目ガイダンス	1	2026年4月8日(水)	～	2026年4月8日(水)
	多職種連携Ⅰ	1	2026年4月14日(火)	～	2026年4月14日(火)
後期	後期授業 1	65	2026年9月28日(月)	～	2026年12月25日(金)
	本試験期間1	5	2026年12月7日(月)	～	2026年12月11日(金)
	追・再試験期間1	3	2026年12月21日(月)	～	2026年12月23日(水)
	大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)
	後期授業 2	40	2027年1月4日(月)	～	2027年2月26日(金)
	本試験期間2	5	2027年2月1日(月)	～	2027年2月5日(金)
	追・再試験期間2	5	2027年2月15日(月)	～	2027年2月19日(金)
	春季休業	23	2027年2月27日(土)	～	2027年3月31日(水)

第2学年

区分		日数	期間		
前期	2学年ガイダンス	1	2026年4月3日(金)	～	2026年4月3日(金)
	前期授業 1	88	2026年4月1日(水)	～	2026年7月31日(金)
	B肝・Tスポット	3	2026年4月15日(水)	～	2026年4月17日(金)
	B肝予防接種	2	2026年5月28日(木)	～	2026年5月29日(金)
	本試験期間1	5	2026年6月1日(月)	～	2026年6月5日(金)
	追・再試験期間1	4	2026年7月21日(火)	～	2026年7月24日(金)
	夏季休業	20	2026年8月1日(土)	～	2026年8月30日(日)
	前期授業 2	22	2026年8月31日(月)	～	2026年9月29日(火)
	海外研修報告会	1	2026年9月1日(火)	～	2026年9月1日(火)
	本試験期間2	5	2026年9月7日(月)	～	2026年9月11日(金)
	追・再試験期間2	4	2026年9月24日(木)	～	2026年9月29日(火)
	後期授業 1	63	2026年9月30日(水)	～	2026年12月25日(金)
	大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	解剖体追悼式	1	2026年10月22日(木)	～	2026年10月22日(木)
後期	本試験期間1	5	2026年12月14日(月)	～	2026年12月18日(金)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)
	後期授業 2	40	2027年1月4日(月)	～	2027年2月26日(金)
	御遺骨返還式	2月上旬※日にちは未定			
	本試験期間2	5	2027年2月1日(月)	～	2027年2月5日(金)
	追・再試験期間	5	2027年2月15日(月)	～	2027年2月19日(金)
	春季休業	23	2027年2月27日(土)	～	2027年3月31日(水)

第3学年

区分		日数	期間		
前期	3学年ガイダンス	1	2026年4月3日(金)	～	2026年4月3日(金)
	前期授業 1	86	2026年4月3日(金)	～	2026年7月31日(金)
	TOEFL試験	1	2026年4月15日(水)	～	2026年4月15日(水)
	B肝検査	3	2026年4月15日(水)	～	2026年4月17日(金)
	多職種連携Ⅱ	1	2026年5月22日(金)	～	2026年5月22日(金)
	本試験期間1	5	2026年7月6日(月)	～	2026年7月10日(金)
	追・再試験期間1	4	2026年7月21日(火)	～	2026年7月24日(金)
	夏季休業	15	2026年8月1日(土)	～	2026年8月23日(日)
	前期授業 2	27	2026年8月24日(月)	～	2026年9月29日(火)
	海外研修報告会	1	2026年9月1日(火)	～	2026年9月1日(火)
	本試験期間2	5	2026年9月7日(月)	～	2026年9月11日(金)
	実験動物慰霊式	1	2026年9月25日(金)	～	2026年9月25日(金)
	追・再試験期間2	4	2026年9月24日(木)	～	2026年9月29日(火)
後期	後期授業 1	63	2026年9月30日(水)	～	2026年12月25日(金)
	大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	本試験期間1	5	2026年12月7日(月)	～	2026年12月11日(金)
	追・再試験期間1	3	2026年12月21日(月)	～	2026年12月23日(水)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)
	後期授業 2	40	2027年1月4日(月)	～	2027年2月26日(金)
	春季休業	23	2027年2月27日(土)	～	2027年3月31日(水)

第4学年

区分		日数	期間		
前期	4学年ガイダンス	1	2026年4月3日(金)	～	2026年4月3日(金)
	前期授業 1	88	2026年4月1日(水)	～	2026年7月31日(金)
	B肝検査	3	2026年4月15日(水)	～	2026年4月17日(金)
	本試験期間1	5	2026年7月6日(月)	～	2026年7月10日(金)
	追・再試験期間1	4	2026年7月21日(火)	～	2026年7月24日(金)
	夏季休業	20	2026年8月1日(土)	～	2026年8月30日(日)
	前期授業 2	23	2026年8月31日(月)	～	2026年9月30日(水)
	海外研修報告会	1	2026年9月1日(火)	～	2026年9月1日(火)
	本試験期間2	3	2026年9月28日(月)	～	2026年9月30日(水)
	後期授業 1	64	2026年9月29日(火)	～	2026年12月25日(金)
	大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	本試験期間1	5	2026年12月7日(月)	～	2026年12月11日(金)
	追・再試験期間1	3	2026年12月21日(月)	～	2026年12月23日(水)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)
後期	後期授業 2	42	2027年1月4日(月)	～	2027年3月2日(火)
	共用試験説明会(OSCE)	1	2027年1月4日(月)	～	2027年1月4日(月)
	共用試験説明会(CBT)	1	2027年1月12日(火)	～	2027年1月12日(火)
	CBT本試験	1	2027年1月26日(火)	～	2027年1月26日(火)
	OSCE本試験	1	2027年2月6日(土)	～	2027年2月6日(土)
	CBT追・再試験	1	2027年3月2日(火)	～	2027年3月2日(火)
	OSCE追・再試験	0	2027年2月27日(土)	～	2027年2月27日(土)
	春季休業	21	2027年3月3日(水)	～	2027年3月31日(水)

第5学年

区分		日数	期間		
前期	5学年ガイダンス	1	2026年4月2日(木)	～	2026年4月2日(木)
	前期授業 1	130	2026年4月2日(木)	～	2026年9月30日(水)
	本試験期間1	5	2026年6月15日(月)	～	2026年6月19日(金)
	追・再試験期間1	5	2026年6月29日(月)	～	2026年7月3日(金)
	共用試験説明会(CBT)	1	2026年6月22日(月)	～	2026年6月22日(月)
	共用試験説明会(OSCE)	1	2026年6月22日(月)	～	2026年6月22日(月)
	CBT本試験	1	2026年7月14日(火)	～	2026年7月14日(火)
	OSCE本試験	0	2026年7月25日(土)	～	2026年7月25日(土)
	CBT追・再試験	1	2026年8月18日(火)	～	2026年8月18日(火)
	OSCE追・再試験	0	2026年8月22日(土)	～	2026年8月22日(土)
	海外研修報告会	1	2026年9月1日(火)	～	2026年9月1日(火)
	登院式	1	2026年9月7日(月)	～	2026年9月7日(月)
	患者対応接遇セミナー	1	2026年9月8日(火)	～	2026年9月8日(火)
	包括臨床実習（D5/D6相互実習、PhaseⅠオーバーラップ）	17	2026年9月10日(木)	～	2026年10月2日(金)
後期	包括臨床実習（PhaseⅡA）	128	2026年10月5日(月)	～	2027年3月31日(水)
	大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)

第6学年

区分		日数	期間		
前期	包括臨床実習（PhaseⅡB）	128	2026年4月1日(水)	～	2026年9月25日(金)
	チーム医療入門	2	2026年6月23日(火)	～	2026年6月24日(水)
	医歯学連携実習	0	2026年6月26日(金)	～	2026年6月26日(金)
	夏季休業	22	2026年7月11日(土)	～	2026年8月11日(火)
	PX-CSX	1	2026年9月5日(土)	～	2026年9月5日(土)
	PX-CSX追試験	1	2026年9月16日(水)	～	2026年9月16日(水)
	PX-CSX再試験	1	2026年9月25日(金)	～	2026年9月25日(金)
	後期 大学祭	2	2026年10月17日(土)	～	2026年10月18日(日)
	冬季休業	5	2026年12月26日(土)	～	2027年1月3日(日)
	包括臨床実習（PhaseⅢ）	25	2027年2月1日(月)	～	2027年3月5日(金)
後期	卒業式		2027年3月26日(金)		
	※包括臨床実習の日程及び夏季休業については2025年度をベースにして記載している為、変動する可能性があります。				

目 次

まえがき	
基本的理念	
一般教育目標	
歯学科ディプロマポリシー	
歯学科カリキュラムポリシー	
2026年度歯学部歯学科専門科目授業計画表	5
学生周知事項等	10
歯科医師国家試験について	11
学生周知事項	12
災害関係連絡事項	17
仮進級制度について	18
7号館の管理、使用について	19
ロッカーの使用について	20
実習要件ワクチン接種について	21
学校感染症罹患時の対応フローチャート	23
定期試験時の注意事項	27
専門科目	
1 多職種連携 I	29
2 歯学入門	32
3 早期臨床体験実習	36
4 基礎情報医歯学	40
5 行動科学基礎	43
6 社会と環境	46
7 遺伝の分子的基盤	54
8 細胞機能の分子的基盤	59
9 生命を構成する分子とその代謝	63
10 硬組織生化学の分子的基盤	66
11 生命の分子的基盤実習	69
12 人体の構造と機能(歯の解剖)	71
13 研究入門 I	73
14 研究入門 I α	75
15 AI・データサイエンスのための数学	77
16 医療とAI・ビッグデータ入門	79
17 アカデミック・リテラシー	82
18 生命科学基礎	85
19 英語 II	89

20	International Course for Clinical Dentistry L1.....	113
21	International Course for Clinical Dentistry L2.....	116
22	人体の構造と機能(人体解剖学).....	119
23	人体の構造と機能(人体解剖実習).....	123
24	人体の構造と機能(組織学総論).....	128
25	人体の構造と機能(組織学各論).....	132
26	人体の構造と機能(人体の発生).....	137
27	学年混合セミナー I	141
28	医療とAI・ビッグデータ応用	145
29	人体の構造と機能(神経系の機能Ⅰ)	148
30	人体の構造と機能(神経系の機能Ⅱ)	151
31	人体の構造と機能(生命維持のための生体機能)	153
32	人体の構造と機能(口腔生理)	156
33	人体の構造と機能(生理学実習).....	158
34	人体の構造と機能(口腔組織学).....	160
35	予防と健康管理	165
36	歯科医療基礎Ⅰ	170
37	医療統計学・疫学基礎	173
38	研究入門Ⅱ	176
39	研究入門Ⅱ α	180
40	自然科学演習.....	182
41	System-based medical terminologyⅠ.....	185
42	System-based medical terminologyⅡ.....	189
43	IMRAD Format Presentation in English.....	193
44	多職種連携Ⅱ	197
45	臨床歯学入門Ⅰ.....	200
46	感染と生体防御(免疫学・細菌学)	205
47	病因と病態(病理学)	211
48	病態科学演習.....	216
49	生体と薬物(薬理学)	222
50	歯科法医学	231
51	隣接医学Ⅰ(内科等)	235
52	隣接医学Ⅱ(外科・耳鼻科・眼科等)	238
53	歯科医療基礎Ⅱ.....	243
54	学年混合セミナーⅡ	247
55	行動科学発展.....	250
56	生命倫理.....	252
57	歯科材料と歯科医療機器(歯科理工学)	256

58	歯科放射線学基礎	262
59	総合診療・地域医療	268
60	課題統合セミナー	273
61	研究入門Ⅲ	280
62	研究実習Ⅰ	282
63	研究実習Ⅱ	286
64	保存修復学	289
65	歯内治療学	295
66	歯周病学	303
67	全部床補綴学	310
68	部分床補綴学	315
69	口腔外科学	320
70	歯科麻酔学	324
71	高齢者歯科学	328
72	歯科医療基礎Ⅲ	331
73	学年混合セミナーⅢ	334
74	冠橋義歯補綴学	337
75	インプラント治療学	343
76	歯科矯正学	347
77	小児歯科学	354
78	障害者歯科学	361
79	歯科放射線学臨床	364
80	医療統計学・疫学演習	367
81	医療情報学	369
82	基礎医歯学総合学習	372
83	咀嚼と嚥下のバイオロジー	374
84	ことばの世界	377
85	オクルージョン	380
86	歯科と色	383
87	口唇口蓋裂	386
88	全人的総合診断	389
89	学年混合選択セミナー	392
90	咬合育成・発達	405
91	顎口腔医療	428
92	全身と歯科医療	436
93	発展歯科臨床	450
93	臨床情報処理	467

94 包括臨床実習	475
95 包括医療統合教育	482
96 長寿口腔健康科学コース	486

全学科共通自由科目

1 Moral and Political Philosophy for Medicine(MPP)	493
2 Leadership (LDR)	499
3 Negotiation (NGT)	505
4 アントレプレナー教育（アントレプレナーシップ入門）	511
5 疫学基礎	514
6 生物統計学基礎	516
7 生物統計学応用Ⅰ	518
8 生物統計学応用Ⅱ	520
9 臨床試験方法論基礎	522
10 臨床試験方法論応用	524
11 口腔疫学基礎	526
12 疫学応用	528

規則集

東京科学大学学則	531
東京科学大学学修規程	540
東京科学大学学生の懲戒等に関する規程	543
東京科学大学の学部における学修に関する細則	547
東京科学大学におけるGPA制度に関する要項	551
東京科学大学における公欠の制度に関する要項	553
東京科学大学歯学部専門科目学修内規	555
成績不服申し立て	566

学生周知事項等

学生周知事項等

歯科医師国家試験について

歯科医師になろうとする者は、厚生労働大臣の行う歯科医師国家試験に合格し、歯科医師の免許を受けなければならない。
歯科医師国家試験は臨床上必要な歯科医学及び口腔衛生に関して歯科医師として具有すべき知識及び技能について毎年厚生労働大臣が行う。

〔受験資格及び受験手続について〕

（受験資格）

歯科医師国家試験は、次の号のいずれかに該当する者でなければ、これを受けることができない。

- （1）学校教育法に基づく大学において、歯学の正規の課程を修めて卒業した者
- （2）歯科医師国家試験予備試験に合格した者で、合格した後1年以上の診療及び口腔衛生に関する実地修練を経たもの。
- （3）外国の歯科医学校を卒業し、又は外国で歯科医師免許を得た者であって、厚生労働大臣が（1）又は（2）に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有し、かつ、適当と認定したもの。

（提出書類）

ア．受験願書

イ．写真

ウ．受験手数料（収入印紙） 受験しようとする者は、上記に掲げられた書類を提出すること。

学生周知事項

1. 掲示について

学生への告知、通知、連絡はすべてSlackや電子メール(Science TokyoポータルのGmail)を通して連絡する。見落としがないよう十分注意すると共に、1日に1度はSlackおよびメールを確認して不利益を被らないように心がけること。

2. 学生証について

- (1) 学生証は常に携帯すること。
- (2) 学生証を紛失または破損等したときは、湯島学位審査グループ(1号館西1階)に届け出て再交付の手続きをすること。再交付費用(1,500円)は学生本人の負担とする。
- (3) 学生証は卒業、退学または除籍のときには直ちに湯島学位審査グループへ返納すること。返却できない場合は、費用を負担することとする。

3. 学生旅客運賃割引

- (1) 課外活動または帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合、旅客運賃の割引(2割)を受けることができる。
- (2) 学割証の不正使用(第三者への貸与等)は絶対にしないこと。
- (3) 年間使用限度枚数は1人10枚(1回につき2枚まで)
- (4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙をもらい、湯島学位審査グループ(1号館西1階)に問い合わせること。
- (5) 学割証が必要なときは5号館4階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。
利用日時：月曜日～金曜日、8:30～21:00
問い合わせ先：湯島学位審査グループ(内線：5074)

4. 証明書等

証明書等は、歯学教務グループおよび証明書自動発行機にて発行する。

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/procedure/shigaku/index.html>

- (1) 次に掲げるものは、歯学教務グループ(1号館西1階)で発行するので歯学部証明書交付願を提出すること(受付時間8:30～17:15)
(原則として交付願を受理した日から1週間程度要するので留意すること。)
- ①成績証明書
- ②英文の在学証明書

(2) 次に掲げるものは、5号館4階談話室にある自動発行機で発行する。

(利用日時：月曜日～金曜日、8：30～21：00)

① 在学証明書

② 卒業見込証明書（第6学年在学者のみ）

(3) 次に掲げるものは、湯島学位審査グループ（1号館1階）で発行する。

① 通学証明書（交通機関から請求された場合に限る）

通学証明書が必要な場合は、湯島学位審査グループに問い合わせること。

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入すること。

5. 住所・氏名等の変更について

本人または保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む）に変更が生じたときには、Slack「[#ug-歯学部歯学科全体-歯学教務グループからのお知らせ](#)」から様式をダウンロードのうえ歯学教務グループへ手続きをすること。

6. 欠席、休学、復学、退学 ※内容要確認※

(1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は欠席届を提出すること。

なお欠席により追試験を希望する場合は、本試験終了後原則として5日以内に欠席届・追試験願・診断書を提出すること。

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、Slack「[#ug-歯学部歯学科全体-歯学教務グループからのお知らせ](#)」より様式をダウンロードのうえ休学願（保証人連署）を歯学教務グループへ提出し、学長の許可を得ること。

なお休学を許可される期間は、通算して3年以内となる。

※病気を理由に休学した場合は、必ず医師の診断書を添付すること。

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中で復学を希望する場合は、Slack「[#ug-歯学部歯学科全体-歯学教務グループからのお知らせ](#)」より様式をダウンロードのうえ復学願（保証人連署）を歯学教務グループへ提出し、学長の許可を得ること。

※病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨が記載された医師の診断書を添付した上で、保健管理センターを受診する必要がある。

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、Slack「[#ug-歯学部歯学科全体-歯学教務グループからのお知らせ](#)」より様式をダウンロードのうえ退学願（保証人連署）を歯学教務グループへ提出し、学長の許可を得ること。

なお、退学するにあたっては、事前に歯学科教育委員長、学年主任等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

7. 授業中（大学行事、課外授業を含む）の事故等

入学時に加入した「学生教育研究災害傷害保険」および「医学生教育研究賠償責任保険」の対象となる。

問い合わせ先：学生支援総括グループ（5号館3階）内線（5077）

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/support/insurance-regime/index.html>

8. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

- (1) 講義室、実習室、ロッカー室：歯学教務グループ（1号館西12階：内線 5411）
防災センター（D棟北1階）

9. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料を引き落とす。

前期分授業料は5月中に、後期分授業料は11月中に納付すること。

10. 湯島キャンパスにおける講義に際しての注意事項

- (1) 平日の午前8時30分から午後5時までD棟(歯系診療部門)玄関から出入りすることを原則禁止
- (2) 歯学部建物内へは、以下のように出入りすること。
- 1) 聖門⇄1号館、2号館、7号館
 - 2) 正門⇄1号館、2号館、7号館
 - 3) 御茶ノ水門あるいは丸の内線出口⇄1号館、2号館、D棟防災センター（歯学部時間外通用口）
- (3) 白衣または実習着を着用していない学生は、D棟(歯系診療部門)の聖橋側エレベーターを使用すること。

- (4) 臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由でD棟(歯系診療部門)を移動するとき
は、私語を慎むこと。
- (5) 白衣または実習着を着用したまま学外に出ないこと

15. 授業中のパーソナルコンピュータ、スマートフォンなどの機器使用の制限について

授業中におけるパーソナルコンピュータ、タブレット端末、スマートフォンなどの携帯電話等の使用に関して以下のように定めている。

- (1) 当該授業に関係のない機器を使用することを禁ずる。
- (2) 上記 1 の状況において、授業担当者あるいは授業補助者が、学生が当該授業を使用していると認めたときは、これを制限できる。この場合制限とは以下のことをいう。
 - 1) 当該機器の電源を強制的に OFF にする。
 - 2) 当該授業終了時まで授業担当者あるいは授業補助者が当該機器を保管することができる。
 - 3) 当該学生を退出させる。再入室にあたっては当該機器を持ち込んでいないことを条件とする。

16. カードリーダーの設置について

各講義室および実習室には、カードリーダーが設置されている。各授業の出席については、原則的にこれらに学生証をタッチすることで登録を行うので、学生証を必ず忘れないようにすること。

なお、授業によりこの装置を使用しないことがある。その場合は、担当教員の指示に従うこと。また、万が一、学生証を忘れた場合、歯学教務グループでその日に限りの貸し出しカードを一時的に貸与するので申し出ること。

17. 学生用メールについて

学生各自に割り当てられたメールアドレス（学籍番号下6桁に@m.isct.ac.jp）宛に、掲示に準じた連絡や、個別の連絡を送信することがあるので、1日1回は必ずチェックしておくこと。

18. その他

- (1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、5号館4階談話室内にあるメールボックスにて保管しているので、責任者は適宜確認すること。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにすること。

- (2) 事務の窓口

教 務 事 務：歯学教務グループ（1号館西1階、内線 5411）

授 業 料の納入：財務部経理課収入第2グループ（緑ヶ丘地区3号館3階、メールアドレス：suitou.adm@tmd.ac.jp）

奨 学 金、授業料免除：学生支援総括グループ（5 号館 3 階、内線 5077）

奨学金：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/scholarship/index.html>

授業料免除：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/exemption/index.html>

災害関係連絡事項

1. 台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区）

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う湯島地区で行う授業の休講、試験の延期の措置等を決定した場合は、下記により本学のホームページに掲載する。

URL: <http://www.tmd.ac.jp/faculties/index.html>

※休講措置の詳細については教務グループからも連絡するのでメールも併せて確認すること。

2. 学内で大規模地震・火災が発生した場合の避難場所

学内で地震や火災などの非常事態が起こった場合、あわてずに教員の指示に従って行動すること。湯島地区の緊急避難場所は立体駐車場屋上庭園となっている。

3. 大規模地震ポケットマニュアルについて

このマニュアルは、Science Tokyo在学生サイトより確認ができる。

大規模地震（震度 5 強以上を想定）が発生した場合の初動対応を掲載しているので、大規模地震が発生した場合の安全確保や避難及び安否確認等に役立てること。

（HP掲載場所）<https://students.isct.ac.jp/ja/011/security>

Science Tokyo在学生サイト → 防災・危機管理 → 大地震対応マニュアル医歯学系

4. 安否確認システムについて

このシステムは、地震等の災害発生時に本学の学生及び教職員の安否確認のため、携帯電話・スマートフォン・パソコンから安否情報を入力するものである。

災害が発生した際には、安否確認システムより通知が届くので、速やかに自身の安否を入力すること。また、年に1回以上、訓練としてテスト発報を行うため、その際にも必ず安否を入力すること。

※訓練の際は必ず事前に予告を行う。また、首都圏外で発生した地震も対象となるため、実際に揺れを感じなくても安否確認システムが作動することがある。予告がない場合は訓練ではなく実際の地震なので、訓練と勘違いして誤った情報を伝えないように注意すること。なお、このシステムの登録・操作方法等については、ホームページから確認すること。

（HP掲載場所）<https://students.isct.ac.jp/ja/011/security>

Science Tokyo在学生サイト → 防災・危機管理 → 安否確認システム医歯学系

歯学科専門科目仮進級制度について

「東京科学大学歯学部専門科目学修内規」より抜粋

(仮進級)

第 6 条 本人の責によらない、やむを得ない事情により、試験等を受験できず、学修細則別表第 3 に定める進級要件を満たさなかった学生については、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

2 前項のほか、歯学科において、科目試験の不合格により、学修細則別表 3 に定める進級要件を満たさなかった学生については、不合格となった科目が 3 科目以内、かつ、特別な事情がある場合に限り、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

3 仮進級が認められた学生は、原則として翌年度 4 月末日（口腔保健学科 3 年次後期への仮進級が認められた学生にあっては原則として当年度の 10 月末日）までに、未修得科目の単位認定を受けなければならない。

4 第 2 項の不合格となった科目について、前項の単位認定を受けた場合の学修の評価成績は、60 点とする。

● 仮進級が認められる場合

上記内規のとおり、「所属学科の教育委員会において協議し」仮進級を認めるものであり、無条件で認められるものではありません。

仮進級が認められるのは歯学科専門科目 3 科目までであり、全学共通科目（教養）は対象外です。また、試験の受験資格を満たしていない場合（出席日数の不足等）、実習を伴う場合も対象外になります。（原則筆記試験によって合否が確定するもの）

● 「仮進級願」の提出について

仮進級を希望される場合「仮進級願」の提出が必要です。「仮進級の事由」の欄は、不合格になった理由を以下の点を自己分析したうえで、内容を具体的かつ詳細に記載してください。

1. 不合格になった理由
2. 試験結果を受けて感じたこと。
3. 仮進級を認めていただいた場合、今後の展望について

「仮進級願」を歯学教務 G へ提出後、歯学科教育委員会で協議し認められた場合のみ仮進級となります。

● 仮進級が認められた場合

翌年度の 4 月末日までに、不合格であった科目について再評価を受け、合格した場合のみ進級することができます。この場合、当該単位認定に係る成績は 60 点が上限となります。

● 仮進級中の履修について

仮進級中の 4 月については進級後の講義・実習を受講してください。

● 学部における学修に関する細則第 11 条第 2 項について

「休学期間を除き、同一学年の在籍は 2 年までとし、2 年を超える学生は、特別に考慮すべき事由のない限り、学則第 46 条第 1 号に規定する「成業の見込みがない」者として、同条の規定により除籍する。」

上記に該当する場合、仮進級が不合格と決定した場合、4 月末日にて除籍となります。

部屋の管理・使用について

1. 講義室・実習室の目的外使用について

- 講義室および実習室は、原則として授業以外の使用は許可しない。

2. 講義室・実習室の管理について

- 講義室・実習室等でホワイトボードに連絡事項を書いたときは学生自身が消すこと。
- 講義室・実習室等においては、弁当・紙くず等は散らさないように必ずゴミ箱に捨てること。
- 参考書・ノート等の私物は講義室・実習室の中に放置しないこと。
※放置された私物は予告なく処分することがある。
- 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- 講義室・実習室等に学生が勝手に掲示物の貼付をすることは禁ずる。
- 講義室・実習室等においては、下駄履きは禁ずる。

3. その他

- 白衣を着たまま大学外を出ることを禁ずる。
- 病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。
- 病院内の患者待合場所での休憩は差し控えること。

ロッカーの使用について

1. ロッカーの使用目的

- 学生ロッカーは、講義・演習・実習に関するものの保管に使用すること。

2. ロッカーの管理

- ロッカーは常に清潔に保ち、周囲の環境に配慮すること。
- 貴重品、飲食物、危険物、異臭のするもの、及び異臭の原因となるものは保管しないこと。
- ロッカーの暗証番号は、自己責任で厳重に管理すること。
- 暗証番号を失念した場合は、速やかに歯学教務グループに報告し、指示に従うこと。

3. 使用期間

- 本学に在籍している期間のみ、ロッカーを使用することができる。
- 卒業、退学、休学等により在籍資格を失った場合は、速やかにロッカーを退去し、歯学教務グループに返却すること。

4. ロッカー内及び室内の物品撤去

- 歯学教務グループからロッカー内及び室内の撤去が通知された場合は、期限までにロッカー内及び室内の物品を撤去し、歯学教務グループに返却すること。
- 撤去期限までにロッカー内及び室内の物品を撤去しない場合、物品はすべて廃棄される。

5. その他

- 歯学教務グループは、ロッカー内の物品の盗難、紛失、破損、撤去等について一切責任を負わないため自己管理を徹底すること。

下記が実施済であることを実習要件とする (2017年6月27日教育戦略会議にて決定)

- ・4種(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)抗体検査結果に基づくワクチン接種が、規定回数終了している
- ・B型肝炎抗体価が陽性またはnon-responder (計6回ワクチン接種をしても陽性とならない)である
- ・T スポット®. TB検査を実施済である
- ・臨床実習に出る直近の学生定期健康診断を受診済である

*ただし、以下の者はその証明をもってワクチン接種対象外とする

<4種ワクチン接種>

- ・過去に同ワクチン接種でアナフィラキシーを呈したことがある者
- ・免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者で主治医より接種禁とされた者
- ・妊娠していることが明らかな者
- ・その他、主治医により予防接種を行うことが不適當と判断された者

<B型肝炎ワクチン接種>

- ・過去に同ワクチン接種でアナフィラキシーを呈したことがある者
- ・その他、主治医により予防接種を行うことが不適當と判断された者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	 四種抗体検査 麻疹/風疹/ 流行性耳下腺炎/水痘 (対象:全員)	学生 一般定期健康診断(全員)	 1回目				 2回目						
四種ワクチン接種期間 対象:抗体価が陰性→同ワクチンを2回接種 抗体価が陽性(基準を満たない)→1回接種													
2年	 B型肝炎抗原抗体検査 (対象:全員)		 1回目	 2回目						 3回目			
	B型肝炎ワクチン接種期間 1クール目(全3回) 対象:抗体価が陰性だった者												
	 T スポット®. TB検査 (対象:全員)												
3年	 B型肝炎抗原抗体検査 (対象:2年次にB肝ワクチン 1クール目を接種した者)	 1回目	 2回目						 3回目				
B型肝炎ワクチン接種期間 2クール目(全3回) 対象:抗体価が陰性だった者													
4年	 B型肝炎抗原抗体検査 (対象:2年でB肝ワクチン 2クール目を接種した者)	B型肝炎ワクチンを2クール計6回接種しても抗体価が陰性の場合、 「non-responder」となり、それ以上の接種は行わない											



ワクチン接種は、事前の申込みと入金が必要です。



対象学年で、検査やワクチン接種を受け忘れた場合は、保健管理センターへご相談ください。

※看護学専攻及び口腔保健学科は、B型肝炎抗原抗体検査及びワクチン接種を1年から開始

各学科／専攻が指定する病院内実習科目*を【履修している】*感染ハイリスク群に接する授業

【学校感染症を疑う症状 A】

発熱、咽頭違和感・咽頭痛・鼻汁・咳・くしゃみ・
ふしびしの痛み・筋肉痛・関節痛の
いずれかがある

【学校感染症を疑う症状 B】

下痢、嘔吐、腹痛のいずれかがある

【学校感染症を疑う症状 C】

発熱を伴う発疹がある

学校感染症に該当する疾患への罹患が判明した

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎など(p4参照)

- ・ 初診時、もしくは再診時に「学校感染症治癒証明書-医歯学系用-」を持参し、主治医に記載を依頼する
(治癒証明書の項目が網羅されていれば診断書の記載でも可)

対応1

【全パターン】速やかに、欠席報告先一覧に欠席の報告をする 登校を控える（速やかに早退する）

対応2

【学校感染症を疑う症状 A】

発症24時間以降、速やかに医療機関を受診し、コロナおよび
インフルエンザ検査(流行期)を受ける

- 症状が辛い場合、発症24時間以前を受診でも構わないが、検査は発症24時間以降のものを有効とし、24時間未満に検査した場合は、24時間以降に再検査を必要とする
- ・ 初診時、もしくは再診時に「学校感染症治癒証明書-医歯学系用-」を持参し、主治医に記載を依頼する（治癒証明書の項目が網羅されていれば診断書の記載でも可）
(10日以内に各学科が指定する病院内実習科目がない場合は、「治癒証明書」の取得は不要)
- 発症から24時間以降に自宅で検査し、コロナ陽性もしくはインフルエンザ陽性となった場合のみ、医療機関受診は必須としない（陽性が出たキットは根拠書類として必要）

【学校感染症を疑う症状 B】【学校感染症を疑う症状 C】

速やかに医療機関を受診する

- 初診時、もしくは再診時に「学校感染症治癒証明書-医歯学系用-」を持参し、主治医に記載を依頼する（治癒証明書の項目が網羅されていれば診断書の記載でも可）
(10日以内に各学科が指定する病院内実習科目がない場合は「治癒証明書」の取得は不要)

欠席報告先一覧

連絡先一覧QR

学校感染症治癒証明書
-医歯学系用-

治癒証明書
QR

受診の結果、学校感染症では【ない】

対応3

【全パターン】速やかに「医歯学系学生用 感染症罹患報告Forms」を回答する



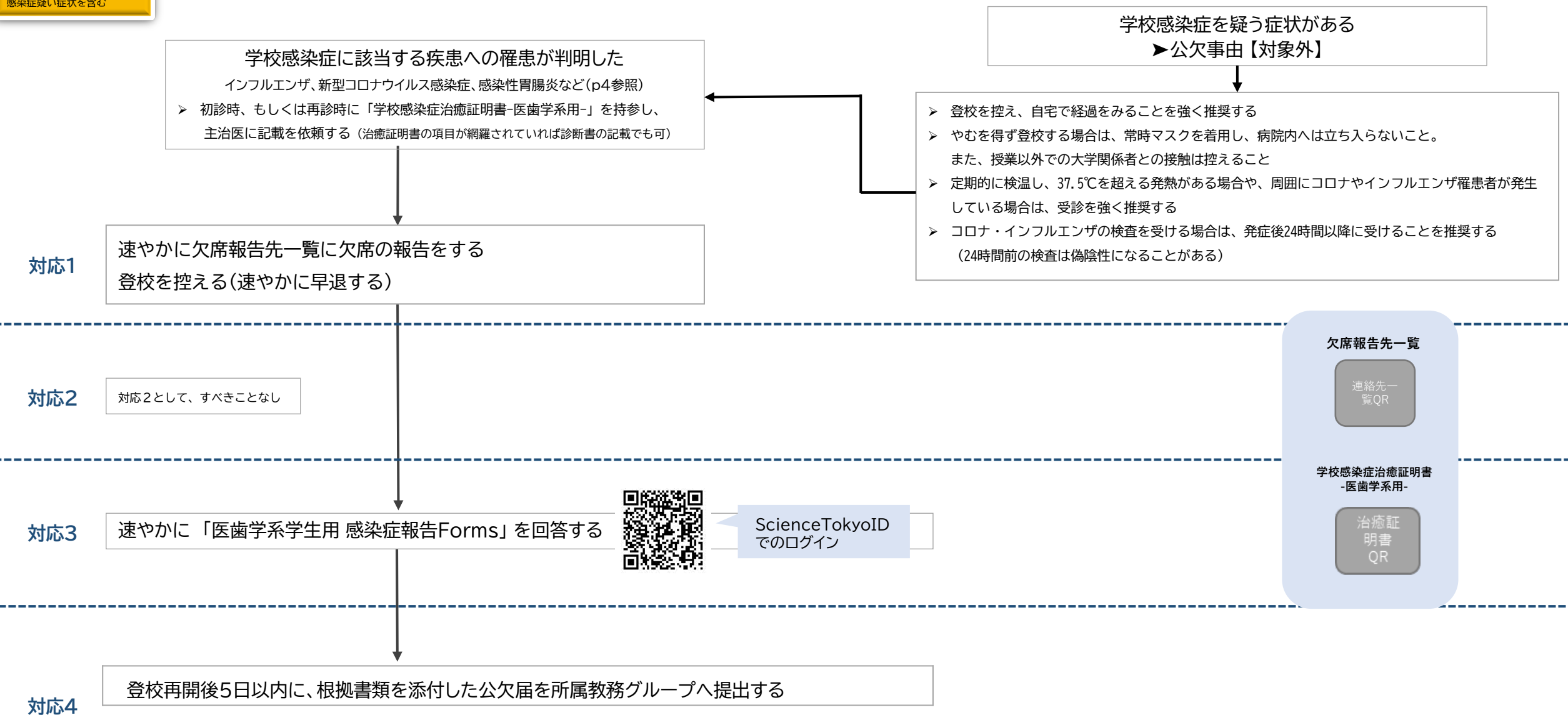
ScienceTokyoID
でのログイン

対応4

登校再開後5日以内に、根拠書類を添付した公欠届を所属教務グループへ提出する

※「学校感染症を疑う症状」で受診した結果、学校感染症にあたる疾患の診断がつかなかった場合、
出席停止期間内にある各学科が指定する病院内実習科目のみ公欠となり、それ以外の科目は同日であっても通常欠席として扱われる

各学科／専攻が指定する病院内実習科目＊を【履修していない】＊感染ハイリスク群に接する授業



病院内実習中の欠席報告先

学科/専攻	実習担当連絡先	教務連絡先
医学科	上級医・指導医 または CD/CT	医学教務グループ gakumu1@ml.tmd.ac.jp
保健衛生学科 看護学専攻	各実習の科目責任者 (必要に応じて、 病院側臨地実習指導者)	教務への欠席連絡は不要
保健衛生学科 検査技術学専攻	各実習項目の病院側指導者 及び 担当教員	教務への欠席連絡は不要
歯学科	各実習の科目責任者 及び 授業担当教員	歯学教務グループ s-kyomu.adm@ml.tmd.ac.jp
口腔保健学科	各実習の科目責任者 及び 病院側実習指導者	口腔保健教務グループ o-kyomu-adm@ml.tmd.ac.jp

歯学科が指定する病院内実習科目

- D1 早期臨床体験実習
- D2 歯科医療基礎Ⅰ
- D3 歯科医療基礎Ⅱ、総合診療・地域医療
- D4 歯科医療基礎Ⅲ
- D5・D6 包括臨床実習

左記以外での授業の欠席報告先

学科/専攻	教員連絡先	教務連絡先
全学科	国府台地区の授業は、国府台教務グループに連絡すること k.kyoumu.adm@tmd.ac.jp	
医学科	医学科の授業は、医学教務グループに連絡すること gakumu1@ml.tmd.ac.jp	
保健衛生学科 看護学専攻	科目責任者 授業担当教員	教務への欠席連絡は不要
保健衛生学科 検査技術学専攻	科目責任者 授業担当教員	教務への欠席連絡は不要
歯学科	科目責任者 授業担当教員	歯学教務グループ s-kyomu.adm@ml.tmd.ac.jp
口腔保健学科	科目責任者 授業担当教員	教務への欠席連絡は不要
大学院課程	指導教員 (必要に応じて 科目責任者)	必要に応じて根拠書類を添付した公欠届を 以下担当グループへ提出すること ●博士課程医歯学専攻 ▶大学院教務第1グループ grad01@ml.tmd.ac.jp ●修士課程医歯理工保健学専攻(MPHコースを除く) 博士課程生命医療科学専攻 修士課程・博士課程看護先進科学専攻 ▶大学院教務第2グループ grad02@ml.tmd.ac.jp ●博士課程国際連携専攻(JDP) 修士課程医歯理工保健学専攻(MPH) ▶JD・MPHグループ jd@ml.tmd.ac.jp

学校感染症に該当する疾患と出席停止目安 一覧

	疾 患 名	出 席 停 止 期 間 ※出席停止期間はあくまで目安です。状況に応じて変更する場合もありますので、主治医や報告時の指示に従ってください	
		理工学系の学生 医歯学系で臨床実習が「ない」学生	医歯学系で臨床実習が「ある」学生 ※実習は、発症後10日以内に予定されているもの
第1種	エボラ出血熱など	治癒するまで	左記
第2種	新型コロナウイルス感染症	発症した後 5 日を経過し、かつ症状が軽快した後 1 日を経過するまで	左記
	インフルエンザ	発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで	左記
	百日咳	特有な咳が消失するまで、または、5 日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	左記
	麻疹	解熱後 3 日経過するまで	発疹が出現した日をゼロ日として、4日を経過するまで ただし免疫不全の背景があれば症状が消失するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで	左記
	風疹	発疹が消失するまで	皮疹が出現した日をゼロ日として7日を経過するまで
	水痘 播種性帯状疱疹 (2枚支配領域以上)	すべての発疹が痂皮化するまで	左記
	咽頭結膜熱	主要症状が消失して 2 日経過するまで	左記
	結核	感染のおそれがないと認められるまで	左記
	髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれがないと認められるまで	左記
	コレラ	治癒するまで	左記
第3種	細菌性赤痢	治癒するまで	左記
	腸管出血性大腸菌感染症	感染のおそれがないと認められるまで	左記
	腸チフス	治癒するまで	左記
	パラチフス	治癒するまで	左記
	流行性角結膜炎	感染のおそれがないと認められるまで	左記
	急性出血性結膜炎	感染のおそれがないと認められるまで	左記
	溶連菌感染症	適切な抗菌薬による治療開始後 24 時間経過するまで	左記
	A型肝炎	肝機能が正常化するまで	左記
	B型肝炎	急性肝炎の極期を過ぎるまで	左記
	C型肝炎	急性肝炎の極期を過ぎるまで	左記
	手足口病	症状が回復するまで	左記
	ヘルパンギーナ	症状が回復するまで	左記
	無菌性髄膜炎(エンテロウイルスによる)	症状が回復するまで	左記
	伝染性紅斑(りんご病)	症状が回復するまで	左記

	疾 患 名	出 席 停 止 期 間 ※出席停止期間はあくまで目安です。状況に応じて変更する場合もありますので、主治医や報告時の指示に従ってください	
		理工学系の学生 医歯学系で臨床実習が「ない」学生	医歯学系で臨床実習が「ある」学生 ※実習は、発症後10日以内に予定されているもの
第3種	ロタウイルス感染症	下痢、嘔吐が消失するまで	下痢、嘔吐が消失するまで
	ノロウイルス感染症	下痢、嘔吐が消失するまで	下痢、嘔吐が消失するまで
	サルモネラ感染症	下痢、嘔吐が消失するまで	左記
	カンピロバクター感染症	下痢、嘔吐が消失した後	左記
	肺炎マイコプラズマ感染症	症状が回復するまで	左記
	インフルエンザ菌b型感染症	症状が回復するまで	左記
	肺炎球菌感染症	症状が回復するまで	左記
	RSウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	ヒトメタニューモウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	ライノウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	パラインフルエンザウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	エンテロウイルスD68感染症	症状が回復するまで	左記
	EBウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	サイトメガロウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	単純ヘルペスウイルス感染症	歯肉口内炎のみであればマスクをして可	左記
	帯状疱疹 (播種性ではなく神経1枝支配領域のもの)	病変部が被覆されていれば登校して可	罹患者が免疫不全ではなく、病変部が被覆可能な場合は、登校可能 上記が困難な場合は、すべての水疱が痂皮化するまで
	日本脳炎	症状が回復するまで	左記
	突発性発疹	症状が回復するまで	左記
	ポツリヤス症	症状が回復するまで	左記
	ネコひっかき病	症状が回復するまで	左記
	破傷風	症状が回復するまで	左記
	デング熱	症状が回復するまで	左記
	ジカウイルス感染症	症状が回復するまで	左記
	重症熱性血小板減少症候群	症状が回復するまで	左記
	アタマジラミ症	制限はない	左記
	伝染性軟属腫(水いぼ)	制限はない	左記
	伝染性膿痂疹(とびひ)	制限はない	左記
	疥癬	治療を開始するまで	治療後、皮膚科でダニが確認できないと診断されるまで
	蟻虫症	制限はない	左記
	ヒトパピローマウイルス感染症	制限はない	左記
	ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染症	制限はない	左記
	ヒト免疫不全ウイルス感染症	制限はない	左記

定期試験時の注意事項

歯学科専門科目定期試験時に下記事項を遵守しない場合には不正行為を行ったとみなす。

1. 定期試験時の持ち物については下記のとおりとする。下記以外の物の持ち込みについては監督者に確認して、指示に従うこと。

私物を置く場所について

- ・学生証：机上に必ず置くこと（本人確認のため）
- ・スマートフォン/腕時計（スマートウォッチ等）；
電源をOFFにして、机上（監督者の指示でカバンに入れさせることもある）
- ・ティッシュペーパー：机上（監督者が確認して袋から出すこともある）
- ・その他のもの：カバンの中（カバンが無い場合は監督者が預かる）
- ・引き出し・天板下は、使用不可とする（カバンは床または隣の席に置く）

机上には原則、筆記用具と学生証、電源OFFにしたスマートフォン／腕時計（スマートウォッチ等）以外は置かないこと。教科書や参考書、ノートやプリント、小型パソコンなどの電子機器を机上または天板下（机下の棚）に置いている場合、あるいは身につけている場合は不正行為とみなす。

2. CBT実施に関係のないアプリケーションの利用、デバイス（USB等）の利用が認められた場合は、不正行為とみなす。
3. 試験開始後は、遅刻者の入室は認めない。ただし、特別の事情により遅刻した者については、試験開始後30分以内に限り、入室を認めることがある。原則試験時間の延長は認めないが、本人の責によらない理由により試験を受験した場合は、監督者の判断により延長を認めることができる。一旦試験を受験した場合は、当該科目の追試験を申請することはできない。
4. トイレ等の申し出がある場合は挙手をし、監督者の指示に従うこと。
5. 定期試験開始 30 分経過後、試験終了者で希望する者の退室を認める。
6. 持ち帰りが認められていない試験において、故意・過失にかかわらず試験問題、解答用紙を試験会場外へ持ち出した場合、またはそれらを複製（撮影を含む）した場合、当該試験は無効となる。参考：「定期試験等における不正行為」に対する懲戒は以下の通り。

（東京科学大学学生の懲戒等に関する規程より抜粋）

（定期試験等における不正行為）

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いとは別に定める。

- 2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする

專 門 科 目

時間割番号	021700						
科目名	多職種連携 I			科目 ID			
担当教員	鶴田 潤[TSURUTA Jiyun]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	0.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 0.5 単位							
主な講義場所							
MD タワー2F 鈴木章夫記念講堂							
授業の目的、概要等							
現代の医療・歯科医療は、多様な専門職が連携するチームで実施される。本授業は、本学の医歯学系学部全学科学生が参加する多職種連携教育(IPE)として行い、保健・医療・福祉の各専門職の役割を相互に理解するとともに、共通する職業倫理や仕事への姿勢、多職種連携の重要性を学び、将来像を考察することを目的とする。さらに、患者講演を通して、医療者のプロフェッショナリズムを考察し自覚を深める。							
また、チーム医療に不可欠なコミュニケーションとチームダイナミクスを理解し、第一学年として、知識や価値観を他学科学生と共有し、相手の役割や意見を尊重する態度、リーダーシップ／フォロワーシップを身につける。学修は演習形式で行い、協働のために各自が役割を果たす。							
授業の到達目標							
① 初学年の学生として、自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。							
② 初学年の学生として、他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。							
③ 他学科学生との演習活動の中で、協働を実現するために、自らの役割を果たすことができる。							
R4 歯学教育モデル・コア・カリキュラム							
C-1-3 チーム医療							
患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を身に付ける。							
学修目標:							
C-1-3-1 患者中心のチーム医療の意義を理解している。							
C-1-3-2 医療チームや各構成員(歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、その他の医療職)の役割分担と連携、責任体制を理解している。							
C-1-3-3 医療、保健、福祉、介護における多職種連携と歯科医師の役割を理解している。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-8	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	オリエンテーション 教員講演 時間予定は要項参照	実習の概略説明 各学科教員から講演(学科専攻・キャリア紹介、学生に期待することなど)	鶴田 潤	到達目標12.3 グループワークを実施する・参加態度、レポートにより評価する
9-16	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	グループワーク1 時間予定は要項参照	チームビルディングについて 取り組み説明 講演を聞いてグループで討論	鶴田 潤	到達目標12.3 グループワークを実施する・参加態度、レポートにより評価する
17-24	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	質疑応答 時間予定は要項参照	教員講演に対する質問 学生質問に対して各学科専攻教員からの回答	鶴田 潤	到達目標12.3 グループワークを実施する・参加態度、レポートによ

							り評価する
25-32	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	患者講師講演 時間 予定は要項参照	患者から見た「多職種協働の大切 さ」	鶴田 潤	到達目標12.3 グ ループワークを 実施する・参加態 度、レポートによ り評価する
33-40	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	グループワーク2 時間予定は要項参照	講演を踏まえたグループディスカ ッション	鶴田 潤	到達目標12.3 グ ループワークを 実施する・参加態 度、レポートによ り評価する
41-48	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	質疑応答2 時間予 定は要項参照	講演とグループワークを踏まえた 質疑応答	鶴田 潤	到達目標12.3 グ ループワークを 実施する・参加態 度、レポートによ り評価する
49-56	4/14	08:50-16:50	鈴木章夫 記念講堂	グループワーク3 まと め 時間予定は要項 参照	・講演とグループワークを踏まえ た質疑応答 ・実習全体を踏まえ たグループディスカッション ・ 実習のまとめ	鶴田 潤	到達目標12.3 グ ループワークを 実施する・参加態 度、レポートによ り評価する

授業方法

授業形式は、講義・他学科学生のワークショップ形式の演習を行う。

2026年4月14日(火・全日)医学部・歯学部全学科全専攻の1年生(+2年次編入生)が参加し、グループに分かれて討論を行う。

- ・授業に出席し、演習に参加する。
 - ・演習発表資料、個人事後課題などの課題を提示された期限までに提出すること。
 - ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。
- これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
- ・1日で行われる授業のため、その欠席の際には、事情を考慮した対応を行うことがある。

課題の提出を e-learning (Science Tokyo LMS)にて行うこと（実習後課題の提出期限は1週間後）。

当日欠席した場合には、代替課題の実施により評価を行う。（この場合の成績点上限点は60点とする。）

成績評価の方法

成績は、グループワークへの参加態度(20点)、レポート等の個人事後課題提出物(80点)により評価する。
出席状況、授業態度を総合評価に加味する。

成績評価の基準

以下の1・2の合計点数が60点以上を合格とする。

1. 参加態度

到達目標1～3に関連し、参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。

担当チューターによる評価を基本根拠とする。20点満点

2. 課題提出物 期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。80 点満点 1日の取り組みを欠席した場合の代替課題による成績評価については、上限を 60 点とする。
準備学習等についての具体的な指示 資料の配布、Science Tokyo LMS へのアップロード等があった場合は、各自視聴すること。 課題の提出を Science Tokyo LMS にて行うこと。
試験の受験資格 ・4 月 14 日(火)終日開催の8コマ全ての授業への出席を成績(試験)評価対象の基本とする。 ・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
参考書 他人の悩みはひとごと、自分の悩みはおおごと。：#なんで僕に聞くんだろう。／幡野 広志, 1983-幡野広志 著:幻冬舎, 2020.11 チームが機能するとはどういうことか：「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ／Edmondson, Amy C,野津 智子,エイミー・C・エドモンドソン 著,野津智子 訳:英治出版, 2014.5 患者中心の医療の方法／Stewart, Moira,Brown, Judith Belle,Weston, W. Wayne,McWhinney, Ian R, -2012,McWilliam, Carol L,Freeman, Thomas, 1948-,葛西 龍樹, 1957-,Moira Stewart, Judith Belle Brown, W Wayne Weston, Ian R McWhinney, Carol L McWilliam, Thomas R Freeman 著,葛西龍樹 監訳,若手医:羊土社, 2021.4
他科目との関連 多職種連携Ⅱ、多職種連携Ⅲ の導入科目である。医療者のプロフェッショナリズムを育成するための科目である。
履修上の注意事項 積極的に参加すること。課題を提出すること。 出席は開始前のカードリーダー及びチューター確認とする。
備考 東京医科歯科大学に入学した学生の、専門にかかわらずに全員が参加する科目である。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 鶴田 潤 tsurutaj.a664@m.isct.ac.jp 自己点検により欠席者の対応について、シラバスに明記した。グループ参加度評価・課題評価点の割合を変更した。 昨年の学生アンケートの結果を受けて、下記とする。 ・会場の傾斜でグループワークがうまくできない場合は、チューターへ報告、相談の上、グループ内での座席の交換を可能とする。

時間割番号	021710				
科目名	歯学入門			科目ID	
担当教員	鶴田 潤, 青木 章[TSURUTA Jiyun, AOKI Akira]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
・科目授業回数: 15コマ ・必要自習時間: 5時間 ・授業形態 : 講義					
主な講義場所 ・対面授業 : 7号館 ・非同期授業: 自宅、図書館、講義室での受講 とする。公共の場所での受講は禁止する。 ・非同期授業の動画視聴や、自己学習の動画視聴については、その後の課題実施をもって、視聴記録を確認することがある。					
授業の目的、概要等 本科目では、将来歯科医師となることを目指す学生が、1年次の現在を、歯科界への入り口として、将来歯科医師になるという認識を強く意識し、歯学科生としての自らのアイデンティティを醸成すること、これからの学びの具体的な目標を持つことを目的とする。 授業内容は、日本の歯科医療の歴史、現在の歯科医療全般の情報、歯科臨床と研究との関連に関わる内容を組み合わせて実施する。					
授業の到達目標 ① 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感、品格、思いやりを持って行動が必要とされる背景を説明できる。 ② 歯科医師としての道を究めていく入口に立つ立場として、利他的な態度で医療に関わりながら、学びを進めるために必要な基本的知識を説明できる。 ③ 歯科医師として学びを進めるために、積極的に学修に参加できる。					
関連する歯学教育モデル・コア・カリキュラムの項目 (R4)					
C 社会と歯学					
適正な歯科医療を提供するために、歯科医師に求められる倫理的、法的、社会的知識と態度を身に付ける。					
C-1 医の倫理、生命倫理と患者中心の歯科医療					
患者中心の歯科医療を提供するために、プロフェッショナリズムを身に付ける。					
C-1-2 歯科医師としての責務と裁量権					
豊かな人間性と生命の尊厳についての深い自覚を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。					
C-1-2-1 歯科医師のプロフェッショナリズムを理解している。					
C-1-2-5 歯科医師に課せられた法的責任と社会的責任(刑事責任、民事責任、歯科医師法と健康保険法に基づく行政処分)を理解している。					
C-4 健康と社会、環境					
将来にわたり質の高い医療を継続して提供するために、その実践に必要な幅広い知識を身につけ、変化に対応する能力を涵養する。					
C-4-2 歯科医師法及び医療関連法規					
法令を遵守して歯科医療を実践するために、歯科医師法及び医療関連法規の規定を理解する。					
C-4-2-1					
歯科医師法、医療法をはじめとする歯科医療に関する法規を理解している。					
C-4-2-2					
歯科医師の業務及び義務を理解している。					
授業計画					

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/6	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	歯学入門導入	歯学入門の背景 ・学習の意義について理解する。	鶴田 潤 青木 章	非同期教材視聴 ・教材公開から当日授業終了時刻まで動画視聴可能 ＊課題提出あり
2	10/6	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	歯学導入1	「歯科医師」という専門職を理解する ・法律 ・歯科医療の概況 ・歯科医学教育制度	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL)
3	10/6	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	歯学導入2	「歯科医師」という専門職を理解する ・法律 ・歯科医療の概況 ・歯科医学教育制度	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL)
4	10/6	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	歯学導入3	「歯科医師」という専門職を理解する ・法律 ・歯科医療の概況 ・歯科医学教育制度	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL) ＊ 課題提出あり
5	10/27	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	歯学史1	歯学の歴史を学ぶ	鶴田 潤 片桐 さやか	非同期教材視聴 ・教材公開から当日授業終了時刻まで動画視聴可能 ＊課題提出あり
6	10/27	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	歯学史2	歯学の歴史を学ぶ	鶴田 潤 片桐 さやか	非同期教材視聴 ・教材公開から当日授業終了時刻まで動画視聴可能 ＊課題提出あり
7	10/27	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	歯学概説1	プロフェッショナルとしての歯科医師 ・プロフェッショナリズム ・職業倫理 ・法の遵守 など	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL)
8	10/27	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	歯学概説2	プロフェッショナルとしての歯科医師 ・プロフェッショナリズム ・職業倫理 ・法の遵守 など	鶴田 潤	非同期教材視聴 ・教材公開から当日授業終了時刻まで動画視聴可能 ＊課題提出あり
9	11/10	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	歯学史3	歯学の歴史を学ぶ	鶴田 潤 片桐 さやか	非同期教材視聴 ・教材公開から当日授業終了時刻まで動画視聴可能 ＊課題提出あり
10	11/10	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	歯学概説3	歯科医師という仕事 ・臨床・研究・教育 ・社会への貢献	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL)
11	11/10	10:45-11:30	7号館2階歯学科	歯学概説4	歯科医師という仕事 ・臨床・研究・教育 ・社会への貢献	鶴田 潤	対面講義・ディスカッション(AL)

スタンダード歯科医学史／石井, 拓男,石橋, 肇,佐藤, 利英,渋谷, 鉦, 1954-,西巻, 明彦,平田, 創一郎,石井拓男, 石橋肇, 佐藤利英, 渋谷鉦, 西巻明彦, 平田創一郎 執筆:学建書院, 2023.12

履修上の注意事項

本シラバスの内容については、歯学科学生を対象としている。

備考

アクティブラーニング:

授業形式は講義とし、動画教材による事前予習を踏まえた演習活動、学生同士でのグループ協働作業(ケース演習など)をもとにした課題実施などを行う。

前年度履修学生による科目評価での指摘点をもとにした変更点

特になし

時間割番号	021720				
科目名	早期臨床体験実習			科目ID	
担当教員	新田 浩, 西山 暁[NITTA Hiroshi, NISHIYAMA Akira]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
ユニット名:早期臨床体験実習(Introduction to Clinical Dentistry)					
ユニット番号:04					
授業形態:実習					
コマ数:36					
主な講義場所					
各診療科に関連した研究室等。					
授業の目的、概要等					
今後6年間にわたって歯科医学を学んでいくにあたり、今後の学習への強い動機を獲得するために、歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医の原則を理解し、医療人としての基本的態度を修得する。					
授業の到達目標					
1:歯科医療従事者に求められる基本的態度(挨拶、時間厳守、言葉づかい)を身につける。A-1-3)-①					
2:歯科医療が人々の健康の維持・増進に果たす社会的役割を認識する。A-1-3)-①					
3:1口腔単位として歯科疾患を理解する。A-3-②					
4:仲間と協力しながら問題を解決する子が出る。A-4-1)-①②					
5:疑問に対し調べた内容をまとめた内容を整理することが出来る。A-2-2)-②					
6:自分自身で問題を提起し、自ら解決する能力を養う習慣を身につける。A-2-1)-①③④					
7:自ら調べた内容を、わかりやすく説明することが出来る。A-2-2)-③					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室		
1	10/19	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室2		
2	10/19	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室2		
3	10/19	15:25-16:10	各研究室		
4	10/19	16:20-17:05	各研究室		
5	10/20	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室2		
6	10/20	16:20-17:05	各研究室		
7	10/30	13:30-14:15	各研究室		
8	10/30	14:25-15:10	各研究室		
9	10/30	15:25-16:10	各研究室		
10	10/30	16:20-17:05	各研究室		
11	11/9	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室2		
12	11/9	14:25-15:10	7号館2 階歯学科		

			講義室 2
13	11/9	15:25-16:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
14	11/9	16:20-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2
15	11/10	15:25-16:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
16	11/10	16:20-17:05	各研究室
17	11/20	13:30-14:15	各研究室
18	11/20	14:25-15:10	各研究室
19	11/20	15:25-16:10	各研究室
20	11/20	16:20-17:05	各研究室
21	12/1	13:30-14:15	各研究室
22	12/1	14:25-15:10	各研究室
23	12/1	15:25-16:10	各研究室
24	12/1	16:20-17:05	各研究室
25	12/4	13:30-14:15	各研究室
26	12/4	14:25-15:10	各研究室
27	12/4	15:25-16:10	各研究室
28	12/4	16:20-17:05	各研究室
29	12/14	13:30-14:15	7号館 2 階歯学科 講義室 2
30	12/14	14:25-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
31	12/14	15:25-16:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
32	12/14	16:20-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2
33	12/15	13:30-14:15	7号館 2 階歯学科 講義室 2
34	12/15	14:25-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
35	12/15	15:25-16:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2
36	12/15	16:20-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2
授業方法			
1グループ2～3人で各臨床の診療科あるいは専攻分野に配属され、自ら研究テーマを設定し、実施する。必要に応じて助言するために、			

各グループには各診療科のチューターが配置されている。テーマ決定、中間発表会を経て最終的には研究成果発表会で発表する。
授業内容 歯科医療および歯科医学に関する疑問点の抽出し、それに関する調査等をグループ員で行い、他者に理解しやすい形で発表を行ってゆく。
成績評価の方法 出席、遅刻の有無、受講態度、実習態度、中間発表会および成果発表会での発表内容、発表の態度等を総合的に評価する。
成績評価の基準 プレレポート、ポストレポートの提出。実習態度、中間発表会および成果発表会での発表内容、態度等の総合評価と学生同士の相互評価結果、報告書の内容を総合的に評価する。
準備学習等についての具体的な指示 本学の HP から「2023 年度大学案内」を通読し、6 年間の歯学部カリキュラムにおけるこのカリキュラムの位置づけについて理解しておくこと。
試験の受験資格 筆記試験の実施無し(出席および発表プロダクトで評価)
構成ユニット 3～4 名で 1 グループを構成し、各診療科に配属される。2～3 か月に渡り、歯科医学または歯科医療に関するテーマを設定し、そのテーマに沿った調査や実験を行いまとめる。
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、グループ作業および全体発表へ積極的に参加することが必須である。なお、合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、全体発表への参加、提出物の内容および平常学習態度等が評価に加味される。なお、各グループの評価はその班に属する各学生の評価として扱う。
教科書 歯科医療のおもしろさ：後輩たちへ贈る 28 のドラマ／橋本光二、升谷滋行、飯野文彦 編：口腔保健協会、2013 医の現在／高久 史磨 編：岩波書店 歯の健康学／江藤 一洋 編：岩波書店 必要に応じて、各研究分野の教員から適宜、提示される。
参考書 必要に応じて、各研究分野の教員から適宜、提示される。
履修上の注意事項 グループ作業および全体発表時には積極的に参加し、発言すること。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はないが、自己点検により(改善内容)とする予定 各グループでのディスカッションならびに全体発表での質疑応答を積極的に実施すること 西山 暁 anishi.tmj@tmd.ac.jp (D 棟 11 階 総合診療歯科学分野 第1研究室) 島田康史 shimada.ope@tmd.ac.jp
参照ホームページ 本学授業システム上に公開予定
連絡先(メールアドレス) 新田 浩 nitta.behd@tmd.ac.jp 西山 暁 anishi.tmj@tmd.ac.jp
オフィスアワー 新田 浩：毎週 月・水・木曜日 PM.5:00-6:00 歯科棟北 11 階 教授室 西山 暁 研究室：歯科棟 11 階 総合診療歯科学分野 研究室 月曜日 9:00～12:00(奇数週) 18:30-20:00 火曜日 17:30-20:00 水曜日 9:00-12:00(偶数週), 17:00-20:00 木曜日 17:00-20:00

金曜日 15:00-20:00

時間割番号	021730				
科目名	基礎情報医歯学			科目ID	
担当教員	木下 淳博, 金澤 学, 須永 昌代, 土田 優美, 青木 和広, 高市 敦士[KINOSHITA Atsuhiko, KANAZAWA Manabu, SUNAGA Masayo, TSUCHIDA Yumi, AOKI Kazuhiro, TAKAICHI Atsushi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目

非同期の動画視聴と課題演習・提出による授業のため、欠席は想定していない。

授業の目的、概要等

●授業の目的 (Primary goal)

医学・歯学の研究・調査・臨床に必要な情報技術を理解し、その利用方法を習得する。ワープロ、メール、インターネットといった基本的な情報技術に加えて、研究・調査・臨床に実際に使用する情報技術について実習を行いながら学ぶ。ファイル操作など OS の基本的操作、e-learning の操作は習得済みであることを前提として講義・実習を行うので、事前に自身の知識を確認すること。

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

医歯学に関連する基礎的情報技術の知識・操作について演習を行う。演習は各自の PC を使用する。毎回、課題の提出を行う。

授業の到達目標

1. 情報セキュリティ、著作権を理解して、歯学に必要な情報処理を実践できる。
2. 静止画像の編集ができる。
3. 動画画像の編集ができる。
4. 最新のデジタル歯科の概要を説明でき、フリーの CAD ソフトウェアで簡単な操作ができる。
5. 生物医学画像の取り扱いと解析ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容
1	11/6	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	
2	11/13	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)	
3	11/13	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)	
4	11/13	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	
5	11/17	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	
6	11/17	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	
7	11/17	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	
8	11/17	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	

9	11/20	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	
10	11/24	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
11	11/27	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
12	11/27	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
13	11/27	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
14	11/27	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
15	12/1	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
16	12/4	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
17-18	12/7	09:45-11:30	情報検索 室	試験
19-20	12/21	15:25-17:05	情報検索 室	追再試験

成績評価の方法

評価方法（ その他 ）

再評価（ 有 ）

各回の提出課題の達成度、確認テストの点数、最終回の WebClass による試験の点数により、授業の到達目標の達成度を評価する。
課題が提出されない場合は、当該授業を欠席したこととして扱うのみならず、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。

成績評価の基準

各回の課題の達成度を 7 割、最終回の WebClass による試験の成績を 3 割として合計 100 点満点で換算し、評価する。すべての課題を、指示通りに提出期限内に提出し、到達目標をすべて達成した場合は 80 点以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

WebClass に事前掲載された資料・非同期ビデオを視聴し、指示がある場合は事前準備(WebClass へのログイン、資料のダウンロード、リンクサイトからの情報収集等)を行うこと。予習や事前作業が必要な場合は、WebClass 上のビデオ等で詳細な指示を行う。

試験の受験資格

時間割が設定されている日時から1週間以内に、動画を視聴して指示された演習を行い、すべての課題ファイルを提出した者を、成績評価の対象とし、受験資格を認める。

期末試験終了時に、科目評価(歯学科授業評価アンケートコース)の「基礎情報医歯学」に回答すること。

教科書

講義資料を WebClass にアップロードして配布する。

備考

演習では各自の PC を使用する。

前年度履修学生の科目評価の、CAD 実習のソフトウェアの使用法がわかりにくいという指摘をもとに、使用するソフトウェアを変更する予定。

連絡先(メールアドレス)

木下 淳博kinoshita-emdv@tmd.ac.jp
青木 和広kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp
須永 昌代:sunaga.emdv@tmd.ac.jp
土田 優美yumi.bmoe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

木下 淳博 金 16:00ー17:00 3号館5階 教育メディア開発学分野
青木 和広 毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)
オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。
須永 昌代 随時
土田 優美 メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	021740					
科目名	行動科学基礎			科目ID		
担当教員	則武 加奈子[NORITAKE Kanako]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
コマ数:講義演習 45 試験 2						
1. 医の倫理 14コマ						
2. チーム医療 12コマ						
3. 医療安全 4コマ						
4. プロフェッショナリズム 15コマ						
授業形態:講義・演習・実習						
行動科学は人間の行動を科学的に研究し、その法則性を解明しようとする学問である。医学に加え心理学、社会学、人類学、経済学などを含む文理融合指向の行動科学の知見は、その有用性からさまざまな領域で活用されている。本授業では医療にかかわる者が修得すべき行動科学関連領域として医の倫理、医療安全、チーム医療、プロフェッショナリズムに着目し、その基礎的知識・技能・態度を修得する。						
主な講義場所						
講義・演習はオンライン・実地双方で行う						
授業の目的、概要等						
全人的医療の実践に必要な行動科学の基本的な知識・技能・態度を修得することを本授業の目的とする。						
本ユニットは1. 医の倫理、2. チーム医療、3. 医療安全、4. プロフェッショナリズムの4つのパート(ユニット)に分かれる。						
授業の到達目標						
1)プロフェッショナリズムの定義について理解する						
2)医の倫理について基本的な理解を得る						
3)医の倫理について基本的な文献を自分で読む						
4)医の倫理についてさらなる問いを自分で立て、自分で考える						
5)自身の体験や考え、授業で提示された事例について医療プロフェッショナリズムの文脈で省察する						
6)チーム医療の基本について理解する						
7)安全管理の基本について理解する						
コアカリ番号						
C-1-1,C-1-2,C-1-3,C-3-1,C-3-2						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	10/20	13:30-15:10	7号館2階歯学科講義室2	医の倫理1		飛田 綾子, 田中 丹史
3-4	11/10	13:30-15:10	7号館2階歯学科講義室2	医の倫理2		飛田 綾子, 田中 丹史
5-6	11/24	13:30-15:10	7号館2階歯学科講義室2	医の倫理3		飛田 綾子, 田中 丹史
7	11/24	15:25-16:10	7号館2階歯学科	オリエンテーション プ ロフェッショナリズム1		則武 加奈子

			講義室 2			
8-9	1/5	13:30-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	医の倫理4		飛田 綾子, 田中 丹史
10-13	1/8	08:50-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム2		則武 加奈子
14-17	1/8	13:30-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	チーム医療1		城戸 大輔 則武 加奈子
18-19	1/12	13:30-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	医の倫理5		飛田 綾子, 田中 丹史
20-23	1/15	08:50-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム3		則武 加奈子
24-27	1/18	08:50-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	医療安全(Zoom?)		西山 暁
28-31	1/18	13:30-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	チーム医療2		城戸 大輔 則武 加奈子
32-33	1/19	13:30-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	医の倫理6		飛田 綾子, 田中 丹史
34-35	1/19	15:25-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム4		則武 加奈子
36-39	1/25	13:30-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	チーム医療3		城戸 大輔 則武 加奈子
40-41	1/26	13:30-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	医の倫理7		飛田 綾子, 田中 丹史
42-43	1/26	15:25-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム5		則武 加奈子
44-47	1/29	13:30-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム 特別講義		俣木 志朗 則武 加奈子
48	2/4	13:30-14:15	7号館 2 階歯学科 講義室 2	チーム医療試験	試験	城戸 大輔
49	2/4	14:25-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	プロフェッショナリズム 試験	試験	則武 加奈子
50	2/15	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	チーム医療試験	追再試験	城戸 大輔

51	2/15	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	プロフェッショナルリズム 試験	追再試験	則武 加奈子	
成績評価の方法 授業の参加状況、期末試験の得点、レポートの提出状況、レポートの内容を担当教員・指導者間で協議し、成績評価を行う。							
準備学習等についての具体的な指示 ホンテクニカルスキルについて事前に自己学習してください。							
試験の受験資格 ユニットごとに授業に3分の2以上出席していること。 プレゼンテーション(作成・発表)に参加していること。 ミニ・レポートや授業ごとの課題を提出していること。							
モジュールの単位判定 単位を取得するためには、当該科目内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、試験点数、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。							
教科書 歯科医療人間科学へのいざない／G.Kent, R.Croucher 著；新庄文明, 山崎久美子, 俣木志朗監訳 Kent, Gerry, Croucher, Ray, 新庄, 文明, 山崎, 久美子, 俣木, 志朗.: 医歯薬出版, 2005 命は誰のものか／香川知晶 [著]. 香川, 知晶.: ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2021 <反延命>主義の時代：安楽死・透析中止・トリアージ／小松 美彦／編著, 市野川 容孝／編著, 堀江 宗正／編著, 小松 美彦, 市野川 容孝, 堀江 宗正, 小松 美彦, 市野川 容孝, 堀江 宗正.: 現代書館, 2021-07 ブリッジブック医事法／甲斐克則編, 甲斐, 克則.: 信山社, 2018							
参考書 いのちの選択：今、考えたい脳死・臓器移植／小松美彦 編, 市野川容孝 他編.: 岩波書店 医学研究・臨床試験の倫理：わが国の事例に学ぶ／井上悠輔 編著, 一家綱邦 編著, 井上／悠輔, 一家／綱邦.: 日本評論社 いのちを選ぶ社会：出生前診断のいま／坂井律子 著, 坂井, 律子, 1960-.: NHK 出版, 2013 生命倫理とは何か／市野川容孝 編, 市野川, 容孝, 1964-.: 平凡社, 2002 臨床倫理学：臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ／Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J. Winslade [著] ; [白浜 雅司]ほか訳, Jonsen, Albert R., Siegler, Mark, Winslade, William J., 白浜, 雅司, 赤林, 朗, 蔵田, 伸雄, 児玉, 聡.: 新興医学出版社, 2006 ソシュールを読む／丸山 圭三郎, 1933-1993, 丸山圭三郎 [著]. 講談社, 2012.7 Social construction : a reader.／Gergen, Mary M., Gergen, Kenneth J., edited by Mary Gergen and Kenneth J. Gergen.: Sage, 2003 Measuring medical professionalism.／Stern, David Thomas, David Thomas Stern, editor.: Oxford University Press, 2006							
履修上の注意事項 本授業で行うグループ演習はひとりひとりの積極的参加により、クラス全体としての学習効果があがるので、遅刻・欠席がないよう体調管理を心掛けてください。							
備考 医の倫理、チーム医療については演習、課題発表等アクティブラーニングの実施を行う。							
責任者 則武加奈子 noritake.irm(a) tmd.ac.jp (a)をアットマークに変更ください。							

時間割番号	021750				
科目名	社会と環境			科目ID	
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜[AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
環境・社会と健康、ライフスタイルと健康、食生活と健康の3つのパートから構成され、社会と環境について理解を深めることを目的とする。講義・実習数は下記となる。					
モジュール 社会と環境(021750)					
モジュール単位:1.5 単位					
モジュール授業:講義:24 コマ、演習:0 コマ、実習:0 コマ					
モジュール総コマ数:24 コマ					
3つのパートに分けられる					
環境・社会と健康:講義 12 コマ					
ライフスタイルと健康:講義 8 コマ					
食生活と健康:講義 4 コマ					
主な講義場所					
授業明細の講義場所を参照のこと。					
授業の目的、概要等					
社会と健康の関係の概念を理解する。詳細は下記の各パートの目的、概要等を参照のこと。					
環境・社会と健康:健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康の維持・増進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技能、態度を修得する。					
ライフスタイルと健康:ライフスタイルと健康に影響する社会的決定要因やヘルスプロモーションを理解する。					
食生活と健康:栄養と食育を説明できるために、国民健康栄養調査、食事摂取基準、食生活指針、食育推進計画等を理解する。					
授業の到達目標					
各パートの到達目標					
環境・社会と健康					
1)公衆衛生の概念を説明できる。					
2)環境による健康への影響を説明できる。					
3)環境基準と環境汚染を説明できる。					
4)主な保健医療統計を説明できる。					
5)主な健康指標を説明できる。					
6)調査方法と統計的分析法を説明できる。					
7)疫学と EBM の概念を説明できる。					
8)スクリーニング検査を説明できる。					
ライフスタイルと健康:ライフスタイルと健康に影響する社会的決定要因やヘルスプロモーションを理解する。ライフスタイルと健康の社会的決定要因を説明できる。					

食生活と健康:栄養と食育を説明できる。

【社会と環境】歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版

A-1-2-8 栄養素

A-4-1-4 新興・再興感染症を理解している。

C-4-1 健康の概念と死の定義 C-4-1-1,2

C-4-2 歯科医師法及び医療関連法規 C-4-2-1,2,3,4,5,6,7

C-4-5 環境と健康 C-4-5-1,2,3,4

C-5 予防と健康管理 C-5-1,2,3,4,5,6

C-6-1-2 スクリーニング検査を理解している。

C-6-2-3 主な健康指標(平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等)を理解している。

C-6-2-4 調査方法と統計的分析法を理解している。

E-5-2 歯科保健指導 4 食育指導、5 生活習慣指導

E-5-5-4 年齢別食事指導、間食指導

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	12/14	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	社会と環境 総論①	・社会と環境	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】社会と環境の健康への影響を理解する。健康の社会的決定要因とヘルスプロモーションについても理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
2	12/14	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	社会と環境 総論②	・プライマリーヘルスケア	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】社会と環境の健康への影響を理解する。健康の社会的決定要因とヘルスプロモーションについても理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
3	12/14	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	社会と環境 総論③	・ヘルスプロモーション	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】社会と環境の健康への影響を理解する。健康の社会的決定要因とヘルスプロモーションについても理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容

4	12/14	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	社会と環境 総論③	・ポピュレーションアプローチ	相田 潤、松 山 祐輔、石 丸 美穂、木 内 桜	【到達目標】社会と 環境の健康への 影響を理解する。 健康の社会的決 定要因とヘルス プロモーションに ついて理解す る。【学習方法】 講義 【事前学 習】シラバスに沿 った内容
5	12/18	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	衛生の主要指標 公 衆衛生学総論		相田 潤、松 山 祐輔、石 丸 美穂、木 内 桜	【到達目標】公衆 衛生の概念を説 明できる。主な保 健医療統計を説 明できる。主な健 康指標を説明で きる。【学習方 法】講義・演習 【事前学習】シラ バスに沿った内 容を参考書で予 習
6	12/18	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	人口統計 人口静態、 人口動態		相田 潤、松 山 祐輔、石 丸 美穂、木 内 桜	【到達目標】公衆 衛生の概念を説 明できる。主な保 健医療統計を説 明できる。主な健 康指標を説明で きる。【学習方 法】講義・演習 【事前学習】シラ バスに沿った内 容を参考書で予 習
7	12/18	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	人口問題 生命表		相田 潤、松 山 祐輔、石 丸 美穂、木 内 桜	【到達目標】公衆 衛生の概念を説 明できる。主な保 健医療統計を説 明できる。主な健 康指標を説明で きる。【学習方 法】講義・演習 【事前学習】シラ バスに沿った内 容を参考書で予 習
8	12/18	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	疫学1 疫学総論、疫 学史		相田 潤、松 山 祐輔、石 丸 美穂、木	【到達目標】調査 方法と統計的分 析法を説明でき

						内 桜	る。疫学とEBMの概念を説明できる。スクリーニング検査を説明できる。【学習方法】講義・演習【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
9	1/22	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	疫学2 疫学研究のデザインと分類		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】調査方法と統計的分析法を説明できる。疫学とEBMの概念を説明できる。スクリーニング検査を説明できる。【学習方法】講義・演習【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
10	1/22	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	疫学3 臨床疫学		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】調査方法と統計的分析法を説明できる。疫学とEBMの概念を説明できる。スクリーニング検査を説明できる。【学習方法】講義・演習【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
11	1/22	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	環境保健1 空気の成分、騒音		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】環境による健康への影響を説明できる。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
12	1/22	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	環境保健2 温熱環境		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木	【到達目標】環境による健康への影響を説明でき

						内 桜	る。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
13	1/25	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	環境保健3 水質		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】環境による健康への影響を説明できる。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
14	1/25	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	廃棄物処理		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】環境による健康への影響を説明できる。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
15	1/25	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	食品衛生 HACCP、食中毒		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】環境による健康への影響を説明できる。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内容を参考書で予習
16	1/25	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	感染対策 感受性対策、感染源対策、感染経路対策		相田 潤、松山 祐輔、石丸 美穂、木内 桜	【到達目標】環境による健康への影響を説明できる。環境基準と環境汚染を説明できる。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内

							容を参考書で予習
17	1/26	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	・病態栄養、栄養管理	・病態栄養、病院における栄養管理、	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜 鳥越純子	【到達目標】栄養と食育を説明するために、病態栄養および栄養管理等を理解する。【学習方法】講義・演習 【事前学習】シラバスに沿った内容
18	1/26	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	・わが国の健康・栄養状況と指針	国民健康・栄養調査、健康日本21(第2次)栄養・食生活、	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】栄養と食育を説明するために、国民健康栄養調査等を理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
19	1/26	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	・食育、食育基本法、第4次食育推進計画、	・食育、食育基本法、第4次食育推進計画、	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】栄養と食育を説明するために、食育および食育推進計画等を理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
20	1/26	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	・食事摂取基準、食生活指針	・口腔保健と食育：ライフステージ別の食育、	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】栄養と食育を説明するために、食事摂取基準、食生活指針について理解する。【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
21	1/29	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	・ライフスタイルと健康①	・歯科受診	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】ライフスタイルと健康について説明するために、歯科受診の状況を理解する 【学習方法】講義 【事前学習】シラバスに沿った内容
22	1/29	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室3	ライフスタイルと健康② 国民の口腔保健状況、 遠隔歯科診療		相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木	【到達目標】ライフスタイルと健康について説明でき

						内 桜	るために、国民の口腔保健状況の概念を理解する【学習方法】講義【事前学習】シラバスに沿った内容
23	1/29	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室3	・口腔疾患と栄養・食生活・特別用途食品、特定保健用食品他・食品衛生法、	・う蝕と糖質、代用甘味料、・口腔疾患と栄養・食生活・う蝕と糖質、代用甘味料、・口腔疾患と栄養・食生活	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】栄養と食育を説明できるために、口腔疾患と栄養・食生活等を理解する。【学習方法】講義【事前学習】シラバスに沿った内容
24	1/29	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	・胎児期、発生期の栄養と健康	胎児期、発生期の栄養と健康について	相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	【到達目標】栄養と食育を説明できるために、胎児期、発生期の栄養と健康について理解する。【学習方法】講義 佐藤 憲子(非常勤講師)【事前学習】シラバスに沿った内容
25	2/3	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室3	試験		相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	
26	2/16	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室3	追再試験		相田 潤 松山 祐輔 石丸 美穂 木内 桜	

授業方法

環境・社会と健康:同期のオンライン授業。
 ライフスタイルと健康:主として、非同期・同期のオンライン授業を行う。
 食生活と健康:主として、非同期・同期のオンライン授業を行う。

授業内容

授業明細を参照のこと

成績評価の方法

出席状況および試験により評価する。

成績評価の基準

出席状況および試験により評価する。

準備学習等についての具体的な指示

環境・社会と健康:シラバスに沿った内容を参考書で予習しておくこと。配布プリントの記載内容のすべてを講義できないため復習が必要である。

ライフスタイルと健康:シラバスに沿った内容を参考書で予習しておくこと。 食生活と健康:食事バランスガイドについて、1 年次(教養科目)の講義を復習しておく。
試験の受験資格 講義・演習の 2/3 以上の出席(非同期遠隔授業実施の場合は視聴記録で確認する)
構成ユニット 下記の3つのパートから構成される。 環境・社会と健康 講義 ライフスタイルと健康 講義 食生活と健康 講義
モジュールの単位判定 出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される
教科書 シンプル衛生公衆衛生学／小山, 洋, 1956-,辻, 一郎, 1957-,上島, 通浩,大久保, 孝義,小山洋, 辻一郎 監修,上島通浩, 大久保孝義 編集: 南江堂, 2024.3
参考書 食品成分表：八訂／香川, 明夫,香川明夫 監修:女子栄養大学出版部, 2024.2 衛生学・公衆衛生学／宮武, 光吉,渡邊, 達夫, 1942-,雫石, 聰, 1947-,宮武光吉, 渡邊達夫, 雫石聰, 川口陽子 編:医歯薬出版, 2018.1 図説国民衛生の動向／厚生労働統計協会,厚生労働統計協会 編集:厚生労働統計協会, 2024.10
他科目との関連 予防と健康管理、医療統計学・疫学基礎、臨床情報処理の基礎となる科目です。
履修上の注意事項 WebClass にアップロードされる、各パートの履修上の注意事項を参照のこと。
備考 前年度履修学生の科目評価の、講義により重複があったとの指摘をもとに、不必要な重複がないようにします。
連絡先(メールアドレス) 相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤 aida.ohp@tmd.ac.jp 毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

時間割番号	021760																					
科目名	遺伝の分子の基盤			科目ID																		
担当教員	渡部 徹郎, 小林 美穂[WATABE Tetsuro, KOBAYASHI Miho]																					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	0.5																	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面																	
・モジュール名:生命の分子の基盤 ・科目ユニットコマ数:16+2 ・必要自習時間: 各自の理解度による ・授業形態:講義 ・ユニット番号:01																						
主な講義場所 対面講義の実施場所:7 号館 2 階歯学科講義室 2 遠隔講義は Webclass (非同期型)または Zoom (同期型)で実施する。 ※筆記試験は対面で、7 号館 2 階歯学科講義室 2 にて行う。																						
授業の目的、概要等 生命科学及び医療科学を学ぶ上で必要な物質の化学的基礎を理解する。(A-1-1)。 遺伝子からタンパク質合成への流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用、ヒトゲノムの解析を理解する。ゲノム、染色体、遺伝子の多様性と疾患との関連を理解する(A-1-3)。 遺伝情報の物質的な特徴や遺伝子発現への流れについて、その仕組みを統合的に理解し、歯科医科学の基盤知識を養う。																						
授業の到達目標 以下の項目について、自分の言葉で論理的に説明できることを到達目標とする。 0)メンデルの法則や遺伝子型と表現型の関係を説明できる(A-1-3-1)。 1)細胞構造と遺伝情報の流れについて相互の関係を説明できる(A-1-3-1/A-1-3-3)。 2)核酸、遺伝子及び染色体の構造と機能を説明できる(A-1-3-2)。 3)デオキシリボ核酸(DNA)の構造とその複製・修復の機序を説明できる(A-1-3-3)。 4)リボ核酸(RNA)の構造と、DNA から RNA への転写・翻訳の過程とそれぞれの調節機序を説明できる(A-1-3-3)。 5)翻訳によるタンパク質の合成と分配の機序を説明できる(A-1-3-3)。 6)遺伝子発現の制御調節機構を説明できる(A-1-3-3)。 7)塩基配列の変化を伴わない遺伝子機能の変化を説明できる(A-1-3-3)。 8)がんをはじめとする遺伝性疾患の発生機序を説明できる(A-1-3-4)。 9)遺伝子解析(染色体分析や DNA 配列決定等のゲノム解析技術を含む)や遺伝子工学技術を説明できる(A-1-3-5/A-1-3-6)。 10)薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を説明できる(A-1-3-7)。																						
授業計画 <table><tr><th>回</th><th>日付</th><th>時刻</th><th>講義室</th><th>授業題目</th><th>授業内容</th><th>担当教員</th><th>到達目標・学習方法・その他</th></tr><tr><td>1-4</td><td>10/5</td><td>08:50-12:25</td><td>7 号館 2 階歯学科講義室 2</td><td>・講義:がんのゲノミクス ・演習:がんのゲノミクス</td><td>* 事前に、webclass [D1 遺伝の分子の基盤] 2026 講義① (がんのゲノミクス)を受講してから授業に出席してください。(AL)※授業内容を踏まえた討議を行うとともに、演習として小テストを行います。</td><td>渡部 徹郎</td><td>遺伝性疾患の発生機序を理解する。薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を理解する。</td></tr></table>							回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1-4	10/5	08:50-12:25	7 号館 2 階歯学科講義室 2	・講義:がんのゲノミクス ・演習:がんのゲノミクス	* 事前に、webclass [D1 遺伝の分子の基盤] 2026 講義① (がんのゲノミクス)を受講してから授業に出席してください。(AL)※授業内容を踏まえた討議を行うとともに、演習として小テストを行います。	渡部 徹郎	遺伝性疾患の発生機序を理解する。薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を理解する。
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他															
1-4	10/5	08:50-12:25	7 号館 2 階歯学科講義室 2	・講義:がんのゲノミクス ・演習:がんのゲノミクス	* 事前に、webclass [D1 遺伝の分子の基盤] 2026 講義① (がんのゲノミクス)を受講してから授業に出席してください。(AL)※授業内容を踏まえた討議を行うとともに、演習として小テストを行います。	渡部 徹郎	遺伝性疾患の発生機序を理解する。薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を理解する。															

5-6	10/9	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	講義②:DNA・RNA	WebClass [D1 遺伝の分子の基盤] 2026 講義②-1 (DNA) / 講義②-2 (RNA)	小林 美穂	メンデルの法則 や遺伝子型と表 現型の関係を理 解する。核酸、遺 伝子及び染色体 の構造と機能、修 復機構を理解す る。DNA 複製と修 復、DNA から RNA への転写を 理解する。遺伝子 解析や遺伝子工 学技術を理解す る。
7-8	10/9	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	演習②:DNA・RNA	(AL)※ DNA の模型を作成し、 DNA の複製について体感する演 習を行います。※WEB データベ ースを用いた遺伝子解析の演習 を行います。※討議として授業内 容をもとにした質問への回答と意 見を募ります。※演習として小テ スト(設問の回答と解説)を行いま す。	小林 美穂	メンデルの法則 や遺伝子型と表 現型の関係を理 解する。核酸、遺 伝子及び染色体 の構造と機能、修 復機構を理解す る。DNA 複製と修 復、DNA から RNA への転写を 理解する。遺伝子 解析や遺伝子工 学技術を理解す る。
9-10	10/16	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	講義③:RNA・タンパク質	WebClass [D1 遺伝の分子の基盤] 2026 講義②-2 (RNA) / ③ (タン パク質)	小林 美穂	DNA から RNA を 介してタンパク質 合成に至る翻訳 を含む遺伝情報 の発現機構を理 解する。(遺伝子 解析や遺伝子工 学技術を理解す る。染色体分析と DNA 配列決定を 含むゲノム解析 技術を理解す る。)
11-12	10/16	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	演習③:RNA・タンパク質	(AL)※討議として、授業内容をも とにした質問に回答してもらい、意 見を募ります。※演習として小テ スト(設問の回答と解説)を行いま す。	小林 美穂	DNA から RNA を 介してタンパク質 合成に至る翻訳 を含む遺伝情報 の発現機構を理 解する。(遺伝子 解析や遺伝子工 学技術を理解す る。染色体分析と

							DNA 配列決定を含むゲノム解析技術を理解する。)
13-14	10/20	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期型)	講義④:遺伝子の発現 制御とエピゲノム	WebClass [D1 遺伝の分子の基盤 2026 講義④ (遺伝子の発現制御 とエピゲノム)	小林 美穂	DNA からタンパク質として機能するまでの遺伝子発現調節機構を理解する。最新の遺伝子解析や遺伝子工学技術を理解する。染色体分析を含む最新のゲノム解析技術を理解する。
15-16	10/20	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	演習④:遺伝子の発現 制御とエピゲノム	(AL)※討議として、授業内容をもとにした質問に回答してもらい、意見を募ります。※演習として小テスト(設問の回答と解説)を行います。	小林 美穂	DNA からタンパク質として機能するまでの遺伝子発現調節機構を理解する。最新の遺伝子解析や遺伝子工学技術を理解する。染色体分析を含む最新のゲノム解析技術を理解する。
17-18	12/18	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2		試験	小林 美穂	
19-20	2/15	13:30-15:10	7号館2 階歯学科 講義室2		追再試験(該当者のみ)	小林 美穂	

授業方法

- ◆Webclass による非同期型遠隔授業は、その講義内容をもとに実施する対面授業または遠隔同期までに視聴すること。
 - ◆対面授業では、Webclass による非同期型遠隔授業の内容をもとに討議・グループディスカッション等のアクティブラーニングや小テストを実施する。
 - ◆Zoom による同期型遠隔授業では、Webclass による非同期型遠隔授業の内容をもとにチャット機能を用いた討議・グループディスカッションや小テスト、オンライン講義を生かして実際に手を動かす演習(NCBI データベースを用いた遺伝子解析等)などのアクティブラーニングを中心に実施する。
- ※対面および遠隔同期型授業では質問への回答を行う時間を設けます。

授業内容

- ・遺伝子の特性について解説する。
- ・ゲノムから遺伝情報が読み取られ、機能性タンパク質が生成されるまでの流れを解説する。
- ・最新の遺伝子解析技術やその技術を用いた応用例について解説する。
- ・DNA 複製(模型を作成して体験)や遺伝子解析(Web database を用いた操作の体験)について、実際に手を動かして学ぶ。
- ・授業の到達目標に対する理解を深めるため、各講義にて小テストを実施する。

成績評価の方法

2026/12/18(金)に対面による筆記試験(最終試験)を行い、小テストを含めて総括的評価を行う。

成績評価の基準

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+、A、B、C、または D) で評価される。D は不合格となり、単位は付与されない。

A+: 100-90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した A: 89-80 / 当該科目の到達目標を全て達成した B: 79-70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した C: 69-60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した D: 59-0 / 当該科目の到達目標を達成していない
70 点以上をとると「B(歯科医師国家試験合格レベルに相当)」
準備学習等についての具体的な指示 初回の講義(10 月 5 日)までに、WebClass: D1 生命の分子の基盤「2026 事前ガイダンス 遺伝の分子の基盤」を聴講しておくこと。 高校の「化学」および「生物」の教科書に書かれている内容を十分に理解していることが前提で講義を行います。これらの理解が不十分と思われる場合は、事前に基礎生物学・基礎化学について復習して授業にのぞむこと。(例えば「やさしい基礎生物学:羊土社」や「フレッシュ生物学:羊土社」などの、大学で生物学の学習をはじめめるために必要な知識をまとめた参考書を準備学習に使用するなどしても良いかもしれません) Webclass では各講義についての詳細な解説をしています。準備学習や復習等に活用してください。
試験の受験資格 ◆全授業時間数のうち、3分の2以上出席していることが望ましいが、必須ではない(遠隔:同期・非同期を含む)。 ・遠隔非同期:webclass 視聴履歴時間が 100%に満たない場合は欠席とする。 ・遠隔同期:Zoom 講義への出席時間が半分以上および講義中の質問に対するチャットでの回答をもって出席とする。 ・対面講義:カードタッチ及び小テストの提出をもって出席とする。
構成ユニット ユニット名:遺伝の分子の基盤
モジュールの単位判定 各ユニットごとに成績判定を行い、その上でモジュールの単位判定を行う。
教科書 はじめの一步の生化学・分子生物学／前野正夫, 磯川桂太郎著,前野, 正夫,磯川, 桂太郎,:羊土社, 2016 エリオット生化学・分子生物学／Despo Papachristodoulou [ほか] 著 ; 村上誠, 原俊太郎, 中村元直訳Papachristodoulou, Despo K.,Shape, Alison,Elliott, W. H.,Elliott, Daphne C.,村上, 誠,原, 俊太郎,中村, 元直,:東京化学同人, 2016 口腔生化学 - Oral Biochemistry／早川太郎, 須田立雄 監修,早川, 太郎, 1934-,須田, 立雄, 1935-,:医歯薬出版, 2018
参考書 基礎からしっかり学ぶ生化学／山口雄輝／編著, 成田 央／著:羊土社, 2014 ストライヤー生化学／Jeremy M. Berg [ほか] 著,Berg, Jeremy M.,Tymoczko, John L.,Gatto, Gregory J. (Gregory Joseph), Jr.,Stryer, Lubert,入村, 達郎,岡山, 博人,清水, 孝雄,仲野, 徹,:東京化学同人, 2018 細胞の分子生物学／日本語版監修:中村桂子・監訳:水島昇, 塩見春彦, 三浦正幸, 中山啓子:ニュートンプレス, 2025
他科目との関連 本授業内容は、生命の分子の基盤実習および基礎研究実習の基盤となる。
履修上の注意事項 対面講義ではその講義に対応する Webclass を元にした小テストを実施するため、事前に Webclass を受講してから対面講義に出席すること。 2026/12/18(金)に実施する対面筆記試験(最終試験)の点数が規定に満たない場合は、単位取得ができません。
備考 ◆授業では、アクティブラーニング(実習、演習、課題発表、グループワーク、討論、ディベート、PBL、CBL、TBL 等)として、以下の演習を行う。 ・設問への回答(Web ではチャット機能を用いる)と解説。 ・DNA の簡易的な模型を作成して DNA 複製の仕組みを体感する。 ・NCBI データベースを用いた Web による遺伝子解析。

◆前年度履修学生の科目評価において特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

担当教員の連絡先:

小林美穂 助教(病態生化学分野) メールで連絡してください miho-k.bch@tmd.ac.jp

渡部徹郎 教授(病態生化学分野) メールで連絡してください t-watabe.bch@tmd.ac.jp

時間割番号	021770				
科目名	細胞機能の分子的基盤		科目ID		
担当教員	渡部 徹郎, 井上 カタジナアンナ, 弓削 進弥, 高橋 和樹[WATABE Tetsuro, INOUE Katajinaanna, YUGE Shinya, TAKAHASHI Kazuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
モジュール名:生命の分子的基盤 コマ数:15 授業形態:講義 ユニット番号:03					
主な講義場所 対面講義の実施場所は決定次第追記する。 遠隔講義はWebclass(非同期型)または Zoom（同期型）で実施する。 ※筆記試験も対面で行う。					
授業の目的、概要等 細胞の基本構造と機能及び増殖と分化機構を理解する。(A1-4) 細胞間、細胞と細胞外マトリックスの接着機序及び細胞レベルでの情報伝達の仕組みを理解する。(A1-5)					
授業の到達目標 以下の項目について、自分の言葉で論理的に説明できることを到達目標とする。 1)生体膜の基本構造を説明できる。(A-1-4-1/A1-5-1) 2)生体分子(低分子)が膜を横切って移動する仕組みを説明できる。(A1-4-2/A1-5-2) 3)タンパク質が細胞内の異なったコンパートメントに局在化・移動する仕組みを説明できる。(A1-4-2/A1-4-3/A1-5-2) 4)細胞骨格の構造と役割を説明できる。(A-1-4-1) 5)細胞内情報伝達経路の仕組みを説明できる。(A1-4-2/A1-4-3/A1-5-2) 6)細胞周期、細胞分裂、細胞死の仕組みを説明できる。(A1-4-4) 7)細胞外マトリックスの構造と役割を説明できる。(A1-5-3) 8)細胞外マトリックスの合成と分解を説明できる。(A1-5-4) 9)唾液の生成の仕組みを説明できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	10/13	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2		
2	10/13	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2		
3	10/13	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室2		
4	10/13	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室2		
5	10/23	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)		

6	10/23	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	
7	10/23	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	
8	10/23	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	
9	10/30	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	
10	10/30	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	
11	10/30	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	
12	10/30	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	
13	11/6	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	
14	11/6	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	
15	11/6	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	
16	12/18	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	試験
17	12/18	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	試験
18	2/15	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	追再試験
19	2/15	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	追再試験

授業方法

- ◆Webclass による非同期型遠隔授業は、その講義内容をもとに実施する対面授業または遠隔同期までに視聴すること。
- ◆対面授業では、Webclass による非同期型遠隔授業の内容をもとに討議・グループディスカッション等のアクティブラーニングや小テストを実施する。
- ◆Zoom による同期型遠隔授業では、Webclass による非同期型遠隔授業の内容をもとにチャット機能を用いた討議・グループディスカッションや小テスト、などのアクティブラーニングを中心に実施する。

授業内容 細胞の基本構造とその機能及び増殖や分化機構について解析する。
成績評価の方法 対面による筆記試験を行い、総括的評価を行う。
成績評価の基準 学生の成績は 5 段階評価 (A+, A、B、C、または D) で評価される。D は不合格となり、単位は付与されない。
準備学習等についての具体的な指示 講義資料(動画)を見ながら内容を理解する。 各講義の最後にあるまとめスライドをみて、理解度を確認する。 高校の「化学」および「生物」の教科書に書かれている内容を十分に理解していることが前提で講義を行っている。 理解が不十分と思われる場合は、事前に基礎生物学・基礎化学について復習して授業にのぞむこと。
試験の受験資格 出席要件は試験規則第 5 条 3 項に従う。 受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
構成ユニット ユニット名:細胞機能の分子的基盤
モジュールの単位判定 各ユニットごとに成績判定を行い、その上でモジュールの単位判定を行う。
教科書 口腔生化学／畑隆一郎 [[ほか]編著,早川太郎, 須田立雄, 木崎治俊 監修,:医歯薬出版, 2011 はじめの一歩の生化学・分子生物学／前野, 正夫, 1952-,磯川, 桂太郎, 1959-,前野正夫, 磯川桂太郎 著:羊土社, 2016.12 細胞の分子生物学／Alberts, Bruce,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,中村, 桂子, 1936-,松原, 謙一, 1934-,Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 著,中村桂子, 松原謙一 監訳:ニュートンプレス, 2017.10
参考書 徹底レクチャー唾液・唾液腺／日本唾液腺学会 編,吉原俊雄 監修,:金原出版, 2016 ストライヤー生化学／Berg, Jeremy M. (Jeremy Mark),Tymoczko, John L,Gatto, Gregory J. (Gregory Joseph), Jr,Stryer, Lubert,入村, 達郎,岡山, 博人,清水, 孝雄,仲野, 徹,Jeremy M. Berg [[ほか] 著:東京化学同人, 2018.8 エリオット生化学・分子生物学／Papachristodoulou, Despo K,Snape, Alison,Elliott, William H., -2012,村上, 誠, 1964-,原, 俊太郎, 1962-,中村, 元直, 1962-,Despo Papachristodoulou, Alison Snape, William H.Elliott, Daphne C.Elliott 著,村上誠, 原俊太郎, 中村元直 訳:東京化学同人, 2016.10 ・「エリオット 生化学・分子生物学、第 3 版」エリオットら(東京化学同人) ・「カープ 分子細胞生物学」カープら(東京化学同人) ・「ストライヤー 生化学」L. Stryer ら(東京化学同人) ・「唾液・唾液腺」日本唾液腺学会編 (金原出版)
他科目との関連 本授業内容は、生命の分子的基盤実習および基礎研究実習の基盤となる。
履修上の注意事項 対面筆記試験(最終試験)の点数が規定に満たない場合は、単位取得ができません。
備考 1-4 の講義は対面でおこない、各自が予め示した課題について予習をおこなった上で、説明を聞いて自己評価をおこなう。 担当教員の連絡先:

高橋和樹 助教(病態生化学分野) メールで連絡してください kt2bch@tmd.ac.jp

渡部徹郎 教授(病態生化学分野) メールで連絡してください t-watabe.bch@tmd.ac.jp

時間割番号	021780						
科目名	生命を構成する分子とその代謝				科目ID		
担当教員	楠山 譲二, 渡部 徹郎[KUSUYAMA Joji, WATABE Tetsuro]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
科目名:生命を構成する分子とその代謝 コマ数:16+1 必要自習時間 1時間/日 授業形態:講義							
主な講義場所 湯島地区 7 号館 2 階 歯学科講義室3							
授業の目的、概要等 生命を構成する分子とその代謝を理解する。							
授業の到達目標 1) タンパク質の構造と生物学的機能の関係について理解し、説明できる。 2) 酵素の働きとその調節機構について理解し、説明できる。 3) 糖代謝とエネルギー生成の仕組みを説明できる。 4) 脂質代謝の仕組みを説明できる。 5) アミノ酸、核酸の代謝の仕組みを説明できる。 6) 物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。 7) 代謝とその異常について理解し説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/26	08:50-09:35	7 号館 2 階歯学科講義室 2	代謝を理解するための生化学	代謝物の構成要素	楠山 譲二	タンパク質の構造と生物学的機能の関係について理解し、説明できる。
2	10/26	09:45-10:30	7 号館 2 階歯学科講義室 2	代謝を理解するための生化学	酵素反応論	楠山 譲二	酵素の働きとその調節機構について理解し、説明できる。
3	10/26	10:45-11:30	7 号館 2 階歯学科講義室 2	栄養の代謝学:糖	糖代謝の概観	楠山 譲二	糖代謝とエネルギー生成の仕組みを説明できる。
4	10/26	11:40-12:25	7 号館 2 階歯学科講義室 2	栄養の代謝学:糖	糖代謝の概観	楠山 譲二	糖代謝とエネルギー生成の仕組みを説明できる。
5	11/9	08:50-09:35	7 号館 2 階歯学科講義室 2	栄養の代謝学:アミノ酸	アミノ酸代謝の概観	楠山 譲二	アミノ酸代謝の仕組みを説明できる。
6	11/9	09:45-10:30	7 号館 2 階歯学科講義室 2	栄養の代謝学:脂質	脂質代謝の概観	楠山 譲二	脂質代謝の仕組みを説明できる。
7	11/9	10:45-11:30	7 号館 2	栄養の代謝学:脂質	脂質代謝の概観	楠山 譲二	脂質代謝の仕組

			階歯学科 講義室 2				みを説明できる。
8	11/9	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	栄養の代謝学:脂質	脂質代謝の概観	楠山 譲二	脂質代謝の仕組みを説明できる。
9	11/16	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	栄養の代謝学:核酸	核酸代謝の概観	楠山 譲二	核酸の代謝の仕組みを説明できる。
10	11/16	09:45-10:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2	発生と成長の代謝学	代謝産物の発生と成長過程における利用形態	楠山 譲二	物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。
11	11/16	10:45-11:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2	肥満と痩せの代謝学	代謝産物の適切な制御の意義	楠山 譲二	代謝とその異常について理解し説明できる。
12	11/16	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	運動の代謝学	代謝産物のエネルギー源としての役割	楠山 譲二	物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。
13	11/30	13:30-14:15	7号館 2 階歯学科 講義室 2	遺伝と疾病の代謝学	代謝関連疾患の概観	楠山 譲二	代謝とその異常について理解し説明できる。
14	11/30	14:25-15:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	代謝研究の最前線	近年の代謝研究の動向	楠山 譲二	物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。
15	11/30	15:25-16:10	7号館 2 階歯学科 講義室 2	がんの代謝学①	がん代謝の基礎 — ワールブルグ効果から始める理解	渡部 徹郎	物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。代謝とその異常について理解し説明できる。
16	11/30	16:20-17:05	7号館 2 階歯学科 講義室 2	がんの代謝学②	がん代謝の応用 — 代謝標的治療への展開	渡部 徹郎	物質代謝の制御による生体機能の調節について説明できる。代謝とその異常について理解し説明できる。
17	12/15	10:45-11:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2	試験	試験	楠山 譲二 渡部 徹郎	試験
18	12/15	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2	試験	試験	楠山 譲二 渡部 徹郎	試験
19	2/17	09:45-10:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2	追再試験	追再試験	楠山 譲二 渡部 徹郎	追再試験

20	2/17	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	追再試験	追再試験	楠山 譲二、 渡部 徹郎	追再試験
授業方法 対面授業							
授業内容 生命を構成する分子とその代謝を理解する。 他科目との関連:細胞機能の分子的基盤、遺伝の分子的基盤							
成績評価の方法 試験を行い、総括的評価を行う。							
準備学習等についての具体的な指示 授業前に必ず WebClass に配布されたスライドの予習を行い、積極的に授業に望むこと。							
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していることが望ましいが、必須ではない。							
教科書 イラストレイテッド生化学／Abali, Emine Ercikan,Cline, Susan D,Franklin, David S,Viselli, Susan,石崎, 泰樹, 1955-,丸山, 敬, 1957-,Emine Ercikan Abali, Susan D.Cline, David S.Franklin, Susan M.Viselli [著],石崎泰樹, 丸山敬 監訳石崎泰樹 [[ほか] [訳]:丸善出版, 2023.11 はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学：生物学を学んでいない人でもわかる目で見える教科書／前野正夫, 磯川桂太郎 著,羊土社, 2008 ベインズ・ドミニチャク生化学／Baynes, John W,Dominiczak, Marek H,谷口, 直之, 1942-,高橋, 素子, 医化学,藤井, 順逸,本家, 孝一,JOHN W.BAYNES, MAREK H.DOMINICZAK 原著,谷口直之 [[ほか] 監訳秋元美穂 [[ほか] 訳:エルゼビア・ジャパン, 2024.11							
参考書 ストライヤー生化学／Berg, Jeremy Mark, 1958-,Gatto, Gregory Joseph, 1958-,Hines, Justin K,Heller, Jutta Beneken,Tymoczko, John L, 1948-,Stryer, Lubert,入村, 達郎, 1949-,仲野, 徹, 1957-,栗原, 裕基, 1958-,水島, 昇, 1966-,横溝, 岳彦, 1963-,BERG [[ほか] [著],入村達郎 [[ほか] 監訳:東京化学同人, 2025.11 口腔生化学／早川, 太郎, 1934-,須田, 立雄, 1935-,早川太郎, 須田立雄 監修:医歯薬出版, 2018.9 スタンダード生化学・口腔生化学／荒川, 俊哉,池尾, 隆加藤, 靖正, 1967-,古株, 彰一郎,近藤, 信夫, 1958-,自見, 英治郎,鈴木, 直人, 医化学,半田, 慶介,坂東, 健二郎,平塚, 浩一,荒川俊哉, 池尾隆, 加藤靖正, 古株彰一郎, 近藤信夫, 自見英治郎, 鈴木直人, 半田慶介, 坂東健二郎, 平塚浩一 編集・執筆:学建書院, 2023.3 イラストレイテッドハーパー・生化学／Kennelly, Peter J,Botham, Kathleen M,McGuinness, Owen P,Rodwell, Victor W,Weil, P. Anthony,清水, 孝雄, 1947-,水島, 昇, 1966-,Peter J.Kennelly [[ほか] [著],清水孝雄, 水島昇 監訳五十嵐和彦 [[ほか] [訳]:丸善出版, 2024.12 もっとよくわかる「エピジェネティクス：環境に応じて細胞の個性を生むプログラム」／鶴木, 元香,佐々木, 裕之, 1956-,鶴木元香, 佐々木裕之 著:羊土社, 2020.9 スポーツ栄養学：科学の基礎から「なぜ?」にこたえる／寺田, 新,寺田新 著:東京大学出版会, 2024.10							
備考 2026 年度から講義担当者が変更となるため留意すること。 質問などは以下の連絡先までお願いします。 楠山譲二 joji.kusuyama.bsin@tmd.ac.jp							

時間割番号	021790						
科目名	硬組織生化学の分子的基盤			科目ID			
担当教員	林 幹人, 中島 友紀[HAYASHI Mikihito, NAKASHIMA Tomoki]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
・モジュール名:生命の分子的基盤 ・科目コマ数:18 + 2 ・必要自習時間: 各自の理解度による ・授業形態:講義							
主な講義場所							
7 号館 2 階歯学科講義室 3							
授業の目的、概要等							
歯や骨など硬組織の知識を統合的に理解し、歯科医科学の基盤知識を養う。							
授業の到達目標							
1)骨芽細胞の機能を説明できる。							
2)破骨細胞の機能を説明できる。							
3)硬組織の病態を説明できる。							
4)骨・軟骨代謝に関わる調節因子を説明できる。							
5)カルシウム代謝と骨疾患の病態を説明できる。							
6)骨発生の分子メカニズムを説明できる。							
コアカリ番号: A-3-1-2-1/2/3/4/5, A-1-5-1/2/3/4, A-1-4-1/2/4/5							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	11/24	08:50-12:25	7 号館 2 階歯学科講義室 3	講義 硬組織概論/骨・軟骨	硬組織概論、骨・軟骨の組成、骨構成細胞分化、カルシウム恒常性	中島 友紀	歯や骨などの硬組織の知識を統合的に理解し、骨・軟骨代謝に関わる調節因子を説明できる。講義前に指示された事前学習を実施した上で演習として小テストを行い、講義における学習深化を高める。
5-8	11/27	08:50-12:25	7 号館 2 階歯学科講義室 3	講義 骨芽細胞・骨細胞	骨の形成様式、骨芽細胞分化、骨基質石灰化、骨細胞分化・機能	中島 友紀	骨芽細胞の機能を説明できる。講義前に指示された事前学習を実施した上で演習として小テストを行い、講義における学習深化を

							高める。
9-12	11/30	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	講義 破骨細胞	破骨細胞分化、骨吸収、骨リモデリング	林 幹人	破骨細胞の機能を説明できる。 講義前に指示された事前学習を実施した上で演習として小テストを行い、講義における学習深化を高める。
13-15	12/1	09:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	講義 骨代謝とサイトカイン	各種サイトカイン概説、サイトカインと骨疾患	林 幹人	硬組織の病態に関わるサイトカインを説明できる。 講義前に指示された事前学習を実施し、講義における学習深化を高める。
16-18	12/4	09:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	講義 カルシウム代謝とホルモン	カルシウム代謝とそれに関連するホルモン、骨代謝疾患の薬物療法	中島 友紀	カルシウム代謝と骨疾患の病態を説明できる。 講義前に指示された事前学習を実施し、講義における学習深化を高める。
19-20	12/11	13:30-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	試験	ユニット最終判定テスト	林 幹人、中島 友紀	
21-22	12/21	13:30-15:10	7号館2 階歯学科 講義室2	追再試験	追再試験	林 幹人、中島 友紀	

授業方法

対面での講義を行う。講義後に担当教員との質疑討論を行う。

授業内容

各パートの授業内容を参照

成績評価の方法

全4回の試験(ユニット開始試験、ユニットテスト1・2、ユニット最終試験)による総括的評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

講義前に教科書および Science Tokyo LMS の教材を用いて予習を行い、講義・試験にのぞむこと。

試験の受験資格

全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

教科書

はじめの一步の生化学・分子生物学／前野, 正夫, 1952-磯川, 桂太郎, 1959-, 前野正夫, 磯川桂太郎 著:羊土社, 2016.12

口腔生化学／早川, 太郎, 1934-, 須田, 立雄, 1935-, 早川太郎, 須田立雄 監修:医歯薬出版, 2018.9

:医歯薬出版

参考書

新骨の科学／須田, 立雄, 小澤, 英浩, 高橋, 栄明, 田中, 栄 (整形外科学), 中村, 浩彰, 森, 諭史, 高橋, 直之, 網塚, 憲生, 遠藤, 直人, 竹澤, 保政,

須田立雄 [ほか] 編著 ; 田中栄 [ほか] 著:医歯薬出版, 2016.5

骨ペディア : 骨疾患・骨代謝キーワード事典 / 日本骨代謝学会, 日本骨代謝学会 編集:羊土社, 2015.5

履修上の注意事項

講義内容等の変更がある場合も含め、事前に講義方針に関する詳細な連絡を行うため、歯学教務からの連絡を必ず確認すること。

備考

1-4 回、5-8 回、9-12 回の講義においては事前の自主学習を基盤としたテストを行い、その演習により知識の習得および深化をはかる (AL)。

前年度履修学生の科目評価で特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

科目責任者:林幹人

オフィスアワー:月-金(事前メール連絡後)17:00 以降

連絡先:hayashi.csi@tmd.ac.jp

時間割番号	021800					
科目名	生命の分子の基盤実習			科目ID		
担当教員	井上 カタジナアンナ, 林 幹人, 佐々木 純子, 渡部 徹郎, 小林 美穂, 梶保 博昭, 小松谷 史香, 高橋 和樹, 横山 三紀, 小松 紀子, 中島 友紀, 高橋 和樹[INOUE Katajinaanna, HAYASHI Mikihito, SASAKI Junko, WATABE Tetsuro, KOBAYASHI Miho, KAJIHO Hiroaki, KOMATSUYA Fumika, TAKAHASHI Kazuki, YOKOYAMA Miki, KOMATSU Noriko, NAKASHIMA Tomoki, TAKAHASHI Kazuki]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	0.5	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
・モジュール名:生命の分子の基盤 ・コマ数:24 + 0 ・必要自習時間: 各自の理解度による ・授業形態:講義・実習 ・ユニット番号:05						
主な講義場所 歯学部基礎実習室						
授業の目的、概要等 生化学・分子生物学実験法の原理・手技を理解し、実践することを通して、生命を構成する主要な分子(核酸、タンパク質)の性質について理解する。						
授業の到達目標 1)核酸の性質を理解し、核酸研究方法を習得する。 2)タンパク質の性質を知るための生化学的手法を学ぶ。						
コアカリ番号: A-1-1, A-1-2, A-1-3						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-4	10/23	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	分子生物学実習	小松 紀子, 佐々木 純子, 林 幹人, 梶保 博昭, 中島 友紀
5-8	10/26	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	分子生物学実習	小松 紀子, 佐々木 純子, 林 幹人, 梶保 博昭, 中島 友紀
9-12	10/27	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	分子生物学実習	小松 紀子, 佐々木 純子, 林 幹人, 梶保 博昭, 中島 友紀
13-16	11/6	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	生化学実習	渡部 徹郎, 井上 カタジナアンナ, 小林 美穂, 小松谷 史香, 高橋 和樹, 横山 三紀

17-20	11/16	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	生化学実習	渡部 徹郎 井上 カタジ ナアンナ, 小林 美穂, 小松谷 史香, 高橋 和樹, 横山 三紀
21-24	11/17	13:30-17:05	歯学部基礎実習室	実習 生命の分子の基盤実習	生化学実習	渡部 徹郎 井上 カタジ ナアンナ, 小林 美穂, 小松谷 史香, 高橋 和樹, 横山 三紀

授業方法
8つのグループに分かれ、実習室にて実験を行う。

授業内容
分子生物学(核酸抽出とPCR)、生化学(タンパク質精製と SDS-PAGE・ウェスタンブロットング)

成績評価の方法
提出レポート内容・出席・参加状況をもとに総合評価する。特別な理由がない限り全出席を基本とする。

準備学習等についての具体的な指示
実習前に Science Tokyo LMS の教材を用いて必ず予習を行い、積極的に実習に望むこと。

試験の受験資格
・特別な理由がない限り、全出席を基本とする。
・Science Tokyo LMS の教材を必ず視聴していなければならない。
・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考書
はじめの一步の生化学・分子生物学／前野, 正夫, 1952-,磯川, 桂太郎, 1959-,前野正夫, 磯川桂太郎 著:羊土社, 2016.12

他科目との関連
本実習内容は、遺伝の分子の基盤、細胞機能の分子の基盤、生命を構成する分子とその代謝、硬組織生化学の分子の基盤で学習する内容の基盤の上で行うため、各授業内容を十分理解・予習したうえでのぞむこと。

履修上の注意事項
内容等に変更がある場合は事前に連絡を行う。

備考
(AL) 実験、グループディスカッション
前年度履修学生の科目評価で特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

科目責任者:林幹人
オフィスアワー:月-金(事前メール連絡後)17:00 以降
連絡先:hayashi.csi@tmd.ac.jp

連絡先(メールアドレス)
林 幹人:hayashi.csi@tmd.ac.jp
井上 カタジナアンナ:井上 カタジナ アンナ: kapobch@tmd.ac.jp あらかじめメール連絡

オフィスアワー
林 幹人:毎週月曜日-金曜日(事前メール連絡後)17:00 以降 M&D タワー8 階分子情報伝達学分野
井上 カタジナアンナ:井上 カタジナ アンナ: 月~金 10:00-17:00

時間割番号	021810				
科目名	人体の構造と機能(歯の解剖)			科目ID	
担当教員	武智 正樹, 藤川 芳織[TAKECHI Masaki, FUJIKAWA Kaoru]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目名:人体の構造と機能(歯の解剖学)					
科目責任者:武智正樹					
開設時期:1年 後期					
コマ数(授業コマ数+試験コマ数):16(講義・実習)+4(鑑別・筆記試験)					
授業形態:講義・実習					
試験:鑑別試験(10/13)、筆記試験(12/11)					
必要自習時間:20					
授業の目的、概要等					
ヒトの乳歯、永久歯、歯列弓や咬合の正常・異常形態を学び、歯の形態の特徴と機能の関係を修得し、臨床科目との関連性を理解する。 歯の英語用語を覚え、歯の形態や鑑別法についてわかりやすく説明する能力を身につける。					
授業の到達目標					
1)乳歯と永久歯の名称と、個々の歯の形態的特徴を説明できる。 2)歯を正しく鑑別できる。 3)歯列と咬合について説明できる。 4)永久歯の形態異常を説明できる 5)歯の英語用語を使用できる。					
上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目:「A-3-4 歯と歯周組織の構造と機能」「E-2-2 口腔領域の構造と機能」「E-3-1 歯と歯周組織の発生及び構造と機能」					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-4	9/28	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室2	総論・切歯犬歯	武智 正樹, 藤川 芳織
5-8	9/29	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室2	小臼歯・大臼歯	武智 正樹, 藤川 芳織
9-12	10/5	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室2	乳歯・歯の異常・歯列咬合	武智 正樹, 藤川 芳織
13-16	10/6	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室2	歯の鑑別練習	武智 正樹, 藤川 芳織
17-20	10/13	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室2, 歯学部基礎実習室	歯の鑑別試験	武智 正樹, 藤川 芳織
21-22	12/11	09:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	筆記試験	武智 正樹, 藤川 芳織
授業内容					

授業題目 ・総論 ・切歯、犬歯 ・小臼歯、大臼歯 ・乳歯、歯の異常、歯列咬合 ・歯の鑑別練習 ・歯の鑑別試験 ・筆記試験
成績評価の方法 鑑別試験と筆記試験の結果をもとに包括的評価をする。
準備学習等についての具体的な指示 歯学科の学生となり、初めてとなる歯に関する授業である。事前の予習は必要ないが、講義実習後の復習が非常に重要となる。特に歯の鑑別法は講義・実習の時間だけでは完全に理解することはできないため、必ず復習を行うこと。
試験の受験資格 講義・実習は全て出席しなければならない。 受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
教科書 歯の解剖学／藤田 恒太郎／原著.:金原出版, 1995 簡明歯の解剖学／三好, 作一郎, 1932-,三好作一郎 編著:医歯薬出版, 1996.6
参考書 口腔の解剖／高橋, 和人, 1934-,野坂, 洋一郎, 1941-,高橋和人, 野坂洋一郎 編:南山堂, 1990.7 歯の解剖学入門／赤井, 三千男, 1928-,赤井三千男 編:医歯薬出版, 1990.5
連絡先(メールアドレス) 武智 正樹:takechi.emb@tmd.ac.jp
オフィスアワー 武智 正樹:随時(事前に連絡すること)

時間割番号	021820					
科目名	研究入門Ⅰ			科目ID		
担当教員	笛木 賢治, 井関 祥子, 猪越 正直, 小野 卓史, 片桐 さやか[FUEKI Kenji, ISEKI Sachiko, INOKOSHI Masanao, ONO Takashi, KATAGIRI Sayaka]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	0.5	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
科目:研究入門Ⅰ 開設時期:1 年 後期 コマ数(授業コマ数+試験コマ数):14 + 0 授業形態:講義と討論(アクティブラーニング)						
主な講義場所 湯島キャンパス, 大岡山キャンパス(11 月 13 日)にて, 対面で講義を実施する.						
授業の目的、概要等 研究に関する導入編として, 研究者を講師として, 具体的な研究活動と経験に関する講義を行う. 講義を通じて研究者の生の声に触れることで, 研究とは何かについて知り, 研究の面白さと意義を理解することで, 研究に対するモチベーションを高め次年度以降の研究入門と研究実習への円滑な導入を図ることを目的とする.						
授業の到達目標 令和4 年度改訂版【コアカリ番号】 RE-02 研究の基礎となる科学的理論や方法論を身に付ける。 1)研究の活動内容と意義を説明できる. 2)研究の種類と特徴を説明できる. 3)研究を行う上で必要な知識、技能、適切な態度を説明できる. 4)研究結果を科学的に検証する方法を説明できる 5)研究を社会に還元する方法を説明できる. 6)研究を行う上で守る規範を説明できる.						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/9	13:30-14:15	7 号館 2 階歯学科講義室 3	イントロダクション	笛木 賢治	研究入門Ⅰの概要説明
2	10/9	14:25-15:10	7 号館 2 階歯学科講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 森山 啓司	矯正学の研究紹介
3	10/9	15:25-16:10	7 号館 2 階歯学科講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 加持 秀明	口腔外科の研究紹介
4	10/9	16:20-17:05	7 号館 2 階歯学科講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 井関 祥子	発生学の研究紹介
5	10/19	08:50-09:35	7 号館 2	「安全で適正な研究」に	笛木 賢治	基礎研究 ID の取

			階歯学科 講義室 3	係る研修会		得に必須 ※ 研 修会未受講者の み対象
6	10/19	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 猪越 正直	歯科材料学の研 究紹介
7	10/19	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 島田 康史	修復治療の研究 紹介
8	10/19	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室 3	研究講義	笛木 賢治, 青木 和広	骨の研究紹介
9-12	11/13	08:50-12:25		研究講義@大岡山キャンパス	笛木 賢治	理工学系研究者 による研究紹介
13	11/13	13:30-14:15		研究室見学@大岡山キャンパス	笛木 賢治	理工学系研究室 の見学

授業方法

対面での講義を行う。講義後には講師との質疑討論を行う。

授業内容

研究に関する導入編として、研究者を講師として、具体的な研究活動と経験に関する講義を行う。

成績評価の方法

授業の出席と授業後アンケートの回答状況で評価する。

成績評価の基準

授業後アンケートの記載内容により研究についての理解度を評価する。

準備学習等についての具体的な指示

事前学習として必要な資料は、授業2日前までに LMS に掲示するので、必ず閲覧すること。

試験の受験資格

試験は実施しない。

構成ユニット

01 研究入門Ⅰ

モジュールの単位判定

本科目の単位を取得するためには、01ユニットに合格していなければならない。科目の合格および単位判定に際しては、授業出席コマ数と授業後アンケートの回答を判断材料とする。

本科目の全授業時間数の2/3以上出席すること

参考書

理化学研究所 科学道 100 冊

<https://kagakudo100.jp/>

他科目との関連

研究入門Ⅰは、次学年以降に実施する研究入門Ⅱ、Ⅲおよび研究実習ⅠⅡ、Ⅲの導入編である。

履修上の注意事項

授業後のアンケートの提出がない場合には欠席となります。原則として補講は行いません。

備考

連絡先: 笛木賢治 kunfu.pro@tmd.ac.jp オフィスアワー(木:13:00-17:00)

大岡山キャンパスの授業については、前年度履修学生のアンケートで指摘をもとに、授業のボリュームを軽減して時間配分に余裕をもたせる予定。

時間割番号	021830				
科目名	研究入門Ⅰ α			科目ID	
担当教員	笛木 賢治, 井関 祥子, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直[FUEKI Kenji, ISEKI Sachiko, ONO Takashi, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目:研究入門Ⅰ α(自由科目) 開設時期:1 年 後期コマ数(授業コマ数+試験コマ数):40 + 0 授業形態:実習 ※ 履修希望者が多い場合には分野配属がかなわない場合があります。					
主な講義場所 配属先の研究室					
授業の目的、概要等 研究入門Ⅰの発展型として実習形式の授業を行う。受講を希望する学生を基礎系研究室に配属し、研究室のメンバーと直接に触れ合い活動を共にする場を提供する。これにより、研究の実際について体験的に理解を深め、3 年次での研究実習Ⅱでの分野配属での研究活動への円滑な導入を図る。					
授業の到達目標 令和4 年度改訂版【コアカリ番号】RE-02, 04 1)配属先の研究室の研究分野を説明できる。 2)配属先の研究者の研究活動内容を説明できる。 3)研究の実際について体験し理解したことを説明できる。					
授業方法 配属先の研究室に出向き、研究室のメンバーと直接に触れ合い活動を共にする。					
授業内容 配属した研究のテーマ					
成績評価の方法 授業(配属先分野)への出席回数と態度、レポートの内容で評価する。					
成績評価の基準 研究の理解と取り組みを評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 配属先分野の教員と相談すること					
試験の受験資格 試験は実施しない。					
構成ユニット 01 研究入門Ⅰα					
モジュールの単位判定 ・本科目の単位を取得するためには、01ユニットに合格していなければならない。科目の合格および単位判定に際しては、実習参加回数とレポートを判断材料とする。 ・本科目の全授業コマの 3/4 以上出席すること					
他科目との関連 次年度以降の研究入門、研究実習へ発展させる。					

履修上の注意事項

・自由科目ですので、原則として放課後等、自由時間に研究室に出向くことになります。

備考

・分野配属先の選定に際して、事前に面接を行います。

・配属先の研究室での活動した内容について報告会を開催する予定です。

連絡先: 笛木賢治 kunfu.rpro@tmd.ac.jp オフィスアワー(木:13:00-17:00)

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021840				
科目名	AI・データサイエンスのための数学			科目ID	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1)4-2)4-3)4-4)4-5)					
主な講義場所					
同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信					
授業の目的、概要等					
社会が高度にデジタル化され、様々な階層で大量のデータを AI を使って解析すると言ったことが盛んに行われるようになっている。これらの技術を使用するにあたって、その基礎理論をしっかりと理解しておくことが重要であるが、AI・データサイエンスの基礎理論を理解するためには、ある程度の数学的知識が必要である。					
この講義は数論など数学の基本から始めて、微積分や代数・行列など基礎数学について学び、AI やデータサイエンスを習得するために必要最低限の数理科学的基礎知識、つまり数理リテラシーを身につけることを目的としている。					
授業の到達目標					
数論や微積分、代数・行列などを理解し、AI・データサイエンスを習得するのに必要な数学的基礎知識を身につける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	9/17	10:45-12:25		中林 潤	
3-4	9/24	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
5-6	10/1	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
7-8	10/8	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
9-10	10/22	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
11-12	11/5	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
13-14	11/19	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
15-16	12/3	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
17-18	12/17	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
19-20	1/14	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
21-22	1/20	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
23-24	1/20	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
25-26	1/21	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
27-28	1/27	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
29-30	1/28	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	

授業方法 授業の前半にスライドを使って講義を行い、後半に課題の演習を行う。
授業内容 数論, 微積分, 変分, 代数, 行列, 確率, 統計
成績評価の方法 出席状況＋授業中の態度＋授業内課題(40%), 最終レポートの点数(60%)を勘案して総合的に評価する。期末試験の筆記試験は行わない。
成績評価の基準 「東京科学大学全学共通科目履修規則」に従う
準備学習等についての具体的な指示 特に準備学習は不要である。授業後半の課題をしっかりと行い、毎回の講義内容を身につけることが重要である。授業中に疑問が生じた場合、その場で質問して解消しておく。
試験の受験資格 講義全体の 2/3 以上に出席すること。出席は授業内の課題の提出で確認する。
構成ユニット 同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信
参考書 Python で体感!医療と AI はじめの一步 : 糖尿病・乳がん・残存歯のデータ、肺の X 線画像を使って機械学習・深層学習を学ぶ体験型入門書／宮野 悟, 1954-, 中林 潤, 木下 淳博, 歯学, 須藤 毅頭, 宮野悟 監修, 中林潤, 木下淳博, 須藤毅頭 編集:羊土社, 2024.9
他科目との関連 「医療と AI・ビッグデータ入門」の講義を理解し、実習を行うための基礎知識となる。
連絡先(メールアドレス) 中林 潤:nakabayashi.j0bcc@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 中林 潤:月曜～金曜 A.M.10:00 – P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	021850				
科目名	医療と AI・ビッグデータ入門			科目 ID	
担当教員	宮野 悟, 中林 潤, 高橋 邦彦, 坂内 英夫, 清水 秀幸, 朱 欣, 江花 有亮, 曹 日丹, 田畑 寛治, 木下 淳博, 須藤 毅顕, 平川 晃弘, 角 勇樹, 森田 久美子, 竹内 康雄, 土田 優美, 河原 智樹, 徳永 伸一, 中山 まどか, 原田 芽衣[MIYANO Satoru, NAKABAYASHI Jun, TAKAHASHI Kunihiro, BANNAI Hideo, SHIMIZU Hideyuki, SHU Kin, EBANA Yusuke, CAO Ridan, TABATA Kanji, KINOSHITA Atsuhiko, SUDO Takeaki, HIRAKAWA Akihiro, SUMI Yuki, MORITA Kumiko, TAKEUCHI Yasuo, TSUCHIDA Yumi, KAWAHARA Tomoki, TOKUNAGA Shinichi, NAKAYAMA Madoka, HARADA Mei]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
主な講義場所 同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信					
授業の目的、概要等 今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を習得する。 なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかという全体像の把握と、健康・医療分野での AI の活用事例を学ぶ。 将来的に保健医療分野における AI 技術研究を自ら進めるもしくは企業等の技術者と共同で AI 技術開発を推進する機会を得た際に必要となる素養を習得する。					
授業の到達目標 ・社会で起きている変化を理解し、数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を説明できる。 ・AI を活用した新しいビジネス/サービスを説明できる ・どんなデータが集められ、どう活用されているかを説明できる。 ・データ・AI を活用するために使われている技術を概説できる。 ・データ・AI を活用することによって、どのような価値が生まれているかを説明できる。 ・データ・AI 利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を説明できる。 ・データ利活用プロセスを体験し、データを解析して考察できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	10/8	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
3-4	10/15	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
5-6	10/22	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
7-8	10/29	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
9-10	11/5	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
11-12	11/12	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
13-14	11/19	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
15-16	11/26	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
17-18	12/3	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	

19-20	12/10	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
21-22	12/17	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
23-24	1/7	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
25-26	1/14	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
27-28	1/21	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	
29-30	1/27	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	宮野 悟	

授業方法

・前半は講義、後半は自分の PC で演習を行う。

授業内容

AI・数理・データサイエンスに関する概論講義、実習

社会におけるデータ・AI 利活用に関する講義:

社会に起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向など

データ解析実習:

データハンドリング、機械学習など

成績評価の方法

・本科目では試験を実施せず、各講義および演習後の課題によって成績評価を行う。すべての課題を期限内に提出すれば、80 点以上の成績を得ることができます。

・最終回終了時まで、以下の授業評価アンケートに回答していることを成績評価の前提とする。本科目では、学生の授業評価を基に、講義内容や演習内容の見直しを行う。

昨年度の授業評価にて「非同期動画視聴後に質問ができるチャットのようなものがあつたらよかったと感じた。」との意見があつたため、各回の課題には自由記述欄を設け、授業内容に関する質問や意見を随時受け付ける。また、「zoom の授業内だけではなく、提出課題などで挙げられた質問も取り扱っていただきたい」との意見があつたため、課題後に提出された質問には、次回演習内または補足資料にて回答する。

○医学科の学生:「M1 コース評価アンケート 2026」の「2026 年度「医療と AI・ビッグデータ入門」コース評価」

○保健衛生学科看護学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 看護 1 年「医療と AI・ビッグデータ入門」」

○保健衛生学科検査技術学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 検査 1 年「医療と AI・ビッグデータ入門」」

○歯学科の学生:「歯学科授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」

○口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生:「OH1-4 口腔保健衛生学専攻授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」

○口腔保健学科口腔保健工学専攻の学生:「OE1-4 口腔保健工学専攻授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」

成績評価の基準

・課題をすべて期限内に提出し、提出課題により本科目の到達目標を全て達成したと判断された場合は、科目の評点を 80 点以上とする。

・課題が提出されない場合は、当該授業を欠席として扱うのみならず、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。

・期限内に提出された課題、および期限後に再提出された課題は 100 点満点で、期限後に初めて提出された課題は 79 点満点で評価する。

・LMS 上で提出された課題のみを評価対象とし、個別メール等で送られた課題は原則受け付けない。

準備学習等についての具体的な指示	・LMS にあげている動画教材を活用して予習・復習に役立てること。
試験の受験資格	・試験は実施しないが、成績評価には講義の 2/3 の出席(課題提出)が必要である。 ・授業コマで課された課題の提出をもって、当該授業コマを出席とみなす。
教科書	Python で体感！ 医療と AI はじめの一步／宮野 悟,中林 潤,木下 淳博,須藤 毅頭,宮野 悟 監修,中林 潤 編集,木下 淳博 編集,須藤 毅頭 編集:羊土社
参考書	参考書 ・東京大学のデータサイエンティスト育成講座：Python で手を動かして学ぶデータ分析／中山浩太郎 監修,塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝 著,中山, 浩太郎,塚本, 邦尊,山田, 典一,大沢, 文孝, 1973-,:マイナビ出版, 2019 ・データサイエンスの基礎／濱田悦生著；狩野裕編,濱田, 悦生,狩野, 裕,講談社サイエンティフィク,:講談社, 2019 ・Python3 スキルアップ教科書/辻真吾、小林秀幸、鈴木庸氏、細川康博/技術評論社 ・みんなの Python 第4版/柴田淳/SB Creative ・新しい人工知能の教科書/多田智史、石井一夫/翔泳社 ・いちばんやさしいディープラーニング入門教室/谷岡広樹、廉鑫/ソーテック社 ・医療 AI とディープラーニングシリーズ 医用画像ディープラーニング入門 /藤田広志/オーム社 他科目との関連 ・情報処理、数学、統計学の授業内容と密接に関わる。 履修上の注意事項 ・グループ演習および課題提出を行うので、対面授業の選択学生を含めて参加者は PC 持参を原則とする。 備考 ・実習では 1 人 1 台のコンピュータを使用する。 ・事前に LMS の資料『事前資料』に目を通しておくこと
連絡先(メールアドレス)	中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp
オフィスアワー	中林 潤:月曜～金曜 A.M.10:00 – P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	021860				
科目名	アカデミック・リテラシー			科目ID	
担当教員	木谷 真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
【科目責任者】木谷 真紀子					
別表 1-1)言語を通じた人間の創造的営みを理解する					
別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する					
別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る					
別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める					
別表 1-7)人間の心への理解を高める					
別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる					
別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける					
主な講義場所					
国府台キャンパスにて対面で実施予定。					
授業の目的、概要等					
「アカデミック・リテラシー」は、調査力・思考力・表現力・コミュニケーション能力を総合的に向上させ、高校までの学習に対する受動的な意識から、大学生の主体的な学びの意識へと早期に転換させることを目指す取り組みである。「文章表現リテラシー」「情報活用リテラシー」「口頭表現リテラシー」の三種のリテラシーを育む内容で構成され、大学生活や今後に向け、調査、分析、考察、論理的文章の執筆、またアカデミックプレゼンテーションやディスカッションなどをする能力を身につけることを目標とする。					
三つに分けて記す。					
1情報活用リテラシー：レポートや論文などアカデミックな論理的文章の執筆や、発表のために必要で正確な情報を収集し、活用できるようになる。					
2文章表現リテラシー：複数の文献を用いて 3000 字以上の論理的文章が書けるようになる。					
3口頭表現リテラシー：PPT を用いたアカデミックプレゼンテーションができるようになる。					
授業の到達目標					
1情報活用リテラシー					
・研究倫理の観点から、情報収集のために必要なリテラシーを身につける					
・複数の情報を比較して、情報を精査する視点を得ることができるようになる					
2文章表現リテラシー					
・論理的に展開するための定型に則った文章を書けるようになる					
・自ら問いを立て、調査やデータに基づいた考察分析ができるようになる					
3口頭表現リテラシー					
・論理的に展開するための口頭表現を身につけることができる					
・定型に則った明解なプレゼンテーションができるようになる					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	9/17	08:50-10:30		木谷 真紀子	
3-4	9/24	08:50-10:30		木谷 真紀子	
5-6	10/1	08:50-10:30		木谷 真紀子	
7-8	10/15	08:50-10:30		木谷 真紀子	
9-10	10/29	08:50-10:30		木谷 真紀子	
11-12	11/12	08:50-10:30		木谷 真紀子	

13-14	11/26	08:50-10:30		木谷 真紀子
15-16	12/10	08:50-10:30		木谷 真紀子
17-18	1/7	08:50-10:30		木谷 真紀子
19-20	1/28	08:50-10:30		木谷 真紀子
授業方法 文章表現、情報活用、口頭表現の三種類の内容で構成し、担当者が講義を行う。受講者には、課題の執筆や口頭発表、ディスカッションなどを課す。アクティブラーニング形式で行うため、出席し、能動的な態度で臨むこと。				
授業内容 1. ガイダンス ・リテラシー授業、今後の課題について説明 ・自己紹介文執筆、提出(400字) ・文献検索と引用法について 2. 情報活用Ⅰ、文章表現Ⅰ 書評とディスカッションへの記事提出 優れた自己紹介文の紹介、メールの書き方、論理的文章の型や、レポートの描き方など説明。この授業で書く3000字のレポートについての説明。 3. 情報活用Ⅱ、口頭表現Ⅰ、文章表現Ⅱ ディスカッションで提出した記事について、他紙、全国紙、地方紙などを提出、記事内容の比較分析。情報倫理・研究倫理の要点についてZoom講義で説明。 ディスカッションについての説明の後、新聞記事に基づいたディスカッション 提出した記事から引用した論理的文章の提出。 4. 情報活用Ⅲ、文章表現Ⅲ 記事の比較分析、ディスカッションを通して考えたことなどを提出。書評記事を提出。 前回の文章の返却。それに基づいた説明。 5. 文章表現Ⅳ、口頭表現Ⅱ 第4回で提出した書評を引用し書籍を紹介する文章の提出。 アカデミックプレゼンテーションの型、スライドの作成方法など説明。 ブックトークについての説明。 6. 口頭表現Ⅲ 第4回で提出した書籍の、PPTを用いたブックトークの実施。 7. 文章表現Ⅴ、情報活用Ⅳ この授業で書く3000字のレポートについてのテーマの決定。 自分のテーマに基づく、アンケート、インタビューの実施について。 アンケート項目の検討と提出。				
成績評価の方法 情報活用の課題 20%、文章表現の課題 50%、口頭表現 20%、 期末コメントシート 10%				
成績評価の基準 (授業開始前)授業内容を把握し、学期を通して扱う書評と、ディスカッションのテーマとしたい記事を探し、初回授業で提出する。 (授業開始後)シラバスに則った課題を遅れることなく提出する。				
準備学習等についての具体的な指示 与えられた課題に取り組み、〆切を遅れず提出すること。				
試験の受験資格 授業内の課題を提出し、3分の2以上の授業に出席していること。				
教科書 授業内で指示。				

参考書

授業内で指示。

他科目との関連

グローバル教養総合講座「情報活用」。また本講義で学んだアカデミック・リテラシーを、他の授業でいかす。

履修上の注意事項

「アカデミック・リテラシー」そのものを身につける授業であるため、生成 AI などの使用が認められた場合は、不合格とする。 課題は遅れることなく提出すること。授業には能動的に臨むこと。

時間割番号	021870						
科目名	生命科学基礎				科目ID		
担当教員	奈良 雅之、伊藤 正則[NARA Masayuki, ITO Masanori]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
・曜日・時間: 不定期 ・対象学科: 歯学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 4ー2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける							
主な講義場所 生命科学基礎(生物学): 国府台キャンパス 生命科学基礎(化学): 湯島キャンパス							
授業の目的、概要等 (生物学) 生命現象を分子、細胞、個体レベルで理解し、得られた知識を根拠にして疾患の発症機構や治療法を論理的に説明できるようになる。 (化学) 前期の化学 D で勉強した原子・分子の構造論、化学熱力学をさらに深めることにより、生命現象を物理化学の理論に基づいて理解します。							
授業の到達目標 (生物学) ①生命現象を分子、細胞、個体レベルで理解できる。 ②①で得た知識を論理的に活用して疾患の発症機構や治療法を説明することができる。 (化学) ①相平衡、化学平衡、酸化還元平衡を熱力学の原理に基づいて理解できる。 ②反応速度論、酵素反応速度論について理解できる。 ③講義内容に関する演習問題や参考文献を自学自習で取り組むことができる。 授業で扱った関連した文献や演習問題を概ね理解できるレベルが GPA における「B」に相当する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/12	13:30-14:15	1 番教室	血液、代謝	血液の組成と機能を理解する。代表的な代謝過程を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
2	11/12	14:25-15:10	1 番教室	血液、代謝	血液の組成と機能を理解する。代表的な代謝過程を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
3	11/12	15:25-16:10	1 番教室	血液、代謝	血液の組成と機能を理解する。代表的な代謝過程を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
4	11/12	16:20-17:05	1 番教室	血液、代謝	血液の組成と機能を理解する。代表的な代謝過程を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
5	11/19	13:30-14:15	1 番教室	分子、細胞	生命現象を分子・細胞レベルで理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
6	11/19	14:25-15:10	1 番教室	分子、細胞	生命現象を分子・細胞レベルで理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
7	11/19	15:25-16:10	1 番教室	分子、細胞	生命現象を分子・細胞レベルで理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))
8	11/19	16:20-17:05	1 番教室	分子、細胞	生命現象を分子・細胞レベルで理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面(講義室))

9	11/26	13:30-14:15	1 番教室	内分泌	内分泌の仕組みを理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
10	11/26	14:25-15:10	1 番教室	内分泌	内分泌の仕組みを理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
11	11/26	15:25-16:10	1 番教室	内分泌	内分泌の仕組みを理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
12	11/26	16:20-17:05	1 番教室	内分泌	内分泌の仕組みを理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
13	12/3	13:30-14:15	1 番教室	神経	神経系の構造と機能を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
14	12/3	14:25-15:10	1 番教室	神経	神経系の構造と機能を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
15	12/3	15:25-16:10	1 番教室	神経	神経系の構造と機能を理解する。	伊藤 正則	授業形態(対面 (講義室))
16	1/12	08:50-09:35	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	熱力学の原理	熱力学の法則を確認した上で、ギブスエネルギー、熱力学的関係式を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
17	1/12	09:45-10:30	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	熱力学の原理	熱力学の法則を確認した上で、ギブスエネルギー、熱力学的関係式を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
18	1/12	10:45-11:30	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	熱力学の原理	熱力学の法則を確認した上で、ギブスエネルギー、熱力学的関係式を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
19	1/12	11:40-12:25	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	熱力学の原理	熱力学の法則を確認した上で、ギブスエネルギー、熱力学的関係式を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
20	1/15	13:30-14:15	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学ポテンシャル	開放系の熱力学について学び、相平衡、溶液の取り扱いについて理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
21	1/15	14:25-15:10	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学ポテンシャル	開放系の熱力学について学び、相平衡、溶液の取り扱いについて理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
22	1/15	15:25-16:10	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学ポテンシャル	開放系の熱力学について学び、相平衡、溶液の取り扱いについて理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
23	1/15	16:20-17:05	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学ポテンシャル	開放系の熱力学について学び、相平衡、溶液の取り扱いについて理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
24	1/19	08:50-09:35	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学平衡と酸化還元平衡	熱力学の平衡論への応用として、化学平衡、酸化還元平衡の原理を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
25	1/19	09:45-10:30	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学平衡と酸化還元平衡	熱力学の平衡論への応用として、化学平衡、酸化還元平衡の原理を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
26	1/19	10:45-11:30	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	化学平衡と酸化還元平衡	熱力学の平衡論への応用として、化学平衡、酸化還元平衡の原理を理解する。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
27	1/19	11:40-12:25	7 号館 2 階歯学科	化学平衡と酸化還元平衡	熱力学の平衡論への応用として、化学平衡、酸化還元平衡の原理を	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))

			講義室 3		理解する。		
28	1/22	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	化学反応速度論	反応速度論の基本事項を理解した上で、酵素反応の理解を深める。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
29	1/22	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	化学反応速度論	反応速度論の基本事項を理解した上で、酵素反応の理解を深める。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
30	1/22	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	化学反応速度論	反応速度論の基本事項を理解した上で、酵素反応の理解を深める。	奈良 雅之	授業形態(対面 (講義室))
31	2/5	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 2		試験		
32	2/5	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 2		試験		
33	2/5	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 2		試験		
34	2/16	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 2		追再試験		
35	2/16	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 2		追再試験		
36	2/16	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 2		追再試験		

授業方法

授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、課題問題の演習、答案の発表などアクティブラーニングを取り入れます。

成績評価の方法

評価:試験(定期試験)100%・レポート 0%・その他 0%

再評価:有 (再評価方法 再試験)

生物学 50%, 化学 50%のウエイトで評価する。

成績評価の基準

「東京科学大学全学共通科目履修規則 別表2」による

準備学習等についての具体的な指示

生命科学基礎(化学)については、前期の化学 D で学んだ化学熱力学を理解していることを前提としますので、熱力学の原理をよく復習してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上の出席

教科書

はじめの一步の生化学・分子生物学／前野正夫, 磯川桂太郎著,前野, 正夫,磯川, 桂太郎,:羊土社, 2016

人体の構造と機能／Marieb, Elaine Nicpon, 1936-,林正, 健二, 1946-,今本, 喜久子, 1943-,遠藤, 健司, 1962-,エレイ N.マリール 著,林正健二, 今本喜久子, 遠藤健司, 大島千佳, 小田切陽一, 武田多一, 武田裕子, 竹野ゆかり, 藤本悦子 訳:医学書院, 2015.3

化学熱力学／原田義也著,原田, 義也,:裳華房, 2012

参考書

Molecular biology of the cell／Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-:Garland

Science, Taylor and Francis Group, 2015

化学／奈良雅之:医歯薬出版, 2020

反応速度論／真船文隆, 廣川淳著, 真船, 文隆廣川, 淳:裳華房, 2017

備考

科目責任者 生物学 伊藤正則、化学 奈良雅之

科目全体の責任者: 奈良雅之

化学では問題演習を通じてアクティブラーニングを実施します。

前年度履修学生の科目評価での改善すべき指摘事項がなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021890a				
科目名	英語Ⅱ (A) Topical Discussion			科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5)					
授業の目的、概要等 A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.					
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。					

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2–15: Skills Instruction and Continuous Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Participation: 50%, Presentations: 30%, Discussion contributions: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。 既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

連絡先(メールアドレス)

WHITAKER SIMON:simon.w.56db@misct.ac.jp

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	021900				
科目名	英語Ⅱ：Global Connections			科目ID	
担当教員	PATRICK FOSS[PATRICK FOSS]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5)					
授業の目的、概要等 While it is important for medical professionals in Japan to study and understand issues specific to their own country, it is also crucial to remember that we are all part of a global community as well. Learning about problems or innovations in other contexts can lead to greater respect and empathy and may spark ideas concerning ways we can better help others or even ourselves. This course will examine societal and healthcare-related challenges being faced in various countries through the perspectives of people from those countries.					
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。					

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Orientation	Introduction to course	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom Meeting ID: 912 0511 2452 Passcode: 1MWeY9
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 1	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 2	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
6-7	10/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 3	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
8-9	10/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 4	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
10-11	10/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 5	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
12-13	11/4	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 6	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
14-15	11/11	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 7	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Active and thoughtful participation: 80% Group discussion: 20%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第 6 条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則とし							

てその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

連絡先(メールアドレス)

PATRICK FOSS:foss.p.d803@misct.ac.jp

オフィスアワー

PATRICK FOSS:毎週水曜日 PM.12:30-PM.1:00

管理研究棟 2階 フォス研究室

時間割番号	021910																												
科目名	英語Ⅱ: Conversation I(前期)			科目ID																									
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]																												
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1																								
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目																								
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5) 「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。同期型 Zoom で実施されます。																													
授業の目的、概要等 English II, “Conversation I” is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.																													
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。																													
授業計画 <table><tr><td>回</td><td>日付</td><td>時刻</td><td>講義室</td><td>授業題目</td><td>授業内容</td><td>担当教員</td><td>到達目標・学習方法・その他</td></tr><tr><td>1</td><td>4/1</td><td>13:30-14:15</td><td>遠隔授業 (同期型)</td><td>Class 1</td><td>Intro to Conversation I</td><td>REED JESS E RYAN</td><td>Active Learning, Seminar, Zoom</td></tr><tr><td>2-3</td><td>4/8</td><td>13:30-15:10</td><td>遠隔授業 (同期型)</td><td>Class 2, Class 3</td><td>Discussion/Presentation Practice</td><td>REED JESS E RYAN</td><td>Active Learning, Seminar,</td></tr></table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom	2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar,
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他																						
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom																						
2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar,																						

							Zoom
4-5	4/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	4/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	5/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	5/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	5/27	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar Zoom
14-15	6/3	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

備考

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021j80						
科目名	英語Ⅱ(C)Conversation I (前期)			科目ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
English II, "Conversation I" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/7	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	4/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom

4-5	4/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	4/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	5/12	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	5/19	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	5/26	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	6/2	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 40% Assignments: 20% Speaking Test I: 20% Speaking Test II: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021911						
科目名	英語Ⅱ ConversationⅠ（後期）			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5) 「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。同期型 Zoom で実施されます。							
授業の目的、概要等							
English Ⅱ, "ConversationⅠ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅠ	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	10/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	10/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	10/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	11/4	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	11/11	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

備考

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021j81						
科目名	英語Ⅱ (C)Conversation I (後期)			科目ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ, “ConversationⅠ” is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/15	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	9/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	10/6	13:30-15:10	遠隔授業	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning,

			(同期型)				Seminar, Zoom
6-7	10/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	10/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	10/27	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	11/10	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	11/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 40% Assignments: 20% Speaking Test I: 20% Speaking Test II: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021920																												
科目名	英語Ⅱ: ConversationⅡ(前期)			科目ID																									
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]																												
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1																								
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目																								
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5) 「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。同期型 Zoom で実施されます。																													
授業の目的、概要等 EnglishⅡ“ConversationⅡ”(Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.																													
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる 以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。																													
授業計画 <table><tr><td>回</td><td>日付</td><td>時刻</td><td>講義室</td><td>授業題目</td><td>授業内容</td><td>担当教員</td><td>到達目標・学習方法・その他</td></tr><tr><td>1</td><td>6/10</td><td>13:30-14:15</td><td>遠隔授業 (同期型)</td><td>Class 1</td><td>Intro to ConversationⅡ</td><td>REED JESS E RYAN</td><td>Active Learning, Seminar, Zoom</td></tr><tr><td>2-3</td><td>6/17</td><td>13:30-15:10</td><td>遠隔授業</td><td>Class 2, Class 3</td><td>Discussion/Presentation Practice</td><td>REED JESS</td><td>Active Learning,</td></tr></table>						回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom	2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS	Active Learning,
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他																						
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom																						
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS	Active Learning,																						

			(同期型)			E RYAN	Seminar, Zoom
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation II 評価: Attendance & Participation: 40% Homework: 10% English Interview: 25% Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

備考

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021j90						
科目名	英語Ⅱ (D)ConversationⅡ (前期)			科目 ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ "ConversationⅡ" (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる 以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/9	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	6/16	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar,

							Zoom
4-5	6/23	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	6/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	7/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	7/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	7/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	7/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation II 評価: Attendance & Participation: 40% Assignments: 20% Speaking Test I: 20% Speaking Test II: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

連絡先(メールアドレス)

猪熊 恵子 keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	021j91						
科目名	英語Ⅱ (D)ConversationⅡ (後期)			科目ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ “ConversationⅡ” (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/24	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	12/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar,

時間割番号	021ja0						
科目名	英語Ⅱ(E)(前期)				科目ID		
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4		単位数	1	
実務経験のある教員による授業					授業形態	メディア利用科目	
授業の目的、概要等							
English II (Academic Presentation) is a course for students who plan to complete English-language coursework in the future (e.g. at Science Tokyo or as 留学生 or 大学院生), or those who plan to conduct and present original research in their chosen field after graduation. The course will focus on basic presentation skills in English, basic presentation skills no matter the language, and cultural expectations for presenters in the English-speaking world. The course will also exercise other English skills, as well as build students' confidence communicating in English.							
授業の到達目標							
Learn basic presentation skills.							
Learn how to organize and present ideas clearly in English.							
Clearly communicate ideas in formalized presentations.							
以下の3点を満たすことが、B評価(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Course introduction and getting to know each other	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Basic presentation skills and impromptu speaking skills	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	4/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Impromptu presentations	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	4/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Referring to visual information	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	5/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Presenting with a script and slides	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	5/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Group presentation skills	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	5/27	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Group presentation preparation	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	6/3	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Group presentations	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法 Skills Instruction and Practice
授業内容 Week 1: Course introduction and getting to know each other Week 2: Basic presentation skills and impromptu speaking skills Week 3: Impromptu presentations Week 4: Referring to visual information Week 5: Presenting with a script and slides Week 6: Group presentation skills Week 7: Group presentation preparation Week 8: Group presentations Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.
成績評価の方法 評価: Homework: 30% Final presentation: 30% Participation: 40% 再評価: 再評価はありません。
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 Attendance and participation are both essential.
試験の受験資格 「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。
履修上の注意事項 教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。
備考 オフィスアワー 水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 連絡先(メールアドレス) christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
連絡先(メールアドレス) YOUNG DAVID CHRISTOP: christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー YOUNG DAVID CHRISTOP: YOUNG Davey: 水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	021ja1						
科目名	英語Ⅱ(E)(後期)			科目ID			
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次			単位数	1	
実務経験のある教員による授業					授業形態	メディア利用科目	
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ(Academic Presentation) is a course for students who plan to complete English-language coursework in the future (e.g. at Science Tokyo or as 留学生 or 大学院生), or those who plan to conduct and present original research in their chosen field after graduation. The course will focus on basic presentation skills in English, basic presentation skills no matter the language, and cultural expectations for presenters in the English-speaking world. The course will also exercise other English skills, as well as build students' confidence communicating in English.							
授業の到達目標							
Learn basic presentation skills.							
Learn how to organize and present ideas clearly in English.							
Clearly communicate ideas in formalized presentations.							
以下の3点を満たすことが、B評価(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/18	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Course introduction and getting to know each other	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	11/25	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Basic presentation skills and impromptu speaking skills	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	12/2	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Impromptu presentations	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	12/9	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Referring to visual information	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	12/16	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Presenting with a script and slides	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	1/6	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Group presentation skills	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	1/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Group presentation preparation	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	1/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Group presentations	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法 Skills Instruction and Practice
授業内容 Week 1: Course introduction and getting to know each other Week 2: Basic presentation skills and impromptu speaking skills Week 3: Impromptu presentations Week 4: Referring to visual information Week 5: Presenting with a script and slides Week 6: Group presentation skills Week 7: Group presentation preparation Week 8: Group presentations Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.
成績評価の方法 評価: Homework: 30% Final presentation: 30% Participation: 40% 再評価: 再評価はありません。
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 Attendance and participation are both essential.
試験の受験資格 「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。
履修上の注意事項 教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。
備考 オフィスアワー 水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 連絡先(メールアドレス) christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
連絡先(メールアドレス) YOUNG DAVID CHRISTOP: christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー YOUNG DAVID CHRISTOP: YOUNG Davey: 水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	021940					
科目名	International Course for Clinical Dentistry L1			科目ID		
担当教員	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 金澤 学, 駒田 亘, 水谷 幸嗣, 駒ヶ嶺 友梨子, 畑山 貴志, 保坂 啓一, Foxtan Richard[JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, MIZUTANI Koji, KOMAGAMINE Yuriko, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi, FOXTON RICHARD]					
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
授業形態:演習 科目コマ数:9 必要自習時間:18 時間						
主な講義場所 遠隔授業: オンデマンド教材とオンラインセッション(入室のための ID とパスワードは LMS に掲示)						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)は学部学生の臨床的な知識、文化的コンピテンシー、そしてコミュニケーションと論理的な問題解決の基本的な能力を高めることを目的としています。 ICCD は学生に国際的なネットワーキングに参加できるようにし、歯学分野における語彙と英語でのコミュニケーション能力を向上させ、さらに、歯学に関連した様々なアクティビティを通して臨床の専門的な知識を習得することを可能にします。 ディスカッションや、問題解決のためにチームで協働したり、論理的な議論を作り上げたりする機会を提供し、チームビルディングや批判的吟味、批判的思考能力、そして学際的な臨床の治療計画の基本を強化します。						
授業の到達目標 全てのレベル(L1-3)修了時、 1. 英語の理解能力を向上(C-2-2、C-7-1) 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上(C-2-2、C-7-1) 3. 仲間や教員と歯学分野のトピックについてディスカッション(CM-03、CM-05) 4. 文化的規範について学び、互いの文化について理解 (C-7-1、C-7-2) することができる。 コース修了時、 1. 文化的コンピテンシーの向上(C-7-1、C-7-2) 2. ネットワーキング能力の向上(CM-03、CM-05) 3. 問題解決能力の向上(PS、RE-03) 4. 英語で臨床歯学を学修すること(C-2-2、C-7-1) 5. コミュニケーション上の課題に対処するためのレジリエンス／柔軟性の獲得(PR-05、CM-03、C-6-3-5) 6. 情報を批判的かつ客観的に吟味する能力の向上(RE-05) 7. より明確な推論能力と論理的な説明を行う能力の獲得(CM-02) を期待できる。 *文中の()は「歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」の該当箇所を示す。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/16	17:15-18:00	遠隔授業 (同期型)	1. イントロ Zoom ID は 後日配布	・コースイントロダクション(日本語) ・本コースをプロデュースする臨床系教員との対談(日本語) ※前後で 9/30 プレゼンの打ち合わせがあります。	金澤 学, 關 奈央子, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 畑山

						貴志、保坂 啓一、金森 ゆうな	
2	9/16	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型)	2. プレゼン準備	・プレゼンテーション準備 ※LMS を適宜参照・使用すること。	金森 ゆうな	
3	9/28	09:00-09:50	オンデマ ンド	3. オンデマンド学習 配信期間 9/28(月) (9:00)- 10/2(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング 教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな	
4	9/30	18:10-19:50	遠隔授業 (同期型)	4. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・自己紹介・プレゼンテーション(国 や文化、大学の紹介) ・コミュニ ケーションアクティビティ	金森 ゆうな, 關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, Richard Foxton	
5	10/1	09:00-09:50	オンデマ ンド	5. 学習確認テスト 配 信期間 10/1(木) (9:00)-2(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな	
6-7	10/14	18:10-20:45	遠隔授業 (同期型)	6. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・講義 ・ディスカッションとプレゼ ンテーション(「高齢化に付随した 問題点と解決策」) ・フィードバッ ク(20:10-20:45)	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, Richa rd Foxton	
8	10/19	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	7. 復習教材提供 配信 期間 10/19(月)(9:00)- 23(金)(23:59)	・歯科英単語学習・リーディング教 材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな	
9	10/22	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	8. 学習確認テスト 配 信期間 10/22(木) (9:00)-23(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな	

授業内容

このコースは3つのレベルから構成されている。

歯学部国際歯科臨床教育コース レベル1(ICCD L1):歯学科2年生(D2)を対象とし、2回の国際交流の機会がある。1回目の交流では、異文化理解とディスカッションが含まれ、学生は文化的規範を探究し、それぞれの国で受け入れられている慣習を共有する。2回目の交流では、インタラクティブな講義に出席し、D2の知識に適した歯科トピックについて、問題解決、チームビルディング、ディスカッションスキルの実習を行う。このラーニングコースでは、歯科用語・知識習得のための「オンデマンド」課題実施の後、講義と少人数グループでのブレインストーミング・ディスカッションセッションが行われる。

レベル 2(L2)は 4 年生(D4)、レベル 3(L3)は 5 年生(D5)で履修する。
成績評価の方法 授業への参加、授業でのプレゼンテーションと論理的なスピーキング、LMS の課題修了が考慮される。 70%はオンラインセッション(オンライン 1 回目 10%、2 回目 30%(準備含む)、3 回目 30%)、30%はオンデマンド教材により評価される。
準備学習等についての具体的な指示 コース開始前に LMS にて提示する予定表により、各回で取り上げるテーマを再確認し、事前に当該テーマについて十分に予習した上で、授業に参加すること。
試験の受験資格 1. オンラインセッションへの出席と参加 定刻までにオンラインセッションに入室し、クラスでのディスカッションやアクティビティに参加すること。またそのための準備をしていくこと。 各日、予定されているオンラインセッション時間の 2/3 以上の出席をもって出席とみなす。 2. LMS コースに配信される課題 LMS の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。 当該課題を定められた期間内に履修すること。
参考書 :クインテッセンス出版
履修上の注意事項 1. このコースを選択する学生は、全てのオンラインセッションに出席し、必要な LMS のオンデマンド課題を全て修了し、プレゼンテーションを準備し、そして授業でのディスカッションとプレゼンテーションに参加すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(D4)レベル 3(D5)でもコースを受講することになる。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与される。
備考 オンライン授業においては AL(ペア/グループディスカッション、ケース演習など)を行う。 特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。 関奈央子 seki.n.03df(@)misctac.jp ※E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えてください。 ※オフィスアワー: 月曜日 15~16 時 MOROSS Janelle moross.j.1ee3(@)misctac.jp ※E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えてください。 ※オフィスアワー:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。
参照ホームページ 参考) https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/
連絡先(メールアドレス) 関 奈央子:seki.n.03df@m.isctac.jp
オフィスアワー 関 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

時間割番号	021950					
科目名	International Course for Clinical Dentistry L2			科目ID		
担当教員	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 水谷 幸嗣, Foxton Richard[JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, MIZUTANI Koji, FOXTON RICHARD]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
授業形態:演習 科目コマ数:11 必要自習時間:22 時間						
主な講義場所 遠隔授業 オンデマンド教材とオンラインセッション(入室のためのIDとパスワードはLMSに掲示)						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)は学部学生の臨床的な知識、文化的コンピテンシー、そしてコミュニケーションと論理的な問題解決の基本的な能力を高めることを目的としています。 ICCD は学生に国際的なネットワーキングに参加できるようにし、歯学分野における語彙と英語でのコミュニケーション能力を向上させ、さらに、歯学に関連した様々なアクティビティを通して臨床の専門的な知識を習得することを可能にします。 ディスカッションや、問題解決のためのチームでの協働、論理的な議論を構成する機会を提供し、チームビルディングや批判的吟味、批判的思考能力、そして学際的な臨床の治療計画の基本を強化します。						
授業の到達目標 全てのレベル(L1-3)修了時、 1. 英語の理解能力を向上(C-2-2、C-7-1) 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上(C-2-2、C-7-1) 3. 仲間や教員と歯学分野のトピックについてディスカッション(CM-03、CM-05) 4. 文化的規範について学び、互いの文化について理解 (C-7-1、C-7-2) することができる。 また、コース修了時、 1. 文化的コンピテンシーの向上(C-7-1、C-7-2) 2. ネットワーキング能力の向上(CM-03、CM-05) 3. 問題解決能力の向上(PS、RE-03) 4. 英語で臨床歯学を学修すること(C-2-2、C-7-1) 5. コミュニケーション上の課題に対処するためのレジリエンス／柔軟性の獲得(PR-05、CM-03、C-6-3-5) 6. 情報を批判的かつ客観的に吟味する能力の向上(RE-05) 7. より明確な推論能力と論理的な説明を行う能力の獲得(CM-02) を期待できる。 *文中の()は「歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」の該当箇所を示す。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	10/9	09:00-09:50	オンデマ ンド	1. オンデマンド学習 配信期間 10/9(金)(9:00)-16(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング 教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣, 金森 ゆう な
2	10/15	09:00-09:50	オンデマ	2. 学習確認テスト 配信	・学習確認テスト	關 奈央子, J

			ンド	期間 10/15(木) (9:00)~16(金)(23:59)		ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な	
3	10/19	09:00-09:50	オンデマ ンド	3. オンデマンド学習 配 信期間 10/19(月) (9:00)~ 23(金)(23:59)	・医療面接 ・インフォームドコン セント教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な	
4	10/22	09:00-09:50	オンデマ ンド	4. 学習確認テスト 配信 期間 10/22(木) (9:00)~23(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な	
5	10/23	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	5. 事前学習 各自で実 施	・LMSを参照し事前学習・準備をし て今後のオンライン授業に臨むこ と	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな	
6	10/28	17:15-18:00	遠隔授業 (同期型)	6. ライブ講義 Zoom ID は後日配布	・インタラクティブ講義(英語で医療 面接) 健康調査票等医療面接に 関する資料は開催1週間前の9:00 から配信(LMSにアップロード)	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS	
7	11/4	18:10-18:55	遠隔授業 (同期型)	7. ライブ講義 Zoom ID は後日配布	・講義「インフォームドコンセン ト」 ・ディスカッション ・プレゼ ンテーション	金森 ゆうな, Richard Fox ton	
8	11/6	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	8. 事前学習 各自で実 施	・LMSを参照し事前学習・準備をし て次週のオンライン授業に臨むこ と	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな	
9-11	11/11	18:10-20:45	遠隔授業 (同期型)	9. 国際交流セッション Zoom ID は後日配布	・講義 ・ディスカッションとプレ ゼンテーション(「歯周病と全身疾 患」) ・フィードバック (20:10-20:45) ・ライティング提 出	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 Richard F oxton	

授業方法

遠隔授業

オンデマンド教材とオンラインセッション

授業内容

このコースは3つのレベルから構成されている。

歯学部国際歯科臨床教育コース レベル1(ICCD L1):歯学科2年生(D2)を対象とした。

レベル2(L2)は、4年生(D4)を対象としており、歯科用語／知識習得のための「オンデマンド」コースワーク、患者とコミュニケーションをす

る上で必要な知識を習得するための 2 回のオンライン双方向セッション、双方向講義と小グループでのブレインストーミング／ディスカッションセッション、ライティングの練習により構成される国際交流の機会を含む。

レベル 3(L3)は 5 年生(D5)で履修する。

成績評価の方法

授業への参加、授業でのプレゼンテーションと論理的なスピーキング、課題への取り組み、LMS の課題修了が考慮される。
70%はオンラインセッション、30%はオンデマンド教材により評価される。

準備学習等についての具体的な指示

コース開始前に LMS にて提示する予定表により、各回で取り上げるテーマを再確認し、事前に当該テーマについて十分に予習した上で、授業に参加すること。

試験の受験資格

1. オンラインセッションへの出席と参加

定刻までにオンラインセッションに入室し、クラスでのディスカッションやアクティビティに参加すること。また、参加のための準備をしてくること。

各日、予定されているオンラインセッション時間の 2/3 以上の出席をもって出席とみなす。

2. LMS に配信される課題

LMS の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。当該課題を定められた期間内に履修すること。

参考書

:クインテッセンス出版

履修上の注意事項

1. このコースを選択する学生は、全てのオンラインセッションに出席し、必要な LMS のオンデマンド課題を全て修了し、プレゼンテーションを準備し、そして授業でのディスカッションとプレゼンテーション(課題)に参加すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(D4)レベル 3(D5)でもコースを受講することになる。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与される。

備考

オンライン授業においては AL(ペア／グループディスカッション、ケース演習など)を行う。

特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

關奈央子 seki.n.03df@misc.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:月曜日 15～16 時

MOROSS Janelle

jmoross.isc(@)tmd.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

連絡先(メールアドレス)

關 奈央子:seki.n.03df@m.isc.ac.jp

オフィスアワー

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 – 16:00 M&D タワー7階 教員室

時間割番号	021970				
科目名	人体の構造と機能(人体解剖学)			科目ID	
担当教員	武智 正樹, 藤川 芳織[TAKECHI Masaki, FUJIKAWA Kaoru]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	4
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目名:人体の構造と機能(人体解剖学) 科目責任者:武智正樹 開設時期:2年 前期 コマ数(授業コマ数+試験コマ数):80+4 授業形態:講義 必要自習時間:80 筆記試験:骨学・筋学(6/1)、内臓・中枢神経(9/7)					
主な講義場所 7号館1階歯学科講義室1					
授業の目的、概要等 1)解剖学用語を正確に使える。 2)人体の正常構造が系統的にどのように構成されているかを3次的に理解する。 3)人体を構成する骨・関節・筋の正常構造と機能を理解する。 4)人体を構成する各器官系(脈管系、末梢神経系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の正常構造と機能を理解する。 5)中枢神経系の構成を理解し、それらの構造と機能を修得する。					
授業の到達目標 骨学・筋学 1)人体の基本構造について解剖学用語を用いて説明できる。 2)系統を構成する臓器とそれらのつながりを説明できる。 3)人体を構成する骨と関節を体系的に分類し、その特徴について説明できる。 4)人体を構成する主要な筋の起始停止・走向・作用・神経支配を説明できる。 末梢神経系・循環器系・器官系(内臓) 1)末梢神経系の構成と基本機能を説明できる。 2)体性神経系と自律神経系の構造的、機能的相違を説明できる 3)脊髄と脊髄神経の構成と機能を説明できる。 4)脳神経の構成と機能を説明できる。 5)大循環、肺循環、胎児循環を説明できる。 6)三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。 7)心臓の構造と機能を説明できる。 8)主な動脈、静脈、リンパ管を説明できる。 9)頭頸部の血管とリンパ管の走行および血流路、リンパ流路を説明できる。 10)消化器系の構成を概説できる。 11)気道と肺の構成と構造を説明できる。 12)縦隔と胸膜を説明できる。 13)泌尿器の構成、位置と形態を説明できる。 14)生殖器の構成、位置と形態を説明できる。 15)内分泌器官を列挙し、構造と機能を説明できる。 16)口唇・口腔の基本構造が説明できる。 17)唾液腺の種類、構造が説明できる。 中枢神経系					

- 1) 中枢神経系の構成と基本機能を説明できる。
- 2) 脊髄の構造と機能を説明できる。
- 3) 脳幹の構造と機能を説明できる。
- 4) 脳と脳被膜の関係を説明できる。
- 5) 脳の外観と内部構造を、機能と関連づけて説明できる。
- 6) 脳の主な線維連絡と伝導路を説明できる。
- 7) 脳の血流と脳脊髄液の流れを説明できる。

上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目:「A-3 人体各器官の正常構造と機能」

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/7	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	イントロダクション		武智 正樹
2-4	4/7	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	筋学1		武智 正樹
5-8	4/9	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	筋学2		武智 正樹
9-12	4/10	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	筋学3		武智 正樹
13-16	4/13	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	筋学4		武智 正樹
17-20	4/14	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学1		武智 正樹
21-24	4/16	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学2		武智 正樹
25-28	4/17	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学3		武智 正樹
29-32	4/20	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学4		武智 正樹
33-36	4/21	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学5		武智 正樹
37-40	4/24	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	骨学6		武智 正樹
41-44	5/12	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	脈管系1		武智 正樹
45-48	5/14	13:30-17:05	7号館1 階歯学科	脈管系2		武智 正樹

			講義室 1			
49-52	5/15	13:30-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1	末梢神経系1		武智 正樹
53-56	5/18	08:50-12:25	7号館 1 階歯学科 講義室 1	末梢神経系2		武智 正樹
57-60	5/19	13:30-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1	末梢神経系3		武智 正樹
61-62	5/21	08:50-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	自律神経系		武智 正樹
63-64	5/21	10:45-12:25	7号館 3 階歯学科 講義室 4	消化器系1		武智 正樹
65-68	5/25	08:50-12:25	7号館 1 階歯学科 講義室 1	消化器系2		武智 正樹
69-72	5/26	08:50-12:25	7号館 1 階歯学科 講義室 1	消化器系3		武智 正樹
73-76	5/28	13:30-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1	頭頸部解剖の統合的理 解		武智 正樹
77-80	5/29	13:30-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1	中枢神経系		武智 正樹
81-82	6/1	09:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験(骨学・筋学)		武智 正樹
83-84	9/7	08:50-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験(内臓・中枢神経系)		武智 正樹

成績評価の方法

出席状況と筆記試験により、包括的に評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

骨学・筋学は人体の構造と機能を理解する上での基礎となります。各解剖学的構造が身体にとってどのような役割を果たしているかを理解することが重要です。そのためには事前の予習が必須です。特に骨学実習では、あらかじめ予習したことを実習で確認するようにし、効果的に実習を進めること。

末梢神経、循環器、器官系(内臓学)は人体の構造と機能を理解する上で必須です。解剖学的構造が身体にとってどのような役割を果たしているかを理解することが重要です。そのためには事前の予習が必須です。教科書中の講義範囲に相当する部分に眼を通しておくこと。また中枢神経系の講義実習は短時間で実施されるため、予習・復習をしっかりと行うこと。

試験の受験資格

全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

ただし骨学は実習を含むため、全て出席しなければならない。

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

教科書

口腔解剖学 = Oral anatomy／井出, 吉信, 前田, 健康, 天野, 修, 脇田, 稔, 山下, 靖雄, 井出吉信, 前田健康, 天野修編: 医歯薬出版, 2009.11

解剖学講義／伊藤, 隆,高野, 廣子,伊藤隆原著:南山堂, 2012.4.

グレイ解剖学／Drake, Richard Lee, 1950-,Vogl, Wayne,Mitchell, Adam W. M,塩田, 浩平, 1946-,瀬口, 春道, 1940-,大谷, 浩,Richard LDrake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell 原著,塩田浩平, 瀬口春道, 大谷浩, 杉本哲夫 訳:エルゼビア・ジャパン, 2011.8

参考書

グレイ解剖学アトラス／Richard LDrake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell, Richard M.Tibbitts, Paul E.Richardson 原著,塩田浩平 訳:エルゼビア・ジャパン, 2008

プロメテウス解剖学アトラス : 口腔・頭頸部／Eric W.Baker 著,坂井建雄, 天野修 監訳:医学書院, 2012

ネッター解剖学アトラス／Frank H. Netter 著,相磯貞和 訳:エルゼビア・ジャパン, 2011

ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス／Neil S. Norton 著,前田健康 監訳:医歯薬出版, 2012

プロメテウス解剖学アトラス／Anne M.Gilroy, Jonas Broman, Anna Josephson [編],Michael Schunke, Erik Schulte, Udo Schumacher [著],坂井建雄 監訳,市村浩一郎, 澤井直 訳:医学書院, 2011

口腔の解剖／高橋, 和人, 1934-,野坂, 洋一郎, 1941-,高橋和人, 野坂洋一郎 編:南山堂, 1990.7

口腔解剖学 1-5／上條雍彦:アナトーム社

連絡先(メールアドレス)

武智 正樹:takechi.emb@tmd.ac.jp

オフィスアワー

武智 正樹:随時(事前に連絡すること)

時間割番号	021980				
科目名	人体の構造と機能(人体解剖実習)			科目ID	
担当教員	武智 正樹, 藤川 芳織[TAKECHI Masaki, FUJIKAWA Kaoru]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	4
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目名:人体の構造と機能(人体解剖実習) ユニット責任者:武智正樹 開設時期:2年 前期 コマ数:138 (講義 48 コマ+実習 86 コマ+試験 4 コマ) 授業形態:講義+実習、講義は遠隔授業(非同期型)を含む 必要自習時間:60 試験:実習試験(7/28)、筆記試験(9/11)					
主な講義場所 解剖実習室、7号館1階歯学科講義室1					
授業の目的、概要等 これまでに修得した解剖学的、生理学的知識を基盤として、実際にご遺体に触れ全身の各臓器を剖出する作業を通して、人体の構造の形態学的特徴と機能的特性を修得する。また献体の意義と献体された故人の意思を十分に理解し、敬意を払って接しなければならない。実習を通して生命の尊厳に触れ、将来の歯科医師を目指す歯学生としての自覚と倫理観の養成につとめる。					
授業の到達目標 1)人体解剖によって剖出される人体の基本構造の解剖学的名称と相互の位置関係を述べることができる。 2)人体を構成する諸器官の位置・形態・機能・内部構造、それらの神経、血管支配、相互のつながりについて、剖出結果をもとに述べることができる。 3)実習班の班員と協力し合い、協調的に、規律ある倫理的態度を保って意欲的に実習を遂行できる。 4)実習中に生じた疑問点について自発的に調べ、説明することができる。 5)生命の尊厳について考え、その重要について自分の意見を述べることができる。 6)人体解剖実習が献体により支えられていることを実感し、感謝の念と使命感を抱き、実際に態度として示すことができる。					
上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目:「A-3 人体各器官の正常構造と機能」、「C-1-1 医の倫理と患者中心の視点」					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-2	6/5	13:30-15:10	7号館1階歯学科講義室1	オリエンテーション	武智 正樹
3-4	6/8	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	中枢神経	武智 正樹, 藤川 芳織
5-8	6/8	13:30-17:05	解剖学実習室	中枢神経	武智 正樹, 藤川 芳織
9-10	6/11	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	背臥位で剥皮	武智 正樹, 藤川 芳織
11-14	6/11	13:30-17:05	解剖学実習室	背臥位で剥皮	武智 正樹, 藤川 芳織
15-16	6/15	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	頸の中層	武智 正樹, 藤川 芳織
17-20	6/15	13:30-17:05	解剖学実	頸の中層	武智 正樹,

			習室		藤川 芳織
21-22	6/19	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	頸の中層	武智 正樹, 藤川 芳織
23-26	6/19	13:30-17:05	解剖学実 習室	頸の中層	武智 正樹, 藤川 芳織
27-28	6/22	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	背の皮下、上肢筋	武智 正樹, 藤川 芳織
29-32	6/22	13:30-17:05	解剖学実 習室	背の皮下、上肢筋	武智 正樹, 藤川 芳織
33-34	6/23	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	板状筋・後頭下筋	武智 正樹, 藤川 芳織
35-38	6/23	13:30-17:05	解剖学実 習室	板状筋・後頭下筋	武智 正樹, 藤川 芳織
39-40	6/25	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	頭部離断	武智 正樹, 藤川 芳織
41-44	6/25	13:30-17:05	解剖学実 習室	頭部離断	武智 正樹, 藤川 芳織
45-46	6/26	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	胸部の上肢筋	武智 正樹, 藤川 芳織
47-50	6/26	13:30-17:05	解剖学実 習室	胸部の上肢筋	武智 正樹, 藤川 芳織
51-52	6/29	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	頸から腋窩にかけて	武智 正樹, 藤川 芳織
53-56	6/29	13:30-17:05	解剖学実 習室	頸から腋窩にかけて	武智 正樹, 藤川 芳織
57-58	6/30	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	開胸、心臓の取出	武智 正樹, 藤川 芳織
59-62	6/30	13:30-17:05	解剖学実 習室	開胸、心臓の取出	武智 正樹, 藤川 芳織
63-64	7/2	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	腹腔、腸管・神経	武智 正樹, 藤川 芳織
65-68	7/2	13:30-17:05	解剖学実 習室	腹腔、腸管・神経	武智 正樹, 藤川 芳織
69-70	7/3	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	内臓一括摘出	武智 正樹, 藤川 芳織
71-74	7/3	13:30-17:05	解剖学実 習室	内臓一括摘出	武智 正樹, 藤川 芳織
75-76	7/7	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	腹膜後器官側	武智 正樹, 藤川 芳織

77-80	7/7	13:30-17:05	解剖学実習室	腹膜後器官側	武智 正樹, 藤川 芳織
81-82	7/9	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	骨盤内臓	武智 正樹, 藤川 芳織
83-86	7/9	13:30-17:05	解剖学実習室	骨盤内臓	武智 正樹, 藤川 芳織
87-88	7/10	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部1	武智 正樹, 藤川 芳織
89-92	7/10	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部1	武智 正樹, 藤川 芳織
93-94	7/13	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部2	武智 正樹, 藤川 芳織
95-98	7/13	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部2	武智 正樹, 藤川 芳織
99-100	7/16	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部3	武智 正樹, 藤川 芳織
101-104	7/16	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部3	武智 正樹, 藤川 芳織
105-106	7/17	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	頭頸部4	武智 正樹, 藤川 芳織
107-110	7/17	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部4	武智 正樹, 藤川 芳織
111-112	7/21	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部5	武智 正樹, 藤川 芳織
113-116	7/21	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部5	武智 正樹, 藤川 芳織
117-118	7/23	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部6	武智 正樹, 藤川 芳織
119-122	7/23	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部6	武智 正樹, 藤川 芳織
123-124	7/27	10:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	頭頸部7	武智 正樹, 藤川 芳織
125-128	7/27	13:30-17:05	解剖学実習室	頭頸部7	武智 正樹, 藤川 芳織
129-132	7/28	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	発表会	武智 正樹, 藤川 芳織
133-136	7/28	13:30-17:05	解剖学実習室	実習試験・納棺	武智 正樹, 藤川 芳織
137-138	9/11	08:50-10:30	7号館1 階歯学科	筆記試験	武智 正樹, 藤川 芳織

履修上の注意事項

実習前のオリエンテーションにて解剖実習における注意点を説明する。オリエンテーションにて承諾書を提出した上で翌週からの解剖実習に参加する。ご遺体に対して十分に敬意を払って接すること。実習室内にスマートフォンやカメラなどの電子機器の持ち込みを固く禁ずる。解剖実習に関することを SNS 等に記載した場合には、厳しい処分を行う。人体解剖実習器具は貸し出しを行う。メス刃、マスク、グローブ等の消耗品と実習着は各自準備が必要となる。準備については実習前に教員より指示をする。

連絡先(メールアドレス)

武智 正樹takechi.emb@tmd.ac.jp

オフィスアワー

武智 正樹随時(事前に連絡すること)

時間割番号	021990				
科目名	人体の構造と機能(組織学総論)			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 吉本 由紀, 大崎 珠理亜[ISEKI Sachiko, YOSHIMOTO Yuki, OSAKI Juria]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数は 21 コマ、講義 3 回、顕微鏡観察実習が 4 回。それぞれにつき 2/3 以上の出席がないものは履修が認められない。					
授業の目的、概要等 解剖学と組織学は「からだ」の構造・名称・機能を学ぶ学問であり、組織学は総論と各論に分けられる。総論は「からだ」を構成する最小構成単位である細胞をまず学び、四大組織(上皮組織・結合組織・神経・筋)の特徴と機能を順に学ぶ。講義を先行し、実習でその実際を観察して、理解を深めるものとする。					
授業の到達目標 ●概論● 1)組織標本作製法、観察法を説明できる。顕微鏡を正しく操作できる。 2)細胞内小器官、細胞内骨格、細胞接着装置など細胞の微細構造を説明できる。 3)人体の器官系、器官、組織、細胞の階層を説明できる。 4)4大組織(上皮、結合組織、神経、筋)を列挙し、説明できる。 ●上皮組織● 5)上皮組織を分類でき、それぞれの特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。 6)腺の概念と基本構造、種類を説明できる。また、切片を見て識別できる。 ●結合組織● 7)結合組織を分類でき、それぞれの特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。 8)結合組織の細胞間を満たす有形・無形成分を説明できる。 9)骨の組織構造を説明でき、形成と改造の仕組みを説明できる。また、切片を見て識別できる。 10)軟骨を分類でき、それぞれの特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。 11)血液の構成を説明でき、血球の分類と造血過程を説明できる。また、塗抹標本を見て識別できる。 ●神経組織● 12)中枢神経と末梢神経の構造の違いや細胞構成の違いを説明でき、マクロ的な構造と合わせて説明できる。 13)末梢神経の断面を見て、構造の階層を説明できる。また、切片を見て識別できる。 ●筋組織● 14)骨格筋、心筋、平滑筋を区分でき、それぞれの組織学的な特徴と機能を説明できる。 15)骨格筋の横断面を見て、構造の階層を説明できる。また、切片を見て識別できる。 16)骨格筋の縦断面を見て、筋原線維や横紋の構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。 17)骨格筋、心筋、平滑筋を支配する神経とその支配様式の違いを説明できる。 18)錐内筋、ゴルジの腱器官の構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。 上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目は以下の通り この中から、組織学総論の範疇になるものを具体的に上記に挙げている。 A-3-1 身体を構成する組織と器官 人体各器官の正常構造及び生理的機能とその機序を理解する。 学修目標: A-3-1-1 上皮組織と皮膚・粘膜系					

A-3-1-1-1 上皮組織の形態、機能及び分布を理解している。
 A-3-1-1-2 皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を理解している。
 A-3-1-1-3 腺の構造、分布及び分泌機構を理解している。
 A-3-1-2 支持組織と骨格系
 A-3-1-2-1 人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を理解している。
 A-3-1-2-2 結合(支持)組織の分類、構成する細胞と細胞間質を理解している。
 A-3-1-2-3 骨と軟骨の組織構造と構成する細胞を理解している。
 A-3-1-2-4 骨発生(軟骨内骨化と膜内骨化)、骨成長及びリモデリングの機序と調節機構を理解している。
 A-3-1-2-5 硬組織の成分と石灰化の機序を理解している。
 A-3-1-3 筋組織と筋系
 A-3-1-3-1 筋組織の分類と分布を理解している。
 A-3-1-3-2 筋細胞の構造と筋収縮の機序を理解している。
 A-3-1-3-3 全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/14	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮 細胞の構造 上皮		吉本 由紀
2	4/14	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮 細胞の構造 上皮		吉本 由紀
3	4/14	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮		吉本 由紀
4	4/15	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮実習		吉本 由紀
5	4/15	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮実習		吉本 由紀
6	4/15	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	細胞の構造 上皮実習		吉本 由紀
7	4/21	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織		井関 祥子
8	4/21	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織		井関 祥子
9	4/21	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織		井関 祥子
10	4/22	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織実習		吉本 由紀
11	4/22	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織実習		吉本 由紀

12	4/22	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	結合組織実習		吉本 由紀	
13	5/12	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 骨格筋		吉本 由紀	
14	5/12	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 骨格筋		吉本 由紀	
15	5/12	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 骨格筋		吉本 由紀	
16	5/13	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 実習		吉本 由紀	
17	5/13	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 実習		吉本 由紀	
18	5/13	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	神経系 実習		吉本 由紀	
19	5/20	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	骨格筋実習		吉本 由紀	
20	5/20	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	骨格筋実習		吉本 由紀	
21	5/20	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	骨格筋実習		吉本 由紀	
22	6/3	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		試験	吉本 由紀	
23	6/3	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		試験	吉本 由紀	
24	6/3	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		試験	吉本 由紀	
25	7/21	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		追再試験	吉本 由紀	
26	7/21	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		追再試験	吉本 由紀	

授業方法

講義はスライドを用いた講義形式。実習は顕微鏡で組織切片を観察し各組織構造のスケッチを行う。

授業内容

講義はスライドを用いた講義形式。授業内容に関しては初回の授業でアナウンスする。実習内容は実習書を配布し、その中に毎回の課

題を明記している。
成績評価の方法 ・組織実習の提出課題は、四段階で判定をする。 ・最終日に筆記試験を行う。筆記試験の中に実習試験も含めて行う。 ・最終判定は、実習課題、筆記試験の点数を一定比で合計し、100 点満点の 60 点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 1. 教科書は必ず購入し、予習・復習に活用すること。講義資料は授業の前に配布する。 2. 実習はバーチャルスライドおよび顕微鏡を使って組織切片を観察し、組織スケッチを描いて提出する。講義の復習をしておくことが実習の効率を高くする。 3. 試験については、図説と記述を中心とする。いずれも単語などの丸覚えでは通用しない。また、いかに要説できるか、簡単な図を描けるかも重要である。加えて組織切片を用いたスライド試験を行い、実習の課題をきちんと学んでいるかを問う。
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、3 分の 2 以上出席していなければならない。 ・スケッチを3分の2以上提出しなければ試験の受験資格はない。 ・受験資格を得られなかった学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。
教科書 組織学／阿部和厚, 牛木辰男 著:南山堂, 2019 標準組織学総論／藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,岩永, ひろみ,小林, 純子, 1977-,藤田尚男, 藤田恒夫 原著:医学書院, 2022.3 標準組織学総論／藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,岩永, ひろみ,小林, 純子, 1977-,藤田尚男, 藤田恒夫 原著:医学書院, 2022.3 バーチャルスライド 口腔組織学／田畑 純 著・文・その他,杉浦 真琴 著・文・その他:羊土社, 2021-11-19 講義を受けるにあたり、予め参考書やその他関連する成書の該当箇所を通読し、不明な点を明確にしておく。講義資料は Webclass 上で PDF ファイルにて配布するので留意すること。
参考書 標準組織学各論／藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,渡部, 剛, 医学,藤田尚男, 藤田恒夫 原著:医学書院, 2022.3 入門組織学／牛木, 辰男, 1957-,牛木辰男 著:南江堂, 2013.3 Molecular biology of the cell／Alberts, Bruce,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-,Bruce Alberts, Rebecca Heald, Alexander Johnson, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt :W.W. Norton & Company, [2022] バーチャルスライド組織学／駒崎, 伸二, 1952-,駒崎伸二 著:羊土社, 2020.4 Ross 組織学／Pawlina, Wojciech,内山, 安男, 1947-,相磯, 貞和, 1951-,Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳:南江堂, 2019.4 グレイ解剖学／Drake, Richard Lee, 1950-,Vogl, Wayne,Mitchell, Adam W. M,秋田, 恵一, 1962-,Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell [著],秋田恵一 訳:エルゼビア・ジャパン, 2019.9
履修上の注意事項 ＜実習の注意＞ ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12 色程度の色鉛筆を必ず持参すること。色鉛筆を使用していないスケッチの提出は認められない。なお、A4 のスケッチ用紙は配布するが、ケント紙などを持参して使用してもよい。 ・スケッチは期限内に提出し、採点后に返却され、この点数が最終評価に反映される。提出がない場合はその分の点数が得られない。 ・実習は最初の 10 分ほどで課題の説明や諸注意を行う。また、顕微鏡の準備やプレパラートの受取は授業前に行う。従って、実習日はその前に教室へ到着している必要がある。遅刻は厳禁。 ・実習は課題学習型(PBL)をとる。予習を少しでもしておく効率がよい。また、教科書は必携、アトラスなども必要である。 ・スケッチに時間がかかる場合は、適宜、実習時間を延長する。未完成のスケッチを提出することは認められない。 ＜追試・再試について＞ ・追試は不測の事態で中間試験や最終試験を受験できなかった者に対して、所定の要件を満たす場合にのみ実施する。成績判定等は、本試験と同等とする。 ・再試は中間試験や最終試験で合格と認められなかった者に対して行う。実施の有無は当該学生と話し合って決めるものとする(必ず行うものではない)。 ・再試の試験結果は、規定に従い、100 点満点の 60 点以上を合格とするが、最終成績は 60 点以上の点は与えられない(満点でも 60 点が最終成績となる)。
備考 組織実習では、課題学習型(PBL)もとりのれたアクティブラーニングを実施する。前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021a00				
科目名	人体の構造と機能(組織学各論)			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 吉本 由紀, 大崎 珠理亜[ISEKI Sachiko, YOSHIMOTO Yuki, OSAKI Juria]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数は 39 コマ、講義 6 回、顕微鏡観察実習が 7 回。それぞれにつき 2/3 以上の出席がないものは履修が認められない。					
授業の目的、概要等					
組織学各論は、組織学総論で学んだことを基本として、循環系、リンパ系、消化管系、内分泌系、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器を順にとりあげ、それぞれの組織と機能を学習し、各器官ごとの特徴や役割を学ぶ。学習は講義を先行し、実習でその実際を観察して、理解を深めるものとする。					
授業の到達目標					
●脈管系・リンパ系●					
1)動脈、静脈、毛細血管の組織と機能を説明できる。					
2)血管の構造を説明でき、固有細胞である内皮細胞について説明できる。また、切片を見て識別できる。					
3)リンパ管とリンパ節の組織構造を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
4)リンパ小節の構造と機能、活性化の有無による違いを説明できる。					
5)脾臓のふたつの構造(赤脾髄と白脾髄)の特徴と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
6)胸腺の組織構造の特徴と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
7)腸管リンパや体の各部にあるリンパを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
●消化器系・口腔●					
8)口腔、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの組織構造と機能の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
9)消化管の付属腺の組織構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
10)口腔粘膜を分類でき、それぞれの特徴と機能の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
11)舌乳頭の組織分類と機能、および味蕾の配置を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
12)唾液腺の分類と配置、漿液性と粘液性の違い、組織構造などを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
●消化器系(腸管)●					
13)絨毛と陰窩を識別でき、部位によって構成がどのように変化するかを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
14)粘膜筋板、乳糜管、腸腺、十二指腸腺などの構造を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
15)腸陰窩部の主細胞や副細胞などの特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
●消化器系(肝胆膵)●					
16)肝臓の組織構造と機能を説明できる。特に血液の流れと胆汁の流れの違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
17)胆嚢の組織構造の特徴を説明できる。					
18)膵臓の外分泌腺と内分泌腺の違いを組織構造と機能で説明できる。また、切片を見て識別できる。					
●呼吸器と皮膚●					
19)鼻腔～気管～肺の組織構造の変化と違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。					
20)細気管支の分類ができ、呼吸細気管支から肺胞管にいたる構造変化を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
21)肺胞を構成する血管と肺胞上皮の特徴と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
22)皮膚の組織構造(表皮、真皮、付属器官)の特徴と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
23)毛や爪にある母細胞や組織構造、成分、機能を説明できる。					
24)皮膚が持つ感覚器を列挙でき、それぞれの構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。					
25)皮膚にある色素細胞が作る色素胞の分配の仕組みを説明できる。					

●内分泌器●

- 26) 脳下垂体の前葉と後葉の組織構造の違い、由来の違いを説明できる。
- 27) 脳下垂体の中の血管の走行を説明でき、前葉ホルモンと後葉ホルモンの形成様式の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 28) 脳下垂体と関係する視床下部の構造と機能を説明できる。
- 29) 甲状腺と上皮小体の組織構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 30) 副腎皮質(3層)と髄質、それぞれの特徴と分泌物の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 31) 脾臓、消化器、生殖器などが持つ内分泌機能の説明ができる。また、切片を見て識別できる。

●泌尿器●

- 32) 腎臓の皮質と髄質の違い、尿管と尿管の走行について、構造と特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 33) 腎単位を構成する腎小体と尿細管の構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 34) 腎小体を構成する糸球体とボーマン嚢の構造と各部の機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 35) 原尿から尿ができるまでの過程と尿量調整の仕組みを説明できる。
- 36) 腎臓、尿管、膀胱、尿道などの組織構造の違いや特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。

●生殖器●

- 37) 精巣の内部構造、とりわけ、曲精細管の構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 38) 男性生殖器の付属腺、尿路、精路の構造や働きを説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 39) 卵巣の内部構造、とりわけ、卵胞の発生段階と構造変化を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 40) 子宮壁の性周期に伴う構造変化と内分泌系の制御を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 41) 男女の生殖器の様式の違いを説明できる。
- 42) 精子と卵の形成過程、受精のプロセスを説明できる。

●中枢神経●

- 43) 大脳皮質の構造(6層)と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 44) 脳幹にある多数の神経核の構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 45) 上衣細胞、脈絡叢細胞、脳脊髄液の形成プロセスなどを説明できる。また、切片を見て識別できる。
- 46) 小脳のプルキンエ細胞や周囲組織の説明ができる。また、切片を見て識別できる。

上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目は以下の通り
この中から、組織学各論の範疇になるものを具体的に上記に挙げている。

A-3-1-4 血液・リンパと循環器系

- A-3-1-4-1 心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を理解している。
- A-3-1-4-2 血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を理解している。
- A-3-1-4-3 血管の構造と神経支配を理解している。
- A-3-1-4-4 循環調節の機序を理解している。
- A-3-1-4-5 血液の構成要素と役割を理解している。
- A-3-1-4-6 リンパ管とリンパ系組織、器官の構造と機能を理解している。
- A-3-1-4-7 造血器官と造血機構を理解している。
- A-3-1-4-8 止血、血液凝固及び線溶の機序を理解している。

A-3-1-5 神経系

- A-3-1-5-1 末梢神経系の種類、走行及び支配領域を理解している。
- A-3-1-5-2 体性神経系の構造と機能を理解している。
- A-3-1-5-3 自律神経系(交感神経系と副交感神経系)の構造と機能を理解している。
- A-3-1-5-4 中枢神経系(高次脳、脳幹、脊髄)の構造と機能(運動機能、感覚機能、高次神経機能、自律機能)及び脳血管の分布を理解している。
- A-3-1-5-5 反射、半自動運動及び随意運動の発現と制御機構を理解している。

A-3-1-5-6 ニューロンとグリアの構造と機能を理解している。
 A-3-1-5-7 神経の活動電位の発生と伝導の機序を理解している。
 A-3-1-5-8 シナプス伝達の機序と神経伝達物質を理解している。
 A-3-1-6 感覚器系と感覚
 A-3-1-6-1 特殊感覚器の構造と特殊感覚を理解している。
 A-3-1-6-2 体性感覚の受容器の構造と機能を理解している。
 A-3-1-6-3 内臓感覚を理解している。
 A-3-1-6-4 疼痛の種類、発生機序及び制御機構を理解している。

A-3-1-7 消化器系

A-3-1-7-1 消化管の構造、機能及び調節機構を理解している。
 A-3-1-7-2 肝臓、胆嚢及び膵臓の構造と機能を理解している。

A-3-1-8 呼吸器系

A-3-1-8-1 気道系の構造と機能を理解している。
 A-3-1-8-2 肺の構造、機能、呼吸運動及びガス運搬の機序を理解している。

A-3-1-9 内分泌系とホメオスタシス

A-3-1-9-1 内分泌器官の構造と機能を理解している。
 A-3-1-9-2 ホルモンの種類、作用及び異常を理解している。
 A-3-1-9-3 恒常性維持と内分泌系、神経系の機能相関を理解している。
 A-3-1-9-4 体温調節の機序を理解している。
 A-3-1-9-5 摂食調節の機序を理解している。

A-3-1-9 内分泌系とホメオスタシス

A-3-1-9-1 内分泌器官の構造と機能を理解している。
 A-3-1-9-2 ホルモンの種類、作用及び異常を理解している。
 A-3-1-9-3 恒常性維持と内分泌系、神経系の機能相関を理解している。
 A-3-1-9-4 体温調節の機序を理解している。
 A-3-1-9-5 摂食調節の機序を理解している。

A-3-1-10 泌尿器系と体液・電解質調節

A-3-1-10-1 腎・尿路系の構造と機能を理解している。
 A-3-1-10-2 体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を理解している。
 A-3-1-10-3 水分と主な電解質の出納とその異常を理解している。

A-3-1-11 生殖器系

A-3-1-11-1 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-3	9/30	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	循環器とリンパ器官		吉本 由紀
4-6	10/6	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	循環器とリンパ器官 実 習		吉本 由紀
7-9	10/7	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	腸管と肝胆膵		吉本 由紀
10-12	10/15	08:50-11:30	7号館1 階歯学科	腸管と肝胆膵 実習		吉本 由紀

			講義室 1			
13-15	10/21	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	呼吸器・皮膚		吉本 由紀
16-18	10/26	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	呼吸器・皮膚 実習		吉本 由紀
19-21	10/27	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	内分泌器		吉本 由紀
22-24	10/28	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	内分泌器 実習		吉本 由紀
25-27	11/4	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	泌尿器, 生殖器		金井 正美
28-30	11/9	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	泌尿器, 生殖器 実習		吉本 由紀
31-33	11/10	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	中枢神経		吉本 由紀
34-36	11/16	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	中枢神経 実習		吉本 由紀
37-39	11/17	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1	感覚器 実習		吉本 由紀
40-42	12/14	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1		試験 試験 試験	吉本 由紀
43-45	2/15	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室 1		追再試験 追再試験 追再試験	吉本 由紀

授業方法

講義はスライドを用いた講義形式。実習は顕微鏡で組織切片を観察し各組織構造のスケッチを行う。

授業内容

講義はスライドを用いた講義形式。授業内容に関しては初回の授業でアナウンスする。実習内容は実習書を配布し、その中に毎回の課題を明記している。

成績評価の方法

- ・組織実習の提出課題は3~4段階で判定、採点される。点数は最終評価に含まれ、提出がない場合は得点がない。
- ・ユニット最終日に筆記試験を行う。筆記試験の中に実習試験も含めて行う。
- ・最終判定は、ミニテスト、実習課題、筆記試験の点数を一定比で合計し、100点満点の60点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

1. 教科書は必ず購入し、予習・復習に活用すること。また、講義資料 PDF も講義の1週間以上前には配布を開始するので、予習しておくこと。
2. 実習はバーチャルスライドおよび顕微鏡を使って組織切片を観察し、組織スケッチを描いて提出する。講義の復習をしておくことが実習の効率をぐっと高くする。

3. 試験については、図説と記述を中心とする。いずれも単語などの丸覚えでは通用しない。また、いかに要説できるか、簡単な図を描けるかも重要である。加えて組織切片を用いたスライド試験を行い、実習の課題をきちんと学んでいるかを問う。
試験の受験資格 ・全時間数のうち、講義は3分の2以上出席していなければならない。 ・スケッチを3分の2以上提出しなければ試験の受験資格が得られない。 ・受験資格を得られなかった学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。
教科書 組織学／阿部和厚、牛木辰男 著:南山堂 標準組織学各論／藤田、尚男、1928-2014、藤田、恒夫、1929-2012、岩永、敏彦、1954-、渡部、剛、医学、藤田尚男、藤田恒夫 原著:医学書院、2022.3 バーチャルスライド 口腔組織学／田畑 純 著・文・その他、杉浦 真琴 著・文・その他、田畑 純、杉浦 真琴、:羊土社、2021-11-19 口腔の発生と組織／田畑、純、1961-、田畑純 著:南山堂、2019.4
参考書 Ross 組織学／Pawlina, Wojciech、内山、安男、1947-、相磯、貞和、1951-、Wojciech Pawlina 著、内山安男、相磯貞和 監訳:南江堂、2019.4 入門組織学／牛木、辰男、1957-、牛木辰男 著:南江堂、2013.3 グレイ解剖学／Drake, Richard Lee、1950-、Vogl, Wayne、Mitchell, Adam W. M、秋田、恵一、1962-、Richard L、Drake, A、Wayne Vogl, Adam W.M、Mitchell [著]、秋田恵一 訳:エルゼビア・ジャパン、2019.9 Molecular biology of the cell／Alberts, Bruce、Wilson, John、1944-、Hunt, Tim、1943-、Bruce Alberts, Rebecca Heald, Alexander Johnson, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter、with problems by John Wilson, Tim Hunt:W.W. Norton & Company、[2022]
履修上の注意事項 ＜実習の注意＞ ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12 色程度の色鉛筆を必ず持参すること。色鉛筆を使用していないスケッチの提出は認められない。なお、A4 のスケッチ用紙は配布するが、ケント紙などを持参して使用してもよい。 ・スケッチは期限内に提出し、採点後に返却される。点数は最終判定に含まれるが、提出がない場合得点は得られない。 ・実習は最初の 10 分ほどで課題の説明や諸注意を行う。また、顕微鏡の準備やプレパラートの受取は授業前に行う。従って、実習日はその前に教室へ到着している必要がある。遅刻は厳禁。 ・実習は課題学習型(PBL)形式をとる。予習を少しでもしておく効率がよい。また、教科書は必携、アトラスなども必要である。 ・スケッチに時間がかかる場合は、適宜、実習時間を延長する。未完成のスケッチを提出することは認められない。 ＜追試・再試について＞ ・追試は不測の事態で中間試験や最終試験を受験できなかった者に対して、所定の要件を満たす場合にのみ実施する。成績判定等は、本試験と同等とする。 ・再試は中間試験や最終試験で合格と認められなかった者に対して行う。実施の有無は当該学生と話し合って決めるものとする(必ず行うものではない)。 ・再試の試験結果は、規定に従い、100 点満点の 60 点以上を合格とするが、最終成績は 60 点以上の点は与えられない(満点でも 60 点が最終成績となる)。 講義を受けるにあたり、予め参考書やその他関連する成書の該当箇所を通読し、不明な点を明確にしておく。講義資料は Webclass 上で PDF ファイルにて配布するので留意すること。
備考 組織実習では、課題学習型(PBL)もとりのいたアクティブラーニングを実施する。講義を受けるにあたり、予め参考書やその他関連する成書の該当箇所を通読し、不明な点を明確にしておく。 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。
連絡先(メールアドレス) 井関 祥子:s.iseki.emb@tmd.ac.jp
オフィスアワー 井関 祥子:随時 (必ず事前に連絡すること)

時間割番号	021a10				
科目名	人体の構造と機能(人体の発生)			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 吉本 由紀, 大崎 珠理亜[ISEKI Sachiko, YOSHIMOTO Yuki, OSAKI Juria]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数は 24 コマ、講義 9 回、2/3 以上の出席がないものは履修が認められない。					
授業の目的、概要等					
人体の発生とその基本的な仕組みについて、初期発生から器官形成の過程を理解する。また、口腔・頭蓋・顎顔面領域の形成について概要を把握する。					
授業の到達目標					
1) 人体における初期発生の仕組みを説明できる。					
2) 減数分裂の過程を概説できる。					
3) 生殖細胞(卵子・精子)形成および受精の過程を概説できる。					
4) 三胚葉の形成過程と分子機構を説明できる。					
5) 三胚葉から形成される器官の器官形成の概要を説明できる。					
6) 各器官の器官形成に重要な分子を列挙し、分子機構を説明できる。					
7) 胚性幹細胞と組織幹細胞を区別し、その特徴を説明できる。					
8) 発生過程の異常と先天異常との関連を概説できる。					
9) 頭部神経堤細胞の役割について説明できる。					
10) 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。					
11) 特殊感覚器と中枢神経系の発生を概説できる。					
上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目は以下の通り					
この中から、人体の発生の範疇になるものを具体的に上記に挙げている。					
A-2 人体各器官の発生、成長、老化と死					
人体各器官の発生、成長、老化と死に関する生命現象の基本を理解する。					
A-2-1 個体の発生					
個体と器官の発生過程を理解する。					
学修目標:					
A-2-1-1 出生までにみられる胚形成の全体像を理解している。					
A-2-1-2 鰓弓の形成過程を理解している。					
A-2-1-3 体幹、四肢の骨格と筋の形成過程を理解している。					
A-2-1-4 消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系、循環器系及び神経系の各器官の形成過程を理解している。					
A-2-1-5 多能性幹細胞と基本的な発生学的技術を理解している。					
A-2-1-6 個体の発生段階と先天異常について理解している。					
A-2-1-7 全身の形成異常の発生機構を理解している。					
A-2-2 個体の成長発育					
個体と器官の成長過程を理解する。					
学修目標:					
A-2-2-1 人体の形態的な成長と機能的な発達を理解している。					
A-2-2-2 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を理解している。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員

1	10/16	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
2	10/16	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
3	10/26	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
4	10/26	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
5	10/26	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
6	10/26	16:20-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
7	10/27	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
8	10/27	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
9	11/6	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
10	11/6	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
11	11/9	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
12	11/9	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
13	11/9	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
14	11/12	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
15	11/12	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
16	11/19	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
17	11/19	14:25-15:10	7号館1		井関 祥子,

			階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜 吉本 由紀
18	11/26	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
19	11/26	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
20	11/26	15:25-16:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
21	11/30	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
22	11/30	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
23	11/30	15:25-16:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
24	11/30	16:20-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
25	12/17	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験	井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
26	12/17	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験	井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
27	2/17	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1	(追再試験)	井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
28	2/17	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1	(追再試験)	井関 祥子, 大崎 珠理亜 吉本 由紀
授業方法 講義はスライドを用いた講義形式。					
授業内容 授業内容に関しては初回の授業でアナウンスする。					
成績評価の方法 ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。 ・ユニット最終日に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。					
成績評価の基準 ・最終判定は、レポート、小テスト、筆記試験の点数を一定比で合計し、合格ラインに満たす点数を定め、それを超える点数を合格とする。					
準備学習等についての具体的な指示 講義を受けるにあたり、予め参考書やその他関連する成書の該当箇所を通読し、不明な点を明確にしておく。講義資料は Webclass 上で PDF ファイルにて配布するので留意すること。					
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、3 分の 2 以上出席していなければならない。					

・スケッチを 3 分の 2 以上提出していなければ、試験の受験資格は得られない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
モジュールの単位判定 ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。 ・小テスト、筆記試験結果、実習レポートをもとに包括的評価を行う。
参考書 ラングマン人体発生学／Sadler, Thomas W. 安田, 峯生, 1937-, T.W. サドラー 著 安田峯生 訳: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010.9 ラーセン最新人体発生学／Larsen, William James, 相川, 英三, William J. Larsen 著 ; 相川英三 [ほか] 監訳: 西村書店, 2003.5 ムーア人体発生学／Moore, Keith L, Persaud, T. V. N, Torchia, Mark G, 大谷, 浩, Keith L Moore, T.V.N. Persaud, Mark G. Torchia 原著, 大谷浩 監訳: 医歯薬出版, [2022.3] ギルバート発生生物学 第2版
備考 本講義の一部では口頭試問等のアクティブラーニングを行う。 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。
連絡先(メールアドレス) 井関 祥子 s.iseki.emb@tmd.ac.jp
オフィスアワー 井関 祥子 随時 (必ず事前に連絡すること)

時間割番号	021a20				
科目名	学年混合セミナー I			科目 ID	
担当教員	關 奈央子, 金森 ゆうな, 鶴田 潤[SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, TSURUTA Jiyun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数:8 必要自習時間:16 授業形態:講義・演習					
本学学生については, 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。					
本科目では, 学年混合セミナーⅡ・Ⅲと併せ, 多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業方法として, 少人数演習を行う予定であり, 1 学年 15 程度のグループに分け, 各グループでは, それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義, プロジェクト実施活動・調査演習, 報告会を行うこととし, それぞれの学習活動においては, 学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し, 学年混合協働での協働に関わる資質, 国際的視座の獲得を期待する。 (屋根瓦教育)					
主な講義場所 (対面) TBA (非同期) 講義室あるいは自宅 (グループ作業) 講義室・図書館ほか					
授業の目的、概要等 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。 多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業の到達目標 1)患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応するための基本を習得する。 2)地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。 3)日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。 4)世界の保健・医療問題の概要を理解している。 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版) 資質 SO:社会における医療の役割の理解(Medicine in Society) 健康の代弁者として公衆衛生の向上を図るために、医療は社会の一部であるという自覚を持ち、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野も持ちながら、公正な歯科医療を提供していく。 SO-01 社会保障(社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生)を理解している。 SO-02 予防と健康増進を理解している。 SO-03 医療、保健、福祉、介護とそれを取り巻く社会環境を理解している。 SO-04 社会や地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。 SO-05 地域医療において、各種制度に基づく歯科医師の果たす役割を自覚し、行動できる。					

SO-06 災害時における歯科医師の役割を理解している。

SO-07 国際社会における多様性を理解し、地域医療でも活躍できる。

学習目標

C-7 国際的素養の獲得と国際医療への貢献

国際社会の一員として地域医療の多様性を把握し、国際医療に貢献するために、国際貢献や国際協力に求められる基本的な能力を身に付ける。

学修目標:

C-7-1 患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応できる。

C-7-2 地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。

C-7-3 日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。

C-7-4 世界の保健・医療問題の概要を理解している。

C-7-5 パンデミックにおける院内感染対策、国際的な感染症対策と日本の防疫対策を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/23	08:50-09:35	7号館1階歯学科講義室1	第1回 講義 導入	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 講義
2	4/23	09:45-10:30	7号館1階歯学科講義室1	第2回 グループワーク	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題作成
3	5/7	08:50-09:35	7号館1階歯学科講義室1	第3回 グループワーク	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 LMSで動画視聴・課題実施
4	5/7	09:45-10:30	7号館1階歯学科講義室1	第4回 グループワーク	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題作成 グループワーク(AL)
5	5/14	08:50-09:35	7号館1階歯学科講義室1	第5回 非同期授業 講義	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題実施 グループワーク(AL)
6	5/14	09:45-10:30	7号館1階歯学科講義室1	第6回 非同期授業 講義	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題実施 グループワーク(AL)
7	5/28	08:50-09:35	7号館1階歯学科講義室1	第7回 演習	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題実施 グループワーク(AL)、プレゼンテーション
8	5/28	09:45-10:30	7号館1階歯学科講義室1	第8回 演習	金森 ゆうな、鶴田 潤、關 奈央子	到達目標1～4 課題実施 グループワーク(AL)、プレゼンテーション

授業方法

授業方法として、少人数演習を行う予定であり、1 学年 15 程度のグループに分け、それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義、プロジェクト

ト実施活動・調査演習、報告会を行うこととし、それぞれの学習活動においては、学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し、学年混合協働での協働に関わる資質、国際的視座の獲得を期待する。
授業内容 国際社会における歯科医療保健のあり方を検討するために、 ・世界各国の歯科医療について調査する。
成績評価の方法 ルーブリックに基づいた評価を実施し、総合的に評価を行う。 形成的に成長を期待する項目も含む。 ・グループによる提出課題(プロダクト評価) 60% ・毎回授業後の振り返り自己評価・課題 20% ・個人レポート評価 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
成績評価の基準 ルーブリックに基づいた評価を実施し、総合的に評価を行う。 形成的に成長を期待する項目も含む。 ・グループによる提出課題(プロダクト評価) 60% ・ピア評価(他者評価) 20% ・毎回授業後の振り返り自己評価 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 関連する情報については、Web サイトで多くの情報を入手することができる。 そのため、確度の高い情報を自ら読み解き、それぞれの課題に対する学習を進めてくることを勧める。
試験の受験資格 ・グループ活動が主となるため、授業への出席は基本とする。 ・全ての課題提出が確認された場合に、成績評価対象とする。
モジュールの単位判定 本科目成績が合格の場合、単位を付与する。
他科目との関連 学年混合セミナーⅡ(3年次) 学年混合セミナーⅢ(4年次)と年次進行する。
履修上の注意事項 授業に出席・参加し、必要な課題を実施すること。
備考 授業においてはAL(グループディスカッションなど)を行う。 前年度からの変更点 2・3・4年混合の授業となる。 担当者： 関 奈央子 seki.n.03df@misctac.jp 鶴田 潤 tsurutaja664@misctac.jp 金森 ゆうな kanamori.y.38b1@misctac.jp
連絡先(メールアドレス) 関 奈央子:seki.n.03df@misctac.jp 金森 ゆうな:kanamori.o.pe@tmd.ac.jp

鶴田 潤tsurutaja664@misctac.jp

オフィスアワー

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

鶴田 潤:訪問の事前にメールで連絡してください。

時間割番号	021a30				
科目名	医療と AI・ビッグデータ応用			科目 ID	
担当教員	中林 潤, 須藤 毅頭, 清水 秀幸, 曹 日丹, 田畑 寛治, 原田 芽衣[NAKABAYASHI Jun, SUDO Takeaki, SHIMIZU Hideyuki, CAO Ridan, TABATA Kanji, HARADA Mei]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
主な講義場所					
同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信					
授業の目的、概要等					
AI・データサイエンスの価値を理解し、将来的に医療分野におけるデータサイエンスを活用した AI 技術研究を自らあるいは企業などと共同で推進するために必要な実践力を身に付ける					
授業の到達目標					
・データサイエンスを実践するために必要な数理モデルの理論的背景を概説できる					
・データサイエンスを実践するために必要な AI モデルの理論的背景を概説できる					
・データサイエンスを実践するために必要な前処理を行うことができる					
・AI の基本的なモデルのプログラムを作成できる					
・教師あり機械学習と教師なし機械学習の違いを説明できる					
・機械学習を活用し、課題解決につなげることができる					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1	4/23	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
2	4/23	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
3	5/7	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
4	5/7	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
5	5/14	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
6	5/14	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
7	5/28	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
8	5/28	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
9	6/18	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
10	6/18	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
11	7/2	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
12	7/2	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
13	7/9	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
14	7/9	11:40-12:25	遠隔授業	須藤 毅頭	

			(同期型)		
15	7/16	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
16	7/16	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	須藤 毅頭	
授業方法 ・講義とPythonを用いたプログラミング演習をZoomで行う。 ・本科目の1コマでグループ演習を予定している。グループ演習は、非同期で受講する場合は1人で取り組んでも差し支えない。 ・授業の録画はできる限り授業当日のうちにアップロードし、1週間の学習期間を確実に確保できるようにする。 ・昨年の学生の授業評価を踏まえ、今年度は使用するデータセットをMNIST, Fashion-MNIST, CIFAR10から、医療に特化したMEDMNISTに変更する。					
授業内容 ・AI総論(医療AI、最新AI技術) ・データの読み込み ・データセットの理解と加工(繰り返し、one-hot encoding) ・多層パーセプトロン①(重み、ニューロン、活性化関数) ・多層パーセプトロン②(学習、エポック、正解率と誤差) ・多層パーセプトロン③(損失関数、誤差逆伝播法) ・畳み込みニューラルネットワーク①(畳み込み、プーリング) ・その他応用演習					
成績評価の方法 ・本科目は課題の提出をもって出席とみなす。 ・課題が提出されない場合は、当該授業を欠席したことから扱うのみならず、当該課題は0点として評価するので注意すること。 ・最終回の課題提出期限までに、以下の授業評価アンケートに回答していることを最終評価の条件とする。 ○医学科の学生:「M2コース評価アンケート2026」の「2026年度「医療とAI・ビッグデータ応用」コース評価」 ○保健衛生学科看護学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 看護2年「医療とAI・ビッグデータ応用」」 ○保健衛生学科検査技術学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 検査2年「医療とAI・ビッグデータ応用」」 ○歯学科の学生:「歯学科授業評価アンケートコース2026」の「科目評価 医療とAI・ビッグデータ応用」 ○口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生:「OH1-4 口腔保健衛生学専攻授業評価アンケートコース2026」の「科目評価 医療とAI・ビッグデータ応用」 ○口腔保健学科口腔保健工学専攻の学生:「OE1-4 口腔保健工学専攻授業評価アンケートコース2026」の「科目評価 医療とAI・ビッグデータ応用」					
成績評価の基準 本科目では試験を実施せず、各講義および演習後の課題によって成績評価を行う。 すべての課題を期限内に提出した場合は、基本的に80点以上となる。 (但し白紙もしくは白紙相当の課題内容は対象外とする)					
準備学習等についての具体的な指示 ・LMSにあげている動画教材を活用して予習・復習に役立てること。					
試験の受験資格 ・試験は実施しないが、成績評価には講義の2/3の出席(課題提出)が必要である。 ・授業コマで課された課題の提出をもって、当該授業コマを出席とみなす。					
参考書 ・Pythonで体感! 医療とAI はじめの一步/宮野 悟, 中林 潤, 木下 淳博, 須藤 毅頭:羊土社 ・東京大学のデータサイエンティスト育成講座:Pythonで手を動かして学ぶデータ分析/中山浩太郎 監修,塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝 著,中山, 浩太郎,塚本, 邦尊,山田, 典一,大沢, 文孝, 1973-,.:マイナビ出版, 2019					

- ・データサイエンスの基礎／濱田悦生著；狩野裕編、濱田, 悦生, 狩野, 裕, 講談社サイエンティフィク,: 講談社, 2019
- ・Python3 スキルアップ教科書/辻真吾、小林秀幸、鈴木庸氏、細川康博/技術評論社
- ・新しい人工知能の教科書/多田智史、石井一夫/翔泳社
- ・医療 AI とディープラーニングシリーズ 医用画像ディープラーニング入門 / 藤田広志/オーム社
- ・Python によるディープラーニング Francois Chollet/マイナビ出版

備考

課題は LMS 上での提出のみを採点対象とし、授業担当者への個別メールでの対応は原則受け付けない

連絡先(メールアドレス)

中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

須藤 毅頭:t-sudo.ioe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

須藤 毅頭:毎週火曜日 AM.11:00-PM.5:00 湯島キャンパス 1 号館東 3 階 教育メディア開発学分野研究室

時間割番号	021a40				
科目名	人体の構造と機能(神経系の機能Ⅰ)			科目ID	
担当教員	上阪 直史[UESAKA Naofumi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
モジュール名 人体の構造と機能 ユニットコマ数 14 必要自習時間 6 時間 授業形態 対面あるいはビデオ講義 ユニット番号 No.6 授業形式「講義」「演習」					
主な講義場所 対面あるいはビデオ講義					
授業の目的、概要等 脳・神経系の基本の作動原理と運動制御の神経機構を理解する。					
授業の到達目標 以下の項目について基本的な説明ができるようになることを目標とする。 ・神経細胞の構造と、および静止膜電位と活動電位の発生機序について ・興奮の伝導の機序について ・シナプスの構造と興奮性・抑制性伝達の仕組みについて ・骨格筋の構造と収縮のメカニズムについて ・筋の伸張受容器の構造と機能について ・脊髄・脳幹における反射					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	4/10	08:50-09:35	7号館1階歯学科講義室1		
2	4/10	09:45-10:30	7号館1階歯学科講義室1		
3	4/10	10:45-11:30	7号館1階歯学科講義室1		
4	4/17	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)		
5	4/17	09:45-10:30	遠隔授業(非同期型)		
6	4/17	10:45-11:30	遠隔授業(非同期型)		
7	4/24	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)		

			型)	
8	4/24	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
9	4/24	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
10	5/11	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
11	5/11	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
12	5/11	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
13	6/5	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	試験
14	6/5	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	試験
15	7/22	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	追再試験
授業方法 講義を行う。講義中に講義に関する問題を出し、結果を学生にフィードバックする。 また課題を出し、その課題に対して学生にフィードバックする。 (アクティブラーニング)				
成績評価の方法 ・ユニット終了後に筆記試験を行なう。筆記試験は、合計得点が60点以上を合格とする。 ・不合格者には、1回の再試験の機会を与える。再試験も合計得点が60点以上を合格とする。				
準備学習等についての具体的な指示 参考書として挙げた書籍を利用して事前学習を行うとよい。				
試験の受験資格 ・レポートの全提出 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。				
参考書 シンプル生理学 第7版／貴邑富久子, 根来英雄 共著, 貴邑, 富久子, 1939-, 根来, 英雄, 1934-, : 南江堂, 2016 標準生理学 第8版／小澤澗司, 福田康一郎 監修, 本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫, 河合康明, 黒澤美枝子, 鯉淵典之, 伊佐正 編集, 小澤, 澗司, 福田, 康一郎, 本間, 研一, 1946-, 大森, 治紀, 1950-, 大橋, 俊夫, 1949-, : 医学書院, 2014 生理学テキスト 第8版／大地陸男 著, 大地, 陸男, 1939-, : 文光堂, 2017 基礎歯科生理学 第6版／森本俊文, 山田好秋, ニノ宮裕三, 岩田幸一 編, 森本, 俊文, 1939-, 山田, 好秋, 1949-, ニノ宮, 裕三, : 医歯薬出版, 2014 カンデル神経科学 第5版／Eric R. Kandel [ほか] 編, Kandel, Eric R., Schwartz, James H. (James Harris), 1932-, Jessell, Thomas M., Siegelbaum, Steven, Hudspeth, A. James, Mack, Sarah, 金澤, 一郎(1941-), 宮下, 保司, 岡野, 栄之, 和田, 圭司, 加藤, 総夫(医学), 入来, 篤史(1957-), 藤田, 一郎(1956-), 伊佐, 正, 定藤, 規弘, 大隅, 典子(1960-), 笠: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014-04				
備考				

連絡先

上阪直史 :uesaka.cnb@tmd.ac.jp

授業内容に関する質問はいつでもしてください

時間割番号	021a50				
科目名	人体の構造と機能(神経系の機能Ⅱ)			科目ID	
担当教員	上阪 直史[UESAKA Naofumi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名 人体の構造と機能 ユニットコマ数 11 必要自習時間 6 時間 授業形態 対面あるいはビデオ講義 ユニット番号 No.7 授業形式「講義」「演習」					
主な講義場所 対面					
授業の目的、概要等 ・感覚(化学感覚、聴覚、前庭覚)、および脳の高次機能について理解する。					
授業の到達目標 以下の項目について基本的な説明ができるようになることを目標とする。 ・化学感覚(味覚、嗅覚)、視覚、聴覚、前庭覚について、刺激受容のしくみと基本的な伝導路、中枢における情報処理について理解する。 ・記憶、学習、睡眠といった高次脳機能や脳疾患を理解する。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	5/15	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		
2	5/15	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
3	5/15	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
4	5/19	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		
5	5/19	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
6	5/19	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
7	5/22	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		
8	5/22	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
9	5/22	10:45-11:30	7号館1 階歯学科		

			講義室 1	
10	6/2	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験
11	6/2	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験
12	7/24	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	追再試験

授業方法

講義を行う。講義中に講義に関する問題を出し、結果を学生にフィードバックする。

また課題を出し、その課題に対して学生にフィードバックする。

(アクティブラーニング)

成績評価の方法

・ユニット終了後に筆記試験を行なう。筆記試験は、合計得点が 60 点以上を合格とする。

・不合格者には、1 回の再試験の機会を与える。再試験も合計得点が 60 点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

参考書として挙げた書籍を利用して事前学習を行うとよい。

試験の受験資格

・レポートの全提出

・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

参考書

標準生理学 第8版／小澤 静司, 福田康一郎 監修, 本間 研一, 大森 治紀, 大橋 俊夫, 河合 康明, 黒澤 美枝子, 鯉淵 典之, 伊佐 正 編集, 小澤 静司, 福田 康一郎, 本間 研一, 1946-, 大森 治紀, 1950-, 大橋 俊夫, 1949-, 医学書院, 2014

基礎歯科生理学 第 6 版／森本 俊文, 山田 好秋, 二ノ宮 裕三, 岩田 幸一 編, 森本 俊文, 1939-, 山田 好秋, 1949-, 二ノ宮 裕三, 医歯薬出版, 2014

カandel 神経科学 第 5 版／Eric R. Kandel [ほか] 編, Kandel, Eric R., Schwartz, James H. (James Harris), 1932-, Jessell, Thomas M., Siegelbaum, Steven, Hudspeth, A. James, Mack, Sarah, 金澤 一郎 (1941-), 宮下 保司, 岡野 栄之, 和田 圭司, 加藤 総夫 (医学), 入来 篤史 (1957-), 藤田 一郎 (1956-), 伊佐 正, 定藤 規弘, 大隅 典子 (1960-), 笠: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014-04

神経科学テキスト: 脳と行動 第 4 版／カールソン / [著], 泰羅 雅登 / 監訳, 中村 克樹 / 監訳, Carlson, Neil R. 泰羅 || 雅登, 中村: 丸善出版, 2013

備考

連絡先

上阪直史: uesaka.cnb@tmd.ac.jp

オフィスアワー

上阪直史: 随時(メールでの事前連絡後)

時間割番号	021a60				
科目名	人体の構造と機能(生命維持のための生体機能)			科目ID	
担当教員	上阪 直史[UESAKA Naofumi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
モジュール名 人体の構造と機能 ユニットコマ数 23 必要自習時間 10 時間 授業形態 対面あるいはビデオ講義 ユニット番号 No.8 授業形式「講義」「演習」					
主な講義場所 対面あるいはビデオ講義					
授業の目的、概要等 ・循環、呼吸、消化・吸収など、おもに無意識下で行なわれ、個体の生命維持に関与する機能を植物性機能と呼ぶ。この植物性機能に関する基礎的な知識を修得する。					
授業の到達目標 以下の項目について基本的な説明ができるようになることを目標とする。 ・血液の成分とその機能について ・自律神経の構造とその機能について ・循環の機能について ・呼吸の機能について ・消化・吸収のしくみについて ・代謝と体温調節のしくみについて ・腎での排泄機能と体液調節のしくみについて ・内分泌の機能について ・生殖器官の構造と機能について					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	10/1	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)		
2	10/1	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)		
3	10/1	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)		
4	10/1	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)		
5	10/2	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)		
6	10/2	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)		

7	10/2	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
8	10/2	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	
9	10/8	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
10	10/8	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
11	10/8	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
12	10/16	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
13	10/16	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
14	10/16	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
15	10/23	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
16	10/23	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
17	10/23	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
18	10/30	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
19	10/30	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
20	10/30	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	
21	11/6	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1	
22	11/6	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1	
23	11/6	10:45-11:30	7号館1	

			階歯学科 講義室 1		
24	12/15	09:45-10:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	試験	
授業方法 講義を行う。講義中に講義に関する問題を出し、結果を学生にフィードバックする。 また課題を出し、その課題に対して学生にフィードバックする。 (アクティブラーニング)					
成績評価の方法 ・ユニット終了後に筆記試験を行なう。筆記試験は、合計得点が 60 点以上を合格とする。 ・不合格者には、1 回の再試験の機会を与える。再試験も合計得点が 60 点以上を合格とする。					
準備学習等についての具体的な指示 参考書として挙げた書籍を利用して事前学習を行うとよい。					
試験の受験資格 ・レポートの全提出 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。					
参考書 シンプル生理学 第 7 版／貴邑富久子, 根来英雄 共著, 貴邑, 富久子, 1939-, 根来, 英雄, 1934-, : 南江堂, 2016 標準生理学 第 8 版／小澤瀬司, 福田康一郎 監修, 本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫, 河合康明, 黒澤美枝子, 鯉淵典之, 伊佐正 編集, 小澤, 瀬司, 福田, 康一郎, 本間, 研一, 1946-, 大森, 治紀, 1950-, 大橋, 俊夫, 1949-, : 医学書院, 2014 生理学テキスト 第 8 版／大地陸男 著, 大地, 陸男, 1939-, : 文光堂, 2017 基礎歯科生理学 第 6 版／森本俊文, 山田好秋, 二ノ宮裕三, 岩田幸一 編, 森本, 俊文, 1939-, 山田, 好秋, 1949-, 二ノ宮, 裕三, : 医歯薬出版, 2014 ギャノン生理学 第 25 版／Kim E.Barrett, Susan M.Barman, Scott Boitano, Heddwen L.Brooks [著], 岡田泰伸 監修, 佐久間康夫, 岡村康司 監訳, Barrett, Kim E., Barman, Susan M., Boitano, Scott, 岡田, 泰伸, 佐久間, 康夫, 1946-, 岡村, 康司, : 丸善出版, 2017					
備考 連絡先 上阪直史 : uesaka.cnb@tmd.ac.jp オフィスアワー 上阪直史 : 随時(メールでの事前連絡後)					

時間割番号	021a70				
科目名	人体の構造と機能(口腔生理)			科目ID	
担当教員	上阪 直史[UESAKA Naofumi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
モジュール名:人体の構造と機能 ユニット責任者:上阪直史 ユニット番号: 13 開設時期:2年 後期 コマ数(授業コマ数+試験コマ数):12 (必要自習時間 6 時間) 授業形態:講義 Zoom or ビデオ講義 授業形式「講義」「演習」					
授業の目的、概要等					
口腔領域の感覚と運動にかかわる神経機構を理解する					
授業の到達目標					
1) 口腔領域の体性感覚機能が説明できる。 2) 正常な咀嚼の神経制御機構について説明できる。 3) 正常な嚥下の神経制御機構について説明できる。 4) 唾液の分泌機構について説明できる。 5) 口腔領域の痛みについて説明できる。 6) 味覚の神経メカニズムを説明できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室		
1	10/1	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)		
2	10/1	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)		
3	10/1	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)		
4	10/2	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)		
5	10/2	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)		
6	10/2	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)		
7	10/8	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)		
8	10/8	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)		

9	10/8	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)
10	10/9	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1
11	10/9	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1
12	10/9	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1
13	12/18	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1
授業方法 講義を行う。講義中に講義に関する問題を出し、結果を学生にフィードバックする。 また課題を出し、その課題に対して学生にフィードバックする。 (アクティブラーニング)			
成績評価の方法 ユニットの最終講義時間に筆記試験を行い包括的評価を行う。 尚、この試験の合計得点が6割に達したものを合格とする。 不合格者には、1回の再試験の機会を与える。 尚、再試験も合計得点が6割に達したものを合格とする。			
準備学習等についての具体的な指示			
試験の受験資格 ・レポートの全提出 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。			
教科書 基礎歯科生理学／森本俊文, 山田好秋, ニノ宮裕三, 岩田幸一 編:医歯薬出版, 2014 ビジュアル口腔生理学／浅沼直和, 和泉博之, 稲永清敏, 杉谷博士, 外崎肇一, 西川泰央, 丸井隆之, 宗形芳英 執筆:学建書院, 2008			
参考書 ・「標準生理学」医学書院 (神経系に限らない一般的な生理学教科書) ・「生理学テキスト」文光堂 (生理学全般の教科書)			
備考 質問等 上阪直史: uesaka.cnb@tmd.ac.jp			

時間割番号	021a80				
科目名	人体の構造と機能(生理学実習)			科目ID	
担当教員	上阪 直史[UESAKA Naofumi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名 人体の構造と機能 ユニットコマ数 18 必要自習時間 6 時間 授業形態 対面実習とZoom あるいはビデオ講義 ユニット番号 No.11 授業形式「講義」「実習」					
主な講義場所 1 号館西 歯学部基礎実習室 1 号館西 歯学部基礎小実習室					
授業の目的、概要等 ・人体機能のうち、おもに感覚や運動に関する機能について、実験を通して実体験し、感覚や運動のメカニズムを理解する。					
授業の到達目標 ・味覚に関する実験を行ない、味覚の諸特性に関するメカニズムを解釈・説明できる。 ・咀嚼時の筋電や咬合力を観察・記録し、咀嚼機能について解釈・説明できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室		
1	10/23	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)		
2	10/23	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)		
3	10/23	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)		
4	10/29	13:30-14:15	歯学部基礎実習室		
5	10/29	14:25-15:10	歯学部基礎実習室		
6	10/29	15:25-16:10	歯学部基礎実習室		
7	10/30	13:30-14:15	歯学部基礎実習室		
8	10/30	14:25-15:10	歯学部基礎実習室		
9	10/30	15:25-16:10	歯学部基礎実習室		
10	11/5	13:30-14:15	歯学部基礎実習室		
11	11/5	14:25-15:10	歯学部基礎実習室		

12	11/5	15:25-16:10	歯学部基礎実習室
13	11/13	13:30-14:15	歯学部基礎実習室
14	11/13	14:25-15:10	歯学部基礎実習室
15	11/13	15:25-16:10	歯学部基礎実習室
16	11/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)
17	11/16	14:25-15:10	遠隔授業 (同期型)
18	11/16	15:25-16:10	遠隔授業 (同期型)
授業方法 実習内容の説明(非同期) 対面での実習 実習内容の発表(オンライン) 3から4班に分ける。班分けはWebclass にアップする実習書を参照ください。			
成績評価の方法 ・項目ごとに個人レポート、またはグループレポートを作成する。 ・実習内容を各班が発表(オンライン)する。 ・実習期間中は、毎回の開始時と終了時に出席をとる。 ・やむを得ない理由で欠席・遅刻する場合は、教務係に理由書、診断書、遅延証明等を提出するとともに、担当教員に連絡すること。 ・全日出席は出席点を1とし、無断遅刻・早退の場合は0.5を減じる。 ・全日程の出席で3分の2未満は単位認定されない。 ・最終評価は、出席点、レポート点、および授業態度をもとに総合的に判断する。			
準備学習等についての具体的な指示 ・実習は、データをとること、被験者となること、データを解析すること、および結果を解釈してまとめること、等の作業を自ら参加して行なうことが重要なので、かならず出席しましょう。 ・この実習前に行なわれる講義や実習(人体解剖実習、人体の構造Ⅱ、神経系の機能Ⅰ・Ⅱなど)と関連が深いので、これらの講義・実習の内容を復習しておきましょう。			
教科書 ・教科書は特に指定しない。 ・適宜、資料を配布する。			
履修上の注意事項 不要な私語は慎むこと。			
備考 連絡先 上阪直史:uesaka.cnb@tmd.ac.jp 田中大介: dhtanaka.mphm@tmd.ac.jp 中井彩加: jqs2849@tmd.ac.jp オフィスアワー メールで日時を確認すること 授業内容に関する質問は授業中、あるいは実習直後に聞くこと			

時間割番号	021a90				
科目名	人体の構造と機能(口腔組織学)			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 吉本 由紀, 大崎 珠理亜[ISEKI Sachiko, YOSHIMOTO Yuki, OSAKI Juria]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数は 26 コマ、講義 7 回、顕微鏡観察実習が 3 回。それぞれにつき 2/3 以上の出席がないものは履修が認められない。					
授業の目的、概要等 口腔組織・発生学では、組織学の総論と各論で学んだことを基本として、歯と歯周組織の組織構造およびそれらの発生の仕組みを学び、顎顔面の発達に伴う咀嚼器の発生と発達、経年的変化の過程を包括的に修得する。学習は講義を先行し、実習でその実際を観察して、理解を深めるものとする。					
授業の到達目標 ●口腔と歯の発生● 1)歯の定義と構成を説明できる。 2)ヒトの発生、とりわけ、頭頸部、顔面の発生を説明できる。 3)咽頭弓(鰓弓)の発生と上顎・下顎の形成様式を説明できる。 4)口腔の開通、一次口蓋、二次口蓋の説明ができる。また、切片を見て識別できる。 5)歯冠形成期(肥厚期、蕾状期、帽状期、鐘状期初期、鐘状期後期)の各段階での歯胚の構造を説明できる。また、切片を見て識別できる。 6)歯根形成期(形成開始期、伸長期、萌出期、咬合開始期、機能期)の分類と構造の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。 7)歯の萌出と交換の仕組みを説明できる。 8)ヘルトヴィツヒの上皮鞘とマラッセの上皮遺残について、構造と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。 ●エナメル質形成と象牙質形成● 9)象牙質形成とエナメル質形成について、形成細胞、石灰化様式などと合わせて説明できる。また、切片を見て識別できる。 10)象牙質とエナメル質に見られるさまざまな成長線や構造について説明ができる。また、切片を見て識別できる。 11)歯髄の組織構造、特徴、役割、経年変化を説明できる。また、切片を見て識別できる。 12)歯髄の中の神経の走行と、歯の痛みについて説明できる。 ●セメント質形成と歯周組織● 13)セメント質の部位による違い(有細胞と無細胞)を説明できる。また、切片を見て識別できる。 14)加齢変化を部位ごとに分けて列挙でき説明できる。また、切片を見て識別できる。 15)歯根膜とりわけ主線維とシャープー線維の構造と機能、形成様式などを説明できる。 16)歯肉溝上皮や付着上皮の特徴と機能を説明できる。 17)歯肉線維について説明できる。 ●口腔諸器官● 18)口腔粘膜を分類でき、それぞれの特徴と機能を説明できる。また、切片を見て識別できる。 19)口唇や舌の組織構造を説明できる。また、切片を見て識別できる。 20)咽頭弓器官や舌の発生を説明できる。 21)唾液腺の組織構造と機能の違いを説明できる。また、切片を見て識別できる。 22)顎関節の構造と機能の特徴を説明できる。また、切片を見て識別できる。					

上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目は以下の通り
この中から、口腔組織学の範疇になるものを具体的に上記に挙げている。

A-3-3 口腔領域の構造と機能

口腔及び隣接領域の基本的な構造と機能を理解する。

学修目標:

A-3-3-1 口腔の区分と構成要素を理解している。

A-3-3-2 口唇と口腔粘膜の分類と特徴を理解している。

A-3-3-3 舌の構造と機能を理解している。

A-3-3-4 軟口蓋の構造と機能を理解している。

A-3-3-5 歯列と咬合を理解している。

A-3-3-6 唾液の性状、構成成分及び機能を理解している。

A-3-3-7 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を理解している。

A-3-3-8 副鼻腔の構造、機能及び鼻腔との交通を理解している。

A-3-3-9 口腔、顎顔面領域の体性感覚と疼痛の発生機序及び制御機構を理解している。

A-3-4 歯と歯周組織の構造と機能

歯と歯周組織の構造と機能を理解する。

学修目標:

A-3-4-1 歯の発育及び交換の過程と変化を理解している。

A-3-4-2 歯種別の形態と特徴を理解している。

A-3-4-3 遺伝的な歯の形成異常を理解している。

A-3-4-4 永久歯、乳歯、根未完成歯、幼若永久歯の硬組織の構成成分、構造及び機能を理解している。

A-3-4-5 歯髄の構造と機能を理解している。

A-3-4-6 歯の形態異常を理解している。

A-3-4-7 歯周組織の構造と機能を理解している。

A-2-4 口腔、顎顔面領域の発生と加齢変化

口腔、顎顔面領域の発生過程と加齢変化(成長・発育と老化)、その異常を理解する。

学修目標:

A-2-4-1 口腔と顎顔面領域の発生を理解している。

A-2-4-2 鰓弓由来の構造と器官を理解している。

A-2-4-3 顔面の発生に関与する突起と形成する部位を理解している。

A-2-4-4 頭頸部の形成異常の発生機構を理解している。

A-2-4-5 口腔、顎顔面領域の成長と発育を理解している。

A-2-4-6 口腔、顎顔面の成長と発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を理解している。

A-2-4-7 加齢、歯の喪失に伴う顎骨と顎関節の形態変化を理解している。

A-2-4-8 歯、歯周組織、咀嚼機能、嚥下機能の加齢変化を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	1/7	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
2	1/7	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
3	1/7	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀

4	1/8	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
5	1/8	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
6	1/8	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
7	1/14	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
8	1/14	14:25-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
9	1/14	15:25-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
10	1/14	16:20-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
11	1/15	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
12	1/15	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
13	1/15	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
14	1/20	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
15	1/20	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
16	1/20	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
17	1/22	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
18	1/22	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
19	1/22	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		大崎 珠理亜 井関 祥子, 吉本 由紀
20	1/27	08:50-09:35	7号館1		大崎 珠理亜

			階歯学科 講義室 1		井関 祥子, 吉本 由紀
21	1/27	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
22	1/27	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
23	1/29	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
24	1/29	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
25	1/29	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1		大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
26	2/5	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験	大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
27	2/5	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	試験	大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
28	2/19	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1	追再試験	大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
29	2/19	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1	追再試験	大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
30	2/19	15:25-16:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1	追再試験	大崎 珠理亜, 井関 祥子, 吉本 由紀
授業方法					
講義はスライドを用いた講義形式。実習は顕微鏡で組織切片を観察し各組織構造のスケッチを行う。					
授業内容					
講義はスライドを用いた講義形式。授業内容に関しては初回の授業でアナウンスする。実習内容は実習書を配布し、その中に毎回の課題を明記している。					
成績評価の方法					
・組織実習の提出課題は、3~4 段階で判定をし、最終判定の点数に加算されるが未提出の場合は点数が得られない。 ・ユニット最終日に筆記試験を行う。筆記試験の中に実習試験も含めて行う。 ・最終判定は、実習課題、筆記試験の点数を一定比で合計し、100 点満点の 60 点以上を合格とする。					
準備学習等についての具体的な指示					
1. 教科書は必ず購入し、予習・復習に活用すること。また、講義資料 PDF も講義の前には配布をする。 2. 実習はバーチャルスライドおよび顕微鏡を使って組織切片を観察し、組織スケッチを描いて提出する。講義の復習をしておくことが実習の効率をぐっと高くする。 3. 試験については、図説と記述を中心とする。いずれも単語などの丸覚えでは通用しない。また、いかに要説できるか、簡単な図を描けるかも重要である。加えて組織切片を用いたスライド試験を行い、実習の課題をきちんと学んでいるかを問う。					
試験の受験資格					

・全時間数のうち、講義は3分の2以上出席していなければならない。 ・スケッチを3分の2以上提出しなければ試験の受験資格はない。 ・受験資格を得られなかった学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。
教科書 口腔組織・発生学／前田, 健康, 1959-, 網塚, 憲生, 1961-, 中村, 浩彰, 1962-, 前田健康, 網塚憲生, 中村浩彰 編集, 天野修 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2024.1 バーチャルスライド 口腔組織学／田畑 純 著・文・その他, 杉浦 真琴 著・文・その他, 田畑 純, 杉浦 真琴, 羊土社, 2021-11-19 口腔の発生と組織／田畑, 純, 1961-, 田畑純 著: 南山堂, 2019.4
参考書 口腔組織・発生学 : カラーエッセンシャル／Avery, James K, 高野, 吉郎, 1949-, 佐々木, 崇寿, 1952-2007, 矢嶋, 俊彦, 1942-, 入江, 一元, 1961-, ジェイムズ・Kエイヴリー 著, 高野吉郎 監訳, 佐々木崇寿, 矢嶋俊彦, 入江一元 訳: 西村書店, 2002.4 口腔組織・発生学／脇田, 稔, 1944-, 前田, 健康, 1959-, 中村, 浩彰, 脇田稔, 前田健康, 中村浩彰, 網塚憲生 編集: 医歯薬出版, 2015.2 Ten Cate's oral histology : development, structure, and function／Ten Cate, Arnold Richard, Nanci, Antonio: Elsevier, c2018
履修上の注意事項 ＜実習の注意＞ ・組織標本の顕微鏡観察とスケッチを行うので、12 色程度の色鉛筆を必ず持参すること。色鉛筆を使用していないスケッチの提出は認められない。なお、A4 のスケッチ用紙は配布するが、ケント紙などを持参して使用してもよい。 ・スケッチは期限内に提出し、採点後に返却される。点数は最終判定に含まれるが、提出がない場合は特典が得られない。 ・実習は最初の 10 分ほどで課題の説明や諸注意を行う。また、顕微鏡の準備やプレパラートの受取は授業前に行う。従って、実習日はその前に教室へ到着している必要がある。遅刻は厳禁。 ・実習は PBL 形式をとる。予習を少しでもしておくこと効率がよい。また、教科書は必携、アトラスなども必要である。 ・スケッチに時間がかかる場合は、適宜、実習時間を延長する。未完成のスケッチを提出することは認められない。 ＜追試・再試について＞ ・追試は不測の事態で中間試験や最終試験を受験できなかった者に対して、所定の要件を満たす場合にのみ実施する。成績判定等は、本試験と同等とする。 ・再試は中間試験や最終試験で合格と認められなかった者に対して行う。実施の有無は当該学生と話し合って決めるものとする(必ず行うものではない)。 ・再試の試験結果は、規定に従い、100 点満点の 60 点以上を合格とするが、最終成績は 60 点以上の点は与えられない(満点でも 60 点が最終成績となる)。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。
連絡先(メールアドレス) 井関 祥子:s.iseki.emb@tmd.ac.jp
オフィスアワー 井関 祥子:随時 (必ず事前に連絡すること)

時間割番号	021b00																						
科目名	予防と健康管理				科目ID																		
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 五十嵐 公, 石丸 美穂, 木内 桜[AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, IGARASHI Isao, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura]																						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2		単位数	3																	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面																	
口腔疾患の予防Ⅰ（講義）、口腔疾患の予防Ⅱ（実習）、歯科医療と社会、歯科法医学のパートから、口腔疾患の予防や管理について幅広く理解を深めることを目的とする。講義・実習数は下記となる。 モジュール単位:3.5 モジュール授業: 講義:48 コマ、 実習:9 コマ モジュール総コマ数:57 コマ 01 口腔疾患の予防 講義・演習 02 口腔疾患の予防 実習 03 歯科医療と社会 講義 04 歯科法医学 講義																							
主な講義場所 【口腔疾患の予防】7 号館 1 階歯学科講義室 1 (Zoom 等になる場合は事前に通知します) 【歯科医療と社会】7 号館 1 階歯学科講義室 1																							
授業の目的、概要等 【口腔疾患の予防】 口腔疾患の予防と健康管理を行うために必要な基本的知識、技術、態度を身につけ、さらに我が国の歯科保健医療制度や歯科法医学に関する基本的知識を習得する。 【歯科医療と社会】歯科医師法および関連法規、保健、医療、福祉、介護に関する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。																							
授業の到達目標 各ユニットの到達目標を参照のこと。 【口腔疾患の予防】歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和 4 年度改訂版 C-4-3 医療・保健・福祉・介護の制度 C-4-3-1,2,4,5,7,8 C-5 予防と健康管理 C-6-2 保健統計 D-5-1 歯科保健指導 D-5-1-1,2,3,4,5 【歯科医療と社会】 1) 歯科医師法および関連法規等を概説できる。コアカリ(令和 4 年度版;以下同) PR03, C-1-2-5, C-4-2-1, C-4-2-2, C-4-2-3 2) 医療法等および医療制度の方向性を概説できる。コアカリ PS11, SO03, C-4-2-1, C-4-3-6 3) 保健・医療・福祉・介護に関連する社会制度を概説できる。コアカリ PS10, PS11, SO01, C-4-2-4, C-4-3-2, C-4-3-3 4) 保健・医療・福祉・介護の連携を説明できる。コアカリ IP01, C-4-2-7, C-4-3-6 5) 地域における歯科医療提供体制を説明できる。コアカリ GE02, C-1-3-3, C-4-2-7, C-4-3-6																							
授業計画 <table><tr><th>回</th><th>日付</th><th>時刻</th><th>講義室</th><th>授業題目</th><th>授業内容</th><th>担当教員</th><th>到達目標・学習方法・その他</th></tr><tr><td>1-3</td><td>10/6</td><td>13:30-16:10</td><td>7 号館 1 階歯学科講義室 1</td><td>講義:齲蝕の疫学・予防</td><td></td><td>相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木</td><td></td></tr></table>								回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他	1-3	10/6	13:30-16:10	7 号館 1 階歯学科講義室 1	講義:齲蝕の疫学・予防		相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木	
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他																
1-3	10/6	13:30-16:10	7 号館 1 階歯学科講義室 1	講義:齲蝕の疫学・予防		相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木																	

						内 桜	
4-6	10/14	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:歯周病の疫学・予 防		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	
7-9	10/19	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	実習:う蝕・歯周病のグ ループワーク		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	
10-12	11/10	13:30-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1	実習:歯科検診		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	
13-15	11/11	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】講義 医事法制1	医療法など	五十嵐 公	【到達目標】2) 【学 習方法】講義
16-18	11/17	13:30-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:疫学・地域保健(2 コマ) 講義:疫学実習 の説明(1コマ)		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	
19-21	11/18	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】講義 歯科医療と社会保障	歯科医療と社会保障	宮原 勇治	【到達目標】1), 2),3),4),5) 【学習 方法】講義
22-24	11/20	13:30-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:産業保健(1コマ) 講義:母子・学校・成人・ 高齢者の口腔保健(2コ マ)	産業保健	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜, 加藤 元	
25-27	11/24	13:30-16:10	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:地域保健や法律	行政	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜, 柳澤 智仁	
28-30	11/25	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】講義 医療・福祉・介護関連制 度	医療保険制度など	五十嵐 公	【到達目標】3) 【学 習方法】講義
31-33	1/5	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】講義 医事法制2	歯科三法	五十嵐 公	【到達目標】1) 【学 習方法】講義
34-36	1/7	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	実習:疫学・口腔と全身		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	
37-39	1/8	08:50-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】講義 落ち穂拾い	国民医療費、地域歯科医療など	五十嵐 公	【到達目標】4), 5) 【学習方法】講義
40-42	1/12	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:口臭(1コマ) 講 義:その他の歯科疾患(2 コマ)		相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木	

						内 桜 有富 理左	
43-45	1/13	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:診療所での感染予 防(3コマ)		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜 南出 保	
46-48	1/18	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:国際歯科保健・災 害歯科保健・障害児・者 の口腔保健や法(2コマ) 講義:障害児・者の歯科 保健(1コマ)		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜 中久 木 康一	
49-51	1/19	13:30-16:10	歯学部基 礎実習室	実習:ブランクコントロー ルとフッ化物応用		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜	
52-54	1/21	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	講義:EBM(1コマ) 講 義:リアルワールドデー タ(2コマ)		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜 大野 幸子	
55-57	1/28	09:45-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	実習:口臭・その他の歯 科疾患		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜 有富 理左	
58	2/3	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】試験		五十嵐 公	
59-60	2/4	09:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	試験		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜	
61-62	2/15	13:30-15:10	7号館1 階歯学科 講義室1	追再試験		相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜	
63	2/16	13:30-14:15	7号館1 階歯学科 講義室1	【歯科医療と社会】追再 試験		五十嵐 公	

授業方法
各パートの授業方法を参照のこと。

授業内容
各パートの授業内容を参照のこと。

成績評価の方法
各パートの成績評価の方法を参照のこと。
【口腔疾患の予防】試験や提出物から総合的に評価する。
【歯科医療と社会】歯科医療と社会の配点は小テスト3割、試験7割とするが、最終的な成績判定は「予防と健康管理」全体で行われる。

成績評価の基準

各パートの成績の方法を参照のこと。
準備学習等についての具体的な指示 各パートの準備学習等についての具体的な指示を参照のこと。 【口腔疾患の予防】 ・日頃から、口腔疾患に関する最新の研究成果や疫学的データ、国内外の予防プログラムの動向について情報収集を行うよう努めること。 ・各種予防法に関する基礎的な知識(ブラッシング指導、フッ化物応用、食事指導等)を理解し、講義や実習の内容を振り返りながら実践的な応用力を身につけること。 ・次回の講義内容について、事前に配布された資料や推奨文献を読解し、質問点や関心事項を整理しておくこと。 【歯科医療と社会】 ・日頃から各種ニュース等の報道に気を配り、保健、医療、福祉、介護に関する課題や制度改正の方向性等の情報を積極的につかむよう心がけること。 ・毎回の講義内容を十分に復習し、次の講義に備えること。
試験の受験資格 各パートごとに行う。各パートの受験資格を参照のこと。 【口腔疾患の予防】 授業の出席を試験の受験資格とする。 【歯科医療と社会】 授業の出席、小テスト実施を試験の受験資格とする。
構成ユニット 下記の4つのパートから構成される: 01 口腔疾患の予防 講義・演習 02 口腔疾患の予防 実習 03 歯科医療と社会 講義 04 歯科法医学 講義
モジュールの単位判定 単位を取得するためには、全てのパートに合格していなければならない。なお、パートの合格判定および全体の単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるパートについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。
教科書 口腔保健・予防歯科学 第2版／安井、利一、1951-、山下、喜久、廣瀬、公治、小松崎、明、山本、龍生、1964-、弘中、祥司、山下、喜久、安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司 編山下喜久 [ほか] 執筆:医歯薬出版、2023.3 シンプル衛生公衆衛生学／小山、洋、1956-、辻、一郎、1957-、上島、通浩、大久保、孝義、小山洋、辻一郎 監修、上島通浩、大久保孝義 編集:南江堂、2024.3 【歯科医療と社会】 教科書は特に指定しない。
参考書 Oral Epidemiology: A Textbook on Oral Health Conditions, Research Topics and Methods／Marco A Peres et al.: Springer, 2020 【歯科医療と社会】 尾崎哲則、鳥山佳則、平田創一郎、藤井一維、山本龍生 編集「スタンダード社会歯科学」第9版、学建書院、2026。 ISBN:9784762486449
履修上の注意事項 各ユニットの履修上の注意事項を参照のこと。 【歯科医療と社会】 参考書等はできる限り最新のものを選び参照すること。
備考 健康推進歯学分野 教授 相田潤 aida.ohp@tmd.ac.jp 毎週火曜日 PM4:30-5:30 歯科棟北 10 階 健康推進歯学分野 図書室 【歯科医療と社会】 ・法改正や制度変更など、歯科を取り巻く社会環境は絶えず変化しているので、丸暗記ではなく、社会の仕組みや成り立ちを大づかみに学ぶことが大切である。授業で触れる法や社会制度に特有の用語、考え方は、将来、社会に出てからの実務で役立つ。 ・連絡先:五十嵐 公 igarashi.hce(@)tmd.ac.jp

※Email は上記アドレス の (@) 部分を @ に変えてください。

参照ホームページ

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はありませんでしたが、自己点検により講義内容を一部見直します。

連絡先(メールアドレス)

相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp

五十嵐 公:igarashi.hce@tmd.ac.jp

オフィスアワー

相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

五十嵐 公:オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメール連絡のこと。

時間割番号	021b10				
科目名	歯科医療基礎Ⅰ			科目ID	
担当教員	水谷 幸嗣, 新田 浩, 城戸 大輔, 新田 浩, 曹 日丹, 則武 加奈子[MIZUTANI Koji, NITTA Hiroshi, KIDO Daisuke, NITTA Hiroshi, CAO Ridan, NORITAKE Kanako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
全 30 コマ(講義:3 コマ、実習:27 コマ)					
歯科医療基礎Ⅰ:歯科医師となる上で、歯科医療現場での歯科医師としての職責を理解し、患者診療に関しての業務内容を理解することは必須である。本科目では、歯科医療基礎Ⅱ、歯科医療基礎Ⅲと連携した授業内容を提供することで、ステューデント・デンティストとして患者診療を行う上で必要となる歯科医師としての基本的知識・技能・態度を修得し、歯科職能集団の共同体への参加を果たすことを本授業の目的とする。					
授業内容としては、具体的には、歯科診療現場における器材準備や診療補助といった、業務リスクの低い業務への参加に必要な基本的知識・技能・態度、また、診療現場における参加過程を通じて、術者が行う医療面接や口腔内診査の施術状況、その際の患者の心理等の観察により、歯科診察の基本構造について学ぶ。					
授業方法としては、学生の歯科医療の現場への導入として、正統的周辺参加を可能とする実習を行う。					
主な講義場所					
各診療科診療室					
遠隔(Zoom)					
授業の目的、概要等					
将来の歯科医師としての自覚を高めるために、歯科臨床の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。					
授業の到達目標					
1) 患者さんに自己紹介、挨拶をする。					
2) 患者さんを安全に誘導する。					
3) 患者さんの問題点に配慮する。					
4) 指導教員、D6 学生および同級生と良好なコミュニケーションをとる。					
5) 各診療室で基本的な診療補助をする。					
6) 清潔・不潔に配慮した行動をする。					
7) 安全に配慮した行動をする。					
8) コ・デンタルスタッフの業務を補助あるいは体験する。					
9) 基礎科目と臨床科目の関連性の例を挙げて説明する。					
10) 歯科臨床の現場を体験し、今後の学習の方向性を見出す。					
コアカリ番号:D-2-1.D-2-2					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-4	10/5	13:30-17:05	7 号館 1 階歯学科講義室 1	オリエンテーション	城戸 大輔
5-8	10/15	13:30-17:05	歯科総合診療部特別講堂(D 棟 4 階)	相互実習 もしくは 遠隔授業(Zoom)	城戸 大輔 須永 昌代 水谷 幸嗣 曹 日丹
9-12	10/19	13:30-17:05	歯科総合診療部特別講堂	相互実習 もしくは 遠隔授業(Zoom)	城戸 大輔 須永 昌代 水谷 幸嗣

			(D棟4階)		曹 日丹
13-15	10/29	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習1	城戸 大輔
16-18	11/5	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習2	城戸 大輔
19-21	11/12	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習3	城戸 大輔
22-24	11/19	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習4	城戸 大輔
25-27	11/26	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習5	城戸 大輔
28-30	12/10	08:50-11:30	第1総合診療室	見学実習6	城戸 大輔
31-33	12/11	13:30-16:10	7号館1階歯学科講義室1	SGD、まとめ	城戸 大輔

成績評価の方法

- 1) 毎回の指導教員による観察記録(形成的評価)
- 2) 毎回の実習記録(形成的評価)
- 3) レポート(形成的評価)

成績評価の基準

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・SGD後の課題(レポート)を提出していなければならない。
- ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。
- ・合格判定および単位判定に際しては、出席日数、提出実習記録、レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

準備学習等についての具体的な指示

ガイダンスで配布し説明する、病院の理念・こころざし、病院内のきまり、院内感染予防のルール、外来での注意事項を確認したうえで実習に臨むこと。

ガイダンスで配布する資料で実習見学を行う診療科の特徴について予習しておくこと。

試験の受験資格

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・SGD後の課題(レポート)を提出していなければならない。
- ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。

モジュールの単位判定

合格判定および単位判定は、出席日数、提出実習記録、レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

参考書

PMI ペリオドンタルモチベーションインタビューング：患者さんのやる気が変わる!スタッフも楽しくなる!歯周治療を成功に導く世界標準のコミュニケーション技法：医療コミュニケーションの専門家による確かな解説と歯周病専門医による8つの事例でサクサク理解／新田 浩(歯科医)・礪波 健一・土岡 弘明・斎田 寛之・新田浩、礪波健一、土岡弘明監著；斎田寛之 [[ほか] 著：クインテッセンス出版、2020.2
見逃しケースのなぜを解く!歯科診断スキルアップ実践ガイド：落とし穴を回避して主訴の解決に導く手順とポイント／礪波 健一・則武 加奈子・梅森 幸・新田 浩・小田 茂、1953・荒木 孝二・礪波健一、則武加奈子、梅森幸、新田浩、小田茂、荒木孝二 編著：クインテッセンス出版、2021.2

歯科衛生士・歯科助手おしごとハンドブック：動画でサクサク理解!本でしっかり確認：今必要な知識や手順がこの1冊ですぐ身につく!／岩田 隆紀・水谷 幸嗣・岩野 義弘・松浦 孝典・岩田隆紀、水谷幸嗣、岩野義弘、松浦孝典 編著：クインテッセンス出版、2022.3

履修上の注意事項

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・SGD後の課題(レポート)を提出していなければならない。
- ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考

実習ではAL(スモールグループディスカッション)を行う。

※臨床体験実習の前段階として、各診療科、第1総合診療室、第2総合診療室で診療補助を中心とした実習を行う。D2 ではまだ臨床科目の知識が習得されていないため、患者接遇、診療補助を通して基本的態度を身につけるとともに、基礎科目と臨床科目の関連性を認識することが中心となる。

※欠席する場合は各自で実習する診療科の指導責任者に連絡する。

※本実習全体に関する指導担当者のオフィスアワー:まずはメールにて問い合わせ、アポをとること

新田 浩:nitta.behd(@)tmd.ac.jp

則武 加奈子:noritake.irm(@)tmd.ac.jp

城戸 大輔:kido.de2ba(@)m.isct.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

* 前年度履修学生の科目評価での指摘事項がなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021b20						
科目名	医療統計学・疫学基礎				科目ID		
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜[AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
医療統計と疫学の基礎を学ぶ 統計ソフトウェアの EZR の使い方を学ぶ 1 単位 講義 3 コマ 演習 12 コマ							
主な講義場所 講義室での対面講義・PC を使った演習							
授業の目的、概要等 授業目的 医療統計学・疫学の基礎を理解する。 概要 医療統計学の基礎を理解し、実際に統計ソフトウェアで統計解析を行える。							
授業の到達目標 歯科・口腔保健分野の研究を実際に行うための医学統計知識・また疫学の基礎的な素養を身に着ける。コアカリキュラムは下記 C-6-1-1 疫学と根拠に基づいた医療(EBM)の概念及び診療ガイドラインを理解している。 C-6-2-1 確率変数とその分布、統計的推測(推定と検定)の原理と方法を理解している。 C-6-2-4 調査方法と統計的分析法を理解している。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/13	09:45-10:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	疫学基礎	疫学の基礎知識を学ぶ(講義)	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜	疫学の基礎がわかる
2	11/13	10:45-11:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	疫学基礎	疫学の基礎知識を学ぶ(講義)	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜	疫学の基礎がわかる
3	11/13	11:40-12:25	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	医療統計基礎	医療統計の基礎知識を学ぶ(講義)	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜	医療統計の基礎がわかる
4	11/20	09:45-10:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 1	EZR のセッティングを行う	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜	EZR を自分の PC で利用できる
5	11/20	10:45-11:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 2	EZR でデータの分布を調べる	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜	EZR を使ってデータの分布を調べられる
6	11/20	11:40-12:25	7 号館 1	EZR 演習 3	EZR で記述統計表を作成する	相田 潤, 松	EZR を使って記述

			階歯学科 講義室 1			山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	統計表を作成で きる
7	11/27	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 4	EZR で検定を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って検定 を行える
8	11/27	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 5	EZR で検定を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って検定 を行える
9	11/27	11:40-12:25	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 6	EZR で検定を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って検定 を行える
10	11/30	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 7	EZR で回帰を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って回帰 を行える
11	11/30	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 8	EZR で回帰を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って回帰 を行える
12	11/30	11:40-12:25	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 9	EZR で回帰を行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って回帰 を行える
13	1/19	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 10	擬似データを利用して解析演習を 行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って擬似 データを利用し自 分で解析ができ る
14	1/19	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 11	擬似データを利用して解析演習を 行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って擬似 データを利用し自 分で解析ができ る
15	1/19	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1	EZR 演習 12	擬似データを利用して解析演習を 行う	相田 潤, 松 山 祐輔, 石 丸 美穂, 木 内 桜	EZRを使って擬似 データを利用し自 分で解析ができ る

授業方法

科目担当者の講義・演習による。

授業内容

別表のとおり。

成績評価の方法

授業ごとの確認問題への回答でおこなう

成績評価の基準

授業ごとの確認問題(50%)および出席(50%)で評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

・講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書を参照して事前に予習することを勧める。

・講義中に演習を行うため、事前に統計ソフトウェア EZR 利用準備を個人所有の PC で行う必要がある。
試験の受験資格 試験は無い。
構成ユニット 講義 3 コマ PC を使った演習 12 コマ
モジュールの単位判定 講義後の確認問題に回答する
参考書 みんなの医療統計 : 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター! / 新谷, 歩, 新谷歩著 : 講談社, 2016 みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター! / 新谷, 歩, 新谷歩著 : 講談社, 2017
他科目との関連 社会と環境、予防と健康管理で出てきた研究論文を理解につながる科目です。
履修上の注意事項 課された問題は必ず提出すること。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はありませんでしたが、講義内容を一部見直します。また、本科目は研究実習で利用する可能性がある EZR の使い方について演習形式で習熟を目指します。
連絡先(メールアドレス) 相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp 松山 祐輔:matsuyama.ohp@tmd.ac.jp 石丸 美穂:ishimaru.ohp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤 aida.ohp@tmd.ac.jp 毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野 松山 祐輔:オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメールで連絡してから訪問すること。 石丸 美穂:毎週水曜日 AM10:00-PM4:00 D 棟 10 階北 歯科公衆衛生学分野 先にメールの連絡をお願いします。

時間割番号	021b30				
科目名	研究入門Ⅱ			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 小野 卓史, 笛木 賢治, 片桐 さやか, 猪越 正直 [ISEKI Sachiko, ONO Takashi, FUEKI Kenji, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
研究入門Ⅱ 開設時期:2 年 後期 コマ数(授業コマ数+試験コマ数):18 + 0 授業形態:講義, 発表, 討論(アクティブラーニング)					
授業の目的、概要等					
研究入門Ⅰの発展科目として、研究論文を読むことにより、科学論文の構成を知り、研究成果を社会に還元するために必須である基本的知識を習得する。これにより、D3 での研究入門Ⅲ、研究実習Ⅰ、Ⅱへの円滑な導入を図る。					
授業の到達目標					
SB0 RE:科学的探究(Research) RE-05: 国内外の論文や書籍、検索情報等の科学的情報を評価し、論理的・批判的考察や吟味によって有用な情報を選別できる。 1) 科学論文の種類と特徴を説明できる。 2) 科学論文の構成を説明できる。 3) 科学論文を作成する上で必要な知識、技能、規範を説明できる。 4) 科学論文の内容を理解して説明できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室		
1	2/16	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		
2	2/16	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
3	2/16	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
4	2/17	08:50-09:35	7号館1 階歯学科 講義室1		
5	2/17	09:45-10:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
6	2/17	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1		
7	2/18	08:50-09:35	7号館1 階歯学科		

			講義室 1
8	2/18	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
9	2/18	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
10	2/19	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1
11	2/19	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
12	2/19	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
13	2/22	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1
14	2/22	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
15	2/22	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
16	2/24	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1
17	2/24	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
18	2/24	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
19	2/25	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1
20	2/25	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
21	2/25	10:45-11:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1
22	2/26	08:50-09:35	7号館 1 階歯学科 講義室 1
23	2/26	09:45-10:30	7号館 1 階歯学科 講義室 1

24	2/26	10:45-11:30	7号館1 階歯学科 講義室1	
授業方法 詳細については、講義の中で説明する。 9班への班分けを行う（6～7名学生/班）。 3班に対して1論文を配布し、抄読する。 講義時間内で配布された論文を読み、論文を紹介するプレゼンテーションを作成する。 授業の最終回に発表会を行う。 各班30分の発表をし、5分間の質疑応答を行う。 学生同士で発表を評価する（評価書に記入し提出する）。 発表の最終評価は、教員が行う。				
授業内容 研究入門Ⅱ導入、論文の読み方、論文配布、自主学習、質問受付（論文を読み、発表を作成する）、発表会				
成績評価の方法 ・授業の出席と発表、レポートで評価する。 ・学生は配布された論文を読み、論文を紹介するプレゼンテーションを作成する。 ・審査教員と学生の前で発表を行い、形成的評価を受ける。 ・終了後にレポートを提出し、発表会の評価と合わせて、総括的評価を行う。				
成績評価の基準 ・授業の出席と発表、レポートで評価する。 ・学生は配布された論文を読み、論文を紹介するプレゼンテーションを作成する。 ・審査教員と学生の前で発表を行い、形成的評価を受ける。 ・終了後にレポートを提出し、発表会の評価と合わせて、総括的評価を行う。				
準備学習等についての具体的な指示 ・担当教員と相談すること。 ・研究論文の検索方法について学んでおくこと。 ・事前学習として必要な論文等の資料を確認すること。				
試験の受験資格 授業の2/3以上の出席かつ発表会への出席				
教科書 講義資料を配布する。				
参考書 講義資料を配布する。				
他科目との関連 研究入門Ⅱは、次学年以降に実施する研究入門Ⅲおよび研究実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの導入編である。				
履修上の注意事項 ・全授業時間数の講義2/3出席すること。 ・活動(出席)状況は、担当教員が記録する。 ・2月25-27日の発表会への出席、発表、評価書、レポートの提出を必須とする。 ・グループワークであることに注意すること。 - 以上の要件を満たした学生を合格とし、授業態度、レポート内容によって成績判定が行われる。				
備考 連絡先 井関 祥子: s.iseki.emb@tmd.ac.jp 笛木 賢治: kunfu.pro@tmd.ac.jp 小野 卓史: tonno.orts@tmd.ac.jp				

オフィスアワー

井関 祥子:随時(必ず事前に面談の日程を調整すること) M&D タワー6 階 N-605

笛木 賢治:月・水・金 17:00-18:00 (メールにて面談の日程を調整すること) 歯科棟北 11 階咬合機能健康科学分野第1研究室

小野 卓史:月・火・木 17:00-18:00 (メールにて面談の日程を調整すること) 歯科棟南 12 階 教授室

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021b40				
科目名	研究入門Ⅱ α			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 小野 卓史, 笛木 賢治, 片桐 さやか, 猪越 正直 [ISEKI Sachiko, ONO Takashi, FUEKI Kenji, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目:研究入門Ⅱ α (自由科目) 開設時期:2 年 後期コマ数(授業コマ数+試験コマ数):40 + 0 授業形態:実習 ※ 履修希望者が多い場合には分野配属がかなわない場合があります。					
主な講義場所 配属先の研究室					
授業の目的、概要等 研究入門Ⅱ の発展科目として実習形式の授業を行う。受講を希望する学生を基礎系研究室に配属し、研究室のメンバーと直接に触れ合い活動を共にする場を提供する。これにより、研究の実際について体験的に理解を深め、3 年次での研究実習Ⅱ での分野配属での研究活動への円滑な導入を図る。					
授業の到達目標 コアカリ番号: RE-02, 04 1)配属先の研究室の研究分野を説明できる。 2)配属先の研究者の研究活動内容を説明できる。 3)研究の実際について体験し理解したことを説明できる。					
授業方法 配属先の研究室に出向き、研究室のメンバーと直接に触れ合い活動を共にする。					
授業内容 配属した研究のテーマ					
成績評価の方法 授業(配属先分野)への出席回数と態度、レポートの内容で評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 配属先分野の教員と相談すること					
試験の受験資格 試験は実施しません。					
構成ユニット 01 研究入門Ⅱ α					
モジュールの単位判定 ・本科目の単位を取得するためには、01ユニットに合格していなければならない。科目の合否および単位判定に際しては、実習参加回数とレポートを判断材料とする。 ・本科目の全授業コマの 3/4 以上出席すること					
他科目との関連 3 年時の研究実習への導入科目となる。					
履修上の注意事項 ・自由科目ですので、原則として放課後等、自由時間に研究室に出向くことになります。					
備考 ・分野配属先の選定に際して、事前に面接を行います。					

連絡先: 笛木賢治 kunfu.rpro@tmd.ac.jp オフィスアワー(木:13:00-17:00)

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021b50																																																								
科目名	自然科学演習			科目ID																																																					
担当教員	伊藤 正則, 奈良 雅之, 栗田 武, 中山 まどか, 松本 幸久, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 三好 洋[ITO Masanori, NARA Masayuki, KURITA Takeshi, NAKAYAMA Madoka, MATSUMOTO Yukihisa, SAWANO Yoriko, KATSUMATA Toshiyuki, MIYOSHI Hiroshi]																																																								
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1																																																				
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面																																																				
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) 2-2)自然現象を探究するための手法を知る。 2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。 4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける。 4-3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。 (科目コマ数)19 (必要自習時間)3 時間/日 (授業形態)10 月 13 日及び 20 日はオンライン(zoom)、problem-based learning (PBL)。 11 月 24 日は発表会、歯学部特別講堂。																																																									
主な講義場所 11 月 24 日の発表会を歯学部特別講堂で行う。																																																									
授業の目的、概要等 配布資料(課題シート)から「具体的な問題点」を抽出し、「正確な知識」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決する技術を習得する。学生間での話し合いと教員によるアドバイスによって、問題点を解決する方法と正解は必ずしも1つでは無いことを理解すると同時に、自身の学習方法の欠点を理解し、改善する。加えて、簡潔かつ解り易い言葉で説明する技術と建設的な話し合いを行ううえで必要なコミュニケーション技術を習得する。																																																									
授業の到達目標 1. 具体的な問題点を抽出し、「正確な知識」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決することができる。 2. 簡潔かつ解り易い言葉で説明することができる。 3. 建設的な話し合いを行うことができる。																																																									
授業計画 <table><tr><td>回</td><td>日付</td><td>時刻</td><td>講義室</td></tr><tr><td>1</td><td>10/13</td><td>08:50-09:35</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>10/13</td><td>09:45-10:30</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>10/13</td><td>10:45-11:30</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>10/13</td><td>11:40-12:25</td><td></td></tr><tr><td>5</td><td>10/13</td><td>13:30-14:15</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td>10/13</td><td>14:25-15:10</td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>10/13</td><td>15:25-16:10</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td>10/13</td><td>16:20-17:05</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>10/20</td><td>08:50-09:35</td><td></td></tr><tr><td>10</td><td>10/20</td><td>09:45-10:30</td><td></td></tr><tr><td>11</td><td>10/20</td><td>10:45-11:30</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td>10/20</td><td>11:40-12:25</td><td></td></tr></table>						回	日付	時刻	講義室	1	10/13	08:50-09:35		2	10/13	09:45-10:30		3	10/13	10:45-11:30		4	10/13	11:40-12:25		5	10/13	13:30-14:15		6	10/13	14:25-15:10		7	10/13	15:25-16:10		8	10/13	16:20-17:05		9	10/20	08:50-09:35		10	10/20	09:45-10:30		11	10/20	10:45-11:30		12	10/20	11:40-12:25	
回	日付	時刻	講義室																																																						
1	10/13	08:50-09:35																																																							
2	10/13	09:45-10:30																																																							
3	10/13	10:45-11:30																																																							
4	10/13	11:40-12:25																																																							
5	10/13	13:30-14:15																																																							
6	10/13	14:25-15:10																																																							
7	10/13	15:25-16:10																																																							
8	10/13	16:20-17:05																																																							
9	10/20	08:50-09:35																																																							
10	10/20	09:45-10:30																																																							
11	10/20	10:45-11:30																																																							
12	10/20	11:40-12:25																																																							

13	10/20	13:30-14:15	
14	10/20	14:25-15:10	
15	10/20	15:25-16:10	
16	11/24	08:50-09:35	
17	11/24	09:45-10:30	
18	11/24	10:45-11:30	
19	11/24	11:40-12:25	
授業方法 problem-based learning (PBL)			
授業内容 6 あるいは 7 名から成るグループによる学習で、課題シートから問題点を抽出し、自然科学の知識を活用し、問題点を解決することを試みる。具体的には次の 1-3 の順に行う。 1. 課題シートの内容を理解し、学生間での話し合い、具体的な問題点を抽出する。 2. 各自が問題点を解決するために必要な情報を得た後、情報を整理する。 3. 整理した情報を発表し、議論する。発表と議論した内容をまとめることによって、問題点に対する答えを導き出す。 この授業では学生間での話し合いが中心となり、話し合いに参加するためには、明確な目的意識をもった自主的な学習が必要である。			
成績評価の方法 評価は、授業への参加度、グループによる話し合いへの参加、グループごとでの発表会での発表内容、発表会での質問・返答内容、レポートの記述内容による。詳細は第 1 回目のガイダンスで説明する。 (前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。)			
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による			
準備学習等についての具体的な指示 各自が問題点を解決するために必要な情報を集め、整理しておくこと。情報を集める過程でさらに問題点をみつけること。論理的方法によって問題を解決することを試みる。			
試験の受験資格 試験を行わない。			
教科書 課題シートなどの配布資料。			
参考書 必要に応じて紹介する。			
連絡先(メールアドレス) 伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp 澤野 頼子:sawano.y.0d97@misct.ac.jp 栗田 武:kurita.t382a@misct.ac.jp 奈良 雅之:nara.m.cf74@misct.ac.jp 勝又 敏行:katsumata.t6316@misct.ac.jp 松本 幸久:matsumoto.y.8854@misct.ac.jp 中山 まどか:nakayama.m.08bb@misct.ac.jp			
オフィスアワー 伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室			

澤野 頼子:前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階
栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2
奈良 雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室
松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10
中山 まどか:水曜日 12:30-13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@misct.ac.jp)

時間割番号	021b60						
科目名	System-based medical terminology I			科目ID			
担当教員	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな[JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目コマ数: 15 必要自習時間: 30 時間 授業形態: オンデマンド							
医学用語は、研究論文や最新の技術等を理解するために必要です。 このコースでは、基本的な人間の臓器に関連する医学用語を学習します。							
Science Tokyo LMS コースに配信される課題: Science Tokyo LMS の指定のコースにオンデマンドの課題を提供する。 当該課題を定められた期間内に履修すること。							
主な講義場所 学習はすべて Science Tokyo LMS で行う。 (このコースには講義はありません。) 非同期・オンデマンド							
授業の目的、概要等 演習を通じて、英語と日本語の医学用語の知識と英語の理解力を向上する。 オンデマンド教材(読書課題と演習)を通じて英語で医学用語を学び、その後、Science Tokyo LMS で提供されるクイズでスキルをテストする。							
授業の到達目標 コース終了時には、 1) 学生は医学用語の 3 つの主要部分、接頭辞/語源/接尾辞、 2) および対象とするシステムで最も一般的な医学用語を使用する方法を理解する。 下記歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)を満たすことを目的としている: D 臨床歯学 D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療 D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識 E 診察・診断と治療技能 E-6 多職種連携、チーム医療、地域医療 E-6-1 歯科専門職間の連携と多職種連携、チーム医療							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/6	17:15-18:00	オンデマンド	医学用語の基礎	オンデマンド読解課題	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな	医学用語がどのように構成されているかを理解する。
2	4/10	17:15-18:00	オンデマンド	医学用語の基礎(続き)	オンデマンド理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイ

						央子, 金森 ゆうな	ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
3	4/13	17:15-18:00	オンデマ ンド	色/大きさ/軸/領域	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
4	4/17	17:15-18:00	オンデマ ンド	色/大きさ/軸/領域(続 き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
5	4/20	17:15-18:00	オンデマ ンド	心臓血管系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
6	4/24	17:15-18:00	オンデマ ンド	心臓血管系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
7	5/8	17:15-18:00	オンデマ ンド	呼吸器系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
8	5/11	17:15-18:00	オンデマ ンド	呼吸器系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
9	5/15	17:15-18:00	オンデマ ンド	消化器系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
10	5/18	17:15-18:00	オンデマ ンド	消化器系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
11	5/22	17:15-18:00	オンデマ ンド	目、耳、鼻、喉	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR	割り当てられたト ピックの基本的な

						OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
12	5/25	17:15-18:00	オンデマ ンド	目、耳、鼻、喉(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
13	5/29	17:15-18:00	オンデマ ンド	腫瘍学用語	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
14	6/1	17:15-18:00	オンデマ ンド	腫瘍学用語(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
15	6/5	17:15-18:00	オンデマ ンド	期末テスト	WebClass での期末試験	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	複数選択、単語リ スト 1 ~ 7

授業方法

オンデマンドの読書課題、それに続く演習とクイズを Science Tokyo LMS で実施

授業内容

医療従事者に必要な基本的な医学用語をオンデマンドで学習する。

各モジュールは 2 週間で構成:

- 1) on-demand reading/listening
- 2) on-demand comprehension check and vocabulary quiz

成績評価の方法

成績は、オンデマンドのコース コンテンツを視聴/読み、期限までに演習とクイズを完了したか否かに基づいて決定される(50%)。
また、最終試験(学習内容理解度テスト)が実施される(50%)。

成績評価の基準

課題・クイズ: 50%

期末試験: 50%

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+, A, B, C, または D) で評価される。

D は不合格となり、単位は付与されない。

A+: 100-90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した

A: 89-80 / 当該科目の到達目標を全て達成した

B: 79-70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した

C: 69-60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した

D: 59-0 / 当該科目の到達目標を達成していない

準備学習等についての具体的な指示 オンデマンドの講義を学習し、新しい用語を調べた後、次のレッスンに演習・理解度テストを行う。締め切りを待つ守ること。 最終試験は、コースの最後に行う Science Tokyo LMS 上の多肢選択式テスト(50 問)であり、コースの 7 つの語彙リストにある医学用語の理解を問うテストである。
試験の受験資格 オンデマンド課題の 2/3 以上を修了した学生を対象に、期末試験を実施する。 (指定された期間内に Science Tokyo LMS で試験を受験すること。)
モジュールの単位判定 1 unit
教科書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する。
参考書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する。
履修上の注意事項 各モジュールを期限内に完了すること。 東京科学大学学生の懲戒等に関する規程(抜粋) (定期試験等における不正行為) 第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いとは別に定める。 2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。
備考 用語を、コースのディスカッション、研究、臨床等で積極的に活用すること。 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先: メールにて面談の日程を調整すること Janelle Moross (モロス) moross.j.1ee3@misct.ac.jp (関奈央子 sekin.03@misct.ac.jp)

時間割番号	021b70						
科目名	System-based medical terminology II			科目ID			
担当教員	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな[JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3～6	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目コマ数: 15 必要自習時間: 30 時間 授業形態: オンデマンド 医学用語は、研究論文や最新の技術等を理解するために必要である。 このコースでは、人間の臓器に関連する基本的な医学用語を学習する。 Science Tokyo LMS コースに配信される課題: Science Tokyo LMS の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。当該課題を定められた期間内に履修すること。							
主な講義場所 学習はすべて Science Tokyo LMS で行う。 (このコースには講義はありません。) オンデマンド							
授業の目的、概要等 演習を通じて、学生は英語と日本語の医学用語に関する知識と、英語の理解力の向上をはかる。 System-based Medical Terminology I の続編であるこのコースでは、学生はオンデマンド教材(読書課題と演習)を通じてより高度な英語の医学用語を学び、その後、Science Tokyo LMS で提供されるクイズでスキルをテストする。							
授業の到達目標 コース終了時には、学生は医学用語の 3 つの主要部分、接頭辞/語源/接尾辞、および対象とするシステムで最も一般的な医学用語を使用する方法を理解する。 下記歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)を満たすことを目的としている: D 臨床歯学 D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療 D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識 E 診察・診断と治療技能 E-6 多職種連携、チーム医療、地域医療 E-6-1 歯科専門職間の連携と多職種連携、チーム医療							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/29	17:15-18:00	オンデマンド	血液と体液	オンデマンドの読解課題	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接尾辞を理解します。
2	10/2	17:15-18:00	オンデマンド	血液と体液(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイズ&語彙クイズ

						ゆうな	で構成される多肢選択クイズ。
3	10/5	17:15-18:00	オンデマンド	外皮系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接尾辞を理解します。
4	10/9	17:15-18:00	オンデマンド	外皮系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイズ&語彙クイズで構成される多肢選択クイズ。
5	10/12	17:15-18:00	オンデマンド	内分泌系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接尾辞を理解します。
6	10/16	17:15-18:00	オンデマンド	内分泌系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイズ&語彙クイズで構成される多肢選択クイズ。
7	10/19	17:15-18:00	オンデマンド	泌尿器系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接尾辞を理解します。
8	10/23	17:15-18:00	オンデマンド	泌尿器系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイズ&語彙クイズで構成される多肢選択クイズ。
9	10/26	17:15-18:00	オンデマンド	男性生殖器系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接尾辞を理解します。
10	10/30	17:15-18:00	オンデマンド	男性生殖器系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供される単語リストに基づく記事理解クイズ&語彙クイズで構成される多肢選択クイズ。
11	11/2	17:15-18:00	オンデマンド	女性の生殖器系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈	割り当てられたトピックの基本的な接頭辞、語根、接

						央子, 金森 ゆうな	尾辞を理解します。
12	11/6	17:15-18:00	オンデマ ンド	女性の生殖器系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
13	11/9	17:15-18:00	オンデマ ンド	筋骨格系	オンデマンドの読解課題	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	割り当てられたト ピックの基本的な 接頭辞、語根、接 尾辞を理解しま す。
14	11/13	17:15-18:00	オンデマ ンド	筋骨格系(続き)	オンデマンドの理解度チェックと語 彙クイズ	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS で提供され る単語リストに基 づく記事理解クイ ズ&語彙クイズ で構成される多 肢選択クイズ。
15	11/20	17:15-18:00	オンデマ ンド	期末テスト	WebClass での期末試験	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	複数選択、単語リ スト 8~14

授業方法

オンデマンドの読書課題、それに続く演習とクイズを Science Tokyo LMS 上で実施する

授業内容

医療従事者に必要な基本的な医学用語をオンデマンドで学習する。

各モジュールは 2 週間で構成:

- 1) on-demand reading/listening
- 2) on-demand comprehension check and vocabulary quiz

成績評価の方法

成績は、オンデマンドのコース コンテンツを視聴/読み、期限までに演習とクイズを完了したか否かに基づいて決定される(50%)。さらに、学習内容の理解度をテストする最終試験が実施される(50%)。

成績評価の基準

セクションクイズ: 50%

期末試験: 50%

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+, A, B, C、または D) で評価される。D は不合格となり、単位は付与されない。

A+: 100-90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した

A: 89-80 / 当該科目の到達目標を全て達成した

B: 79-70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した

C: 69-60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した

D: 59-0 / 当該科目の到達目標を達成していない

準備学習等についての具体的な指示

オンデマンドの講義を学習し、新しい用語を調べた後、

次のレッスンに演習・理解度テストを行う。締め切りを待つ守ること。 最終試験は、コースの最後に行う Science Tokyo LMS 上の多肢選択式テスト(50 問)であり、コースの 7 つの語彙リストにある医学用語の理解を問うテストである。
試験の受験資格 オンデマンド課題の 2/3 以上を修了した学生を対象に、期末試験を実施する。 (指定された期間内に Science Tokyo LMS で試験を受験すること。)
モジュールの単位判定 1 unit
教科書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する
参考書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する
他科目との関連 System-based Medical Terminology I の続編である。
履修上の注意事項 選択必修科目の1つである。歯学科は 3-6 年のいずれかの学年(後期)で履修可能である。 各モジュールを期限内に完了すること。
備考 用語を、コースのディスカッション、研究、臨床等で積極的に活用すること。 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 メールにて面談の日程を調整すること Janelle Moross (モロス) moross.j.lee3@misctac.jp (関奈央子 seki.n.03@misctac.jp)

時間割番号	021b80				
科目名	IMRAD Format Presentation in English			科目ID	
担当教員	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな[JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	3～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目

科目コマ数: 10(前期:10 または後期:10)
必要自習時間:35 時間
授業形態:オンデマンド型演習(10 セッション)。教材学習に加え、課題・復習・演習および最終回の課題を含む授業外学修約 35 時間。
IMRaD 形式は研究発表の執筆と発表の標準であり、この形式を学ぶことで研究論文や発表をよりよく理解し、執筆できるようになることを目指す。

主な講義場所
Science Tokyo LMS 上で行う。 (オンデマンド)

授業の目的、概要等

研究論文の執筆と発表の基本的な IMRaD 構造（導入、方法、結果、考察）を学習する。

学生は読解力テストと理解力テストを完了し、指定された研究論文に関する最終的な PowerPoint スライド(課題)を提出する。

授業の到達目標

コース修了時に、
研究論文の執筆や発表で使われる基本的な IMRAD 構造を理解し、活用することができる。

歯学教育モデルコアカリキュラム「アクティブラーニング戦略」(6) 研究会での発表と論文執筆、および RE-06「科学的考察に基づいて研究を発表できる」の達成を目指す。

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オンデマンド	研究発表の構造	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
2	4/16	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オンデマンド	研究論文の序論セクション	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
3	4/23	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オンデマンド	研究論文の方法セクション	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
4	5/7	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オンデマンド	研究論文結果セクション	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森	

						ゆうな	
5	5/14	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	研究論文の議論セクシ ョン	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
6	5/21	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	研究論文の分析	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
7	5/28	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	割り当てられた研究論 文の概要	A4 サイズ 1~2 ページ(英語)	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	PowerPoint スラ イドを作成する準 備として、研究記 事のセクションを 整理します。
8	6/4	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	プレゼンテーションの基 本	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
9	6/11	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	パワーポイントスライド を準備する		JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
10	6/18	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	パワーポイントスライド を提出する(期末試験)	学習した内容に沿って、IMRaD 形 式で提供された記事を PPT スラ イドに要約します。	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	IMRaD 形式に関 する学習した知 識を展示します。 研究論文から情 報を抽出します。
11	10/8	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	研究発表の構造	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
12	10/15	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	研究論文の序論セクシ ョン	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
13	10/22	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン デマンド	研究論文の方法セクシ ョン	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	
14	10/29	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型), オン	研究論文結果セクション	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈	

			デマンド			央子, 金森 ゆうな	
15	11/5	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	研究論文の議論セクショ ン	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
16	11/12	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	研究論文の分析	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
17	11/19	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	割り当てられた研究論文の概要	A4 サイズ 1~2 ページ(英語)	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	PowerPoint スライドを作成する準備として、研究記事のセクションを整理します。
18	11/26	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	プレゼンテーションの基本	研究発表の構造	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
19	12/3	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	パワーポイントスライドを準備する		JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	
20	12/10	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期 型), オン デマンド	パワーポイントスライドを提出する(期末試験)	学習した内容に沿って、IMRaD 形式で提供された記事を PPT スライドに要約します。	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	IMRaD 形式に関する学習した知識を展示します。研究論文から情報を抽出します。

授業方法

オンデマンドの読解課題、クイズ、課題を Science Tokyo LMS にて提供する。

*課題とクイズにはそれぞれ完了期限がある。

授業内容

IMRaD 形式の各セクション、導入、方法、結果、考察は、その週の article にて説明する。

記事を読み、理解度チェックのクイズを完了し、課されている場合は締め切りまでにそのセクションの課題を提出すること。

成績評価の方法

成績は、期限内に課題を完了することと、

各主要セクションの理解度テストに基づいて評価される。

研究スライドは、レッスン 1 で示されたガイドラインと、提供された研究記事の正しい解釈に基づいて評価される。

成績評価の基準

オンデマンド課題(提出): 50%

小テスト: 50%

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+, A, B, C, または D) で評価されます。D は不合格となり、単位は付与されません。

A+: 100-90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した

A : 89-80 / 当該科目の到達目標を全て達成した B : 79-70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した C : 69-60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した D : 59-0 / 当該科目の到達目標を達成していない
準備学習等についての具体的な指示 オンデマンドコンテンツを読み、理解度テストを実施し、期限までに課題を提出すること。
試験の受験資格 読解力テストと理解力テストを完了し、 コース完了のために期末に課題(PowerPoint スライド)を提出する。
教科書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する。
参考書 Science Tokyo LMS に資料(授業に必要なマテリアル等)を提示する。
履修上の注意事項 各モジュールを期限内に完了すること。
備考 このコースで学んだことを研究論文の議論、執筆、プレゼンテーションに積極的に活用して、知識とコミュニケーションを向上させましょう。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 メールにて面談の日程を調整すること Janelle Moross (モロス) moross.j.1ee3@misct.ac.jp (関奈央子 seki.n.03df@misct.ac.jp)

時間割番号	021b90					
科目名	多職種連携Ⅱ			科目ID		
担当教員	鶴田 潤[TSURUTA Jiyun]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	0.5	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
授業回数 :8コマ(0.5 単位) 必要自習時間数:3時間 授業形式 :演習						
主な講義場所 MD タワー2F 鈴木章夫記念講堂ほか						
授業の目的、概要等 本科目では多職種連携教育を通し、「保健、医療、福祉、介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解しお互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働する能力」、「患者や利用者、家族、地域の重要な課題について、協働する関係者と共通の目標を設定する過程で、専門職としての互いの背景が異なることに配慮し、役割、知識、意見、価値を伝え合うことができる能力」、「自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、時に生じる職種間の葛藤にも適切に対応しながら互いの知識・技術を活かし合い、職種としての役割を全うできる能力」の修得を目指す。 特に、多職種連携Ⅱでは、患者や家族等の課題において、他学科学生との協働学習を通じ、自他の役割や思考等を踏まえ学生同士の信頼関係を構築し、時に生じる葛藤にも対応し、互いの意見交換を円滑に進めるために必要な課題を認識することを目指す。						
授業の到達目標 ① 自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。 ② 他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。 ③ 自らの価値観や言動について、他学科の学生との関係性の中で相対化できる。 ④ 自分の職種の役割を他職種及び他の医療系学部の学生に説明できる。 ⑤ 病院・診療所・施設等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた他職種の役割を理解している。 ⑥ 他学科学生との演習活動の中で、円滑な協働を進めるために、自らの役割を果たすことができる。						
R4 歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-1-3 チーム医療 患者中心のチーム医療の重要性を理解し、他の医療従事者との連携を身に付ける。 学修目標: C-1-3-1 患者中心のチーム医療の意義を理解している。 C-1-3-2 医療チームや各構成員(歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、その他の医療職)の役割分担と連携、責任体制を理解している。 C-1-3-3 医療、保健、福祉、介護における多職種連携と歯科医師の役割を理解している。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	5/22	08:50-09:35	鈴木章夫 記念講堂	・オリエンテーション、グループワーク1、講演 第1部	・実習オリエンテーション、自己紹介、学科専攻紹介、AYA 世代について	鶴田 潤
2	5/22	09:45-10:30	鈴木章夫 記念講堂	・オリエンテーション、グループワーク1、講演 第1部	・実習オリエンテーション、自己紹介、学科専攻紹介、AYA 世代について	鶴田 潤
3	5/22	10:45-11:30	鈴木章夫 記念講堂	・講演 第2部、グループワーク2	・AYA 世代の闘病、講演を踏まえたグループディスカッション	鶴田 潤
4	5/22	11:40-12:25	鈴木章夫 記念講堂	・講演 第2部、グループワーク2	・AYA 世代の闘病、講演を踏まえたグループディスカッション	鶴田 潤

5	5/22	13:30-14:15	鈴木章夫 記念講堂	・講義、グループワーク 3	・多職種連携について、仮想シナ リオを用いたグループディスカッ ション	鶴田 潤
6	5/22	14:25-15:10	鈴木章夫 記念講堂	・講義、グループワーク 3	・多職種連携について、仮想シナ リオを用いたグループディスカッ ション	鶴田 潤
7	5/22	15:25-16:10	鈴木章夫 記念講堂	・発表会、グループワー ク4、総括	・患者を支える多職種連携、実習 全体を踏まえたグループディスカ ッション、実習のまとめ	鶴田 潤
8	5/22	16:20-17:05	鈴木章夫 記念講堂	・発表会、グループワー ク4、総括	・患者を支える多職種連携、実習 全体を踏まえたグループディスカ ッション、実習のまとめ	鶴田 潤

授業方法

授業形式は、講義・他学科学生のワークショップ形式の演習を行う。

医学部・歯学部 of 全学科全専攻の学生が参加し、グループに分かれて討論を行う。

課題の提出を Science Tokyo LMS にて行うこと。

授業内容

- ・チーム医療に関する授業を、患者講師含めた内容で実施する。
 - ・受講生は、授業に出席し、演習に参加する。
 - ・演習発表資料、個人事後課題などの課題を提示された期限までに提出すること。
 - ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。
- これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
- ・1日で行われる授業のため、その欠席の際には、事情を考慮した対応を図ることがある。

成績評価の方法

成績は、グループワークへの参加態度(20点)、レポート等の個人事後課題提出(80点)により評価する。
なお、1日の取り組みを欠席した場合には、代替課題による成績評価を行う。

成績評価の基準

以下の1・2の合計点数が60点以上を合格とする。

1. 参加態度

到達目標1～3に関連し、参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。

担当チューターによる評価を基本根拠とする。20点満点

2. 課題提出物

期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。80点満点

1日の取り組みを欠席した場合の代替課題による成績評価については、上限を60点とする。

準備学習等についての具体的な指示

資料の配布、Science Tokyo LMS へのアップロード等があった場合は、各自視聴すること。

課題の提出を Science Tokyo LMS にて行うこと。

試験の受験資格

2026 年 5 月 22 日(金)終日に実施される8コマ全ての授業への出席を成績(試験)評価対象の基本とする。

他科目との関連

多職種連携 I・Ⅲ への関連科目である。

履修上の注意事項

積極的に参加すること。課題を提出すること。

備考

東京医科歯科大学に入学した学生の、専門にかかわらずに全員が参加する科目である。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

鶴田 潤 tsurutaj.a664@misctac.jp

グループ参加度評価・個人課題評価点の割合を変更した。

時間割番号	021c00						
科目名	臨床歯学イントロダクション			科目ID			
担当教員	若林 則幸, 和田 淳一郎[WAKABAYASHI Noriyuki, WADA Junichiro]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
臨床イントロダクション(講義) 科目コマ数(授業コマ数+試験コマ数):20 必要自習時間:2 時間 授業形態:講義(遠隔同期, 最終日のみ対面による TBL) ※一部, 遠隔非同期あり.							
主な講義場所 講義:Zoom による遠隔同期型授業(一部, 非同期) 試験:最終日のみ対面形式で試験を兼ねた TBL を行う.							
授業の目的、概要等 主要な歯科疾患とそれに対する治療方法の特徴, および治療の流れを理解する.							
授業の到達目標 1)臨床歯学の主要専門用語の理解/表記/発音ができる(C-3-1). 2)患者中心の医療とインフォームドコンセントについて説明できる(A-1-2). 3)患者の要望や懸念, 社会的背景を認識することができる(A-1-2; A-1-3). 4)歯科臨床科目の対象とする疾病の特徴を説明できる(B-1). 5)歯科臨床科目の治療の特徴を説明できる(E-1-1). 6)各歯科臨床科目のつながりと治療の流れを説明できる(E-1-1). 7)臨床上の疑問を定義でき, 治療のエビデンスを認識できる(E-1-1). 8)患者の全身状態と歯科診療との関連の強さを知る(A-1-3). 9)歯科臨床におけるチーム医療の重要性を知る(A-5-1). 10)医療の質と医療アクセスに関する知識を身につける(A-6-1).							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/6	08:50-09:35	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -1	ガイダンス・部分床義歯学	和田 淳一郎	Zoom による遠隔同期授業です. ミーティング ID: 938 8549 2527 パスコード: QvL9aE
2	4/6	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -2	クラウン・ブリッジ補綴学	野崎 浩佑	Zoom による遠隔同期授業です. ミーティング ID: 947 4318 8245 パスコード: ekvN3F
3	4/6	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -3	全部床義歯学・高齢者歯科学	駒ヶ嶺 友梨子, 本村 一朗	Zoom による遠隔同期授業です. ミーティング ID: 979 2309 9014 パスコード: 3EVHC2

4	4/6	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -4	インプラント補綴学	下岸 将博	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 957 7471 9660 パスコード: 5eghmE
5	4/6	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -5	顎顔面補綴学	村瀬 舞	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 979 2371 7895 パスコード: G7QT9U
6	4/6	14:25-15:10	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -6	保存修復学	畑山 貴志	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 926 5285 1114 パスコード: bN8eMg
7	4/6	15:25-16:10	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -7	歯内療法学	木村 俊介	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 951 0015 3650 パスコード: intro
8	4/6	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -8	歯周病学	森田 和機	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 937 5170 5436 パスコード: XKBvs1
9	4/7	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	臨床イントロダクション -9	顎顔面外科学	原園 陽介	LMS 内の動画を 視聴してくださ い。 4/13(月)ま でに動画視聴を 完了すること。 なお、動画視聴は 動画視聴履歴に 基づき確認を行 う。
10	4/7	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -10	顎口腔腫瘍外科学	釘本 琢磨	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 962 3978 1346 パスコード: MwhzU8
11	4/7	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -11	歯科麻酔学	前田 茂	LMS 内の動画を 視聴してくださ い。 4/13(月)ま でに動画視聴を 完了すること。 なお、動画視聴は

							動画視聴履歴に基づき確認を行う。
12	4/7	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -12	障害者歯科学	岩淵 佑介	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 949 3977 5911 パスコード: WGXii5
13	4/13	08:50-09:35	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -13	小児歯科学	大石 敦之	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 933 6142 0838 パスコード: B328KR
14	4/13	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -14	顎関節治療学	石山 裕之	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 934 5456 0088 パスコード: 6n0xX5
15	4/13	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -15	咬合機能矯正学	石田 雄之	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 922 6391 2323 パスコード: QMdV59
16	4/13	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	臨床イントロダクション -16	顎顔面矯正学	東堀 紀尚	Zoomによる遠隔 同期授業です。 ミーティング ID: 981 7220 4191 パスコード: 3m0WKf
17-18	4/14	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	臨床イントロダクション -17 臨床イントロダク ション-18	TBL(個人回答) TBL(グループ 回答)	和田 淳一郎	本 TBL は期末試 験を兼ねます。 必ず現地参加す ること。 本 TBL は期末試験 を兼ねます。 必 ず現地参加する こと。
19-20	4/14	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	臨床イントロダクション -19 臨床イントロダク ション-20	TBL(教員によるフィードバック1) TBL(教員によるフィードバック2)	和田 淳一郎 野崎 浩佑 駒ヶ嶺 友梨 子, 本村 一 朗, 下岸 将 博, 村瀬 舞 畑山 貴志 木村 俊介, 森田 和機	本 TBL は期末試 験を兼ねます。 必ず現地参加す ること。

						岩崎 拓也 釘本 琢磨 前田 茂 岩 淵 佑介, 大 石 敦之, 石 山 裕之, 石 田 雄之, 東 堀 紀尚	
授業方法 Online: Zoom Meeting, LMS 講義は Zoom を用いたオンライン形式(一部, LMS を用いた遠隔非同期形式)とし, TBL の際には LMS を併用する.							
授業内容 臨床系分野の診療内容の紹介を行う. 今後の学部教育での各論への導入としての役割を本授業に期待している.							
成績評価の方法 ・ユニットの合格判定には, グループ学習の成績(個人テストおよびグループテスト)を基にして, 出席日数及び平常学習態度等が評価に加味される.							
成績評価の基準 ・ユニットの合格判定には最終日に行われる, グループ学習の成績(個人テストおよびグループテスト)において 60 点以上を獲得することが合格の条件となり, 出席日数及び平常学習態度等に応じた加点を行う.							
準備学習等についての具体的な指示 事前学習として必要な資料がある場合は, 授業 3 日前までに LMS 上に掲示するので, 必ず閲覧し, 指示に従うこと.							
試験の受験資格 ・合格には3分の2以上の授業の出席を必要とする. ・遠隔同期型授業では, 授業開始前までに Zoom に参加すること. 開始後に参加した場合, 開始 10 分後までは遅刻扱いとし, 10 分 1 秒後以降は欠席扱いとする(授業中の参加者の確認および出席ログ情報をもとに確認する). ・遠隔非同期型授業については, 最終日の前日までに, 講義動画の時間以上の視聴履歴が LMS(臨床歯学イントロダクション / 【021c00】)で確認されれば出席とし, それ以外は欠席とする. なお, 必ず, 視聴完了後, 30 秒程度経ってから, 画面左上の「終了」ボタンをクリックして視聴終了すること(「閉じる」ボタン(×)で画面を閉じて終了してしまうと, 視聴記録が残らず欠席扱いとなってしまうため注意すること). ・合格判定を得られなかった学生はユニット未履修とし, 次年度に当該ユニットを再履修しなければならない.							
構成ユニット 01 臨床歯学イントロダクション							
モジュールの単位判定 ・最終日に実施されるグループ基盤学習(TBL)の成績及び平常学習態度で判定される. ・TBL の成績は, 個人:グループが 5:5 で換算される. ・TBL は LMS(臨床歯学イントロダクション / 【021c00】)を用いて実施する.							
教科書 歯科衛生士のための歯科臨床概論／松井, 恭平, 1947-森崎, 市治郎, 1949-白鳥, たかみ,松井恭平, 森崎市治郎, 白鳥たかみ, 船奥律子 編:医歯薬出版, 2016.3							
参考書 PMI ペリオドンタルモチベーションインタビューング：患者さんのやる気が変わる!スタッフも楽しくなる!歯周治療を成功に導く世界標準のコミュニケーション技法：医療コミュニケーションの専門家による確かな解説と歯周病専門医による 8 つの実例でサクサク理解／新田, 浩 (歯科医),礪波, 健一,土岡, 弘明,斎田, 寛之,新田浩, 礪波健一, 土岡弘明監著：斎田寛之の[ほか] 著:クインテッセンス出版, 2020.2 歯科衛生士・歯科助手おしごとハンドブック：動画でサクサク理解本でしっかり確認：今必要な知識や手順がこの 1 冊ですぐ身につく!／岩田, 隆紀,水谷, 幸嗣,岩野, 義弘,松浦, 孝典,岩田隆紀, 水谷幸嗣, 岩野義弘, 松浦孝典 編著:クインテッセンス出版, 2022.3							

他科目との関連

D3 以降に受講する、臨床系科目の授業を理解する上での土台作りという役割を期待している。

履修上の注意事項

Zoom を用いたオンライン形式、LMS を用いた遠隔非同期形式ともに、「試験の受験資格」に記載された内容を熟読し、最終日の TBL 受験資格を喪失しないよう、最新の注意を払うこと。

備考

最終日に、成績評価を兼ねた TBL を行う。

学生から「臨床のことをほとんど知らない段階において、本講義は臨床の入り口として有用である」というフィードバックがあり、引き続き、「臨床の入り口」としての役割を果たせるような内容で授業を構成する予定である。

担当教員：和田淳一郎 wadajun.rpro(@)tmd.ac.jp D 棟 11 階生体補綴歯科学分野第4研究室

※Email は上記アドレス(@)の部分を変えてください。

オフィスアワー：オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	021c10				
科目名	感染と生体防御(免疫学・細菌学)			科目ID	
担当教員	鈴木 敏彦, 片桐 さやか[SUZUKI Toshihiko, KATAGIRI Sayaka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	4
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:72+試験 授業形態:講義 48(対面および遠隔)、演習・実習 24(対面及び遠隔)					
主な講義場所 7 号館講義室、1 号館 6 階基礎実習室、3 号館 5 階医学科実習室					
授業の目的、概要等 生体防御機構としての免疫反応を理解する。また感染症の原因となる病原生物の基本的性状および病態を理解する。					
授業の到達目標 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(2022 年度改訂版)に関連する学修目標 A-4 感染と免疫 微生物の感染機構と宿主の生体防御機構について理解する。 A-4-2 免疫 生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、腫瘍免疫、アレルギー、免疫不全症・自己免疫疾患を理解する。 学修目標 A-4-2-1 自然免疫を担当する細胞の種類と機能を理解している。 A-4-2-2 獲得免疫を担当する細胞の種類と機能を理解している。 A-4-2-3 抗原提示機能を理解している。 A-4-2-4 粘膜免疫を理解している。 A-4-2-5 免疫寛容と移植免疫を理解している。 A-4-2-6 アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症の種類、発症機序及び病態を理解している。 A-4-2-7 ワクチンの意義と種類、特徴、接種法及び副反応を理解している。 A-4-1 微生物と感染 微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。 学修目標 A-4-1-1 細菌、ウイルス、真菌及び原虫の基本的な構造と性状を理解している。 A-4-1-2 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を理解している。 A-4-1-3 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を理解している。 A-4-1-4 新興・再興感染症を理解している。 A-4-1-5 常在微生物叢の性状とヒトに対する感染機構を理解している。 A-4-1-6 感染症における化学療法の目的と原理、化学療法薬の作用機序を理解している。 A-4-1-7 細菌の薬剤耐性機序を理解している。 A-4-1-8 滅菌と消毒の意義、方法及び原理を理解している。 A-4-1-9 院内感染でみられる感染機構及び問題となる微生物を理解している。 その他、コア・カリキュラムに記載されていない学修目標: 1. 細菌の遺伝発現の制御機構について説明できる。 2. 細菌の遺伝子伝播の特徴とその機構と病原性との関わりについて説明できる。					

3. 共生細菌とそれが関与する宿主免疫、慢性疾患について説明できる.
4. 細菌の基本的な染色を実施できる.
5. 細菌の分離培養とその細菌の鑑別ができる.
6. ウイルス感染症の診断方法の基礎を理解している.

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/8	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	免疫システム概論		片桐 さやか	到達目標:A-4-2
2	4/8	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	リンパ組織とリンパ球循環		林 陽平	到達目標: A-4-2-1, A-4-2-2
3	4/8	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	免疫担当細胞		LIN PEIYA	英語による講義 到達目標: A-4-2-1, A-4-2-2
4	4/8	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	T,Bリンパ球の分化と多様性の獲得		LIN PEIYA	英語による講義 到達目標: A-4-2-1, A-4-2-2
5	4/9	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	抗体の役割		LIN PEIYA	英語による講義 到達目標: A-4-2-2, A-4-2-3
6	4/9	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	抗原提示細胞とMHC		林 陽平	到達目標: A-4-2-3
7	4/9	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	T細胞のエフェクター機能		片桐 さやか	到達目標: A-4-2-3
8	4/9	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	免疫寛容		片桐 さやか	到達目標: A-4-2-5
9	4/16	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	感染免疫(1)先天免疫 (2)適応免疫		林 陽平	到達目標: A-4-2-5
10	4/16	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	感染免疫(3)ワクチン		林 陽平	到達目標: A-4-2-5
11	4/16	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	アレルギーおよび自己免疫		片桐 さやか	到達目標: A-4-2-6
12-15	4/21	08:50-12:25	歯学部基礎実習室	免疫学実習(1)	DNA抽出とPCR法について	LIN PEIYA, 片桐 さやか, 林 陽平	課題提示による アクティブラーニング
16-19	4/22	08:50-12:25	歯学部基	免疫学実習(2)	電気泳動により遺伝子多型の検出	LIN PEIYA	課題提示による

			礎実習室			片桐 さやか、 林 陽平	アクティブラーニ ング
20-23	5/12	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	免疫学実習(3)	実験結果のまとめ	LIN PEIYA 片桐 さやか、 林 陽平	課題提示による アクティブラーニ ング
24-25	5/13	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	細菌感染と宿主免疫応 答	ZOOM 同期講義 ミーティング ID:913 0269 8918 パスコード: 8xg51v	永井 重徳	到達目標: A-4-2-4
26-27	5/13	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	粘膜免疫	ZOOM 同期講義 ミーティング ID:913 0269 8918 パスコード: 8xg51v	樗木 俊聡	到達目標: A-4-2-4
28	5/19	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	感染症と微生物学の歴 史		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-4
29	5/19	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	微生物の多様性と構造		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1
30	5/19	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	バイオセーフティ		鈴木 敏彦	
31	5/19	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	消毒と滅菌		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-8 5/14 確認テスト
32	5/20	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌の構造と機能		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1
33	5/20	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌の増殖と生理		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1 5/20 確認テスト
34	5/20	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌の分子遺伝学(1)		芦田 浩	到達目標:1, 2
35	5/20	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌の分子遺伝学(2)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-7, 1, 2
36	5/21	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	共生細菌が関与する宿 主免疫、慢性疾患		芦田 浩	到達目標: A-4-1-5, 3
37	5/21	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌感染と発症		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2
38	5/27	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	細菌の病原性		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2 5/21 確認テスト
39	5/27	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	グラム陽性菌と感染症 (1)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
40	5/27	10:45-11:30	7号館2 階歯学科	グラム陽性菌と感染症 (2)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2,

			講義室 3				A-4-1-3, A-4-1-9
41	5/27	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陽性菌と感染症 (3)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3 5/28 確認テスト
42	6/2	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陰性菌と感染症 (1)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
43	6/2	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陰性菌と感染症 (2)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
44	6/2	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陰性菌と感染症 (3)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
45	6/2	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陰性菌と感染症 (4)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
46	6/3	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	グラム陰性菌と感染症 (5)		芦田 浩	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
47	6/3	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	細胞内寄生菌と感染症		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-2, A-4-1-3
48	6/3	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	化学療法と薬剤耐性		岡野 徳壽	到達目標: A-4-1-6, A-4-1-7
49	6/3	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室 3	真菌と感染症		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
50	6/4	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	口腔内微生物		岡野 徳壽	到達目標: A-4-1-5
51	6/4	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	口腔内微生物と疾患		岡野 徳壽	到達目標: A-4-1-3, A-4-1-5
52-55	6/9	08:50-12:25	5階学生 実習室	細菌学実習 1 日目	細菌の培養、アルコールによる殺菌	鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡 野 徳壽	課題提示による アクティブラー ニング 到達目標: 4, 5
56-59	6/10	13:30-17:05	5階学生 実習室	細菌学実習 2 日目	培地の観察、グラム染色、チー ル・ネールゼン染色	鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡 野 徳壽	課題提示による アクティブラー ニング 到達目標: 4, 5
60	6/16	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	ウイルスの構造		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1
61	6/16	09:45-10:30	7号館2	ウイルスの増殖と DNA		鈴木 敏彦	到達目標:

			階歯学科 講義室 3	ウイルスと感染症(1)			A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
62	6/16	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	DNA ウイルスと感染症 (1)つづき		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3 6/17 確認テスト
63	6/17	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	DNA ウイルスと感染症 (2)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
64	6/17	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	DNA ウイルスと感染症 (3)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
65	6/17	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	RNA ウイルスと感染症 (1)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3 6/18 確認テスト
66	6/23	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	RNA ウイルスと感染症 (2)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
67	6/23	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	RNA ウイルスと感染症 (3)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3
68	6/23	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室 3	RNA ウイルスと感染症 (4)		鈴木 敏彦	到達目標: A-4-1-1, A-4-1-2, A-4-1-3 6/24 確認テスト
69-72	6/24	13:30-17:05	5階学生 実習室	ウイルス学実習	ウイルス感染症に対する抗原検 査、抗体検査	鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡 野 徳壽	課題提示による アクティブラーニ ング 到達目標: 6
73	7/7	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	感染と生体防御試験(感 染症部分)		鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡 野 徳壽	
74	7/9	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	感染と生体防御試験(免 疫学部分)		LIN PEIYA, 片桐 さやか, 林 陽平	
75	7/24	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	感染と生体防御 再試 験(免疫学部分)		LIN PEIYA, 片桐 さやか, 林 陽平	
76	7/24	09:45-10:30	7号館2 階歯学科	感染と生体防御 再試 験(感染症部分)		鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡	

			講義室 3			野 徳壽	
授業方法 感染と免疫による生体防御の仕組みに関する基礎的な講義を行う。それに関連する生命科学の基礎的な実験手法について、原理の説明と実習を通して取得する。							
授業内容 免疫学、感染症総論、細菌学、ウイルス学の順にそれぞれ授業を進める。前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。							
成績評価の方法 感染症関連部分は 2026 年 7 月 7 日(火)に、免疫学部分は 2026 年 7 月 9 日(木)に筆記試験を行い、6:4 の比率により合計点を算出する。さらに、実習レポート(提出締め切りは実習において提示)の成績を加味して総括的評価を行う。 実習は限られた日数で実習を実施するため、全日程の参加を求める。 また、再試験は1回のみしか行わない。							
準備学習等についての具体的な指示 授業の範囲をシラバスに記載しているため、当該授業の前に、相当する部位を予習しておくこと。また、授業では全範囲について説明することが時間的に難しいため、試験時には、それぞれの担当教員からあらかじめ範囲を指示することがある。							
試験の受験資格 履修者全員が受験資格を有す。定期試験を受験するためには講義時間の 3 分の 2 の出席が必要。実習全てに出席しなければならない。							
構成ユニット							
教科書 標準微生物学／錫谷 達夫,松本 哲哉, 1962-錫谷達夫, 松本哲哉 編集:医学書院, 2024.2 口腔微生物学・免疫学／川端 重忠,小松澤 均,大原 直也,寺尾 豊,川端重忠, 小松澤均, 大原直也, 寺尾豊 編集,川端重忠 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2021.12							
備考 AL として実習においてグループワークと討論を実施する。 【前年度からの改善点/工夫点】 オンライン授業から対面授業への希望があることから、可能な限り対面授業とする 科目責任者:鈴木敏彦 オフィスアワー:火曜日午後 5 時 連絡先:suzuki.bact@tmd.ac.jp 副科目責任者:片桐さやか オフィスアワー:月曜日から金曜日 10-18 時 連絡先:katagiri.peri@tmd.ac.jp							

時間割番号	021c20				
科目名	病因と病態(病理学)			科目ID	
担当教員	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾[ISHIMARU Naozumi, FUKAWA Yuki, USHIO Aya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	3.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目単位:3.5 単位 講義:44 コマ、実習:24 コマ 授業形態:講義、実習					
主な講義場所 対面講義、遠隔講義に関しては、日程表を見て講義場所・時間帯に間違いのないように気をつけて授業に参加すること。実習は対面で実習室にて実施する。					
授業の目的、概要等 全身および口腔の疾患の成り立ちについて、総論的な知識を得るための授業を行う。実習では、全身および口腔の代表的な疾患における病理組織標本を観察することによって病態の理解を深める。歯科医師になるために特に必要な顎口腔領域の病理学を理解する。					
授業の到達目標 ・疾患の成り立ちについて、病因論、細胞組織傷害、循環障害、炎症、先天異常、腫瘍の各項目について総論的な知識を全身疾患をモデルとして自ら考え、理解できるようになる。 ・顎口腔領域の疾患の成り立ちと形態学的な特徴について、病理学的に理解できる。 (令和4年度コアカリ) ①A-5-1 病因論と先天異常 病因論と先天異常を理解する。 学修目標: A-5-1-1 染色体、遺伝子及び発生の異常を理解している。 A-5-1-2 環境と疾患の関係を理解している。 ②A-5-2 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 細胞傷害、組織傷害及び萎縮の原因と形態的所見を理解する。 学修目標: A-5-2-1 細胞傷害と組織傷害を理解している。 A-5-2-2 変性と関連疾患の病態を理解している。 A-5-2-3 疾患における壊死とアポトーシスを理解している。 A-5-2-4 萎縮と仮性肥大を理解している。 A-5-2-5 代謝障害と関連疾患の病態を理解している。 ③A-5-3 修復と再生 修復と再生の意義とこれらの形態的所見を理解する。 学修目標: A-5-3-1 修復と再生の機序と幹細胞の役割を理解している。 A-5-3-2 肥大と過形成を理解している。 A-5-3-3 化生を理解している。 A-5-3-4 創傷治癒の過程と関与する細胞を理解している。 A-5-3-5 器質化を理解している。 ④A-5-4 循環障害 循環障害の成因、形態及びその転帰を理解する。 学修目標:					

A-5-4-1 虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を理解している。
 A-5-4-2 出血の原因、種類及び転帰を理解している。
 A-5-4-3 血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を理解している。
 A-5-4-4 梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を理解している。
 A-5-4-5 浮腫の原因と転帰を理解している。
 A-5-4-6 ショックの成因と種類を理解している。

⑤A-5-5 炎症

炎症の概念、発症機序及び形態的特徴を理解する。

学修目標:

A-5-5-1 炎症の定義と機序を理解している。
 A-5-5-2 炎症に関与する細胞の種類と機能を理解している。
 A-5-5-3 滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を理解している。
 A-5-5-4 肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を理解している。
 A-5-5-5 炎症の全身反応を理解している。

⑥A-5-6 腫瘍

腫瘍の病因と病態を理解する。

学修目標:

A-5-6-1 腫瘍の定義、病因及び発生機序を理解している。
 A-5-6-2 腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を理解している。
 A-5-6-3 細胞異型と構造異型、腫瘍の組織学的分化度及び用語(前癌病変、上皮内癌、早期癌等)を理解している。
 A-5-6-4 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を理解している。
 A-5-6-5 腫瘍の組織学的分類と特徴を理解している。
 A-5-6-6 上皮性異形成を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	08:50-10:30	7号館2階歯学科講義室3	〈病理学総論〉病理序論、細胞組織傷害、変性	講義	石丸 直澄	対面
3-4	4/10	10:45-12:25	7号館2階歯学科講義室3	〈病理学総論〉内分泌障害、細胞死	講義	牛尾 綾	対面
5-6	4/17	08:50-10:30	遠隔授業(非同期型)	〈病理学総論〉循環障害	講義	布川 裕規	ウェブ(オンデマンド)
7-8	4/17	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	〈病理学総論〉炎症・免疫	講義	石丸 直澄	ウェブ(オンデマンド)
9-10	4/24	08:50-10:30	7号館2階歯学科講義室3	〈病理学総論〉自己免疫疾患	講義	牛尾 綾	対面
11-12	4/24	10:45-12:25	7号館2階歯学科講義室3	〈病理学総論〉先天異常(特別講義)勝部憲一	講義	勝部 憲一	対面
13-14	5/1	08:50-10:30	遠隔授業(非同期型)	〈病理学総論〉感染症	講義	布川 裕規	ウェブ(オンデマンド)

15-16	5/1	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	〈病理学総論〉肺の病理 (特別講義) 桐村進	講義	桐村 進	ウェブ(オンデマンド)
17-18	5/8	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期型)	〈病理学総論〉腫瘍総論	講義	石丸 直澄	ウェブ(オンデマンド)
19-20	5/8	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	〈病理学総論〉非上皮性腫瘍	講義	布川 裕規	ウェブ(オンデマンド)
21-22	5/15	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	〈病理学総論〉上皮性腫瘍	講義	牛尾 綾	対面
23-24	5/15	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉顎骨の病変、嚢胞	講義	布川 裕規	対面
25-28	5/26	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉う蝕、根尖性歯周炎 / 口腔領域の奇形	講義	中西 正一	対面
29-30	5/29	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期型)	〈口腔病理学〉歯周疾患、歯肉増殖症	講義	牛尾 綾	ウェブ(オンデマンド)
31-32	5/29	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	〈口腔病理学〉口腔粘膜疾患	講義	牛尾 綾	ウェブ(オンデマンド)
33-34	6/5	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉修復と再生(特別講義) 美島健二	講義	美島 健二	対面
35-36	6/5	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉全身疾患と口腔病変(特別講義) 勝部憲一	講義	勝部 憲一	対面
37-38	6/10	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	〈口腔病理学〉唾液腺非腫瘍性病変	講義	石丸 直澄	ウェブ(オンデマンド)
39-40	6/11	08:50-10:30	遠隔授業 (非同期型)	〈口腔病理学〉非歯源性腫瘍	講義	牛尾 綾	ウェブ(オンデマンド)
41-42	6/12	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉歯源性腫瘍	講義	布川 裕規	対面
43-44	6/12	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〈口腔病理学〉唾液腺腫瘍	講義	石丸 直澄	対面
45-48	6/19	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	〈総論実習〉(1)循環障害など	実習	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	対面
49-52	6/26	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	〈総論実習〉(2)炎症など	実習	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	対面
53-56	7/3	08:50-12:25	7号館1	〈総論実習〉(3)腫瘍	実習	石丸 直澄	対面

			階歯学科 講義室 1			布川 裕規 牛尾 綾	
57-59	7/10	08:50-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	◆試験(1)〈病理学総論〉 ＋〈総論実習〉	試験	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	試験範囲:病理学 総論、総論実習 すべて 形式:国 家試験形式
60-63	7/17	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	〈口腔病理学実習〉(1)囊 胞、非歯源性腫瘍	実習	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	対面
64-66	7/23	08:50-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	◆追再試験(1)〈病理学総 論〉＋〈総論実習〉	追再試験	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	試験範囲:病理学 総論、総論実習 すべて 形式:国 家試験形式
67-70	9/4	08:50-12:25	7号館1 階歯学科 講義室1	〈口腔病理学実習〉(2) 歯源性腫瘍	実習	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	対面
71-74	9/4	13:30-17:05	7号館1 階歯学科 講義室1	〈口腔病理学実習〉(3) 唾液腺腫瘍、非腫瘍性 唾液腺疾患	実習	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	対面
75-77	9/11	08:50-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	◆試験(2)〈口腔病理学〉 ＋〈口腔病理学実習〉	試験	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	試験範囲:口腔病 理学、口腔病理 学実習すべて 形式:国家試験形 式
78-80	9/28	13:30-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	◆追再試験(2)〈口腔病理 学〉＋〈口腔病理学実習〉	追再試験	石丸 直澄 布川 裕規 牛尾 綾	試験範囲:口腔病 理学、口腔病理 学実習すべて 形式:国家試験形 式

授業方法

授業は対面講義、対面実習に加え、Science Tokyo LMS を用いた遠隔授業を実施する。適宜小テストおよび課題に取り組ませることで、自ら学ぶ力も涵養する。

授業内容

病因論、細胞組織傷害、組織修復と再生、循環障害、炎症、先天異常、腫瘍について総合的な知識を身につけるために全身疾患をモデルとした授業を行う。さらに、う蝕と根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、顎骨の病変、嚢胞、先天異常、唾液腺疾患、軟膜疾患、口腔領域の腫瘍性病変について各論的な病理学を学修する。

成績評価の方法

2回の定期試験(いずれも筆記試験、病理学総論 50%、口腔病理学 50%)の得点に、小テストおよび課題に対するレポートの評価を加味して評価する。

成績評価の基準

基本的に 100 点満点換算し、60 点(当該科目の到達目標を概ね達成した)以上を合格とする。合格点に達しなかった者については再試験を行い、60 点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

頭頸部を中心とした全身の解剖・組織学の知識が必要で、可能な限り準備学習すること。口腔病理学は歯学部独自の授業で、自分たちが最も詳しい専門家になることを自覚すること。基礎系および臨床各科との関連性が深く、多角的な病態の理解が必要である。

試験の受験資格

対面講義、遠隔講義含め 3/4 以上の授業に出席した者に受験資格を与える。Science Tokyo LMS の動画資料は、動画をすべて視聴した履歴を確認できた場合に出席と認める。

教科書

標準病理学／北川, 昌伸, 1956-,仁木, 利郎,小田, 義直,北川昌伸 監修,仁木利郎, 小田義直 編集,仁木利郎 [ほか] 執筆:医学書院, 2023.3 ロビンス基礎病理学／Kumar, Vinay, 1944-,Abbas, Abul K,Aster, Jon C,豊國, 伸哉,高橋, 雅英,Vinay Kumar, Abul K.Abbas, Jon C.Aster 原著, 豊國伸哉, 高橋雅英 監訳:エルゼビア・ジャパン, 2018.12 新口腔病理学／下野, 正基, 1945-,高田, 隆, 1953-,田沼, 順一,豊澤, 悟,下野正基, 高田隆, 田沼順一, 豊澤悟 編集,田中昭男 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2021.3 口腔病理アトラス／高木, 實, 1938-,高田, 隆, 1953-,豊澤, 悟,高木實 監,高田隆, 豊澤悟 編:文光堂, 2018.2 組織病理アトラス／小田, 義直,坂元, 亨宇,深山, 正久, 1954-,小田義直, 坂元亨宇, 深山正久, 松野吉宏, 森永正二郎, 森谷卓也 編集:文光堂, 2015.10
参考書 カラールービン病理学：臨床医学への基盤／Rubin, Raphael,Strayer, David Sheldon, 1949-,Rubin, Emanuel, 1928-,鈴木, 利光, 1944-,中村, 栄男,深山, 正久, 1954-,ラファエル・ルービン, デイヴィッド・S・ストレイヤー 編集,エマニエル・ルービン 編集顧問,鈴木利光, 中村栄男, 深山正久, 山川光徳, 吉野正 監訳:西村書店東京出版編集部, 2017.11 わかりやすい病理学／恒吉, 正澄, 1945-,小田, 義直,相島, 慎一,恒吉正澄 監修,小田義直, 相島慎一 編集,小田義直 [ほか] 執筆:南江堂, 2021.3
履修上の注意事項 適宜グループディスカッションの機会をつくり、理解を深める。教員への質問、個別指導により学修を深める。
備考 適宜グループディスカッションの機会をつくり、理解を深める。 前年度履修学生の科目評価において、病理組織標本実習における観察標本数が少ないとの指摘をもとに、本年度は観察標本数を充実させ、グループディスカッション課題を課すことより活発な実習とする予定である。
参照ホームページ 日本病理学会 病理コアアトラス https://pathology.or.jp/corepictures2010/info/opening.html 日本臨床口腔病理学会 口腔病理基本アトラス https://www.jsop.or.jp/atlas/

時間割番号	021c30				
科目名	病態科学演習			科目ID	
担当教員	前田 茂, 駒ヶ嶺 友梨子[MAEDA Shigeru, KOMAGAMINE Yuriko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	3.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:56 (必要自習時間 8時間) 授業形態:講義・演習					
主な講義場所 7 号館 2 階 歯学科第3講義室を基本とする。 一部、Zoom を併用する可能性がある。					
授業の目的、概要等 授業の目的 解剖学、生理学、生化学、病理学、細菌学、免疫学、薬理学などの知識、また医学領域の知識を、臨床歯科学における疾病の病態の解釈と理解に統合する。 また、全身疾患を有する患者の歯科治療に関する基礎知識を養う。 授業概要 全身および口腔領域における疾病について、講義、ケースシナリオ、演習を組み合わせた授業を通して統合的な学習を進める。					
授業の到達目標 ・臨床症例の病態を、症状や検査データを元に推論し、基礎医学的知識を用いて論理的に説明できるスキルを身につける。 ・全身疾患を有する患者に歯科治療を適切に施せる基礎的知識を身につける。					
個別学習項目 ○糖尿病 1. 糖尿病について病態生理学的に説明できる。 2. 糖尿病の疫学について説明できる。 3. 糖尿病の治療法について説明できる。 4. 糖尿病の重要な合併症について説明できる。 5. 糖尿病と口腔領域疾患との関連について説明できる。 6. 糖尿病患者の歯科治療におけるリスク管理方法を立案できる。 ○開口障害 ○心電図演習 7. 高血圧・低血圧について病態生理学的に説明できる。 8. 虚血性心疾患について病態生理学的に説明できる。 9. 不整脈について病態生理学的に説明できる。 10. 感染性心内膜炎について病態生理学的に説明できる。 11. 心不全について病態生理学的に説明できる。 12. 12 誘導心電図について電気生理学的に説明できる(心電図演習)。 13. 12 誘導心電図の基礎的な解析ができる(心電図演習)。 14. 重要な不整脈について心電図学的に解析できる(心電図演習)。 15. 循環器疾患と口腔領域疾患の関連について説明できる。 16. 循環器疾患患者の歯科治療におけるリスク管理方法を概説できる。 17. 循環器疾患患者に処方されている薬剤と相互作用する歯科用薬剤について概説できる。					

○遺伝子疾患

18. 遺伝子診断法を説明できる。
19. 顎・顔面領域に変異を生じる主な遺伝子疾患の臨床的特徴とその原因を説明できる。
20. シナリオで扱う遺伝子疾患の主な治療法について概説できる。

○疼痛

21. 神経系を構成する細胞の種類、構造的特徴と機能を説明できる。
22. シナプスの構造と興奮伝達の仕組みを説明できる。
23. 鎮痛の機序を説明できる。
24. 顔面領域に生じる慢性疼痛について説明できる。
25. 口腔内に疼痛を生じる疾病、疾患を列举できる。

○腫瘍

26. 増殖と腫瘍の関係について述べることができる。
27. 腫瘍の発生の原因を説明できる。
28. 癌の診断、進展、予後について概説できる。
29. 口腔領域の腫瘍について、その病因と病理像を説明できる。
30. 全身疾患に伴う口腔病変について、その臨床像と病理像を説明できる。

○嚥下障害

31. 嚥下に関わる中枢神経の役割を説明できる。
32. 嚥下障害の病因を説明できる。
33. 嚥下障害の治療法、リハビリテーションについて説明できる。
34. 嚥下障害を伴う全身疾患について、病因、機序、治療法を説明できる。

○感染症

35. 炎症の形態学的変化を生化学的、分子生物学的変化について説明できる。
36. 炎症による組織学的変化を理解し、炎症性細胞の種類、機能、免疫学的特徴を説明できる。
37. 口内炎についての病因・臨床病態および治療法について説明できる。

歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度版

C-2-1

講義、国内外の教科書や文献、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出、統合し、客観的、批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。

C-2-3

必要な課題を自ら発見し、重要性や必要性に照らして順位付けできる。

C-2-4

課題の解決にあたり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出し、自ら課題を解決できる。

C-2-5

自己学修や協同学修の場に適切な Information and Communication Technology(ICT)(e-ラーニング、モバイル技術)を活用できる。

C-2-7

各自の興味に応じて科学的研究に積極的に参加できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他

1-4	4/17	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 イントロダクショ ン 口腔機能低下症	AL 口腔機能/口腔機能低下症/ 嚥下	前田 茂 山 口 浩平, 駒ヶ 嶺 友梨子	〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
5-8	4/24	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 遺伝子疾患1	AL 遺伝子診断法の基礎/顎・顔 面領域に変異を生じる主な遺伝子 疾患の臨床的特徴とその原因/ 上記遺伝子疾患の主な治療法	前田 茂 山 口 浩平, 井 関 祥子, 小 林 起穂	〔到達目標〕22-24 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
9-12	5/8	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 遺伝子疾患2	AL 遺伝子診断法の基礎/顎・顔 面領域に変異を生じる主な遺伝子 疾患の臨床的特徴とその原因/ 上記遺伝子疾患の主な治療法	前田 茂 山 口 浩平, 井 関 祥子, 小 林 起穂	〔到達目標〕22-24 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
13-16	5/13	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 心電図1	AL 高血圧・低血圧・虚血性心疾 患・不整脈・感染性心内膜炎・心不 全について病態生理学的に説明 ／12誘導心電図について電気生 理学的に説明(心電図演習)／12誘 導心電図の基礎的な解析ができ る(心電図演習)／重要な不整脈に ついて心電図学的に解析(心電図 演習)	前田 茂 山 口 浩平, 笹 野 哲郎	〔到達目標〕11-21 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
17-20	5/15	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 糖尿病1	AL 糖尿病について病態生理学 的に説明／糖尿病の疫学／糖尿 病の治療法／糖尿病の重要な合 併症／糖尿病と口腔領域疾患との 関連／糖尿病患者の歯科治療に おけるリスク管理方法	前田 茂 山 口 浩平, 片 桐 さやか, 山田 哲也	〔到達目標〕1-6 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
21-24	5/29	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 糖尿病2	AL 糖尿病について病態生理学 的に説明／糖尿病の疫学／糖尿 病の治療法／糖尿病の重要な合 併症／糖尿病と口腔領域疾患との 関連／糖尿病患者の歯科治療に おけるリスク管理方法	前田 茂 山 口 浩平, 片 桐 さやか, 山田 哲也	〔到達目標〕1-6 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
25-28	6/5	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 疼痛1	AL 神経系を構成する細胞の種 類、構造的特徴と機能 /シナプ スの構造と興奮伝達の仕組み/ 鎮痛の機序/顔面領域に生じる 慢性疼痛/口腔内に疼痛を生じる 疾病・疾患	前田 茂 山 口 浩平, 山 崎 陽子	〔到達目標〕25-29 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
29-32	6/12	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 疼痛2	AL 神経系を構成する細胞の種 類、構造的特徴と機能 /シナプ スの構造と興奮伝達の仕組み/ 鎮痛の機序/顔面領域に生じる 慢性疼痛/口腔内に疼痛を生じる 疾病・疾患	前田 茂 山 口 浩平, 山 崎 陽子	〔到達目標〕25-29 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし
33-36	6/19	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 嚥下障害1	AL 嚥下に関わる中枢神経の役 割/嚥下障害の病因/嚥下障害 の治療法、リハビリテーション/嚥 下障害を伴う全身疾患の病因、機 序、治療法	前田 茂 山 口 浩平, 上 阪 直史, 戸 原 玄	〔到達目標〕35-38 〔学習方法〕グル ープワーク 〔事 前学習〕特になし

37-40	6/26	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 嚥下障害2	AL 嚥下に関わる中枢神経の役割／嚥下障害の病因／嚥下障害の治療法、リハビリテーション／嚥下障害を伴う全身疾患の病因、機序、治療法	前田 茂 山 口 浩平, 上 阪 直史, 戸 原 玄	〔到達目標〕35-38 〔学習方法〕グループワーク 〔事前学習〕特になし
41-44	7/3	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 腫瘍1	AL 増殖と腫瘍の関係／腫瘍の発生の原因／癌の診断、進展、予後／口腔領域腫瘍の病因と病理像／全身疾患に伴う口腔病変の臨床像と病理像	前田 茂 山 口 浩平, 釘 本 琢磨, 布 川 裕規	〔到達目標〕30-34 〔学習方法〕グループワーク 〔事前学習〕特になし
45-48	9/2	13:30-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 腫瘍2	AL 増殖と腫瘍の関係／腫瘍の発生の原因／癌の診断、進展、予後／口腔領域腫瘍の病因と病理像／全身疾患に伴う口腔病変の臨床像と病理像	前田 茂 山 口 浩平, 釘 本 琢磨, 布 川 裕規	〔到達目標〕30-34 〔学習方法〕グループワーク 〔事前学習〕特になし
49-52	9/18	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 感染症1	AL 炎症の形態学的変化を生化学的、分子生物学的変化／炎症による組織学的変化、炎症性細胞の種類、機能、免疫学的特徴／口内炎についての病因・臨床病態および治療法	前田 茂 山 口 浩平, 鈴 木 敏彦, 加 地 博一	〔到達目標〕39-41 〔学習方法〕グループワーク 〔事前学習〕特になし
53-56	9/25	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	〔演習〕 感染症2	AL 炎症の形態学的変化を生化学的、分子生物学的変化／炎症による組織学的変化、炎症性細胞の種類、機能、免疫学的特徴／口内炎についての病因・臨床病態および治療法	前田 茂 山 口 浩平, 鈴 木 敏彦, 加 地 博一	〔到達目標〕39-41 〔学習方法〕グループワーク 〔事前学習〕特になし

授業方法

授業については、各学習項目(セッション)に対して2日(8コマ)の学習時間とし、ミニレクチャー、グループディスカッション、ミドルセッション、グループ発表、ラップアップセッションの組み合わせによって行う。

授業内容

具体的にはおおよそ以下の流れに沿って授業を進める。

1日目

・プレテスト(WebClass)

ケースシナリオで期待される学習目標に関わる多肢選択テストを行う。

・ミニレクチャー(臨床症例:臨床系 or 歯系教員、講義形式)

臨床系教員により、ケースに関わる臨床症例を提示し、簡単な導入を行う。

・グループディスカッション

ミニレクチャーの内容と学生自らの持っている基礎的知識あるいはネット検索により、ケースシナリオの病因、病態を解釈し、班の学習目標を設定する時間とする。

・ミドルセッション(病態科学:基礎系 or 医系教員、講義形式)

グループディスカッションの後、基礎系教員により、ケースシナリオで期待される学習目標に関連する講義を受ける。ネット検索事項の確認にもつながる。

・グループディスカッション

ミドルセッションの内容をもとに、さらに討論をすすめ、2日目のグループ討論報告の準備をはじめ、個人の学習目標を設定する時間と

する。(個人の目標と班における討議内容、個人のレポートを WebClass で提出) 2日目 ・グループディスカッション(学習報告) 各自学習してきた内容を報告し、班の発表内容としてまとめる。 ・グループ討議報告(教員による評価) グループとしてまとめた討議内容を WebClass 上に提出する。担当教員が選んだ班がプレゼンテーションを行う。質疑応答の時間を設ける。提出された討議内容を教員が評価する。 ・ラップアップセッション(基礎系あるいは臨床系教員) 必要に応じて、ケースシナリオで期待された学習内容について簡略に解説し、グループ討議報告において不確実であった知識について教員からコメントを加える。 ・ポストテスト(WebClass) ケースシナリオで期待される学習目標に関わる多肢選択問題を解く。その後テストの解説を教員が行う。
成績評価の方法 授業の出席、プレテスト、レポート提出状況、グループ別の討議報告内容およびポストテストの総合成績により評価する。成績評価の算出は、おおよそ、以下の割合で加点される。授業の出席(50%)、プレテスト(5%)、レポート提出(10%)、グループ別の討議報告内容(20%)、ポストテスト(15%)。特別な理由がある場合には成績判定の際に考慮する。
成績評価の基準 6 割以上の得点で合格とする。 本授業は出席点の割合が多いため、注意すること。
準備学習等についての具体的な指示 ・学習項目ごとに必要な準備学習を行うこと。 ・すでに終了している授業および同時期に行われているモジュール授業の内容を復習すること。 ・参考図書についても、その内容に準ずる。
試験の受験資格 本授業は各セッションごとにプレテスト/ポストテストを Webclass で実施する。出席した授業のみプレテスト/ポストテストの受験資格を得る。
構成ユニット 01 病態科学演習ユニット
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、原則的には全ての学習項目において学習到達目標に達していなければならない。なお、モジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート、プレテスト、ポストテストだけでなく、平常学習態度等が評価に加味され最終判定される。
教科書 必要に応じて、該当セッションのシラバスの記載を参照してください
参考書 Chou's Electrocardiography in Clinical Practice: Adult and Pediatric, 6e./Borys Surawicz and Timothy K. Knilans: Saunders, 2008 ハリソン内科学/デニス, L. カスパー, 福井, 次矢, 黒川, 清, デニス L. カスパー ほか編; 福井次矢 日本語版監修; 黒川清 日本語版監修: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017. 3 全身的偶発症とリスクマネジメント: 高齢者歯科診療のストラテジー/大渡 凡人: 医歯薬出版, 2012.9 新臨床内科学/矢崎 義雄: 医学書院, 2020.3 ブラウンワルド心臓病学レビュー&アセスメント/Lilly, Leonard S: メディカルレビュー社, 2011.9 Goldman-Cecil medicine/ Lee Goldman, Andrew I. Schafer, : Elsevier/Saunders, 2016 病態生理の基礎知識から学べる循環器治療薬パーフェクトガイド/古川哲史: 総合医学社, 2020.9
他科目との関連 ・基礎医学講義だけでなく、内科系・外科系講義の内容も関連する

履修上の注意事項

・ 欠席の際は、理由書を、教務掛へ提出すること。 ・ 交通機関等の乱れによる遅刻の際は、証明書を提出すること。 ・ 学習時、自学自習を基本とし、安易に質問しないこと。 ・ グループワークには積極的に参加すること。 ・ その他、質問を行うにあたってのマナーもわきまえること。 ・ 必要に応じ、科目責任者による面談を行うことがある。

備考

AL(グループワーク、発表)を行う。

科目責任者

前田 茂

maedas.daop@tmd.ac.jp

オフィスアワー:メールで問い合わせ

副科目責任者

駒ヶ嶺友梨子

y.komagamine.gerd@tmd.ac.jp または TEAMS チャット

オフィスアワー:メールで問い合わせ

濱 洋平

y.hama.gerd@tmd.ac.jp または TEAMS チャット

オフィスアワー:メールで問い合わせ

【前年度履修学生からのフィードバック】

本授業は、1 セッションを 2 回の授業で構成している。前年度は複数のセッションが同時進行する日程となっていたため、履修学生から混乱が生じたとの指摘があった。これを踏まえ、今年度はセッションが同時進行しないよう日程を調整した。

時間割番号	021c40						
科目名	生体と薬物(薬理学)		科目ID				
担当教員	古屋敷 智之, 平井 利典, 芦田 浩, 篠原 亮太, 山口 勇太, 七田 崇, 笹野 哲郎, 井原 健介, 平石 典子, 渡部 徹郎, 樺沢 勇司, 山田 哲也, 黒嶋 雄志, 立石 知也, 小藤 智史, 小牧 遼平, 筒井 健夫, 宮田 佑吾, 加藤 玄樹, 瀬戸 浩行, 梶保 博昭, 佐藤 俊三, 楠 康一, 青木 和広, 林 幹人[FURUYASHIKI Tomoyuki, HIRAI Toshinori, ASHIDA Hiroshi, Ryota Shinohara, YAMAGUCHI Yuta, SHICHITA Takashi, SASANO Tetsuo, IHARA Kensuke, HIRAISHI Noriko, WATABE Tetsuro, KABASAWA Yuji, YAMADA Tetsuya, KUROSHIMA Takeshi, TATEISHI Tomoya, KOFUJI Satoshi, KOMAKI Ryohei, TSUTSUI Takeo, MIYATA Yugo, Genki Katoh, Hiroyuki Seto, KAJIHO Hiroaki, Toshimi Satoh, TABU Koichi, AOKI Kazuhiro, HAYASHI Mikihiro]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	3		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目コマ数:34(講義)・24(実習) 必要自習時間:60 時間 授業形態:講義・実習							
主な講義場所 講義:歯学科講義室 3(7 号館 2 階)、Zoom 講義、Science Tokyo LMS 演習・実習:歯学部基礎実習室(1 号館西 6 階) 試験:情報検索室 1(M&D タワー4 階)							
授業の目的、概要等 薬理学は、生体内外の物質と生体との相互作用を、個体、臓器・組織、細胞、分子にわたり多階層的に探求し、その成果を基盤として創薬や臨床応用を目指す学問分野です。本講義では、まず薬物の作用機序や体内動態をはじめ、代表的な薬物の薬理作用や臨床応用、さらには副作用や薬物相互作用に関する知見を体系的に学びます。解剖学・生化学・細胞生物学・生理学などの基礎医学的知識を活用しつつ、分子間相互作用の視点から多様な生命現象や疾患の病態を理解し、薬物がどのように治療効果を発揮するかを考察します。加えて、疾患横断的に「物質と生体の相互作用」の原理を俯瞰することで、将来臨床現場で遭遇する様々な薬物治療に対して柔軟かつ科学的根拠に基づく意思決定ができる薬理学的基盤を養成することを目的とします。							
授業の到達目標 個体・臓器・組織・細胞・分子の各階層における薬物の治療効果および有害作用のメカニズムと、吸収・分布・代謝・排泄などの薬物動態学的特性を、相互に関連付けて体系的に説明できる。構造-活性相関や用量-反応曲線、作動薬・拮抗薬・不応期など、薬理学の基盤を成す重要概念を正確に理解し、適切な事例を挙げて論理的に解説できる。代表的な治療薬について、疾患横断的視点から作用機序、臨床応用、有害事象、薬物相互作用を統合的に把握し、臨床上想定される問題点を科学的根拠に基づいて評価できる。解剖学・生化学・細胞生物学・生理学で得た基礎医学的知見を駆使し、分子間相互作用の視点から多様な生命現象や疾患病態を分析し、薬物治療の効果や安全性を合理的に予測できる。将来の臨床現場において、多種多様な薬物治療に対し、科学的根拠に基づく論理的思考力と判断力を発揮し、柔軟かつ安全な処方・モニタリングを実践するための薬理学的基盤を構築する。							
文部科学省 HP 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版) https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_igaku-000029086_1.pdf PS-01, PS-04, PS-05, PS-06, PS-09, PS-12 A-6-1, A-6-2, A-6-3, A-6-4							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/11	13:30-14:15	7 号館 2 階歯学科講義室 3	薬理学総論①	講義 薬理学・薬力学の基礎、薬物作用様式と受容体概論	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面

2	5/11	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	薬理学総論②	講義 薬物受容体の種類と特徴、 薬物構造と適用方法;アクティブラ ーニング(ケース演習)	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
3	5/11	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	薬物動態学①	講義 投与経路の特徴と薬物動態 (吸収・分布・代謝・排泄)	平井 利典	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
4	5/11	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	薬物動態学②・薬物相互 作用	講義 TDM の概念と薬物動態学 的・薬力学的相互作用	平井 利典	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
5	5/18	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理①	講義 自律神経系総論、アドレナリ ン作動薬・拮抗薬	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
6	5/18	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理②	講義 コリン作動薬・拮抗薬の作用 と臨床応用	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
7	5/18	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理③	講義 局所麻酔薬、全身麻酔薬、 筋弛緩薬	七田 崇	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
8	5/18	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理④	講義 鎮静催眠薬、抗不安薬、抗 てんかん薬	七田 崇	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
9	5/25	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	特殊集団における薬物 動態①	講義 病態・遺伝的素因が薬物動 態に及ぼす影響	平井 利典	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
10	5/25	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	特殊集団における薬物 動態②	講義 年齢・妊娠・授乳が薬物動 態に及ぼす影響	平井 利典	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
11	5/25	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理⑤	講義 中枢性鎮痛薬と依存性薬物	篠原 亮太	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
12	5/25	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	神経薬理⑥	講義 抗うつ薬、気分安定薬	篠原 亮太	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
13	6/1	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	薬物の毒性と有害作用	講義 主作用と副作用、薬害およ び薬物連用の概念	平井 利典	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
14	6/1	14:25-15:10	7号館2	薬事関連法規および新	講義 医薬品関連法規、医薬品開	平井 利典	Science Tokyo

			階歯学科 講義室 3	薬の開発と臨床応用	発過程と臨床試験		LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
15	6/1	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	神経薬理⑦	講義 抗精神病薬	小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
16	6/1	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室 3	神経薬理⑧	講義 パーキンソン病治療薬、抗 認知症薬	小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
17	6/8	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	内分泌・代謝関連作用薬 ①	講義 骨代謝およびカルシウム調 節系作用薬	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
18	6/8	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	内分泌・代謝関連作用薬 ②	講義 糖代謝調節薬	山田 哲也	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
19	6/8	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	内分泌・代謝関連作用薬 ③	講義 その他の代謝調節薬および ビタミン製剤	古屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 対面
20	6/8	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室 3	悪性腫瘍治療薬	講義 抗悪性腫瘍薬の作用機序と 有害作用	渡部 徹郎	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同 期)
21	6/10	09:45-10:30	情報検索 室	試験		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
22	6/15	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	循環器系に作用する薬 物、血液に作用する薬 物①	講義 高血圧、不整脈、心不全治 療薬	笹野 哲郎 井原 健介	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同 期)
23	6/15	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	循環器系に作用する薬 物、血液に作用する薬 物②	講義 狭心症治療薬、止血薬、抗 血栓薬	笹野 哲郎 井原 健介	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同 期)
24	6/15	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	循環器系に作用する薬 物、血液に作用する薬 物③	講義 循環器・血液系薬物の臨床 応用と注意点	笹野 哲郎 井原 健介	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同 期)
25	6/15	16:20-17:05	7号館2 階歯学科	唾液腺作用薬	講義 唾液分泌に作用する薬物	樺沢 勇司	Science Tokyo LMS D3 生体と薬

			講義室 3				物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同期)
26	6/17	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	消化器系作用薬	講義 消化性潰瘍治療薬	小藤 智史	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同期)
27	6/17	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	呼吸器系作用薬	講義 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬	立石 知也	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同期)
28	6/17	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	歯科薬理概論	講義 う蝕予防薬、歯周治療関連薬物	平石 典子	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同期)
29	6/17	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室 3	消毒薬	講義 歯科で用いる消毒薬の種類と使用法	黒嶋 雄志	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 遠隔(非同期)
30	6/22	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	感染症治療薬①	講義 感染症概論と抗感染症薬の作用	芦田 浩	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面
31	6/22	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	感染症治療薬②	講義 主な抗感染症治療薬と有害作用	芦田 浩	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面
32	6/22	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	抗アレルギー薬、抗炎症薬	講義 抗アレルギー薬と抗炎症薬の作用機序	山口 勇太	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面
33	6/22	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室 3	免疫抑制薬、抗リウマチ薬	講義 免疫抑制薬および関節リウマチ治療薬	山口 勇太	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面
34	6/24	09:45-10:30	情報検索室	試験		古屋敷 智之、 篠原 亮太、 山口 勇太、 小牧 遼平	
35	6/29	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室 3	漢方薬物療法、歯科における漢方薬①	講義 漢方薬の基本概念と証に基づく処方	筒井 健夫	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)講義 2026 対面
36	6/29	14:25-15:10	7号館2 階歯学科	漢方薬物療法、歯科における漢方薬②	講義 歯科領域における漢方薬の応用	筒井 健夫	Science Tokyo LMS D3 生体と薬

			講義室 3				物(薬理学)講義 2026 対面
37	7/15	13:30-14:15	情報検索 室	試験		古屋敷 智之, 篠原 亮太, 山口 勇太, 小牧 遼平	
38	8/24	13:30-14:15	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	硬組織内時刻描記法(演 習)、皮膚知覚麻痺試験 (シミュレーション教材の 説明)		青木 和広, 林 幹人, 古 屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
39	8/24	14:25-15:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	硬組織内時刻描記法(演 習)、皮膚知覚麻痺試験 (シミュレーション教材の 説明)		青木 和広, 林 幹人, 古 屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
40	8/24	15:25-16:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	硬組織内時刻描記法(演 習)、皮膚知覚麻痺試験 (シミュレーション教材の 説明)		青木 和広, 林 幹人, 古 屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
41	8/24	16:20-17:05	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	硬組織内時刻描記法(演 習)、皮膚知覚麻痺試験 (シミュレーション教材の 説明)		青木 和広, 林 幹人, 古 屋敷 智之	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
42	8/26	13:30-14:15	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	皮膚知覚麻痺試験(シミ ュレーション教材・自習)		古屋敷 智之, 篠原 亮太, 山口 勇太, 小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 遠隔(非同 期)
43	8/26	14:25-15:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	皮膚知覚麻痺試験(シミ ュレーション教材・自習)		古屋敷 智之, 篠原 亮太, 山口 勇太, 小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 遠隔(非同 期)
44	8/26	15:25-16:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	皮膚知覚麻痺試験(シミ ュレーション教材・自習)		古屋敷 智之, 篠原 亮太, 山口 勇太, 小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 遠隔(非同 期)
45	8/26	16:20-17:05	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	皮膚知覚麻痺試験(シミ ュレーション教材・自習)		古屋敷 智之, 篠原 亮太, 山口 勇太, 小牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 遠隔(非同 期)
46	8/27	13:30-14:15	歯学部基 礎実習 室 歯学	全身麻酔薬①(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 小 藤 智史, 佐	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習

			部基礎小 実習室			藤 俊三 小 牧 遼平	2026 対面
47	8/27	14:25-15:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	全身麻酔薬①(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 小 藤 智史, 佐 藤 俊三, 小 牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
48	8/27	15:25-16:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	全身麻酔薬①(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 小 藤 智史, 佐 藤 俊三, 小 牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
49	8/27	16:20-17:05	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	全身麻酔薬①(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 小 藤 智史, 佐 藤 俊三, 小 牧 遼平	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
50	8/28	13:30-14:15	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	自律神経作用薬①(実 習)		小藤 智史, 梶 康一, 宮 田 佑吾, 瀨 戸 浩行, 加 藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
51	8/28	14:25-15:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	自律神経作用薬①(実 習)		小藤 智史, 梶 康一, 宮 田 佑吾, 瀨 戸 浩行, 加 藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
52	8/28	15:25-16:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	自律神経作用薬①(実 習)		小藤 智史, 梶 康一, 宮 田 佑吾, 瀨 戸 浩行, 加 藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
53	8/28	16:20-17:05	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	自律神経作用薬①(実 習)		小藤 智史, 梶 康一, 宮 田 佑吾, 瀨 戸 浩行, 加 藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
54	9/17	13:30-14:15	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	全身麻酔薬②(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 梶 保 博昭, 佐 藤 俊三	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
55	9/17	14:25-15:10	歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎小 実習室	全身麻酔薬②(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 梶 保 博昭, 佐 藤 俊三	Science Tokyo LMS D3 生体と薬 物(薬理学)実習 2026 対面
56	9/17	15:25-16:10	歯学部基 礎実習	全身麻酔薬②(実習)		梶 康一, 宮 田 佑吾, 梶	Science Tokyo LMS D3 生体と薬

			室 歯学部基礎小実習室			保 博昭 佐藤 俊三	物(薬理学)実習 2026 対面
57	9/17	16:20-17:05	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	全身麻酔薬②(実習)		梶 康一, 宮田 佑吾, 梶保 博昭 佐藤 俊三	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)実習 2026 対面
58	9/18	13:30-14:15	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	自律神経作用薬②(実習)		小藤 智史 梶保 博昭 瀬戸 浩行 加藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)実習 2026 対面
59	9/18	14:25-15:10	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	自律神経作用薬②(実習)		小藤 智史 梶保 博昭 瀬戸 浩行 加藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)実習 2026 対面
60	9/18	15:25-16:10	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	自律神経作用薬②(実習)		小藤 智史 梶保 博昭 瀬戸 浩行 加藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)実習 2026 対面
61	9/18	16:20-17:05	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	自律神経作用薬②(実習)		小藤 智史 梶保 博昭 瀬戸 浩行 加藤 玄樹	Science Tokyo LMS D3 生体と薬物(薬理学)実習 2026 対面
62	9/29	08:50-09:35	情報検索室	追再試験		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
63	9/29	09:45-10:30	情報検索室	追再試験		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
64	9/29	10:45-11:30	情報検索室	追再試験		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
65	12/22	08:50-09:35	情報検索室	(追再試験・予備)		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
66	12/22	09:45-10:30	情報検索室	(追再試験・予備)		古屋敷 智之 篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
67	12/22	10:45-11:30	情報検索室	(追再試験・予備)		古屋敷 智之	

			室			篠原 亮太 山口 勇太 小牧 遼平	
授業方法 講義は、対面、遠隔(同期)、遠隔(非同期)で行う。 一部の演習は対面で行う。実習は原則的に対面授業となる。							
授業内容 授業だけでは時間の都合上全てを教えきれないため、不足の部分は参考書などで自習する必要がある。 題目及び内容: 担当 薬理学総論①～②:古屋敷 智之 薬物動態学①～②・薬物相互作用:平井 利典 特殊集団における薬物動態①～②:平井 利典 薬物の毒性と有害作用:平井 利典 薬事関連法規および新薬の開発と臨床応用:平井 利典 神経薬理①(自律神経総論、アドレナリン作動薬・拮抗薬):古屋敷 智之 神経薬理②(コリン作動薬・拮抗薬):古屋敷 智之 神経薬理③(局所麻酔薬・全身麻酔薬・筋弛緩薬):七田 崇 神経薬理④(鎮静催眠薬・抗不安薬・抗てんかん薬):七田 崇 神経薬理⑤(中枢性鎮痛薬・依存性薬物):篠原 亮太 神経薬理⑥(抗うつ薬・気分安定薬):篠原 亮太 神経薬理⑦(抗精神病薬):小牧 遼平 神経薬理⑧(パーキンソン病等運動疾患治療薬・抗認知症薬):小牧 遼平 歯科薬理概論(う蝕予防薬や歯周治療に用いる薬物):平石 典子 悪性腫瘍治療薬:渡部 徹郎 感染症治療薬①～②:芦田 浩 循環器系に作用する薬物、血液に作用する薬物①～③:笹野哲郎、井原健介 唾液腺作用薬:樺沢 勇司 消化器系作用薬:小藤 智史 呼吸器系作用薬:立石 知也 内分泌・代謝関連作用薬①(骨代謝・カルシウム調節系):古屋敷 智之 内分泌・代謝関連作用薬②(糖代謝調節薬):山田 哲也 内分泌・代謝関連作用薬③(その他代謝調節薬・ビタミン):古屋敷 智之 消毒薬:黒嶋 雄志 抗アレルギー薬、抗炎症薬:山口 勇太 免疫抑制薬、抗リウマチ薬:山口 勇太 漢方薬物療法、歯科における漢方薬①～②:筒井 健夫 薬理学演習・実習:古屋敷 智之、他							
成績評価の方法 原則的にユニットごとの CBT 形式テストによる評価(9 割)、与えられた課題や授業態度などを最終的に加味した総合評価を行う。実習(ユニット名:薬理Ⅳ)においてはレポートと実習態度、実習試験で判定する。 なお、CBT 形式のユニットテストにおいて、6 割の正解率が得られない者は再試験となる。 再試験でも 6 割に正解率が満たない場合は不合格となる。							
成績評価の基準 A+の評価は、CBT 形式のテストで深い理解を試す問題に対する正解を一つの評価基準とする。 実習においては、深い理解の上に考察がなされているレポートに対して評価する。							
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料配付、e-learning (Science Tokyo LMS)へのアップロード等があった場合は、必ず眼を通して必要な場合は印刷して講義に臨むこと。							

すでに終了している講義の復習をすることを勧める。
試験の受験資格 3 分の 2 の出席。なお同期授業 1 コマ 45 分のうち、30 分以上参加記録が残らない場合は、欠席扱いとする。やむを得ない事情で欠席する場合は、前もってユニット責任者に連絡すること。 連絡が無く欠席した場合や、連絡はするが正当な理由と認められない場合は、出席に関しては考慮しない。連絡があり、正当な理由が認められた場合は、出席に足るレポート提出をもって出席とする。 遠隔授業(非同期型)を視聴し、感想の記入や小テストなどの課題を提示された期限までに提出して出席となる。また、小テストは満点をとるなど指定がある場合は、その条件をクリアした場合に出席となる。
構成ユニット 01 薬理Ⅰ 02 薬理Ⅱ 03 薬理Ⅲ 04 薬理Ⅳ
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。
参考書 NEW 薬理学／田中, 千賀子, 1931-加藤, 隆一, 1930-成宮, 周,田中千賀子, 加藤隆一, 成宮周 編集:南江堂, 2025.3 標準薬理学／飯野, 正光, 1950-飯野正光 監修,鈴木秀典, 金井好克 編集,飯野正光 [ほか] 執筆:医学書院, 2021.3 現代歯科薬理学／鈴木, 邦明,戸苅, 彰史,青木, 和広,兼松, 隆,筑波, 隆幸,八田, 光世,鈴木邦明 監修,戸苅彰史, 青木和広, 兼松隆, 筑波隆幸, 八田光世 編,戸苅彰史 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2024.1 今日の治療薬 2026 : 解説と便覧／伊豆津宏二,今井靖,桑名正隆,寺田智祐,伊豆津宏二 編集,今井靖 編集,桑名正隆 編集,寺田智祐 編集 薬がみえる vol.1／医療情報科学研究所,医療情報科学研究所 編集:メディックメディア, 2021.4 薬がみえる vol.2／医療情報科学研究所,医療情報科学研究所 編集:メディックメディア, 2023.9 薬がみえる vol.3／医療情報科学研究所,医療情報科学研究所 編集:メディックメディア, 2023.9 薬がみえる vol.4／医療情報科学研究所,医療情報科学研究所編集:メディックメディア, 2020.4 Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics -14E／L.L.Brunton & B.C.Knollmann:McGraw-Hill, 2023 Katzung's basic & clinical pharmacology - 16E／Vanderah, Todd W,Katzung, Bertram G.,edited by Todd W. Vanderah:McGraw-Hill, 2024
履修上の注意事項 本科目では、講義内容の理解を前提として段階的に学習を進めるため、毎回の出席および継続的な学習が不可欠である。
備考 アクティブラーニング(ケース演習)型講義では、受講者は積極的に質疑応答に参加することが求められる。講義中、担当教員より回答を求める場合がある。
参照ホームページ e-learning システムを利用する。 Science Tokyo LMS:リンク未定
連絡先(メールアドレス) 古屋敷 智之,funuyashiki.t.0d49@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 古屋敷 智之:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。 3 号館薬理学分野教授室(詳細未定)

時間割番号	021c50						
科目名	歯科法医学			科目ID			
担当教員	櫻田 宏一[SAKURADA Koichi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名: 歯科法医学 コマ数: 16(15+1) 授業形態: 講義 時間割番号: 021c50							
主な講義場所 7 号館 2 階 歯学科講義室 2							
授業の目的、概要等 歯科法医学の知識および一般社会との関連を学び、法医学的視点に立って問題解決できる能力を修得する。							
授業の到達目標 1) 歯科法医学が扱う学問領域を理解し、その社会的意義を説明できる。 2) 死因究明制度を理解し、歯科医師との関連を説明できる。 3) 個人識別の種類と原理について理解する。 4) 法医学における死体現象および死因の特定について理解する。 5) 歯科所見を用いた個人識別の有用性について説明できる。 6) 骨形態および顔画像解析による個人識別法について理解する。 7) 大規模災害時での歯科医師による身元確認作業の重要性について説明できる。 8) 歯科医師と虐待あるいは医療訴訟との関連について理解する。							
コアカリ C-4-4) 法歯学 歯科的立場において社会での治安維持に貢献するために、法歯学に基づく方法を理解する。							
学習目標: C-4-4-1) 事件、事故及び災害時の犠牲者に対する法歯学的検査の手順、方法及びこれに関連する法規を理解している。 C-4-4-2) 歯科領域に関連する損傷の検査及び鑑定について理解している。 C-4-4-3) 法医解剖(司法解剖、行政解剖、死因身元調査法による解剖、承諾解剖)を理解している。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/10	13:30-14:15	7 号館 2 階歯学科講義室 3	講義_歯科法医学総論	歯科法医学の学問領域およびその社会的役割について解説する。	櫻田 宏一	[到達目標1][学習方法]全体議論 [事前学習]Webclass 資料閲覧
2	4/10	14:25-15:10	7 号館 2 階歯学科講義室 3	講義_歯科医師と死因究明制度	死の定義、歯科医師と法律との関連について解説する。	齋藤 久子	[到達目標2][学習方法]全体議論 [事前学習]Webclass 資料閲覧
3	4/10	15:25-16:10	7 号館 2 階歯学科講義室 3	講義_死後変化の原理・特徴	死後変化の原理・特徴について解説する。	鵜沼 香奈	[到達目標4][学習方法]全体議論 [事前学

							習]Webclass 資料 閲覧
4	4/10	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__死因の種類・特定	死因の種類・特定について解説する。	山田 真嗣	[到達目標4][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
5	4/13	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__個人識別の種類 と原理(1)	指紋および血液型を中心にその 種類と原理を解説する。	齋藤 久子	[到達目標3][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
6	4/13	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__個人識別の種類 と原理(2)	DNA 型および歯からの個人識別 法について解説する。	齋藤 久子	[到達目標3][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
7	4/13	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__歯科所見による 身元確認	歯科所見を用いた身元確認方法 について解説する。	峰岸 沙希	[到達目標5][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
8	4/20	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__大規模災害にお ける身元確認(1)	国内で発生した大災害における身 元確認作業について解説する。	齋藤 久子	[到達目標7][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
9	4/20	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__大規模災害にお ける身元確認(2)	海外で発生した大災害における身 元確認作業について解説する。	宇都野 創	[到達目標7][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
10	4/20	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__骨形態による個 人識別	AL 討論__骨形態による個人識別 法について解説する。	宇都野 創	[到達目標6][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
11	4/20	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__顔画像分析によ る個人識別	顔画像分析による個人識別法に ついて解説する。	宇都野 創	[到達目標7][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
12	4/22	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	講義__虐待の発見と防 止	虐待の発見と防止について解説 する。	佐藤 慶太	[到達目標8][学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
13	4/22	14:25-15:10	7号館2 階歯学科	講義__医療事故と医事 紛争	医療事故と医事紛争について解 説する。	峰岸 沙希	[到達目標8][学 習方法]全体議論

			講義室 3				[事前学習]Webclass 資料 閲覧
14	4/22	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室 3	講義 法医学からみた 死後画像検査	法医学からみた死後画像検査に ついて解説する。	岩瀬 博太郎	[到達目標]4[学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
15	4/22	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室 3	講義 感染症と法医学 のかかわり	感染症と法医学のかかわりにつ いて解説する。	池谷 博	[到達目標]3,4[学 習方法]全体議論 [事前学 習]Webclass 資料 閲覧
16	7/8	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	試験	歯科法医学の試験。	櫻田 宏一	
17	7/22	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室 3	追再試験	歯科法医学の追再試験。	櫻田 宏一	

授業方法

対面での講義。

授業内容

1. 歯科法医学総論
2. 歯科医師と死因究明制度
3. 死後変化の原理・特徴
4. 死因の種類・特定
5. 個人識別の種類と原理
6. 歯科所見による身元確認
7. 骨形態による個人識別
8. 大規模災害における身元確認
9. 法医学からみた死後画像検査
10. 感染症と法医学のかかわり
11. 医療事故と医事紛争
12. 顔画像分析による個人識別
13. 虐待の発見と防止

成績評価の方法

・筆答試験による総括的評価とする。

成績評価の基準

到達目標に明示している事項について、概ね達成している場合を B とする。

準備学習等についての具体的な指示

配布資料を事前にチェックし、次の講義に備えること。

試験の受験資格

- ・全講義時間数のうち、3 分の 2 以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生は科目未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。

参考書

法歯科医学：基礎知識から臨床・災害時の対応まで 第 2 版／高橋雅典 監修 都築民幸, 山田良広, 櫻田宏一 編:永末書店, 2022
 あたらしい検案・解剖マニュアル = The New Textbook for Forensic Death Investigations and Autopsies／池谷博, 櫻田宏一 著:金芳堂, 2018

NEW エssenシャル法医学 = New Essentials of Forensic Medicine 第6版／高取健彦 監修,長尾正崇, 中園一郎, 山内春夫 編:医歯薬出版, 2019
他科目との関連 生体試料からの個人識別には、解剖学的、生化学的あるいは分子生物学的知識が求められる。
履修上の注意事項 特段の理由のない遅刻や欠席は認めない。
備考 櫻田宏一 sakurada.fde@tmd.ac.jp 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。骨形態による個人識別授業の中で、骨資料を用いたグループ討議によるアクティブラーニングを実施する。
連絡先(メールアドレス) 櫻田 宏一:sakurada.fde@tmd.ac.jp
オフィスアワー 櫻田 宏一:木曜日 15:00-17:00 MD タワー8 階 法歯学研究室

時間割番号	021c60					
科目名	隣接医学 I (内科等)			科目 ID		
担当教員	加持 秀明[KAMOCHI Hideaki]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1.5	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
授業の目的、概要等						
1. 内科疾患の原因、病態、治療に関する知識を修得する						
2. 小児科疾患についてその原因、病態、治療に関する知識を修得する						
3. 遺伝性疾患について原因、病態、治療に関する知識を修得する						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/9	13:30-14:15	7号館2階歯学科講義室3	腎尿路疾患		萬代 新太郎
2	4/9	14:25-15:10	7号館2階歯学科講義室3	腎尿路疾患		萬代 新太郎
3	4/9	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	虚血性心疾患		米津 太志
4	4/9	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	高血圧・動脈硬化症・弁疾患		松田 祐治
5	4/15	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	呼吸器疾患		古澤 春彦
6	4/15	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	呼吸器疾患		古澤 春彦
7	4/15	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	消化器疾患		三好 正人
8	4/15	17:15-18:00	遠隔授業(非同期型)	消化器疾患		藤井 悟
9	4/16	13:30-14:15	7号館2階歯学科講義室3	小児の内分泌・代謝疾患		高澤 啓
10	4/16	14:25-15:10	7号館2階歯学科講義室3	小児のアレルギー疾患		石川 史
11	4/16	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	内分泌疾患		小宮 力
12	4/16	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	内分泌疾患		小宮 力

13	4/23	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	血液疾患		森 毅彦
14	4/23	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	血液疾患		森 毅彦
15	4/23	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	膠原病		岩井 秀之
16	4/23	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	脳神経内科疾患		天野 永一郎
17	5/7	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	脳神経内科疾患		天野 永一郎
18	5/7	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	小児の血液疾患		磯田 健志
19	5/7	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	小児の消化器疾患と腎 尿路疾患		小西 愛美
20	5/7	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	小児の感染症1		神谷 尚宏
21	5/14	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	小児の呼吸器・循環器疾 患		石井 卓
22	5/14	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	小児の呼吸器・循環器疾 患		石井 卓
23	5/14	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	小児の感染症2		星野 顕宏
24	5/14	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	遺伝性疾患の診断と治 療		江花 有亮
25	5/28	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	不整脈		笹野 哲郎
26	7/9	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験	
27	7/9	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験	
28	7/9	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験	
29	7/23	14:25-15:10	7号館2	追再試験	追再試験	

時間割番号	021c70				
科目名	隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）			科目ID	
担当教員	原田 浩之、釘本 琢磨[HARADA Hiroyuki, KUGIMOTO Takuma]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
授業コマ数:36+3 必要自習コマ数:12 授業形態:講義					
主な講義場所 対面、遠隔(同期・非同期)					
授業の目的、概要等 ・全身の外科的治療を要する疾患の病因・病態を理解し、その予防、診断および治療のための知識を修得し、全人的観点より患者を診察する能力を養う。					
授業の到達目標 1)基本的検査とカルテ記載ができる。 2)基本的な外科処置ができる。 3)血液疾患の病態、診断、治療と予後が説明できる。 4)炎症の病態、診断、治療と予後が説明できる。 5)良性腫瘍の病態、診断、治療と予後が説明できる。 6)悪性腫瘍の病態、診断、治療と予後が説明できる。 7)皮膚の構造と機能を説明できる。 8)皮膚疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 9)消化器系の構造と機能を説明できる。 10)消化器系疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 11)乳腺の構造と機能を説明できる。 12)乳腺疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 13)循環器系の構造と機能を説明できる。 14)循環器系疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 15)呼吸器系の構造と機能を説明できる。 16)呼吸器系疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 17)腎・泌尿器系の構造と機能を説明できる。 18)腎・泌尿器系疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 19)女性の生殖器系の構造と機能を説明できる。 20)妊娠・不妊を概説できる。 21)女性の生殖器系疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 22)妊婦の歯科治療時の注意点を説明できる。 23)脳の構造と機能を説明できる。 24)脳神経疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 25)骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。 26)運動器疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。 27)頭頸部領域の構造と機能を説明できる。 28)頭頸部領域の疾患の基本的な知識の理解し、診断と治療を説明できる。					
歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-6-1					

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	6/11	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	外科総論(創傷治癒、出血・止血)		山本 洋平
2	6/11	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	外科総論(災害医学)		植木 穰
3	6/11	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	肺腫瘍・胸膜・縦隔疾患		浅川 文香
4	6/11	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	解剖と機能、基本的検査、屈折異常		高橋 知成
5	6/18	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	外科総論(移植・人工臓器)		古山 貴基
6	6/18	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	下肢疾患		中川 裕介
7	6/18	15:25-16:10	遠隔授業 (同期型)	結膜・角膜疾患、白内障、緑内障		長岡 奈都子
8	6/18	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	外科総論(概念、侵襲と生体)		山内 慎一
9	6/25	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)	外科総論(感染症、腫瘍、基本手技、無菌・消毒)		岡本 健太郎
10	6/25	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)	解剖と機能及び診断		並木 剛
11	6/25	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)	湿疹・皮膚炎		並木 剛
12	6/25	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	ぶどう膜炎、網膜疾患、全身疾患と眼底所見		鈴木 幸久
13	7/1	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	外科総論(輸液・輸血、栄養管理)		山口 和哉
14	7/1	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	食道の解剖と機能、食道疾患		藤原 尚志
15	7/1	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	肝・胆・膵の解剖と機能		上田 浩樹
16	7/1	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	蕁麻疹・紅斑症、紅皮症及び薬疹・水疱症・膿疱症		並木 剛
17	7/1	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)	腫瘍・感染症		並木 剛

			型)			
18	7/2	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	肝・胆・膵疾患		古山 貴基
19	7/2	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	動静脈疾患1、動静脈疾 患2		市野瀬 剛
20	7/2	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	小腸・大腸の解剖と機 能、小腸疾患、大腸疾患		井垣 尊弘
21	7/2	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	乳腺の解剖と機能、乳 腺疾患		熊木 裕一
22	7/13	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	胃・十二指腸の解剖と機 能、胃・十二指腸疾患		谷岡 利朗
23	7/13	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	心臓・胸部大動脈疾患の 外科治療		長岡 英気
24	7/13	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	尿路の解剖と機能		安田 庸輔
25	7/13	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	腎・膀胱疾患		安田 庸輔
26	7/14	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	妊娠と不妊症		岩原 由樹
27	7/14	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	女性生殖器疾患		光井 潤一郎
28	7/14	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	妊娠と歯周病		片桐 さやか
29	7/14	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	脳画像、解剖と機能		原 祥子
30	7/16	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	脳神経外科疾患		清水 一秀
31	7/16	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	解剖と機能・脊椎疾患		松倉 遊
32	7/16	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	嚥下・気道管理		堤 剛
33	7/16	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	口腔・咽頭		本田 圭司

34	7/17	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	耳疾患		川島 慶之	
35	7/17	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	鼻疾患		西尾 綾子	
36	7/17	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	頭頸部腫瘍		朝蔭 孝宏	
37	9/10	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験		
38	9/10	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験		
39	9/10	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	本試験	試験		
40	9/24	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	追再試験	追再試験		
41	9/24	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	追再試験	追再試験		
42	9/24	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	追再試験	追再試験		

成績評価の方法

・受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

準備学習として、参考図書における該当箇所を熟読しておくことが望ましい。

試験の受験資格

3分の2以上の出席を必要とする。オンライン講義の視聴も出席の要件に含まれる。

受験資格を得られなかった学生は科目未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。

構成ユニット

- 01 外科総論
- 02 皮膚疾患
- 03 消化器系・乳腺疾患
- 04 循環器・呼吸器系疾患(外科系)
- 05 腎・泌尿器系疾患
- 06 生殖器系疾患
- 07 脳神経疾患
- 08 運動器系疾患
- 09 耳鼻咽喉科
- 10 眼科

モジュールの単位判定

科目の合格判定および科目の単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。

参考書

外科研修マニュアル／京都大学大学院医学研究科,京都大学大学院医学研究科外科学講座 編:南江堂, 2009.4

標準外科学／北野, 正剛,坂井, 義治,田邊, 稔,池田, 徳彦,北野正剛 監修,坂井義治, 田邊稔, 池田徳彦 編集:医学書院, 2019.1

今日の皮膚疾患治療指針／塩原, 哲夫, 1948-,宮地, 良樹, 1951-,渡辺, 晋一, 1952-,塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一, 佐藤伸一 編:医学書院, 2012.3

消化器疾患最新の治療／小池, 和彦,山本, 博徳,瀬戸, 泰之,小池和彦 編集 ; 山本博徳 編集 ; 瀬戸泰之 編集:南江堂, 2021.2

乳腺疾患／泉雄, 勝, 1929-,妹尾, 亘明, 1924-,泉雄勝, 妹尾亘明 編:金原出版, 1993.4

今日の内科学／宮本, 昭正,水島, 裕,宮本昭正,水島裕編集代表:医歯薬出版, 1995.8

外科学／鈴木, 時雄, 1929-,吉野, 肇一, 1940-,鈴木時雄, 吉野肇一 編:医学書院, 1996.5

よくわかる脳神経外科学／平塚, 秀雄, 1935-,平塚秀雄 [[ほか]共著:金原出版, 1996.10

脳神経外科学／太田, 富雄, 1931-,川原, 信隆,野崎, 和彦, 1957-,吉峰, 俊樹,太田富雄 総編集,川原信隆, 野崎和彦, 吉峰俊樹, 若林俊彦 編集:金芳堂, 2016.3

標準整形外科学／井樋, 栄二, 1956-,吉川, 秀樹, 1954-,津村, 弘,井樋栄二, 吉川秀樹, 津村弘, 田中栄, 高木理彰 編集:医学書院, 2020.1

「今日の内科学」宮本昭正:医歯薬出版、1993

「泌尿・生殖器系疾患」奥山明彦:(看護のための最新医学講座第22巻)、中山書店、2001

「TUREK'S ORTHOPAEDICS: PRINCIPLES AND THEIR APPLICATION.」Weinstein, Stuart L.:LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS、2005

「新耳鼻咽喉科学」切替一郎:南山堂、2013

「現代の眼科学」吉田晃敏:金原出版、2012

「標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」大森孝一:医学書院、2022

履修上の注意事項

授業においては、AL(シンクペア／グループディスカッション、ケース演習など)を行う。

備考

モジュール責任者

釘本 琢磨:kugimoto.osur@tmd.ac.jp

時間割番号	021c80					
科目名	歯科医療基礎Ⅱ		科目ID			
担当教員	則武 加奈子, 西山 暁, 新田 浩, 水谷 幸嗣[NORITAKE Kanako, NISHIYAMA Akira, NITTA Hiroshi, MIZUTANI Koji]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
全 46 コマ(講義:16 コマ、実習:31 コマ)						
歯科医療基礎Ⅱ:歯科医師となる上で、歯科医療現場での歯科医師としての職責を理解し、患者診療に關しての業務内容を理解することは必須である。本科目では、歯科医療基礎Ⅰ、歯科医療基礎Ⅲと連携した授業内容を提供することで、ステューデント・デンティストとして患者診療を行う上で必要となる歯科医師としての基本的知識・技能・態度を修得し、歯科職能集団の共同体への参加を果たすことを本授業の目的とする。						
授業内容としては、具体的には、歯科診療現場における医療安全と感染対策に關する基本的知識・技能・態度、患者とのコミュニケーションと医療面接に關する基本的知識・技能・態度、また、診療現場における参加過程を通じて、術者が行う医療面接や口腔内診査の施術状況、その際の患者の心理等の觀察により、歯科診察の基本構造について学ぶ。						
授業方法としては、上記に關する実践的な実習に加えて、学生の歯科医療の現場への導入として、正統的周辺参加を可能とする実習を行う。						
科目番号:●						
授業形態:講義、実習						
コマ数:46 コマ						
主な講義場所						
各診療科診療室						
講義室						
実習室 他						
授業の目的、概要等						
将来の歯科医師としての自覚を 高めるために、歯科臨床の現場を体験することを通じて基礎科目と臨床科目の関連性を理解し、歯科医療に必要な基本的な態度、技能、知識を身につける。						
歯科医療基礎Ⅱでは、特に感染対策、医療安全、医療面接に焦点をあてる。						
授業の到達目標						
1) インフォームド・コンセントを説明する						
2) 医療上の事故事例の原因および再発防止策について討議する						
3) 医療現場において周囲のスタッフと共に医療安全に配慮する						
4) 標準予防策(standard precautions)を説明する。						
5) 感染経路別予防策を説明する						
6) 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明する						
7) 医療面接の目的と意義を説明する						
8) 患者の問題点を抽出、整理するために必要な項目を列挙する。						
9) 患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応するために必要なスキルを説明する						
10) 基礎科目と臨床科目の関連性の例を挙げて説明する。						
11) 歯科臨床の現場を体験し、今後の学習の方向性を見出す。						
コアカリ番号:A-5-1)―④⑤⑥⑦ A-6-2)①―6 A-6-3)①―⑤ E-1-1)①―⑩ F-1-2)①―④、F-2-1)①―⑥ F-3-1)①②						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	4/8	13:30-15:10	7号館2階歯学科講義室3	オリエンテーション		則武 加奈子

3-4	4/8	15:25-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	後輩に伝えたい歯科業 界のこと		則武 加奈子, 樋山 めぐみ	
5-8	4/20	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	医療安全1		西山 暁	
9-12	5/11	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	医療面接1		則武 加奈子	
13-14	5/18	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	医療安全2		西山 暁	
15-16	5/18	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	感染対策1		黒嶋 雄志	
17-18	5/25	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	医療面接2		則武 加奈子	
19-20	5/25	10:45-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	感染対策2		黒嶋 雄志	
21-24	6/1	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	感染対策3		黒嶋 雄志, 伊藤 孝哉	
25-28	6/8	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	医療面接3		則武 加奈子	
29-32	6/15	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	外来見学等		則武 加奈子	
33-36	6/22	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	外来見学等		則武 加奈子	
37-40	6/29	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	外来見学等		則武 加奈子	
41-44	6/30	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	振り返り		則武 加奈子	
45-46	7/2	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	予備日			
47	7/6	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室3	試験	試験	則武 加奈子	

成績評価の方法

- 1)毎回の指導教員による観察記録(形成的評価)
- 2)毎回の実習記録(形成的評価)
- 3)レポート(形成的評価)

4)試験(医療面接、感染対策、医療安全に関する試験)
成績評価の基準 ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。 ・SGD 後の課題(レポート)を提出していなければならない。 ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。 ・合格判定および単位判定に際しては、筆記試験の成績に加えて、出席日数、提出実習記録、レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。
準備学習等についての具体的な指示 詳細については1回目の授業にて説明するが、病院の理念・こころざし、病院内のきまり、院内感染予防のルール、外来での注意事項を確認し、実習に臨むこと。
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。 ・SGD 後の課題(レポート)を提出していなければならない。 ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生は未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。 ・合格判定および単位判定に際しては、出席日数、提出実習記録、レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。
モジュールの単位判定 合格判定および単位判定に際しては、筆記試験に加えて、出席日数、提出実習記録、レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。
参考書 PMI ペリオドンタルモチベーションショナルインタビューング：患者さんのやる気が変わる！ スタッフも楽しくなる！ 歯周治療を成功に導く世界標準のコミュニケーション技法／新田 浩 著・文・その他新田 浩 監修、礪波健一 著・文・その他礪波健一 監修、土岡弘明 著・文・その他土岡弘明 監修、斎田寛之 著・文・その他酒井和人 著・文・その他関根 聡 著・文・その他竹内祥吾 著・文・その他武田浩平 著・文・その他中村一寿 著・文・その他奈良嘉峰 著・文・その他福場駿介 著・文・その他新田 浩、礪波健一、土岡弘明、斎田寛之、酒井和人、関根聡、竹内祥吾、武田浩平、中村一寿、奈良嘉峰、福場駿介、クインテッセンス出版、2020-02-10 見逃しケースのなぜを解く！ 歯科診断スキルアップ実践ガイド：落とし穴を回避して主訴の解決に導く手順とポイント／礪波健一 著・文・その他礪波健一 編集、則武加奈子 著・文・その他則武加奈子 編集、梅森 幸 著・文・その他梅森 幸 編集、新田 浩 著・文・その他新田 浩 編集、小田 茂 著・文・その他小田 茂 編集、荒木孝二 著・文・その他荒木孝二 編集、礪波健一、則武加奈子、梅森 幸、新田 浩、小田茂、荒木孝二、クインテッセンス出版、2021-02-10 歯科衛生士・歯科助手 おしごとハンドブック／岩田隆紀 著・文・その他岩田隆紀 編集、水谷幸嗣 著・文・その他水谷幸嗣 編集、岩野義弘 著・文・その他岩野義弘 編集、松浦孝典 著・文・その他松浦孝典 編集、岩田隆紀、水谷幸嗣、岩野義弘、松浦孝典、クインテッセンス出版、2022-03-10 歯科医療面接アートとサイエンス／伊藤 孝訓、1954-、鈴木 一吉、廣藤 卓雄、森 啓、pub. 2020、長谷川 篤司、伊藤孝訓 編著、鈴木一吉、廣藤卓雄、森啓、長谷川篤司 著、砂書房、2020.4
履修上の注意事項 ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。 ・SGD 後の課題(レポート)を提出していなければならない。 ・4分の3以上出席のない学生、レポートの提出のない学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
備考 一部の実習では AL を行う。 ※ 歯科医療基礎Ⅲの前段階として、各診療科、第1総合診療室、第2総合診療室で診療補助を中心とした実習を行う。本科目にて学修した医療安全、感染対策、医療面接に着目をして、接遇、診療補助を通して基本的態度を身につけるとともに、引き続き基礎科目と臨床科目の関連性を認識することが中心となる。欠席する場合は各自で実習する診療科の指導責任者に連絡する。 ※ 本実習全体に関する指導担当者のオフィスアワー:まずはメールにて問い合わせ、アポをとること 則武 加奈子:noritake.irm(@)tmd.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

時間割番号	021c90				
科目名	学年混合セミナーⅡ			科目ID	
担当教員	關 奈央子, 金森 ゆうな, 鶴田 潤[SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, TSURUTA Jiyun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数:8 必要自習時間:16 授業形態:講義・演習					
本学学生については, 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。					
本科目では, 学年混合セミナーⅠ・Ⅲと併せ, 多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業方法として, 少人数演習を行う予定であり, それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義, プロジェクト実施活動・調査演習, 報告会を行うこととし, それぞれの学習活動においては, 学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し, 学年混合協働での協働に関わる資質, 国際的視座の獲得を期待する。 (屋根瓦教育)					
主な講義場所 (対面) TBA (非同期) 講義室あるいは自宅 (グループ作業) 講義室・図書館ほか					
授業の目的、概要等 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。					
多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業の到達目標 1)患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応するための基本を習得する。 2)地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。 3)日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。 4)世界の保健・医療問題の概要を理解している。					
歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4 年度改訂版)					
資質 SO:社会における医療の役割の理解(Medicine in Society) 健康の代弁者として公衆衛生の向上を図るために、医療は社会の一部であるという自覚を持ち、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野も持ちながら、公正な歯科医療を提供していく。 SO-01 社会保障(社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生)を理解している。 SO-02 予防と健康増進を理解している。 SO-03 医療、保健、福祉、介護とそれを取り巻く社会環境を理解している。 SO-04 社会や地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。					

SO-05 地域医療において、各種制度に基づく歯科医師の果たす役割を自覚し、行動できる。

SO-06 災害時における歯科医師の役割を理解している。

SO-07 国際社会における多様性を理解し、地域医療でも活躍できる。

学習目標

C-7 国際的素養の獲得と国際医療への貢献

国際社会の一員として地域医療の多様性を把握し、国際医療に貢献するために、国際貢献や国際協力に求められる基本的な能力を身に付ける。

学修目標:

C-7-1 患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応できる。

C-7-2 地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。

C-7-3 日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。

C-7-4 世界の保健・医療問題の概要を理解している。

C-7-5 パンデミックにおける院内感染対策、国際的な感染症対策と日本の防疫対策を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/23	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2	第1回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 個人・グループワーク (AL)
2	4/23	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	第2回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 個人・グループワーク (AL)
3	5/7	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2	第3回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 LMSでビデオ視聴 講義
4	5/7	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	第4回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 LMSでビデオ視聴 講義
5	5/14	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2	第5回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 グループワーク(AL)
6	5/14	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	第6回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 グループワーク(AL)
7	5/28	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2	第7回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 グループワーク(AL)、プレゼンテーション
8	5/28	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	第8回	金森 ゆうな, 関 奈央子, 鶴田 潤	到達目標1~4 演習 グループワーク(AL)、プレゼンテーション

授業方法

授業方法として、少人数演習を行う予定であり、それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義、プロジェクト実施活動・調査演習、報告会を行うこととし、それぞれの学習活動においては、学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し、学年混合協働での協働に関わる資質、国際的視座の獲得を期待する。

授業内容 国際社会における歯科医療保健のあり方を検討するために、 ・インドネシア・タイ・マレーシア・ベトナム・英国における歯科医療 など について、学ぶ。
成績評価の方法 ルーブリックに基づいた評価を実施し、総合的に評価を行う。 形成的に成長を期待する項目も含む。 ・個人レポート評価 80% ・毎回授業後の振り返り自己評価・課題 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
成績評価の基準 ・個人レポート評価 80% ・毎回授業後の振り返り自己評価・課題 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 関連する情報については、Web サイト等で多くの情報を入手することができる。 そのため、確度の高い情報を自ら読み解き、それぞれの課題に対する学習を進めてくることを勧める。
試験の受験資格 ・授業への出席は基本とする。 ・全ての課題提出が確認された場合に、成績評価対象とする。
モジュールの単位判定 本科目成績が合格の場合、単位を付与する。
他科目との関連 学年混合セミナーⅠ(2年次) 学年混合セミナーⅢ(4年次)と年次進行する。
履修上の注意事項 授業に出席・参加し、必要な課題を実施すること。
備考 授業においてはAL(グループディスカッションなど)を行う。 前年度からの変更点 2・3・4年混合の授業となる。 担当者： 関 奈央子 seki.n.03df@misctac.jp 鶴田 潤 tsurutaj.a664@misctac.jp 金森 ゆうな kanamori.y.38b1@misctac.jp
連絡先(メールアドレス) 関 奈央子:seki.n.03df@misctac.jp 金森 ゆうな:kanamori.ope@tmd.ac.jp 鶴田 潤:tsurutaj.a664@misctac.jp
オフィスアワー 関 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室 鶴田 潤:訪問の事前にメールで連絡してください。

時間割番号	021d00				
科目名	行動科学発展			科目ID	
担当教員	則武 加奈子[NORITAKE Kanako]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
本科目は選択科目である。2025 年度の学生受け入れ人数は最大15名のため、応募者が多数の場合はレポート提出等により受講者を決定する。					
主な講義場所					
講義・演習は基本は対面にて行う。7－8月に予定する3日間の演習は受講者の希望にあわせて決定する(ただし希望の偏りによっては人数調整・日程調整の可能性ある)。					
授業の目的、概要等					
プロフェッショナルリズムの実践に必要な知識・技能・態度を修得する。					
授業の到達目標					
1) プロフェッショナルリズムの定義について説明する。					
2) ノンテクニカルスキルについて説明する。					
3) 自身の体験や考え、授業で提示された事例について医療プロフェッショナルリズムの文脈で省察する。					
コアカリ番号					
A-1-3)－①② A-4-1)①② A-2-2)－⑤					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/20	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	オリエンテーション	則武 加奈子
2-4	5/27	13:30-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	事前学習1	則武 加奈子
5-6	6/4	14:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	事前学習2	則武 加奈子
7-9	7/13	08:50-11:30	7号館2 階歯学科 講義室3	事前学習3	則武 加奈子
10-13	7/27	08:50-12:25		学外実習1	則武 加奈子
14-17	7/28	08:50-12:25		学外実習2	則武 加奈子
18-21	7/29	08:50-12:25		学外実習3	則武 加奈子
22-23	8/27	08:50-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	振り返り1	則武 加奈子
24-27	9/2	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	振り返り2	則武 加奈子
28-31	9/14	08:50-12:25	7号館2 階歯学科 講義室3	振り返り3	則武 加奈子
32-33	9/15	08:50-10:30	7号館2	振り返り4(予備日)	則武 加奈子

			階歯学科 講義室3		
成績評価の方法 授業への参加状況、レポートの提出状況、レポートの内容を担当教員・指導者間で協議し、成績評価を行う。本科目は試験は実施しない。					
準備学習等についての具体的な指示 ハンテクニカルスキルとは何か、医療にどう関係するか、事前に調べておいてください。					
試験の受験資格 本授業は試験は行わない。					
モジュールの単位判定 全授業時間の3分の2以上の出席、レポートの遅滞ない提出を単位認定の必要条件とする。本年度は学外施設での体験学習を行うが、受け入れ先の都合などで日程が変更となる可能性がある。準備・体験実習・振り返りに関連した課題を課しそれらのレポートの採点結果も単位判定に用いる。内容に不備があると判断された場合は再提出を課す。					
教科書 Measuring medical professionalism／David Thomas Stern, editor,Stern, David Thomas,: Oxford University Press, 2006 歯科医療人間科学へのいざない／G.Kent, R.Croucher 著；新庄文明, 山崎久美子, 俣木志朗監訳Kent, Gerry,Croucher, Ray,新庄, 文明,山崎, 久美子,俣木, 志朗,:医歯薬出版, 2005					
参考書 行動経済学入門／筒井義郎 [ほか] 著,筒井, 義郎,佐々木, 俊一郎,山根, 承子,Mardyla, Greg,:東洋経済新報社, 2017 父滅の刃：消えた父親はどこへ：アニメ・映画の心理分析／樺沢紫苑著,樺沢, 紫苑,:みらいパブリッシング, 2020 基礎情報学：生命から社会へ／西垣通 著,:NTT 出版, 2004 暗黙知の次元／マイケル・ポランニー 著,高橋勇夫 訳,:筑摩書房, 2003 機械カニバリズム：人間なきあとの人類学へ／久保明教著,久保, 明教,:講談社, 2018 時間は存在しない／カルロ・ロヴェッリ 著,富永星 訳,Rovelli, Carlo, 1956-,富永, 星, 1955-,:NHK 出版, 2019 恐怖の表象：映画/文学における〈竜殺し〉の文化史／西山智則 著,:彩流社, 2016 文化人類学の思考法／松村圭一郎, 中川理, 石井美保編,松村, 圭一郎,中川, 理,石井, 美保,:世界思想社, 2019 なぜ世界は存在しないのか／マルクス・ガブリエル 著,清水一浩 訳,Gabriel, Markus, 1980-,清水, 一浩, 1977-,:講談社, 2018 歯痛の文化史：古代エジプトからハリウッドまで／ジェームズ・ウィンブランド 著,忠平美幸 訳,Wynbrandt, James,忠平/美幸,:朝日新聞出版, 2017					
履修上の注意事項 本科目は自由選択科目となっています。 本授業で行うグループ演習はひとりひとりの積極的参加により、クラス全体としての学習効果があがるので、遅刻・欠席がないよう体調管理を心掛けてください。8月に実施する3日間の実習は学内・学外にかかわらず、外部施設の仕事の現場に参加して行われます。社会人としての最低限のマナーが必要とされます。					
備考 本授業は AL を行う					

時間割番号	021d10				
科目名	生命倫理			科目 ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度通年	対象年次	3	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
主な講義場所 おもに同期で行う					
授業の目的、概要等 なぜ人は後で倫理の問題になるとは気付かずに、行動をおこなってしまうのか、あるいはするべき事に気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。 医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。 医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習したうえで、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステムの対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。					
授業の到達目標 医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。 文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm A-1-1)①②③ A-1-2)①②③④ A-1-3)①②③④⑤ A-3-1)⑥⑦⑧ A-4-1)③ A-4-2)①③④⑥⑦ A-5-1)①②③ A-6-1)①③④⑤ A-6-2)③ A-8-1)①②③④ 医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル Ⅰ-2-B)世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる Ⅰ-3-B)科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる Ⅱ-3-B)臨床的あるいは科学的問題提起ができる Ⅲ-1-A)他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる Ⅲ-9-A)個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる Ⅲ-12-A)メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる Ⅲ-14-A)時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる					

[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる

[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[Ⅲ-17-B]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している

[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる

[Ⅲ-21-B]守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる

[Ⅲ-22-C]インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる

[Ⅲ-23-B]著作権侵害にあたる行動を列挙できる

[Ⅲ-24-B]利益相反および回避するための行動を説明できる

[Ⅲ-25-B]企業との関係における倫理的な側面につき説明できる

[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる

[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる

[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる

[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる

[Ⅳ-4-C]多学科チームでの学習の場で、敬意を払って話し、チームに貢献し学習できる

[Ⅳ-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる

[Ⅳ-7-B]重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる

[Ⅳ-9-C]患者中心の医療について説明できる

[Ⅴ-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/23	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 1	総論「生命倫理総論(導入)」	吉田 雅幸	①倫理の概要 配布資料を参照のこと
3-4	5/7	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 2	総論「倫理問題の考え方」	江花 有亮	①倫理の概要 配布資料を参照のこと
5-6	5/14	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 3	医の倫理「医療倫理規範」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
7-8	5/28	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 4	医の倫理「内科診療に潜む倫理的問題」	江花 有亮 石井 秀人	②医療倫理 配布資料を参照のこと
9-10	6/4	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 5	医の倫理「歯科診療に関わる倫理的事項」	鶴田 潤	②医療倫理 配布資料を参照のこと
11-12	6/11	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 6	医の倫理「インフォームド・コンセント」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
13-14	6/18	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 7	医の倫理「保険診療・診療報酬と倫理的問題」	藍 真澄	②医療倫理 配布資料を参照のこと
15-16	6/25	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 8	医の倫理「個人情報の取り扱い」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
17-18	7/2	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 9	「宗教と倫理」	小川 有閑 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
19-20	7/9	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 10	医の倫理「生殖医療に関わる倫理的問題」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
21-22	7/16	10:45-12:25	医学科講義室 1	評価	生命倫理 到達度評価・甲	江花 有亮	1 学期範囲内
23-24	8/27	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 11		江花 有亮	

25-26	9/3	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 12	医の倫理「医療現場における多職種の連携」	甲畑 宏子	②医療倫理配付 資料を参照のこと
27-28	9/10	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 13	医の倫理「医療事故と法的問題」	江花 有亮	②医療倫理配付 資料を参照のこと
29-30	9/17	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 14	医の倫理「終末期医療と倫理(重急性型の終末期、がん等)」	佐藤 信吾	②医療倫理配付 資料を参照のこと
31-32	9/24	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 15	医の倫理「終末期医療と倫理(慢性型の終末期)」	阿部 庸子	②医療倫理配付 資料を参照のこと
33-34	10/1	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 16	医の倫理「救命救急と医療倫理(トリアージ等)」	江花 有亮	②医療倫理配付 資料を参照のこと
35-36	10/8	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 17	医の倫理「輸血に関連した倫理的 問題」	梶原 道子	②医療倫理配付 資料を参照のこと
37-38	10/15	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 18	医の倫理「小児領域の特殊性」	我有 茉希	
39-40	10/22	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 19	「医療経済を考える」	井伊 雅子	
41-42	10/29	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 20	研究倫理「臨床治験と倫理的問題」	小池 竜司	③研究倫理配付 資料を参照のこと
43-44	11/5	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 21	研究倫理「医学系研究デザイン・実 際」	江花 有亮	③研究倫理配付 資料を参照のこと
45-46	11/12	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 22	研究倫理「ゲノム研究に関する倫 理的問題」	江花 有亮	③研究倫理配付 資料を参照のこと
47-48	11/19	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 23	研究倫理「再生医療と倫理的問題」	片野 尚子	③研究倫理配付 資料を参照のこと
49-50	11/26	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 24	研究倫理「研究不正」	江花 有亮	③研究倫理配付 資料を参照のこと
51-52	12/3	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	生命倫理 25	生命倫理 到達度評価・乙	江花 有亮	
53-54	12/10	10:45-12:25	医学科講 義室 1	評価	「到達度評価・乙」	江花 有亮	全範囲

授業方法

動画教材・講義・グループワーク

同期授業と非同期授業を組み合わせる。事前に配布した資料(スライドや動画など)をもとに学習し、同期授業では非同期授業で得た知識を用いて、積極的に問題解決に取り組む形式で実施する。

またアクティブラーニングとしては、自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり。担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、前期と後期に2回実施する到達度評価甲・乙の点数を中心に、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

前期と後期に2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができるかどうか)が 70 点以上の場合に合格(A+、A、B)とする。プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、尚、試験を受けない場合や反プロフェッショナル行為(不正なコピー、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする(F)。

準備学習等についての具体的な指示 あらかじめ講義のトピックスについて配布資料や動画、参考図書、インターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。
試験の受験資格 講義への出席が、講義時間数の3分の2以上であること。前期の到達度評価甲については、全10回の講義のうち(生命倫理1から生命倫理10まで)、7回以上の出席であること。後期の到達度評価乙については、全15回(生命倫理11から生命倫理25まで)のうち、10回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、小レポートを通して確認する。
教科書 教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。
参考書 The Oxford textbook of clinical research ethics／Emanuel, Ezekiel J., edited by Ezekiel J. Emanuel ... [et al.]: Oxford University Press, 2008 Principles and practice of clinical research／Gallin, John I., Ognibene, Frederick P., edited by John I. Gallin, Frederick P. Ognibene: Elsevier/AP, 2012 入門・医療倫理／赤林 朗, 1958-, 赤林朗 編: 勁草書房, 2005.10 生命医学倫理／Beauchamp, Tom L., Childress, James F., 立木 教夫, 1947-, 足立 智孝, トム・L・ビーチャム, ジェイムズ・F・チルドレス 著, 立木 教夫, 足立智孝 監訳: 麗澤大学出版会, 2009.6
履修上の注意事項 授業責任者からの連絡は、Science Tokyo LMS、Slack、メールで行うので確認すること。「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2/3以上の出席が必要であり、到達度評価は必須である。医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

時間割番号	021d20				
科目名	歯科材料と歯科医療機器(歯科理工学)			科目ID	
担当教員	宇尾 基弘 和田 敬広 三上 理沙子[UO Motohiro, WADA Takahiro, MIKAMI Risako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	3.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:68(実用自習時間 19 時間)					
授業形態:講義・実習					
モジュール単位:3.5, モジュール授業:講義 42 コマ、実習 24 コマ、試験 2 コマ					
主な講義場所					
実習は基礎実習室、補綴実習室					
遠隔非同期講義については視聴アドレスを別途連絡する					
授業の目的、概要等					
歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)の特性と用途について、歯科医療や歯科技工に用いられる材料(高分子材料、セラミックス、金属材料、複合材料)と器械・器具の固有の性質、特性及び用途を理解する。					
歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法について、歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法(成形・加工・熱処理を含む)を理解する。					
授業の到達目標					
歯科医療で使用される金属、有機、無機、複合材料の物理化学的特性および生体や環境への影響、それら材料の使用方法および成型方法を理解し説明できる。					
具体的には					
歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)の特性と用途について;					
①歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)の所要性質と用途を説明できる。					
②材料の物理的(力学的性質と熱的性質を含む)、化学的(溶解性を含む)、生物学的(生体活性、副作用を含む)性質とその評価法を説明できる。					
③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。					
歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法について					
④成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
⑤歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
⑥接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
⑦歯科矯正用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
⑧口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
⑨歯内療法用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。					
コアカリキュラムとの関連:					
B 歯科材料と歯科医療機器					
B-1 材料の基本物性					
B-2 歯科材料					
B-3 歯科医療機器					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	10/2	13:30-14:15	7号館2階歯学科講義室3		
2	10/2	14:25-15:10	7号館2階歯学科講義室3		

3	10/2	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	
4	10/2	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	
5	10/5	13:30-14:15	歯学部基 礎実習室	
6	10/5	14:25-15:10	歯学部基 礎実習室	
7	10/5	15:25-16:10	歯学部基 礎実習室	
8	10/5	16:20-17:05	歯学部基 礎実習室	
9	10/8	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
10	10/8	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
11	10/8	13:30-14:15	歯学部基 礎実習室	
12	10/8	14:25-15:10	歯学部基 礎実習室	
13	10/8	15:25-16:10	歯学部基 礎実習室	
14	10/8	16:20-17:05	歯学部基 礎実習室	
15	10/9	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	
16	10/9	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
17	10/9	13:30-14:15	歯学部基 礎実習室	
18	10/9	14:25-15:10	歯学部基 礎実習室	
19	10/9	15:25-16:10	歯学部基 礎実習室	
20	10/9	16:20-17:05	歯学部基 礎実習室	
21	10/14	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	
22	10/14	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	
23	10/14	15:25-16:10	7号館2	

			階歯学科 講義室 3	
24	10/14	16:20-17:05	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	
25	10/15	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	
26	10/16	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
27	10/16	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
28	10/16	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
29	10/16	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
30	10/19	13:30-14:15	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	
31	10/19	14:25-15:10	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	
32	10/19	15:25-16:10	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	
33	10/19	16:20-17:05	7 号館 2 階歯学科 講義室 3	
34	10/22	13:30-14:15	歯学部基 礎実習室	
35	10/22	14:25-15:10	歯学部基 礎実習室	
36	10/22	15:25-16:10	歯学部基 礎実習室	
37	10/22	16:20-17:05	歯学部基 礎実習室	
38	10/23	13:30-14:15	7 号館 3 階歯学科 実習室 1	
39	10/23	14:25-15:10	7 号館 3 階歯学科 実習室 1	
40	10/23	15:25-16:10	7 号館 3 階歯学科 実習室 1	

41	10/23	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	
42	10/29	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
43	10/29	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
44	10/29	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
45	10/29	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
46	10/30	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
47	10/30	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
48	10/30	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
49	10/30	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
50	11/19	13:30-14:15	歯学部基 礎実習室	
51	11/19	14:25-15:10	歯学部基 礎実習室	
52	11/19	15:25-16:10	歯学部基 礎実習室	
53	11/19	16:20-17:05	歯学部基 礎実習室	
54	11/20	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
55	11/20	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
56	11/20	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
57	11/20	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
58	11/26	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	

			型)	
59	11/26	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	
60	11/26	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	
61	11/26	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	
62	11/27	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	
63	11/27	14:25-15:10	7号館2 階歯学科 講義室3	
64	11/27	15:25-16:10	7号館2 階歯学科 講義室3	
65	11/27	16:20-17:05	7号館2 階歯学科 講義室3	
66	11/30	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	
67	12/7	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	試験
68	12/21	13:30-14:15	7号館2 階歯学科 講義室3	追再試験
授業方法 対面講義と遠隔非同期講義、実習を併用して行う。遠隔非同期講義および実習書・実習説明動画については視聴アドレスを別途連絡する。初回の講義で遠隔非同期講義の動画視聴などを詳細に説明する。				
成績評価の方法 期末試験成績に出席状況、小テスト、レポートなどを加味して算出する。				
成績評価の基準 期末試験成績に出席状況、小テスト、レポートなどを加味した総合点で6割以上を取得すること。				
準備学習等についての具体的な指示 講義に関しては教科書およびWebにアップロードされている該当項目の資料を事前に読んでおくこと。 実習に関しては事前に配布する実習書を読み、実習動画を視聴して、当日の実習内容を理解しておくこと。特に実習については実習開始時の説明が非常に重要なので、開始時間に遅れないこと。				
試験の受験資格 学修に関する細則の通り、講義および実習の出席要件を満たすこと。				
モジュールの単位判定 単位判定に際しては、筆記試験だけでなく、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。				
教科書 スタンダード歯科理工学 第8版:学建書院, 2024 :医歯薬出版				

参考書

歯科理工学教育用語集 第3版／日本歯科理工学会 編 日本歯科理工学会：医歯薬出版, 2018

基礎歯科理工学／宮坂 平, 遠藤 一彦, 玉置 幸道, 宮坂平, 遠藤一彦, 玉置幸道, 服部雅之 編著: 医歯薬出版, 2019.2

備考

前年度履修学生の科目(歯科生体材料)評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

モジュール責任者: 宇尾基弘(先端材料評価学分野)

連絡先: uo.abm@tmd.ac.jp

オフィスアワー: 随時(必ず事前に連絡すること)

時間割番号	021d30				
科目名	歯科放射線学基礎			科目 ID	
担当教員	三浦 雅彦, 渡邊 裕[MIURA Masahiko, WATANABE Hiroshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目名: 歯科放射線学基礎 コマ数: 36 + 試験 1 (36 の内訳: 講義 21・実習 15) 必要自習時間: 講義 8 時間、実習 10 時間 授業形態: 講義および実習					
主な講義場所 1 講義: 対面講義の場所は決まり次第掲載、一部遠隔非同期配信講義 2 実習: 初日は7号館 2 階歯学科講義室 2 に集合、その後、7号館 5 階歯学科実習室 3、7号館 2 階歯学科講義室 2、D 棟 4 階のエックス線室、図書館の情報検索室 2、歯科放射線科の外来にて実習を行う。					
授業の目的、概要等 放射線の性質や、口腔顎顔面領域で利用される画像検査法の種類、特徴および適応、放射線の生物学的影響、放射線防護について、授業にて基礎的知識を習得し講義でのディスカッションを通じて理解する。また、授業で習得した知識を実習によって体験し更に理解を深める。					
授業の到達目標 講義 1) エックス線画像の形成原理を説明できる。 2) 放射線の種類、性質、測定法、単位を説明できる。 3) エックス線フィルム および増感紙の構造と性質を説明できる。 4) エックス線写真処理 の原理と方法を説明できる。 5) エックス線投影の原則を説明できる。 6) デジタルエックス線撮影の原理および特徴を説明で ける。 7) 口内法エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。 8) パノラマエックス線撮影の原理、方法および適応を説明できる。 9) 頭部エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法 および適応を説明できる。 10) 造影エックス線撮影の種類と適応を説明できる。 11) CT, MRI, US, 核医学検査の原理と口腔顎顔面領域における適応を説明できる。 12) 各種画像に見られる顎口腔領域の正常像について説明できる。 13) 各種画像に見られる顎口腔領域の異常所見を指摘できる。 14) 放射線の細胞致死効果を説明できる。 15) 腫瘍に対する放射線の作用について説明できる 16) 放射線の人体に対する影響を説明できる。 17) 放射線防護の基本概念を説明できる。 実習 1) デジタルエックス線画像の取得方法を説明し、実施できる。 2) 放射線の物理学的性質を説明できる。 3) Phantom を用いた口内法エックス線撮影の方法を説明し、実施できる。 4) パノラマエックス線撮影の方法を説明できる。 5) 頭部エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。 6) CT, MRI の口腔顎顔面領域における適応を説明できる。 7) 各種画像に見られる顎口腔領域の正常像について説明できる。 8) 各種画像に見られる顎口腔領域の異常所見を指摘できる。					

コア・カリキュラム

D-2-5)

E-2-5

D-3-1-6

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/30	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線とエックス線の性質	渡邊 裕	到達目標 講義1)～6)・対面講義
2	9/30	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線とエックス線の性質	渡邊 裕	到達目標 講義1)～6)・対面講義
3	9/30	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線とエックス線の性質	渡邊 裕	到達目標 講義1)～6)・対面講義
4	9/30	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	講義:放射線診断学概論	立石 宇貴秀	到達目標 講義1)～6), 11)・非同期ビデオ
5	10/7	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	講義:放射線診断学概論	土屋 純一	到達目標 講義1)～6), 11)・非同期ビデオ
6	10/7	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	中村 伸	到達目標 講義7)～9)・対面講義
7	10/7	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	中村 伸	到達目標 講義7)～9)・対面講義
8	10/7	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	中村 伸	到達目標 講義7)～9)・対面講義
9	10/14	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	栗林 亜実	到達目標 講義10)～13)・対面講義
10	10/14	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	栗林 亜実	到達目標 講義10)～13)・対面講義
11	10/14	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	今泉 晶子	到達目標 講義10)～13)・対面講義
12	10/14	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線診断学総論	今泉 晶子	到達目標 講義10)～13)・対面講義
13	10/21	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	戒田 篤志	到達目標 講義14)～15)・対面講義
14	10/21	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	三浦 雅彦	到達目標 講義14)～15)・対面講義

15	10/21	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	三浦 雅彦	到達目標 講義 15)~16)・対面講 義
16	10/21	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	三浦 雅彦	到達目標 講義 15)~16)・対面講 義
17	10/28	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	三浦 雅彦	到達目標 講義 15)~16)・対面講 義
18	10/28	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2, 7号館5 階歯学科 実習室3, 情報検索 室2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習1) ~8)・グループ討 論
19	10/28	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2, 7号館5 階歯学科 実習室3, 情報検索 室2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習1) ~8)・グループ討 論
20	10/28	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2, 7号館5 階歯学科 実習室3, 情報検索 室2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習1) ~8)・グループ討 論
21	11/4	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	講義:放射線生物学	三浦 雅彦	到達目標 講義 15)~16)・対面講 義
22	11/4	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2, 7号館5 階歯学科 実習室3, 情報検索 室2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習1) ~8)・グループ討 論
23	11/4	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2, 7号館5 階歯学科 実習室3,	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習1) ~8)・グループ討 論

			情報検索 室 2			
24	11/4	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
25	11/18	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	講義:放射線防護	戒田 篤志	到達目標 講義 16)～17)・対面講 義
26	11/18	09:45-10:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
27	11/18	10:45-11:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
28	11/18	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
29	11/25	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	講義:放射線防護	戒田 篤志	到達目標 講義 16)～17)・対面講 義
30	11/25	09:45-10:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
31	11/25	10:45-11:30	7号館 2 階歯学科	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討

			講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2		村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	論
32	11/25	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
33	12/2	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	講義:放射線管理	野島 瞳	到達目標 講義 16)～17)・対面講 義
34	12/2	09:45-10:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
35	12/2	10:45-11:30	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
36	12/2	11:40-12:25	7号館 2 階歯学科 講義室 2, 7号館 5 階歯学科 実習室 3, 情報検索 室 2	実習	渡邊 裕, 戒 田 篤志, 中 村 伸, 栗林 亜実, 今泉 晶子	到達目標 実習 1) ～8)・グループ討 論
37	12/11	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 2	試験	三浦 雅彦	
38	12/23	08:50-09:35	7号館 2 階歯学科 講義室 3	追再試験	三浦 雅彦	

授業方法

1講義:対面講義を基本とするが、一部遠隔非同期配信を行う。

2実習:5つのグループに分かれて実習室や情報検索室でのリアルな実習を予定している。

授業内容 歯科放射線に関する診断学並びに口腔癌に対する放射線治療について講義を行う。 放射線診断に関連する基礎的、臨床的な実習も行う。
成績評価の方法 1講義:12月 11 日に筆記試験を実施する。ほぼ対面講義を実施し、授業への出席および発表などの積極的姿勢も含めて総括的に評価する。 2実習:レポートを実施し総括的に評価する。
成績評価の基準 上記の講義の評価方法による得点と実習の評価方法による得点の合計得点により判定する。
準備学習等についての具体的な指示 1講義:講義資料を、Web Class に掲載するので、事前に閲覧しておくこと。 2実習:事前に実習テキストを読み、実習内容を大まかに理解しておくこと。
試験の受験資格 講義と実習の下記要件を満たすこと。 1講義:3分の2以上の出席を必要とする。また、受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。 2実習:特別な理由がない限り、全出席を必要とする。
参考書 歯科放射線学第 7 版／岡野、友宏、1947-、小林、馨、1955-、有地、榮一郎、勝又、明敏、林、孝文、岡野友宏 [[ほか] 編集新井嘉則 [[ほか] 執筆:医歯薬出版、2024.3 Oral radiology : principles and interpretation 7th ed／White, Stuart C.,Pharoah, M. J.,[edited by] Stuart C. White, Michael J. Pharoah:Mosby Elsevier, c2014 第 4 版 歯科放射線診断 teaching file／金田、隆、1959-、倉林、亨、1957-、佐野、司、金田隆、倉林亨、佐野司 編著:砂書房、2019.4 歯科臨床における画像診断アトラス 第 2 版／日本歯科放射線学会、日本歯科放射線学会 編:医歯薬出版、2020.3 Radiobiology for the radiologist 8th ed／Hall, Eric J.,Giaccia, Amato J.,Eric J. Hall, Amato J. Giaccia:Wolters Kluwer, c2019 放射線医学：生体と放射線・電磁波・超音波／大西、武雄、1944-、松本、英樹、1955-、近藤、隆、1952-、島田、義也、田内、広、分子生物学、大西武雄 監修、松本英樹 副監修、近藤隆、島田義也、田内広、平岡真寛、三浦雅彦、宮川清、宮越順二 編集:医療科学社、2016.10
履修上の注意事項 全授業から試験問題を出題するため、授業に出席し知識を深める。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。 一部の対面講義にて AL 討論の場を設ける。また、実習を実施する。 (WebClass 情報、Zoom 情報は、授業前に掲載するので授業明細にて確認すること)。 オフィスアワー:月・水・金、16:00～18:00、D 棟北 12 階教室 連絡先:masa.mtdh(@)tmd.ac.jp * E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えて下さい。

時間割番号	021d40				
科目名	総合診療・地域医療			科目ID	
担当教員	戸原 玄、松尾 浩一郎[TOHARA Haruka, MATSUO Koichiro]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
主な講義場所					
講義:3 号館 2 階医学科講義室 2 その他、Zoom-Webclass による授業(同期型・非同期型)					
実習:大学内、その他					
実習(early exposure):地域の医療機関に訪問、またはZOOMIによるインターラクティブな会話					
授業の目的、概要等					
実際に地域で展開されている医療などを知り、地域住民のニーズに合致した医療や多職種連携(医科歯科連携を含む)を理解し、全人的医療を実現させる総合診療、地域包括ケア、そして地域共生社会の重要性を認識できるようにする。					
授業の到達目標					
1.日本の医療の問題とその対策について説明できる。					
2.総合診療やプライマリ・ケアの機能とその重要性を説明できる。					
3.病院総合医の概要や役割について説明できる。					
4.高齢者医療の全体像や重要な点について説明できる。					
5.多職種連携の概要と医師の役割を説明できる					
6.病診連携の概要を説明できる。					
7.高齢者医療・老年医学の研究の概要を理解できる。					
8.高齢者特有の症候(老年症候群・フレイルなど)の概要を説明できる					
9.効果的な患者教育を説明できる。					
10.臨床推論の手法の概要を理解し説明できる。					
11.家庭医の役割を理解し概要を説明できる。					
12.患者中心の医療の概要を説明できる。					
13.臨床倫理の原則や実践の手法を説明できる。					
14.地域住民が求めている医療やそのシステムを認識できる。					
文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)					
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm					
医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル					
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる					
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる					
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる					
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる					
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる					
[III-2-C]専門職にある者としての立場を理解している					
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる					
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる					
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる					
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる					
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる					
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる					
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる					
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる					

[Ⅲ-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる

[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる

[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為に学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる

[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる

[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる

[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる

[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる

[Ⅳ-4-B]多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる

[Ⅳ-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者・患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる

[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる

[Ⅴ-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる

[Ⅴ-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる

[Ⅴ-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる

[Ⅴ-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる

[Ⅴ-10-B]全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる

[Ⅵ-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる

[Ⅵ-12-A]高齢者の機能的評価を行える

[Ⅵ-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

[Ⅶ-2-B]多学科チームでの仮想症例を通じたチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。

[Ⅶ-3-B]仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる

[Ⅶ-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる

[Ⅶ-6-A]医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	11/6	08:50-09:35	医学科講義室2	日本の総合診療のあり方		橋本 正良
2	11/6	09:45-10:30	医学科講義室2	患者教育+高齢者施設実習ガイダンス		馬淵 卓
3-4	11/6	10:45-12:25	医学科講義室2	摂食嚥下リハ・在宅の有用性 摂食嚥下リハ・在宅の有用性		戸原 玄
5	11/6	13:30-14:15	医学科講義室2	嚥下食		吉見 佳那子, 戸原 玄
6	11/6	14:25-15:10	医学科講義室2	口腔機能評価		吉見 佳那子, 戸原 玄
7	11/6	15:25-16:10	医学科講義室2	嚥下検査		吉見 佳那子, 戸原 玄
8	11/6	16:20-17:05	医学科講義室2	在宅症例検討		吉見 佳那子, 戸原 玄
9-15	11/9	08:50-16:10	外部病院等	学外実習(1回目)		馬淵 卓
16	11/9	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)	在宅医療の実践と研究		山中 崇
17	11/9	09:45-10:30	遠隔授業(非同期型)	地域包括ケアシステム		石田 岳史

			型)			
18	11/9	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	地域医療総論 2 生活と 医療の橋渡し		木村 琢磨
19	11/9	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	病院総合医		山田 徹
20	11/9	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	地方から考える総合診 療の歩き方		市毛 博之
21	11/9	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	家庭医療学総論		篠原 孝宏
22	11/9	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	地域社会と地域医療— 認知機能低下への対 応、意思決定支援—		大内 修司
23-26	11/10	08:50-12:25	遠隔授業 (同期型)	口腔ケア実習		駒津 匡二 日高 玲奈 U AO SHIN R U
27-33	11/11	08:50-16:10	外部病院 等	学外実習(2 回目)		馬淵 卓
34	11/11	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	在宅医療の実践と研究		山中 崇
35	11/11	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期 型)	地域包括ケアシステム		石田 岳史
36	11/11	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期 型)	地域医療総論 2 生活と 医療の橋渡し		木村 琢磨
37	11/11	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	病院総合医		山田 徹
38	11/11	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期 型)	地方から考える総合診 療の歩き方		市毛 博之
39	11/11	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期 型)	家庭医療学総論		篠原 孝宏
40	11/11	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	地域社会と地域医療— 認知機能低下への対 応、意思決定支援—		大内 修司
41	11/11	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	高齢者施設等見学実習 振り返り(1回目参加者)		馬淵 卓
42	11/12	13:30-14:15	医学科講 義室 2	在宅医療、医療と介護 の連携		木村 琢磨
43	11/12	14:25-15:10	医学科講 義室 2	臨床推論①(診断方法・ バイアスなど)		赤石 雄

44	11/12	15:25-16:10	医学科講義室 2	臨床推論②(症例ベースの実践)		赤石 雄
45	11/12	16:20-17:05	医学科講義室 2	地域を診る		川越 正平
46	11/13	08:50-09:35	医学科講義室 2	高齢者の栄養管理		豊島 瑞枝
47	11/13	09:45-10:30	遠隔授業(同期型)	難しい診療方針をどう扱うか		山田 徹
48	11/13	10:45-11:30	医学科講義室 2	高齢者医療総論		馬淵 卓
49	11/13	11:40-12:25	医学科講義室 2	2040 年へ向けた新たな地域医療構想		石田 岳史
50-52	11/13	13:30-16:10	遠隔授業(同期型)	高齢者疑似体験実習		本村 一郎
53	11/13	16:20-17:05	遠隔授業(同期型)	高齢者施設等見学実習 振り返り(2回目参加者)		篠原 孝宏
54-56	11/16	08:50-11:30	遠隔授業(同期型)	病理実習		田口 登和子
57	11/16	14:25-15:10	医学科講義室 1, 医学科講義室 2		試験	馬淵 卓 戸 原 玄
58	12/21	10:45-11:30	医学科講義室 2		追再試験	馬淵 卓 戸 原 玄

授業方法

同期型(一部非同期型)の遠隔授業で知識を伝える。適宜、ブレインストーミング的に学生と対話する。また、実習によってその知識を技能として具備させる。さらに学外実習によってそれらの知識や技能を態度面にまで昇華させる。

授業内容

I. 講 義

(1)総合診療総論

(2)医科歯科連携の基盤構築

・医療と経済、在宅歯科医から見た要介護高齢者の状況、摂食嚥下リハビリテーション、高齢者歯科、周術期口腔管理

(3)地域医療エッセンス

・高齢者医療総論、老年症候群・フレイル、高齢者の栄養管理、多職種連携・病診連携、在宅診療と地域包括ケアシステム、家庭医

(4)総合診療のエッセンス

・臨床推論①②、カルテの書き方／プレゼンの方法、患者中心の医療
Hospitalist／病院総合医、難しい診療方針をどうするか
予防医療総論(1次予防/2次予防/ワクチン)、患者教育

(5)その他

老年医学研究

II. 実 習

(1)口腔ケア実習

(2)高齢者体験実習

(3)病理実習

(4)学外実習

成績評価の方法

知識を確かめるための筆記試験を実施する。
成績評価の基準 筆記試験で 60%の点数を取ることで合格(GP における B 基準)とする。 筆記試験で 80%の点数を取ることで合格(GP における A 基準)とする。 筆記試験で 90%の点数を取ることで合格(GP における A+基準)とする。 高齢者施設等見学実習において、無断欠席・無断遅刻が判明した場合は、「アンプロフェッショナルな行動」として扱い、原則としてブロック授業全過程が「不合格扱い」となります。
準備学習等についての具体的な指示 各授業前までに下記書籍の該当場所を読んでおく事 新・総合診療医学 病院総合診療医学編 カイ書林 新・総合診療医学 診療所総合診療医学編 カイ書林
試験の受験資格 【総合診療・地域医療】 出席の有無を確認する。試験はすべて授業項目から出題する。総合診療については、講義を受けないと、試験の解答は困難と考えてほしい。
教科書 病院総合診療医学編：初めて総合診療を学ぶ人のために／阿部智一 [ほか] 編集委員,阿部 智一,徳田 安春,:カイ書林, 2019 診療所総合診療医学編／栄原智文, 関口由希公, 山田歩美編集委員,藤沼 康樹,栄原 智文,関口 由希公,山田 歩美,:カイ書林, 2019 ベイツ診察法／リン S. ビックリー, ピーター G. シラギ著；福井次矢, 井部俊子, 山内豊明監修,Bickley, Lynn S.,Szilagyi, Peter G.,石松 伸一,岸本 暢将,佐地 勉,福井 次矢,井部 俊子,山内 豊明,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015 在宅医療バイブル：家庭医療学,老年医学,緩和医療学の 3 領域からアプローチする／川越正平 編著,川越 正平, 1966-,:日本医事新報社, 2018
参考書 老年歯科医学 第2版／森戸光彦, 山根源之, 櫻井薫, 羽村章, 下山和弘, 柿木保明編集；森戸光彦 [ほか] 執筆 = Gerodontology,森戸, 光彦,山根 源之,櫻井 薫(歯学),羽村 章,下山 和弘,柿木 保明,:医歯薬出版, 2022
履修上の注意事項 学外実習では服装及び集合時間厳守の事。遅刻や体調不良による出席不可の際は必ず連絡する事。
備考 アクティブラーニングを配慮し、講義は一部を除き同期型とし、また実習もできる限り参加型としている。 担当:吉見 佳那子 <k.yoshimi.gerd@tmd.ac.jp>チームスやスラックでの連絡も可。
参照ホームページ

時間割番号	021d50				
科目名	課題統合セミナー			科目ID	
担当教員	小野 卓史, 戸原 玄, 山口 浩平, 林 幹人, 服部 麻里子, 小川 卓也, 細道 純[ONO Takashi, TOHARA Haruka, YAMAGUCHI Kohei, HAYASHI Mikihito, HATTORI Mariko, OGAWA Takuya, HOSOMICHI Jiyun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
総コマ数:32(必修自習時間 7時間) 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー:4 02 骨のバイオロジー:5 03 ことばの世界:6 04 オクルージョン:5 05 歯科と色:5 06 口唇裂・口蓋裂:7 授業形態:講義					
主な講義場所 講義室での対面講義が主であるが、一部は、遠隔講義(非同期) であるため、講義日程の詳細を確認すること。					
授業の目的、概要等 課題統合セミナーでは一つのテーマに沿ってさまざまな側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う。 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー:咀嚼・嚥下に関する知識を統合理解し、歯科医療における位置付けを確認する。 02 骨のバイオロジー:骨のバイオロジーに関する知識を統合整理し、歯科医療における位置付けを確認する。 03 ことばの世界:ことばの世界では、臨床で必要とされる「ことばに関する訴え」に対する解決策を探る。 04 オクルージョン:咬合に関する知識を整理し、人の一生とともに俯瞰的に理解する。 05 歯科と色:歯科診療における色の効果について理解する。 06 口唇裂・口蓋裂:口唇裂・口蓋裂の病態ならびに治療法を理解する。					
授業の到達目標 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー 1)咀嚼・嚥下に関わる構造を説明できる。A-3-2-4 2)咀嚼・嚥下の機能を説明できる。A-3-2-10 3)咀嚼・嚥下の神経制御機構を説明できる。A-3-2-10 4)摂食・嚥下障害の病態を理解する。D-3-1-11-2 5)摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。D-5-7-8, D-6-2-4, E-2-2-6, E-5-6-4 02 骨のバイオロジー 1)骨芽細胞の機能を説明できる。A-3-1-2-3 2)破骨細胞の機能を説明できる。A-3-1-2-3 3)骨モデリング、リモデリングを説明できる。A-3-1-2-4, A-3-1-2-5 4)骨・軟骨代謝に関わる生物学的調節因子とその連携を理解できる。A-3-1-2-4, A-3-1-2-5 5)骨疾患の病態とその治療方法を理解できる。A-3-1-2-4, A-3-1-2-5 6)骨発生の分子メカニズムを説明できる。A-3-1-2-4, A-3-1-2-5 03 ことばの世界 1)構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。A-3-2-14 2)発音・構音・発語障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。D-3-1-11-3					

- 3) 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。D-5-3-2-1, D-5-3-2-13
 4) 患者中心のチーム医療の意義を説明できる。C-1-3-1
 5) 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。C-1-3-3

04 オクルージョン

- 1) 乳歯の正常な萌出ならびに異常とそれに関与する因子を説明できる。A-2-4-6, A-3-4-1, D-5-6-8
 2) 乳歯列から混合歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。A-2-4-6, A-3-4-1, D-5-5-2, D-5-5-3, D-5-6-8
 3) 混合歯列から永久歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。A-2-4-6, A-3-4-1, D-5-5-2, D-5-5-3
 4) 生理学的観点から咬合の重要性を説明できる。A-3-2-10, A-3-3-5
 5) 咬合の維持ならびに崩壊に関与する因子を説明できる。A-2-4-7, A-2-4-8, D-5-7-4
 6) 咬合と全身機能との関係を説明できる。D-3-1-11-1, D-5-3-2-1, D-5-3-2-13
 7) 咬合治療におけるチームアプローチの重要性を具体的に述べるができる。C-1-3-1, C-1-3-2

05 歯科と色

- 1) 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の原因、症状と治療法を理解している。D-3-1-4-2
 2) 齲蝕とその他の歯の硬組織疾患(Tooth Wear(歯の損耗)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症、歯の亀裂・破折、歯の形成不全、歯の形態異常)の病因と病態を理解している。D-3-2-1
 3) 失活歯の変色の原因と処置を理解している。D-5-2-2-6
 4) 固定性補綴装置の色調選択(シェードテイキング)を理解している。D-5-3-1-7
 5) 人工歯選択を理解している。D-5-3-2-7
 6) 顎骨、顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。D-5-3-2-13

06 口唇裂・口蓋裂

- 1) 発声と構音に関わる器官の構造と機能を理解している。A-3-2-14
 2) 医療チームや各構成員(歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、その他の医療職)の役割分担と連携、責任体制を理解している。C-1-3-2
 3) 口腔機能検査(下顎運動検査、顎関節、筋機能検査、咀嚼機能検査、唾液及び唾液腺検査、嚥下機能検査、発音及び構音検査、鼻咽腔閉鎖機能検査、感覚(味覚、体性感覚)の検査、舌圧検査)を実施できる。E-2-2-6

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/5	08:50-09:35	7号館2階歯学科講義室2	【咀嚼と嚥下のバイオロジー】摂食嚥下の総論	摂食嚥下の大まかな考え方	戸原 玄	摂食嚥下障害に介入する必要性がわかる。
2	10/5	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	【咀嚼と嚥下のバイオロジー】摂食嚥下と疾患、薬剤	摂食嚥下機能に影響する疾患と薬剤	中川 量晴	摂食嚥下機能を低下させる疾患と、薬剤の副作用について知る。
3	10/5	10:45-11:30	7号館2階歯学科講義室2	【咀嚼と嚥下のバイオロジー】摂食嚥下と呼吸	呼吸と嚥下の協調運動など	山口 浩平	呼吸と摂食嚥下の関連を知る。
4	10/5	11:40-12:25	7号館2階歯学科講義室2	【咀嚼と嚥下のバイオロジー】摂食嚥下と栄養、水分	栄養や水分の摂取量や摂取方法	吉見 佳那子	必要量や安全な摂取方法を知る。
5	10/6	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)	【口唇裂・口蓋裂】口唇裂・口蓋裂児が出生した時に	出生直後の口唇裂・口蓋裂患者に対する治療	落合 聡	
6	10/6	09:45-10:30	7号館2階歯学科講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇裂・口蓋裂の発生と成因	口唇裂・口蓋裂の発生と成因について	井関 祥子	

7	10/6	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇 裂・口蓋裂の外科治療	口唇裂・口蓋裂に対する外科治療 について	加持 秀明	
8	10/6	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【歯科と色】	1. 色の基本、顎顔面補綴と色	服部 麻里子	色の基本的性質 について説明で きる。
9	10/13	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	【オクルージョン】咬合の 生理学	咬合の生理学	上阪 直史	生理学的観点か ら咬合の重要性 を説明できる。
10	10/13	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【オクルージョン】乳歯列 の咬合	乳歯列の咬合	岩本 勉	乳歯の正常な萌 出ならびに異常と それに関与する 因子、乳歯列から 混合歯列への正 常な移行とその 阻害因子を説明 できる。
11	10/13	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【歯科と色】	2. 口腔粘膜と色	山城 正司	口腔および顎顔 面の色の特徴に ついて説明でき る。 口腔および 顎顔面の治療に おける色の果た す役割を説明で きる
12	10/13	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【歯科と色】	3. 保存修復における色	平石 典子	歯の色の特徴に ついて説明でき る。 歯の治療に おける色の果た す役割を説明で きる
13-15	10/19	08:50-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【骨のバイオロジー】軟 骨細胞・骨芽細胞・骨細 胞	骨軟骨の基本的性質、骨軟骨の 発生、骨構成細胞の分化メカニズ ム、骨細胞	林 幹人	骨・軟骨代謝に関 わる調節因子と その連携を説明 できる。骨発生の 分子メカニズムを 説明できる。講 義前に指示され た事前学習を実 施した上で演習と して小テストを行 い、講義における 学習深化を高め る。
16	10/19	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇 裂・口蓋裂の矯正治療1 (幼児期・学童期まで)	幼児期・学童期における矯正歯科 治療について	米満 郁男	
17	10/20	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	【骨のバイオロジー】破 骨細胞	破骨細胞分化、骨吸収、骨リモデ リング、破骨細胞と疾患	林 幹人	破骨細胞の機能 を説明できる。 骨モデリング、リ

							モデリングを説明できる。
18	10/20	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【骨のバイオロジー】炎症・骨制御因子と薬物療法	サイトカインと骨疾患、骨代謝疾患の薬物療法	林 幹人	骨疾患の病態とその治療方法を理解できる。
19	10/20	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【歯科と色】	4. 歯内治療と歯の変色	稲川 英明	歯の色の特徴について説明できる。歯の治療における色の果たす役割を説明できる
20	10/20	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【歯科と色】	5. 間接法歯冠修復における色	瀧田 美奈	歯の色の特徴について説明できる。歯の治療における色の果たす役割を説明できる
21	10/26	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇裂・口蓋裂の言語治療	口唇裂・口蓋裂患者に対する言語治療について	正木 啓太	
22	10/26	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇裂・口蓋裂の補綴治療	口唇裂・口蓋裂の補綴治療	服部 麻里子	
23	10/26	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	1.発声・発語の解剖学	隅田 由香	発声・発語に関連する解剖学の知識を整理する
24	10/26	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	2.発声・発語の音響学	荒井 隆行	発声・発語の生理学と音響学について知る
25	10/27	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	【口唇裂・口蓋裂】口唇裂・口蓋裂の矯正治療2 (青少年期から成人まで)・まとめ	口唇裂・口蓋裂の永久歯咬合における矯正歯科治療ならびにチーム医療について	小川 卓也	
26	10/27	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【オクルージョン】混合歯列から永久歯列へ	混合歯列から永久歯列の咬合	松本 芳郎	混合歯列から永久歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。
27	10/27	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	3.歯科と発声・発語	服部 麻里子	歯科に関係する発声・発語について理解する
28	10/27	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	4.発声・発語の評価	村瀬 舞	発声・発語の評価について理解し、実践できる
29	10/30	08:50-09:35	7号館2 階歯学科 講義室2	【オクルージョン】高齢者の咬合回復	高齢者の咬合回復	駒ヶ嶺 友梨子	咬合と全身機能との関係、咬合の維持ならびに崩壊に關与する因子を説明できる。

30	10/30	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【オクルージョン】顎欠損・舌欠損患者の咬合回復	顎欠損・舌欠損患者の咬合回復	服部 麻里子	咬合治療におけるチームアプローチの重要性を具体的に述べることができる。
31	10/30	10:45-11:30	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	5. 言語訓練	正木 啓太	言語訓練について知り、言語治療における歯科医師の役割を理解する
32	10/30	11:40-12:25	7号館2 階歯学科 講義室2	【ことばの世界】	6.まとめと演習	服部 麻里子	ことばに関する歯科医師の役割について説明できる
33	12/8	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室2	試験	客観的試験、論述試験による総括的評価	小野 卓史	
34	12/21	09:45-10:30	7号館2 階歯学科 講義室3	追再試験		小野 卓史	

授業方法

双方向の対話型講義を行う

授業内容

01 咀嚼と嚥下のバイオロジー

摂食嚥下に関連する解剖、脳血管疾患、認知症などの関連疾患、摂食嚥下の評価法、摂食嚥下の訓練や対処法、特に TMDU で行っている摂食嚥下関連研究。

02 骨のバイオロジー

軟骨・骨芽・骨細胞、破骨細胞、炎症・サイトカイン、骨制御因子と薬物療法。

03 ことばの世界

発声・発語の解剖学、発声・発語の音響学、歯科と発声・発語、発声・発語の評価、言語訓練、まとめと演習。

04 オクルージョン

歯列弓の形態と正常咬合、乳歯列の咬合、混合歯列から永久歯列へ、咬合の生理学、高齢者の咬合回復、顎欠損・舌欠損患者の咬合回復

05 歯科と色

色の基本、保存修復における色、歯内治療と歯の変色、間接法歯冠修復における色、口腔粘膜と色、顎顔面補綴における色。

06 口唇裂・口蓋裂

口唇裂・口蓋裂の発生と成因、口唇裂・口蓋裂児が出生した時に、口唇裂・口蓋裂の外科治療、口唇裂・口蓋裂の言語治療、口唇裂・口蓋裂の矯正治療、口唇裂・口蓋裂の補綴治療、口唇裂・口蓋裂のチーム医療

成績評価の方法

各ユニットから出題される試験と課題レポートによる総括的評価を行う。

成績評価の基準 試験の成績に、課題レポートの成績を加味した総合点で6割以上を取得すること。
準備学習等についての具体的な指示 各ユニットの指示に従い、事前に教科書ならびに参考図書を熟読の上、授業に臨むこと。実習に際しては、実習内容に対応する講義を復習して臨むこと。 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー:参考書を参照の上学習を準備する。 02 骨のバイオロジー:必ず予習し、授業にのぞむこと。 03 ことばの世界:講義の前に以下のホームページを参照しておくこと。 https://splab.net/vocal_tract_model/ja/ 04 オクルージョン:準備学習として、指定教科書を熟読すること。 05 歯科と色:講義の前に以下のホームページを参照しておくこと。 https://www.konicaminolta.jp/instruments/knowledge/color/ 06 口唇裂・口蓋裂:口唇裂・口蓋裂についての講義を理解するために、事前に参考図書の関連領域を熟読しておくことが望ましい。
試験の受験資格 試験と課題レポートによる総括的評価を行う。 試験の受験資格は、全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
構成ユニット 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー 02 骨のバイオロジー 03 ことばの世界 04 オクルージョン 05 歯科と色 06 口唇裂・口蓋裂
モジュールの単位判定 本科目の単位を取得するためには、当該科目内の全ての構成ユニットに合格していなければならない。なお、科目の単位判定に際しては、出席日数、AL(リアクションペーパーの提出)、及び平常学習態度等が評価に加味される。
教科書 :医歯薬出版
参考書 色彩検定公式テキスト：文部科学省後援／色彩検定協会 編集:色彩検定協会, 2019.12 新編声の検査法／日本音声言語医学会,日本音声言語医学会 編集:医歯薬出版, 2024.10 咀嚼する脳：咀嚼運動をコントロールする脳・神経の仕組み／中村, 嘉男, 1933-,中村嘉男 著:医歯薬出版, 2005.6 摂食・嚥下と誤嚥のメカニズム：CGと機能模型でわかる!／里田, 隆博,戸原, 玄,里田隆博, 戸原玄 監修:医歯薬出版, 2013.3 歯科矯正学／後藤, 滋巳, 1952-,齋藤, 功, 歯学,西井, 康,榎, 宏太郎,森山, 啓司,山城, 隆,後藤滋巳 [ほか] 編集,新井一仁 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2024.9 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床／高橋, 庄二郎, 1924-,高橋庄二郎 著:日本歯科評論社, 1996.6 アトラス顎顔面矯正：顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療／黒田, 敬之, 1936-,大山, 紀美栄, 1940-,本橋, 信義, 1948-,鈴木, 聖一, 1954-,黒田敬之 監修,大山紀美栄, 本橋信義, 鈴木聖一 編:医歯薬出版, 2002.3 口腔生化学／早川, 太郎, 1934-,須田, 立雄, 1935-,早川太郎, 須田立雄 監修:医歯薬出版, 2018.9 国試合格力養成補綴歯科学の要点と解説／下山和弘, 羽村章 編著:医歯薬出版, 2020.1 咀嚼運動の生理学／中村, 嘉男, 1933-,中村嘉男 著:医歯薬出版, 1998.11

- ・テキストブック オクルージョン (Mohl/Zarb/Carlsson/Rugh 共著、藍稔訳、クインテッセンス、1993)
- ・入門咬合学(古谷野潔ほか、補綴臨床 Practice Selection、医歯薬出版)
- ・新編咬合学辞典(保母須美也、クインテッセンス出版)
- ・歯科技工別冊・咬合の基礎知識(五十嵐孝義・田村勝美、医歯薬出版)
- ・オクルージョン・咬合治療の理論と臨床(覚道幸男・三谷春保・碑田豊治、医歯薬出版)
- ・スポーツ歯学の臨床(大山喬史、医学情報社)
- ・顎顔面補綴の臨床(大山喬史・谷口尚、医学情報社)
- ・スポーツ歯科臨床マニュアル(日本スポーツ歯科医学会編、医学情報社)
- ・Clinical Management of Head, Neck and TMJ Pain and Dysfunction (Gelb H, WB Saunders, 1985)
- ・New Concepts in Craniomandibular and Chronic Pain Management (Gelb H, Mosby-Wolfe, 1994)

- ・はじめの一步の生化学・分子生物学(羊土社)
- ・骨ペディア(羊土社)
- ・Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems, San Diego, CA:ELSEVIER, 2010
- ・骨研究がわかる(羊土社)
- ・新 骨の科学 (医歯薬出版株式会社)
- ・Developmental Biology Scott F Gilbert (Sinauer Associates Inc)

- ・摂食嚥下リハビリテーション第3版(医歯薬出版)

履修上の注意事項

試験の受験資格を喪失しないように、体調管理に十分留意するとともに、出欠には余裕をもって各講義に臨んで下さい。

備考

2025 年度より新規に開講する科目のため、今後の授業評価結果も参考のうえ適宜改善・工夫する予定。

科目責任者 小野 卓史 tono.orts@tmd.ac.jp

副科目責任者 細道 純 hosomichi.orts@tmd.ac.jp

01 咀嚼と嚥下のバイオロジー:戸原 玄 h.tohara.swal@tmd.ac.jp

02 骨のバイオロジー:林 幹人 hayashi.csi@tmd.ac.jp

03 ことばの世界:服部 麻里子 sasamfp@tmd.ac.jp

04 オクルージョン:小野 卓史 tono.orts@tmd.ac.jp

05 歯科と色:服部 麻里子 sasamfp@tmd.ac.jp

06 口唇裂・口蓋裂:小川 卓也 t-ogawa.mort@tmd.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

小野 卓史:tono.orts@tmd.ac.jp

戸原 玄:h.tohara.swal@tmd.ac.jp

服部 麻里子:sasamfp@tmd.ac.jp

細道 純・小野 卓史:tono.orts@tmd.ac.jp

小川 卓也:t-ogawa.mort@tmd.ac.jp

林 幹人:hayashi.csi@tmd.ac.jp

オフィスアワー

小野 卓史:毎週月・水曜日 16:00—17:30 歯科棟北 12 階 咬合機能矯正学分野 教授室

戸原 玄:随時(ただし必ず事前に連絡のこと)10 号館 5 階 戸原教授室

服部 麻里子:随時(teams か slack のメッセージにて面談の日程を調整すること)D 棟 11 階生体補綴歯科学分野第 3 研究室

細道 純・小野 卓史:月・水 16:00—17:30 歯科棟北 12 階 咬合機能矯正学分野 教授室

小川 卓也:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

林 幹人:毎週月曜日-金曜日(事前メール連絡後)17:00 以降 M&D タワー8 階分子情報伝達学分野

時間割番号	021d60				
科目名	研究入門Ⅲ			科目ID	
担当教員	井関 祥子, 小野 卓史, 笛木 賢治, 大崎 珠理亜, 片桐 さやか, 猪越 正直[ISEKI Sachiko, ONO Takashi, FUEKI Kenji, OSAKI Juria, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
授業の目的、概要等					
医療の進歩に不可欠な医歯学研究を実践するに際して必要な知識や方法を学ぶ。問題解決の方法を習得するとともに科学的検証の重要性を理解し、歯学研究に貢献できる歯科医師としての技能と意識を涵養する。					
授業の到達目標					
1) 自ら関心を持つ問題について、配属先教員と相談し研究課題を設定する方法を理解する。 2) 研究課題を科学的研究として遂行するための計画を立て、自ら説明することができる。 3) 研究活動に必要な具体的な知識、技能、適切な態度を理解することができる。 4) 研究結果を科学的に検証し、評価する方法を理解する。 5) 研究活動について報告書を作成し、発表する方法を理解することができる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1	5/20	14:25-15:10		石丸 美穂	
2	5/20	15:25-16:10		石丸 美穂	
3	5/20	16:20-17:05		石丸 美穂	
4	5/28	14:25-15:10		石丸 美穂	
5	5/28	15:25-16:10		石丸 美穂	
6	5/28	16:20-17:05		石丸 美穂	
7	6/3	14:25-15:10		石丸 美穂	
8	6/3	15:25-16:10		石丸 美穂	
9	6/3	16:20-17:05		石丸 美穂	
10	6/16	11:40-12:25		關 奈央子	
11	6/17	11:40-12:25		井関 祥子	
12	6/23	11:40-12:25		金井 正美	
13	6/24	11:40-12:25		宇尾 基弘	
14	7/17	13:30-14:15		井関 祥子	
15	8/31	08:50-09:35		穂山 雅子	
16	8/31	09:45-10:30		穂山 雅子	
17	10/26	13:30-14:15		大崎 珠理亜	
18	11/18	13:30-14:15		大崎 珠理亜	
19	11/18	14:25-15:10		大崎 珠理亜	
20	11/18	15:25-16:10		中川 一路	
21	11/25	14:25-15:10		林 陽平	
22	11/25	15:25-16:10		笛木 賢治	
23	1/12	09:45-10:30		小野 卓史	
24	1/12	10:45-11:30		井関 祥子	
授業方法					
講義					
授業内容					
研究倫理、基礎研究者 ID 取得、統計の復習、研究の実際、バイオセーフティー、ポスター作成について、安全な実験について、動物実験、報告書作成/発表準備、開始前注意					

成績評価の方法 全授業時間数の 2/3 以上出席すること。
成績評価の基準 全授業時間数の 2/3 以上出席すること。
準備学習等についての具体的な指示
試験の受験資格 全授業時間数の 2/3 以上出席すること。
教科書 講義資料を配布する。
参考書 講義資料を配布する。
他科目との関連 研究入門Ⅲは、その後に実施する研究実習Ⅰの導入編である。
履修上の注意事項 ・全授業時間数の 2/3 以上の出席を必要とする。 ・活動(出席)状況は、担当教員が記録する。 ・全授業時間数の 2/3 以上出席していない場合は、研究実習Ⅰへの参加を認めない。
備考 連絡先 井関 祥子: s.iseki.emb@tmd.ac.jp

時間割番号	021d70				
科目名	研究実習 I			科目 ID	
担当教員	井関 祥子, 小野 卓史, 笛木 賢治, 片桐 さやか, 猪越 正直 [ISEKI Sachiko, ONO Takashi, FUEKI Kenji, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	7
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-8	1/13	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
9-16	1/14	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
17-24	1/15	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
25-32	1/18	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
33-36	1/19	08:50-12:20	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
37-44	1/20	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
45-52	1/21	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
53-60	1/22	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか,

				猪越 正直
61-68	1/25	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
69-72	1/26	08:50-12:20	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
73-80	1/27	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
81-88	1/28	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
89-96	1/29	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
97-104	2/1	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
105-108	2/2	08:50-12:20	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
109-116	2/3	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
117-124	2/4	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
125-132	2/5	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史

				片桐 さやか, 猪越 正直
133-1 40	2/8	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
141-1 44	2/9	08:50-12:20	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
145-1 52	2/10	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
153-1 60	2/12	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
161-1 64	2/16	08:50-12:20	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
165-1 72	2/17	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
173-1 80	2/18	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
181-1 88	2/19	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
189-1 96	2/22	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直
197-2 04	2/24	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治,

				小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
205-2 12	2/25	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
213-2 20	2/26	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
221-2 28	3/1	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
229-2 32	3/2	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
233-2 40	3/3	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
241-2 48	3/4	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
249-2 56	3/5	08:50-16:50	各研究室	井関 祥子, 笛木 賢治, 小野 卓史 片桐 さやか, 猪越 正直	
準備学習等についての具体的な指示					

時間割番号	021d80				
科目名	研究実習Ⅱ			科目ID	
担当教員	笛木 賢治, 井関 祥子, 小野 卓史, 片桐 さやか, 猪越 正直[FUEKI Kenji, ISEKI Sachiko, ONO Takashi, KATAGIRI Sayaka, INOKOSHI Masanao]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目:研究実習Ⅱ(必修科目) 開設時期:4 年 前期コマ数(授業コマ数+試験コマ数):8 + 0 授業形態:実習(研究発表)					
主な講義場所 D 棟の講義室(2 つに分かれて実施)					
授業の目的、概要等 1. 自身が行った研究内容を他者に分かりやすく伝える 2. 研究者からの質問に適切に回答する能力を滋養する					
授業の到達目標 令和4 年度改訂版【コアカリ番号】RE-02 1)研究の活動内容と意義を説明できる. 2)研究の種類と特徴を説明できる. 3)研究を行う上で必要な知識、技能、適切な態度を説明できる. 4)研究結果を科学的に検証する方法を説明できる 5)研究を社会に還元する方法を説明できる. 6)研究を行う上で守る規範を説明できる.					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室		
1	5/21	08:50-09:35	7 号館 1 階歯学科 講義室 1, 7 号館 2 階歯学科 講義室 2		
2	5/21	09:45-10:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1, 7 号館 2 階歯学科 講義室 2		
3	5/21	10:45-11:30	7 号館 1 階歯学科 講義室 1, 7 号館 2 階歯学科 講義室 2		
4	5/21	11:40-12:25	7 号館 1 階歯学科 講義室 1, 7 号館 2		

			階歯学科 講義室 2
5	5/21	13:30-14:15	7号館 1 階歯学科 講義室 1, 7号館 2 階歯学科 講義室 2
6	5/21	14:25-15:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1, 7号館 2 階歯学科 講義室 2
7	5/21	15:25-16:10	7号館 1 階歯学科 講義室 1, 7号館 2 階歯学科 講義室 2
8	5/21	16:20-17:05	7号館 1 階歯学科 講義室 1, 7号館 2 階歯学科 講義室 2
授業方法 1. 自身の研究内容をポスター掲示、パワーポイントでプレゼンして、審査員(研究者)と質疑を行う。 2. 他の学生の研究発表を見聞きて、レポート課題を行う。			
授業内容 研究実習Ⅰで実施した研究内容を発表(ポスター掲示、口頭発表)し、審査員と質疑を行う。			
成績評価の方法 1. 審査員が研究内容と質疑について基準に基づいて評価を行います。 2. 発表時間も加味します。			
成績評価の基準 以下の5つ基準で5段階評価して、合計点(25点満点)で成績とする。 ①発表が理路整然としていた ②内容を知らない聴衆に対してわかりやすく説明した ③ポスターが見やすく作製されていた ④討論によって、内容に関して十分な知識と理解が示された ⑤発表および質疑応答時の言葉使い・態度は適切であった 注意点 ・規定の発表時間から大幅に短い／長い場合には減点される。 ・ポスターを大判で1枚印刷した場合は、減点される。			
準備学習等についての具体的な指示 1. 抄録と発表資料の作成については、研究実習Ⅰで配属先分野の指導を受ける 2. 発表様式(ポスターの形式、サイズ)と抄録の構成は、研究入門Ⅱの授業内容を参照して準拠する			
試験の受験資格			

試験はありません.
構成ユニット 研究実習Ⅱ
モジュールの単位判定 以下の4点すべてを満たした場合に単位を認定する. 1. 抄録の提出 2. 発表会への出席(午前と午後) 3. 自身の研究の発表 4. レポート提出
他科目との関連 研究実習Ⅰで配属された分野で行った研究内容を発表します.
履修上の注意事項 ・発表会当日に欠席した場合には, 追加で発表・質疑の日時を設ける. ・発表会の詳細(グループ分け, 発表時間等)は, 別途連絡する. ・抄録の提出期限は, 別途連絡する(期限厳守).
備考 連絡先: 笛木賢治 kunfu.rpro@tmd.ac.jp オフィスアワー(木:13:00-17:00) 発表会後に懇親会を開催する場合, 授業の出席にはカウントしません(任意参加). 優秀者は, 口腔病学会での推薦発表を行う予定です.

時間割番号	021d90				
科目名	保存修復学			科目ID	
担当教員	島田 康史, 田端 倫子, 井上 剛, 平石 典子, 畑山 貴志[SHIMADA Yasushi, TABATA Tomoko, INOUE Go, HIRAISHI Noriko, HATAYAMA Takashi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目名:保存修復学 必要自習時間:10 時間 授業形態:講義・実習 コマ数:62					
主な講義場所 7 号館 5 階実習室 3					
授業の目的、概要等 講義 歯の常態を理解し、う蝕ならびにその他の歯質欠損の病態と治療の進め方を理解する。 歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。 修復材料の特性、成分及び構造を把握し、適切な材料の選択ならびに取り扱い方を理解する。 審美的な歯科治療に関する知識を習得し、その治療方法を理解する。 歯質保存的な歯冠修復の意義を理解する。 実習 う蝕の診察、検査、診断、治療及び予防を行うために必要な、知識、基本的な技能及び態度を身につける。 う蝕ならびにその他の歯質欠損に対する歯冠修復の進め方を習得する。					
授業の到達目標 講義 1) 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。 2) う蝕の病因と病態を説明できる。 3) う蝕の症状・診断・治療法を説明できる。 4) 歯冠欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。 5) 窩洞の意義と窩洞形成の方法を説明できる。 6) 切削・研磨用材料と使用機器の特徴と使い方を説明できる。 7) 歯冠修復に用いる材料の構造と物性を理解する。 8) 歯冠修復法の種類と特徴及びその適応を説明できる。 9) 接着性修復材料をもちいた修復の概要と特性を説明できる。 10) 修復に必要な前処理の目的と意義を説明できる。 11) 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。 12) う蝕の予防法を理解し、う蝕リスクの診断法を説明できる。 13) 間接法修復の進め方と使用する材料の種類と性質を説明できる。 14) 仮封ならびに暫間装置の意義、種類及び特徴を説明できる。 15) 歯の変色の原因、種類及び処置を説明できる。 16) 歯科用レーザーの保存修復治療への応用法の術式と特徴を説明できる 17) 審美的な歯科治療の意義を説明できる。 18) 審美的な歯科治療法を列挙し、その基本的な術式と特徴を説明できる。 19) MIの意義を説明できる。 20) 修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。					

21) 歯科修復物への接着／補修方法を説明できる

実習

- 1) 診察、検査、診断及び治療に必要な器材を準備できる。
- 2) 切削・研磨用材料と機器を使用できる。
- 3) う蝕の除去ならびに窩洞形成ができる。
- 4) 歯の欠損の病態に対応した処置方針を選択し、説明できる。
- 5) 直接法接着修復の基本操作を行うことができる。
- 6) 修復に必要な前処理の基本的操作ができる。
- 7) 間接法修復に関する模型上での基本的操作を理解し、行うことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-3	4/9	08:50-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	う蝕の診断と修復治療の準備・う蝕の処置と窩洞、歯髄保護・仮封	島田 康史
4	4/9	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	う蝕治療ガイドライン	島田 康史
5-8	4/9	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	診療器材の取り扱い、抜去歯の観察、う蝕除去、1級窩洞(抜去歯)	田端 倫子、 荒牧 音、佐藤 健人、津田 優香、盧山 晨、中元 絢子
9-10	4/16	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	接着のメカニズム	島田 康史
11	4/16	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	コンポジットレジン材料学	稲井 紀通
12	4/16	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	歯以外への接着・補修修復・メンテナンス	井上 剛
13-16	4/16	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	5級窩洞、WSD	井上 剛、田端 倫子、木部 航太、高田 恒彦、永野 大樹、吉峰 齊昭、大林 翔、中元 絢子
17-20	4/21	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	3級窩洞・4級窩洞	田端 倫子、島田 康史、日下 輝雄、西浦 美穂、伊藤 志麻、桐原 大、中田 琢也、久

						野 裕介, 相 内 紘子
21-24	4/23	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	2級窩洞(トッフルマイヤー)(コンタ クトリング)	田端 倫子, 高田 恒彦, 荒牧 音, 内 沼 茂樹, 大 林 翔, 長谷 川 真夕, 木 部 航太
25	4/30	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	セメント・アマルガム修復	井上 剛
26	4/30	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	ラミネートベニア修復	高橋 真広
27	4/30	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	う蝕のマネジメントと機能的歯科 材料	平石 典子
28	4/30	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	インレー修復	島田 康史
29-32	4/30	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	レジンインレー(形成、レジンコー ティング、印象、仮封)	田端 倫子, 島田 康史, 石川 芽生, 伊藤 志麻, 吉峰 斉昭, 佐藤 健人, 荒岡 大輔, 中根 晶, 内 沼 茂樹, 長 谷川 真夕
33	5/7	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	象牙質知覚過敏症	畑山 貴志
34	5/7	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	口腔バイオフィルム	大原 直也
35-38	5/7	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	実習:保存修復学	レジンインレー作製(デモ)と装着 5級 GIC 充填と HYS 処置	田端 倫子, 平石 典子, 石川 芽生, 津田 優香, 盧山 晨
39	5/22	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	病院における歯科治療と医科歯科 連携	杉崎 順平
40	5/22	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:保存修復学	MI 審美修復	岸川 隆蔵
41	5/22	10:45-11:30	7号館3	講義:保存修復学	歯のホワイトニングとその他の色	大槻 昌幸

			階歯学科 講義室 4		調回復方法	
42	5/22	11:40-12:25	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	講義:保存修復学	保存治療最前線ー変遷が進むう 蝕治療と AI 時代の口腔ケア	野村 由一郎
43-46	5/22	13:30-17:05	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	実習:保存修復学	ラバーダム防湿とう蝕除去(カリエ スモデル歯, 1 級窩洞) ラバーダ ム防湿と CR 充填(カリエスモデル 歯, 1 級窩洞)	畑山 貴志, 田端 倫子, 岩本 奈々子, 品川 淳一, 中田 琢也, 荒岡 大輔, 永野 大樹, 馬場 雄大
47	5/26	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	講義:保存修復学	Tooth wear	北迫 勇一
48	5/26	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	講義:保存修復学	CR の適応拡大と新概念	田代 浩史
49	5/26	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	講義:保存修復学	レーザー	中根 晶
50	5/26	11:40-12:25	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	講義:保存修復学	歯の治療学:研究・臨床・専門医	北村 知昭
51-54	5/26	13:30-17:05	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	実習:保存修復学	根充後 CR 前装冠修理 CR(デモ のみ)と補修修復	田端 倫子, 岩本 奈々子, 濱田 具之, 西浦 美穂, 桐原 大 久 野 裕介, 高 橋 基, 中根 晶
55-58	6/1	13:30-17:05	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	実習:保存修復学	作品提出	田端 倫子, 相内 紘子, 品川 淳一, 高橋 基 馬 場 雄大
59-62	6/2	13:30-17:05	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	実習:保存修復学	実習試験	田端 倫子
63	7/8	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	保存修復学	筆記試験	田端 倫子
64-65	7/23	08:50-10:30	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	保存修復学	追再試験(筆記試験、実習試験)	田端 倫子

授業方法
 対面講義、対面実習

成績評価の方法 筆記・実習試験、実習態度の評価、作品の評価を行い、総合的評価を行う。
成績評価の基準 実習における製作物の提出、インストラクターによる評価等により総合的に評価する。
準備学習等についての具体的な指示 アップロードしてある実習項目の動画を事前に視聴すること。 授業・実習の進行に合わせ、教科書を事前に学習しておくこと。 保存修復学 21 第 7 版 第 1 章 概論 第 2 章 齲蝕 第 3 章 齲蝕以外の硬組織疾患 第 4 章 歯髄障害・歯髄保護 第 5 章 診療設備・器材 第 6 章 窩洞 第 7 章 修復方法 第 8 章 コンポジットレジン修復 第 9 章 グラスアイオノマーセメント修復 第 10 章 アマルガム修復 第 11 章 コンポジットレジンインレー修復 第 12 章 セラミックインレー修復 第 13 章 歯科用 CAD/CAM 法によるインレー修復 第 14 章 メタルインレー修復 第 15 章 合着・接着 第 16 章 ラミネートベニア修復 第 17 章 歯の漂白 第 18 章 補修修復 第 19 章 高齢者の歯の保存方法
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、講義は3分の2以上、実習は4分の3以上出席していなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
教科書 保存修復学 21 第七版／山本 一世、斎藤隆史、村松 敬、島田康史 監修、斎藤 隆史 監修、亀山 敦史 編集、北村 知昭 編集、齋藤 正寛 編集、佐野 英彦 編集、島田 康史 編集、新海 航一 編集、二階堂 徹 編集、西谷 佳浩 編集、野村 由一郎 編集、野田 守 編集、林 美加子 編集、平山 聡司 編集、富士谷 盛興 編集、古澤 成博 編集、保坂 啓一 編集、前田 英史 編集、真鍋 厚史 編集、村松 敬 編集、山田 嘉重 編集、山本 雄嗣 編集、横瀬 敏志 編集、吉山 昌宏 編集、米田 雅裕 編集、田上 順次：永末書店、2026-02-17 保存修復学／千田 彰、1948-、宮崎 真至、林 美加子、千田彰、宮崎真至、林美加子、向井義晴、斎藤隆史 編集：医歯薬出版、2019.9
参考書 接着歯学 = Adhesive dentistry／日本接着歯学会 編、日本接着歯学会：医歯薬出版、2015 Sturdevant's art and science of operative dentistry／Ritter, André V., Boushell, Lee W., Walter, Ricardo, Sturdevant, Clifford M. : Elsevier, 2019 う蝕治療ガイドライン 第2版／日本歯科保存学会編、日本歯科保存学会：永末書店、2022 う蝕学：チェアサイドの予防と回復のプログラム／田上順次、花田信弘、桃井保子 編、田上 順次、1955-、花田 信弘、1953-、桃井 保子、1951-：永末書店、2008 歯界展望 別冊 コンポジットレジンによる最新 MI 修復 東京医科歯科大学田上教室の研究と臨床／田上 順次（著、編集）：医歯薬出版 根面う蝕の診療ガイドライン／日本歯科保存学会：永末書店、2024.7 歯髄保護の診療ガイドライン／日本歯科保存学会・日本歯内療法学会：医歯薬出版 コンポジットレジン修復の発想転換／田代浩史 著：医歯薬出版、2015

接着歯学 = Adhesive dentistry／日本接着歯学会 編:医歯薬出版, 2015

履修上の注意事項

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

備考

ユニット授業においては、AL(Q&A、ピア・ティーチングなど)を行う。

田端倫子 tabata.ope@tmd.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

島田 康史 shimada.ope@tmd.ac.jp

オフィスアワー

島田 康史:月・火・木・金 16:30-19:00

時間割番号	021e00				
科目名	歯内治療学			科目ID	
担当教員	八幡 祥生, 田澤 建人[YAHATA Yoshio, TAZAWA Kento]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目単位:2. 2 単位、授業:講義(含アクティブラーニング):19コマ、実習:30コマ 必要自習時間:各回1時間以上 授業形態:講義(対面授業)、実習、アクティブラーニング					
主な講義場所 対面授業(第4講義室)、実習(5階保存・矯正実習室)					
授業の目的、概要等 歯髄疾患と根尖性歯周疾患に適切に対処するために、これらの疾患の診断と治療の進め方に関する基礎的知識を修得するとともに、実習を通じて根管治療の手技を習得する。					
授業の到達目標 D-5-2-2 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療 D-5-2-2-1 歯髄・根尖性歯周疾患の症状、検査法、診断及び治療法を理解している。 D-5-2-2-2 根管充填の目的と方法を理解している。 D-5-2-2-3 歯髄・根尖性歯周疾患の治療時における合併症(偶発症)について、種類、処置及び予防を理解している。 D-5-2-2-4 歯髄・根尖性歯周疾患の治療後の治癒機転と予後を理解している。 D-5-2-2-5 外科的歯内療法(手術用実体顕微鏡の利用を含む)の種類と適応を理解している。 D-5-2-2-6 失活歯の変色の原因と処置を理解している。 D-5-2-2-7 歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を理解している。 D-5-2-2-8 失活歯の歯根破折の原因、症状、診断及び処置を理解している。 E-5-3-2 歯髄及び根尖性歯周疾患の治療 学修目標: E-5-3-2-1 感染根管治療(単根歯)ができる。(I a) E-5-3-2-2 感染根管治療(複根歯)ができる。(I b) E-5-3-2-3 直接覆髄法と間接覆髄法ができる。(I b) E-5-3-2-4 暫間の間接覆髄法ができる。(I b) E-5-3-2-5 歯髄鎮痛消炎療法ができる。(I b) E-5-3-2-6 抜髄(単根歯)ができる。(I b) E-5-3-2-7 歯髄及び根尖性歯周疾患治療後の経過を観察できる。 特に本実習では以下について習得することを目指す。 1. 歯内治療に必要な器材を準備できる。 2. ラバーダム防湿を行うことができる。 3. 髄腔開拓を人工歯で行うことができる。 4. 髄腔開拓を天然歯で行うことができる。 5. 根管形成、根管貼薬、仮封を人工歯で行うことができる。 6. 根管形成、根管貼薬、仮封を天然歯で行うことができる。 7. 電氣的根管長測定を行うことができる。 8. 根管充填を人工歯で行うことができる。 9. 根管充填を天然歯で行うことができる。 10. ニッケルチタン製ロータリーファイルの基本操作を行うことができる。 11. 根管充填材除去を行うことができる。					

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	歯髄疾患概論	八幡 祥生	D-5-2-2
2	6/10	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	根尖性歯周炎概論	八幡 祥生	D-5-2-2
3	6/10	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	診査・検査法, 診断の流れ	八幡 祥生	D-5-2-2-1
4	6/10	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	根管形成器具, 根管長測定法, 根管形成法	八幡 祥生	D-5-2-2-1
5	6/11	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	根管洗浄, 根管貼薬, 仮封	八幡 祥生	D-5-2-2-1
6	6/11	09:45-10:30	7号館5 階歯学科 実習室3	物品貸し出し、抜去歯の選定、歯の植立	八幡 祥生, 川島 伸之, 田澤 建人, 牧 圭一郎, 木村 俊介, 大森 智史	1
7	6/11	10:45-11:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(右上1)髄腔開拓	八幡 祥生, 川島 伸之, 田澤 建人, 牧 圭一郎, 木村 俊介, 大森 智史	3
8	6/11	11:40-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(左上4)髄腔開拓	八幡 祥生, 川島 伸之, 田澤 建人, 牧 圭一郎, 木村 俊介, 大森 智史	3
9	6/11	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	根管模型ブロック (S8-BC2)根管形成	八幡 祥生, 川島 伸之, 田澤 建人, 牧 圭一郎, 木村 俊介, 大森 智史	5
10	6/11	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	根管模型ブロック (S8-BC2)根管形成	八幡 祥生, 川島 伸之, 田澤 建人, 牧 圭一郎, 木村 俊介, 大森 智史	5

11	6/11	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	ラバーダム実習	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	2
12	6/11	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	ラバーダム実習	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	2
13	6/17	08:50-09:35	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(右上1)根管 形成1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	5
14	6/17	09:45-10:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(右上1)根管 形成2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	5
15	6/17	10:45-11:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(左上4)根管 形成1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	5
16	6/17	11:40-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(左上4)根管 形成2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	5
17	6/18	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	根管充填材、根管充填 法	八幡 祥生	D-5-2-2-2
18	6/18	09:45-10:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(右上1)根管 充填	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	8
19	6/18	10:45-11:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(左上4)根管 充填1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介	8

					大森 智史	
20	6/18	11:40-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(左上4)根管 充填2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	8
21	6/18	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	天然抜去小臼歯 髓腔 開拡～根管充填1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	4,6,7,9
22	6/18	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	天然抜去小臼歯 髓腔 開拡～根管充填2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	4,6,7,9
23	6/18	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	天然抜去小臼歯 髓腔 開拡～根管充填3	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	4,6,7,9
24	6/18	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	天然抜去小臼歯 髓腔 開拡～根管充填4	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	4,6,7,9
25	6/19	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(下大臼歯) 髓腔開拡～根管充填1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
26	6/19	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(下大臼歯) 髓腔開拡～根管充填2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
27	6/19	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯 B22(下大臼歯) 髓腔開拡～根管充填3	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10

28	6/19	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(下大臼歯) 髓腔開広～根管充填4	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
29	6/23	08:50-09:35	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(上大臼歯) 髓腔開広～根管充填1	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
30	6/23	09:45-10:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(上大臼歯) 髓腔開広～根管充填2	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
31	6/23	10:45-11:30	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(上大臼歯) 髓腔開広～根管充填3	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
32	6/23	11:40-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3	人工歯B22(上大臼歯) 髓腔開広～根管充填4	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10,11
33	6/24	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	抜髄・感染根管治療	八幡 祥生	D-5-2-2-1, D-5-2-2-4
34	6/24	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	再根管治療	八幡 祥生	D-5-2-2-3, D-5-2-2-8
35	6/24	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	外科的歯内治療 根未 完成歯, 歯内歯周疾患, 緊急処置	八幡 祥生	D-5-2-2-5
36	6/24	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	各偶発症の原因と対処 歯根吸収、外傷歯の分 類・診断・治療	八幡 祥生	D-5-2-2-3
37	6/25	08:50-09:35	7号館5 階歯学科 実習室3	実習試験B22 小臼歯	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
38	6/25	09:45-10:30	7号館5	実習試験B22 小臼歯	八幡 祥生	3,5,8,10

			階歯学科 実習室 3		川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	
39	6/25	10:45-11:30	7号館 5 階歯学科 実習室 3	実習試験(B22 小臼歯)	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
40	6/25	11:40-12:25	7号館 5 階歯学科 実習室 3	実習試験(B22 小臼歯)	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	3,5,8,10
41	7/10	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	試験(講義)	八幡 祥生	D-5-2-2-1,D-5-2-2-3
42	7/22	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	追試・再試(講義)	八幡 祥生	D-5-2-2-6, D-5-2-2-7
43	9/17	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科 講義室 4	アクティブラーニング	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	D-5-2-2
44	9/17	14:25-15:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	アクティブラーニング	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	D-5-2-2
45	9/17	15:25-16:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	アクティブラーニング	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	D-5-2-2
46	9/17	16:20-17:05	7号館 3 階歯学科 講義室 4	アクティブラーニング	八幡 祥生 川島 伸之 田澤 建人 牧 圭一郎 木村 俊介 大森 智史	D-5-2-2
47	9/18	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科	特別講義(澤田先生)	八幡 祥生 川島 伸之	D-5-2-2

講義と実習にて構成される。

講義では歯内療法に関する知識を習得することを目指す

実習では以下のユニットを通じて歯内療法に関する手技を習得することを目指す

- 1 模型を用いた根管形成
- 2 各歯種に対するラバーダム防湿法
- 3 人工歯を用いた根管形成
- 4 天然歯を用いた根管形成
- 5 NiTi ファイルを使用した根管形成
- 6 顕微鏡を使用した根管観察

教科書

実習での使用テキスト:オリジナルプリント(各自 WebClass からダウンロードすること)

参考書

エンドドンティクス／興地, 隆史,石井, 信之,北村, 知昭, 1964-,林, 美加子,興地隆史, 石井信之, 北村知昭, 林美加子 編集主幹:永末書店, 2022.3

歯内治療学／興地, 隆史,石井, 信之,前田, 英史,鈴木, 規元,興地隆史 [ほか] 編集:勝海一郎 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2025.2

他科目との関連

本実習は保存修復および小児歯科における実習と関係する。特にラバーダム修復手技については、各実習で細かい差があるので混同しないよう注意すること。

履修上の注意事項

実習はすべての回に出席することを前提に構成される。体調不良等、出席が困難な場合には、事前にメールで連絡すること。 指示があった場合、レポートを提出すること。

備考

ケーススタディを通した、アクティブラーニングを行う。

昨年度の学生からのアンケート結果をもとに、手技が明確に理解できるよう根管模型を追加するなどカリキュラム内容を一部変更している。

科目責任者

氏名: 八幡 祥生

オフィシアワー: 事前にメールにてアポイントを取ること

メールアドレス: yahata.y.b157@misctac.jp

時間割番号	021e10				
科目名	歯周病学			科目ID	
担当教員	岩田 隆紀, 青木 章, 松浦 孝典, 芝 多佳彦, 前川 祥吾, 永田 瑞, 土谷 洋輔, 森田 和機[WATA Takanori, AOKI Akira, TAKANORI MATSUURA, SHIBA Takahiko, MAEKAWA Shogo, NAGATA Mizuki, TSUCHIYA Yosuke, MORITA Kazuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名:歯周病 モジュール単位:2単位 モジュール授業:講義(試験含まず):28コマ、実習(実習試験含む):39コマ モジュール総コマ数:67 授業形態:講義、実習 (授業形態に変更があった場合、Dream campus のメッセージで連絡を行うので確認すること)					
主な講義場所 講義:7 号館 3 階 歯学科講義室 4、オンライン(Zoom、Webclass) 実習:7 号館 5 階 歯学科実習室 3 7 号館 3 階 歯学科実習室 1					
授業の目的、概要等 歯周病の病因・病態を理解し、その予防、診断および治療のための知識と基本的技能を習得する。					
授業の到達目標 E-3-1, E-3-2, E-3-3, F-3-3 1)歯周病の病因・病態について説明できる。 2)歯周病の予防について説明できる。 3)歯周病の診断について説明できる。 4)歯周治療の意義について説明できる。 5)歯周治療の流れについて説明できる。 6)歯周治療に必要な器具操作ができる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	4/7	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科講義室 4		
2	4/7	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科講義室 4		
3	4/7	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科講義室 4		
4	4/7	11:40-12:25	7 号館 3 階歯学科講義室 4		
5	4/7	13:30-14:15	7 号館 5 階歯学科実習室 3		
6	4/7	14:25-15:10	7 号館 5 階歯学科		

			実習室 3	
7	4/7	15:25-16:10	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
8	4/7	16:20-17:05	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
9	4/10	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
10	4/10	14:25-15:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
11	4/10	15:25-16:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
12	4/10	16:20-17:05	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
13	4/14	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
14	4/14	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
15	4/14	10:45-11:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
16	4/14	11:40-12:25	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
17	4/14	13:30-14:15	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
18	4/14	14:25-15:10	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
19	4/14	15:25-16:10	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
20	4/14	16:20-17:05	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
21	4/21	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
22	4/21	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	

23	4/21	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	
24	4/21	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	
25	4/24	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	
26	4/24	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
27	4/24	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
28	4/24	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	
29	4/28	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	
30	4/28	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	
31	4/28	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	
32	4/28	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	
33	4/28	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	
34	4/28	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
35	4/28	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
36	4/28	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	
37	5/1	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	
38	5/1	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
39	5/1	15:25-16:10	7号館5	

			階歯学科 実習室 3	
40	5/1	16:20-17:05	7号館 5 階歯学科 実習室 3	
41	5/8	08:50-09:35	7号館 5 階歯学科 実習室 3, 歯学部基 礎実習室	
42	5/8	09:45-10:30	7号館 5 階歯学科 実習室 3, 歯学部基 礎実習室	
43	5/8	10:45-11:30	7号館 5 階歯学科 実習室 3, 歯学部基 礎実習室	
44	5/8	11:40-12:25	7号館 5 階歯学科 実習室 3, 歯学部基 礎実習室	
45	5/15	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
46	5/15	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
47	5/15	10:45-11:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
48	5/15	11:40-12:25	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
49	5/15	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科 実習室 1	
50	5/15	14:25-15:10	7号館 3 階歯学科 実習室 1	
51	5/15	15:25-16:10	7号館 3 階歯学科 実習室 1	
52	5/15	16:20-17:05	7号館 3 階歯学科 実習室 1	

53	5/19	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3	
54	5/19	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
55	5/19	15:25-16:10	7号館5 階歯学科 実習室3	
56	5/19	16:20-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	
57	5/28	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	
58	5/28	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	
59	5/28	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	
60	5/28	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室4	
61	6/2	08:50-09:35	7号館5 階歯学科 実習室3	
62	6/2	09:45-10:30	7号館5 階歯学科 実習室3	
63	6/2	10:45-11:30	7号館5 階歯学科 実習室3	
64	6/2	11:40-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3	
65	6/12	13:30-14:15	7号館5 階歯学科 実習室3, 7号館5 階歯学科 講義室5	
66	6/12	14:25-15:10	7号館5 階歯学科 実習室3, 7号館5 階歯学科 講義室5	
67	6/12	15:25-16:10	7号館5	

			階歯学科 実習室 3 7号館 5 階歯学科 講義室 5		
68	7/7	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	試験	
69	7/7	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	試験	
70	7/21	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	追再試験	
71	7/21	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	追再試験	
授業方法 基本的には対面式で講義や筆記試験を予定している。					
授業内容 歯周治療を行うにあたり必要な歯周病学の総論、歯周病の原因や疫学、歯周組織の解剖学や病理学などの講義を行う。 また、実習を通じて、歯周治療を行うにあたり必要な知識・技能の習得を行う。					
成績評価の方法 各ユニットごとに、形成的評価(小テスト、製作物評価など)および試験を行う。					
成績評価の基準 各ユニットの成績を統合して行う。					
準備学習等についての具体的な指示 ・講義・実習では小テストを行う予定なので、予習をしたうえでの受講が望ましい。 ・実習では白衣(実習用)、およびゴーグルまたはフェイスシールドを着用すること。眼鏡のみは不可とする。 ・本実習は臨床の場を想定している。そのため患者やスタッフに安心感を与える身だしなみを心がけること。すなわち、サンダルや厚底の靴、ヒール等、感染対策・医療安全上不適切なものは禁止とする。医療用ワークシューズやスニーカーを着用すること。 ・また、感染対策の観点から、半袖または袖が容易に捲れるタイプの長袖の服を白衣の下に着用すること。また、髪はまとめ、爪も短く整えること。グローブ装着をした状態でも細かな操作が支障なく行えるようにしておくこと。 ・これらを遵守できない場合は実習に参加できないため十分に注意すること。					
試験の受験資格 ・「歯周病基礎編」「歯周病臨床編」では、各ユニットごとに3分の2以上出席していなければならない。 ・「歯周病・歯周治療実習」では、実習試験を除き4分の3以上出席していなければならない。 (インフルエンザ感染症や新型コロナウイルス感染症などにより公欠となる場合は、出席日数から当該公欠日数を引いた日数をもとに出席状況を計算する。)					
構成ユニット 1 歯周病基礎編 2 歯周病臨床編 3 歯周病・歯周治療実習					
モジュールの単位判定 ・モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。 ・なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、小テストおよび定期試験の結果、製作物、平常学習態度等が評価に加味される。					

教科書

ザ・ペリオドントロジー 第4版／沼部 幸博 編集、齋藤 淳 編集、梅田 誠 編集、山本 松男 編集、岩田 隆紀 編集、小方 頼昌 編集、小牧 基浩 編集、五味 一博 編集、佐藤 聡 編集、高柴 正悟 編集、高橋 慶壮 編集、辰巳 順一 編集、中島 啓介 編集、西村 英紀 編集、古市 保志 編集、三谷 章雄 編集、八重柏 隆 編集、山田 聡 編集、沼部 幸博、齋藤 淳、梅田 誠、山本 松男、岩田 隆紀、小方 頼昌、小牧 基浩、五味 一博、佐藤 聡、高柴 正悟、高橋 慶壮、辰巳 順一、中島 啓介、西村 英紀、古市 保志、三谷 章雄：永末書店、2023

臨床歯周病学第3版／村上伸也、申 基喆、齋藤 淳、山田 聡編：医歯薬出版、2020

Lindhe 臨床歯周病学とインプラント<第4版>／Jan Lindhe, Thorkild Karring, Niklaus P.Lang 編著、岡本浩 監訳：クインテッセンス出版、2005

Carranza's クリニカルペリオドントロジー<原著第9版>／M. G. Newman, H. H. Takei, F. A. Carranza 編著、申基哲、河津寛、嶋田淳、安井利一、上村恭弘 監訳：クインテッセンス出版、2005

参考書

歯周病学：ラタイチャークカラーアトラス／Wolf, Herbert F,Rateitschak, Edith M,Rateitschak, Klaus H,日本臨床歯周病学会、大口 弘和、加藤 熙、1938-、川崎 仁、鈴木 文雄、船越 栄次、Herbert F. Wolf, Edith M. , Klaus H. Rateitschak [著]、日本臨床歯周病学会 翻訳・監修、大口弘和、加藤 熙 総監訳、川崎仁、鈴木文雄、船越栄次 監訳：永末書店、2008.6

Clinical Periodontology and Implant Dentistry, 2 Volume Set, 7th Edition／Niklaus P. Lang, Jan Lindhe：Wiley-Blackwell, 2021

Newman and Carranza's clinical periodontology and implantology, 14th ed.／Newman, Michael G.,Klokkevold, Perry R.,Elangovan, Satheesh,Kapila, Yvonne,Carranza, Fermin A.,Takei, Henry H.,Michael G. Newman, Perry R. Klokkevold, Satheesh Elangovan, Yvonne Kapila ; edited by Fermin A. Carranza, Henry Takei : Saunders, 2023

インプラント周囲炎／Renvert, Stefan,Giovannoli, Jean-Louis,山本 松男、弘岡 秀明、1950-、和泉 雄一、ステファン・レンバート、ジャン・ルイ・ジョバンノーリ 著、山本松男、弘岡秀明、和泉雄一 監訳：クインテッセンス出版、2013.6

歯周治療のガイドライン／日本歯周病学会、日本歯周病学会 編：医歯薬出版、2022.3

歯周病患者における抗菌薬適正使用のガイドライン／日本歯周病学会、日本歯周病学会 編：医歯薬出版、2020.12

歯周病患者における口腔インプラント治療指針およびエビデンス 2018／日本歯周病学会、日本歯周病学会 編：医歯薬出版、2019.3

歯周病患者における再生療法のガイドライン／日本歯周病学会、日本歯周病学会 編：医歯薬出版、2023.12

糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン／日本歯周病学会、日本歯周病学会編：医歯薬出版、2015.3

歯周治療・インプラント周囲治療のための Er: YAG レーザーパーフェクトガイド：ベーシックから最新アドバンスまで／青木 章、1963-、谷口 陽一、水谷 幸嗣、青木章、谷口陽一、水谷幸嗣 編著：Hyoron、2023.9

履修上の注意事項

各ユニットの試験受験資格に必要な出席が確認されていること。

備考

責任教員：MC 岩田隆紀 主任教授 iwata.peri@tmd.ac.jp

副MC 青木 章 担当教授 aoperi@tmd.ac.jp

オフィスアワー：月～木 17:00-18:00 10号館7階歯周病学分野

時間割番号	021e20						
科目名	全部床補綴学				科目ID		
担当教員	副田 弓夏, 金澤 学[SOEDA Yumika, KANAZAWA Manabu]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4		単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
コマ数:講義 9 コマ, 実習 56 コマ 必要自習時間:30 時間 授業形態:講義, 実習							
主な講義場所 講義:WebClass を用いた遠隔非同期 実習:7 号館 3 階歯学科実習室 1, 7 号館 3 階歯学科講義室 4							
授業の目的、概要等 全部床義歯補綴に必要な知識と基本的技能を修得する。							
授業の到達目標 1) 全部床義歯の目的と意義を説明できる。(E-3-4)-(2)②) 2) 全部床義歯の種類と適応症を説明できる。(E-3-4)-(2)③) 3) 無歯顎患者の診査および診断を説明できる。(E-3-4)-(2)①,③) 4) 全部床義歯の構成要素を説明できる。(E-3-4)-(2)④) 5) 全部床義歯の設計原則を説明できる。(E-3-4)-(2)⑤) 6) 全部床義歯の前処置の意義と方法を説明できる。(E-3-4)-(2)③,⑤,⑫) 7) 全部床義歯の印象採得法を説明できる。(E-3-4)-(2)⑥) 8) 全部床義歯の顎間関係記録法を説明できる。(E-3-4)-(2)⑥,⑦,⑧) 9) 全部床義歯の咬合を説明できる。(E-3-4)-(2)⑧,⑩) 10) 全部床義歯の人工歯の種類および排列法を説明できる。(E-3-4)-(2)⑨,⑩,⑪,⑫, D-2) 11) 全部床義歯の研磨面形態を説明できる。(E-3-4)-(2)④,⑫) 12) 蟬義歯の埋没および重合操作を説明できる。(E-3-4)-(2)⑪,⑫, D-2) 13) 全部床義歯の装着時に必要な基本的事項を説明できる。(E-3-4)-(2)⑬) 14) 全部床義歯のメンテナンスを説明できる。(E-3-4)-(2)⑭) 15) 即時義歯および治療義歯の目的と意義を説明できる。(E-3-4)-(2)②,③) 16) 全部床義歯製作のための技工操作を修得する。(E-3-4)-(2)⑪,⑫, D-2) ()内は H28 コアカリキュラム番号							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/6	08:50-12:25	7 号館 3 階歯学科実習室 1	実習	器械検査, 外形線記入, ブロックアウト	副田 弓夏, 宮安 杏奈, 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]7,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を予習してくること
5-7	4/6	13:30-16:10	7 号館 3 階歯学科実習室 1	実習	個人トレー1	副田 弓夏, 宮安 杏奈, 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]7,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を予習してくること
8	4/6	16:20-17:05	遠隔授業	講義	総論	金澤 学	[到達目標]1-7

			(非同期型)				[学習方法]非同期講義 [事前学習]なし
9-12	4/13	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1	実習	個人トレー2	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]7,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
13-15	4/13	13:30-16:10	7号館3階歯学科実習室1	実習	辺縁形成	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]7,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
16	4/13	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	講義	診断, 前処置, 印象	濱 洋平	[到達目標]1-7 [学習方法]非同期講義 [事前学習]なし
17-20	4/20	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1	実習	咬合床1	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]8,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
21-23	4/20	13:30-16:10	7号館3階歯学科実習室1	実習	咬合床2	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]8,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
24	4/20	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	講義	バイト, 咬合器装着, 咬合器	副田 弓夏	[到達目標]8 [学習方法]非同期講義 [事前学習]なし
25-28	4/27	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1	実習	咬合採得	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]8,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
29-31	4/27	13:30-16:10	7号館3階歯学科実習室1	実習	咬合器装着	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏崎 健汰	[到達目標]8,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデオ・実習書を 予習しておくこと
32	4/27	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	講義	人工歯排列, 歯肉形成, 試適	大沼 啓	[到達目標] 9,10,11 [学習方法]非同期講義 [事前学習]なし
33-36	5/11	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1, 7号館3	実習	前歯部排列1/デジタル排列1	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中井 啓人, 柏	[到達目標] 9,10,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモビデ

			階歯学科 講義室 4			崎 健汰	オ・実習書を予習 してくること
37-39	5/11	13:30-16:10	7号館3 階歯学科 実習室1, 7号館3 階歯学科 講義室4	実習	前歯部排列2/デジタル排列2	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏 崎 健汰	[到達目標] 9,10,16 [学習方 法]実習 [事前 学習]デモビデ オ・実習書を予習 してくること
40	5/11	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	講義	埋没, 重合, 咬合器再装着, 咬合 調整	中井 啓人	[到達目標]11,12 [学習方法]非同 期講義 [事前学 習]なし
41-44	5/18	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1, 7号館3 階歯学科 講義室4	実習	デジタル排列1/前歯部排列1	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏 崎 健汰	[到達目標] 9,10,16 [学習方 法]実習 [事前 学習]デモビデ オ・実習書を予習 してくること
45-47	5/18	13:30-16:10	7号館3 階歯学科 実習室1, 7号館3 階歯学科 講義室4	実習	デジタル排列2/前歯部排列2	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏 崎 健汰	[到達目標] 9,10,16 [学習方 法]実習 [事前 学習]デモビデ オ・実習書を予習 してくること
48	5/18	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	講義	義歯 Set, 調整, 修理	駒ヶ嶺 友梨 子	[到達目標] 9,13,15 [学習方 法]非同期講義 [事前学習]なし
49-52	5/25	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1	実習	プリント義歯トリミング, クリニカル リマウント	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏 崎 健汰	[到達目標]9,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモ ビデオ・実習書を 予習してくること
53-55	5/25	13:30-16:10	7号館3 階歯学科 実習室1	実習	咬合調整	副田 弓夏 宮安 杏奈 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏 崎 健汰	[到達目標]9,16 [学習方法]実習 [事前学習]デモ ビデオ・実習書を 予習してくること
56	5/25	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	講義	訪問診療, 作業環境	宮安 杏奈	[到達目標]1,3 [学習方法]非同 期講義 [事前学 習]なし
57-58	5/28	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	講義	色々な義歯	岩城 麻衣子	[到達目標]15 [学習方法]非同 期講義 [事前学 習]なし
59-62	6/1	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1,	実習	形態修正・研磨	副田 弓夏 大沼 啓, 中 井 啓人, 柏	[到達目標]16 [学習方法]実習 [事前学習]デモ

			7号館3 階歯学科 講義室4		崎 健汰 宮 安 杏奈 本 村 一朗	ビデオ・実習書を 予習してくること
授業方法 実習： 事前に WebClass に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。 事前に実習内容を予習済みとみなして実習を進めていく。 実習前に確認テストを実施する。						
授業内容 全部床義歯の製作方法と、その種類や臨床、ケア方法等に関する授業を行う。						
成績評価の方法 毎回の実習前に確認小テストを実施する。必ず予習を行い、実習内容を把握した上で実習に臨むこと。 毎回の実習前の小テストの受験をもって出席とする。 遅刻は欠席とする。 製作物の完成。提出は必須とする。 出席、小テスト、筆記試験により評価する。						
成績評価の基準 出席、小テスト、筆記試験により総括的に評価する。 本実習での製作物の完成、提出は必須とする。						
準備学習等についての具体的な指示 教科書および WebClass 上にアップロードされる資料等を活用して予習・復習に役立てること。 実習の際には該当箇所のデモ動画を事前に視聴したうえで臨むこと。						
試験の受験資格 ・講義コマについては、その日のうちに視聴することで出席とみなし、3分の2以上出席していること。 ・実習コマについては、1限の最初(8:50-9:00)と5限の最初(13:30-13:40)に行う小テスト15回のうち12回以上(4分の3以上)解答し、出席していること。 ・製作物(個人トレー、咬合床、ゴシックアーチ、デジタル排列データ、蠟義歯、義歯)を所定の期日までに完成・提出していること。 ・受験資格を得られなかった学生は未履修とし、次年度に再履修しなければならない。						
教科書 無歯顎補綴治療学／市川哲雄 [ほか] 編市川, 哲雄大川, 周治平井, 敏博細井, 紀雄.:医歯薬出版, 2016 コンプリートデンチャーテクニック／細井紀雄 [ほか] 編細井, 紀雄平井, 敏博長岡, 英一,赤川, 安正鈴木, 哲也(歯科学)大川, 周治.:医歯薬出版, 2011 Prosthodontic treatment for edentulous patients : complete dentures and implant-supported prostheses./editors, George A. Zarb ... [et al.] ; associate editors, Aaron H. Fenton ... [et al.],Zarb, George A. (George Albert),Fenton, Aaron H.,:Mosby, 2013						
参考書 写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の印象／水口俊介, 飼馬祥頼 著,水口, 俊介,飼馬, 祥頼.:ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2011 写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の咬合採得／水口俊介, 飼馬祥頼著,水口, 俊介,飼馬, 祥頼.:ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2013 写真でマスターするきちんと確実にできる全部床義歯の試適・装着／水口俊介, 飼馬祥頼, 菊池圭介 著,水口, 俊介,飼馬, 祥頼,菊池, 圭介.:ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2014 総義歯臨床の押さえどころ／小林賢一著,小林, 賢一.:医歯薬出版, 2001 よい義歯のための義歯：鈴木哲也のコンプリートデンチャー17のルール／鈴木哲也著,鈴木, 哲也(歯科学).:クインテッセンス出版, 2011 コンプリートデンチャーの理論と臨床：総義歯をイメージする／早川巖著,早川, 巖.:クインテッセンス出版, 1995 鈴木哲也のよい義歯のための義歯2／鈴木, 哲也, 1954-,古屋, 純一.:クインテッセンス出版, 2021						
履修上の注意事項 製作物の提出がない場合、筆記試験が受けられない場合があります。 提出が遅れそうな場合はライターに相談してください。						
備考						

講義のほか、実習を行う。

科目責任者: 金澤 学(m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp) オフィスアワー: 月火水木金 16:00-17:00

副科目責任者: 副田 弓夏(y.soeda.gerd@tmd.ac.jp) オフィスアワー: 月水木金 8:30-17:00

アクティブラーニングについて、実習を通して手を動かしながら随時理解を深める。

前年度履修学生の科目評価の成績評価の方法についての指摘をもとに、成績評価方法を昨年度より簡潔かつ公平とする予定

時間割番号	021e30						
科目名	部分床補綴学			科目ID			
担当教員	若林 則幸 和田 淳一郎[WAKABAYASHI Noriyuki, WADA Junichiro]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
タイトル:部分床義歯補綴(講義・実習) モジュール:咬合回復 I ユニットコマ数(授業コマ数+試験コマ数):70 必要自習時間:12 時間 授業形態:講義, 実習 時間割番号:021e30							
主な講義場所 講義:講義室(対面授業) 実習:補綴実習室							
授業の目的、概要等 部分床義歯を用いた咬合回復の治療に必要な知識と基本的技能を修得する。							
授業の到達目標 E-3-4)-(2)① 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 E-3-4)-(2)② 部分床義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 E-3-4)-(2)③ 部分床義歯の特徴と適応症を説明できる。 E-3-4)-(2)④ 部分床義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 E-3-4)-(2)⑤ 部分床義歯の設計原則を説明できる。 E-3-4)-(2)⑥ 部分床義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 E-3-4)-(2)⑦ 歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 E-3-4)-(2)⑧ 調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。 E-3-4)-(2)⑨ 人工歯の選択を説明できる。 E-3-4)-(2)⑩ 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 E-3-4)-(2)⑪ 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 E-3-4)-(2)⑫ 部分床義歯の製作過程を説明できる。 E-3-4)-(2)⑬ 部分床義歯の装着、調整を説明できる。 E-3-4)-(2)⑭ 部分床義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	6/9	08:50-12:25	7号館3階歯学科講義室4	部分床義歯講義 Section 1	サベイング, 隣接面板, クラスプ, クラスプ以外の維持, オーバーデンチャー	若林 則幸	予習(Section 1 用の LMS 予習動画視聴, LMS 確認問題回答)を事前に完了していること。
5-8	6/15	08:50-12:25	7号館3階歯学科講義室4	部分床義歯講義 Section 2	サベイング, 隣接面板, クラスプ, クラスプ以外の維持, オーバーデンチャー	稲用 友佳	予習(Section 2 用の LMS 予習動画視聴, LMS 確認問題回答)を事前に完了していること。
9-12	6/15	13:30-17:05	7号館3	部分床義歯実習 第1回	サベイング・ワイヤークラスプ	松野 瞳	配布される模型

			階歯学科 実習室 1	(確認テスト1)			の基底面に4桁 の事務処理番号 と氏名を鉛筆で記 入する必要がありますので、鉛筆 を持参すること。
13-16	6/16	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	部分床義歯講義 Section 3	人工歯、義歯床、大連結子、初診 時の診査、概形印象、診断	和田 淳一郎	予習(Section 3 用 の LMS 予習動画 視聴、LMS 確認問 題回答)を事前に 完了しているこ と。
17-20	6/16	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室 1	部分床義歯実習 第2回	設計線記入・ワイヤークラスプ	高草木 謙介	赤青鉛筆を持参 すること。実習終 了時にワイヤー クラスプ、設計線 を記入した作業 模型を提出するこ と。
21-24	6/22	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	部分床義歯講義 Section 4	支持組織の解剖、印象、設計、フレ ームワーク、咬合採得、咬合診 査、咬合器装着	山崎 俊輝	予習(Section 4 用 の LMS 予習動画 視聴、LMS 確認問 題回答)を事前に 完了しているこ と。
25-28	6/22	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室 1	部分床義歯実習 第3回	咬合床製作／咬合採得	村上 奈津子	第4回の咬合器 装着に時間が必要 であるため、で きるだけ第3回で 咬合採得を行え るように進めるこ と。
29-32	6/23	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室 1	部分床義歯実習 第4回 (確認テスト2)	咬合採得／咬合器装着	村上 奈津子	実習終了時に咬 合器装着した模 型と咬合床を提 出すること。その 際、咬合器上部に 鉛筆で事務処理 番号・氏名を記入 すること。
33-36	6/25	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室 1	部分床義歯実習 第5回	前処置実習	松野 瞳	マネキンと歯列模 型(メラミン歯を含 めたニッシン模 型)を用いた前処 置実習です。購入 した歯列模型を 持参すること(ク ラウンブリッジ・保 存実習で削合し ている場合には

							支台歯を変更して 行います).
37-40	9/10	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	部分床義歯講義 Section 5	人工歯排列, 重合完成, 床用材 料, レジン床義歯(補強線)	高草木 謙介	予習(Section 5 用 の LMS 予習動画 視聴, LMS 確認問 題回答)を事前に 完了しているこ と.
41-44	9/10	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	部分床義歯実習 第6回	耐火模型用前処置・フレーム調整・ 人工歯排列/デジタル設計	山崎 俊輝 高草木 謙介	クラスの半分は 場所を移動して デジタル設計実 習を行います(集 合場所は7号館3 階実習室). 実習 室組は, 実習終 了時に耐火模型 用前処置を行っ た模型(基底面に 鉛筆で事務処理 番号・氏名記入の こと)を提出する こと.
45-48	9/11	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	部分床義歯講義 Section 6	装着, メインテナンス(リコール, 指 導, 口腔の変化, 義歯の修理前 半)	村上 奈津子	予習(Section 6 用 の LMS 予習動画 視聴, LMS 確認問 題回答)を事前に 完了しているこ と.
49-52	9/11	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	部分床義歯実習 第7回	耐火模型用前処置・フレーム調整・ 人工歯排列/デジタル設計	稲用 友佳 和田 淳一郎	クラスの半分は 場所を移動して デジタル設計実 習を行います(集 合場所は7号館3 階実習室). 実習 室組は, 実習終 了時に耐火模型 用前処置を行っ た模型(基底面に 鉛筆で事務処理 番号・氏名記入の こと)を提出する こと.
53-56	9/14	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	部分床義歯講義 Section 7	様々な対応(義歯の修理後半, 即 時義歯, 治療用義歯, ノンメタルク ラスプ), 高齢者に対する義歯治療	松野 瞳	予習(Section 7 用 の LMS 予習動画 視聴, LMS 確認問 題回答)を事前に 完了しているこ と.
57-60	9/14	13:30-17:05	7号館3 階歯学科	部分床義歯実習 第8回	人工歯排列・歯肉形成	山崎 俊輝	実習終了時に人 工歯排列・歯肉形

			実習室 1				成が完了したロウ義歯を作業模型に装着して提出すること。
61-64	9/15	08:50-12:25	7号館3階歯学科講義室4	部分床義歯講義 Section 8(確認テスト3)	部分床義歯 TBL	笛木 賢治	確認テスト3(個人回答)および確認テスト1~3のグループ回答ならびに解説を行います。確認テスト結果は成績評価に影響しますので、必ず現地参加すること。
65-68	9/16	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1	部分床義歯実習 第9回	設計実習(紙上設計/グループワーク/模型への記入)	和田 淳一郎	赤青鉛筆を持参すること。実習終了時に設計線を記入した模型の基底面に鉛筆で名前を記入して提出すること。
69-72	9/30	08:50-12:25	7号館3階歯学科講義室4	部分床義歯学講義試験・実習試験	試験	和田 淳一郎	講義試験 実習試験ともにペーパーテストとなります。紙面に設計線の記入を行うため、赤青鉛筆を持参すること。
73-74	12/23	08:50-10:30	7号館3階歯学科講義室4	部分床義歯学講義追再試験・実習追再試験	追再試験	和田 淳一郎	講義試験 実習試験ともにペーパーテストとなります。紙面に設計線の記入を行うため、赤青鉛筆を持参すること。

授業方法

講義は講義室における対面授業とし、小テスト、TBLの際にはLMSを併用する。

授業内容

部分床義歯治療に関する基本および応用について十分に理解し、次年度以降の臨床実習および卒後臨床で必要な能力を身につける。

成績評価の方法

筆記試験の成績、グループ学習(TBL)の成績、実習における製作物の客観評価、インストラクターによる評価、実習試験により総合的に評価する。

成績評価の基準

部分床義歯のユニットの合格判定は、筆記試験(講義試験および実習試験において 60 点以上を獲得する)、実技試験(実習における各提出プロダクトで合格判定を得る)、TBL の成績(総合成績に加点)、授業中の発言回数(総合成績に加点)を元に判定される。

準備学習等についての具体的な指示

すべての講義、実習では、学習内容を網羅したテキストと教材ビデオを授業 3 日前までに LMS 上に配信するので、事前に必ず閲覧すること。

とくに講義では、ビデオと重複する内容の説明は行わず、問題演習と授業テーマに関する討議を行う。必ず予習ビデオを視聴した上で、予

習用の確認テストに回答してから講義に臨むこと。
試験の受験資格 ・ユニットコマ数のうち、講義・実習それぞれ4分の3以上出席していなければならない(学修規定とは異なる基準での実施のため注意すること)。 ・講義および実習の出席は、カードリーダーでのみ管理する。必ず、カードリーダーに学生証をかざし青く光ったことを確認すること(学生証を忘れた者は、必ず授業開始前に申告すること) ■カード受付開始時間: 授業開始 10 分前(これより前の打刻は無視される) ■遅刻基準時間: 授業開始 0 分後(以後の打刻は遅刻扱いとなる) ■遅刻受付終了時間: 授業開始 10 分後(以後の打刻は欠席扱いとなる) ・講義については、LMS 上で予習が課されているため、LMS 上で①予習動画視聴履歴(動画時間以上の視聴時間が記録されていること)、②予習用確認問題に回答がされていること、の2点も出席のための必要とする。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
構成ユニット ・部分床義歯学講義 ・部分床義歯学実習
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数および平常学習態度等が評価に加味される。
教科書 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学／藍、稔、五十嵐、順正、石上、友彦、大川、周治、大久保、力廣、尾澤、昌悟、藍稔、五十嵐、順正編集・執筆；石上友彦 [ほか] 執筆:学建書院, 2016.3 小部分床義歯学／藍、稔, 1933-藍稔 著:学建書院, 1994.9 パーシャルデンチャー活用力：ライフコースに沿った基本から使いこなしまで／和田、淳一郎、高市、敦士、若林、則幸、和田淳一郎、高市敦士、若林則幸 著:医歯薬出版, 2016.2 パーシャルデンチャーを得意になろう!：設計原則からトラブル対応までの臨床ガイド／五十嵐、順正, 1947-、若林、則幸、五十嵐順正、若林則幸 編著:ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2013.2
参考書 ・Stewart's Clinical Removable Partial Prosthodontics 4th Edition (Rodney D. Phoenix) ・McCracken's Removable Partial Prosthodontics (Alan Carr, David Brown)
他科目との関連 臨床イントロダクション(D3)を履修している前提の講義である。また、全部床義歯学(D4)との共通点、相違点に着目して授業を聴講することで、有床義歯治療全般の理解がより深まるものと考えられる。
履修上の注意事項 部分床義歯のユニットの合格判定は、筆記試験、実技試験、TBL の成績、授業中の発言回数を元に判定される。
備考 講義、実習ともに事前学習を前提として行う。講義では、討論を重視し、定期的に講義内容に基づく TBL を行う。 学生からの強い希望はないものの、引き続き予習・復習を十分に行えるよう、LMS 内のコンテンツの充実を図る。 担当教員:和田淳一郎 wadajun.rpro(@)tmd.ac.jp D 棟 11 階生体補綴歯科学分野第4研究室 ※Email は上記アドレス(@)の部分を変えてください。 オフィスアワー:オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること。
参照ホームページ http://www.tmd.ac.jp/pro/education/dental-student/dental-student.html

時間割番号	021e40					
科目名	口腔外科学			科目ID		
担当教員	原田 浩之, 釘本 琢磨[HARADA Hiroyuki, KUGIMOTO Takuma]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
コマ数:46+3(必要自習時間31時間)						
授業形態:講義、ケースディスカッション(アクティブラーニング)および実習(対面)						
ユニット番号:01						
主な講義場所						
講義:対面形式						
講義・実習:歯学科演習室 1～4						
授業の目的、概要等						
顔面・顎・口腔の構造と機能を理解し、顔面・顎口腔疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶとともに、ケースディスカッション(アクティブラーニング)を用いながら、基本的な技能を修得する。						
授業の到達目標						
1)顔面・顎・口腔・口唇の構造と機能を説明できる。						
2)顔面・顎・口腔・口唇に発生する先天異常および後天性異常の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
3)顔面・顎・口腔・口唇に発生する変形症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
4)顔面・顎・口腔・口唇に発生する炎症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
5)顔面・顎・口腔・口唇に発生する外傷の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
6)口腔領域に発生する粘膜疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
7)顔面・顎・口腔・口唇に発生する血液疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
8)顔面・顎・口腔領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。						
9)ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法を列挙できる。						
10)顔面・顎・口腔・口唇に発生する神経疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
11)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の種類と特徴を列挙できる。						
12)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の診断、治療、予後を説明できる。						
13)顎関節疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
14)前癌病変の特徴、症状、治療法を説明できる。						
15)前癌状態の種類と特徴を列挙できる。						
16)顔面・顎・口腔・口唇に発生する良性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
17)エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。						
18)顔面・顎・口腔・口唇に発生する悪性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
19)顔面・顎・口腔・口唇に発生する肉腫を列挙できる。						
20)唾液腺疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
21)がん薬物療法についてその概要を説明できる。						
22)外科処置が必要な薬物療法中の患者管理についてその概要を説明できる。						
23)薬物関連顎骨疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
24)顔面・顎・口腔領域に発生する疾患に対して、基本的検査とカルテ記載ができる。						
25)顔面・顎・口腔領域に発生する主な疾患に対して、基本的な外科処置ができる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/8	08:50-09:35	7号館3階歯学科	講義:口腔外科学総論	原田 浩之	SBO 1

			講義室 4			
2-3	4/8	09:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:基本手術(抜歯)	黒嶋 雄志	SBO 25
4	4/8	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:前癌病変	西井 直人	SBO 14, 15
5-7	4/15	08:50-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:顎変形症	友松 伸允	SBO 3
8	4/15	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:良性腫瘍	黒嶋 雄志	SBO 10, 16
9-11	4/22	08:50-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:嚢胞(顎骨内、軟 組織)	外内 えり奈	SBO 11, 12
12	4/22	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:薬剤関連顎骨疾患	野地 理夏	SBO 23
13-14	5/14	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:先天異常	加持 秀明	SBO 2
15-16	5/19	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:悪性腫瘍(診断法・ 治療法)	富岡 寛文	SBO 18, 21
17-18	5/19	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:歯源性腫瘍	釘本 琢磨	SBO 16, 17
19-20	5/20	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:悪性腫瘍(癌腫)	原田 浩之	SBO 18
21-22	5/20	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:外傷	及川 悠	SBO 5
23	5/27	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:悪性腫瘍(肉腫・黒 色腫・悪性リンパ腫)	原田 浩之	SBO 18, 19
24	5/27	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:悪性腫瘍(薬物療 法)	清水 六花	SBO 21, 22
25-26	5/27	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:基本手術(根切、 骨整形、歯の移植)	加地 博一	SBO 25
27-28	5/29	13:30-15:10	歯学部基 礎実習室	実習:消毒	木下 直哉	SBO 25
29-30	5/29	15:25-17:05	7号館3 階歯学科 講義室 4	講義:粘膜疾患	津島 文彦	SBO 6, 9
31-32	6/3	08:50-10:30	歯学部演	実習:臨床検査	友松 伸允	SBO 24

			習室			
33-34	6/3	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:骨系統疾患	原園 陽介	SBO 2
35-36	6/4	13:30-15:10	歯学部演 習室	実習:抜歯の基本手技	黒嶋 雄志	SBO 25
37-38	6/4	15:25-17:05	歯学部演 習室	実習:切開・縫合	外内 えり奈	SBO 25
39-40	6/8	13:30-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:血液疾患	倉沢 泰浩	SBO 7, 9
41-42	6/8	15:25-17:05	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:顎関節疾患	儀武 啓幸	SBO 13
43-44	6/9	13:30-15:10	歯学部演 習室	講義:炎症	岩崎 拓也	SBO 4, 8
45-46	6/9	15:25-17:05	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:唾液腺疾患	富岡 寛文	SBO 20
47-49	7/9	13:30-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔外科学 試験	釘本 琢磨	
50-52	7/23	13:30-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔外科学 再試験	釘本 琢磨	

成績評価の方法

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

各講義・演習の日時・場所・内容を事前に確認の上、準備学習をし、積極的に討論に参加する。

試験の受験資格

- ・モジュール全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、ユニットの試験に合格していなければならない。なお、ユニットの合否判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、レポート提出内容、および平常学習態度等が評価に加味される。

教科書

最新口腔外科学 = Oral and Maxillofacial Surgery／榎本昭二、道健一、天笠光雄、小村健 監修、榎本、昭二、1936-、道、健一、1936-、天笠、光雄、1946-、:医歯薬出版、2017

外科研修マニュアル／京都大学大学院医学研究科外科学講座編集、京都大学大学院医学研究科外科学講座、:南江堂、2009

口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則、高戸毅 監修、飯田順一郎、伊藤公一、岡野友宏、木村博人、小谷順一郎、齊藤力、佐々木啓一、白砂兼光、須田英明、丹沢秀樹、前田健康、山根源之、山本浩嗣 編集、戸塚、靖則、高戸、毅、1953-、飯田、順一郎、伊藤、公一、1947-、岡野、友宏、1947-、:朝倉書店、2019

Oral and maxillofacial surgery／edited by Raymond J. Fonseca、Fonseca、Raymond J.、:Saunders、2000

口腔外科研修ハンドブック／日本口腔外科学会 編集、原田 浩之 編集、桐田 忠昭 編集、鄭 漢忠 編集、池邊 哲郎 編集、岸本 裕充 編集、日本口腔外科学会、原田 浩之、桐田 忠昭、鄭 漢忠、池邊 哲郎、岸本 裕充、:医歯薬出版、2022-12-23

ISBN:9784263423158

書名:口腔癌

著者名:桐田忠昭・原田浩之 編集

出版社:医歯薬出版

出版年:2023 年 9 月

参考書

一からわかる口腔外科疾患の診断と治療／角保徳, 樋口勝規, 梅村長生 編, 角, 保徳, 1956-, 樋口, 勝規, 梅村, 長生.:医歯薬出版, 2006

Clinical review of oral and maxillofacial surgery : a case-based approach／Shahrokh C. Bagheri, Bagheri, Shahrokh C., :Elsevier Mosby, 2014

一般臨床家, 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル = Hand manual of oral & maxillofacial surgery : 口腔外科 year book／日本口腔外科学会 編, 日本口腔外科学会.:クインテッセンス出版, 2020

備考

モジュール責任者:

原田浩之 オフィスアワー 火曜日 16:00-17:00

E-mail:hiro-harada.osur@tmd.ac.jp

釘本琢磨 オフィスアワー 月曜日午後 16:00-17:00

E-mail:kugimoto.osur@tmd.ac.jp

時間割番号	021e50					
科目名	歯科麻酔学			科目ID		
担当教員	前田 茂[MAEDA Shigeru]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
モジュール名: 歯科麻酔学 ユニットコマ数: 講義 29 コマ+実習 4 コマ+試験 1 コマ 必要自習時間: 2-3 時間 授業形態: 講義および実習						
授業の目的、概要等						
歯科医療に必要な麻酔学の知識を修得する。 歯科医療との関連性を理解する。						
授業の到達目標						
1) 歯科医療における麻酔学の役割を理解できる。 2) 全身状態評価の概要を理解できる。 3) モニタリングについて理解できる。 4) 麻酔薬について理解できる。 5) 全身麻酔法について理解できる。 6) 精神鎮静法について理解できる。 7) 局所麻酔薬について理解できる。 8) 心肺蘇生について理解できる。 D-1-1, D-1-2, D-1-2-1, D-1-2-2, D-1-2-3, D-2-2, D-2-3, D-3-1-9, E-1-2, E-1-3						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/4	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	総論		前田 茂
2	9/4	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	術前評価1		前田 茂
3	9/4	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂
4	9/4	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂
5	9/4	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂
6	9/4	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂
7	9/7	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂
8	9/7	09:45-10:30	7号館3 階歯学科			前田 茂

			講義室 4				
9	9/7	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
10	9/7	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
11	9/7	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
12	9/7	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
13	9/7	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
14	9/7	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
15	9/8	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
16	9/8	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
17	9/8	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
18	9/8	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
19	9/8	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
20	9/8	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
21	9/8	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
22	9/8	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
23	9/9	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	
24	9/9	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4			前田 茂	

25	9/9	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
26	9/9	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
27	9/15	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
28	9/15	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
29	9/15	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
30	9/17	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
31	9/17	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
32	9/17	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
33	9/17	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4			前田 茂	
34	9/28	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4		試験	前田 茂	
35	12/21	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4		追再試験	前田 茂	

授業方法

主に対面での講義による

授業内容

授業の到達目標に沿って説明を行う。

成績評価の方法

出席および実習受けた上で、授業の到達目標に沿った筆記試験を行う。

成績評価の基準

最終の筆記試験で60点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

配布資料と教科書の該当部位は事前に目を通しておくことが求められる。

試験の受験資格

- ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

教科書

歯科麻酔学／宮脇、卓也、水田、健太郎、讃岐、拓郎、福島、和昭、一戸、達也、1956-、北畑、洋、嶋田、昌彦、一戸達也、宮脇卓也、水田健太郎、

讃岐拓郎 編集:医歯薬出版, 2026.1

Miller's anesthesia／editor-in-chief, Michael A. Gropper ; honorary editor, Ronald D. Miller ; co-editors, Neal H. Cohen ... [et al.],Gropper, Michael A.,Miller, Ronald D.,Cohen, Neal H.,:Elsevier, 2020

備考

アクティブラーニングの一環として、初回講義の最初に、配布資料に基づく試験を行う。

前田 茂

maedas.daop@tmd.ac.jp

オフィスアワー 火木 16-18 時

時間割番号	021e60						
科目名	高齢者歯科学				科目ID		
担当教員	副田 弓夏, 金澤 学[SOEDA Yumika, KANAZAWA Manabu]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	メディア利用科目	
コマ数:講義 16 コマ 必要自習時間:6 時間 授業形態:講義, 体験実習							
主な講義場所 講義:WebClass を用いた遠隔非同期 AL:7 号館 3 階歯学科講義室 4							
授業の目的、概要等 高齢者歯科医療に必要な老年医学および口腔機能に関する基本的知識を修得し、高齢者の心身的特徴や全身疾患の影響を理解するとともに、超高齢社会における歯科医療の役割と他職種・医科との連携の重要性を理解する。							
授業の到達目標 1) 高齢者を取り巻く社会的背景を理解する。(B-2-2, A-7-1) 2) 高齢者の医学的背景を大まかに説明できる。(C-3-3, E-1-4)-(1), E-6) 3) 高齢者歯科診療に必要な診療環境や配慮事項を理解する。(C-3-3, E-5-1) 4) 高齢者の栄養状態の特徴を説明できる。(B-1, E-5-1) 5) 高齢者に多い全身疾患と歯科治療との関連を理解する。(E-5-1, E-6) 6) 有病高齢者の歯科治療について理解する。(E-1-4)-(1), E-5-1) 7) 加齢による口腔機能変化と口腔機能管理の基本を説明できる。(E-2-3, E-5-1) 8) 訪問歯科診療について理解する。(A-7-1, E-5-1) 9) 高齢者に多い口腔疾患の特徴を説明できる。(E-5-1) 10) 高齢者の口腔衛生管理の必要性を理解する。(E-5-1) 11) 摂食嚥下の基本的な仕組みを理解する。(E-2-1, E-2-4)-(11),E-5-1) 12) 病院における歯科の役割を理解する。(A-5-1, A-7-1) 13) 加齢の科学(加齢による心身機能変化)を体験的に理解する。(C-3-3,E-5-1) ()内は H28 コアカリキュラム番号							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/10	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	講義	社会的背景	金澤 学	[到達目標]1
2	4/10	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	講義	医学的背景	駒ヶ嶺 友梨子	[到達目標]2
3	4/10	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	講義	診療環境	濱 洋平	[到達目標]3
4	4/10	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	講義	高齢者と栄養	中井 啓人	[到達目標]4
5	4/17	08:50-09:35	遠隔授業	講義	全身疾患と関連	副田 弓夏	[到達目標]5

			(非同期型)				
6	4/17	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	講義	有病高齢者の歯科治療	猪越 正直	[到達目標]6,12
7	4/17	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	講義	口腔機能管理	大沼 啓	[到達目標]7
8	4/17	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	講義	訪問診療	宮安 杏奈	[到達目標]8
9	4/24	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	講義	高齢者の口腔疾患	柏崎 健汰	[到達目標]9
10-11	4/24	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	講義	口腔衛生管理 それぞれのステージにおける歯科の役割	松尾 浩一郎	[到達目標]10,13
12	4/24	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	講義	摂食嚥下	戸原 玄	[到達目標]11
13-16	6/8	08:50-12:25	7号館3階歯学科実習室1, 7号館3階歯学科講義室4	講義(AL)	加齢の科学 高齢者体験	本村 一朗, 柏崎 健汰, 副田 弓夏, 中井 啓人, 大沼 啓, 宮安 杏奈	[到達目標]14
17	7/6	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4		試験	副田 弓夏	
18	7/22	10:45-11:30	7号館3階歯学科講義室4		追再試験	副田 弓夏	

授業内容

高齢者に歯科治療を提供するにあたって必要な知識を学習する。

成績評価の方法

筆記試験により評価する。

成績評価の基準

講義内容について十分な理解ができているかどうか。

準備学習等についての具体的な指示

正常成人のバイタルサインについて理解しておく。

高齢者と一般健常人との一般的な違いを理解しておく。

試験の受験資格

- ・遠隔非同期講義コマについては、その日のうちに視聴することで出席とみなし、3分の2以上出席していること。
- ・受験資格を得られなかった学生は未履修とし、次年度に再履修しなければならない。

教科書

老年歯科医学／森戸、光彦、1946-、山根、源之、1946-、櫻井、薫、1953-、羽村、章、下山、和弘、柿木、保明、森戸光彦、山根源之、櫻井薫、羽村

章, 下山和弘, 柿木保明 編著, 森戸光彦 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2022.3

よくわかる高齢者歯科学／佐藤, 裕二, 1958-, 植田, 耕一郎, 1959-, 菊谷, 武, 1963-, 上田, 貴之, 小笠原, 正, 1959-, 小見山, 道, 竹島, 浩, 戸原, 玄, 内藤, 徹, 1962-, 佐藤裕二, 植田耕一郎, 菊谷武 編集主幹, 上田貴之, 小笠原正, 小見山道, 竹島浩, 戸原玄, 内藤徹 編集: 永末書店, 2023.2

: 医歯薬出版

参考書

ハリソン内科学／ダン L. ロンゴ ほか 編, 福井次矢, 黒川清 日本語版監修: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

老年医学系統講義テキスト: カラー版／日本老年医学会 編集: 西村書店, 2013

高齢者歯科診療ガイドブック／日本老年歯科医学会, 下山, 和弘, 櫻井, 薫, 1953-, 深山, 治久, 日本老年歯科医学会 監修, 下山和弘, 櫻井薫, 深山治久, 米山武義 編: 口腔保健協会, 2010.5

老年医学テキスト／日本老年医学会, 日本老年医学会 編: メジカルビュー社, 2008.6

全身的偶発症とリスクマネジメント: 高齢者歯科診療のストラテジー／大渡, 凡人, 大渡凡人 著: 医歯薬出版, 2012.9

備考

アクティブラーニングについて: 実際に高齢者体験を行う。そのため, 対面講義には可能な限り出席してください。

科目責任者: 金澤 学 (m.kanazawa.gerd@tmd.ac.jp) オフィスアワー: 月火水木金 16:00-17:00

副科目責任者: 副田 弓夏 (y.soeda.gerd@tmd.ac.jp) オフィスアワー: 月水木金 8:30-17:00

今年度からの新科目であるため, 前年度履修学生の科目評価はない。

時間割番号	021e70					
科目名	歯科医療基礎Ⅲ			科目ID		
担当教員	則武 加奈子[NORITAKE Kanako]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1.5	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
ユニット授業: 講義:9コマ 実習:24コマ(グループローテーション演習・実習) 試験:1コマ						
授業の目的、概要等 ＜講義＞ 口腔内診察の基本を理解するとともに、与えられた患者医療情報を全人的・総合的に分析することにより、正しい診断、治療法の選択、治療計画の立案について理解する。 ＜グループローテーション演習・実習＞ 口腔内検査相互実習、医療面接演習、治療計画の立案演習を通して、包括臨床実習に繋がる全人的総合診断の態度と技能の基本を修得する。 また、第一総合診療室での臨床実習を見学し、上級生より臨床実習に対して必要な準備、心構えを学ぶ。						
授業の到達目標 1) 患者医療情報を正しく収集できる。 2) 口腔内診察の基本が正しく実施できる 3) 患者医療情報を分類する。 4) 患者医療情報から正しい診断を行う。 5) 診断から治療法が選択できる。 6) 患者中心の治療計画が立案できる。						
コアカリ番号:、F-1-1)-①②③、F-1-2)-①②③④ F-2-1)-①②③④⑤⑥、F-2-2)-⑫						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	5/14	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	オリエンテーション		則武 加奈子
2-3	5/14	14:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	痛みについて		山崎 陽子
4-7	5/29	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1、 7号館3 階歯学科 講義室4	実習など1		則武 加奈子
8	6/4	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	歯科心身症について1		豊福 明
9-11	6/4	09:45-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	診断とは他		則武 加奈子
12-15	6/5	08:50-12:25	7号館3	実習など2		則武 加奈子

60 点未満の場合は再試験とする。 再試験は 100 満点とし、60 点以上を合格とする。再試験には平常点は加算しない。不合格者は次年度再履修とする。
準備学習等についての具体的な指示 臨床系科目のまとめ的な授業であるので、歯科的疾患に関する知識(疾患名、病態、鑑別診断、検査法、治療法など)と歯科疾患に関係している全身疾患に関する知識(疾患名、病態、歯科との関連など)についての再確認をしておくこと。
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。 ・グループローテーション演習・実習の出席は開始時に行う。出席確認時に不在の学生は欠席扱いとするが、演習・実習への参加は認める。ただし理由なく 30 分以上遅刻した場合は、当該演習・実習への参加を認めず、後日補習とする。
構成ユニット 本モジュールにユニットはない。
モジュールの単位判定 講義、グループローテーション演習・実習中の平常点、およびユニット最後の筆記試験により総合的に評価し、合格した場合に単位認定とする。
教科書 見逃しケースのなぜを解く！ 歯科診断スキルアップ実践ガイド：落とし穴を回避して主訴の解決に導く手順とポイント／礪波健一 著・文・その他、礪波健一 編集、則武加奈子 著・文・その他、則武加奈子 編集、梅森 幸 著・文・その他、梅森 幸 編集、新田 浩 著・文・その他、新田 浩 編集、小田 茂 著・文・その他、小田 茂 編集、荒木孝二 著・文・その他、荒木孝二 編集、礪波健一、則武加奈子、梅森 幸、新田 浩、小田 茂、荒木孝二：クインテッセンス出版、2021-02-10
参考書 人間学入門：医療のプロをめざすあなたに／日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会／準備教育小委員会 編：南山堂、2009 学生のための医療概論／千代豪昭、黒田研二 編：医学書院、2010 歯科医療のおもしろさ：後輩たちへ贈る 28 のドラマ／橋本光二、升谷滋行、飯野文彦 編：口腔保健協会、2013 歯科臨床イヤーノート = Year note of dental practice／住友雅人、木下淳博、沼部幸博、松村英雄 編：クインテッセンス出版、2013 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療：歯科医療につながる医学知識／小谷順一郎、田中義弘 編集主幹、足立了平、河合峰雄、佐久間泰司、民田浩一 編：永末書店、2008 口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則、高戸毅 監修、飯田順一郎、伊藤公一、岡野友宏、木村博人、小谷順一郎、齊藤力、佐々木啓一、白砂兼光、須田英明、丹沢秀樹、前田健康、山根源之、山本浩嗣 編集：朝倉書店、2013 医療者の心を贈るコミュニケーション：患者さんと一緒に歩きたい／日下隼人著、日下 隼人：医歯薬出版、2016 日常診療の中で学ぶプロフェッショナリズム／WENDY LEVINSON, SHIPHRA GINSBURG, FREDERIC W. HAFFERTY, CATHERINE R. LUCEY [著]、宮田靖志、小泉俊三 監訳、Levinson, Wendy S, Ginsburg, Shiphra, Hafferty, Frederic W., 1947-, 宮田 靖志, 小泉 俊三, 1946-, : カイ書林, 2018 実践クリティカル・シンキングのすすめ：探究・臨床力をアップする EBM の学び方と活用ポイント／八重垣健 監著、八重垣 健：クインテッセンス出版、2009
履修上の注意事項 グループローテーション演習・実習を休んだ場合は補習を必要とする。補習を受けなかった場合は総括評価を保留とする。
備考 本ユニットの出席確認の方法は初回授業時に詳細を説明する。 演習・実習・グループワークによるアクティブラーニングを実施する。 本実習全体に関する指導担当者のオフィスアワー：まずはメールにて問い合わせ、アポをとること 則武加奈子：noritake.irm(@)tmd.ac.jp ※E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えてください。
参照ホームページ 履修してきた臨床系科目のまとめ的な授業であるので、歯科的疾患に関する知識(疾患名、病態、鑑別診断、検査法、治療法など)と歯科疾患に関係している全身疾患に関する知識(疾患名、病態、歯科との関連など)についての再確認をしておくこと。

時間割番号	021e80				
科目名	学年混合セミナーⅢ			科目ID	
担当教員	關 奈央子, 金森 ゆうな, 鶴田 潤[SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, TSURUTA Jiyun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
科目コマ数:8 必要自習時間:16 授業形態:講義・演習					
本学学生については, 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。					
本科目では, 学年混合セミナーⅠ・Ⅱと併せ, 多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業方法として, 少人数演習を行う予定であり, 各グループでは, それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義, プロジェクト実施活動・調査演習, 報告会を行うこととし, それぞれの学習活動においては, 学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し, 学年混合協働での協働に関わる資質, 国際的視座の獲得を期待する。 (屋根瓦教育)					
主な講義場所 (対面) TBA (非同期) 講義室あるいは自宅 (グループ作業) 講義室・図書館ほか					
授業の目的、概要等 将来の歯科医師, 研究者としての活躍に際し, その業界の指導者としての活躍が期待されている。指導者としての活躍には, 確かな知識, それらをもととした適切な判断, 様々な価値感を受容し包容力のある言動, 行動を図ることが必要である。 多様な文化, 社会, 考え方を理解する資質の修得を目標とし, 国際社会における歯科医療保健のあり方を, 複数学年(2,3,4 年)混成班でのプロジェクト形式での学びを進める。					
授業の到達目標 1)患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応するための基本を習得する。 2)地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。 3)日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。 4)世界の保健・医療問題の概要を理解している。 歯学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4 年度改訂版) 資質 SO:社会における医療の役割の理解(Medicine in Society) 健康の代弁者として公衆衛生の向上を図るために、医療は社会の一部であるという自覚を持ち、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野も持ちながら、公正な歯科医療を提供していく。 SO-01 社会保障(社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生)を理解している。 SO-02 予防と健康増進を理解している。 SO-03 医療、保健、福祉、介護とそれを取り巻く社会環境を理解している。 SO-04 社会や地域における歯科医療の現状を理解し、口腔の健康を通じて全身の健康の増進の活動に積極的に参加できる。					

SO-05 地域医療において、各種制度に基づく歯科医師の果たす役割を自覚し、行動できる。

SO-06 災害時における歯科医師の役割を理解している。

SO-07 国際社会における多様性を理解し、地域医療でも活躍できる。

学習目標

C-7 国際的素養の獲得と国際医療への貢献

国際社会の一員として地域医療の多様性を把握し、国際医療に貢献するために、国際貢献や国際協力に求められる基本的な能力を身に付ける。

学修目標:

C-7-1 患者の多様性を尊重し、英語等異なる言語に対応できる。

C-7-2 地域医療の中で、我が国と異なる文化や価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。

C-7-3 日本の医療の特徴、国際社会への貢献、協力の重要性を理解している。

C-7-4 世界の保健・医療問題の概要を理解している。

C-7-5 パンデミックにおける院内感染対策、国際的な感染症対策と日本の防疫対策を理解している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/23	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	第1回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
2	4/23	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	第2回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
3	5/7	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	第3回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
4	5/7	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	第4回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
5	5/14	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	第5回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
6	5/14	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	第6回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)
7	5/28	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	第7回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)、プレゼンテーション
8	5/28	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	第8回	金森 ゆうな、 關 奈央子、 鶴田 潤	到達目標1～4 演習 グループワーク(AL)、プレゼンテーション

授業方法

授業方法として、少人数演習を行う予定であり、各グループでは、それぞれ異なる大テーマをもとに基調講義、プロジェクト実施活動・調査演習、報告会を行うこととし、それぞれの学習活動においては、学年を超えた協働を目指す。これら授業を通し、学年混合協働での協働に関わる資質、国際的視座の獲得を期待する。

混合セミナーⅢは全て英語で行う。

授業内容 国際社会における歯科医療保健のあり方を検討するために、 ・世界の様々な国における歯科医療 など について、学ぶ。
成績評価の方法 ルーブリックに基づいた評価を実施し、総合的に評価を行う。 形成的に成長を期待する項目も含む。 ・個人レポート評価 60% ・毎回授業後の振り返り自己評価・課題 20% ・プレゼンテーション(評価) 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
成績評価の基準 ・個人レポート評価 60% ・毎回授業後の振り返り自己評価・課題 20% ・プレゼンテーション(評価) 20% 成績点として、60点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 関連する情報については、Web サイト等で多くの情報を入手することができる。 そのため、確度の高い情報を自ら読み解き、それぞれの課題に対する学習を進めてくることを勧める。
試験の受験資格 ・グループ活動が主となるため、授業への出席は基本とする。 ・全ての課題提出が確認された場合に、成績評価対象とする。
モジュールの単位判定 本科目成績が合格の場合、単位を付与する。
他科目との関連 学年混合セミナーⅠ(2年次) 学年混合セミナーⅡ(3年次)と年次進行する。
履修上の注意事項 授業に出席・参加し、必要な課題を実施すること。
備考 授業においてはAL(グループディスカッションなど)を行う。 前年度からの変更点 2026年度初めて開講する科目のため、対応はない。 担当者： 関 奈央子 seki.n.03df@misctac.jp 鶴田 潤 tsuruta.j.a664@misctac.jp 金森 ゆうな kanamori.y.38b1@misctac.jp
連絡先(メールアドレス) 金森 ゆうな kanamori.ope@tmd.ac.jp 鶴田 潤 tsuruta.j.a664@misctac.jp
オフィスアワー 鶴田 潤:訪問の事前にメールで連絡してください。

時間割番号	021e90						
科目名	冠橋義歯補綴学			科目ID			
担当教員	笛木 賢治, 駒田 亘[FUEKI Kenji, KOMADA Wataru]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
モジュール名:咬合回復 ユニットコマ数:72(必要自習時間 50 時間) 授業形態:講義、演習、実習 ユニット番号:04							
主な講義場所 7 号館 3 階歯学科講義室 4 7 号館 3 階歯学科実習室 1 事前学習用講義は WebClass に掲載							
授業の目的、概要等 クラウン, ブリッジによる修復, 補綴について理解する. 事前学習講義, 講義で修得した知識をもとにした演習活動(質疑応答)でアクティブラーニングを実施する. 講義で修得した知識を深める機会として, 実習を通してアクティブラーニングを実施する.							
授業の到達目標 1) クラウンによる修復の特徴を説明できる. 2) クラウンによる修復の種類を列挙できる. 3) 支台歯形成の目的と意義が説明できる. 4) 支台築造の意義を説明できる. 5) 支台築造の術式を説明できる. 6) 支台築造を模型歯で行うことができる. 7) 模型歯で支台歯形成を行うことができる. 8) 全部鑄造冠修復の意義と特徴を説明できる. 9) 全部鑄造冠修復の術式を説明できる. 10)模型歯で全部鑄造冠修復を行うことができる. 11)審美的なクラウン修復を列挙し, その特徴を説明できる. 12)模型歯でプロビジョナルレストレーションの作製を行うことができる. 13)高速切削の意義と方法を説明できる. 14)高速切削器具を用いて模型歯で支台歯形成を行うことができる. 15)固定性義歯の目的と意義を説明できる. 16)固定性義歯の種類と適応症を説明できる. 17)歯の欠損の診査および診断を説明できる.							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	10/1	08:50-10:30	7 号館 3 階歯学科講義室 4	クラウンブリッジ総論		駒田 亘	1) クラウンによる修復の特徴を説明できる。 15)固定性義歯の目的と意義を説明できる。 17) 歯の欠損の診査および診断を説明できる。

3-8	10/1	10:45-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	支台歯形成	口腔外で・、・の支台歯形成	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	7) 模型歯で支 台歯形成を行うこ とができる。
9-10	10/8	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	支台歯形成 プロビジョ ナルレストレーション		松村 茉莉子	3) 支台歯形成 の目的と意義が 説明できる。 1 3) 高速切削の意 義と方法を説明で きる。
11-12	10/8	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1	高速切削	・、・の支台歯形成	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	13) 高速切削の 意義と方法を説 明できる。 14) 高速切削器具を 用いて模型歯で 支台歯形成を行う ことができる。
13-16	10/8	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	支台歯形成 プロビジョ ナルレストレーション		笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	12) 模型歯でプロ ビジョナルレスト レーションの作製 を行うことができ る。
17-18	10/22	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	支台築造		駒田 亘	4) 支台築造の 意義を説明でき る。 5) 支台築 造の術式を説明 できる。
19-22	10/22	10:45-15:10	7号館3 階歯学科 実習室1	直接法レジンコア	・ 直接法ファイバーコア作製	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	6) 支台築造を模 型歯で行うことが できる。
23-24	10/22	15:25-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	間接法支台築造窩洞形 成 印象採得	・ 築造窩洞形成、印象採得	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	6) 支台築造を模 型歯で行うことが できる。
25-26	10/29	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	印象採得 咬合採得		瀧田 美奈	1) クラウンによ る修復の特徴を 説明できる。 3) 支台歯形成の目 的と意義が説明 できる。 9) 全 部鑄造冠修復の 術式を説明でき る。
27-28	10/29	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1	間接法支台築造作業模 型作製	・ 鑄造支台築造作業模型作製	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	6) 支台築造を模 型歯で行うことが できる。
29-32	10/29	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	全部鑄造冠作製	・ 支台歯形成 ・ 個歯トレー作製 対合歯列模型作製	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	8) 全部鑄造冠 修復の意義と特 徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠 修復の術式を説

							明できる。 10) 模型歯で全部鑄造冠修復を行うことができる。
33-34	11/5	08:50-10:30	7号館3階歯学科講義室4	技工操作(ロストワックス法)		大竹 志保	8) 全部鑄造冠修復の意義と特徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠修復の術式を説明できる。
35-40	11/5	10:45-17:05	7号館3階歯学科実習室1	全部鑄造冠作製	精密印象 作業模型作製 咬合器装着	笛木 賢治、 駒田 亘、大竹 志保	8) 全部鑄造冠修復の意義と特徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠修復の術式を説明できる。 10) 模型歯で全部鑄造冠修復を行うことができる。
41-42	11/12	08:50-10:30	7号館3階歯学科講義室4	CAD/CAM システム		野崎 浩佑	1) クラウンによる修復の特徴を説明できる。 11) 審美的なクラウン修復を列挙し、その特徴を説明できる。
43-48	11/12	10:45-17:05	7号館3階歯学科実習室1	全部鑄造冠作製	ワックスアップ	笛木 賢治、 駒田 亘、大竹 志保	8) 全部鑄造冠修復の意義と特徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠修復の術式を説明できる。 10) 模型歯で全部鑄造冠修復を行うことができる。
49-50	11/19	08:50-10:30	7号館3階歯学科講義室4	クラウンブリッジの種類		瀧田 美奈	2) クラウンによる修復の種類を列挙できる。 11) 審美的なクラウン修復を列挙し、その特徴を説明できる。 16) 固定性義歯の種類と適応症を説明できる。
51-52	11/19	10:45-12:25	7号館3階歯学科実習室1	高速切削	・ 支台歯形成	笛木 賢治、 駒田 亘、大竹 志保	13) 高速切削の意義と方法を説明できる。 14) 高速切削器具を用いて模型歯で

							支台歯形成を行うことができる。
53-56	11/19	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	全部鑄造冠作製 CAD/CAM 実習	ワックスアップ 口腔内スキャナ ー実習	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	8) 全部鑄造冠 修復の意義と特 徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠 修復の術式を説 明できる。 10) 模型歯で全部鑄 造冠修復を行うこ とができる。
57-58	11/26	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔内試適 装着 術 後管理		大石 晋也	1) クラウンによ る修復の特徴を 説明できる。 1 5) 固定性義歯の 目的と意義を説 明できる。 17) 歯の欠損の診査 および診断を説 明できる。
59-60	11/26	10:45-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1	高速切削	・ 支台歯形成	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	13) 高速切削の 意義と方法を説 明できる。 14) 高速切削器具を 用いて模型歯で 支台歯形成を行う ことができる。
61-64	11/26	13:30-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	全部鑄造冠作製 CAD/CAM 実習	埋没、鑄造、調整 口腔内スキャ ナー実習	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	8) 全部鑄造冠 修復の意義と特 徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠 修復の術式を説 明できる。 10) 模型歯で全部鑄 造冠修復を行うこ とができる。
65-71	11/27	08:50-16:10	7号館3 階歯学科 実習室1	全部鑄造冠作製 CAD/CAM 実習	全部鑄造冠仕上げ 口腔内スキャ ナー実習	笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	8) 全部鑄造冠 修復の意義と特 徴を説明できる。 9) 全部鑄造冠 修復の術式を説 明できる。 10) 模型歯で全部鑄 造冠修復を行うこ とができる。
72	11/27	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	作製物提出 器材返却		笛木 賢治、 駒田 亘 大 竹 志保	
73	12/10	11:40-12:25	7号館3 階歯学科		試験	笛木 賢治、 駒田 亘 大	

			実習室 1			竹 志保	
74	12/23	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4		追再試験	笛木 賢治, 駒田 亘 大 竹 志保	

授業方法

- ・事前動画教材視聴を前提とした講義, 演習.
- ・デモ動画の視聴を前提とした実習.

授業内容

- ・クラウンブリッジ総論
- ・支台歯形成 プロビジョナルレストレーション
- ・支台築造
- ・印象採得 咬合採得
- ・技工操作(ロストワックス法)
- ・CAD/CAM システム
- ・クラウンブリッジの種類
- ・口腔内試適, 装着, 術後管理

成績評価の方法

- ・適宜小テスト等を行い, 形成的評価を行う.
- ・実習が完了した後, 実習における製作物の評価を行う. また, 筆記試験を行い, 総括的評価を行う.

成績評価の基準

- ・適宜小テスト等を行い, 形成的評価を行う.
- ・実習が完了した後, 実習における製作物の評価を行う.
- ・筆記試験を行い, 総括的評価を行う.

準備学習等についての具体的な指示

LMS に掲示するハンドアウト, 動画教材を確認し, 適切に予習, 復習を行うこと.

試験の受験資格

- ・全授業時間数のうち, 講義・演習は3分の2以上, 実習は3分の2以上の出席をしていなければならない.
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし, 次年度に当該ユニットを再履修しなければならない.

構成ユニット

10 クラウン修復

11 支台築造

12 全部鑄造冠修復

13 前装冠修復

14 高速切削

モジュールの単位判定

- ・適宜小テスト等を行い, 形成的評価を行う.
- ・実習が完了した後, 実習における製作物の評価を行う. また, 筆記試験を行い, 総括的評価を行う.

参考書

クラウンブリッジ補綴学／矢谷, 博文, 1954-,三浦, 宏之, 1955-,細川, 隆司,小川, 匠,木本, 克彦,松香, 芳三,矢谷博文, 三浦宏之, 細川隆司, 小川匠, 木本克彦, 松香芳三 編集:医歯薬出版, 2021.2

クラウンブリッジテクニク／三浦, 宏之, 1955-,伊藤, 裕, 歯学,小川, 匠,三浦宏之, 伊藤裕, 小川匠, 細川隆司, 石橋寛二, 川和忠治, 寺田善博, 福島俊士 編:医歯薬出版, 2018.3

冠橋義歯補綴学テキスト／江草, 宏,柏木, 宏介,小峰, 太松浦, 尚志,江草宏, 柏木宏介, 小峰太, 松浦尚志 編集主幹:永末書店, 2025.3

履修上の注意事項

講義は, 指定された参考書, 実習書を熟読の上で臨むこと. 実習は, 当日までに実習内容に該当するデモビデオを閲覧, 理解をしておくとともに, 実習内容に対応する講義も十分復習して臨むこと. 原則として補講は実施しないので, 特に実習では注意すること.

備考

本ユニットでは, 一部アクティブラーニング(AL)(実習)を採用している.

前年度履修学生の科目評価で実習時のライター数が少ないとの指摘をもとに、今年度は実習指導ライターの増員を行う。

連絡先: 笛木賢治 kunfu.pro@tmd.ac.jp オフィスアワー(木:13:00ー17:00)

時間割番号	021f00				
科目名	インプラント治療学			科目ID	
担当教員	丸川 恵理子, 下岸 将博[MARUKAWA Eriko, SHIMOGISHI Masahiro]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
インプラント治療学 コマ数 30 授業:講義:20 コマ、演習:2 コマ、実習:8 コマ 必要自習時間:10 時間 授業形態:講義、演習、実習					
主な講義場所 7 号館歯学科講義室 4・実習室 1					
授業の目的、概要等 インプラント義歯を用いた咬合回復治療に必要な基礎的知識を修得する。					
授業の到達目標 1)インプラント治療の利点と欠点を説明できる(D-5-3-3-1、D-5-3-3-2)。 2)インプラント治療に必要な検査および診断を説明できる(D-5-3-3-3)。 3)インプラント治療の外科術式を説明できる(D-5-3-3-4)。 4)インプラント治療の補綴術式を説明できる(D-5-3-3-5、D-5-3-3-6、D-5-3-3-7)。 5)インプラン治療におけるメンテナンスを説明できる(D-5-3-3-8)。 6)インプラント治療における問題点を説明できる(D-5-3-3-2)。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	10/7	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4		
2	10/7	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4		
3	10/7	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4		
4	10/13	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4		
5	10/13	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4		
6	10/13	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4		
7	11/10	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4		
8	11/10	09:45-10:30	7号館3 階歯学科		

			講義室 4	
9	11/10	10:45-11:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
10	11/10	11:40-12:25	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
11	11/10	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
12	11/10	14:25-15:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
13	11/10	15:25-16:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
14	11/10	16:20-17:05	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
15	11/17	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
16	11/17	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
17	11/17	10:45-11:30	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
18	11/17	11:40-12:25	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
19	11/17	13:30-14:15	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
20	11/17	14:25-15:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
21	11/17	15:25-16:10	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
22	11/17	16:20-17:05	7号館 3 階歯学科 講義室 4	
23	11/24	08:50-09:35	7号館 3 階歯学科 実習室 1	
24	11/24	09:45-10:30	7号館 3 階歯学科 実習室 1	

25	11/24	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 実習室1	
26	11/24	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 実習室1	
27	11/24	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 実習室1	
28	11/24	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 実習室1	
29	11/24	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 実習室1	
30	11/24	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 実習室1	
31	12/8	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	試験
32	12/22	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	追再試験

授業方法

対面授業を行い、各到達目標毎に筆記による試験を行う。
PBL・TBLにて問題演習を行う。
講義・実習での質問については当日中、またはメールにて適宜対応する。

授業内容

口腔インプラント総論
材料学・解剖学の基礎
口腔インプラント外科学
口腔インプラント補綴学
口腔インプラントの長期経過

成績評価の方法

試験、演習での参加態度および実習での成果物により総合的に評価する。

成績評価の基準

各到達目標毎の試験にて60%以上の正答率を達成することにより、到達目標を概ね達成(B評価)したと判断する。
演習・実習への参加態度、グループディスカッションによる成果物の提出を評価対象として加味する。

準備学習等についての具体的な指示

歯を失った場合日々の生活においてどのような点で困るか、歯を失った患者さんに対して、どのような歯科治療が可能であるかについて調べる。
一般国民がもつインプラント治療のイメージおよび内容を調べる。

試験の受験資格

・モジュール(科目)全体で、3分の2以上出席していなければならない。
カードタッチによる出席確認を行う。
出席確認が出来ない場合はテストの回答、演習および実習での成果物にて出席を確認する。

構成ユニット

インプラント治療学
モジュールの単位判定 講義終了後に行う試験、演習、および実習への参加態度により総括的評価を行う。
教科書 よくわかる口腔インプラント学 赤川安正・松浦正朗・矢谷博文・渡邉文彦 編 医歯薬出版 口腔インプラント治療指針 2024 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 編 インプラントの専門医を取得するための研修マニュアル 公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 診療マニュアル作成委員会 編
参考書 ・Clinical Periodontology and Implant Dentistry. Lindhe Jan /Wiley-Blackwell ・Dental Implant Prosthetics. Misch Carl E. /Publisher:Elsevier MOSBY
備考 演習ではグループワークを行い、課題発表とそれに対して討論を行う(active learning: PBL, TBL)。 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。
参照ホームページ オフィスアワー:随時対応する。メールによりアポイントを取ること。 連絡先:下岸 将博 shimogishi.im@tmd.ac.jp

時間割番号	021f10						
科目名	歯科矯正学			科目ID			
担当教員	森山 啓司, 小川 卓也, 小野 卓史, 松本 芳郎[MORIYAMA Keiji, OGAWA Takuya, ONO Takashi, MATSUMOTO Yoshiro]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
コマ数:48+1 (必修自習時間 10時間) 授業形態:講義・実習・演習							
主な講義場所 講義室 5(7 号館 5 階)または遠隔 実習室 3(7 号館 5 階) ロールプレイ実習(2026 年 11 月 13 日)は当日別に指示する。							
授業の目的、概要等 顎顔面頭蓋の成長発育様相とその異常、正常咬合の成立に必要な要件と不正咬合の原因および矯正力や顎整形力に対する歯、骨、軟組織の生体応答性など、矯正歯科治療のメカニズムを習得する上で必要な生体の構造と機能について理解を深める。 不正咬合の病因と随伴する顎口腔領域の形態・機能異常を理解し、予防と治療の意義を踏まえた上で歯科矯正・外科的矯正治療の理論と方法を修得する。							
授業の到達目標 1)顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。E-2-3), E-3-1) 2)矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。E-4-1) 3)正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。E-2-2) 4)不正咬合によって生じる障害を列挙できる。E-2-4-(11) 5)不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。E-4-1) 6)不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1) F-3-6) 7)矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1) 8)矯正歯科治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1) 9)矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。E-4-1) 10)矯正歯科治療に必要な力学を説明できる。E-4-1) 11)後戻りと保定について説明できる。E-4-1) 12)先天異常および顎変形症患者における外科的矯正治療の診断・治療法を説明できる。E-2-4)-(1), E-4-1), F-3-6) 13)矯正歯科治療・外科的矯正治療の治療計画を立案できる。E-4-1), F-3-6) 14)顎変形症、口唇口蓋裂患者を含む先天異常患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1) 15)矯正歯科治療によって生じる医源性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。E-4-1)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/2	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	イントロダクション:歩みと定義・意義と目的	講義	森山 啓司	矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。E-4-1)
2	10/2	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	成長発育概論	講義	森山 啓司	顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。E-2-3), E-3-1)
3	10/2	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科	頭蓋の発生および成長発育	講義	小川 卓也	顎顔面頭蓋の正常な成長発育様

			講義室 4				相について説明できる。E-2-3), E-3-1)
4	10/2	11:40-12:25	7号館3階歯学科講義室 4	顎顔面の発生および成長発育・歯列と咬合の成長発育	講義・総論演習 1	小川 卓也	顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。E-2-3), E-3-1)
5	10/2	13:30-14:15	7号館3階歯学科講義室 4	咬合概論・正常咬合	講義・総論演習 2	小笠原 毅	正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。E-2-2)
6	10/2	14:25-15:10	7号館3階歯学科講義室 4	顎運動と生理機能	講義・総論演習 3	東堀 紀尚	不正咬合の診察、検査を説明できる。E-4-1)
7	10/2	15:25-16:10	7号館3階歯学科講義室 4	不正咬合とその分類	講義	小川 卓也	不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。E-4-1)
8	10/2	16:20-17:05	7号館3階歯学科講義室 4	不正咬合の原因(先天的・後天的原因)	講義・総論演習 4	小林 起穂	不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。E-4-1)
9	10/9	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室 4	診断・医療面接・形態的検査1(X線診査まで)	講義・診断学演習 1	米満 郁男	不正咬合の診察、検査を説明できる。E-4-1)
10	10/9	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室 4	診断学(検査1):形態的検査 2(セファロ分析)	講義・診断学演習 2	石田 雄之	不正咬合の診察、検査を説明できる。E-4-1)
11	10/9	10:45-11:30	7号館3階歯学科講義室 4	診断学(検査2):機能検査(含呼吸・脳機能等)	講義・診断学演習 3	大森 浩子	不正咬合の診察、検査を説明できる。E-4-1)
12	10/9	11:40-12:25	7号館3階歯学科講義室 4	不正咬合の予防、診断学(治療方針立案1):抜歯	講義・診断学演習 4	松本 芳郎	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1)
13-16	10/9	13:30-17:05	7号館5階歯学科実習室 3	基礎実習(矯正線屈曲・自在蟬着)	実習	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純, 小川 卓也, 松本 芳郎, 東堀 紀尚, 加藤 千帆, 大森 浩子, 田中 裕香, 米	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)

						満 郁男, 石田 雄之, 上園 将慶, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	
17	10/23	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	診断学(治療方針立案2):立案	講義・診断学演習5	細道 純	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-4-1)
18	10/23	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	矯正装置	講義・診断学演習6	加藤 千帆	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)
19	10/23	10:45-11:30	7号館3階歯学科講義室4	生体反応(1)歯・歯周組織	講義・診断学演習7	石田 雄之	矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1)
20	10/23	11:40-12:25	7号館3階歯学科講義室4	生体反応(2)顎骨・顎関節・拡大等	講義・診断学演習8	松本 芳郎	矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1)
21-24	10/23	13:30-17:05	7号館5階歯学科実習室3	診断学実習(セファロ分析)	実習	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純, 小川 卓也, 松本 芳郎, 東堀 紀尚, 加藤 千帆, 大森 浩子, 米満 郁男, 石田 雄之, 田中 裕香, 上園 将慶, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-4-1)
25	10/30	08:50-09:35	7号館3階歯学科	治療学概論・矯正力・固定	講義・治療学演習1-1	細道 純	不正咬合の原因、種類、診察、

			講義室 4				検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。 E-4-1)
26	10/30	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	矯正歯科用材料の特性	講義・治療学演習 1-2	米満 郁男	矯正装置の種類 と特徴及び使用 目的を説明でき る。矯正治療に用 いる器材の名称 と使い方を説明で きる。E-4-1)
27	10/30	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	下顎前突(含永久歯列 期)の治療	講義・治療学演習 1-3	田中 裕香	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
28	10/30	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	上顎前突(含永久歯列 期)・習癖・歯根吸収他の 治療	講義・治療学演習 1-3	石田 雄之	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
29-32	10/30	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室 3	治療学実習(舌側弧線装 置・タイポドント)	実習	森山 啓司、 小野 卓史、 細道 純、小 川 卓也、松 本 芳郎、東 堀 紀尚、加 藤 千帆、大 森 浩子、米 満 郁男、石 田 雄之、田 中 裕香、上 園 将慶、小 笠原 毅、小 林 起穂、松 本 英和	矯正装置の種類 と特徴及び使用 目的を説明でき る。矯正治療に用 いる器材の名称 と使い方を説明で きる。E-4-1)
33	11/6	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4	開咬・過蓋咬合の治療	講義・治療学演習 1-5	米満 郁男	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特

							徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
34	11/6	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	叢生・空隙・埋伏他の治療	講義・治療学演習 1-6	加藤 千帆	'不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。'矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
35	11/6	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	顎変形症総論	講義	東堀 紀尚	顎変形症患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1)
36	11/6	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	顎変形症の外科的矯正治療、暫間的固定装置	講義・治療学演習 2-1	東堀 紀尚	顎変形症患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1)
37-40	11/6	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	矯正歯科治療統合実習	実習	森山 啓司, 細道 純 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 米 満 郁男, 石 田 雄之, 田 中 裕香, 上 園 将慶, 小 笠原 毅 小 林 起穂, 松 本 英和	'不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。'矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
41-44	11/13	08:50-12:25	7号館5 階歯学科 実習室3, 歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎実 習室	医療面接実習(ロールプレイ)	実習	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 米 満 郁男, 石 田 雄之, 田 中 裕香, 上 園 将慶, 小 笠原 毅 小 林 起穂, 松	'不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。'矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)

						本 英和	
45	11/13	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	口唇口蓋裂患者の矯正 歯科治療	講義・治療学演習 2-2	小川 卓也	口唇口蓋裂患者 に対する咬合改 善のための包括 治療の流れを説 明できる。E-4-1)
46	11/13	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔衛生管理、矯正歯 科治療に伴う偶発症、保 定	講義・治療学演習 2-3	上園 将慶	矯正歯科治療に よって生じうる医 原性障害を挙げ、 その予防法と処 置を説明できる。 E-4-1) 後戻りと 保定について説 明できる。E-4-1)
47	11/13	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期 型)	先天異常総論		辻 美千子	先天異常患者に 対する咬合改善 のための包括治 療の流れを説明 できる。E-4-1)
48	11/13	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期 型)	先天異常患者の矯正歯 科治療	治療学演習 2-4	辻 美千子	先天異常患者に 対する咬合改善 のための包括治 療の流れを説明 できる。E-4-1)
49	12/8	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4		試験	森山 啓司, 小野 卓史	
50	12/22	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4		追再試験	森山 啓司, 小野 卓史	

授業方法

担当教員による講義・演習ならびに実習

授業内容

授業明細を参照のこと

成績評価の方法

授業題目ごとに、講義においては観察記録および演習により、実習においては実地試験、観察記録および口頭試験、ならびにレポートにより形成的評価を行う。さらに、モジュールの最終回の客観的試験、論述試験(2026年12月8日)により総括的評価を行う。

成績評価の基準

歯科矯正学に関する治療について十分な理解が得られていること。

具体的には、ユニット試験の成績に出席状況を加味した総合点で6割以上を取得すること。

準備学習等についての具体的な指示

事前に教科書、WebClass 配布資料ならびに参考図書を熟読の上、授業に臨むこと。実習に際しては、実習帳および実習内容に対応する講義を復習して臨むこと。

試験の受験資格

ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。

構成ユニット

歯科矯正学

教科書

Contemporary orthodontics／Proffit, William R., Fields, Henry W. Jr., Larson, Brent E., Sarver, David M., William R. Proffit ... [et al.] : Elsevier, c2019

Orthodontics : current principles and techniques／Grabner, Lee W.,Vig, Katherine W. L,Huang, Greg J,Fleming, Padhraig S.:Elsevier, c2023 Handbook of orthodontics.／Moyers, Robert E.,Robert E. Moyers.:Year Book Medical Publishers, c1988 歯科矯正学／後藤, 滋巳, 1952-,齋藤, 功, 歯学,西井, 康,榎, 宏太郎,森山, 啓司,山城, 隆,後藤滋巳 [[ほか] 編集,新井一仁 [[ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2024.9 Gorlin's syndromes of the head and neck.／Hennekam, Raoul C. M.,Gorlin, Robert J.,Allanson, Judith E.,Krantz, Ian D.,Raoul Hennekam, Judith Allanson, Ian Krantz:Oxford University Press, 2010 歯科矯正学エッセンシャルテキスト. 編集委員:西井康, 新井一仁, 小野卓史, 須田直人, 友成博, 不島健持, 榎宏太郎, 本吉満, 森山啓司, 山口徹太郎, 永末書店, 2023 年
参考書 アトラス顎顔面矯正 : 顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療／黒田, 敬之, 1936-,大山, 紀美栄, 1940-,本橋, 信義, 1948-,鈴木, 聖一, 1954-,黒田敬之 監修,大山紀美栄, 本橋信義, 鈴木聖一 編:医歯薬出版, 2002.3 Contemporary treatment of dentofacial deformity.／Proffit, William R.,White, Raymond P. (...Raymond Petrie...),Sarver, David M.,William R. Proffit, Raymond P. White and David M. Sarver: Mosby, c2003 矯正歯科治療 : この症例にこの装置 第2版／後藤滋巳, 清水典佳, 榎宏太郎, 森山啓司, 石川博之 編著:医歯薬出版, 2017 プロフィットの現代歯科矯正学／Proffit, William R.,高田, 健治, 1948-,William R.Proffit 著,高田健治 訳:クインテッセンス出版, 2004.6 安心・安全歯科矯正用アンカースクリューこの症例にこの方法／後藤, 滋巳, 1952-,清水, 典佳,森山, 啓司,後藤滋巳, 清水典佳, 森山啓司, 宮澤健, 榎宏太郎, 石川博之 編著,後藤滋巳 編集代表:医歯薬出版, 2013.1 歯科矯正治療と顎顔面矯正治療／McNamara JA Jr., Brudon WL, 黒田敬之(監訳):東京臨床出版, 2006 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床／高橋, 庄二郎, 1924-,高橋庄二郎 著:日本歯科評論社, 1996.6 Dentofacial deformities : integrated orthodontic and surgical correction.／Epker, Bruce N.,Fish, Leward C.,Bruce N. Epker, Leward C. Fish ; surgical illustrations by Stephen Watson and Kent Boughton: Mosby, 1986 Ten Cate 口腔組織学／Ten Cate, Arnold Richard,Nanci, Antonio,川崎, 堅三, 1942-,Ten Cate [原著],Antonio Nanci 編著,川崎堅三 監訳:医歯薬出版, 2006.1 ムーア人体発生学／Moore, Keith L,Persaud, T. V. N.,瀬口, 春道, 1940-,Moore and Persaud 著,瀬口春道 監訳:医歯薬出版, 2001.3 カラーアトラス X 線解剖学とセファロ分析法 宮下邦彦 著, クインテッセンス出版 2009 年 Atlas of Orthodontic Treatment for Patients with Birth Defects. Takayuki Kuroda, Kimie Ohyama, Nobuyoshi Motohashi, Keiji Moriyama. Needham Press,Inc. 2012 年
履修上の注意事項 止むを得ず講義・実習の出席が不足する場合は、これらのレポートの内容により受験資格の付与を検討する。
備考 一部講義においては、AL(演習)を行う。 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。 小野 卓史t.ono.orts@tmd.ac.jp 森山 啓司k-moriyama.mort@tmd.ac.jp 松本 芳郎t.ono.orts@tmd.ac.jp 細道 純小野 卓史t.ono.orts@tmd.ac.jp 小川 卓也t-ogawa.mort@tmd.ac.jp
連絡先(メールアドレス) 森山 啓司k-moriyama.mort@tmd.ac.jp
オフィスアワー 森山 啓司オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	021f20						
科目名	小児歯科学				科目ID		
担当教員	岩本 勉 和田 奏絵[IWAMOTO Tsutomu, WADA Kanae]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4		単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
主な講義場所							
講義:7 号館 3 階歯学科講義室 4							
実習:7 号館 5 階歯学科実習室 3							
授業の目的、概要等							
GIO:胎児期から成人に至るまでの定型発達児, 障害児, 有病児の身体的成長, 精神的・心理的発達について理解し, 健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解する。							
授業の到達目標							
SBOs:成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘る QOL を支えることを認識し, 顎口腔領域の疾患や異常の予防, 診察・検査, 診断, 治療の方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する(括弧はモデルコアカリ番号)。							
1) 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる(A-2-2-1、A-2-2-2、E-2-3-5)。							
2) 口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる(A-2-4-5)。							
3) 口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる(A-2-4-6)。							
4) 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる(A-3-4-1)。							
5) 口腔機能の発達を説明できる(A-2-4-5、D-3-1-11)							
6) 乳歯の形態と特徴を説明できる(A-3-4-4)。							
7) 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる(A-3-4-4)。							
8) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる(D-5-6-1)。							
9) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる(D-5-6-2)							
10) 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる(D-5-6-3)。							
11) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる(D-5-6-4)。							
12) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の処置法の種類、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる(D-5-6-4)。							
13) 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる(D-5-6-5)。							
14) 小児患者への対応として行動変容法及び抑制法を実施できる(E-5-5-7)							
15) 障害児の身体的、精神的及び心理的特徴に留意して診療を実施できる(E-5-7)							
16) 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる(D-5-6-6、D-5-6-7)。							
17) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる(D-5-6-8、D-5-6-9)。							
18) 口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響を説明できる(D-5-5-3)。							
19) 小児患者の対応を説明できる(E-2-1-2-1、E-2-1-2-2、E-5-5-7)。							
20) 小児の虐待の徴候と対応を説明できる(D-5-6-10)。							
21) 基本的臨床技能として、小児にフッ化物の歯面塗布を実施できる(E-5-5-5)。							
22) 基本的臨床技能として、幼若永久歯の予防填塞を実施できる(E-5-5-6)。							
23) 基本的臨床技能として、年齢別の食事指導・間食指導の内容を評価できる(E-5-5-4)。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/5	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科講義室 4	小児歯科学概論	教科書「小児歯科学」P1-P4	岩本 勉	小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる

							(A-2-2-1、 A-2-2-2、 E-2-3-5)
2	10/5	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	全身の成長・発達1	教科書「小児歯科学」P5-P32	岩本 勉	小児の身体発 育、精神発達の 特徴と評価法を 説明できる (A-2-2-1、 A-2-2-2、 E-2-3-5)
3	10/5	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	全身の成長・発達2	教科書「小児歯科学」P5-P32	岩本 勉	小児の身体発 育、精神発達の 特徴と評価法を 説明できる (A-2-2-1、 A-2-2-2、 E-2-3-5)
4	10/5	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	頭蓋・顎顔面の発育	教科書「小児歯科学」P33-P44	岩本 勉	口腔・顎顔面領域 の成長・発育を説 明できる (A-2-4-5)。
5	10/5	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔機能の発達	教科書「小児歯科学」P45-P61	柿野 聡子	腔機能の発達を 説明できる (A-2-4-5、 D-3-1-11)
6	10/5	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	歯の発育と異常1	教科書「小児歯科学」P62-P88	柿野 聡子	歯の発生、発育 及び交換の過程 と変化を説明でき る(A-3-4-1)。
7	10/5	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	歯の発育と異常2	教科書「小児歯科学」P62-P88	柿野 聡子	歯の発生、発育 及び交換の過程 と変化を説明でき る(A-3-4-1)。
8	10/5	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室4	歯列および咬合の発育 と異常	教科書「小児歯科学」P89-P103	柿野 聡子	口腔・顎顔面の成 長・発育異常及び 不正咬合へ及び す影響を説明で きる(A-2-4-6)。
9	10/19	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	小児期の歯・歯周組織 の特徴	教科書「小児歯科学」P104-P117	和田 奏絵	小児に見られる 歯周疾患の特徴 と対応を説明でき る(D-5-6-5)。
10	10/19	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	小児への歯科的対応法 1	教科書「小児歯科学」P118-P134	和田 奏絵	小児患者への対 応として行動変容 法及び抑制法を 実施できる (E-5-5-7) 基本 的臨床技能とし て、年齢別の食

							事指導・間食指導の内容を評価できる(E-5-5-4)。
11	10/19	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	小児への歯科的対応法 2	教科書「小児歯科学」P118-P134	和田 奏絵	小児患者への対応として行動変容法及び抑制法を実施できる (E-5-5-7) 基本的臨床技能として、年齢別の食事指導・間食指導の内容を評価できる(E-5-5-4)。
12	10/19	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	小児歯科診療の流れ・ 医療安全	教科書「小児歯科学」P135-P1150	和田 奏絵	小児患者への対応として行動変容法及び抑制法を実施できる (E-5-5-7) 基本的臨床技能として、年齢別の食事指導・間食指導の内容を評価できる(E-5-5-4)。
13	10/19	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	齲蝕1	教科書「小児歯科学」P151-P211	岩本 勉	齲蝕の特徴と予防法を説明できる (D-5-6-1)。齲蝕の診察、検査と診断を説明できる (D-5-6-2) 歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる (D-5-6-3)。
14	10/19	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	齲蝕2	教科書「小児歯科学」P151-P211	岩本 勉	齲蝕の特徴と予防法を説明できる (D-5-6-1)。齲蝕の診察、検査と診断を説明できる (D-5-6-2) 歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる (D-5-6-3)。
15	10/19	15:25-16:10	7号館3 階歯学科 講義室4	歯内療法	教科書「小児歯科学」P212-P231	岩本 勉	乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる

							(D-5-6-4)。
16	10/19	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室4	歯周疾患	教科書「小児歯科学」P232-P246	岩本 勉	小児に見られる 歯周疾患の特徴 と対応を説明でき る(D-5-6-5)。
17-24	10/26	08:50-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	ラバーダム・断髄 乳歯 冠 RSM① 乳歯 冠 乳歯冠/RSM① RSM① RSM①		岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	乳歯と根未完成 永久歯の歯髄・根 尖性歯周疾患の 診察、検査と診断 (D-5-6-4)。歯 冠修復 (D-5-6-3)。 保障処置 (D-5-6-8、 D-5-6-9)。
25	11/9	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	歯の外傷1(疫学、分 類、検査と診断)	教科書「小児歯科学」P247-P257	大石 敦之	小児の歯の外傷・ 粘膜疾患の診 察、検査、診断及 び、処置法及び 予後を説明できる (D-5-6-6 、 D-5-6-7)。
26	11/9	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	歯の外傷2(処置および 予防)	教科書「小児歯科学」P247-P257	大石 敦之	小児の歯の外傷・ 粘膜疾患の診 察、検査、診断及 び、処置法及び 予後を説明できる (D-5-6-6 、 D-5-6-7)。
27	11/9	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	口腔軟組織疾患および 顎疾患	教科書「小児歯科学」P258-P286	大石 敦之	小児の歯の外傷・ 粘膜疾患の診 察、検査、診断及 び、処置法及び 予後を説明できる (D-5-6-6 、 D-5-6-7)。
28	11/9	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	外科処置	教科書「小児歯科学」P287-P298	大石 敦之	小児の歯の外傷・ 粘膜疾患の診 察、検査、診断及 び、処置法及び 予後を説明できる (D-5-6-6 、 D-5-6-7)。
29-32	11/9	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室3	RSM②		岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	保障処置の目 的、種類、適応症 及び留意点並び に保障装置の設 計について説明 できる(D-5-6-8、 D-5-6-9)。

33	11/16	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室4	咬合誘導1(考え方、診 察、検査、診断)	教科書「小児歯科学」P299-P337	岩本 勉	保障処置の目 的、種類、適応症 及び留意点並び に保障装置の設 計について説明 できる(D-5-6-8、 D-5-6-9)。口 腔習癖が歯列・咬 合に及ぼす影響 を説明できる (D-5-5-3)。
34	11/16	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	咬合誘導2(静的、動的 咬合誘導)	教科書「小児歯科学」P299-P337	岩本 勉	保障処置の目 的、種類、適応症 及び留意点並び に保障装置の設 計について説明 できる(D-5-6-8、 D-5-6-9)。口 腔習癖が歯列・咬 合に及ぼす影響 を説明できる (D-5-5-3)。
35	11/16	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室4	咬合誘導3(口腔習癖と その対応)	教科書「小児歯科学」P299-P337	岩本 勉	保障処置の目 的、種類、適応症 及び留意点並び に保障装置の設 計について説明 できる(D-5-6-8、 D-5-6-9)。口 腔習癖が歯列・咬 合に及ぼす影響 を説明できる (D-5-5-3)。
36	11/16	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	障害児の歯科治療(岩 本)	教科書「小児歯科学」P338-P367	岩本 勉	障害児の身体 的、精神的及び 心理的特徴に留 意して診療を実施 できる(E-5-7)
37	11/16	13:30-14:15	7号館3 階歯学科 講義室4	歯科治療上注意すべき 小児疾患1	教科書「小児歯科学」P368-P412	岩本 勉	口腔・顎顔面の成 長・発育異常及び 不正咬合へ及ぼ す影響を説明で きる(A-2-4-6)。
38	11/16	14:25-15:10	7号館3 階歯学科 講義室4	歯科治療上注意すべき 小児疾患2	教科書「小児歯科学」P368-P412	岩本 勉	口腔・顎顔面の成 長・発育異常及び 不正咬合へ及ぼ す影響を説明で きる(A-2-4-6)。
39	11/16	15:25-16:10	7号館3 階歯学科	社会的問題と小児歯科 の関わり1(児童虐待)	教科書「小児歯科学」P413-P417	和田 奏絵	小児の虐待の徴 候と対応を説明で

			講義室 4				きる(D-5-6-10)。
40	11/16	16:20-17:05	7号館3 階歯学科 講義室 4	社会的問題と小児歯科 の関わり 2(災害と小児 保健・医療)	教科書「小児歯科学」P418-P421	和田 奏絵	年齢別の食事指 導・間食指導の内 容を評価できる (E-5-5-4)。小 児のブラークコン トロールを行うた めに、保護者へ の適切な口腔衛 生指導を実施で きる(E-5-5-2、 E-5-5-3)。
41-42	11/20	08:50-10:30	7号館5 階歯学科 実習室 3	ラバーダム、シーラン ト、模型提出		岩本 勉 和 田 奏絵、柿 野 聡子、大 石 敦之	基本的臨床技能 として、幼若永久 歯の予防填塞を 実施できる (E-5-5-6)。
43-44	11/20	10:45-12:25	7号館5 階歯学科 実習室 3	フッ化物塗布		岩本 勉 和 田 奏絵、柿 野 聡子、大 石 敦之	基本的臨床技能 として、小児にフ ッ化物の歯面塗 布を実施できる (E-5-5-5)。
45-48	11/20	13:30-17:05	7号館5 階歯学科 実習室 3	ロールプレイ		岩本 勉 和 田 奏絵、柿 野 聡子、大 石 敦之	年齢別の食事指 導・間食指導の内 容を評価できる (E-5-5-4)。保 護者への適切な 口腔衛生指導を 実施できる (E-5-5-2、 E-5-5-3)。
49	12/7	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	小児歯科試験	試験	岩本 勉	

成績評価の方法

講義においては、必要に応じて課題またはレポートの提出を求めることもあり、成績に含めます。実習においては、提出物、観察記録および口頭試問ならびにレポートにより形成的評価を行います。講義および実習の態度も評価し、授業および実習の最後に、試験を行うことで総括して評価を行います。

成績評価の基準

「到達目標」に明示している事項について、講義内容より概ね達成できている場合は B、発展的に学習して自ら教員の課題の解決策等について具体的に論述できる場合は B より上とする。

準備学習等についての具体的な指示

講義が行われる範囲の教科書を熟読の上で授業に臨むこと。実習に際しては、実習書を読み、授業前に、WebClass(歯学部、小児の成長発育と咬合育成)の資料を確認し、あらかじめ学習し、実習に際しては、内容に対応する講義のパートを復習して臨むこと。

試験の受験資格

講義は基本対面で実施し、授業に 2/3 以上の出席を定期試験の受験要件および単位取得の要件とします。実習の出席については、特別な理由がない限り「全出席を基本」とし、欠席の際には「欠席届」、「診断書」などの手続きを行ってください。やむを得ず実習を欠席した場合、補講を行うことがあります。

構成ユニット

咬合育成・発達

教科書

小児歯科学／白川, 哲夫,福本, 敏,岩本, 勉,森川, 和政,白川哲夫, 福本敏, 岩本勉, 森川和政 編,白川哲夫 [ほか] 執筆:医歯薬出版, 2023.2

:南山堂, 2005.12

:Wiley-Blackwell, 2009

参考書

小児歯科マニュアル／前田, 隆秀,前田隆秀 編:南山堂, 2005.12

Pediatric dentistry : a clinical approach／Koch, Göran,Poulsen, Sven,editors, Göran Koch and Sven Poulsen:Wiley-Blackwell, 2009

Pediatric dentistry : infancy through adolescence／Pinkham, J. R.,[edited by] Jimmy R. Pinkham ...[et al.]:Elsevier Saunders, c2005

McDonald and Avery's dentistry for the child and adolescent／McDonald, Ralph E.,Avery, David R.,Dean, Jeffrey A.,[edited by] Jeffrey A. Dean, David R. Avery, Ralph E. McDonald:Mosby Elsevier, c2011

時間割番号	021f30				
科目名	障害者歯科学			科目ID	
担当教員	岩本 勉 楠本 康香, 稲田 穰 塚脇 香苗[IWAMOTO Tsutomu, KUSUMOTO Yasuka, INADA Minoru, TSUKAWAKI Kanae]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名:全身と歯科医療 必要自習時間:2-3 時間 ユニットコマ数:講義 15 コマ+試験 1 コマ 授業形態:講義および演習(いずれも対面) ユニット番号:02					
主な講義場所 7 号館 3 階歯学科講義室4					
授業の目的、概要等 障害者の歯科治療 障害者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。 医師と連携するために必要な医学的知識 患者の症候・病態が生じる原因と、それらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。また医師と連携するために必要な医学的知識を学修し、合併する疾患について必要な知識を検索し、医科歯科連携の必要性と歯科医師の関わり方を説明できる。					
授業の到達目標 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。E-5-2)① ②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。E-5-2)② ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。E-5-2)③ ④障害者の口腔ケア及び口腔衛生指導を説明できる。E-5-2)④ ⑤全身の症候・病態を説明できる。E-6-① ⑥医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。E-6-②					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業内容	
1	10/14	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4		
2	10/14	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4		
3	10/14	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4		
4	10/15	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4		
5	10/15	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科		

			講義室 4	
6	10/15	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	
7	10/15	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	
8	11/18	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4	
9	11/18	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	
10	11/18	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	
11	11/18	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	
12	11/25	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4	
13	11/25	09:45-10:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	
14	11/25	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	
15	11/25	11:40-12:25	7号館3 階歯学科 講義室 4	
16	12/10	08:50-09:35	7号館3 階歯学科 講義室 4	試験
17	12/22	10:45-11:30	7号館3 階歯学科 講義室 4	追再試験
授業方法 講義および演習(いずれも対面)				
授業内容 【概論】障害の定義 障害の概念について学習する 【各論】各種の障害とその特徴、歯科的問題、歯科的対応について学習する				
成績評価の方法 試験受験資格は講義の 2/3 以上(10コマ)出席を必要とする。 ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。				
成績評価の基準 「到達目標」に明示している事項について、講義内容より概ね達成できている場合は B、発展的に学習して自ら教員の課題の解決策等について具体的に論述できる場合は B より上とする。				

準備学習等についての具体的な指示 資料(LMS にて配布予定)に目を通して講義に臨むこと。 参考書を読んでおくことが望ましい。 講義に関する質問については、講義中もしくは科目担当(楠本)までメールにて随時受け付ける
試験の受験資格 対面講義はできる限り出席することが望ましい。問題が生じた場合には、科目責任者(楠本)までメールで必ず連絡すること。
構成ユニット 障害者歯科学
教科書 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科／日本障害者歯科学会,日本障害者歯科学会 編集:医歯薬出版, 2017.2 障害者歯科／向井美穂 他著:医歯薬出版, 2013
参考書 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科／日本障害者歯科学会 編集:医歯薬出版, 2017 障害者歯科／向井美穂 他著:医歯薬出版, 2013
履修上の注意事項 「試験の受験資格」に記載された内容を熟読し、受験資格を喪失しないよう、注意を払う事
備考 前年度履修学生の科目評価、指摘をもとに、講義進行に合わせて資料を配布する アクティブラーニング:ケース演習を行う 担当教員の Office hour は設けていないが、必要に応じて事前連絡の上相談とする 楠本康香 小児歯科学・障害者歯科学分野 yasudpd@tmd.ac.jp
連絡先(メールアドレス) 楠本 康香・楠本康香: yasudpd@tmd.ac.jp
オフィスアワー 楠本 康香・楠本康香: オフィスアワーは特に定めないが、事前に連絡してから訪問すること 歯科棟 11 階小児歯科学障害者歯科学分野

時間割番号	021f40					
科目名	歯科放射線学臨床			科目ID		
担当教員	三浦 雅彦[MIURA Masahiko]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
科目名: 歯科放射線学臨床 科目コマ数(授業コマ数+試験コマ数): 15+1 必要自習時間: 3時間 授業形態: 講義(一部討論)						
主な講義場所 7 号館 3F 歯学科講義室 4(対面講義)						
授業の目的、概要等 発展的な専門歯科領域における放射線診断・放射線治療法の基本を習得する。						
授業の到達目標 1)口腔顎顔面領域の嚢胞、良性腫瘍や炎症の画像所見を理解し、診断できる。 2)口腔顎顔面領域の悪性腫瘍の画像所見を理解し、診断できる。 3)顎関節疾患の画像所見を理解し、診断できる。 4)唾液腺疾患の画像所見を理解し、診断できる。 5)全身疾患や先天異常と関連する口腔顎顔面領域の特徴的画像所見を理解し、診断できる。 6)放射線の物理学的特性を説明できる。 7)放射線の生物学的効果を説明できる。 8)治療可能比を説明できる。 9)種々の腫瘍に対する外照射と小線源治療の特徴を説明できる。 10)放射線治療の適応を診断できる。 11)分割照射の特徴を説明できる。 12)口腔がんに対する放射線治療の特徴を説明できる。 13)口腔がんの放射線治療成績を説明できる。 コアカリ番号 E-1-2)、E-2-4)-(6)						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/6	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科講義室 4	顎骨疾患の画像診断 1	中村 伸	到達目標 3)5)・対面講義
2	10/6	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科講義室 4	顎骨疾患の画像診断 1	中村 伸	到達目標 3)5)・対面講義
3	10/6	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科	顎骨疾患の画像診断 2	渡邊 裕	到達目標 3)5)・対面講義

			講義室 4			
4	10/6	11:40-12:25	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	顎骨疾患の画像診断 2	渡邊 裕	到達目標 3)5)・対 面講義
5	10/6	13:30-14:15	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	顎骨／軟組織疾患の画 像診断 1	栗林 亜実	到達目標 1)～5)・ 対面講義
6	10/6	14:25-15:10	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	顎骨／軟組織疾患の画 像診断 1	栗林 亜実	到達目標 1)～5)・ 対面講義
7	10/6	15:25-16:10	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	顎骨／軟組織疾患の画 像診断 2	渡邊 裕	到達目標 1)～5)・ 対面講義
8	10/6	16:20-17:05	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	顎骨／軟組織疾患の画 像診断 2	渡邊 裕	到達目標 1)～5)・ 対面講義
9	10/20	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線物理学	渡邊 裕	到達目標 6)・対 面講義
10	10/20	09:45-10:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線生物学	戒田 篤志	到達目標 7)・対 面講義
11	10/20	10:45-11:30	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線腫瘍学概論	吉村 亮一	到達目標 9)～ 10)・対面講義
12	10/20	11:40-12:25	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線腫瘍学概論	吉村 亮一	到達目標 9)～ 10)・対面講義
13	10/20	13:30-14:15	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線腫瘍学各論	三浦 雅彦	到達目標 8)～ 12)・対面講義
14	10/20	14:25-15:10	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線腫瘍学各論	三浦 雅彦	到達目標 8)～ 12)・対面講義
15	10/20	15:25-16:10	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	放射線腫瘍学各論	三浦 雅彦	到達目標 8)～ 13)・対面講義
16	12/7	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	試験	三浦 雅彦	
17	12/21	08:50-09:35	7 号館 3 階歯学科 講義室 4	追再試験	三浦 雅彦	

授業方法

講義(対面講義)7 号館 3F 歯学科講義室 4

授業内容

発展的な専門歯科領域における放射線診断・放射線治療の総論的、各論的な講義を行う。

成績評価の方法

2026 年 12 月 7 日(当該科目最終日)に筆記試験を実施する。また授業への出席および発表による統括的評価とする。

適宜レポートによる評価を行う。
準備学習等についての具体的な指示 D3「歯科放射線基礎」の発展型となるので、D3 で学んだ内容について知識を深めること、また放射線物理と放射線生物学の復習をしておくこと。
試験の受験資格 ・3分の2以上の出席を必要とする。 ・受験資格を得られなかった学生は当該科目未履修とし、次年度に当該科目を再履修しなければならない。
参考書 放射線医科学：生体と放射線・電磁波・超音波／大西 武雄, 1944-, 松本 英樹, 1955-, 近藤 隆, 1952-, 島田 義也, 田内 広, 分子生物学, 大西武雄 監修, 松本英樹 副監修, 近藤隆, 島田義也, 田内広, 平岡真寛, 三浦雅彦, 宮川清, 宮越順二 編集: 医療科学社, 2016.10 Radiobiology for the radiologist, 8th ed／Eric J. Hall, Amato J. Giaccia: Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2019 臨床放射線腫瘍学 = Clinical Radiation Oncology : 最新知見に基づいた放射線治療の実践／日本放射線腫瘍学会, 日本放射線腫瘍学研究機構 編集: 南江堂, 2012 歯科放射線学 第7版／岡野 友宏, 1947-, 小林 馨, 1955-, 有地 栄一郎, 勝又 明敏, 林 孝文, 岡野友宏 [ほか] 編集, 新井嘉則 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2024.3 歯科臨床における画像診断アトラス／日本歯科放射線学会, 日本歯科放射線学会 編: 医歯薬出版, 2020.3 歯科放射線診断 teaching file／金田 隆, 1959-, 倉林 亨, 1957-, 佐野 司, 金田隆, 倉林亨, 佐野司 編著: 砂書房, 2019.4 顎・口腔の CT・MRI／酒井 修, 1964-, 金田 隆, 1959-, 酒井修, 金田隆 編集: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016.4
履修上の注意事項 WebClass にアップロードした資料を予習すること。 全授業から試験問題を出題するため、授業に出席し知識を深める。
備考 2026 年度より新規に開講する科目のため、今後の授業評価結果も参考のうえ適宜改善・工夫する予定 対面講義にて AL(一部討論)を行う。 WebClass 情報、Zoom 情報は、授業前に授業明細に掲載するので確認すること。 三浦雅彦 masa.mdth(@)tmd.ac.jp * E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えて下さい。

時間割番号	021f50					
科目名	医療統計学・疫学演習			科目ID		
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜, 木下 淳博[AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura, KINOSHITA Atsuhiro]					
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
医療統計と疫学の基礎を学ぶ 統計ソフトウェアの EZR の使い方を学ぶ 1 単位 22 コマ 講義 10 コマ 演習 12 コマ 必要自習時間 3 時間						
主な講義場所 講義室での対面講義・PC を使った演習						
授業の目的、概要等						
授業目的 医療統計学・疫学の基礎を理解する。						
概要 医療統計学の基礎を理解し、実際に統計ソフトウェアで統計解析を行える。						
授業の到達目標 歯科・口腔保健分野の研究を実際に行うための医学統計知識・また疫学の基礎的な素養を身に着ける。コアカリキュラムは下記 B-4-1-① 疫学と根拠に基づいた医療<EBM>の概念を説明できる。 B-4-1-② スクリーニング検査を説明できる。 B-4-1-③ 歯科疾患の疫学的指標を説明できる。 B-4-2-① 確率変数とその分布、統計的推測(推定と検定)の原理と方法を説明できる。 B-4-2-④ 調査方法と統計的分析法を説明できる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-4	10/15	13:30-17:05	7号館3階歯学科講義室4	講義:医療統計学・疫学	質的変数、量的変数、推論、帰無仮説と検定、疫学の基礎など	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜
5-12	10/27	08:50-17:05	7号館3階歯学科講義室4	演習:EZR 解析	EZR の導入 EZR を用いた解析(記述統計、t 検定、分散分析、カイ二乗検定) EZR を用いた解析(回帰分析)	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜
13-14	10/28	10:45-12:25	7号館3階歯学科講義室4	講義:疫学研究	疫学研究	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜
15-18	11/4	08:50-12:25	7号館3階歯学科講義室4	演習:EZR 解析	疑似データを用いた仮説検証	相田 潤, 松山 祐輔, 石丸 美穂, 木内 桜

19-22	11/11	08:50-12:25	7号館3 階歯学科 講義室4	講義:文献検索とレポート作成	疫学研究の論文を読む	相田 潤 松 山 祐輔 石 丸 美穂 木 内 桜	
授業方法 科目担当者の講義・演習による。							
授業内容 別表のとおり。							
成績評価の方法 講義や演習中の課題への取り組みおよびレポートで評価を行う。							
成績評価の基準 講義や演習の出席および取り組み(50%)およびレポート(50%)で評価を行う。							
準備学習等についての具体的な指示 ・講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書を参照して事前に予習することを勧める。 ・講義中に演習を行うため、事前に統計ソフトウェア EZR 利用準備を個人所有の PC で行う必要がある。							
試験の受験資格 試験はない。							
構成ユニット 講義 3コマ PCを使った演習 12コマ							
モジュールの単位判定 レポートにより評価する。							
教科書 みんなの医療統計 : 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!／新谷, 歩,新谷歩著:講談社, 2016.3-2017.5 みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!／新谷, 歩,新谷歩著:講談社, 2017							
他科目との関連 社会と環境、予防と健康管理で出てきた研究論文を理解につながる科目です。							
履修上の注意事項 課されたレポート等は必ず提出すること。							

時間割番号	021f60						
科目名	医療情報学			科目ID			
担当教員	木下 淳博, 石丸 美穂, 相田 潤, 木内 桜, 松山 祐輔[KINOSHITA Atsuhiro, ISHIMARU Miho, AIDA Jun, KIUCHI Sakura, MATSUYAMA Yusuke]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	0.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
コマ数:12 授業形態:講義							
授業の目的、概要等							
日本における医療情報の基礎、システム、制度の概要を理解し、適切な診療を実施するための基本的業務を理解する。							
授業の到達目標							
1) 医療情報の特性を説明できる。 2) 医療情報における歯科の特性を説明できる。 3) 患者情報からの確な治療方針を立案し説明できる。 4) 守秘義務、医療情報のセキュリティ管理の重要性を説明できる。 5) 個人情報の適切な保護について説明できる。 6) プライバシーと個人情報の違いを説明できる。 7) 医療情報の開示に関する注意点を説明できる。							
コアカリ							
E-1-1) 診察の基本							
⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record)を説明できる。							
⑧インフォームド・コンセントを説明できる。							
⑨処方と処方箋の書き方を説明できる。							
F-1-1) 口腔内の診察・記録							
④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective,objective,assessment,plan)で診療録を作成できる。							
G-1-1) 臨床診断・治療計画							
③主観的所見、客観的所見、評価、計画による診療録及び指示書を作成できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/13	08:50-09:35	7号館3階歯学科講義室4	医療情報とは何か	医療情報の特徴について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報の特徴を理解する
2	10/13	09:45-10:30	7号館3階歯学科講義室4	医療情報システムの特徴と標準化 (外部講師)	医療情報システムの成り立ちと特徴、また医療情報の標準化について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報システムの成り立ちと特徴、また医療情報の特徴について理解する
3	10/13	10:45-11:30	7号館3階歯学科講義室4	医療情報の利活用 (外部講師)	医療情報がどのように利活用されているのかについて	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報が社会でどのように活用されているのか

[illegible]

相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

石丸 美穂:毎週水曜日 AM10:00-PM4:00 D 棟 10 階北 歯科公衆衛生学分野

先にメールの連絡をお願いします。

時間割番号	021f70				
科目名	基礎医歯学総合学習			科目ID	
担当教員	則武 加奈子[NORITAKE Kanako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
5年次に開始する臨床実習を円滑に進めるために必要な基本的な知識・技能・態度を復習する					
主な講義場所					
保存実習室、補綴実習室他					
授業の目的、概要等					
5年次に開始する臨床実習を円滑に進めるために必要な基本的な知識・技能・態度を復習する					
授業の到達目標					
下記に関する基本的な知識・技能・態度を修得する					
・初診患者の医療面接					
・口腔内状態の記録					
・手指消毒(衛生的手洗い・擦式消毒)と手袋の装着					
・ラバーダム防湿					
・概形印象採得					
・コンポジットレジン修復(単純窩洞)					
・支台歯形成					
・補綴前処置(レストシートの形成)					
・単純抜歯(滅菌手袋の装着と廃棄を含む)					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-2	11/30	08:50-10:30	7号館3階歯学科講義室4	オリエンテーション	海老原 新、 則武 加奈子、 駒田 亘
3-4	11/30	13:30-15:10	歯学部演習室	医療面接	城戸 大輔、 則武 加奈子
5-6	12/1	08:50-10:30	7号館5階歯学科実習室3	口腔内診察	土谷 洋輔
7-8	12/1	13:30-15:10	7号館3階歯学科実習室1	レストシートの形成	村上 奈津子
9-10	12/2	08:50-10:30	7号館3階歯学科実習室1	支台歯形成	大竹 志保
11-12	12/3	08:50-10:30	7号館5階歯学科実習室3	ラバーダム防湿	田澤 建人
13-14	12/3	13:30-15:10	7号館5階歯学科実習室3	手指消毒、手袋、抜歯	外内 えり奈
15-16	12/14	08:50-10:30	7号館5階歯学科実習室3	う蝕除去、CR 修復	田端 倫子

17-18	12/14	13:30-15:10	7号館3 階歯学科 実習室1	概形印象	副田 弓夏
19-20	12/15	08:50-10:30	7号館3 階歯学科 講義室4	まとめ	則武 加奈子

授業方法 実習形式で実施する
授業内容 ・初診患者の医療面接 ・口腔内状態の記録 ・手指消毒(衛生的手洗い・擦式消毒)と手袋の装着 ・ラバーダム防湿 ・概形印象採得 ・コンポジットレジン修復(単純窩洞) ・支台歯形成 ・補綴前処置(レストシートの形成) ・単純抜歯(滅菌手袋の装着と廃棄を含む)
成績評価の方法 授業での態度・出席状況をもとに判定する
準備学習等についての具体的な指示 これまでの他の臨床系科目における授業・実習の復習をよくしておくこと
試験の受験資格 本科目では試験は実施しない
モジュールの単位判定 全実習のうち4分の3以上の出席を必要とする。

時間割番号	021570						
科目名	咀嚼と嚥下のバイオロジー				科目ID	DD551602L	
担当教員	戸原 玄, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 山口 浩平, 稲次 基希[TOHARA Haruka, YOSHIMI Kanako, NAKAGAWA Kazuharu, YAMAGUCHI Kohei, INAJI Motoki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次		5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
旧カリ(D5) モジュール名課題統合セミナー、モジュール番号16、ユニット名咀嚼と嚥下のバイオロジー、ユニット番号2 双方向型の授業。 授業 9 回(7 号館歯学科講義室 5 および 4)、テスト 1 回(7 号館歯学科講義室 5)、合計 0.6 単位(ユニット内でテスト) 下記の書籍の事前学習が推奨されるが、授業後に当日の振り返りで資料を見直し、わからないところについては自習で調べる、もしくは備考欄に示す教員に質問するのが望ましい。							
主な講義場所							
7 号館講義室							
授業の目的、概要等							
咀嚼・嚥下に関する知識を統合理解し、歯科医療における位置付けを確認する。							
授業の到達目標							
1)咀嚼・嚥下に関わる構造を説明できる。A-3-2-4							
2)咀嚼・嚥下の機能を説明できる。A-3-2-10							
3)咀嚼・嚥下の神経制御機構を説明できる。A-3-2-10							
4)摂食・嚥下障害の病態を理解する。D-3-1-11-2							
5)摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。D-5-7-8、D-6-2-4、E-2-2-6、E-5-6-4							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/21	12:50-13:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	外来と訪問診療の違い	外来の歯科診療と訪問診療のちがいを学ぶ	山口 浩平	外来診療と訪問診療のアウトカムの違いを説明できる
2	5/21	13:50-14:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	フレイル・サルコペニアと嚥下障害	フレイル、サルコペニア、嚥下障害について学ぶ	山口 浩平	フレイルを説明できる サルコペニアを説明できる それらに起因する嚥下障害を説明できる
3	5/28	14:50-15:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	嚥下障害のアセスメント	嚥下障害のアセスメントを学ぶ	戸原 玄	テストではなく主としてフィジカルアセスメントについて説明できる
4	5/28	15:50-16:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	臨床研究の広がりを紹介	近年の臨床研究について学ぶ	戸原 玄	主として医工連携にはどのようなものがあるのかを説明できる
5	6/4	14:50-15:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	疾患・薬	嚥下障害に関連する疾患・薬を学ぶ	中川 量晴	嚥下障害に関連する疾患・薬を説明できる

6	6/4	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	成長・加齢	嚥下に関連する成長・加齢の影響を学ぶ	中川 量晴	嚥下に関連する成長・加齢の影響を説明できる
7	6/4	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	栄養・水分	嚥下に関連する栄養・水分を学ぶ	中川 量晴	必要な栄養量、水分量を説明できる
8	6/12	13:50-14:40	7号館3 階歯学科 講義室4	スクリーニングテスト・診断	スクリーニングテスト・診断を学ぶ	吉見 佳那子	スクリーニングテストを説明できる 診断を説明できる
9	6/12	14:50-15:40	7号館3 階歯学科 講義室4	嚥下訓練・口腔ケア	嚥下訓練・口腔ケアを学ぶ	吉見 佳那子	嚥下訓練を説明できる 口腔ケアを説明できる
10	6/18	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	テスト	試験	石井 美紀	筆記試験
11	6/29	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	追試験	追再試験	石井 美紀	筆記試験

授業方法

双方向の対話型講義を行う

授業内容

摂食嚥下に関連する解剖、脳血管疾患、認知症などの関連疾患、摂食嚥下の評価法、摂食嚥下の訓練や対処法、特に当分野で行っている摂食嚥下関連研究

成績評価の方法

試験は講義で扱った範囲から出題。

成績評価の基準

出席および最終授業で行う試験結果を用いて、総合的に判断する。

準備学習等についての具体的な指示

参考書を参照の上学習を準備する。

試験の受験資格

全授業のうち、3分の2以上出席

構成ユニット

ユニット番号2 咀嚼と嚥下のバイオロジー

モジュールの単位判定

当ユニットに関しては教室で試験を行う。

教科書

摂食嚥下リハビリテーション／才藤 栄一, 1955-, 植田 耕一郎, 1959-, 出江 紳一, 鎌倉 やよい, 1951-, 熊倉 勇美, 1947-, 才藤栄一, 植田耕一郎 監修, 出江紳一, 鎌倉やよい, 熊倉勇美, 弘中祥司, 藤島一郎, 松尾浩一郎, 山田好秋 編集: 医歯薬出版, 2016.9

参考書

咀嚼する脳：咀嚼運動をコントロールする脳・神経の仕組み／中村嘉男 著, 中村 嘉男, 1933-, : 医歯薬出版, 2005

摂食・嚥下と誤嚥のメカニズム／里田隆博, 戸原玄 監修, 里田 隆博, 戸原 玄, : 医歯薬出版, 2013

他科目との関連

嚥下関連の授業は病態科学演習と長寿口腔健康科学コースにもある。病態科学演習では嚥下の臨床と基礎を結びつける内容を紹介、咀嚼と嚥下のバイオロジーではより知識を深めるための臨床的な知識を学び、長寿口腔健康科学コースでは発展的に摂食嚥下関連の知識を応用する演習を行う。

履修上の注意事項

卒後専門的に摂食嚥下を学ぶもののみならず、一般歯科臨床でも摂食嚥下に関連する知識を持ち合わせることは重要であるので、双方向の講義中には積極的に発言するようにしてください。

備考

オフィスアワーは随時。メールで確認。

戸原玄:h.tohara.swal@tmd.ac.jp

山口 浩平:yanma627@yahoo.co.jp

双方向の対話型、もしくは参加型の講義を行う。

学生のアンケートからは双方向の講義がよいとの意見があったため、引き続きアクティブラーニングを心掛けて双方向型の講義を行う。

参照ホームページ

<http://www.swallowing.link/>

連絡先(メールアドレス)

戸原 玄:h.tohara.swal@tmd.ac.jp

オフィスアワー

戸原 玄:随時(ただし必ず事前に連絡のこと)10号館5階 戸原教授室

時間割番号	021568						
科目名	ことばの世界				科目ID	DD551603L	
担当教員	服部 麻里子, 正木 啓太, 村瀬 舞, 荒井 隆行, 隅田 由香, Mahmoud ELBASHTI[HATTORI Mariko, MASAKI Keita, MURASE Mai, ARAI Takayuki, SUMITA YUKA, MAHMOHD Elbashti]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
課題統合セミナーは一つのテーマに沿ってさまざまな側面からの知識の整理を行い, より深く理解することを目的とする。 モジュール名:課題統合セミナー ユニット名:ことばの世界 ユニットコマ数:7+1 必要自習時間:3 授業形態:対面 ユニット番号:03							
主な講義場所 講義と演習は対面で行う。 試験は講義室にて行う。							
授業の目的、概要等 ことばの世界では, 臨床で必要とされる「ことばに関する訴え」に対する解決策を探る。 これまで解剖学や生理学で学んできた知識を臨床に応用することを想定し, 基礎知識の確認, 音響学, そして臨床での解決までを学ぶ。 学習目標(GIO): 歯科診療における発声と発語について理解する。							
授業の到達目標 到達目標(SBOs): 1)発声・発語に関連する解剖学の知識を整理する 2)発声・発語の生理学と音響学について知る 3)歯科に関係する発声・発語について理解する 4)発声・発語の評価について理解し, 実践できる 5)言語訓練について知り, 言語治療における歯科医師の役割を理解する 関連するコアカリ学習目標 E-2-2)-⑧構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。 E-2-4)-(11)-③発音・構音・発語障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 E-3-4)-(2)-①歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 A-5-1)-①患者中心のチーム医療の意義を説明できる。 A-5-1)-③保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/16	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	1.発声・発語の解剖学	講義, 演習	隅田 由香	発声・発語を解剖学的に説明できる
2	4/16	13:50-14:40	7号館5階歯学科講義室5	2.発声・発語の音響学	講義, 演習	荒井 隆行	発声・発語の生理学と音響学について理解できる
3	4/23	12:50-13:40	7号館5	3.歯科と発声・発語	講義, 演習	服部 麻里子	歯科に関係する

			階歯学科 講義室 5				発声・発語について説明できる
4	4/23	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	4.発声・発語の評価	講義, 演習	村瀬 舞	発声・発語の評価について理解し, 実践できる
5	5/7	11:00-11:50	7号館 5 階歯学科 講義室 5	5. 言語訓練	講義, 演習	正木 啓太	言語訓練について知り, 言語治療における歯科医師の役割がわかる
6	5/7	12:50-13:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	6.まとめ	講義	服部 麻里子	ことばについての歯科医師の役割を説明できる
7	5/7	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	7.演習	演習	服部 麻里子, Elbashti Mahmoud Ellarousi	ことばについての歯科医師の役割を説明し, ことばの分析を実践できる
8	6/12	16:50-17:40	7号館 3 階歯学科 講義室 4	試験		服部 麻里子, 村瀬 舞, 正 木 啓太	

授業方法

講義と演習

授業内容

- 1.発声・発語の解剖学
- 2.発声・発語の音響学
- 3.歯科と発声・発語
- 4.発声・発語の評価
- 5.言語訓練
- 6.発声・発語のまとめ 実習
- 7.ことばの世界 演習

成績評価の方法

講義への取り組みと演習への取り組み, 筆記試験の結果を総合的に評価する.

準備学習等についての具体的な指示

以下のホームページを読み, 動画を見ておくこと.

https://splab.net/vocal_tract_model/ja/

試験の受験資格

全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

構成ユニット

01 咀嚼と嚥下のバイオロジー

02 骨のバイオロジー 03 ことばの世界 04 オクルージョン 05 歯科と色 06 口唇裂口蓋裂 07 全人的総合診断
モジュールの単位判定 本モジュールは、複数学年にまたがるモジュールなので、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。 モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。
教科書 顎顔面補綴の臨床：咀嚼・嚥下・発音の機能回復のために／大山喬史、谷口尚 編、大山、喬史、1939-、谷口、尚、1952-、医学情報社、2006 国試合格力養成補綴歯科学の要点と解説／下山和弘、羽村章編著、下山、和弘、羽村、章、医歯薬出版、2020 イラスト顎顔面解剖学／松村譲児、島田和幸編著、松村、譲児、島田、和幸、中外医学社、2012 口腔・中咽頭がんのリハビリテーション：構音障害、摂食・嚥下障害／溝尻源太郎 編著、熊倉勇美 編著、溝尻源太郎、熊倉勇美、医歯薬出版、2004 JOHNS37 巻 5 号 2021 年 5 月号 口腔癌診療の最前線／「JOHNS」編集委員会、東京医学社、2021 https://www.fofr.org/beumers-maxillofacial-rehabilitation/
参考書 Maxillofacial rehabilitation／John Beumer: quintessence, 2011 図解言語聴覚療法技術ガイド／深浦順一 編集主幹、長谷川賢一、立石雅子、佐竹恒夫 編集委員、文光堂、2014 言語聴覚士に必要な歯科の知識／植松宏 監修、谷口尚、片倉伸郎、大野友久、隅田由香 著、インテルナ出版、2007 口腔顎顔面領域の異常と言語障害：器質性構音障害治療のポイント／伊東節子 編著、医歯薬出版、2001 口腔・中咽頭がんのリハビリテーション：構音障害、摂食・嚥下障害／溝尻源太郎 編著、熊倉勇美 編著、医歯薬出版、2004 音声 = Speech／滝口哲也 編著、有木康雄 [ほか] 共著、滝口、哲也、有木、康雄、鍋木、時彦、戸田、智基、南角、吉彦、藤本、雅晴、木下、慶介、日本音響学会、コロナ社、2021 口蓋帆・咽頭閉鎖不全：その病理・診断・治療／舘村卓著、舘村、卓、医歯薬出版、2012 国試合格力養成補綴歯科学の要点と解説／下山和弘、羽村章 編著、医歯薬出版、2020 プロソドンティックス、末永書店、2020 音とことばのふしぎな世界：メイド声から英語の達人まで／川原繁人著、川原、繁人、岩波書店、2015 JOHNS38 巻 12 号 2022 年 12 月号 チームで支える頭頸部癌診療 顎顔面補綴の立場から 隅田由香 1599-1604 東京医学社出版 出版年 2022 年
備考 各授業でアクティブラーニングを取り入れる。演習を行う。
参照ホームページ 上智大学荒井教授の HP http://www.splab.net/
連絡先(メールアドレス) 服部 麻里子:sasamfp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 服部 麻里子、随時(teams か slack のメッセージにて面談の日程を調整すること)D 棟 11 階生体補綴歯科学分野第 3 研究室

時間割番号	021569						
科目名	オクルージョン				科目ID	DD551604L	
担当教員	小野 卓史, 松本 芳郎, 岩本 勉, 上阪 直史, 服部 麻里子, 武智 正樹, 駒ヶ嶺 友梨子, 細道 純[ONO Takashi, MATSUMOTO Yoshiro, IWAMOTO Tsutomu, UESAKA Naofumi, HATTORI Mariko, TAKECHI Masaki, KOMAGAMINE Yuriko, HOSOMICHI Jiyun]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次		5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
コマ数:6+1(必要自習時間3時間) 授業形態:講義 ユニット番号:04							
主な講義場所 講義室 2(7 号館 2 階) 一部は遠隔(非同期)							
授業の目的、概要等 一般目標(GIO): 咬合に関する知識を整理し、人の一生とともに俯瞰的に理解する。							
授業の到達目標 個別行動目標(SBOs): 1)乳歯の正常な萌出ならびに異常とそれに関与する因子を説明できる。E-2-2), E-2-3), E-4-1), E-4-2) 2)乳歯列から混合歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。E-2-3), E-4-1), E-4-2) 3)混合歯列から永久歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。E-2-3), E-4-1), E-4-2) 4)生理学的観点から咬合の重要性を説明できる。E-2-1) 5)咬合の維持ならびに崩壊に関与する因子を説明できる。E-2-4)-(11) 6)咬合と全身機能との関係を説明できる。E-5-1) 7)咬合治療におけるチームアプローチの重要性を具体的に述べることができる。E-2-4)-(1), E-2-4)-(11), E-3-4)-(2), E-5-1)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/26	15:50-16:40	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	歯列弓の形態と正常咬合	歯列弓の形態と正常咬合	武智 正樹	歯列弓の形態と正常咬合を説明できる
2	5/26	16:50-17:40	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	咬合の生理学	咬合の生理学	上阪 直史	生理学的観点から咬合の重要性を説明できる。
3	6/4	12:50-13:40	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	乳歯列の咬合	乳歯列の咬合	岩本 勉	乳歯の正常な萌出ならびに異常とそれに関与する因子、乳歯列から混合歯列への正常な移行とその阻害因子を説明できる。
4	6/4	13:50-14:40	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	顎欠損・舌欠損患者の咬合回復	顎欠損・舌欠損患者の咬合回復	服部 麻里子	咬合治療におけるチームアプローチの重要性を

							具体的に述べる ことができる。
5	6/11	12:50-13:40	遠隔授業 (非同期 型)	混合歯列から永久歯列 へ	混合歯列から永久歯列へ	松本 芳郎	混合歯列から永 久歯列への正常 な移行とその阻 害因子を説明で きる。
6	6/11	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	高齢者の咬合回復	高齢者の咬合回復	駒ヶ嶺 友梨 子	咬合と全身機能と の関係、咬合の 維持ならびに崩 壊に関与する因 子を説明できる。
7	6/18	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	筆記試験	客観的試験、論述試験による総括 的評価	小野 卓史	
8	7/2	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5		追再試験	小野 卓史	

授業方法

講義室での対面講義が主であるが、一部は、遠隔講義(非同期) であるため、講義日程の詳細を確認すること。

授業内容

授業明細を参照のこと

成績評価の方法

授業における課題レポート、ユニット最終回の筆記試験により総括的評価を行う。

成績評価の基準

本ユニットに関する十分な理解が得られていること。

具体的には、ユニット試験の成績に出席状況を加味した総合点で6割以上を取得すること。

準備学習等についての具体的な指示

準備学習として、指定教科書を熟読すること。

試験の受験資格

全授業時間のうち、3分の2以上出席していなければならない。

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

構成ユニット

O4 オクルージョン

モジュールの単位判定

1. 東京科学大学試験規則に基づく。
2. 筆記試験による評価とともに、AL(講義後のリアクションペーパーの提出)および平常学習態度等が評価に加味される。

教科書

国試合格力養成補綴歯科学の要点と解説／下山和弘、羽村章編著、下山、和弘、羽村、章：医歯薬出版、2020

- ・咀嚼運動の生理学(中村嘉男、医歯薬出版、1998)
- ・テキストブック オクルージョン(Mohl/Zarb/Carlsson/Rugh 共著、藍稔訳、クインテッセンス、1993)
- ・入門咬合学(古谷野潔ほか、補綴臨床 Practice Selection、医歯薬出版)
- ・新編咬合学辞典(保母須美也、クインテッセンス出版)
- ・歯科技工別冊・図解咬合の基礎知識(五十嵐孝義・田村勝美、医歯薬出版)
- ・オクルージョン・咬合治療の理論と臨床(覚道幸男・三谷春保・碑田豊治、医歯薬出版)
- ・スポーツ歯学の臨床(大山喬史、医学情報社)
- ・顎顔面補綴の臨床(大山喬史・谷口尚、医学情報社)
- ・スポーツ歯科臨床マニュアル(日本スポーツ歯科医学会編、医学情報社)

・Clinical Management of Head, Neck and TMJ Pain and Dysfunction (Gelb H, WB Saunders, 1985)

・New Concepts in Craniomandibular and Chronic Pain Management (Gelb H, Mosby-Wolfe, 1994)

備考

1)試験の受験資格を喪失しないように、体調管理に十分留意するとともに、出欠には余裕をもって各講義に臨んで下さい。

2)前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

MC 小野 卓史 tono.orts@tmd.ac.jp

副 MC 細道 純 hosomichi.orts@tmd.ac.jp

時間割番号	021519						
科目名	歯科と色				科目ID	DD551605L	
担当教員	服部 麻里子, 瀧田 美奈, 平石 典子, 稲川 英明, 山城 正司[HATTORI Mariko, TAKITA Mina, HIRAISHI Noriko, INAGAWA Hideaki, Masashi Yamashiro]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
課題統合セミナーは一つのテーマに沿ってさまざまな側面からの知識の整理を行い, より深く理解することを目的とする。 モジュール名:課題統合セミナー ユニット名:歯科と色 ユニットコマ数:6+1 必要自習時間:2 授業形態:対面 ユニット番号:05							
主な講義場所 講義と演習は対面で行う。 試験は講義室にて行う。							
授業の目的、概要等 歯科診療における色の効果について理解する。 色についての基本的な知識を習得するとともに、歯科保存治療、補綴歯科治療、口腔外科治療等における色の関りについて理解する。 学習目標(GIO): 歯科診療における色の効果について理解する。							
授業の到達目標 到達目標(SBOs): 1)色の基本的性質について説明できる。 2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/7	14:50-15:40	7号館5階歯学科講義室5	色の基本	講義, 演習	服部 麻里子	1)色の基本的性質について説明できる。
2	4/7	15:50-16:40	7号館5階歯学科講義室5	口腔粘膜と色	講義	山城 正司	2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。
3	4/14	14:50-15:40	7号館5階歯学科	保存修復における色	講義	平石 典子	2)口腔および顎顔面の色の特徴

			講義室 5				について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。
4	4/14	15:50-16:40	7号館5階歯学科講義室 5	歯内治療と歯の変色	講義	稲川 英明	2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。
5	4/22	16:50-17:40	7号館5階歯学科講義室 5	間接法歯冠修復における色	講義	瀧田 美奈	2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。
6	4/22	17:50-18:40	7号館5階歯学科講義室 5	顎顔面補綴における色	講義, 演習	服部 麻里子	2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。
7	5/28	16:50-17:40	7号館5階歯学科講義室 5	試験		服部 麻里子	1)色の基本的性質について説明できる。 2)口腔および顎顔面の色の特徴について説明できる。 3)口腔および顎顔面の治療における色の果たす役割を説明できる。

授業方法

講義と演習

授業内容

1. 色の基本
2. 口腔粘膜と色
3. 保存修復における色
4. 歯内治療と歯の変色
5. 間接法歯冠修復における色
6. 顎顔面補綴における色

成績評価の方法 講義・演習への取り組み、筆記試験の結果を総合的に評価する。
準備学習等についての具体的な指示 下記のホームページに目を通したうえで、講義に臨むこと。 https://www.konicaminolta.jp/instruments/knowledge/color/
試験の受験資格 全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。 受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
構成ユニット 01 咀嚼と嚥下のバイオロジー 02 骨のバイオロジー 03 ことばの世界 04 オクルージョン 05 歯科と色 06 口唇裂口蓋裂 07 全人的総合診断
モジュールの単位判定 本モジュールは、複数学年にまたがるモジュールなので、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。
参考書 歯の色の話／日本歯科色彩学会 編著、クインテッセンス出版、1999 Fundamentals of color Shade matching and communication in esthetic dentistry 2nd ed／S.J.Chu, A 他、Quintessence、2010 これで納得!デンタルホワイトニング : Dental Whitening 101／加藤純二、金子潤、大槻昌幸、守矢佳世子 編著、医歯薬出版、2012 ホワイトニング&プリベンション : 「白い歯」からはじまるカリエスフリー時代の臨床アドバイス 10／椿智之 著、クインテッセンス出版、2011 歯科審美学 = Esthetic dentistry／日本歯科審美学会 編、日本歯科審美学会、永末書店、2019 ホワイトニング New Generation／宮崎真至 編著、医歯薬出版、2022
備考 各授業でアクティブラーニングを取り入れる。演習とグループディスカッションを行う。
連絡先(メールアドレス) 服部 麻里子:sasamfp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 服部 麻里子:随時(teams か slack のメッセージにて面談の日程を調整すること)D棟11階生体補綴歯科学分野第3研究室

時間割番号	021520						
科目名	口唇口蓋裂				科目ID	DD551606L	
担当教員	小川 卓也, 井関 祥子, 落合 聡, 米満 郁男, 正木 啓太, 服部 麻里子, 加持 秀明[OGAWA Takuya, ISEKI Sachiko, OCHIAI Satoru, YONEMITSU Ikuo, MASAKI Keita, HATTORI Mariko, KAMOUCHI Hideaki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次		5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール名:課題統合セミナー コマ数:9+0(必要自習時間:2時間) 授業形態:講義 ユニット番号:06							
主な講義場所 新7号館 5F_歯講義室5 講義室での対面講義が主であるが、一部は遠隔講義(非同期)であるため、講義日程の詳細を確認すること。							
授業の目的、概要等 口唇口蓋裂の病態ならびに治療法を理解する。							
授業の到達目標 1) 口唇口蓋裂の発生と成因を説明できる。C-5-1), E-2-3), E-2-4)-(1) 2) 口唇口蓋裂患者の言語の問題を述べることができる。E-2-4)-(11) 3) 各時期における外科治療について述べることができる。E-2-4)-(1) 4) 顎発育障害および咬合不全に対する治療体系を説明できる。E-2-4)-(1), E-2-4)-(11) 5) 口唇口蓋裂のチームアプローチの重要性を述べることができる。A-5-1)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/2	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	口唇口蓋裂の発生と成因	講義	井関 祥子	口唇口蓋裂の発生と成因を説明できる。
2	6/2	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	口唇口蓋裂の外科治療1(出生直後から口唇・口蓋形成術まで)	講義	加持 秀明	各時期における外科治療について述べることができる。
3	6/2	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	口唇口蓋裂の外科治療2(幼児期から成人期まで)	講義	加持 秀明	各時期における外科治療について述べることができる。
4	6/3	15:50-16:40	7号館5階歯学科講義室5	口唇口蓋裂の言語治療	講義・演習	正木 啓太	口唇口蓋裂患者の言語の問題を述べることができる。
5	6/3	16:50-17:40	7号館5階歯学科講義室5	口唇口蓋裂の矯正治療1(幼児期・学童期まで)	講義・演習	米満 郁男	顎発育障害および咬合不全に対する治療体系を説明できる。
6	6/3	17:50-18:40	遠隔授業(非同期型)	口唇口蓋裂の矯正治療2(青少年期から成人まで)	講義	小川 卓也	顎発育障害および咬合不全に対する治療体系を

							説明できる。
7	6/9	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	口唇口蓋裂児が出生し た時に	講義	落合 聡	顎発育障害およ び咬合不全に対 する治療体系を 説明できる。
8	6/9	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	口唇口蓋裂の補綴治療	講義・演習	服部 麻里子	口唇口蓋裂患者 に対する補綴治 療について説明 できる。
9	6/9	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	口唇口蓋裂の矯正治療 2(青少年期から成人ま で)・まとめ	講義・演習	小川 卓也	顎発育障害およ び咬合不全に対 する治療体系を 説明できる。口 唇口蓋裂のチー ムアプローチの 重要性を述べる ことができる。
授業方法 対面ならびに非同期にて実施する。							
授業内容 授業明細を参照のこと。							
成績評価の方法 出席ならびにレポートによる総括的評価を行う。							
成績評価の基準 出席ならびにレポートによる総括的評価を行う。							
準備学習等についての具体的な指示 口唇口蓋裂についての講義を理解するために、事前に参考図書の関連領域を熟読しておくことが望ましい。							
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。							
構成ユニット 口唇口蓋裂の発生と成因 口唇口蓋裂の外科治療 口唇口蓋裂の矯正歯科治療 口唇口蓋裂の補綴治療 口唇口蓋裂の言語治療 口唇口蓋裂のチーム医療							
教科書 歯科矯正学／後藤、滋巳、1952-齋藤、功、歯学、西井、康、榎、宏太郎、森山、啓司、山城、隆、後藤滋巳 [ほか] 編集、新井一仁 [ほか] 執筆： 医歯薬出版、2024.9							
参考書 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床／高橋庄二郎 著、：日本歯科評論社、1996 アトラス顎顔面矯正：顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療／黒田敬之 監修、大山紀美栄、本橋信義、鈴木聖一 編、黒田、敬之、1936-、大山、 紀美栄、1940-、本橋、信義、1948-鈴木、聖一、1954-、：医歯薬出版、2002							
他科目との関連 発生学、小児歯科学、口腔外科学、歯科矯正学ならびに歯科補綴学との関連あり。							
履修上の注意事項 課されたレポートは、合否判定に使用するため必ず提出すること。							

備考

一部のユニット授業においては、AL(演習)を行う。

前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

小川卓也 t-ogawa.mort@tmd.ac.jp

オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

連絡先(メールアドレス)

小川 卓也:t-ogawa.mort@tmd.ac.jp

加持 秀明:kamochi.hideaki@tmd.ac.jp

井関 祥子:s.iseki.emb@tmd.ac.jp

服部 麻里子:sasamfp@tmd.ac.jp

オフィスアワー

小川 卓也オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

加持 秀明:<時間>

毎週水曜日 PM.0:00-13:00

毎週木曜日 PM.16:00-18:00

<場所>

10号館6階 顎顔面外科学分野教授室

井関 祥子:随時 (必ず事前に連絡すること)

服部 麻里子:随時(teams か slack のメッセージにて面談の日程を調整すること)D棟11階生体補綴歯科学分野第3研究室

時間割番号	021521						
科目名	全人的総合診断				科目ID	DD551607L	
担当教員	新田 浩, 西山 暁, 曹 日丹, 則武 加奈子[NITTA Hiroshi, NISHIYAMA Akira, CAO Ridan, NORITAKE Kanako]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次		5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール番号: 16 ユニット授業: 講義:7コマ 実習:11 コマ(グループローテーション演習・実習) 試験:1コマ							
主な講義場所 1号館西6階演習室他							
授業の目的、概要等 ＜講義＞ 口腔内診察の基本を理解するとともに、与えられた患者医療情報を全人的・総合的に分析することにより、正しい診断、治療法の選択、治療計画の立案について理解する。 ＜グループローテーション演習・実習＞ 口腔内検査相互実習、医療面接演習、治療計画の立案演習を通して、包括臨床実習に繋がる全人的総合診断の態度と技能の基本を修得する。							
授業の到達目標 1) 患者医療情報を正しく収集できる。 2) 口腔内診察の基本が正しく実施できる 3) 患者医療情報を分類する。 4) 患者医療情報から正しい診断を行う。 5) 診断から治療法が選択できる。 6) 患者中心の治療計画が立案できる。							
コアカリ番号:、F-1-1)-①②③、F-1-2)-①②③④ F-2-1)-①②③④⑤⑥、F-2-2)-⑫							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/5	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	本授業の説明・「診断」について			講義
2	6/5	13:50-14:40	7号館5階歯学科講義室5	「医療面接」について			講義
3	6/5	14:50-15:40	7号館5階歯学科講義室5	「治療計画」について			講義
4-6	6/5	15:50-18:40	7号館5階歯学科講義室5	治療計画立案		城戸 大輔	実習
7	6/9	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	「基本的診察法」について			講義
8-11	6/9	13:50-17:40	7号館3	医療面接／口腔内診察	2グループに分かれて実施		実習

			階歯学科 実習室 1				
12	6/9	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期 型)	非同期講義			講義(動画)
13-16	6/10	12:50-16:40	7号館3 階歯学科 実習室 1	医療面接／口腔内診察	2グループに分かれて実施		実習
17	6/10	16:50-17:40	遠隔授業 (非同期 型)	非同期講義			
18	6/10	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期 型)	非同期講義			講義(動画)
19	6/18	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室 5		試験		
20	6/29	12:50-13:40	7号館3 階歯学科 講義室 4		追再試験		

授業方法

講義:7コマ、実習:11コマ

講義は原則1コマ:50分授業 10分休憩

実習は治療計画立案演習は全員で(3コマ)、医療面接、口腔内診察に関しては2班に分けてローテーション演習・実習を実施する(各4コマ)。

授業内容

【講義】

全人的総合診断基本:診断とは、基本的診察法、医療面接、

全身的総合診断応用:歯周疾患と歯内治療、欠損と補綴、う蝕と審美、治療方針・治療計画

【実習】

口腔内診察実習、医療面接実習、治療計画立案実習

成績評価の方法

・プレテスト、ポストテストの成績は最大25点とし、筆記試験は75点満点とする。筆記試験には英語問題も出題する。

・授業・演習・実習中の平常点、およびユニット最後の筆記試験(2025年6月19日)により総括的に評価する。

成績評価の基準

平常点と筆記試験の合計点数(100点満点)が60点以上の学生は合格とする。

60点未満の場合は再試験とする。

再試験は100満点とし、60点以上を合格とする。再試験には平常点は加算しない。不合格者は次年度再履修とする。

準備学習等についての具体的な指示

必要自習時間 11時間:5年前期までに履修した臨床系科目のまとめ的な授業であるので、歯科的疾患に関する知識(疾患名、病態、鑑別診断、検査法、治療法など)と歯科疾患に関係している全身疾患に関する知識(疾患名、病態、歯科との関連など)についての再確認をしておくこと。

試験の受験資格

・モジュール全体の全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。

・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

・3コマ(もしくは4コマ)連続の授業開始前にプレテスト、終了後にポストテストを実施する。

プレテスト、ポストテストの両方が揃っている学生は出席3コマ、どちらか一方のみは出席1コマの扱いとする。

グループローテーション演習・実習の出席は開始時に行う。出席確認時に不在の学生は欠席扱いとするが、演習・実習への参加は認め

る。ただし理由なく 30 分以上遅刻した場合は、当該演習・実習への参加を認めず、後日補習とする。	
構成ユニット 本モジュールにユニットはない。	
モジュールの単位判定 講義、グループローテーション演習・実習中の平常点、およびユニット最後の筆記試験(2025 年 6 月 19 日)により総合的に評価し、合格した場合に単位認定とする。	
教科書 見逃しケースのなぜを解く！ 歯科診断スキルアップ実践ガイド：落とし穴を回避して主訴の解決に導く手順とポイント／礪波健一 著・文・その他礪波健一 編集、則武加奈子 著・文・その他則武加奈子 編集、梅森 幸 著・文・その他梅森 幸 編集、新田 浩 著・文・その他新田 浩 編集、小田 茂 著・文・その他小田 茂 編集、荒木孝二 著・文・その他荒木孝二 編集、礪波健一、則武加奈子、梅森 幸、新田 浩、小田 茂、荒木孝二、クインテッセンス出版, 2021-02-10	
参考書 人間学入門：医療のプロをめざすあなたに／日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会／準備教育小委員会 編：南山堂, 2009 学生のための医療概論／千代豪昭, 黒田研二 編：医学書院, 2010 歯科医療のおもしろさ：後輩たちへ贈る 28 のドラマ／橋本光二, 升谷滋行, 飯野文彦 編：口腔保健協会, 2013 歯科臨床イヤーノート = Year note of dental practice／住友雅人, 木下淳博, 沼部幸博, 松村英雄 編：クインテッセンス出版, 2013 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療：歯科医療につながる医学知識／小谷順一郎, 田中義弘 編集主幹、足立了平, 河合峰雄, 佐久間泰司, 民田浩一 編：永末書店, 2008 口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則, 高戸毅 監修、飯田順一郎, 伊藤公一, 岡野友宏, 木村博人, 小谷順一郎, 齊藤力, 佐々木啓一, 白砂兼光, 須田英明, 丹沢秀樹, 前田健康, 山根源之, 山本浩嗣 編集：朝倉書店, 2013 医療者の心を贈るコミュニケーション：患者さんと一緒に歩きたい／日下隼人著、日下 隼人：医歯薬出版, 2016 日常診療の中で学ぶプロフェッショナリズム／WENDY LEVINSON, SHIPHRA GINSBURG, FREDERIC W. HAFFERTY, CATHERINE R. LUCEY [著]、宮田靖志, 小泉俊三 監訳、Levinson, Wendy S, Ginsburg, Shiphra, Hafferty, Frederic W., 1947-, 宮田, 靖志, 小泉, 俊三, 1946-, カイ書林, 2018 実践クリティカル・シンキングのすすめ：探究・臨床力をアップする EBM の学び方と活用ポイント／八重垣健 監著、八重垣 健：クインテッセンス出版, 2009	
履修上の注意事項 グループローテーション演習・実習を休んだ場合は補習を必要とする。補習を受けなかった場合は総括評価を保留とする。	
備考 前年度履修学生の科目評価の、非同期講義の受講時間に関する指摘をもとに、受講時間を明確に学生に周知する予定 本ユニットの出席確認の方法は初回授業時に詳細を説明する。 演習・実習・グループワークによるアクティブラーニングを実施する。 本実習全体に関する指導担当者のオフィスアワー：まずはメールにて問い合わせ、アポをとること 新田 浩：nitta.behd(@)tmd.ac.jp 則武加奈子：noritake.irm(@)tmd.ac.jp ※E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えてください。	
参照ホームページ 必要実習時間 11 時間：5 年前期までに履修してきた臨床系科目のまとめた授業であるので、歯科的疾患に関する知識(疾患名、病態、鑑別診断、検査法、治療法など)と歯科疾患に関係している全身疾患に関する知識(疾患名、病態、歯科との関連など)についての再確認をしておくこと。	
連絡先(メールアドレス) 新田 浩：nitta.behd@tmd.ac.jp	
オフィスアワー 新田 浩：毎週 月・水・木曜日 PM.5:00-6:00 歯科棟北 11 階 教室	

時間割番号	021591				
科目名	選択コース1ーA:海外留学と海外協力			科目ID	DD331700L
担当教員	渡邊 裕[WATANABE Hiroshi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3～5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
モジュール名:学年混合選択セミナー コマ数:5+0 必要自習時間:5 授業形態:講義 ユニット番号:01					
主な講義場所 ・講義は1 回目、2 回目、3 回目を非同期動画視聴にて、4 回目は講義室にて、5 回目を Zoom によるオンライン講義および討論にて行います。					
授業の目的、概要等 歯科医学領域における海外留学の意義を理解すると共に、海外協力に関する知識を修得する。					
授業の到達目標 1) 海外留学することの成果について説明できる。 2) 世界各国における歯科研究の特徴について説明できる。 3) 歯科領域における海外協力の実際について説明できる。 4) 世界各国における歯科研究の特徴について説明できる。 5) 歯科領域における海外協力の実際について説明できる。 歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度版において、 A-1 プロフェッショナリズム、 A-2 医学知識と問題解決能力 A-7 社会における医療の実践 A-8 科学的探究 A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 に該当。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/9	14:50-15:40	オンデマンド	海外留学の薦め1(臨床編)	渡邊 裕 西村 賢市
2	4/9	15:50-16:40	オンデマンド	海外留学の薦め1(研究編)	渡邊 裕 片桐 さやか
3	4/16	14:50-15:40	オンデマンド	歯科医師の海外協力	渡邊 裕 高田 恒彦
4	4/16	15:50-16:40	7号館2階歯学科講義室2	自衛隊による海外歯科医療支援活動	渡邊 裕 山田 毅
5	4/23	14:50-15:40	ライブ	東南アジアの歯科事情	渡邊 裕 ワーマン ナドニチャー
授業方法 ・講義は1 回目、2 回目、3 回目を非同期動画視聴にて、4 回目は講義室にて、5 回目を Zoom によるオンライン講義および討論にて行います。					
授業内容 授業日程の通りですが、海外留学の薦めとして臨床編と研究編、歯科医師の海外協力、自衛隊による海外歯科医療支援活動、東南アジ					

アの歯科事情として、各経験をお持ちの先輩方に講義をしていただきます。
成績評価の方法 ・レポートによる総括的評価を行う。
準備学習等についての具体的な指示 ・講義のテーマは広範にわたります。自身の興味のある分野について、あらかじめ知見を深めておくことをお勧めします。
試験の受験資格 ・試験の受験資格として、出席日数は扱わない。(原則として出席すること) ・期日までの設定課題提出を成績評価対象とする。設定課題については、必ず、実施・提出を行うこと。不足がある場合は、ユニット未履修とする。
履修上の注意事項 ・以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。
備考 ・ユニット授業においては、AL(フリーディスカッション)を行う。 ・前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。 ・科目責任者:渡邊 裕 オフィスアワー(火木午前、水午後) 連絡先:hiro.orad@tmd.ac.jp

時間割番号	021592			科目名	選択コース1ーB:研究論文作成・特許取得	科目ID	DD331701L
担当教員	中禮 宏[CHUREI Hiroshi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3～5				
実務経験のある教員による授業	該当する					授業形態	メディア利用科目
モジュール名:学年混合選択セミナー コマ数:5 授業形態:講義 ユニット番号:01							
主な講義場所 WebClass での講義							
授業の目的、概要等 学会発表や論文発表においてすぐれた評価を受けた研究を知り、受賞や特許取得の意義を討論し、理解する。							
授業の到達目標 1)研究発表における受賞の意義を説明できる。 2)独創的研究、先端医療技術について説明できる。 3)特許取得制度とその出願方法について説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)	特許取得の意義と制度	特許取得の意義と制度についての講義 (学外所属の当大学非常勤講師からの講義)	中禮 宏	Web 映像 自習 ライブでの出欠はとらない
2	4/9	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)	産学連携	産学連携についての講義 (学外所属の当大学非常勤講師からの講義)	中禮 宏	Web 映像 自習 ライブでの出欠はとらない
3	4/16	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)	独創的研究・先端医療技術-1	光エネルギー(レーザー)を用いた新しい歯周治療法法の開発とその確立	青木 章	Web 映像 自習 ライブでの出欠はとらない
4	4/16	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)	独創的研究・先端医療技術-2	研究から技術応用まで(癌小線源治療など)	渡邊 裕	Web 映像 自習 ライブでの出欠はとらない
5	4/23	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	研究論文作成・特許取得-まとめ	複数グループにてまとめ作業	中禮 宏	Web にて集団学習 Live で出欠取ります
授業方法 動画配信講義							
授業内容 1)特許取得の意義と制度 2)産学連携 3)独創的研究・先端医療技術-1 4)独創的研究・先端医療技術-2 5)研究論文作成・特許取得-まとめ							
成績評価の方法 ・成績点とレポートによる総括的評価を行う。							
準備学習等についての具体的な指示 ・歯科領域で利用されている器材で、すでに特許となっている新技術について調べておく。							

・自分が将来どのような発明(研究)をしたら、歯科臨床に役立つのか創案する。
試験の受験資格 ・期限までに5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
モジュールの単位判定 出席点+レポート提出
履修上の注意事項 ・以前にこのユニットを受講した学生は選択できません。
備考 モジュール(科目)責任者の氏名 中禮 宏 オフィスアワー 月一木 8:30-17:15 連絡先(メールアドレス) chu.spmc@tmd.ac.jp

時間割番号	021624						
科目名	選択コース 1-F: 自分らしいキャリアを創るには ～男女で考えるキャリアデザイン①～				科目ID		
担当教員	栗林 亜実[KURIBAYASHI Ami]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次		3～5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	メディア利用科目	
モジュール名:学年混合選択セミナー ユニット名:選択コース 1-F 自分らしいキャリアを創るには～男女で考えるキャリアデザイン①～ ユニット責任者:栗林亜実 ユニット番号:01 開設時期:4, 5年 前期 授業コマ数(授業コマ数+試験コマ数):5+0 授業形態:講義、演習 必要自習時間:1 時間							
主な講義場所 Web 上で、zoom を用いて講義、演習を行う							
授業の目的、概要等 医療従事者及び一人の人間として、自分のキャリアの方向性を引き出し、今後の具体的なキャリアプランの道筋を立てられるようにする。男女共に多様なキャリアの選択肢があることを知り、医療現場の男女共同参画の視点を培う。将来、育児、介護等のライフイベントを経てもキャリアデザインを立案できる能力を育成する。							
授業の到達目標 歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度版において、 A-9-1) 生涯学習への準備ねらい:歯科医学・医療・科学技術の進歩と社会の変化(経済的側面を含む)やワーク・ライフ・バランスに留意して、歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力を身に付ける。 に該当している。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	講義:キャリアとは	講義形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	栗林 亜実 有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 講義 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
2	4/9	15:50-16:40	遠隔授業 (同期型)	演習:自分の価値観を知ろう	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調

							べ準備をしておくこと。
3	4/16	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	演習:過去・現在のキャリア	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
4	4/16	15:50-16:40	遠隔授業 (同期型)	演習:仕事とプライベートの両立	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
5	4/23	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	演習:将来のキャリアを考えよう	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。

授業方法

授業においては、zoom を用いて、AL 演習形式で行う。

授業内容

- 1) キャリアについて理論的に考えることで自分らしいキャリアデザインのポイントを学ぶ。
- 2) 演習やワークを通じて、自分の価値観や、過去・現在・未来のキャリアを客観的に理解する。
- 3) 男女共に多様なキャリアの方向性や働き方の違いを知り、将来、仕事と家庭とを良質するための方法をシミュレーションする。

成績評価の方法

受講態度などを基に総合的評価を行なう。

成績評価の基準

受講態度などを基に総合的評価を行なう。

準備学習等についての具体的な指示

選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。

試験の受験資格

5 回の授業のうち 4 回以上出席しなければならない

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない

構成ユニット

履修届を出した全員(例年約 20 名ほど)

備考

有馬牧子 昭和大学医学部医学教育学講座講師

makiko39@med.showa-u.ac.jp

オフィスアワー:メールはいつでも可

科目責任者

栗林亜実 東京科学大学 歯科放射線診断・治療学分野

ami8orad@tmd.ac.jp

オフィスアワー:メールはいつでも可

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021618																										
科目名	選択コース 2-A: 歯科医師の進路	科目 ID																									
担当教員	鶴田 潤[TSURUTA Jiyun]																										
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3～5																								
実務経験のある教員による授業	該当する	授業形態	対面																								
モジュール名: 学年混合選択セミナー 授業回数 : 5回 必要自習時間: 2時間 授業形態: 講義＋演習 ユニット番号: 02																											
授業の目的、概要等 歯科医師として、将来の活躍の場に多様な選択肢がある事を認識する。																											
授業の到達目標 1) 歯科医師の活動とその社会的意義を説明できる。 2) 進路を選択する上で、自らに必要な課題を抽出できる。 3) 進路を選択する上で、自らの適正について評価できる。																											
授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>日付</th><th>時刻</th><th>講義室</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>5/7</td><td>14:50-15:40</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>5/7</td><td>15:50-16:40</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>5/14</td><td>14:50-15:40</td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td>5/14</td><td>15:50-16:40</td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>5/21</td><td>14:50-15:40</td><td></td></tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	1	5/7	14:50-15:40		2	5/7	15:50-16:40		3	5/14	14:50-15:40		4	5/14	15:50-16:40		5	5/21	14:50-15:40	
回	日付	時刻	講義室																								
1	5/7	14:50-15:40																									
2	5/7	15:50-16:40																									
3	5/14	14:50-15:40																									
4	5/14	15:50-16:40																									
5	5/21	14:50-15:40																									
授業方法 全 5 回のうち、3 回は非同期型、2 回は ZOOM による同期型講義を行います。 同期型2回のうち1回はアクティブラーニング(講義内容に関する討議)を実施します。																											
成績評価の方法 課題として提出されたレポート評価による総括的評価を行う。																											
準備学習等についての具体的な指示 歯科医師の進路には様々な選択肢がある。臨床はもちろん研究職など、医療従事者としての歯科医師がどのような場で活躍しているのかを事前に調べておく事が望ましい。																											
試験の受験資格 ・原則として出席すること ・出席記録 所定の課題を指定時間に提出すること。 ・設定課題については、必ず、実施・提出を行うこと。																											
備考 全 5 回のうち、3 回は非同期型、2 回は ZOOM による同期型講義を行います。同期型2回のうち1回はアクティブラーニング(講義内容に関する討議)を実施します。 連絡先: 鶴田潤 tsurutaja664@misct.ac.jp																											

時間割番号	021619																										
科目名	選択コース 2-B:製品開発への途	科目ID																									
担当教員	中禮 宏[CHUREI Hiroshi]																										
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3～5																								
実務経験のある教員による授業	該当する	授業形態	メディア利用科目																								
モジュール名:学年混合選択セミナー コマ数:5 授業形態:講義 ユニット番号:02																											
授業の目的、概要等 歯科関連器材が製品開発されるまでの過程を各企業の開発担当社から学び、臨床研究における産学連携の意義を理解する。																											
授業の到達目標 1)どのようなニーズから製品開発プロジェクトが生まれるのか具体例を説明できる。 2)機器や材料の製品開発までの過程を説明できる。 3)産学連携における企業と大学の役割について説明できる。																											
授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>日付</th><th>時刻</th><th>講義室</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>5/7</td><td>14:50-15:40</td><td>遠隔授業 (非同期型)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>5/7</td><td>15:50-16:40</td><td>遠隔授業 (非同期型)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>5/14</td><td>14:50-15:40</td><td>遠隔授業 (非同期型)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>5/14</td><td>15:50-16:40</td><td>遠隔授業 (非同期型)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>5/21</td><td>14:50-15:40</td><td>遠隔授業 (非同期型)</td></tr> </tbody> </table>				回	日付	時刻	講義室	1	5/7	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)	2	5/7	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)	3	5/14	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)	4	5/14	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)	5	5/21	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)
回	日付	時刻	講義室																								
1	5/7	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)																								
2	5/7	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)																								
3	5/14	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)																								
4	5/14	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)																								
5	5/21	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期型)																								
授業方法 WebClass にての動画配信																											
授業内容 歯科関連企業担当者からの講義 1)キャノン電子 2)ジーシー 3)吉田製作所 4)松風 5)トクヤマデンタル																											
成績評価の方法 ・レポートによる総括的評価を行う。																											
準備学習等についての具体的な指示 ・歯科領域で利用されている器具、器材について調べておく。																											

試験の受験資格

- ・期限までに5回の授業のうち4回以上出席しなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

履修上の注意事項

- * 過去に受講歴がある学生は履修できません

備考

モジュール(科目)責任者の氏名 中禮 宏

オフィスアワー 月一木 8:30-17:15

連絡先(メールアドレス) chu.spm@tmd.ac.jp

時間割番号	021622						
科目名	選択コース 2-E: キャリア up のためのコミュニケーション 男女で考えるキャリアデザイン②			科目 ID			
担当教員	栗林 亜実[KURIBAYASHI Ami]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3～5				
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
モジュール名:学年混合選択セミナー ユニット名:選択コース 2-E キャリア up のためのコミュニケーション ～男女で考えるキャリアデザイン②～ ユニット責任者:栗林亜実 ユニット番号:02 開設時期:4, 5年 前期 ユニットコマ数(授業コマ数+試験コマ数):5+0 授業形態:講義、演習 必要自習時間:1 時間							
主な講義場所 Web 上で、zoom を用いて講義、演習を行う							
授業の目的、概要等 キャリアを築いていく上で必要な「コミュニケーション力」を身につけ、日々の人間関係や医療従事者としてのコミュニケーションに役立てる。 自分の要求や気持ちの伝え方や、人の話を聴くポイントなどを具体的に身につける。 医療現場や日常の場面において、コンフリクトや課題が生じたときに問題解決に導くためのコミュニケーション方法を学ぶ。							
授業の到達目標 歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度版において、 A-9-1) 生涯学習への準備ねらい:歯科医学・医療・科学技術の進歩と社会の変化(経済的側面を含む)やワーク・ライフ・バランスに留意して、歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力を身に付ける。 に該当している。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/7	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	講義:コミュニケーションとは？	講義形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 講義 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
2	5/7	15:50-16:40	遠隔授業 (同期型)	演習:自分のコミュニケーションパターンを知ろう	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調

							べ準備をしておくこと。
3	5/14	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	演習:聴く・話す・伝える・要求する	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
4	5/14	15:50-16:40	遠隔授業 (同期型)	演習:多様性を活かすコミュニケーション①	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。
5	5/21	14:50-15:40	遠隔授業 (同期型)	演習:多様性を活かすコミュニケーション②	AL 演習形式で行う zoom ミーティング ID: 861 0036 6604 パスコード:048753	有馬 牧子	[到達目標] 1), 2), 3) [学習方法] 演習 [事前学習] 選択コースのテーマであるキャリアデザインについて、事前に調べ準備をしておくこと。

授業方法

授業においては、zoom を用いて、AL 演習形式で行う。

授業内容

- 1)自分のコミュニケーションのパターンを理解する。
- 2)職場や家庭など、周囲とより良い人間関係を築くためのコミュニケーションスキルを学ぶ。
- 3)医療現場、組織の中で協働するためのコミュニケーション方法を学ぶほか、多様性や男女共同参画意識を推進するためのコミュニケーション方法を学ぶ。

成績評価の方法

受講態度などを基に総合的評価を行なう。

成績評価の基準

受講態度などを基に総合的評価を行なう。

準備学習等についての具体的な指示

試験の受験資格

5 回の授業のうち 4 回以上出席しなければならない

受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない

構成ユニット

履修届を出した全員(例年約 20 名ほど)

備考

有馬牧子 昭和大学医学部医学教育学講座講師

makiko39@med.showa-u.ac.jp

オフィスアワー:メールはいつでも可

科目責任者

栗林亜実 東京科学大学 歯科放射線診断・治療学分野

ami8orad@tmd.ac.jp

オフィスアワー:メールはいつでも可

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

参照ホームページ

授業の目的及び到達目標を理解し、事前に学習準備をすること。

時間割番号	021176				
科目名	咬合育成・発達			科目ID	DD552400L
担当教員	森山 啓司, 小野 卓史, 岩本 勉[MORIYAMA Keiji, ONO Takashi, IWAMOTO Tsutomu]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	単位数	4
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:99+3 モジュール番号:24 モジュール単位:4.9単位、モジュール授業:講義・演習:48コマ、実習:51コマ					
主な講義場所 講義:7 号館 5 階講義室 5 または遠隔講義 実習:7 号館 5 階実習室 3 詳細はユニット毎に指示する。					
授業の目的、概要等 健全な咬合育成・発達に向けた予防・診断および治療に関する知識と基本的技能を修得する。					
授業の到達目標 各ユニットの到達目標を参考のこと。					
ユニット01 歯科矯正・顎顔面矯正の基礎・診断 1)顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。E-2-3), E-3-1) 2)矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。E-4-1) 3)正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。E-2-2) 4)不正咬合によって生じる障害を列挙できる。E-2-4-(11) 5)不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。E-4-1) 6)不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1) 7)矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1)					
ユニット02 小児の成長発育と咬合育成 成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘る QOL を支えることを認識し、顎口腔領域の疾患や異常の予防、診察・検査、診断、治療の方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。 1) 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる(C-3-2)-(4)。 2) 口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる(E-2-3)-(2)。 3) 口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる(E-2-3)-(3)。 4) 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる(E-3-1)-(1)。 5) 乳歯の形態と特徴を説明できる(E-3-1)-(2)。 6) 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる(E-3-1)-(4)。 7) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる(E-4-2)-(1)。 8) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる(E-4-2)-(2) 9) 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる(E-4-2)-(3)。 10) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる(E-4-2)-(4)。 11) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の処置法の種類、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる(E-4-2)-(5)。 12) 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる(E-4-2)-(6)。 13) 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる(E-4-2)-(7)。 14) 咬合誘導の概念を説明できる(E-4-2)-(8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる(E-4-2)-(9)。 16) 小児患者の対応を説明できる(E-4-2)-(10)。					

17) 小児の虐待の徴候と対応を説明できる(E-4-2)-(⑪)。 18) 口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響を説明できる(E-4-2)-(⑫)。 19) 基本的臨床技能として、小児にラバーダム防湿ができる(F-3-1)-(③)。 20) 基本的臨床技能として、小児にフッ化物の歯面塗布を実施できる(F-3-6)-(①)。 21) 基本的臨床技能として、幼若永久歯の予防充填を実施できる(F-3-6)-(②)。 22) 基本的臨床技能として、小児のブラークコントロールを行うために、保護者への適切な口腔衛生指導を実施できる(F-3-6)-(③)。 ユニット03 歯科矯正・顎顔面矯正の治療 1) 歯科矯正治療・外科的矯正治療の目的と意義を説明できる。E-4-1) 2) 不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1), F-3-6) 3) 矯正歯科治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1) 4) 矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。E-4-1) 5) 矯正歯科治療に必要な力学を説明できる。E-4-1) 6) 後戻りと保定について説明できる。E-4-1) 7) 先天異常および顎変形症患者における外科的矯正治療の診断・治療法を説明できる。E-2-4)-(1), E-4-1), F-3-6) 8) 歯科矯正治療・外科的矯正治療の治療計画を立案できる。E-4-1), F-3-6) 9) 顎変形症、口唇口蓋裂患者を含む先天異常患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1) 10) 矯正歯科治療によって生じる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。E-4-1)
授業方法 各ユニットより異なるため、ユニットのシラバスの詳細を確認すること。
授業内容 各ユニットより異なるため、ユニットのシラバスの詳細を確認すること。
成績評価の方法 各ユニットでの評価をもとに成績評価を行う。
成績評価の基準 ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数ならびに平常学習態度等が評価に加味される。
準備学習等についての具体的な指示 事前に教科書ならびに参考図書を熟読の上、授業に臨むこと。実習に際しては、実習内容に対応する講義を復習して臨むこと。
試験の受験資格 ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。詳細はユニット毎に指示する。
構成ユニット 01 歯科矯正・顎顔面矯正の基礎・診断 02 小児の成長発育と咬合育成 03 歯科矯正・顎顔面矯正の治療
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。
教科書 各ユニットのシラバス参照のこと
参考書 各ユニットのシラバス参照のこと
備考 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。 モジュール責任者: 森山啓司 連絡先: k-moriyama.mort@tmd.ac.jp

時間割番号	021177						
科目名	歯科矯正・顎顔面矯正の基礎・診断				科目ID	DD552401L	
担当教員	森山 啓司, 小川 卓也, 東堀 紀尚, 米満 郁男, 小林 起穂, 石田 雄之, 小笠原 毅, 大森 浩子, 松本 芳郎, 細道 純, 加藤 千帆, 上園 将慶, 小野 卓史, 田中 裕香[MORIYAMA Keiji, OGAWA Takuya, HIGASHIHORI Norihisa, YONEMITSU Ikuo, KOBAYASHI Yukiho, ISHIDA Yuji, OGASAWARA Takeshi, OMORI Hiroko, MATSUMOTO Yoshiro, HOSOMICHI Jiyun, KATO Chiho, UEZONO Masayoshi, ONO Takashi, TANAKA Yuka]						
開講時期	2026 年度前期		対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール名:咬合育成・発達 コマ数:34+1 (必修自習時間 7時間) 授業形態:講義・実習・演習 ユニット番号:01							
主な講義場所 講義室 5(7号館5階)または遠隔 実習室 3(7号館5階)							
授業の目的、概要等 顎顔面頭蓋の成長発育様相とその異常、正常咬合の成立に必要な要件と不正咬合の原因および矯正力や顎整形力に対する歯、骨、軟組織の生体応答性など、矯正歯科治療のメカニズムを習得する上で必要な生体の構造と機能について理解を深める。							
授業の到達目標 1)顎顔面頭蓋の正常な成長発育様相について説明できる。E-2-3), E-3-1) 2)口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる。E-2-3) 3)矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。E-4-1) 4)正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。E-4-1) 5)不正咬合によって生じる障害を列挙できる。E-2-4-(11) 6)不正咬合の分類・原因を列挙しそれに起因する障害と予防法を説明できる。E-4-1) 7)不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1) 8)矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1) 9)矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。E-4-1) 10)矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/3	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	イントロダクション:歩みと定義・意義と目的	講義	森山 啓司	矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。E-4-1)
2	4/3	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	成長発育概論	講義	森山 啓司	口腔・顎顔面領域の発生・成長・発育を説明できる。E-2-3), E-3-1)
3	4/3	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	頭蓋の発生および成長発育	講義	小川 卓也	頭蓋領域の発生・成長・発育を説明できる。E-2-3), E-3-1)
4	4/7	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	顎顔面の発生および成長発育・歯列と咬合の成長発育	講義・総論演習1	小川 卓也	口腔・顎顔面領域の発生・成長・発育を説明できる。

							E-2-3), E-3-1)
5	4/7	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	咬合概論・正常咬合	講義・総論演習2	小笠原 毅	正常咬合の概念 と成立・保持条件 を説明できる。 E-4-1)
6-8	4/13	12:50-15:40	7号館5 階歯学科 実習室3	基礎実習(矯正線屈曲1)	実習	森山 啓司, 小川 卓也, 東堀 紀尚, 上園 将慶, 小野 卓史, 細道 純, 松 本 芳郎, 石 田 雄之, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 田 中 裕香, 米 満 郁男, 小 笠原 毅, 小 林 起穂, 松 本 英和	矯正治療に用い る器材の名称と 使い方を説明で きる。E-4-1)
9	4/13	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	顎運動と生理機能	講義・総論演習3	東堀 紀尚	不正咬合の診 察、検査を説明で きる。E-4-1)
10	4/13	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	不正咬合とその分類	講義	小川 卓也	不正咬合の分類 を説明できる。 不正咬合によっ て生じる障害を列 挙できる。 E-2-4-(11), E-4-1)
11-13	4/14	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 実習室3	基礎実習(矯正線屈曲2・ 自在鉗着)	実習	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純, 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 米 満 郁男, 石 田 雄之, 上 園 将慶, 小 笠原 毅, 小 林 起穂, 松 本 英和	矯正治療に用い る器材の名称と 使い方を説明で きる。E-4-1)
14	4/14	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	不正咬合の原因(先天 的・後天的原因)、総論 演習4	講義・総論演習4	小林 起穂	不正咬合の原因 を説明できる。 E-4-1)
15	4/14	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	診断・医療面接・形態的 検査1(X線診査まで)、 診断学演習1	講義・診断学演習1	米満 郁男	

16-18	4/16	09:00-11:50	歯学部基礎実習室 歯学部演習室	診断学実習(セファロ分析)	実習	森山 啓司, 小川 卓也, 東堀 紀尚, 上園 将慶, 小野 卓史, 細道 純, 松本 芳郎, 石田 雄之, 加藤 千帆, 大森 浩子, 田中 裕香, 米満 郁男, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	不正咬合の診察および検査を説明できる。E-4-1)
19-21	4/20	09:00-11:50	7号館5階歯学科実習室3	診断学実習(舌側弧線装置1)	実習	森山 啓司, 小川 卓也, 東堀 紀尚, 上園 将慶, 小野 卓史, 細道 純, 松本 芳郎, 石田 雄之, 加藤 千帆, 大森 浩子, 田中 裕香, 米満 郁男, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)
22-24	4/21	09:00-11:50	7号館5階歯学科実習室3	診断学実習(舌側弧線装置2)	実習	森山 啓司, 小川 卓也, 東堀 紀尚, 上園 将慶, 小野 卓史, 細道 純, 松本 芳郎, 石田 雄之, 加藤 千帆, 大森 浩子, 田中 裕香, 米満 郁男, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)
25	4/21	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	診断学(検査1):形態的検査2(セファロ分析)、診断学演習2	講義・総論演習2	石田 雄之	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。

							E-4-1)
26	4/21	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	診断学(検査2):機能検査(含呼吸・脳機能等)	講義・診断学演習3	大森 浩子	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-4-1)
27	4/21	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	予防、診断学(治療方針立案1):抜歯	講義・診断学演習4	松本 芳郎	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-4-1)
28	4/21	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	診断学(治療方針立案2):立案	講義・診断学演習5	細道 純	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-4-1)
29	4/21	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	矯正装置	講義・診断学演習6	加藤 千帆	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。E-4-1)
30-32	4/22	12:50-15:40	7号館5 階歯学科 実習室3	診断学実習(矯正装置)	実習	森山 啓司、 小川 卓也、 東堀 紀尚、 上園 将慶、 小野 卓史、 細道 純、松 本 芳郎、石 田 雄之、加 藤 千帆、大 森 浩子、田 中 裕香、米 満 郁男、小 笠原 毅、小 林 起穂、松 本 英和	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。E-4-1)
33	4/22	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	生体反応(1)歯・歯周組織	講義・診断学演習7	石田 雄之	矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。E-4-1)
34	4/23	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	生体反応(2)顎骨・顎関節・拡大等	講義・診断学演習8	松本 芳郎	矯正力、顎整形力(矯正歯科治療)によって起こる生体の反応を細胞あるいは分

							子生物学的に説明できる。E-4-1)
35	6/18	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5		試験	森山 啓司	
授業方法 担当教員による講義・演習ならびに実習							
授業内容 授業明細を参照のこと							
成績評価の方法 ユニット終了時に実施される客観的試験、論述試験(2026年6月18日)により総括的評価を行う。							
成績評価の基準 歯科矯正学に関する基礎・診断について十分な理解が得られていること。 具体的には、ユニット試験の成績に出席状況を加味した総合点で6割以上を取得すること。							
準備学習等についての具体的な指示 事前に教科書ならびに参考図書を熟読の上、授業に臨むこと。実習に際しては、実習内容に対応する講義を復習して臨むこと。							
試験の受験資格 ユニット授業コマ数のうち、3分の2以上出席し、かつ実習部分の全コマ数の4分の3以上に出席していなければならない。							
構成ユニット 咬合育成・発達							
教科書 Orthodontics Current Principles & Techniques 7th Ed./T. M. Graber 他:ELSEVIER/MOSBY, 2022 Handbook of Orthodontics 4th Ed./R. E. Moyers:YEAR BOOK MEDICAL PUBLISHERS, 1988 Gorlin's Syndromes of the Head and Neck, 5th edition/Hennekam/Krantz/Allanson:Oxford University Press, 2010 歯科矯正学／後藤, 滋巳, 1952-齋藤, 功, 歯学,西井, 康 禎, 宏太郎,森山, 啓司,山城, 隆後藤滋巳 [ほか] 編集,新井一仁 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2024.9 Contemporary Orthodontics 6th Ed./W.R.Proffit:ELSEVIER/MOSBY, 2018 歯科矯正学エッセンシャルテキスト. 編集委員:西井康, 新井一仁, 小野卓史, 須田直人, 友成博, 不島健持, 槇宏太郎, 本吉満, 森山啓司, 山口徹太郎. 永末書店. 2023 年							
参考書 アトラス顎顔面矯正: 顎変形症と口唇口蓋裂の矯正治療／黒田敬之 監修,大山紀美栄, 本橋信義, 鈴木聖一 編:医歯薬出版, 2002 Atlas of Orthodontic Treatment for Patients with Birth Defects./Takayuki Kuroda, Kimie Ohyama, Nobuyoshi Motohashi, Keiji Moriyama: Needham Press,Inc., 2012 プロフィットの現代歯科矯正学／William R.Proffit 著,高田健治 訳:クインテッセンス出版, 2004 歯科矯正治療と顎顔面矯正治療／McNamara JA Jr., Brudon WL, 黒田敬之(監訳):東京臨床出版, 2006 Contemporary Treatment of Dentofacial Deformity／Proffit WR, White RP, Sarver DM: Mosby, 2002 Ten Cate 口腔組織学／Ten Cate [原著],Antonio Nanci 編著,川崎堅三 監訳:医歯薬出版, 2006 ムーア人体発生学／Moore and Persaud 著,瀬口春道 監訳:医歯薬出版, 2001 カラーアトラス X 線解剖学とセファロ分析法／宮下邦彦 著:クインテッセンス出版, 2009							
他科目との関連 「歯科矯正・顎顔面矯正の治療」との関連あり。							
履修上の注意事項 止むを得ず講義・実習の出席が不足する場合は、これらのレポートの内容により受験資格の付与を検討する。							
備考 一部ユニット講義においては、AL(演習)を行う。 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。 ユニット責任者:森山啓司							

連絡先:k-moriyama.mort@tmd.ac.jp

オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	021178						
科目名	小児の成長発育と咬合育成				科目ID	DD552402L	
担当教員	岩本 勉 和田 奏絵[IWAMOTO Tsutomu, WADA Kanae]						
開講時期	2026 年度前期		対象年次		5		
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
主な講義場所 講義:7 号館 5 階歯学科講義室 5(旧5階示説室) 実習:7 号館 5 階歯学科実習室 3(旧5階保存・矯正実習室)							
授業の目的、概要等 GIO:胎児期から成人に至るまでの定型発達児, 障害児, 有病児の身体的成長, 精神的・心理的発達について理解し, 健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解する。							
授業の到達目標 SBOs:成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘る QOL を支えることを認識し, 顎口腔領域の疾患や異常の予防, 診察・検査, 診断, 治療の方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する(括弧はモデルコアカリ番号)。 1) 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる(A-2-2-1、A-2-2-2、E-2-3-5)。 2) 口腔・顎顔面領域の成長・発育を説明できる(A-2-4-5)。 3) 口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる(A-2-4-6)。 4) 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる(A-3-4-1)。 5) 口腔機能の発達を説明できる(A-2-4-5、D-3-1-11) 6) 乳歯の形態と特徴を説明できる(A-3-4-4)。 7) 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる(A-3-4-4)。 8) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる(D-5-6-1)。 9) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる(D-5-6-2)。 10) 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる(D-5-6-3)。 11) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の診察、検査と診断を説明できる(D-5-6-4)。 12) 乳歯と根未完成永久歯の歯髄・根尖性歯周疾患の処置法の種類、適応症、手順、留意点及び予後を説明できる(D-5-6-4)。 13) 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる(D-5-6-5)。 14) 小児患者への対応として行動変容法及び抑制法を実施できる(E-5-5-7) 15) 障害児の身体的、精神的及び心理的特徴に留意して診療を実施できる(E-5-7) 16) 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる(D-5-6-6、D-5-6-7)。 17) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる(D-5-6-8、D-5-6-9)。 18) 口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響を説明できる(D-5-5-3)。 19) 小児患者の対応を説明できる(E-2-1-2-1、E-2-1-2-2、E-5-5-7)。 20) 小児の虐待の徴候と対応を説明できる(D-5-6-10)。 21) 基本的臨床技能として、小児にフッ化物の歯面塗布を実施できる(E-5-5-5)。 22) 基本的臨床技能として、幼若永久歯の予防填塞を実施できる(E-5-5-6)。 23) 基本的臨床技能として、年齢別の食事指導・間食指導の内容を評価できる(E-5-5-4)。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/2	09:00-09:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	第1編 小児歯科概論	第1章 小児歯科と歯科保健 小児歯科学とは(教科書 P1-4)	岩本 勉	1) 小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる

							(C-3-2)-4)。
2	4/2	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第2章 全身の成長・発達(教科書 P5-32)	岩本 勉	1) 小児の身体発 育、精神発達の 特徴と評価法を 説明できる (C-3-2)-4)。
3	4/2	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第3章 頭蓋、顎顔面の発育(教科 書 P33-44)	岩本 勉	2) 口腔・顎顔面 領域の成長・発育 を説明できる (E-2-3)-3)。
4	4/3	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第4章 口腔機能の発達(教科書 P45-61)	柿野 聡子	2) 口腔・顎顔面 領域の成長・発育 を説明できる (E-2-3)-3)。 18) 口腔習癖が歯列・ 咬合に及ぼす影 響を説明できる (E-4-2)-12)。
5	4/3	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第5章 歯の発育と異常(教科書 P62-88)	柿野 聡子	4) 歯の発生、発 育及び交換の過 程と変化を説明で きる(E-3-1)-1)。 5) 乳歯の形態と 特徴を説明できる (E-3-1)-2)。
6	4/3	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第6章 歯列および咬合の発育と 異常(教科書 P89-103)	柿野 聡子	3) 口腔・顎顔面 の成長・発育異常 及び不正咬合へ 及ぼす影響を説 明できる (E-2-3)-3)。 5) 乳歯の形態と特 徴を説明できる (E-3-1)-2)。
7	4/3	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第2編 成長・発達	第7章 小児期の歯・歯周組織の 特徴(教科書 P104-117)	和田 奏絵	5) 乳歯の形態と 特徴を説明できる (E-3-1)-2)。 6) 歯(乳歯、根未完 成歯、幼若永久 歯を含む)の硬組 織の構造、機能 及び構成成分を 説明できる (E-3-1)-4)。
8	4/3	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第3編 診察・検査・処 方・治療計画	第8章 小児への歯科対応法 (教科書 P118-134)	和田 奏絵	16) 小児患者の 対応を説明できる (E-4-2)-10)。
9	4/8	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	第3編 診察・検査・処 方・治療計画	第9章 小児の歯科診療の流れ (教科書 P135-142) 第10章 医 療安全管理(教科書 P143-150)	和田 奏絵	1) 小児の身体発 育、精神発達の 特徴と評価法を

							説明できる (C-3-2)-4)。
10	4/8	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第11章 齲蝕(教科書 P151-193)	岩本 勉	7) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる (E-4-2)-1)。 8) 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる (E-4-2)-2)。
11	4/8	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第11章 歯冠修復法、歯内療法 (教科書 P194-231)	岩本 勉	9) 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順および留意点を説明できる(E-4-2)-3)。 10) (E-4-2)-4)。 11) (E-4-2)-5)。
12	4/8	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第12章 歯周疾患(教科書 P232-246)	岩本 勉	12) 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる (E-4-2)-6)。
13	4/8	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第13章 歯の外傷(教科書 P247-257)	大石 敦之	13) 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる(E-4-2)-7)。
14	4/10	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第14章 口腔軟組織疾患および顎疾患(教科書 P258-286) 第15章 外科処置(教科書 P287-298)	大石 敦之	12) 小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる (E-4-2)-6)。 13) 小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる (E-4-2)-7)。
15	4/10	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第4編 歯・口腔の疾患	第16章 咬合誘導(教科書 P299-337)	大石 敦之	14) 咬合誘導の概念(E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計 (E-4-2)-9)。 18) 口腔習癖

							(E-4-2)-12)。
16	4/10	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第5編 心身障害児および 全身疾患児への歯科 的対応法	第17章 障害児の歯科治療(教科 書 P338-367)	岩本 勉	1) 小児の身体発 育、精神発達 の特徴と評価法を 説明できる (C-3-2)-4)。 16) 小児患者の対応 を説明できる (E-4-2)-10)。
17	4/10	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第5編 心身障害児および 全身疾患児への歯科 的対応法	第18章 歯科治療上注意すべき 小児の全身疾患(教科書 P368-412)	岩本 勉	1) 小児の身体発 育、精神発達 の特徴と評価法を 説明できる (C-3-2)-4)。 16) 小児患者の対応 を説明できる (E-4-2)-10)。
18	4/10	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	第6編 社会的問題と小 児歯科のかかわり	第19章 小児虐待 第20章 災 害と小児歯科保健・医療(教科書 P418-421)	岩本 勉	16) 小児患者の 対応を説明できる (E-4-2)-10)。 17) 小児の虐待 の兆候と対応を 説明できる (E-4-2)-11)。
19	4/17	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習1	ラバーダム・断髄／乳歯冠1	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	9) 乳歯と幼若永 久歯の歯冠修復 (E-4-2)-3)。 19) 基本的臨床技能 として、小児にラ バーダム防湿が できる (F-3-1)-3)。
20	4/17	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習2	ラバーダム・断髄／乳歯冠1	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	9) 乳歯と幼若永 久歯の歯冠修復 (E-4-2)-3)。 19) 基本的臨床技能 として、小児にラ バーダム防湿が できる (F-3-1)-3)。
21	4/17	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習3	ラバーダム・断髄／乳歯冠1	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	9) 乳歯と幼若永 久歯の歯冠修復 (E-4-2)-3)。 19) 基本的臨床技能 として、小児にラ バーダム防湿が できる (F-3-1)-3)。
22	4/17	12:50-13:40	7号館5 階歯学科	小児歯科学実習4	乳歯冠2	岩本 勉 和 田 奏絵 柿	9) 乳歯と幼若永 久歯の目的、種

			実習室 3			野 聡子, 大石 敦之	類、適応症、手順および留意点を説明できる (E-4-2)-3)。
23	4/17	13:50-14:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 5	乳歯冠 2	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	9) 乳歯と幼若永久歯の目的、種類、適応症、手順および留意点を説明できる (E-4-2)-3)。
24	4/17	14:50-15:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 6	乳歯冠 2	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	9) 乳歯と幼若永久歯の目的、種類、適応症、手順および留意点を説明できる (E-4-2)-3)。
25	4/17	15:50-16:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 7	RSM1	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
26	5/8	12:50-13:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 8	RSM1	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
27	5/8	13:50-14:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 9	RSM1	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
28	5/8	14:50-15:40	7号館 5階歯学科実習室 3	小児歯科学実習 10	RSM2	岩本 勉 和田 奏絵 柿野 聡子, 大石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目

							的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
29	5/8	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 11	RSM2	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
30	5/11	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 12	RSM2	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	14) 咬合誘導の概念を説明できる (E-4-2)-8)。 15) 保険処置の目的、種類、適応症及び留意点並びに保険装置の設計について説明できる (E-4-2)-9)。
31	5/11	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 13	ラバーダム、シーラント、模型提出	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	19) 基本的臨床技能として、小児にラバーダム防湿ができる (F-3-1)-3)。 21) 基本的臨床技能として、幼若永久歯の予防填塞を実施できる (F-3-6)-2)。
32	5/11	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 14	ラバーダム、シーラント、模型提出	岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	
33	5/18	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 15		岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	
34	5/18	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 実習室3	小児歯科学実習 16		岩本 勉 和 田 奏絵 柿 野 聡子 大 石 敦之	
35	5/18	14:50-15:40	7号館5 階歯学科	小児歯科学実習 17		岩本 勉 和 田 奏絵 柿	

			実習室 3			野 聡子, 大 石 敦之	
36	5/18	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 実習室 3	小児歯科学実習 18		岩本 勉 和 田 奏絵, 柿 野 聡子, 大 石 敦之	
37	6/16	12:50-13:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5		試験	岩本 勉	

授業内容

2026 年度講義

2026/04/02 (木) 対面

- ① 09:00-09:50 1. 小児歯科概論 (岩本)
- ② 10:00-10:50 2. 全身の成長・発達 (岩本)
- ③ 11:00-11:50 3. 頭蓋・顎顔面の発育 (岩本)

2026/04/03 (金) 対面

- ④ 12:50-13:40 4. 口腔機能の発達 (柿野)
- ⑤ 13:50-14:40 5. 歯の発育と異常 (柿野)
- ⑥ 14:50-15:40 6. 歯列および咬合の発育と異常 (柿野)
- ⑦ 15:50-16:40 7. 小児期の歯・歯周組織の特徴 (和田)
- ⑧ 16:50-17:40 8. 小児への歯科的対応法 (和田)

2026/04/08 (水) 対面

- ⑨ 09:00-09:50 9. 小児歯科診療の流れ・医療安全 (和田)
- ⑩ 10:00-10:50 10. う蝕 (岩本)
- ⑪ 11:00-11:50 11. 歯冠修復・歯内療法 (岩本)
- ⑫ 15:50-16:40 12. 歯周疾患 (岩本)
- ⑬ 16:50-17:40 13. 歯の外傷 (大石)

2026/04/10 (金) 対面

- ⑭ 12:50-13:40 14. 口腔軟組織疾患および顎疾患、外科処置 (大石)
- ⑮ 13:50-14:40 15. 咬合誘導 (大石)
- ⑯ 14:50-15:40 16. 障害児の歯科治療 (黒厚子・岩本)
- ⑰ 15:50-16:40 17. 歯科治療上注意すべき小児の全身疾患 (黒厚子・岩本)
- ⑱ 16:50-17:40 18. 社会的問題と小児歯科のかかわり (黒厚子・岩本)

2026/04/17 (金)

- ⑲ 09:00-09:50 実習1. ラバーダム・断髄／乳歯冠①
- ⑳ 10:00-10:50 実習2. ラバーダム・断髄／乳歯冠①
- ㉑ 11:00-11:50 実習3. ラバーダム・断髄／乳歯冠①
- ㉒ 12:50-13:40 実習4:乳歯冠②
- ㉓ 13:50-14:40 実習5:乳歯冠②
- ㉔ 14:50-15:40 実習6:乳歯冠②
- ㉕ 15:50-16:40 実習7:RSM①

2026/05/08 (金)

- ㉖ 12:50-13:40 実習8:RSM①

⑳ 13:50-14:40 実習9:RSM① ㉑ 14:50-15:40 実習 10:RSM② ㉒ 15:50-16:40 実習 11:RSM② 2026/05/11 (月) ㉓ 09:00-09:50 実習 12. RSM② ㉔ 10:00-10:50 実習 13. ラバーダム、シーラント、模型提出 ㉕ 11:00-11:50 実習 14. ラバーダム、シーラント、模型提出 2026/05/18 (月) ㉖ 12:50-13:40 実習 15:フッ素塗布 ㉗ 13:50-14:40 実習 16:ロールプレイ ㉘ 14:50-15:40 実習 17:ロールプレイ ㉙ 15:50-16:40 実習 18:ロールプレイ 2026/06/16 (火) ㉚ 12:50-13:40 試験
成績評価の方法 講義においては、必要に応じて課題またはレポートの提出を求めることもあり、成績に含めます。実習においては、提出物、観察記録および口頭試問ならびにレポートにより形成的評価を行います。講義および実習の態度も評価し、授業および実習の最後に、試験を行うことで総括して評価を行います。
成績評価の基準 「到達目標」に明示している事項について、講義内容より概ね達成できている場合は B、発展的に学習して自ら教員の課題の解決策等について具体的に論述できる場合は B より上とする。
準備学習等についての具体的な指示 講義が行われる範囲の教科書を熟読の上で授業に臨むこと。実習に際しては、実習書を読み、授業前に、WebClass (歯学部、小児の成長発育と咬合育成) の資料を確認し、あらかじめ学習し、実習に際しては、内容に対応する講義のパートを復習して臨むこと。
試験の受験資格 講義は基本対面で実施し、授業に 2/3 以上の出席を定期試験の受験要件および単位取得の要件とします。実習の出席については、特別な理由がない限り「全出席を基本」とし、欠席の際には「欠席届」、「診断書」などの手続きを行ってください。やむを得ず実習を欠席した場合、補講を行うことがあります。
構成ユニット 咬合育成・発達
教科書 小児歯科学／白川, 哲夫, 福本, 敏, 岩本, 勉, 森川, 和政, 白川哲夫, 福本敏, 岩本勉, 森川和政 編, 白川哲夫 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2023.2 : 南山堂, 2005.12 : Wiley-Blackwell, 2009
参考書 小児歯科マニュアル／前田, 隆秀, 前田隆秀 編: 南山堂, 2005.12 Pediatric dentistry : a clinical approach／Koch, Göran, Poulsen, Sven, editors, Göran Koch and Sven Poulsen: Wiley-Blackwell, 2009 Pediatric dentistry : infancy through adolescence／Pinkham, J. R., [edited by] Jimmy R. Pinkham ...[et al.]: Elsevier Saunders, c2005 McDonald and Avery's dentistry for the child and adolescent／McDonald, Ralph E., Avery, David R., Dean, Jeffrey A., [edited by] Jeffrey A. Dean, David R. Avery, Ralph E. McDonald: Mosby Elsevier, c2011
備考 担当教員の Office hour を設けていないが、必要に応じて事前連絡の上相談とする 岩本 勉 iwamoto.t.792e@m.isct.ac.jp

時間割番号	021179						
科目名	歯科矯正・顎顔面矯正の治療				科目ID	DD552403L	
担当教員	小野 卓史, 東堀 紀尚, 松本 芳郎, 細道 純, 米満 郁男, 石田 雄之, 小川 卓也, 上園 将慶, 森山 啓司, 小林 起穂, 松本 英和[ONO Takashi, HIGASHIHORI Norihisa, MATSUMOTO Yoshiro, HOSOMICHI Jiyun, YONEMITSU Ikuo, ISHIDA Yuji, OGAWA Takuya, UEZONO Masayoshi, MORIYAMA Keiji, KOBAYASHI Yukiho, MATSUMOTO Hidekazu]						
開講時期	2026 年度前期		対象年次		5		
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール名:咬合育成・発達 コマ数:29+1 (必修自習時間 7時間) 授業形態:講義・実習・演習 ユニット番号:03							
主な講義場所 講義室 5(7 号館 5 階)または遠隔 実習室 3(7 号館 5 階) ロールプレイ実習(2026 年 5 月 15 日)は当日別に指示する。							
授業の目的、概要等 不正咬合の病因と随伴する顎口腔領域の形態・機能異常を理解し、予防と治療の意義を踏まえた上で歯科矯正・外科的矯正治療の理論と方法を修得する。							
授業の到達目標 1)歯科矯正治療・外科的矯正治療の目的と意義を説明できる。E-4-1) 2)不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。E-4-1), F-3-6) 3)矯正歯科治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1) 4)矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。E-4-1) 5)矯正歯科治療に必要な力学を説明できる。E-4-1) 6)後戻りと保定について説明できる。E-4-1) 7)先天異常および顎変形症患者における外科的矯正治療の診断・治療法を説明できる。E-2-4)-(1), E-4-1), F-3-6) 8)歯科矯正治療・外科的矯正治療の治療計画を立案できる。E-4-1), F-3-6) 9)顎変形症、口唇口蓋裂患者を含む先天異常患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1) 10)矯正歯科治療によって生じる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。E-4-1)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	5/12	12:50-15:40	7 号館 5 階歯学科 実習室 3	矯正歯科治療統合実習 1	実習・問題リスト作成・治療方針立案	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 田 中 裕香, 米 満 郁男, 石 田 雄之, 上 園 将慶 小 笠原 毅 小 林 起穂, 松	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)

						本 英和	
4	5/12	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	イントロ:治療学概論・矯正力・固定	講義・治療学演習 1-1	細道 純	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
5	5/12	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	矯正歯科用材料の特性	講義・治療学演習 1-2	米満 郁男	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)
6	5/12	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期型)	口唇口蓋裂患者の矯正 歯科治療	講義	小川 卓也	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
7-9	5/13	12:50-15:40	7号館5 階歯学科 実習室3	矯正歯科治療統合実習 2	実習・治療目標・治療計画立案・ロールプレイ準備	森山 啓司、 小野 卓史、 細道 純、小 川 卓也、松 本 芳郎、東 堀 紀尚、加 藤 千帆、大 森 浩子、田 中 裕香、米 満 郁男、石 田 雄之、上 園 将慶、小 笠原 毅、小 林 起穂、松 本 英和	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
10	5/13	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	乳歯列期・混合歯列期の 治療:下顎前突	講義・治療学演習 1-3	細道 純	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)

11	5/13	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	混合歯列期の治療:上顎 前突・習癖・歯根吸収他	講義・治療学演習 1-4	石田 雄之	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
12	5/13	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期 型)	永久歯列期の治療:上顎 前突・下顎前突	講義・治療学演習 1-5	松本 芳郎	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
13-15	5/15	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 実習室3, 歯学部基 礎実習 室 歯学 部基礎実 習室	医療面接実習	実習・ロールプレイ	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 田 中 裕香, 米 満 郁男, 石 田 雄之, 上 園 将慶, 小 笠原 毅, 小 林 起穂, 松 本 英和	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
16	5/15	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	永久歯列期の治療:開 咬・過蓋咬合	講義・治療学演習 1-6	米満 郁男	不正咬合の原 因、種類、診察、 検査、診断、治療 および予防法を 説明できる。矯正 装置の種類と特 徴及び使用目的 を説明できる。 E-4-1)
17-19	5/15	13:50-16:40	7号館5 階歯学科 実習室3	治療シミュレーション実 習	実習・タイポント 1	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純 小 川 卓也, 松 本 芳郎, 東 堀 紀尚, 加 藤 千帆, 大 森 浩子, 田	矯正装置の種類 と特徴及び使用 目的を説明でき る。矯正治療に用 いる器材の名称 と使い方を説明で きる。E-4-1)

						中 裕香, 米満 郁男, 石田 雄之, 上園 将慶, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	
20	5/15	16:50-17:40	遠隔授業 (非同期型)	永久歯列期の治療: 叢生・空隙・埋伏他	講義・治療学演習 1-7	加藤 千帆	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
21	5/15	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期型)	保定	講義・治療学演習 2-1	上園 将慶	後戻りと保定について説明できる。 E-4-1) 矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。 E-4-1)
22-24	5/25	12:50-15:40	7号館5階歯学科 実習室3	治療シミュレーション実習	実習・タイポント2	森山 啓司, 小野 卓史, 細道 純, 小川 卓也, 松本 芳郎, 東堀 紀尚, 加藤 千帆, 大森 浩子, 田中 裕香, 米満 郁男, 石田 雄之, 上園 将慶, 小笠原 毅, 小林 起穂, 松本 英和	矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。E-4-1)
25	5/25	15:50-16:40	7号館5階歯学科 講義室5	顎変形症総論	講義	東堀 紀尚	顎変形症患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1)
26	5/25	16:50-17:40	7号館5階歯学科 講義室5	顎変形症の外科的矯正治療、暫間的固定装置	講義・治療学演習 2-3	東堀 紀尚	顎変形症患者に対する咬合改善のための包括治療の流れを説明できる。E-4-1)
27	5/27	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期型)	先天異常総論	講義	辻 美千子	先天異常患者に対する咬合改善

プロフィットの現代歯科矯正学／William R.Proffit 著,高田健治 訳:クインテッセンス出版, 2004 安心・安全歯科矯正用アンカースクリューこの症例にこの方法／後藤滋巳, 清水典佳, 森山啓司, 宮澤健, 槇宏太郎, 石川博之 編著,後藤滋巳 編集代表:医歯薬出版, 2013 歯科矯正治療と顎顔面矯正治療／McNamara JA Jr., Brudon WL, 黒田敬之(監訳):東京臨床出版, 2006 口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床／高橋庄二郎 著,:日本歯科評論社, 1996 Dentofacial Deformities／Epker BN, Wolford LM: Mosby, 1981
他科目との関連 「歯科矯正・顎顔面矯正の基礎と診断」との関連あり。
履修上の注意事項 止むを得ず講義・実習の出席が不足する場合は、これらのレポートの内容により受験資格の付与を検討する。
備考 一部ユニット講義においては、AL(演習)を行う。 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。 1 日欠席しただけで6コマ欠席になる日が3回もあるので、試験の受験資格を喪失しないように、体調管理に十分留意するとともに、出欠には余裕をもって講義・実習に臨むこと。
参照ホームページ http://lib02.tmd.ac.jp/webclass/login.php?md=b43ef&language=JAPANESE
連絡先(メールアドレス) 小野 卓史:t.ono.orts@tmd.ac.jp 森山 啓司:k-moriyama.mort@tmd.ac.jp 松本 芳郎:t.ono.orts@tmd.ac.jp 細道 純・小野 卓史:t.ono.orts@tmd.ac.jp 小川 卓也:t-ogawa.mort@tmd.ac.jp
オフィスアワー 小野 卓史:毎週月・水曜日 16:00—17:30 歯科棟北12階 咬合機能矯正学分野 教授室 森山 啓司:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。 松本 芳郎:毎週月曜日、水曜日 16:00-17:00 D棟12階 咬合機能矯正学分野 教授室 細道 純・小野 卓史:月・水 16:00—17:30 歯科棟北12階 咬合機能矯正学分野 教授室 小川 卓也:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	021180					
科目名	顎口腔医療			科目 ID	DD552500L	
担当教員	原田 浩之[HARADA Hiroyuki]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	単位数	3	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
モジュール名:顎口腔医療						
コマ数:53+3(必要自習時間31時間)						
授業形態:講義、ケースディスカッション(アクティブラーニング)および実習(対面)						
ユニット番号:01						
主な講義場所						
講義:対面形式						
講義・実習:歯学科演習室 1～4						
授業の目的、概要等						
顔面・顎・口腔の構造と機能を理解し、顔面・顎口腔疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶとともに、ケースディスカッション(アクティブラーニング)を用いながら、基本的な技能を修得する。						
授業の到達目標						
1)顔面・顎・口腔・口唇の構造と機能を説明できる。						
2)顔面・顎・口腔・口唇に発生する先天異常および後天性異常の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
3)顔面・顎・口腔・口唇に発生する変形症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
4)顔面・顎・口腔・口唇に発生する炎症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
5)顔面・顎・口腔・口唇に発生する外傷の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
6)口腔領域に発生する粘膜疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
7)顔面・顎・口腔・口唇に発生する血液疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
8)顔面・顎・口腔領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。						
9)ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法を列挙できる。						
10)顔面・顎・口腔・口唇に発生する神経疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
11)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の種類と特徴を列挙できる。						
12)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の診断、治療、予後を説明できる。						
13)顎関節疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
14)前癌病変の特徴、症状、治療法を説明できる。						
15)前癌状態の種類と特徴を列挙できる。						
16)顔面・顎・口腔・口唇に発生する良性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
17)エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。						
18)顔面・顎・口腔・口唇に発生する悪性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
19)顔面・顎・口腔・口唇に発生する肉腫を列挙できる。						
20)唾液腺疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
21)がん薬物療法についてその概要を説明できる。						
22)外科処置が必要な薬物療法中の患者管理についてその概要を説明できる。						
23)薬物関連顎骨疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
24)顔面・顎・口腔領域に発生する疾患に対して、基本的検査とカルテ記載ができる。						
25)顔面・顎・口腔領域に発生する主な疾患に対して、基本的な外科処置ができる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他

1	4/2	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:口腔外科学総論	原田 浩之	SBO 1
2-3	4/2	13:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:基本手術(抜歯)	黒嶋 雄志	SBO 25
4-5	4/2	15:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:顎関節疾患	儀武 啓幸	SBO 13
6	4/6	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:前癌病変	西井 直人	SBO 14, 15
7-8	4/6	10:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:悪性腫瘍(診断法・ 治療法)	富岡 寛文	SBO 18, 21
9-11	4/9	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:基本手術(根切、 骨整形、歯の移植)	加地 博一	SBO 25
12-14	4/10	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:嚢胞(顎骨内、軟 組織)	外内 えり奈	SBO 11, 12
15-17	4/20	12:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:顎変形症	友松 伸允	SBO 3
18-19	4/20	15:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:骨系統疾患	原園 陽介	SBO 2
20	4/20	17:50-18:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:薬剤関連顎骨疾患	野地 理夏	SBO 23
21-22	4/23	10:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:唾液腺疾患	富岡 寛文	SBO 20
23-24	4/24	12:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:外傷	及川 悠	SBO 5
25-27	4/24	14:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:歯源性腫瘍	釘本 琢磨	SBO 16, 17
28-29	5/8	09:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:先天異常	加持 秀明	SBO 2
30	5/8	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:良性腫瘍	黒嶋 雄志	SBO 10, 16
31-33	5/11	13:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:粘膜疾患	津島 文彦	SBO 6, 9
34-35	5/11	16:50-18:40	7号館5	講義:血液疾患	倉沢 泰浩	SBO 7, 9

			階歯学科 講義室 5			
36-38	5/18	09:00-11:50	歯学部演 習室	実習:消毒	木下 直哉	SBO 25
39-41	5/19	12:50-15:40	歯学部演 習室	実習:抜歯の基本手技	黒嶋 雄志	SBO 25
42	5/19	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(薬物療 法)	清水 六花	SBO 21, 22
43-44	5/22	12:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(癌腫)	上田 倫弘	SBO 18
45	5/22	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(肉腫・黒 色腫・悪性リンパ腫)	原田 浩之	SBO 18, 19
46-48	5/22	15:50-18:40	歯学部演 習室	実習:切開・縫合	外内 えり奈	SBO 25
49-51	6/1	13:50-16:40	歯学部演 習室	実習:臨床検査	友松 伸允	SBO 24
52-53	6/1	16:50-18:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:炎症	岩崎 拓也	SBO 4, 8
54-56	6/17	12:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	顔面・顎口腔疾患 試験	釘本 琢磨	
57-59	7/1	12:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	顔面・顎口腔疾患 追再 試験	釘本 琢磨	

成績評価の方法

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

各講義・演習の日時・場所・内容を事前に確認の上、準備学習をし、積極的に討論に参加する。

試験の受験資格

- ・モジュール全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

構成ユニット

顔面・顎・口腔疾患

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、ユニットの試験に合格していなければならない。なお、ユニットの合否判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、レポート提出内容、および平常学習態度等が評価に加味される。

教科書

最新口腔外科学 = Oral and Maxillofacial Surgery／榎本昭二、道健一、天笠光雄、小村健 監修、榎本、昭二、1936-、道、健一、1936-、天笠、光雄、1946-、:医歯薬出版、2017

外科研修マニュアル／京都大学大学院医学研究科外科学講座編集、京都大学大学院医学研究科外科学講座、:南江堂、2009

口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則、高戸毅 監修、飯田順一郎、伊藤公一、岡野友宏、木村博人、小谷順一郎、齊藤力、佐々木啓一、白砂兼光、須田英明、丹沢秀樹、前田健康、山根源之、山本浩嗣 編集、戸塚、靖則、高戸、毅、1953-、飯田、順一郎、伊藤、公一、1947-、岡野、友宏、

1947-,:朝倉書店, 2019

Oral and maxillofacial surgery / edited by Raymond J. Fonseca, Fonseca, Raymond J., : Saunders, 2000

口腔外科研修ハンドブック / 日本口腔外科学会 編集, 原田 浩之 編集, 桐田 忠昭 編集, 鄭 漢忠 編集, 池邊 哲郎 編集, 岸本 裕充 編集, 日本口腔外科学会, 原田 浩之, 桐田 忠昭, 鄭 漢忠, 池邊 哲郎, 岸本 裕充, : 医歯薬出版, 2022-12-23

ISBN: 9784263423158

書名: 口腔癌

著者名: 桐田忠昭・原田浩之 編集

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2023 年 9 月

参考書

一からわかる口腔外科疾患の診断と治療 / 角保徳, 樋口勝規, 梅村長生 編, 角, 保徳, 1956-, 樋口, 勝規, 梅村, 長生, : 医歯薬出版, 2006

Clinical review of oral and maxillofacial surgery : a case-based approach / Shahrokh C. Bagheri, Bagheri, Shahrokh C., : Elsevier Mosby, 2014

一般臨床家, 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル = Hand manual of oral & maxillofacial surgery : 口腔外科 year book / 日本口腔外科学会 編, 日本口腔外科学会, : クインテッセンス出版, 2020

備考

モジュール責任者:

原田浩之 オフィスアワー 火曜日 16:00-17:00

E-mail: hiro-harada.osur@tmd.ac.jp

釘本琢磨 オフィスアワー 月曜日午後 16:00-17:00

E-mail: kugimoto.osur@tmd.ac.jp

時間割番号	021181					
科目名	顔面・顎・口腔疾患			科目ID	DD552501L	
担当教員	原田 浩之[HARADA Hiroyuki]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
モジュール名:顎口腔医療						
コマ数:53+3(必要自習時間31時間)						
授業形態:講義、ケースディスカッション(アクティブラーニング)および実習(対面)						
ユニット番号:01						
主な講義場所						
講義:対面形式						
講義・実習:歯学科演習室 1～4						
授業の目的、概要等						
顔面・顎・口腔の構造と機能を理解し、顔面・顎口腔疾患の原因、症候、病態、診断と治療を学ぶとともに、ケースディスカッション(アクティブラーニング)を用いながら、基本的な技能を修得する。						
授業の到達目標						
1)顔面・顎・口腔・口唇の構造と機能を説明できる。						
2)顔面・顎・口腔・口唇に発生する先天異常および後天性異常の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
3)顔面・顎・口腔・口唇に発生する変形症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
4)顔面・顎・口腔・口唇に発生する炎症の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
5)顔面・顎・口腔・口唇に発生する外傷の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
6)口腔領域に発生する粘膜疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
7)顔面・顎・口腔・口唇に発生する血液疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
8)顔面・顎・口腔領域に症状を現す感染症の種類と症状を列举できる。						
9)ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法を列举できる。						
10)顔面・顎・口腔・口唇に発生する神経疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
11)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の種類と特徴を列举できる。						
12)顔面・顎・口腔・口唇に発生する嚢胞性疾患の診断、治療、予後を説明できる。						
13)顎関節疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
14)前癌病変の特徴、症状、治療法を説明できる。						
15)前癌状態の種類と特徴を列举できる。						
16)顔面・顎・口腔・口唇に発生する良性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
17)エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を概説できる。						
18)顔面・顎・口腔・口唇に発生する悪性腫瘍の病態、診断(組織診、画像診断)、治療と予後を概説できる。						
19)顔面・顎・口腔・口唇に発生する肉腫を列举できる。						
20)唾液腺疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
21)がん薬物療法についてその概要を説明できる。						
22)外科処置が必要な薬物療法中の患者管理についてその概要を説明できる。						
23)薬物関連顎骨疾患の病態、診断、治療と予後を説明できる。						
24)顔面・顎・口腔領域に発生する疾患に対して、基本的検査とカルテ記載ができる。						
25)顔面・顎・口腔領域に発生する主な疾患に対して、基本的な外科処置ができる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他

1	4/2	12:50-13:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:口腔外科学総論	原田 浩之	SBO 1
2-3	4/2	13:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:基本手術(抜歯)	黒嶋 雄志	SBO 25
4-5	4/2	15:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:顎関節疾患	儀武 啓幸	SBO 13
6	4/6	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:前癌病変	西井 直人	SBO 14, 15
7-8	4/6	10:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:悪性腫瘍(診断法・ 治療法)	富岡 寛文	SBO 18, 21
9-11	4/9	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:基本手術(根切、 骨整形、歯の移植)	加地 博一	SBO 25
12-14	4/10	09:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:嚢胞(顎骨内、軟 組織)	外内 えり奈	SBO 11, 12
15-17	4/20	12:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:顎変形症	友松 伸允	SBO 3
18-19	4/20	15:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:骨系統疾患	原園 陽介	SBO 2
20	4/20	17:50-18:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:薬剤関連顎骨疾患	野地 理夏	SBO 23
21-22	4/23	10:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:唾液腺疾患	富岡 寛文	SBO 20
23-24	4/24	12:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:外傷	及川 悠	SBO 5
25-27	4/24	14:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:歯源性腫瘍	釘本 琢磨	SBO 16, 17
28-29	5/8	09:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:先天異常	加持 秀明	SBO 2
30	5/8	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:良性腫瘍	黒嶋 雄志	SBO 10, 16
31-33	5/11	13:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	講義:粘膜疾患	津島 文彦	SBO 6, 9
34-35	5/11	16:50-18:40	7号館5	講義:血液疾患	倉沢 泰浩	SBO 7, 9

			階歯学科 講義室 5			
36-38	5/18	09:00-11:50	歯学部演 習室	実習:消毒	木下 直哉	SBO 25
39-41	5/19	12:50-15:40	歯学部演 習室	実習:抜歯の基本手技	黒嶋 雄志	SBO 25
42	5/19	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(薬物療 法)	清水 六花	SBO 21, 22
43-44	5/22	12:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(癌腫)	上田 倫弘	SBO 18
45	5/22	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:悪性腫瘍(肉腫・黒 色腫・悪性リンパ腫)	原田 浩之	SBO 18, 19
46-48	5/22	15:50-18:40	歯学部演 習室	実習:切開・縫合	外内 えり奈	SBO 25
49-51	6/1	13:50-16:40	歯学部演 習室	実習:臨床検査	友松 伸允	SBO 24
52-53	6/1	16:50-18:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	講義:炎症	岩崎 拓也	SBO 4, 8
54-56	6/17	12:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	顔面・顎口腔疾患 試験	釘本 琢磨	
57-59	7/1	12:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5	顔面・顎口腔疾患 追再 試験	釘本 琢磨	

成績評価の方法

- ・適宜小テスト等を行い、形成的評価を行う。
- ・受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

各講義・演習の日時・場所・内容を事前に確認の上、準備学習をし、積極的に討論に参加する。

試験の受験資格

- ・全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

構成ユニット

顔面・顎・口腔疾患

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、ユニットの試験に合格していなければならない。なお、ユニットの合否判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、レポート提出内容、および平常学習態度等が評価に加味される。

教科書

最新口腔外科学 = Oral and Maxillofacial Surgery／榎本昭二、道健一、天笠光雄、小村健 監修、榎本、昭二、1936-、道、健一、1936-、天笠、光雄、1946-、:医歯薬出版、2017

外科研修マニュアル／京都大学大学院医学研究科外科学講座編集、京都大学大学院医学研究科外科学講座、:南江堂、2009

口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則、高戸毅 監修、飯田順一郎、伊藤公一、岡野友宏、木村博人、小谷順一郎、齊藤力、佐々木啓一、白砂兼光、須田英明、丹沢秀樹、前田健康、山根源之、山本浩嗣 編集、戸塚、靖則、高戸、毅、1953-、飯田、順一郎、伊藤、公一、1947-、岡野、友宏、

1947-,:朝倉書店, 2019

Oral and maxillofacial surgery / edited by Raymond J. Fonseca, Fonseca, Raymond J., : Saunders, 2000

口腔外科研修ハンドブック / 日本口腔外科学会 編集, 原田 浩之 編集, 桐田 忠昭 編集, 鄭 漢忠 編集, 池邊 哲郎 編集, 岸本 裕充 編集, 日本口腔外科学会, 原田 浩之, 桐田 忠昭, 鄭 漢忠, 池邊 哲郎, 岸本 裕充, : 医歯薬出版, 2022-12-23

ISBN: 9784263423158

書名: 口腔癌

著者名: 桐田忠昭・原田浩之 編集

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2023 年 9 月

参考書

一からわかる口腔外科疾患の診断と治療 / 角保徳, 樋口勝規, 梅村長生 編, 角, 保徳, 1956-, 樋口, 勝規, 梅村, 長生, : 医歯薬出版, 2006

Clinical review of oral and maxillofacial surgery : a case-based approach / Shahrokh C. Bagheri, Bagheri, Shahrokh C., : Elsevier Mosby, 2014

一般臨床家, 口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル = Hand manual of oral & maxillofacial surgery : 口腔外科 year book / 日本口腔外科学会 編, 日本口腔外科学会, : クインテッセンス出版, 2020

備考

ユニット講義内では適宜ケースディスカッションなど AL を行う。

モジュール責任者:

原田浩之 オフィスアワー 火曜日 16:00-17:00

E-mail: hiro-harada.osur@tmd.ac.jp

釘本琢磨 オフィスアワー 月曜日午後 16:00-17:00

E-mail: kugimoto.osur@tmd.ac.jp

時間割番号	021182				
科目名	全身と歯科医療			科目 ID	DD552600L
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	単位数	3
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:講義 46, 実習 6, 試験 5 授業形態:講義・実習 モジュール番号:26					
授業の目的、概要等 1. 歯科医療に必要な臨床医学の基本的知識を身につける。 2. 特別なケアを必要とする患者の全身状態の評価法を学び、それに対する歯科医療の知識と基本的な技能を修得する。 3. 歯科医療に必要な全身管理ならびに麻酔に関する知識と技能を身につける。 E-1-6), E-1-4), F-3-1)-4, G-3-1, E-1-4)-(3)					
準備学習等についての具体的な指示					
試験の受験資格 ユニットごとに受験資格を定める。					
構成ユニット 01 有病高齢者の歯科治療 02 障害と歯科医療 03 歯科医療と麻酔 04 歯科医療と救急医療 05 歯科での局所麻酔					
モジュールの単位判定 すべてのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容及び平常の学習態度などが評価に加味される。					
教科書 歯科麻酔学／一戸達也 [ほか] 編；福島和昭 [ほか] 執筆、一戸、達也、福島、和昭:医歯薬出版, 2026 Miller's anesthesia／editor-in-chief, Michael A. Gropper ; honorary editor, Ronald D. Miller ; co-editors, Neal H. Cohen ... [et al.],Gropper, Michael A.,Miller, Ronald D.,Cohen, Neal H.,:Elsevier, 2020					
備考 前田 茂 maedas.daop@tmd.ac.jp オフィスアワー:火木 16時から18時					

時間割番号	021183			
科目名	有病高齢者の歯科治療	科目ID	DD552601L	
担当教員	猪越 正直[INOKOSHI Masanao]			
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	
実務経験のある教員による授業	該当する	授業形態	対面	
モジュール名:全身と歯科医療				
コマ数:6+1				
授業形態:対面講義				
必要自習時間:6 時間				
ユニット番号:01				
主な講義場所				
対面講義				
7号館5階歯学科講義室5の予定				
授業の目的、概要等				
歯科医療に必要な老年医学の基本的知識を修得する。有病高齢者の歯科医療における特異性について理解する。歯科治療に関わる全身疾患について理解を深める。日本の超高齢者社会における歯科の役割、医科との関わりを理解する。				
授業の到達目標				
1) 加齢による口腔領域ならびに全身の生理的・病的変化を説明できる。				
2) 高齢者の代表的な全身疾患の概念について説明できる。				
3) 高齢者の代表的な全身疾患について自身で調査し、その詳細を理解し応用することができる。				
4) 口腔領域疾患と全身疾患との関連について正確な医学的知識を背景に説明できる。				
5) 歯科治療が高齢者の全身状態に及ぼす有害な影響を最小限にとどめるような全身管理を実践できる。				
6) 超高齢社会において歯科医師の果たすべき役割について説明できる。				
7) 学習した知識を国家試験問題への回答に応用できる。				
コアカリ番号:E-1-4)-(1) 全身管理、E-5-1) 高齢者の歯科治療、E-6 医師と連携するために必要な医学的知識				
授業計画				
回	日付	時刻	講義室	授業内容
1	4/7	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	
2	4/7	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	
3	4/7	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	
4	4/8	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	
5	4/8	13:50-14:40	7号館5階歯学科講義室5	
6	4/8	14:50-15:40	7号館5階歯学科講義室5	
7	5/14	16:50-17:40	7号館5	試験

			階歯学科 講義室 5	
授業方法 ・対面講義とする予定。 ・参加型講義を実施する。				
授業内容 有病高齢者に歯科治療を提供するにあたって必要な知識を学習する。				
成績評価の方法 ・2026 年 5 月 14 日(木)に、筆記試験を行い、総括的評価を行う。 ・筆記試験不合格の場合には適宜レポートによる評価を行う。				
成績評価の基準 ・講義内容について十分な理解ができているかどうか。				
準備学習等についての具体的な指示 循環器、呼吸器、神経の基本的な解剖学と機能について理解する。 他の講義で学習した正常成人のバイタルサインについて理解しておく。 高齢者と一般健常人との一般的な違いを理解しておく。				
試験の受験資格 ・ユニットの全授業時間数のうち、原則として 3 分の 2 以上出席していなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。				
構成ユニット 有病高齢者の歯科治療				
モジュールの単位判定 ユニット最後に実施する筆記試験の成績により、単位判定を行う。				
教科書 高齢者歯科診療ガイドブック／日本老年歯科医学会 監修,下山和弘, 櫻井薫, 深山治久, 米山武義 編:口腔保健協会, 2010 老年医学テキスト／日本老年医学会 編:メジカルビュー社, 2008 全身的偶発症とリスクマネジメント : 高齢者歯科診療のストラテジー／大渡凡人 著,:医歯薬出版, 2012 老年歯科医学／森戸光彦 [ほか] 編,森戸, 光彦,山根, 源之,櫻井, 薫(歯学),羽村, 章,下山, 和弘,柿木, 保明,:医歯薬出版, 2015				
参考書 ハリソン内科学／ダン L ロンゴ ほか 編,福井次矢, 黒川清 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013 老年医学系統講義テキスト : カラー版／日本老年医学会 編集,:西村書店, 2013				
履修上の注意事項 出席に関して:欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡すること(連絡先は備考欄を参照)。講義当日は学生証を用いたカードタッチにより、毎時間出席記録を残すこと(この記録が確認できない場合、出席とならないので十分に注意すること)。				
備考 アクティブラーニングについて:授業中にスライドを見ながら discussion を行う予定であり、適宜発言の機会を与える。 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする予定。 講義担当者:猪越正直 メールアドレス:m.inokoshi.gerd@tmd.ac.jp				

時間割番号	021184						
科目名	障害と歯科医療				科目ID	DD552602L	
担当教員	岩本 勉 楠本 康香, 稲田 穰 塚脇 香苗[IWAMOTO Tsutomu, KUSUMOTO Yasuka, INADA Minoru, TSUKAWAKI Kanae]						
開講時期	2026 年度前期		対象年次		5		
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール名:全身と歯科医療 必要自習時間:2-3 時間 ユニットコマ数:講義 11 コマ+試験 1 コマ ユニット番号:02							
主な講義場所 7 号館 5 階歯学科講義室 5							
授業の目的、概要等 障害者の歯科治療 障害者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。 医師と連携するために必要な医学的知識 患者の症候・病態が生じる原因と、それらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。また医師と連携するために必要な医学的知識を学修し、合併する疾患について必要な知識を検索し、医科歯科連携の必要性と歯科医師の関わり方を説明できる。							
授業の到達目標 ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。E-5-2)① ②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。E-5-2)② ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。E-5-2)③ ④障害者の口腔ケア及び口腔衛生指導を説明できる。E-5-2)④ ⑤全身の症候・病態を説明できる。E-6-① ⑥医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。E-6-②							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/6	12:50-14:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	障害者歯科概論	障害者と医療・福祉 障害と定義 国際生活機能分類 ノーマライゼーション バリアフリー 障害者基本法	楠本 康香	【到達目標】① ③ 【学習方法】対面講義 【事前学習】講義資料確認
3-5	4/6	14:50-17:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	障害者歯科各論	発達障害 身体障害 自閉スペクトラム症 てんかん 筋ジストロフィー Down 症候群 視覚障害 聴覚障害	楠本 康香	【到達目標】① ③ 【学習方法】対面講義 【事前学習】講義資料確認 【
6-7	4/15	12:50-14:40	7 号館 5 階歯学科講義室 5	有病者の歯科治療	循環器疾患 糖尿病 膠原病 血液疾患	楠本 康香	【到達目標】⑤ ⑥ 【学習方法】対面講義 【事前学習】講義資料

							確認
8	4/15	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	行動調整法	行動療法 体動コントロール	楠本 康香	【到達目標】② 【学習方法】対面 講義 【事前学 習】講義資料確認 【到達目標】4)
9	4/15	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	行動調整法	障害者歯科における全身麻酔 精 神鎮静法	塚脇 香苗	【到達目標】② 【学習方法】対面 講義 【事前学 習】講義資料確 認
10	4/15	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	障害者の歯科治療と口 腔保健指導	医療面接 行動観察 事故防止 口腔保健指導	楠本 康香	【到達目標】④ 【学習方法】対面 講義 【事前学 習】講義資料確 認
11	5/19	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	障害者歯科各論	脳性麻痺	稲田 穰	【到達目標】① ③ 【学習方法】 対面講義 【事前 学習】講義資料確 認
12	6/17	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5		試験		
13	7/2	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5		追再試験		

授業方法

講義および演習(対面)

授業内容

【概論】障害の定義 障害の概念について学習する

【各論】各種の障害とその特徴、歯科的問題、歯科的対応について学習する

成績評価の方法

試験受験資格は講義の 2/3 以上(8 コマ)出席を必要とする。

ユニット最終日に筆記試験を行い、総括的評価を行う。

成績評価の基準

「到達目標」に明示している事項について、講義内容より概ね達成できている場合は B、発展的に学習して自ら教員の課題の解決策等について具体的に論述できる場合は B より上とする。

準備学習等についての具体的な指示

資料に目を通して講義に臨むこと。

参考書を読んでおくことが望ましい。

講義に関する質問については、講義中もしくは科目担当(楠本)までメールにて随時受け付ける

試験の受験資格

対面講義はできる限り出席することが望ましい。問題が生じた場合には、科目責任者(楠本)までメールで必ず連絡すること。

構成ユニット

全身と歯科治療

参考書

スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科／日本障害者歯科学会 編集:医歯薬出版, 2017
障害者歯科／向井美穂 他著:医歯薬出版, 2013

履修上の注意事項

「試験の受験資格」に記載された内容を熟読し、受験資格を喪失しないよう、注意を払う事

備考

前年度履修学生の科目評価、指摘をもとに、講義進行に合わせて資料を配布する

アクティブラーニング:ケース演習を行う

担当教員の Office hour 設けていないが、必要に応じて事前連絡の上相談とする

楠本康香 小児歯科学・障害者歯科学分野 yasu.dpd@tmd.ac.jp

時間割番号	021185					
科目名	歯科医療と麻酔			科目ID	DD552603L	
担当教員	前田 茂, 宮脇 卓也, 讃岐 拓郎, 伊藤 孝哉, 浅野 早哉香, 河内 亜希, 西岡 由紀子[MAEDA Shigeru, MIYAWAKI , SANUKI Takuroh, ITO Takaya, ASANO Sayaka, KAWAUCHI Aki, NISHIOKA Yukiko]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
モジュール名:全身と歯科医療 ユニットコマ数:講義 18 コマ+実習 6 コマ+試験 1 コマ 必要自習時間:2-3 時間 授業形態:講義 ユニット番号:02						
主な講義場所 7 号館 5 階歯学科講義室 5						
授業の目的、概要等 歯科医療に必要な麻酔学の知識を修得する。歯科医療との関連性を理解する。						
授業の到達目標 1) 歯科医療における麻酔学の役割を理解できる。 2) 全身状態評価の概要を理解できる。D-2-3 3) モニタリングについて理解できる。D-2-3-2 4) 麻酔薬について理解できる。D-1-2-1-2, D-1-2-2-2, D-1-2-2-3, D-1-2-3-2 5) 血液ガス分析について理解できる。 6) 全身麻酔法について理解できる。D-1-2-3 7) 精神鎮静法について理解できる。D-1-2-2						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/24	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	循環生理		前田 茂
2	4/24	10:00-10:50	遠隔授業 (非同期型)	循環生理、腎機能		前田 茂
3	4/24	11:00-11:50	遠隔授業 (非同期型)	呼吸生理		讃岐 拓郎
4	5/7	09:00-09:50	遠隔授業 (同期型)	術前評価 1		伊藤 孝哉
5	5/7	10:00-10:50	遠隔授業 (同期型)	術前評価 2		伊藤 孝哉
6	5/12	09:00-09:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	ストレス反応		前田 茂
7	5/12	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	心電図		前田 茂
8	5/12	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	血液ガス分析		佐藤 曾士

9	5/14	12:50-13:40	遠隔授業 (非同期 型)	麻酔薬		前田 茂
10	5/14	13:50-14:40	遠隔授業 (非同期 型)	モニタリング		前田 茂
11	5/19	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	精神鎮静法1		前田 茂
12	5/19	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	精神鎮静法2		前田 茂
13	5/19	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	概論		宮脇 卓也
14	5/20	13:50-14:40	遠隔授業 (非同期 型)	全身麻酔1		前田 茂
15	5/20	14:50-15:40	遠隔授業 (非同期 型)	全身麻酔2		前田 茂
16	5/20	15:50-16:40	遠隔授業 (非同期 型)	全身麻酔3		前田 茂
17	5/20	16:50-17:40	遠隔授業 (非同期 型)	全身麻酔4		前田 茂
18	5/20	17:50-18:40	遠隔授業 (非同期 型)	全身麻酔5		前田 茂
19	5/29	09:00-09:50	歯学部演 習室 口 腔保健学 科相互実 習室	実習		前田 茂 伊 藤 孝哉 河 内 亜希 浅 野 早哉香 西岡 由紀子
20	5/29	10:00-10:50	歯学部演 習室 口 腔保健学 科相互実 習室	実習		前田 茂 浅 野 早哉香 河内 亜希 伊藤 孝哉 西岡 由紀子
21	5/29	11:00-11:50	歯学部演 習室 口 腔保健学 科相互実 習室	実習		前田 茂 浅 野 早哉香 河内 亜希 伊藤 孝哉 西岡 由紀子
22	5/29	12:50-13:40	歯学部演 習室 口 腔保健学 科相互実	実習		前田 茂 浅 野 早哉香 河内 亜希 伊藤 孝哉

連絡先(メールアドレス)

前田 茂:maedas.daop@tmd.ac.jp

伊藤 孝哉:tito.anph@tmd.ac.jp

オフィスアワー

前田 茂:毎週火曜日 4pm-8pm 10号館4階教授室

毎週金曜日 3pm-5pm 同上

伊藤 孝哉:伊藤孝哉:毎週火曜日 5pm-7pm 10号館4階教員室

毎週水曜日 3pm-6pm 同上

毎週木曜日 5pm-7pm 同上

時間割番号	021223				
科目名	歯科での局所麻酔			科目ID	
担当教員	前田 茂, 伊藤 孝哉, 西岡 由紀子, 船山 拓也[MAEDA Shigeru, ITO Takaya, NISHIOKA Yukiko, FUNAYAMA Takuya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名:全身と歯科医療 ユニットコマ数:講義 10 コマ+試験 1 コマ 必要自習時間:2-3 時間 授業形態:講義 ユニット番号:05					
主な講義場所 7 号館 5 階歯学科講義室 5					
授業の目的、概要等 歯科医療に必要な局所麻酔に関する知識を修得する。					
授業の到達目標 1) 局所麻酔薬の概要を理解できる。 2) 血管収縮薬の概要を理解できる。 3) 局所麻酔の合併症について理解できる。 4) 局所麻酔に関わる解剖について理解できる。 5) 局所麻酔の手技について理解できる。 D-1-2-1-1, D-1-2-1-2, D-1-2-1-3, D-1-2-1-4, D-1-2-1-5					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/13	09:00-09:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	歯科麻酔学の歴史、神経生理	前田 茂
2	4/13	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	局所麻酔の偶発症 1	船山 拓也
3	4/13	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	局所麻酔の偶発症 2	船山 拓也
4	4/15	09:00-09:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	概論、歯科麻酔科医	飯島 毅彦
5	4/15	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	局所麻酔 1	伊藤 孝哉
6	4/15	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	局所麻酔 2	伊藤 孝哉
7	4/22	09:00-09:50	遠隔授業 (同期型)	局所麻酔 3	伊藤 孝哉
8	4/22	10:00-10:50	遠隔授業 (同期型)	局所麻酔 4	伊藤 孝哉
9	4/22	11:00-11:50	遠隔授業	局所麻酔の実際 1	西岡 由紀子

			(非同期型)		
10	5/11	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	局所麻酔の実験2	西岡 由紀子
授業方法 主に対面の講義による。					
授業内容 局所麻酔薬の基本的な作用機序、各種麻酔薬について、血管収縮薬、合併症などの説明を行う。					
成績評価の方法 出席を満たした上で、授業の到達目標に沿った筆記試験を行う。					
成績評価の基準 最終の筆記試験で60点以上を合格とする。					
準備学習等についての具体的な指示 事前の配布資料に目を通しておくこと。					
試験の受験資格 ・全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。					
教科書 歯科麻酔学第9版／宮脇 卓也、水田 健太郎、讃岐 拓郎、福島 和昭、一戸 達也、1956-、北畑 洋、嶋田 昌彦、一戸達也、宮脇卓也、水田健太郎、讃岐拓郎 編集：医歯薬出版、2026.1					
備考 前田 茂 maedas.daop@tmd.ac.jp オフィスアワー 火木 16-18時 4月14日の対面講義ではアクティブラーニングとして学生の発言を求める。					
連絡先(メールアドレス) 前田 茂 maedas.daop@tmd.ac.jp 船山 拓也 funaanph@tmd.ac.jp 伊藤 孝哉 tito.anph@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 前田 茂 毎週火曜日 4pm-8pm 10号館4階教授室 毎週金曜日 3pm-5pm 同上 船山 拓也 16:30-17:30 10号館4階 麻酔・生体管理学分野 助講師室 伊藤 孝哉・伊藤孝哉 毎週火曜日 5pm-7pm 10号館4階教員室 毎週水曜日 3pm-6pm 同上 毎週木曜日 5pm-7pm 同上					

時間割番号	021186				
科目名	歯科医療と救急医療			科目ID	DD552604L
担当教員	前田 茂, 樺沢 勇司[MAEDA Shigeru, KABASAWA Yuji]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール名:全身と歯科医療 ユニットコマ数:2コマ+試験1コマ+実習 必要自習時間:2—3 時間 授業形態:講義 ユニット番号:05					
主な講義場所 7 号館 5 階歯学科講義室 5					
授業の目的、概要等 歯科医療に必要な救急医学の基本的知識を習得する。歯科医療との関連性を理解する。					
授業の到達目標 コアカリ E-1-2 1) 歯科治療に際しての全身的ならびに局所的な偶発症を理解できる。 2) 歯科治療に際しての全身的ならびに局所的な偶発症に対処できる。 3) 心肺蘇生法が行える。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/13	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	一次救命処置	樺沢 勇司
2	5/13	10:00-10:50	遠隔授業 (非同期型)	二次救命処置	樺沢 勇司
3	5/13	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5		
4	5/20	09:00-09:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5		
5	5/20	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5		
6	5/20	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5		
授業方法 講義は主にウェブクラスのオンデマンドで行う。					
授業内容 詳細は別授業日程表のとおり					
成績評価の方法 出席状況、実習の習熟度、および授業の到達目標に沿った試験により評価する。					
成績評価の基準 出席状況、実習の習熟度を満たした上で、試験で 60 点以上を合格とする。					

準備学習等についての具体的な指示 実習と連携して行うため、実習前には知識の習得が必須となる。特に BLS, ACLS のフローチャートを事前に予習しておくことを求める。
試験の受験資格 講義は Webclass の視聴を必須とする。実習は全て参加を必須とする。受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
構成ユニット 01 一次救命処置 02 二次救命処置 03 実習
モジュールの単位判定 試験・レポート内容に加え実習成績を加味し、総括的に評価する。
教科書 歯科麻酔学／一戸達也ら編:医歯薬出版, 2026 BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠 ACLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠
履修上の注意事項 実習への出席は必須である。
備考 前田 茂 maedas.daop@tmd.ac.jp オフィスアワー 火木 16-18 時
連絡先(メールアドレス) 前田 茂:maedas.daop@tmd.ac.jp 樺沢 勇司:kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp
オフィスアワー 前田 茂:毎週火曜日 4pm-8pm 10 号館 4 階教授室 毎週金曜日 3pm-5pm 同上 樺沢 勇司:平日 PM5 時以降 可能ならば事前にメール等でご連絡下さい。 1 号館 8 階 健康支援口腔保健衛生学分野 教授室

時間割番号	021188				
科目名	発展歯科臨床			科目ID	DD552700L
担当教員	三浦 雅彦[MIURA Masahiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	単位数	4
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール総コマ数:講義 68 コマ+試験 6 コマ 自習時間:13 時間程度 モジュール番号:27					
主な講義場所 ・対面講義:7 号館 5 階歯学科講義室 5 ・遠隔講義:同期 Zoom、非同期ビデオ 各ユニットごとに事前に確認すること。					
授業の目的、概要等 発展的な専門歯科領域における診断・治療法の基本を習得する。					
授業の到達目標 01:臨床歯科放射線診断 1)口腔顎顔面領域の嚢胞、良性腫瘍や炎症の画像所見を理解し、診断できる。 2)口腔顎顔面領域の悪性腫瘍の画像所見を理解し、診断できる。 3)顎関節疾患の画像所見を理解し、診断できる。 4)唾液腺疾患の画像所見を理解し、診断できる。 5)全身疾患や先天異常と関連する口腔顎顔面領域の特徴的画像所見を理解し、診断できる。 コアカリ:E-1ー2) 02:臨床歯科放射線治療 1) 放射線の物理学的特性を説明できる。 2) 放射線の生物学的効果を説明できる。 3) 治療可能比を説明できる。 4) 種々の腫瘍に対する外照射と小線源治療の特徴を説明できる。 5) 放射線治療の適応を診断できる。 5) 分割照射の特徴を説明できる。 6) 口腔がんに対する放射線治療の特徴を説明できる。 7) 口腔がんの放射線治療成績を説明できる。 コアカリ:E-2-4)-(6) 03:スポーツ歯科臨床 1)歯科領域のスポーツ傷害の診断・治療および予防(安全対策)について説明できる。 2)マウスガードおよびフェイスガードの調製法について説明できる。 3)咬合と運動機能の関わりについて説明できる。 4)スポーツのためのデンタルチェックについて説明できる。 04:顎機能障害 1)顎機能障害(顎関節症)の定義を理解し説明できる。E-2-1)-③⑥⑦ E-2-4)-(7)-①② 2)顎機能障害(顎関節症)の病態分類を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 3)顎機能障害(顎関節症)の診査を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 4)顎機能障害(顎関節症)の診断方法を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 5)顎機能障害(顎関節症)の治療方法を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 6)ブラキシズム(睡眠時/覚醒時)について理解し説明できる。					

05:こころの病と歯科臨床

- 1)心身相関を説明できる。
- 2)口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。
- 3)心理テストの目的と意義を説明できる。
- 4)舌痛症を説明できる。
- 5)歯科治療恐怖症を説明できる。
- 6)心身医学的治療を説明できる。

コアカリ:E-5-3)

06:ケーススタディ

- 1)歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる

コアカリ:G-1-1)

07:口腔顔面痛

- 1)口腔顔面痛を分類できる。
- 2)口腔顔面痛の発生機序を理解する。
- 3)口腔顔面痛の診断基準を説明できる。
- 4)東洋医学的疼痛管理について理解できる。
- 5)有効な治療法を選択できる。

コアカリ:D-3-1-9-1, D-3-1-9-2, D-3-1-9-3, D-3-1-9-4, D-3-1-9-5

成績評価の方法

各ユニットの評価結果をもとに成績評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

各ユニットの指示に従うこと。

試験の受験資格

各ユニットの受験資格を満たしていること。

構成ユニット

- 01:臨床歯科放射線診断
- 02:臨床歯科放射線治療
- 03:スポーツ歯科臨床
- 04:顎機能障害
- 05:こころの病と歯科臨床
- 06:ケーススタディ
- 07:口腔顔面痛

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

備考

モジュール責任者:三浦雅彦

オフィスアワー:月・水・金、16:00～18:00、D 棟北 12 階教授室

メールアドレス:masa.mdth(@)tmd.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えて下さい。

各ユニットとも前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とするが、自己点検により改善点があればそれを実施する。

時間割番号	021189					
科目名	臨床歯科放射線診断			科目ID	DD552701L	
担当教員	渡邊 裕[WATANABE Hiroshi]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
モジュール名:発展歯科臨床 コマ数:8+1 必要自習時間:3時間 授業形態:講義 ユニット番号:01						
主な講義場所 講義は、WebClass および 7 号館 5F_歯講義室 5 で行う。						
授業の目的、概要等 発展的な専門歯科領域における診断・治療法の基本を習得する。						
授業の到達目標 1) 口腔顎顔面領域の嚢胞、良性腫瘍や炎症の画像所見を理解し、診断できる。 2) 口腔顎顔面領域の悪性腫瘍の画像所見を理解し、診断できる。 3) 顎関節疾患の画像所見を理解し、診断できる。 4) 唾液腺疾患の画像所見を理解し、診断できる。 5) 全身疾患や先天異常と関連する口腔顎顔面領域の特徴的画像所見を理解し、診断できる。 歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度版において、 E-1-3) 画像検査を用いた診断 に該当。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	5/21	09:00-10:50	遠隔授業 (非同期型)	顎骨の画像診断		中村 伸
3	5/21	11:00-11:50	遠隔授業 (非同期型)	顎骨の画像診断		渡邊 裕
4	5/27	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	顎骨の画像診断		渡邊 裕
5-6	5/27	10:00-11:50	遠隔授業 (非同期型)	顎骨/軟組織疾患の画像診断		栗林 亜実
7-8	5/28	12:50-14:40	7号館5階歯学科講義室5	顎骨/軟組織疾患の画像診断		渡邊 裕
9	6/16	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5		試験	渡邊 裕
10	6/30	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5		追再試験	渡邊 裕
授業方法						

講義は、WebClass によるオンデマンドおよび Zoom 上ライブで行う。
授業内容 発展的な専門歯科領域における診断・治療法の基本について、講義、演習を行う。
成績評価の方法 ・6月16日の筆記試験を総括的評価とする。 ・6月16日の筆記試験に不合格の場合には、6月30日に再試験を行う。
準備学習等についての具体的な指示 ・本ユニットは、D3 ユニット「歯科放射線基礎」の発展型となりますので、あらかじめ過去の内容についての知識を深めておいてください。
試験の受験資格 ・東京科学大学試験規則第5条第3項の規定に基づく ・出席は取らず、テストで採点する。
参考書 歯科臨床における画像診断アトラス 第2版／日本歯科放射線学会 編：医歯薬出版、2020 歯科放射線診断 teaching file 第4版／金田隆、倉林亨、佐野司 編著、金田、隆、1959-、倉林、亨、1957-、佐野、司：砂書房、2019 基本臨床画像診断／佐野司、倉林亨 編著：医歯薬出版、2014 DIAGNOSTIC IMAGING: ORAL AND MAXILLOFACIAL／Koenig LJ ed.:ELSEVIER、2017 歯科放射線学 第6版／岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集、岡野、友宏、1947-、小林、馨、1955-、有地、榮一郎：医歯薬出版、2018 顎・口腔の CT・MRI = CT and MRI of the Jaw and Oral Cavity／酒井修、金田隆 編集：メディカル・サイエンス・インターナショナル、2016
履修上の注意事項 ・講義のコマ数に対して初めて聞く放射線関連の用語が多いと重されるので、あらかじめ LMS 上にあるプリントに目を通しておいください。
備考 ・ユニット授業においては、AL(ケース演習)を行う。 ・前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。 ・科目責任者：渡邊 裕 オフィスアワー(火木午前、水午後) 連絡先：hiro.orad@tmd.ac.jp

時間割番号	021190					科目ID	DD552702L
科目名	臨床歯科放射線治療						
担当教員	三浦 雅彦[MIURA Masahiko]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
モジュール名:発展歯科臨床 ユニットコマ数(授業コマ数+試験コマ数):6+1 必要自習時間:3時間 授業形態:講義(一部討論) ユニット番号:02							
主な講義場所 ・対面講義:7号館5階歯学科講義室5 ・遠隔講義(WebClass)							
授業の目的、概要等 種々の腫瘍に対する従来の放射線療法、高精度放射線治療、粒子線治療がどのように行われているかを、その診断・治療法の変遷とともに物理的、生物学的な要素を含めて理解する。口腔・顎顔面領域がんに対する放射線療法、特に小線源治療の有効性について理解する。症例も提示し、どのような放射線治療が適応となるかについて討論する。							
授業の到達目標 1)放射線の物理学的特性を説明できる。 2)放射線の生物学的効果を説明できる。 3)治療可能比を説明できる。 4)種々の腫瘍に対する外照射と小線源治療の特徴を説明できる。 5)放射線治療の適応を診断できる。 5)分割照射の特徴を説明できる。 6)口腔がんに対する放射線治療の特徴を説明できる。 7)口腔がんの放射線治療成績を説明できる。 コアカリ番号 E-2-4)-(6)							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	「講義」放射線物理学	放射線腫瘍学に必要な物理学	渡邊 裕	到達目標 1)・非同期ビデオ
2	6/10	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	「講義」放射線腫瘍学概論	口腔がん以外の他領域がんに対する外照射・小線源治療	吉村 亮一	到達目標 4)・5)・対面講義
3	6/10	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	「講義」放射線腫瘍学概論	口腔がん以外の他領域がんに対する外照射・小線源治療	吉村 亮一	到達目標 4)・5)・対面講義
4	6/11	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	「講義」放射線生物学	放射線腫瘍学に必要な生物学	戒田 篤志	到達目標 2)・対面講義
5	6/11	10:00-10:50	7号館5	「講義」放射線腫瘍学各	口腔がんに対する外照射・小線	三浦 雅彦	到達目標 3)・7)・

			階歯学科 講義室 5	論	源治療		対面講義
6	6/11	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	「講義」放射線腫瘍学各 論	口腔がんに対する外 照射・小線 源治療	三浦 雅彦	到達目標 3)~7)・ 対面講義
7	6/16	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	試験		三浦 雅彦	
8	6/30	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科 講義室 5	追再試験		三浦 雅彦	

授業方法

講義(対面講義を基本とするが一部遠隔非同期配信を行う)

授業内容

放射線治療に関する物理学、生物学を含め、臨床的な内容の総論並びに口腔癌に関する各論的な内容について講義を行う。

成績評価の方法

2026 年 6 月 16 日(ユニット最終日)の筆記試験を実施する。また授業への出席および発表による統括的評価とする。
適宜レポートによる評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

D3 で学んだ放射線物理と放射線生物学の復習をしておくこと。

試験の受験資格

- ・3分の2以上の出席を必要とする。
- ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

構成ユニット

02 臨床歯科放射線治療

参考書

放射線医科学：生体と放射線・電磁波・超音波／大西, 武雄, 1944-, 松本, 英樹, 1955-, 近藤, 隆, 1952-, 島田, 義也, 田内, 広, 分子生物学, 大西武雄 監修, 松本英樹 副監修, 近藤隆, 島田義也, 田内広, 平岡真寛, 三浦雅彦, 宮川清, 宮越順二 編集: 医療科学社, 2016.10
Radiobiology for the radiologist, 8th ed／Eric J. Hall, Amato J. Giaccia: Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2019
臨床放射線腫瘍学 = Clinical Radiation Oncology：最新知見に基づいた放射線治療の実践／日本放射線腫瘍学会, 日本放射線腫瘍学研究会 編集: 南江堂, 2012
放射線医科学：生体と放射線・電磁波・超音波

履修上の注意事項

WebClass にアップロードした資料を予習すること。 全授業から試験問題を出題するため、授業に出席し知識を深める。

備考

前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

対面講義にて AL(一部討論)を行う。

WebClass 情報、Zoom 情報は、授業前に授業明細に掲載するので確認すること。

三浦雅彦 masa.mdt@tmd.ac.jp

* E-mail は上記アドレス(@)の部分を変えて下さい。

時間割番号	021191					
科目名	スポーツ歯科臨床			科目ID	DD552703L	
担当教員	中禮 宏[CHUREI Hiroshi]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
モジュール名:発展歯科臨床 授業形態:対面講義＋WebClass 学習 ユニット時間数:6 コマ 必修 ユニット番号:03						
主な講義場所 対面講義 一部 非同期リモート						
授業の目的、概要等 スポーツ医歯学の基本的知識を習得し、スポーツ医歯科学サポートの在り方を理解する。 スポーツに関する外傷(E-2-4)-(2))も網羅する						
授業の到達目標 1) 歯科領域のスポーツ傷害の診断・治療および予防(安全対策)について説明できる。 2) マウスガードおよびフェイスガードの調製法について説明できる。 3) 咬合と運動機能の関わりについて説明できる。 4) スポーツのためのデンタルチェックについて説明できる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	5/18	16:50-17:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 総論(1)	総論(1)	中禮 宏
2	5/18	17:50-18:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 総論(2)	総論(2)	中禮 宏
3	5/21	16:50-17:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 臨床(1)	マウスガード: 調製法と症例(1)	中禮 宏
4	5/21	17:50-18:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 臨床(2)	マウスガード: 調製法と症例(2)	中禮 宏
5	6/1	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 臨床(3)	スポーツ歯科外来の臨床	中禮 宏
6	6/4	17:50-18:40	7号館5階歯学科講義室5	スポーツ歯科医学 臨床(4)	スポーツ外傷への対応	中禮 宏
7	6/15	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5		試験	中禮 宏
成績評価の方法 ・ユニット最終日の筆記試験による総括的評価を行い、合否を判定する。						
準備学習等についての具体的な指示						

事前に資料が配布または WebClass にアップされた場合は予習してから講義に出席すること。
試験の受験資格 ・3分の2以上出席を必要とする。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
モジュールの単位判定 モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。
教科書 要説スポーツ歯科医学／石上 恵一, 1950-, 上野 俊明, 1967-, 川良 美佐雄, 石上恵一, 上野俊明, 川良美佐雄, 前田芳信, 安井利一 編集:医学情報社, 2015.1 実践スポーツマウスガード：製作・調整と競技別サポート／大山喬史 監修, 上野俊明 編集, 大山 喬史, 1939-, 上野 俊明, 1967-, :医学情報社, 2014 スポーツ歯科臨床マニュアル／日本スポーツ歯科医学会編, 日本スポーツ歯科医学会, :医学情報社, 2021 外傷歯保護のための口腔内装置：保険適用と患者対応／杉山 義祥, 安井 利一, 柳川 忠廣, 上野 俊明, 柳川 忠廣, 杉山義祥, 安井利一, 柳川忠廣 監修, 上野俊明 [ほか] 編集, 柳川忠廣 [ほか] 執筆:医学情報社, 2024.6
参考書 要説スポーツ歯科医学／石上恵一, 上野俊明, 川良美佐雄, 前田芳信, 安井利一 編集, 石上 恵一, 1950-, 上野 俊明, 1967-, 川良 美佐雄, :医学情報社, 2015 実践スポーツマウスガード：製作・調整と競技別サポート／大山喬史 監修, 上野俊明 編集, 大山 喬史, 1939-, 上野 俊明, 1967-, :医学情報社, 2014 スポーツ歯科入門ハンドブック：健康スポーツ歯科をめざして／安井利一, 杉山義祥 編著, 姫野かつよ [ほか] 著, :医学情報社, 2009 スポーツ歯科臨床マニュアル／日本スポーツ歯科医学会 編:医学情報社, 2007 医師・歯科医師のための口腔診療必携：困ったときのマニュアル・ヒント集 202／青木茂樹 [ほか] 編, 高戸毅 監修, :金原出版, 2010 口と歯の事典／高戸毅 天笠光雄 葛西一貴 古郷幹彦 須佐美隆史 鈴木茂彦 谷口尚 新美成二 編:朝倉書店, 2008 スポーツ指導者のためのスポーツ医学／小出清一, 福林徹 河野一郎 編:南江堂, 2009 新スポーツのためのメディカルチェック／村山正博 監修, 武者春樹 編:南江堂, 2002 Textbook and color atlas of traumatic injuries to the teeth／Andreasen, J. O., Andreasen, Frances M., Andersson, Lars, edited by Jens O. Andreasen, Frances M. Andreasen, Lars Andersson:Wiley Blackwell, 2019. スポーツ医科学／中野昭一 編:杏林書院, 1999
履修上の注意事項 事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

時間割番号	021192			
科目名	顎機能障害		科目ID	DD552704L
担当教員	西山 暁[NISHIYAMA Akira]			
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	
実務経験のある教員による授業	該当する		授業形態	対面
モジュール名:発展歯科臨床(27) ユニット名:顎機能障害(4) ユニットコマ数:全8コマ 必要自習時間:1 時間程度 授業形態:遠隔講義(一部演習あり)				
主な講義場所 遠隔授業/WebClass				
授業の目的、概要等 顎関節症について、疫学、病態、診査法、診断、治療法の基礎的知識を習得する。また、顎関節症の寄与因子の一つであるブラキシズム(睡眠時、覚醒時)の基本的知識を習得する。				
授業の到達目標 1. 顎機能障害(顎関節症)の定義を理解し説明できる。E-2-1)-③⑥⑦ E-2-4)-(7)-①② 2. 顎機能障害(顎関節症)の病態分類を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 3. 顎機能障害(顎関節症)の診査を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 4. 顎機能障害(顎関節症)の診断方法を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 5. 顎機能障害(顎関節症)の治療方法を理解し説明できる。E-2-4)-(7)-①② E-2-4)-(10)-⑪ 6. ブラキシズム(睡眠時/覚醒時)について理解し説明できる。				
授業計画				
回	日付	時刻	講義室	授業内容
1	5/25	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室5	
2	5/25	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	
3	5/25	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	
4	6/2	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5	
5	6/2	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5	
6	6/2	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5	
7	6/2	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室5	
8	6/2	17:50-18:40	7号館5	

			階歯学科 講義室 5		
9	6/15	10:00-10:50	7号館 5 階歯学科 講義室 5	試験	
授業方法 1. 対面での講義 2. グループ討論および発表 ※「顎関節症治療の指針 2024」を教科書とする(試験範囲となる)					
授業内容 顎機能障害(主として顎関節症)に関する基本的内容 ブラキシズムに関する基本的内容					
成績評価の方法 主に試験の成績を基準とするが、演習の参加状況および発表内容も加味して総合的に判断する。 なお、グループ発表の出来栄については、グループメンバー全員の統一評価とみなす。					
成績評価の基準 筆記試験の得点が 60 点以上を合格とする					
準備学習等についての具体的な指示 本授業は、日本学顎関節学会が出している「顎関節症治療の指針 2024」(https://kokuhoken.net/jstmj/publication/file/guideline/guideline_treatment_tmj_2024_draft.pdf)をテキストとして用い、この内容を事前学習していることを前提に実施します(※本 PDF ファイルは無料でダウンロード可能です)。また、試験範囲は本資料全般とします。					
試験の受験資格 遠隔授業に 6 コマ以上出席					
教科書 新編顎関節症／日本顎関節学会、日本顎関節学会 編：永末書店、2013.8 「顎関節症治療の指針 2024」(https://kokuhoken.net/jstmj/publication/file/guideline/guideline_treatment_tmj_2024_draft.pdf)					
他科目との関連 口腔顔面痛の内容と一部関連します。					
履修上の注意事項 本授業では、Zoom による双方向授業を予定しています。講義中に知識確のための質問やや、グループディスカッションを行ってもらいます。					
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はないが、自己点検により(改善内容)とする予定 連絡先：西山 暁：anishi.tmj@tmd.ac.jp (研究室：D 棟 11 階 総合診療歯科学分野 第1研究室)					

時間割番号	021193						
科目名	こころの病と歯科臨床			科目ID	DD552705L		
担当教員	豊福 明, 渡邊 素子, 須賀 隆行[TOYOFUKU Akira, WATANABE Motoko, SUGA Takayuki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
モジュール(科目)名:発展歯科臨床 モジュール(科目)番号:27 ユニット名:こころの病と歯科臨床 ユニット番号:05 ユニットコマ数:13 + 1 (講義 13 コマ、試験 1 コマ) 必要自習時間:各自適宜 授業形態:講義および演習							
主な講義場所 対面講義を基本とする。状況によって zoom による遠隔講義とする場合もある。							
授業の目的、概要等 歯科医療に必要な精神医学および歯科心身医学の基本的知識を修得する。 精神医学と歯科医療との関連性について討論し、理解を深める。 歯科医療に必要な歯科心身医学的対応について演習し、理解を深める。							
授業の到達目標 E-5-3) 精神・心身医学的疾患 1. 心身相関を説明できる。 2. 口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。 3. 心理テストの目的と意義を説明できる。 4. 舌痛症を説明できる。 5. 歯科治療恐怖症を説明できる。 6. 心身医学的治療を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/22	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	講義 歯科心身医学総論	AL	豊福 明	討論あり 講義内容、担当教員は変更になる場合があります。
2	5/22	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	講義 口腔灼熱症候群(舌痛症)	AL	須賀 隆行	討論あり 講義内容、担当教員は変更になる場合があります。
3	5/22	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	講義 非定型歯痛	AL	豊福 明, 渡邊 素子, 須賀 隆行	討論あり 講義内容、担当教員は変更になる場合があります。
4	6/5	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	講義 気分障害・不安症(不安障害)	AL	藤野 純也	討論あり 講義内容、担当教員は変更になる場合があります。
5	6/5	10:00-10:50	7号館5	講義 統合失調症	AL	田村 起紘	討論あり 講義

			階歯学科 講義室 5				内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
6	6/5	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 パーソナリティ症 (パーソナリティ障害)	AL	治徳 大介	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
7	6/8	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 歯科における精 神疾患患者の見極め方	AL	竹之下 美穂	演習あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
8	6/8	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 認知症	AL	竹内 崇	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
9	6/8	16:50-17:40	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 てんかん	AL	宮島 美穂	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
10	6/8	17:50-18:40	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 睡眠障害・神経 発達症(発達障害)	AL	高木 俊輔	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
11	6/12	09:00-09:50	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 口腔セネストパ チー(口腔異常感症)	AL	梅崎 陽二郎	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
12	6/12	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 開業医における 歯科心身医療	AL	吉川 達也	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
13	6/12	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室 5	講義 咬合違和感症候 群	AL	渡邊 素子	討論あり 講義 内容、担当教員 は変更になる場 合があります。
14	6/19	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室 5	試験		豊福 明、渡 邊 素子、須 賀 隆行	

授業方法

可及的に討論の場を設ける。

対面講義

授業内容

精神科的疾患および歯科心身症について、総論および各論にわけて授業を実施する。

成績評価の方法

- ・ユニット最終日に、筆記試験を行い、形成的評価を行う。
- ・適宜レポートによる形成的評価を行う。

成績評価の基準

総合評価として習熟度 60%以上を単位認定の基準とする。

準備学習等についての具体的な指示 精神疾患患者が歯科受診した場合の対処法、および歯科心身症の診断や治療について理解するため、教科書・参考書やインターネットなどを用いて疾患概念や病態および治療法などに関する予習をしておく。
試験の受験資格 ・ユニット後に、全授業時間数のうち、3分の2以上出席していなければならない。 ・受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。 ・レポート提出により受験資格を認めることがある。
モジュールの単位判定 本ユニットの総合評価として習熟度 60%以上を単位認定の基準とし、単位を認定する。
教科書 歯科心身医学／日本歯科心身医学会 編：日本歯科心身医学会，2003 ACP 内科医のための「こころの診かた」：ここから始めるあなたの心療／Robert K.Schneider, James L.Levenson [著]井出広幸, 内藤宏 監訳PIPC 研究会 訳：丸善，2009 精神科専門医のためのプラクティカル精神医学／山内俊雄 総編集,岡崎祐士, 神庭重信, 小山司, 武田雅俊 編：中山書店，2009 心身医療と歯科医療：歯・口腔・顎と心と健康科学／都温彦 編著：新興医学出版社，2005 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル／American Psychiatric Association [編],日本精神神経学会 日本語版用語監修,高橋三郎, 大野裕 監訳,染矢俊幸, 神庭重信, 尾崎紀夫, 三村将, 村井俊哉 訳：医学書院，2014
参考書 ヒーリー精神科治療薬ガイド／デイヴィッド・ヒーリー [著]田島治, 江口重幸 監訳冬樹純子 訳：みすず書房，2009 カプラン臨床精神医学ハンドブック：DSM-V 診断基準による診療の手引／ベンジャミン・J.サドック, パージニア・A.サドック 編,融道男, 岩脇淳 監訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル，2020 プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理／杉山直也/河西千秋/井出広幸/宮崎 仁：南山堂 口腔内科学／山根源之/草間幹夫/久保田英朗：永末書店
他科目との関連 歯科領域における様々な疾患の診断学に関連する。
履修上の注意事項 やむを得ない事由により出席日数が受験資格に満たない場合は、試験前に担当教員に連絡すること。（受験資格を付与するものではありません）
備考 本ユニットの講義では可及的に討論の場を設ける。 授業内容、担当者が変更になる可能性がある。 豊福明 toyoompm(@)tmd.ac.jp 渡邊素子 totoompm(@)tmd.ac.jp 須賀隆行 suga.ompm(@)tmd.ac.jp *E-mail は上記アドレスの(@)の部分を変えて下さい。 オフィスアワー：火曜日 17:00～18:00 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。
連絡先(メールアドレス) 豊福 明toyoompm@tmd.ac.jp
オフィスアワー 豊福 明:毎週火曜日 17:30- 18:00 10号館2階 歯科心身医学教授室

時間割番号	021194				
科目名	ケーススタディ			科目ID	DD552706L
担当教員	駒田 亘[KOMADA Wataru]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
モジュール:発展歯科臨床 ユニット:ケーススタディ ユニット責任者:駒田 亘 ユニット番号:06 解説時期:5年 前期 ユニットコマ数(授業コマ数+試験コマ数):18 + 0 授業形態:講義とグループワーク(アクティブラーニング) 必要自習時間: 6 時間					
主な講義場所 対面で実施(LMS 等を併用)します。					
授業の目的、概要等 複数の臨床科目の実践を必要とする症例に対する治療計画の立案法を理解する。					
授業の到達目標 令和4 年度改訂版 コアカリ番号:G-1-1) ① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-3	5/29	15:50-18:40	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘
4-6	6/1	09:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘
7-9	6/3	12:50-15:40	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘
10-12	6/4	09:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘
13-15	6/8	09:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘
16-18	6/11	14:50-17:40	7号館5階歯学科講義室5	ケーススタディー	駒田 亘

授業方法
講義とグループワークで行います。プレゼンテーションの資料(パワーポイント)を作成するため各自ノート PC を持参してください。
授業内容
症例をベースとして問題点を見つけ解決策を考えて発表する。歯科疾患の診断、治療計画、術式について講義を行う。
成績評価の方法
ユニットの合格判定には、グループ学習の成績を基にして、出席日数及び平常学習態度等が評価に加味される。
成績評価の基準
授業後のコメントで回答した授業の理解度ならびに討論への貢献度で成績を評価する。
準備学習等についての具体的な指示
事前学習として必要な資料は、授業2日前までに LMS 等に掲示するので、必ず閲覧し、指示に従うこと。
試験の受験資格
・本ユニットの授業に3分の2以上の出席を必要とする。 ・合格判定を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。
構成ユニット
06 ケーススタディ
モジュールの単位判定
モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。
教科書
患者の診かたと歯科診療／黒崎紀正 [(ほか)編]:医歯薬出版, 2001
参考書
Behavioral Dentistry. Mostofsky (著), Fortune (著) Wiley-Blackwell; 2 版 (2013/12/31) ISBN-13: 978-1118272060
履修上の注意事項
授業後のコメントシートが未提出の場合には欠席となります。出席が不足する場合でも補講は行いません。
備考
連絡先:駒田 亘 w.komada.fpro@tmd.ac.jp オフィスアワー(随時)
前年度からの改善点/工夫点:
前年度履修学生の科目評価での指摘事項はなかったため、前年度と同様の編成とする。

時間割番号	021212					
科目名	口腔顔面痛		科目ID	DD552707L		
担当教員	前田 茂, 山崎 陽子, 西山 暁, 室賀 一宏, 岡田 明子, 室賀 一宏[MAEDA Shigeru, YAMAZAKI Yoko, NISHIYAMA Akira, MUROGA Kazuhiro, OKADA Akiko, MUROGA KAZUHIRO]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5			
実務経験のある教員による授業	該当する		授業形態	対面		
コマ数:8コマ＋試験1コマ 必要自習時間:2～3時間 授業形態:講義 ユニット番号:07						
主な講義場所 7号館5階歯学科講義室5						
授業の目的、概要等 口腔顔面痛の概念を理解し, 診断, 治療法について理解する。過去に学習した疼痛の生理学的機序や神経障害性疼痛との関連を考える。						
授業の到達目標 1) 口腔顔面痛を分類できる。D-3-1-9-1 2) 口腔顔面痛の発生機序を理解する。D-3-1-9-1 3) 口腔顔面痛の診断基準を説明できる。D-3-1-9-1 4) 東洋医学的疼痛管理について理解できる。 5) 有効な治療法を選択できる。 D-3-1-9-2, D-3-1-9-3, D-3-1-9-4, D-3-1-9-5						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	5/27	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	総論		前田 茂
2	5/27	13:50-14:40	7号館5階歯学科講義室5	東洋医学的疼痛管理		室賀 一宏
3	5/27	14:50-15:40	7号館5階歯学科講義室5	東洋医学的疼痛管理		室賀 一宏
4	5/28	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	非歯原性疼痛		山崎 陽子
5	5/28	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	神経障害性疼痛		山崎 陽子
6	5/28	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	東洋医学的疼痛管理		川島 伸之
7	6/8	12:50-13:40	7号館5階歯学科講義室5	神経ブロック療法		岡田 明子
8	6/8	13:50-14:40	7号館5階歯学科	各関節症の痛み		西山 暁

			講義室 5			
9	6/17	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室 5		試験	山崎 陽子

授業方法

主に対面での講義を行う。

授業内容

総論、歯原性疼痛、非歯原性疼痛、顎関節症の痛み、東洋医学的治療、神経ブロックなどについて説明する。

成績評価の方法

出席を満たした上で、授業の到達目標に沿った筆記試験により評価する。

成績評価の基準

最終的な筆記試験で 60 点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に配布した資料に目を通しておくこと。

試験の受験資格

試験受験資格:3分の 2 以上の出席を必要とする。受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。

モジュールの単位判定

ユニットの合格判定に際しては、出席日数、提出レポート内容及び平常の学習態度などが評価に加味される。

教科書

口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック／日本口腔顔面痛学会 編,日本口腔顔面痛学会.:医歯薬出版, 2016

備考

アクティブラーニングの一環として、初回講義の最初に、配布資料に基づく試験を行う。
前田 茂
maedas.daop@tmd.ac.jp
オフィスアワー 火木 16-18 時

連絡先(メールアドレス)

前田 茂:maedas.daop@tmd.ac.jp
西山 暁:anishi.tmj@tmd.ac.jp
山崎 陽子:yamazaki-yo.ofpm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

前田 茂:毎週火曜日 4pm-8pm 10号館4階教授室
毎週金曜日 3pm-5pm 同上
西山 暁:研究室:歯科棟11階 総合診療歯科学分野 研究室
月曜日 9:00~12:00(奇数週)18:30-20:00
火曜日 17:30-20:00
水曜日 9:00-12:00(偶数週), 17:00-20:00
木曜日 17:00-20:00
金曜日 15:00-20:00
山崎 陽子:月曜日~金曜日 17:00~18:00 10号館4階 疼痛制御学分野研究室

時間割番号	021195				
科目名	臨床情報処理			科目 ID	DD552800L
担当教員	相田 潤, 石丸 美穂[AIDA Jun, ISHIMARU Miho]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数: 12					
授業形態: 講義・演習					
主な講義場所					
各ユニットの授業明細を参照					
授業の目的、概要等					
根拠に基づいた歯科医療を実践するために、情報を適切に処理・活用する能力を修得する。					
授業の到達目標					
各ユニットの到達目標を参照					
授業方法					
各ユニットの授業方法参照					
授業内容					
各ユニットの授業内容参照					
成績評価の方法					
各ユニットの成績評価の方法を参照					
成績評価の基準					
出席 50%					
各ユニットで提出する確認問題 30%					
根拠に基づく歯科医療ユニットで提出するレポート 20%					
準備学習等についての具体的な指示					
各ユニットの指示を参照					
試験の受験資格					
試験は行わない。					
構成ユニット					
以下の三つのユニットで構成する。					
1 根拠に基づく歯科医療					
2 歯科医療情報システム					
3 歯科診療文書					
モジュールの単位判定					
モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び各講義後に実施する確認問題が評価に加味される。					
参考書					
医療情報学入門／樺澤，一之，1946-，豊田，修一，樺澤一之，豊田修一 著：共立出版，2018.3					
連絡先(メールアドレス)					
相田 潤aida.ohp@tmd.ac.jp					
オフィスアワー					
相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤					
aida.ohp@tmd.ac.jp					
毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野					

時間割番号	021196		
科目名	根拠に基づく歯科医療	科目ID	DD552801L
担当教員	相田 潤, 石丸 美穂, 松山 祐輔, 木内 桜[AIDA Jun, ISHIMARU Miho, MATSUYAMA Yusuke, KIUCHI Sakura]		
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5
実務経験のある教員による授業	該当する	授業形態	対面
モジュール名:臨床情報処理 ユニットコマ数:6 授業形態:演習 ユニット番号:3			
授業の目的、概要等 EBM(Evidence-based Medicine)の重要性を理解し、歯科医療に必要な情報を検索・収集・吟味し、歯科医療に応用する能力を修得する。			
授業の到達目標 1) EBM の概念を説明できる。 2) 歯科治療に関する根拠を説明できる。 3) 根拠(Evidence)の信頼性について具体的に説明できる。 4) いくつかの症例における患者の問題を定式化できる。 5) 情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。 6) 問題解決のための情報収集と絞込みができ、その評価の方法を説明できる。 7) 情報の批判的吟味ができる。 8) リスク比、オッズ比、感度、特異度、NNT を説明できる。 9) 統合された情報(二次情報)を解釈でき、いくつかの症例に適用できる。 コアカリ A-2 医学知識と問題対応能力 発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。 A-2-1) 課題探求・解決能力 ①必要な課題を自ら発見できる。 ②自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。 ③課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 ④課題の解決に当たり、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。 ⑤適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。 A-2-2) 学修の在り方 ①講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 ②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 ③実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。 A-8-1) 医学研究への志向の涵養(研究マインドの涵養) ②臨床上の疑問 (clinical question) を定式化できる。 ③患者や疾患を分析するために、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合することができる。 A-9-1) 生涯学習への準備 ①自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 ②歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 B-4-1) 歯科疾患の疫学 ①疫学と根拠に基づいた医療の概念を説明できる。 ②スクリーニング検査を説明できる。 ④診療ガイドラインを説明できる。			

石丸 美穂:ishimaru.ohp@tmd.ac.jp

オフィスアワー

相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

石丸 美穂:毎週水曜日 AM10:00-PM4:00 D 棟 10 階北 歯科公衆衛生学分野

先にメールの連絡をお願いします。

時間割番号	021197						
科目名	歯科医療情報システム			科目ID	DD552802L		
担当教員	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔[AIDA Jun, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura, MATSUYAMA Yusuke]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
モジュール名:臨床情報処理							
コマ数:3							
授業形態:講義							
ユニット番号:1							
授業の目的、概要等							
歯科医療における情報の特性を理解し、歯科医療情報を適切に処理・活用する能力を修得する							
授業の到達目標							
1) 医療情報の特性を説明できる。							
2) 医療情報における歯科の特性を説明できる。							
3) 診療録が具備すべき要件を説明できる。							
4) POMR の概念を説明できる。							
5) 患者情報からプロブレムを発見し、プロブレムリストを作成できる。							
6) 医療情報をプロブレムごとに SOAP にまとめることができる。							
7) 患者情報からの確な治療方針を立案し説明できる。							
コアカリ							
E-1-1) 診察の基本							
⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record)を説明できる。							
F-1-1) 口腔内の診察・記録							
④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective,objective,assessment,plan)で診療録を作成できる。							
G-1-1) 臨床診断・治療計画							
③主観的所見、客観的所見、評価、計画による診療録及び指示書を作成できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/14	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	医療情報とは何か	医療情報の特徴/POMR(問題志向型診療録)・SOAP について理解する	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報の特徴を理解する/POMR(問題志向型診療録)・SOAP について理解する
2	5/14	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	医療情報システムの特徴と標準化 (外部講師)	医療情報システムの成り立ちと特徴、また医療情報の標準化について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報システムの成り立ちと特徴、また医療情報の特徴について理解する
3	5/14	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	医療情報の利活用 (外部講師)	医療情報がどのように利活用されているのかについて	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報が社会でどのように活用されているのかについて学ぶ
授業方法							

対面講義
成績評価の方法 出席 50%＋確認問題 50%
成績評価の基準 モジュール全体での 100 点満点として、60 点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 シラバスを参照して、参考書のいずれかを予習しておくことが望ましい。
試験の受験資格 試験はない
他科目との関連 行動科学基礎、全ての臨床科目、根拠に基づく歯科医療の知識が必要。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はありませんでしたが、自己点検により講義内容を一部見直します。
連絡先(メールアドレス) 相田 潤aida.ohp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤 aida.ohp@tmd.ac.jp 毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

時間割番号	021198						
科目名	歯科診療文書				科目ID	DD552803L	
担当教員	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔[AIDA Jun, ISHIMARU Miho, KIUCHI Sakura, MATSUYAMA Yusuke]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	5				
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
ジュール名:臨床情報処理							
コマ数:3							
授業形態:講義							
ユニット番号:2							
授業の目的、概要等							
日本における歯科医療保険制度の概要を理解し、適切な診療を実施するための基本的業務を理解する。							
授業の到達目標							
1) 守秘義務、医療情報のセキュリティ管理の重要性を説明できる。							
2) 個人情報の適切な保護について説明できる。							
3) プライバシーと個人情報の違いを説明できる。							
4) 医療情報の開示に関する注意点を説明できる。							
5) 歯科医療における処方箋、依頼書、報告書、紹介状、照会状などの文書を記述できる。							
コアカリ							
E-1-1) 診察の基本							
⑦問題志向型診療記録(problem-oriented medical record)を説明できる。							
⑧インフォームド・コンセントを説明できる。							
⑨処方と処方箋の書き方を説明できる。							
F-1-1) 口腔内の診察・記録							
④主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective,objective,assessment,plan)で診療録を作成できる。							
G-1-1) 臨床診断・治療計画							
③主観的所見、客観的所見、評価、計画による診療録及び指示書を作成できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/26	09:00-09:50	7号館5階歯学科講義室5	診療文書の基礎	診療文書の特徴について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	診療文書の特徴について理解する
2	5/26	10:00-10:50	7号館5階歯学科講義室5	個人情報保護	個人情報保護について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	個人情報保護について理解する
3	5/26	11:00-11:50	7号館5階歯学科講義室5	医療情報の安全管理	医療情報の安全管理について	相田 潤, 石丸 美穂, 木内 桜, 松山 祐輔	医療情報の安全管理について理解する
授業方法							
対面講義							
成績評価の方法							
出席 50%＋確認問題 50%							

成績評価の基準 モジュール全体での 100 点満点で 60 点以上を合格とする。
準備学習等についての具体的な指示 シラバスを参照して、参考図書や類似情報を予習しておくことが望ましい。
試験の受験資格 試験はない
他科目との関連 これまでに履修した臨床科目、根拠に基づく歯科医療、歯科医療情報システム
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はありませんでしたが、自己点検により講義内容を一部見直します。
連絡先(メールアドレス) 相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp
オフィスアワー 相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤 aida.ohp@tmd.ac.jp 毎週火曜日 PM4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

時間割番号	021628		
科目名	Phase I	科目ID	
担当教員	新田 浩, 島田 康史, 則武 加奈子, 井上 剛, 西山 暁[NITTA Hiroshi, SHIMADA Yasushi, NORITAKE Kanako, INOUE Go, NISHIYAMA Akira]		
開講時期	2026 年度後期	対象年次	5
実務経験のある教員による授業		授業形態	対面
231 コマ モジュール番号 29-1			
主な講義場所 臨床予備演習については CBT,OSCE 共用試験合格後に通知があるので、確認すること また、登院式後に包括臨床実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること			
授業の目的、概要等 診療参加型臨床実習を円滑に実践、遂行するための準備段階として必要な基本的態度、知識、技能を理解する。あわせて、治療計画の立案方法、チーム医療、医療安全、診療報酬算定、病院電子カルテ入力方法について学習する。 6 年次学生が担当していた学生用患者の引き継ぎ(オーバーラップ)を行い、包括臨床実習 Phase II が実施できる環境を整える。			
授業の到達目標 1) 主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。 2) 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 3) 患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。 4) 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。 5) 診察、検査、診断および治療に必要な器材を説明できる。 6) 診療室への患者の誘導を適切にできる。 7) 患者に挨拶して自己紹介できる。 8) 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。 9) 患者との信頼関係を築くことができる。 10) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。 11) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。 12) 患者に最も適した医療を説明できる。 13) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。 14) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。 15) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。 16) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。 17) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。			
成績評価の方法 基本的に Phase I 全実習日数の 4 分の 3 以上の出席で成績評価を行う。さらに以下の項目を加味する。 1)各診療科における指導教員のチェックリスト 2)オーバーラップ時の引き継ぎ予定患者に対する医療面接時の観察 3)各科実習、オーバーラップ時の平常実習態度 4)必要に応じて臨床指導教員が適宜口頭試問を行う。また、適宜レポートを課す。			
準備学習等についての具体的な指示 相互実習、治療見学・介助等、侵襲性の低い患者への歯科治療を行うので、十分な予習が必要である。教科書・参考書などで知識の再確認をするだけでなく、基礎模型実習で習得した基本的な歯科技術練習をスキルスラボで復習することが望ましい。			
試験の受験資格 試験はないが、Phase I 全実習日数の 4 分の 3 以上の出席が履修判定に必要である。			
構成ユニット			

Phase I では、臨床予備演習、患者引継ぎ(オーバーラップ)、および D5D6 相互実習を行う。

臨床予備演習は主にオンライン講義と各診療科の実習から構成され、内容は各診療科によって異なる

参考書

口腔科学 = Stomatology／戸塚靖則, 高戸毅 監修,飯田順一郎, 伊藤公一, 岡野友宏, 木村博人, 小谷順一郎, 齊藤力, 佐々木啓一, 白砂兼光, 須田英明, 丹沢秀樹, 前田健康, 山根源之, 山本浩嗣 編集:朝倉書店, 2013

実践クリティカル・シンキングのすすめ : 探究・臨床力をアップする EBM の学び方と活用ポイント／八重垣健 監著.:クインテッセンス出版, 2009

人間学入門 : 医療のプロをめざすあなたに／日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会/準備教育小委員会 編.:南山堂, 2009

PMI ペリオドンタルモチベーションインタビューング : 患者さんのやる気が変わる! スタッフも楽しくなる! 歯周治療を成功に導く世界標準のコミュニケーション技法／新田 浩 著・文・その他,新田 浩 監修,礪波健一 著・文・その他,礪波健一 監修,土岡弘明 著・文・その他,土岡弘明 監修,斎田寛之 著・文・その他,酒井和人 著・文・その他,関根 聡 著・文・その他,竹内祥吾 著・文・その他,武田浩平 著・文・その他,中村一寿 著・文・その他,奈良嘉峰 著・文・その他,福場駿介 著・文・その他,新田 浩,礪波健一,土岡弘明,斎田寛之,酒井和人,関根聡,竹内祥吾,武田浩平,中村一寿,奈良嘉峰,福場駿介.:クインテッセンス出版, 2020-02-10

履修上の注意事項

なお、診療系によっては欠席者に対して補習を行うことがある。補習を課せられた学生は、出席日数にかかわらず補習を受講しない限り Phase II に進めない。

備考

具体的な班分け、詳細な日程は包括臨床実習 Phase I オリエンテーション時に示す。

時間割番号	021629		
科目名	Phase II (A)	科目ID	
担当教員	新田 浩, 島田 康史, 則武 加奈子, 西山 暁, 井上 剛[NITTA Hiroshi, SHIMADA Yasushi, NORITAKE Kanako, NISHIYAMA Akira, INOUE Go]		
開講時期	2026 年度後期	対象年次	5
実務経験のある教員による授業		授業形態	対面
コマ数 616 モジュール番号 29-1			
主な講義場所 包括臨床実習は主に第1総合診療室で行う。 Phase II (A)の授業内容、日程の詳細については、CBT および OSCE 合格後に通知があるので、確認すること。登院式後に包括臨床実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。			
授業の目的、概要等 患者本位の歯科医療を実践するために、必要な態度・知識・技能を修得する。			
授業の到達目標 1) 患者との信頼関係を築くことができる。 2) 個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。 3) 患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。 4) 患者に最も適した医療を説明できる。 5) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。 6) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。 7) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。 8) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。 9) 医療事故や潜在的医療事故(ニアミス)に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。 10) 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。 11) 的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。 12) インフォームドコンセントを行うことができる。 13) 処方と処方箋の書き方を説明できる。 14) 研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。 15) 基礎実習で習得した基本的治療技術を実施できる。 16) 自ら行った処置の予後について予測ができる。 17) 歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できる。 18) 歯科保健の維持・増進に適切な助言・援助ができる。 19) 症例報告の準備ができる。 20) 症例報告ができる。			
授業方法 ライターの指導の下で患者を担当し、1口腔単位の包括的な臨床実習を行う。			
授業内容 ライターの指導の下で患者を担当し、1口腔単位の包括的な臨床実習を行う。			
成績評価の方法 1)ポートフォリオによる自己チェック(形成評価) 2)エッセンシャルリクワイアメント達成度(参考) 3)平常点(包括臨床実習ライター、専門(特殊)診療外来実習担当指導者、看護師等からの観察記録)			
準備学習等についての具体的な指示 基本的に毎日午前・午後のどちらかで患者治療を行うので、治療予定内容についての予習は必須である。教科書・参考書などで知識の再確認をするだけでなく、治療内容についての技術練習をスキルスラボで行うことが望ましい。			

試験の受験資格 特に試験は行わない。
モジュールの単位判定 5年後期の包括臨床実習 Phase II (A)の全授業時間数のうち、4分の3以上出席していなければ第6学年に進級できない。
参考書 1 からわかるコンポジットレジン修復：レジンが簡単にとれないためのテクニック／猪越重久 著、クインテッセンス出版, 2012 歯科臨床イヤーノート = Year note of dental practice／住友雅人, 木下淳博, 沼部幸博, 松村英雄 編、クインテッセンス出版, 2013 インレー修復 = inlay restoration：たしかな手技・臨床のかんどころ／笹崎弘己 著、笹崎 弘己、クインテッセンス出版, 2015 口腔機能の維持・向上による全身状態改善のためのオーラルケア・マネジメント実践マニュアル：病院・施設・在宅における多職種協働を目指して／奥田聖介, 武井典子 編著、赤木重典 [ほか]著、別所和久 監修、奥田 聖介、武井 典子、赤木 重典, 1952-、別所 和久、医歯薬出版, 2010 PMI パリオドンタルモチベーションインタビューング：患者さんのやる気が変わる！ スタッフも楽しくなる！ 歯周治療を成功に導く世界標準のコミュニケーション技法／新田 浩 著・文・その他、新田 浩 監修、礪波健一 著・文・その他、礪波健一 監修、土岡弘明 著・文・その他、土岡弘明 監修、斎田寛之 著・文・その他、酒井和人 著・文・その他、関根 聡 著・文・その他、竹内祥吾 著・文・その他、武田浩平 著・文・その他、中村一寿 著・文・その他、奈良嘉峰 著・文・その他、福場駿介 著・文・その他、新田 浩、礪波健一、土岡弘明、斎田寛之、酒井和人、関根 聡、竹内祥吾、武田浩平、中村一寿、奈良嘉峰、福場駿介、クインテッセンス出版, 2020-02-10 ・「失敗しない歯髄保存療法」 須田英明 他 クインテッセンス出版 ・「歯科領域における偶発症の予防とその対策」 藤井彰(編) クインテッセンス出版 ・「チェアサイドにおける<アトラス>義歯修理の押さえどころ」 小林賢一 医歯薬出版 ・「印象採得・精密印象を知る―適合のよい補綴物製作のために」 中村公雄、西川 徹 他 クインテッセンス出版 ・「クラウンブリッジの臨床」 Stephen F. Rosenstiel ほかに著、藤本順平共著・監訳 医歯薬出版 ・「楽しく分かるクリニカルエンドントロジー」 小林千尋 医歯薬出版 ・「若手歯科医のための臨床の技 50 保存修復」 安田 登 デンタルダイヤモンド社
備考 ・具体的な班分け、詳細な包括臨床実習 Phase II (A)の日程は別に定める ・エッセンシャルリクワイアメントの詳細は別に定める ・本ユニットは患者実習、各科配属実習、病院外実習、臨床セミナー講義を行う。

時間割番号	021632				
科目名	頭頸部臨床解剖			科目ID	
担当教員	武智 正樹, 藤川 芳織[TAKECHI Masaki, FUJIKAWA Kaoru]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	5		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
モジュール名:包括臨床実習 (Phase 1)					
科目名:頭頸部臨床解剖					
ユニット責任者:武智正樹					
開設時期:5 年 後期					
コマ数(授業コマ数):30(講義・実習)					
授業形態:講義・実習					
試験:実習時間内にレポートを提出する					
主な講義場所					
7 号館 5 階歯学科講義室 5、解剖実習室					
授業の目的、概要等					
歯科臨床における器官としての顎顔面領域の役割を理解するために、臨床症例を参考とした局所解剖学的構造と機能を人体解剖実習と連結させて統合的に修得する。					
授業の到達目標					
1)咀嚼筋、表情筋の構成と機能を説明できる。					
2)舌と口蓋の形態学的特徴と機能を説明できる。					
3)唾液腺の形態学的特徴と機能を説明できる。					
4)頭頸部の脈管系を説明できる。					
5)三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の走向と分布および構成を説明できる。					
6)頭頸部の筋膜と筋間隙について説明できる。					
7)顔面神経麻痺に関連する解剖学的構造を説明できる。					
8)インプラント治療と関連する上下顎骨の形態学的特徴を説明できる。					
9)顎関節疾患と関連する顎関節の構造と機能を説明できる。					
10)嚥下に関連する咽頭や喉頭の解剖学的構造を説明できる。					
11)発声に関連する喉頭の解剖学的構造を説明できる。					
12)国家試験出題範囲に含まれる構造物を確認する。					
上記内容を裏付けるコアカリキュラム中の達成目標の項目:「E-2-1 頭頸部の基本構造と機能」、「E-2-2 口腔領域の構造と機能」					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/25	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	耳下腺・顎下腺・頸部(解剖講義)	武智 正樹
2	9/25	10:00-10:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	耳下腺・顎下腺・頸部(臨床講義)	大山 厳雄
3	9/25	11:00-11:50	7 号館 5 階歯学科講義室 5	耳下腺・顎下腺・頸部(解剖実習説明)	武智 正樹
4-6	9/25	12:50-15:40	解剖学実習室	耳下腺・顎下腺・頸部(解剖実習)	武智 正樹, 藤川 芳織
7	10/2	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期型)	上気道・嚥下(解剖講義)	武智 正樹

			型)		
8	10/2	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	上気道・嚥下(臨床講義)	山口 浩平, 吹野 恵子
9	10/2	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	上気道・嚥下(解剖実習 説明)	武智 正樹
10-12	10/2	12:50-15:40	解剖学実 習室	上気道・嚥下(解剖実習)	武智 正樹, 藤川 芳織
13	10/8	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	顎関節(解剖講義)	武智 正樹
14	10/8	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	顎関節(臨床講義)	西山 暁
15	10/8	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	顎関節(解剖実習説明)	武智 正樹
16-18	10/8	12:50-15:40	解剖学実 習室	顎関節(解剖実習)	武智 正樹, 藤川 芳織
19	10/16	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	側頭下窩(解剖講義)	武智 正樹
20	10/16	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	側頭下窩(臨床講義)	伊藤 孝哉
21	10/16	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	側頭下窩(解剖実習説 明)	武智 正樹
22-24	10/16	12:50-15:40	解剖学実 習室	側頭下窩(解剖実習)	藤川 芳織 武智 正樹
25	10/23	09:00-09:50	遠隔授業 (非同期 型)	口腔内・上下顎(解剖講 義)	武智 正樹
26	10/23	10:00-10:50	7号館5 階歯学科 講義室5	口腔内・上下顎(臨床講 義)	下岸 将博
27	10/23	11:00-11:50	7号館5 階歯学科 講義室5	口腔内・上下顎(解剖実 習説明)	武智 正樹
28-30	10/23	12:50-15:40	解剖学実 習室	口腔内・上下顎(解剖実 習)	武智 正樹, 藤川 芳織
成績評価の方法					
解剖実習態度、口頭試問による形成的評価とともに、課題レポート提出による総括的評価を行う。					
準備学習等についての具体的な指示					
事前に配布する資料、実習書に必ず目を通し、その日の実習の手順および観察する構造物をまとめておく事を強く要望する。					
試験の受験資格					
講義・実習は全て出席しなければならない。					
受験資格を得られなかった学生はユニット未履修とし、次年度に当該ユニットを再履修しなければならない。					

教科書

グレイ解剖学／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.Mitchell 原著,塩田浩平, 瀬口春道, 大谷浩, 杉本哲夫 訳:エルゼビア・ジャパン, 2011

プロメテウス解剖学アトラス : 口腔・頭頸部／Eric W.Baker 著,坂井建雄, 天野修 監訳:医学書院, 2012

口腔解剖学／井出吉信, 前田健康, 天野修 編,脇田稔, 山下靖雄 監修:医歯薬出版, 2009

ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス／Neil S. Norton 著,前田健康 監訳:医歯薬出版, 2012

口腔解剖学 1-5／上條雍彦:アナトーム社

履修上の注意事項

ご遺体に対して十分に敬意を払って接すること。実習室内にスマートフォンやカメラなどの電子機器の持ち込みを固く禁ずる。解剖実習に関することを SNS 等へ書き込みした場合には、厳しい処分を行う。人体解剖実習用具ならびに実習着等が必要となる(詳細については開始時に担当教員から指示する)。

連絡先(メールアドレス)

武智 正樹:takechi.emb@tmd.ac.jp

オフィスアワー

武智 正樹:随時(事前に連絡すること)

時間割番号	021214				
科目名	包括医療統合教育			科目 ID	DD623400Z
担当教員	鶴田 潤[TSURUTA Jiyun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
授業回数 :26コマ(1単位) 必要自習時間:5時間 授業形式 :講義・演習					
主な講義場所					
対面授業を基本とし、遠隔授業(同期・非同期型)と組み合わせての実施とする。					
授業の目的、概要等					
本モジュールは、職種間連携に基づく症例検討を主に扱うモジュールであるため、各学生は、歯科的な知識、歯科医療人としての責任を十分に自覚して、授業に望むことが期待される。 必要情報については、Science Tokyo LMS を利用しての情報提供となるため、情報の確認を授業前後では必ず行うこと。口腔医療、全身医療それぞれの進歩・複雑化により、高齢者や合併症や複雑な背景を抱える患者の医療には医、歯をはじめとした多職種間で連携性・協調性のとれた包括的医療が必要とされる。そのような観点から、本学では医療系総合大学の特性を生かし、学科横断、講座横断、および学年縦断的な医歯学融合教育の礎をつくる以下の 6 つの目的をかかげる。					
授業の到達目標					
① 診療において、他の専門職、患者および患者家族に配慮し良好な関係を築くとともに、専門職種にふさわしい振る舞いができる。 ② 基礎医学の知識をもとに疾患の病因・病態・臨床徴候などを十分理解し、頻度の高い疾患や重篤な病態に関しては、適切な評価法を算定し所見を解釈すると同時に、診断および治療法に関する知識を診療に応用できる。 ③ 全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる。 ④ 高齢者包括的評価をおこなうことができる。 ⑤ 医療機関内の制度、資源や社会における医療福祉制度を理解する。 ⑥ 医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う。 ⑦ メンタルストレスに直面した際の適切な自己管理、通常時の自己研鑽、自己学習ができる					
関係する歯学教育モデル・コア・カリキュラムの項目					
A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力					
A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権					
5 患者に最も適した歯科医療を勧めるとともに、代替する他の方法についても説明できる。					
A-2 医学知識と問題対応能力					
3 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。					
4 課題の解決に当たり、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。					
5 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。					
A-4 コミュニケーション能力					
A-4-1) コミュニケーション					
2 コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。					
A-5 チーム医療の実践					
A-5-1) 患者中心のチーム医療					
1 患者中心のチーム医療の意義を説明できる。					
2 医療チームや各構成員(歯科医師、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の					

医療職)の役割分担と連携・責任体制を説明できる。

3 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科医師の役割を説明できる。

A-7 社会における医療の実践

A-7-1) 地域医療への貢献

3 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健(母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健)・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間(行政を含む)の連携の必要性を説明できる。

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

A-9-1) 生涯学習への準備

2 歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/15	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習①	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	講義・演習 到達目標 1、2、3、4、5、7
2	5/22	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習②	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、7
3	5/29	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習③	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、7
4	6/5	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習④	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、7 対面:歯学部演習室1～11
5	6/12	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習⑤	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、7
6	6/19	16:30-17:20	7号館2階歯学科講義室2	D6-OH4 合同演習⑥	(AL)講義・演習 D6/OH4 混成班において、多職種連携に関する討議を行う。 16:30～17:20	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、7
7-9	6/23	09:00-11:50	遠隔授業(同期型)	チーム医療入門1日目(AM)	(AL)演習 全学科最終学年・他大学学生による混成班において、患者症例検討を行う。	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、6、7 チーム医療入門実施要項を参照。 ZoomID: 実施要項を参照。
10-13	6/23	12:50-16:40	遠隔授業(非同期型)	チーム医療入門1日目(PM)	(AL)演習 全学科最終学年・他大学学生による混成班において、患者症例検討を行う。	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、6、7 チーム医療入門実施要項を参照。 ZoomID: 実施要項を参照。

14-16	6/24	09:00-11:50	遠隔授業 (同期型)	チーム医療入門2日目 (AM)	(AL)演習 全学科最終学年・他大 学学生による混成班において、 患者症例検討を行う。	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、 6、7 チーム医 療入門実施要項 を参照。 ZoomID: 実施要 項を参照。
17-20	6/24	12:50-16:40	遠隔授業 (非同期 型)	チーム医療入門2日目 (PM)	(AL)演習 全学科最終学年・他大 学学生による混成班において、 患者症例検討を行う。	鶴田 潤	演習 到達目標 1、2、3、4、5、 6、7 チーム医 療入門実施要項 を参照。 ZoomID: 実施要 項を参照。
21-23	6/26	12:50-15:40	5 階学生 実習室 6 階学生実 習室	医歯学科合同演習①	(AL)演習 医学科学生に対し教 え、医学科学生とともに学ぶ。 (授業時間)12 時 50 分～15 時 30 分	鶴田 潤	演習 到達目標 1
24-26	7/3	13:50-16:40	7 号館 2 階歯学科 講義室 2	D6/ OE4合同演習①	(AL)演習 歯科医師・歯科技工士 の多職種連携に関わる合同 SGL・ ディスカッションを行う。(授業時 間)13 時 30 分～16 時 30 分	鶴田 潤	演習 到達目標 1

授業方法

講義・グループ討論・自己学習とプレゼンテーションほか

成績評価の方法

それぞれの授業への出席状況・個人およびグループ課題・レポートの提出状況・評価を総合的に扱い成績評価を行い、単位判定を行う。

特に、「提出物」については、提出期限の遵守を含む提出状況を評価に用いるため、必ず、提出を行うこと。

成績評価の基準

- ①D6-OH4合同症例演習 30 点
- ②チーム医療入門 40 点
- ③D6-M6合同演習 20 点
- ④D6-OE4 合同演習 10 点

評価は、授業への出席状況・個人およびグループ課題・レポートの評価を総合的に扱う。

欠席による代替提出物での評価の場合には、各授業に付与される得点の6割を上限とする。

準備学習等についての具体的な指示

- ・講義の前には授業内容を確認し、予習してくること。
- ・課題が提示される場合には、課題を実施してくること。(グループ議論の準備)
- ・実習の前には要項に目を通し、予習してくること。また、実習に臨むにあたり、必要に応じて参考資料、補助教材を用い予習をおこなうこと。

試験の受験資格

成績(試験)評価対象とする条件

①D6-OH4合同症例セミナー

チームで行う演習であるため、6回の全授業への出席を基本とする。

届出のある欠席については、1回までを考慮し、2回欠席の場合は、成績評価点の上限を配分点数の6割を上限とする。3回以上欠席の場合は、本項目について評価対象外とする。

②チーム医療入門

2日間の終日取り組みとなる授業であるため、全授業への出席を基本とする。

部分的な欠席については、都度判断を行うが、2日間中、1日終日欠席あるいは2日両日終日欠席の場合には、事情により、代替課題の実施にて、成績(試験)評価を行う。

③M6 との合同演習

3コマの演習であるため、全授業出席を基本とする。

部分的な欠席については、都度判断を行うが、3コマ全欠席の場合は、代替課題の実施にて、成績評価を行う。

④OE4 との合同演習

3コマの演習であるため、全授業出席を基本とする。

部分的な欠席については、都度判断を行うが、3コマ全欠席の場合は、代替課題の実施にて、成績評価を行う。

構成ユニット

①演習:D6-OH4合同症例セミナー 6回(6コマ)(毎週金曜日 16:30~17:20)

②演習:チーム医療入門 (2026年6月23日(火)、24日(水)終日6コマ計12コマ)

③講義:医科との合同演習(2026年6月26日(金)(午後3コマ))

④演習:OE4 との合同演習(2026年7月3日(金)(午後3コマ))

モジュールの単位判定

授業への出席状況・個人およびグループ課題・レポートの提出状況・評価を総合的に扱い成績評価を行い、成績点 60 点以上を合格とし、単位判定を行う。

履修上の注意事項

出席は、LMSにおける課題の時間内提出をもって確認する。ほか、出席状況がわかる資料については、「参考」としてのみ用いる。早退や遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱われ、事前に申請の正当な理由のない早退や遅刻は欠席とみなす。実習に際しては、あらかじめ配布された手順を十分に予習して臨むこと。また、他実習同様に、守秘義務は徹底し、ツイッター等への投稿も厳に慎むこと。

備考

D6—OE4 合同演習を導入するため、授業構成、成績評価点の割合を変更した。

連絡先(メールアドレス)

鶴田 潤:tsuruta.j.a664@misct.ac.jp

オフィスアワー

鶴田 潤:訪問の事前にメールで連絡してください。

時間割番号	021202				
科目名	長寿口腔健康科学コース			科目ID	DD553600L
担当教員	戸原 玄, 山口 浩平[TOHARA Haruka, YAMAGUCHI Kohei]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	5	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
コマ数:30コマ 10 回×3 コマ(講義8回、演習2回) 授業形態:講義・演習 モジュール番号:36 ユニット番号:01 必要自習時間 1 時間					
主な講義場所 講義室での対面授業および WebClass, Zoom を利用した遠隔授業					
授業の目的、概要等					
＜授業全体＞ 健康長寿に対する先進的研究開発、教育の面からのアプローチができる人材及び地域医療の中で多職種連携を主導することができる人材養成を目標とし、他大学講義を含む全 10 回の授業で、健康長寿に関連する多岐に渡る領域について学ぶ。 主に、以下の授業で構成される。 ・ 骨の科学が支える健康長寿(対面講義) ・ デジタルデンチャー最前線(対面講義) ・ 病院と歯科・補綴(対面講義) ・ 義歯臨床および口腔機能(対面講義) ・ 健康長寿の歯科疫学・公衆衛生学(対面講義) ・ 在宅における摂食嚥下評価 1(対面講義・演習) ・ 在宅における摂食嚥下評価 2(対面演習) ・ ジルコニアセラミックス(非同期型講義) ・ 地域連携と摂食支援(非同期型講義) ・ 食と健康を支えるスマート農業の新展開(対面講義)					
＜骨の科学が支える健康長寿＞ 骨の発生、成長から老化までの過程を細胞の運命に着目して理解し、健康長寿のために科学の力で何ができるかを考える。					
＜病院と歯科・補綴＞ 病院の歯科と聞くと口腔外科や手術などを連想すると思う。しかし近年では、医科疾患罹患患者の口腔管理や摂食嚥下リハビリテーションを歯科が実施し、医療を支えることが求められている。その際に補綴の知識や技術は必要不可欠である。本講義では、医療の中で歯科が果たすべき役割を、病院歯科の実際を通して学ぶ。					
＜義歯臨床および口腔機能＞ 今こそ学ぶべき義歯臨床 現在の義歯臨床のニーズや重要性を理解し、義歯臨床の難しさや楽しさを学び、 義歯学に対して興味をもって取り組めるような内容を解説する。 高齢者の健康に対する口腔機能の重要性 高齢者の全身健康(認知機能、運動機能)に対する口腔機能の重要性を エビデンスを元に解説する。					
＜健康長寿の歯科疫学・公衆衛生学＞					

口腔の健康の重要性の認識が近年変化してきている。口腔細菌や歯周組織の炎症といった生物医学的なメカニズム、食事や会話といった口腔機能とそれを通じた社会的交流など幅広い経路で口腔は健康長寿に影響していると考えられるようになった。それに加え、第74回WHO総会における口腔の決議にあるような高い有病率の公衆衛生的重要性も存在する。こうしたことを背景に疫学・公衆衛生的に口腔と健康長寿を学習する。

<在宅における摂食嚥下評価>

摂食嚥下障害の診察や評価、対応、更には在宅訪問診療のあり方を考えることを目的とする。

<ジルコニアセラミックス>

近年の歯科補綴臨床で一般に広く使われるようになったジルコニアセラミックスは高齢者の歯科治療にも有用である。本講義ではジルコニアセラミックスの特徴から接着操作など臨床に応用できる情報も含め、理解を深めることを目的とする。

<地域連携と摂食支援>

要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。

<摂食嚥下のメカニズム>

正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能を知る。

種々の疾患が引き金となって生じる摂食嚥下障害に対する臨床への興味につなげる。

<食と健康を支えるスマート農業の新展開>

我が国の食と健康を支える農業は、生産者の高齢化や労働人口の減少といった深刻な課題に直面している。その解決策として、AIやロボティクスを基盤とするスマート農業が注目されている。本講義では、東京科学大学で推進するスマート農業研究の取り組み事例を紹介しながら、農業を起点とした食と健康のリ・エンジニアリングの可能性を展望する。

授業の到達目標

<授業全体>

- 今後、歯科医師として健康長寿社会の達成に貢献することの必要性を理解する。
- 健康長寿社会の達成に、歯科医師が貢献できることについて理解する。
- 健康長寿社会の達成には歯科領域だけでなく、多面的なアプローチが必要であることを理解する。

<骨の科学が支える健康長寿>

- ・骨下顎と健康長寿の関連を理解する

<義歯臨床および口腔機能>

- ・超高齢社会における可撤性義歯臨床の意義を理解する
- ・高齢者の全身健康と口腔機能の関連を理解する

<健康長寿の歯科疫学・公衆衛生学>

- ・口腔と健康長寿の人におけるエビデンス(疫学的エビデンス)を理解する
- ・健康長寿にかかわる口腔の健康の決定要因を理解する
- ・口腔と健康長寿の関係を調べる疫学研究の技法を理解する

<在宅における摂食嚥下評価>

- ・摂食嚥下障害のアセスメントを覚える
- ・摂食嚥下障害のスクリーニングテストができる
- ・摂食嚥下障害患者への対応を考えることができる

<ジルコニアセラミックス>

- ・ジルコニアセラミックスの組成を知る。

- ・ ジルコニアセラミックスの適応を知る。
- ・ ジルコニアセラミックスの接着操作について、説明できる。

＜地域連携と摂食支援＞

- ・ 在宅療養患者における特徴を述べる。
- ・ 在宅診療の留意点を記述する。
- ・ 摂食支援の実際を知る。
- ・ 摂食嚥下機能の評価方法を説明する。
- ・ 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。
- ・ 摂食機能療法の計画・立案を説明する。

＜摂食嚥下のメカニズム＞

- ・ 摂食運動に関わる諸器官の構造と機能を説明する。
- ・ 咀嚼と嚥下運動の機能意義を説明する。
- ・ 最先端のテクノロジーやサイエンスの健康長寿への貢献を説明する
- ・ 他国の歯科医療の現状を理解し、日本の歯科医療のあり方を考える

歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成 28 年度改訂版

A-7-1) 地域医療への貢献

B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度

E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害

E-5-1) 高齢者の歯科治療

G-4 チーム医療・地域医療

授業計画

回	日付	時刻	講義室
1	11/13	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5
2	11/13	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5
3	11/13	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5
4	11/20	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5
5	11/20	14:50-15:40	7号館5 階歯学科 講義室5
6	11/20	15:50-16:40	7号館5 階歯学科 講義室5
7	11/27	13:50-14:40	7号館5 階歯学科 講義室5
8	11/27	14:50-15:40	7号館5

			階歯学科 講義室 5
9	11/27	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
10	12/4	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
11	12/4	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
12	12/4	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
13	12/11	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
14	12/11	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
15	12/11	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
16	12/18	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
17	12/18	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
18	12/18	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
19	1/8	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
20	1/8	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
21	1/8	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
22	1/15	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
23	1/15	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
24	1/15	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科

			講義室 5
25	1/22	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
26	1/22	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
27	1/22	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
28	1/29	13:50-14:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
29	1/29	14:50-15:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
30	1/29	15:50-16:40	7号館 5 階歯学科 講義室 5
授業方法 病院歯科と訪問歯科の現在地 イントロダクション、口腔機能低下症 骨の科学が支える健康長寿 デジタルデンチャー最前線 病院と歯科・補綴 ジルコニアセラミックス 口腔内細菌叢破綻の全身への影響 健康長寿の歯科疫学・公衆衛生学 今こそ学ぶべき義歯臨床 高齢者の健康に対する口腔機能の重要性 時間栄養・時間運動を臨床に生かす 食と健康を支えるスマート農業の新展開 これからの摂食嚥下を考える 他国の地域歯科医療を知る 対面授業を主とするが、非同期型講義動画視聴の授業が含まれる可能性もある。 対面の場合にはグループワーク等を行う授業もある。 課題、webclass の小テスト等で評価する。			
授業内容 超高齢社会における歯科医療者の果たすべき役割は多岐に渡る。本授業では様々な視点、立場からのアプローチについて講義、演習を行う			
成績評価の方法 出席および小テストの結果により判定する。			
成績評価の基準 出席、小テストについてそれぞれ 50 点ずつの評価とする。 Webclass 動画については2倍速再生も良いものとするが、視聴時間が明らかに短い場合は遅刻/欠席と判断される場合がある。			
準備学習等についての具体的な指示 適宜事前学習用の資料を WebClass にアップするので、予習してから授業に臨むこと。			
試験の受験資格 授業ごとに Webclass での小テストが行われる。その授業に出席した場合に、受験資格を得る。			
構成ユニット 01 長寿口腔健康科学コース			

モジュールの単位判定 出席、課題の結果により判定する。
教科書 特に指定なし。 必要に応じて、各科目のシラバス記載の教科書を参照すること。
参考書 特に指定なし。 必要に応じて、各科目のシラバス記載の参考書を参照すること。
他科目との関連 これまでに履修した、歯科補綴学、高齢者歯科学、社会歯学、生化学などの授業と関連する。
履修上の注意事項 臨床実習における病棟実習、また歯学科プログラムの短期留学、そのほかやむを得ない事情により授業を欠席する場合は、担当教員に連絡をすること。
備考 前年度履修学生の科目評価での指摘事項はないが、より充実した授業とするために新たな講義を追加した。 問い合わせ先: 山口 浩平 <k.yamaguchi.swal@tmd.ac.jp> チームス、スラックでの問い合わせも可。

全学科共通自由科目

時間割番号	021168						
科目名	Moral and Political Philosophy for Medicine(MPP)			科目ID	DD083701L		
担当教員	長谷川 久紀[HASEGAWA Hisanori]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～6	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
Moral and Political Philosophy							
主な講義場所							
G-Lab; M&D Tower 8th Floor South-side							
授業の目的、概要等							
General Course Information: Health Sciences Leadership Program aims to produce future leaders who will improve the health status of people all over the world through innovation in health sciences from the field of bioscience research, health policy, pharmaceutical industries or digital health. In addition to the skills, perspectives, and sound scientific and ethical knowledge necessary for direct patient care as health professionals, such leaders must also have population- wide and global perspectives. They must also be able to engage in debates concerning such topics as common goods and interests, liberalism and paternalism, inequalities and inequities in health, just distribution of health, traditional medical ethics and public health ethics, moral relativism and universalism, and research ethics. This course will examine ethical, political, and economic, as well as scientific aspects, of some important health policy issues currently facing the world. It will thus cover, through the examination of those issues, relevant areas of philosophical theories and economics, including political and historical analyses, to allow learners to understand the background issues, history, and constraints, and to make a positive contribution to current debates. Throughout the course, learners will have ample opportunities to exercise and sophisticate many of the skills listed in the program's graduation competencies, such as critical thinking skills, inquiry and analysis, information literacy, and communication skills. Learners will also come to realize that there is no clear answer or solution prepared for real-life issues and that they will always have to work, oftentimes collaboratively with people from different backgrounds, to come to resolutions which are based on sound scientific and moral arguments utilizing their critical thinking skills.							
授業の到達目標							
Course Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to: 1. Analyze and assess health policy comprehensively, both from biomedical and from social science viewpoints. 2. Describe the philosophical theories, economical and political concepts relevant to health policy, and the basic bioethics principles. 3. Analyze the critical ethical, economical, political, as well as scientific elements of health policy in a particular empirical context; to identify key factors requiring investigation; and to present the outcome of this problem-solving exercise lucidly and concisely in the form of a coherent case. 4. Demonstrate the ability to perform critical thinking skills effectively in problem solving. Also, as the very first course you take in HSLP, the objectives of this course include the acquisition of mindset, skills, and behaviors necessary to survive and succeed in today's competitive environment. Therefore, the course will employ norm-referenced evaluation for its grading as described below. Thus students, whether they are extroverted or introverted, need to strive for excellence in class by preparing hard and participating in/contributing to class discussions/problem-solving exercises without being overwhelmed or their behavior being dictated by such mentalities or Japanese traditional values as shyness, self-effacement, or modesty.							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/29	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Introduction	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning,

							Pre-Assignments required
2	10/6	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Utilitarianism	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
3	10/20	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Deontology	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
4	10/27	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Libertarianism	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
5	11/10	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Liberal Egalitarianism and Equality	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
6	11/17	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Liberal Egalitarianism and Equality	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
7	12/1	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Liberal Egalitarianism and Equality	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
8	12/15	18:00-19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Communitarianism	長谷川 久紀	Course Objectives 1-4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments

							required
9	1/5	18:00–19:30	G-Lab	Moral and Political Philosophy	Multiculturalism and Global Justice	長谷川 久紀	Course Objectives 1–4, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required

授業方法

All sessions of 2026 MPP are currently planned to be held face-to-face in the G-Lab (8th floor of the M&D Tower). When it is necessary to be held on-line, the course will use Zoom. The Zoom ID and passcode will be provided in needs.

All sessions will be taught in a Flipped Classroom Style using case methods with class discussion and group work. Therefore all students have to obey to the Course Rules and Requirements.

1. Preparation Assignments (1 page)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 2 through 9. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one page in length and submit them to the Science Tokyo LMS. The deadline for Preparation Assignment will be 15:00 of the day of the class. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary student-led study sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own. MPP course will arrange online individual- or group-tutoring by senior HSLP students (course tutoring systems). Detailed information on how to participate in tutoring sessions will be provided by the course director.

3. Attendance

“Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 6 sessions or more out of a total 9 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than 10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10- minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

4. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each MPP session (with the exception of the first session) is about 4 to 6 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

5. Takeaways (≦300 words)

After each session, students are required to post his/her “Takeaways” to the course mailing list within 72 hours after the end of each session. Takeaways should not be phrases or sentences directly taken from textbooks or handouts, but rather wisdom you gained, or things that made a lot of sense to you or helped you grasp big pictures. This is very effective and useful for yourself-in terms of clarifying and crystallizing your own thoughts and memorizing – as well as being helpful for your fellow classmates.

6. Submission of Final Report

You are required to turn in a Final Report after all the 9 sessions have been taught. The final Report will analyze a health topic of your choice using key concepts elaborated during the course. The deadline for the Final Report will be 23:59 on February 1 (Mon), 2027.

Note: Measures against plagiarism

When writing your Final Report, it is strictly forbidden to copy or use ideas from Final Reports of your classmates or those students who took this course in past terms or from Generative AI. Both the provider and beneficiary of relevant information shall become disqualified from completing the course.

7. Submission of Review Assignment

You are also required to submit a Review Assignment after all the 9 sessions have been taught, both to communicate what you have learned and to help deepen your learning in a practical way. The deadline for the Review Assignment will be 23:59 on February 1 (Mon), 2027 (same as the Final Report). Review Assignments should be one page in length, and should consist of the following:

(1) What you learned in class

What were important learning points for you during the entire course? Be as specific as possible.

(2) The learning points that you can apply

How did what you learned from this course improve the way you think and analyze health-related policies or issues? How can you make a positive impact on a society?

(3) For further development

What actions do you need to and intend to take to enhance what you have learned during this course and to make you a better solver of health-related problems?

PLEASE NOTE: all written work should conform to the following criteria:

single-sided, numbered pages, 12-point Times New Roman font, single-spaced. Include your name, student number, and a title for all assignments. Final Report should employ footnotes and include a bibliography whose style should conform to the stylistic guidelines of the Chicago Manual of Style, available on the following website: http://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide.html

授業内容

The detail of the Session Learning Objectives, Required Reading, Suggested Viewing, Exercises and Preparation Assignment for each session will be on each session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Briefly, at this MPP course, students will learn about Utilitarianism, Deontology, Libertarianism, Liberal Egalitarianism and Equality, Communitarianism, and Multiculturalism and Global Justice.

成績評価の方法

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation Discussion Points from the class, Final Report and Review Assignments.

成績評価の基準

The final grade will be based on the sum of all points granted and converted to 0–100. 90–100 will be the same as the scale of A+, 80–89 as A, 70–79 as B, 60–69 as C, and below 59 as D.

For those students with the score over 60 will be determined as Course Completed with a credit granted. For those students who marks the score below 59 will be determined as not achieving the learning objectives and fail to meet the requirements for a credit. For those students who did not fulfill attendance requirements or other necessary requirements will be ineligible for grading, scale same as F.

Grades are finalized by taking into account the sum of all points granted for the following items.

(1) Preparation Assignment: 1 point x 7 sessions

One point will be granted upon each Preparation Assignment submission. However, a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

(2) Attendance of each session: 2 point x 9 sessions

(3) Class discussion: 9 sessions x 10 points maximum/session = 90 points maximum.

The statements you make during each class will be graded from both qualitative and quantitative perspectives, taking into account your grasp of the assigned materials, the responsiveness to in-class questions posed by the instructor and the quality of contributions made to in-class discussions and debate, for the purpose of assessing your contribution to the class. Key evaluative questions are:

–How deeply did each student analyze issues?

–How well did one mobilize learning of fellow students in the class?

•Quality: E (Excellent): 6 points, G (Good): 3 points, None: 0 point

•Quantity: E (Excellent): 4 points, G (Good): 2 points, None: 0 point

(4) Final Report: 30 points maximum

The quality of your Final Report is evaluated by taking into account the following factors:

- Comprehension of learned concepts and frameworks
- Quality and extent of relevant research undertaken
- Sophistication of the analysis of the issues addressed
- Ability to develop and evaluate hypotheses
- Strength of the argument presented

(5) Review Assignment: 5 points maximum

準備学習等についての具体的な指示

1. Preparation Assignments (1 page)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 2 through 9. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one page in length and submit them to the Science Tokyo LMS. The deadline for Preparation Assignment will be 15:00 of the day of the class. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary student-led study sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own. MPP course will arrange online individual- or group-tutoring by senior HSLP students (course tutoring systems). Detailed information on how to participate in tutoring sessions will be provided by the course director.

3. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each MPP session (with the exception of the first session) is about 4 to 6 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people's viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

試験の受験資格

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation, Discussion Points from the class, Final Report and Review Assignments.

Requirements for Grading will be below.

- (1) Attendance, which will be checked through the session, of at least 6 out of 9 sessions within the registered period
- (2) Submission of Final Report by the given deadline
- (3) Submission of Review Assignment by the given deadline

モジュールの単位判定

1 Unit

教科書

1. Political Philosophy – A Complete Introduction, Publisher: Teach Yourself ISBN: 1444167065

Currently, you cannot purchase the paperback version (new) of this book in Japan and need to have it shipped from overseas, which will take time and cost much more. Therefore, we recommend that you purchase the Kindle version.

2. All other course readings (besides the above textbook) will be available on the Science Tokyo LMS. The readings listed each week should be read in preparation for that week's discussion.

他科目との関連

To deepen your understanding of this MPP course, attending the “Critical Thinking Bootcamp” and going through the on-demand “Analytical Framework” are required.

履修上の注意事項

1. Attendance “Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 6 sessions or more out of a total 9 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than 10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10-minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

2. Preparation and Class Participation All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each MPP session (with the exception of the first session) is about 4 to 6 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

参照ホームページ

Please refer the Science Tokyo LMS for each session's syllabus.

時間割番号	021221				
科目名	Leadership (LDR)			科目 ID	
担当教員	長谷川 久紀[HASEGAWA Hisanori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次		単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
Leadership					
主な講義場所					
Some sessions will be provided online via Zoom and some will be held in person at G-Lab; M&D Tower 8th Floor South-side.					
授業の目的、概要等					
General Course Information: This course will examine the mindset, skills and behaviors you need to become an inspiring and effective leader—and help you develop leadership skills that you can apply in your daily job and life situations. You will learn certain leader frameworks and concepts and how they may apply in your context—as well as understand the difference between leadership and management, and required behaviors for each of these. We will look at leadership from several perspectives—what it means for you as an individual, as well as at a team and organizational level—including the challenges of driving innovation and change. The course is focused around cases chosen to illustrate various aspects of being a leader, and which you are asked to study and reflect upon—and which we will also examine and discuss in class. You are encouraged and expected to think by yourself and actively participate in our class discussions, as well as on the course mailing list. Through this course you have the opportunity to become more aware of your own personal characteristics and create a road map for developing yourself into a successful leader who will make a real difference for better patient and healthcare outcomes.					
授業の到達目標					
Course Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to: 1. Describe the differences between leader and manager behaviors. 2. Describe and know how to apply key leadership frameworks. 3. Create a vision for change and how to communicate it to others. 4. Use empowerment to motivate and develop their team members. 5. Describe how great leaders inspire action, align and lead people towards goals. All sessions use the case method with pre-class work, class discussions and group work being major elements of the learning activities. The main themes in this course are the concept of leadership, team building, empowerment, change management and innovation leadership. Also, the objectives of this course include the acquisition of mindset, skills, and behaviors necessary to survive and succeed in today’s competitive environment. Therefore, the course will employ norm-referenced evaluation for its grading as described below. Thus students, whether they are extroverted or introverted, need to strive for excellence in class by preparing hard and participating in/contributing to class discussions/problem-solving exercises without being overwhelmed or their behavior being dictated by such mentalities or Japanese traditional values as shyness, self-effacement, or modesty.					

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	到達目標・学習方法・その他
1	4/23	18:00-21:10	G-Lab	Leadership	Theme: Middle Leader's Challenges & Personal Growth Case: "Donna Dubinsky at Apple Computer Inc.(A)"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
2	5/14	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Leadership	Theme: Corporate Management & Leadership Case: "Starbucks Corporation (A)"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
3	5/21	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Leadership	Theme: Leadership & Driving Change Case: "AUB Medical Center"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
4	6/11	18:00-21:10	G-Lab	Leadership	Theme: Values, Leadership and Innovation in Healthcare Case: "Body Go: Character Drives Leadership at Providence Healthcare"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
5	6/25	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Leadership	Theme: Leadership, Agile Management & Teams Case: "Teaming at Disney Animation"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
6	7/2	18:00-21:10	G-Lab	Leadership	Theme: Leadership, Innovation & Organizational Change Case: "HCL Technologies"	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
7	9/3	18:00-21:10	G-Lab	Leadership	Leadership Course Wrap-up	Course Objectives 1-5, Flipped Classroom Style with Active Learning,

						Pre-Assignments required	

授業方法

All sessions will be taught in a Flipped Classroom Style using case methods with class discussion and group work. Therefore all students have to obey to the Course Rules and Requirements.

Course Rules and Requirements:

1. Preparation Assignments(1 to 2 pages)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 1 through 6. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one to two pages in length and submit them to the Science Tokyo LMS.

The deadline for Preparation Assignment is the class starting time. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignments will only be accepted from students who have attended class and uploaded Preparation Assignments in the designated way. If students are absent, Preparation Assignments will be marked as “Not Submitted”. Note that a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary student-led study sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own.

3. Attendance

“Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 5 sessions or more out of a total 7 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than 10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10-minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

4. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each LDR session is about 3 to 4 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

5. Takeaways (≦300 words)

After each session, students are encouraged to review and reflect on their learning individually or in groups, and are required to post his/her “Takeaways” to the course mailing list within 72 hours after the end of each session.

Takeaways should not be phrases or sentences directly taken from textbooks or handouts, but rather wisdom you gained, or things that made a lot of sense to you or helped you grasp big pictures. This reflection is very effective and useful for yourself – in terms of clarifying and crystallizing your own thoughts and memorizing – as well as being helpful for your fellow classmates.

6. Submission of Summer Break Report

You are required to turn in a Summer Break Report during the course. The Summer Break Report will analyze a business case using key concepts covered during the course. The submission deadline for the report will be August 15, 2026 @18:00. Detailed direction for Summer Break Report will be discussed later in class.

Note: Measures against plagiarism

When writing your Summer Break Report, it is strictly forbidden to copy or use ideas from Summer Break Report of your classmates or those students who took this course in past terms or from Generative AI. Both the provider and beneficiary of relevant information shall become disqualified from completing the course.

7. Submission of Course Review Assignment

You are required to submit a Course Review Assignment to communicate what you have learned during the course and to help deepen your learning in a practical way. The submission deadline for the Course Review Assignment will be August 15, 2026 @18:00. It should be one to two pages in length and consist of the following:

(1) What you learned in class

What were important learning points for you during the entire course? Be as specific as possible.

(2) The learning points that you can apply

- How did what you learned from this course improve the way you think and analyze health-related policies or issues?
- How can you make a positive impact on a society?

(3) For further development

What actions do you need to and intend to take to enhance what you have learned during this course and to make you a better solver of health-related problems?

PLEASE NOTE: all written work should conform to the following criteria: single-sided, numbered pages, 12-point Times New Roman font, single-spaced. Include your name, student number, and a title for all assignments. Summer Break Paper should employ footnotes and include a bibliography whose style should conform to the stylistic guidelines of the Chicago Manual of Style, available on the following website: http://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide.html

授業内容

The detail of the Session Learning Objectives, Required Reading, Suggested Viewing, Exercises and Preparation Assignment for each session will be on each session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date.

成績評価の方法

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation Discussion Points from the class, Summer Break Report and Review Assignments.

成績評価の基準

The final grade will be based on the sum of all points granted and converted to 0–100. 90–100 will be the same as the scale of A+, 80–89 as A, 70–79 as B, 60–69 as C, and below 59 as D.

For those students with the score over 60 will be determined as Course Completed with a credit granted. For those students who marks the score below 59 will be determined as not achieving the learning objectives and fail to meet the requirements for a credit. For those students who did not fulfill attendance requirements or other necessary requirements will be ineligible for grading, scale same as F.

Requirements for Grading

- Attendance of at least 5 out of 7 sessions within the registered period
- Submission of Summer Break Paper by the given deadline, August 15, 2026 @18:00
- Submission of Review Assignment by the given deadline, August 15, 2026 @18:00

Grading Criteria

- Achievement of the course objectives
- Overall contribution to the class discussion

Grades are finalized by taking into account the sum of all points granted for the following items.

(1) Preparation Assignment: 1 point x 6 sessions

One point will be granted upon each Preparation Assignment submission.

However, a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

(2) Class discussion: 6 sessions = 48 points maximum (8 points maximum for each session)

The statements you make during each class will be graded from both qualitative and quantitative perspectives, taking into account your grasp of the assigned materials, the responsiveness to in-class questions posed by the instructor and the quality of contributions made to in-class discussions and debate, for the purpose of assessing your contribution to the class.

Key evaluative questions are:

- How deeply did each student analyze issues?
- How well did one mobilize learning of fellow students in the class?
- Quality: E (Excellent): 5 points, G (Good): 3 points, None: 0 point
- Quantity: E (Excellent): 3 points, G (Good): 2 points, None: 0 point

(3) Summer Break Report: 20 points maximum

The quality of your Summer Break Report is evaluated by taking into account the following factors:

- Comprehension of learned concepts and frameworks
- Quality and extent of relevant research undertaken
- Sophistication of the analysis of the issues addressed
- Ability to develop and evaluate hypotheses
- Strength of the argument presented

(4) Review Assignment: 5 points maximum

準備学習等についての具体的な指示

1. Preparation Assignments(1 to 2 pages)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 1 through 6. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one to two pages in length and submit them to the Science Tokyo LMS.

The deadline for Preparation Assignment is the class starting time. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignments will only be accepted from students who have attended class and uploaded Preparation Assignments in the designated way. If students are absent, Preparation Assignments will be marked as “Not Submitted”. Note that a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary student-led study sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own.

3. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each LDR session is about 3 to 4 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

試験の受験資格

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation, Discussion Points from the class, Summer Break Report and Review Assignments.

Requirements for Grading will be below.

- (1) Attendance, which will be checked through the session, of at least 5 out of 7 sessions within the registered period
- (2) Submission of Summer Break Report by the given deadline
- (3) Submission of Review Assignment by the given deadline

モジュールの単位判定

1 Unit

教科書

All course readings will be available on the Science Tokyo LMS.

The readings listed each week should be read in preparation for that week's discussion.

履修上の注意事項

1. Attendance “Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 5 sessions or more out of a total 7 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than 10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10-minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

2. Preparation and Class Participation All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each LDR session (with the exception of the first session) is about 3 to 4 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people's viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

参照ホームページ

Please refer the Science Tokyo LMS for each session's syllabus.

時間割番号	021220					
科目名	Negotiation (NGT)			科目ID		
担当教員	長谷川 久紀[HASEGAWA Hisanori]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
Negotiation						
主な講義場所						
Some sessions will be provided online via Zoom and some will be held in person at G-Lab; M&D Tower 8th Floor South-side.						
授業の目的、概要等						
General Course Information:						
This course is designed to develop the skills and behaviors you need to become an effective negotiator. You will learn how to apply negotiation skills to a range of daily job and life situations beyond formal contract negotiations—including in a healthcare giver-patient setting.						
The course uses cases to illustrate various aspects of negotiation, which you will study and reflect on before class—and which we will examine further through class discussion. We will also have negotiation role plays during class, enabling you to practice being a negotiator and help you identify what negotiation style may fit best for you personal characteristics and values.						
Through this course you will learn about different types of negotiation, negotiation strategies and tactics as well as how to prepare for your negotiations. The course will reference and make use of some of the latest research in negotiation and conflict resolution, and also draw on the insights of selected master negotiators and negotiation experts.						
You are expected to think by yourself and actively participate in our class discussions, as well as post reviews on the course on the e-SALON message board.						
授業の到達目標						
Course Learning Objectives:						
Through the cases, role plays and other course materials, the students will learn the following:						
1. The role and behaviors of an effective negotiator						
2. Understand and be able to apply key negotiation concepts						
3. How to prepare for negotiations						
4. How to resolve conflicting interests between parties appropriately						
5. How to create value in negotiations through value creating strategies						
6. Understand potential obstacles to negotiations and how to deal with them						
All sessions use the case method with pre-class work, class discussions and group work being major elements of the learning activities. Main themes in this course include key negotiation concepts and variables, negotiator mindset and behaviors, how to prepare for negotiations and strategies for creating value, negotiation psychology and possible obstacles to negotiation.						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	到達目標・学習方法・その他
1	4/15	18:00-21:10	G-Lab	Negotiation	Theme: Negotiation Variables & Essential Negotiation Concepts	Course Objectives 1-6, Flipped

					Case: "The Cinnamon Case"	Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
2	4/22	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Negotiation	Theme: Negotiator Traits, Behaviors & Preparation Case: "Becca Brothers"	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
3	5/13	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Negotiation	Theme: Value Creation, Negotiation Strategies & Style Case: "Riggs-Vericomp Negotiation"	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
4	5/27	18:00-21:10	G-Lab	Negotiation	Theme: Negotiation Tactics, Communication & Dealing with Difficult Counter Parties Case: "Luna Pen"	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
5	6/17	18:00-21:10	遠隔授業 (同期型)	Negotiation	Theme: The Relationship Dimension & Negotiation Psychology Case: "Whole Health Management"	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
6	7/15	18:00-21:10	G-Lab	Negotiation	Theme: Emotions & Obstacles to Negotiation Case: "Negotiation on Thin Ice"	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required
7	8/26	18:00-21:10	G-Lab	Negotiation	Negotiation Course Wrap-up	Course Objectives 1-6, Flipped Classroom Style with Active Learning, Pre-Assignments required

授業方法

All sessions will be taught in a Flipped Classroom Style using case methods with class discussion and group work. Therefore all students have to obey to the Course Rules and Requirements.

Course Rules and Requirements:

1. Preparation Assignments (1 to 2 pages)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 1 through 6. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one to two pages in length and submit them to the Science Tokyo LMS.

The deadline for Preparation Assignment is the class starting time. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignments will only be accepted from students who have attended class and uploaded Preparation Assignments in the designated way. If students are absent, Preparation Assignments will be marked as “Not Submitted”. Note that a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary Student-led Study Sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own.

3. Attendance

“Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 4 sessions or more out of a total 6 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than 10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10-minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

4. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each NGT session is about 3 to 4 hours.

A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class.

Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

5. Takeaways (≤300 words)

After each session, students are encouraged to review and reflect on their learning individually or in groups, and are required to post his/her “Takeaways” to the course mailing list within 72 hours after the end of each session.

Takeaways should not be phrases or sentences directly taken from textbooks or handouts, but rather wisdom you gained, or things that made a lot of sense to you or helped you grasp big pictures. This reflection is very effective and useful for yourself – in terms of clarifying and crystallizing your own thoughts and memorizing – as well as being helpful for your fellow classmates.

6. Submission of Summer Break Report

You are required to turn in a Summer Break Report during the course. The Summer Break Report will analyze a business case using key concepts covered during the course. The submission deadline for the report will be August 15, 2026 @18:00. Detailed direction for Summer Break Report will be discussed later in class.

Note: Measures against plagiarism

When writing your Summer Break Report, it is strictly forbidden to copy or use ideas from Summer Break Report of your classmates or those students who took this course in past terms or from Generative AI. Both the provider and beneficiary of relevant information shall become disqualified from completing the course.

7. Submission of Course Review Assignment

You are required to submit a Course Review Assignment to communicate what you have learned during the course and to help deepen your

learning in a practical way. The submission deadline for the Course Review Assignment will be August 15, 2026 @18:00. It should be one to two pages in length and consist of the following:

(1) What you learned in class

What were important learning points for you during the entire course? Be as specific as possible.

(2) The learning points that you can apply

- How did what you learned from this course improve the way you think and analyze health-related policies or issues?
- How can you make a positive impact on a society?

(3) For further development

What actions do you need to and intend to take to enhance what you have learned during this course and to make you a better solver of health-related problems?

PLEASE NOTE: all written work should conform to the following criteria: single-sided, numbered pages, 12-point Times New Roman font, single-spaced. Include your name, student number, and a title for all assignments. Summer Break Paper should employ footnotes and include a bibliography whose style should conform to the stylistic guidelines of the Chicago Manual of Style, available on the following website: http://www.chicagomanualofstyle.org/tools_citationguide.html

授業内容

The detail of the Session Learning Objectives, Required Reading, Suggested Viewing, Exercises and Preparation Assignment for each session will be on each session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date.

成績評価の方法

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation Discussion Points from the class, Summer Break Report and Review Assignments.

成績評価の基準

The final grade will be based on the sum of all points granted and converted to 0–100. 90–100 will be the same as the scale of A+, 80–89 as A, 70–79 as B, 60–69 as C, and below 59 as D.

For those students with the score over 60 will be determined as Course Completed with a credit granted. For those students who marks the score below 59 will be determined as not achieving the learning objectives and fail to meet the requirements for a credit. For those students who did not fulfill attendance requirements or other necessary requirements will be ineligible for grading, scale same as F.

Requirements for Grading

- Attendance of at least 5 out of 7 sessions within the registered period
- Submission of Summer Break Paper by the given deadline, August 15, 2026 @18:00
- Submission of Review Assignment by the given deadline, August 15, 2026 @18:00

Grading Criteria

- Achievement of the course objectives
- Overall contribution to the class discussion

Grades are finalized by taking into account the sum of all points granted for the following items.

(1) Preparation Assignment: 1 point x 6 sessions

One point will be granted upon each Preparation Assignment submission.

However, a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

(2) Class discussion: 6 sessions = 48 points maximum (8 points maximum for each session)

The statements you make during each class will be graded from both qualitative and quantitative perspectives, taking into account your grasp of the assigned materials, the responsiveness to in-class questions posed by the instructor and the quality of contributions made to in-class discussions and debate, for the purpose of assessing your contribution to the class.

Key evaluative questions are:

- How deeply did each student analyze issues?
- How well did one mobilize learning of fellow students in the class?

•Quality: E (Excellent): 5 points, G (Good): 3 points, None: 0 point

•Quantity: E (Excellent): 3 points, G (Good): 2 points, None: 0 point

(3) Summer Break Report: 20 points maximum

The quality of your Summer Break Report is evaluated by taking into account the following factors:

- Comprehension of learned concepts and frameworks
- Quality and extent of relevant research undertaken
- Sophistication of the analysis of the issues addressed
- Ability to develop and evaluate hypotheses
- Strength of the argument presented

(4) Review Assignment: 5 points maximum

準備学習等についての具体的な指示

1. Preparation Assignments(1 to 2 pages)

Students are required to turn in Preparation Assignments for Sessions 1 through 6. Preparation Assignments assist you in understanding the topic for the class and help you better prepare for class discussion. Write your Preparation Assignments on all of the exercises specified in the syllabus of approximately one to two pages in length and submit them to the Science Tokyo LMS.

The deadline for Preparation Assignment is the class starting time. A detailed guideline to preparing Preparation Assignments for each session will be on session syllabi, which will be posted to the Science Tokyo LMS under the session date. Preparation Assignments will only be accepted from students who have attended class and uploaded Preparation Assignments in the designated way. If students are absent, Preparation Assignments will be marked as “Not Submitted”. Note that a Preparation Assignment may not be accepted if it is judged to be incomplete.

2. Voluntary student-led study sessions (online)

It is recommended and encouraged that you supplement your learning by studying outside of class by reviewing course notes before (e.g., the evening of the night before, or the morning or during a lunch break of the day of each session) and after each class session and studying in small groups with classmates. Discussions with your classmates will reinforce the effectiveness of your study in ways you could not achieve on your own.

3. Preparation and Class Participation

All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each NGT session is about 3 to 4 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people’s viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

試験の受験資格

There will be no final exams in this course. Course gradings will be based on the sum of all points granted from the Preparation Assignment, Class Participation, Discussion Points from the class, Summer Break Report and Review Assignments.

Requirements for Grading will be below.

- (1) Attendance, which will be checked through the session, of at least 5 out of 7 sessions within the registered period
- (2) Submission of Summer Break Report by the given deadline
- (3) Submission of Review Assignment by the given deadline

モジュールの単位判定

1 Unit

教科書

All course readings will be available on the Science Tokyo LMS.

The readings listed each week should be read in preparation for that week’s discussion.

履修上の注意事項

1. Attendance “Sixty-seven percent attendance rule” of this school applies to this course (attendance of 5 sessions or more out of a total 7 sessions), but that is only one of many requirements for the course credit and will not in itself guarantee credit. Detailed grading rules are outlined elsewhere in this course description. You will be marked as absent if you are more than 10-minutes late or if you leave the class more than

10-minutes before the class ends without a particular reason. Moreover, if tardiness overall is excessive (in frequency and/or length, even if it does not go beyond the 10-minute allowance range), some points may be deducted when calculating your final grade.

2. Preparation and Class Participation All HSLP classes are conducted with the assumption that all students are fully prepared. Students attending class without having prepared will not benefit themselves and, even worse, hold back other students in group discussions. Therefore, all students are expected to prepare thoroughly. The estimated required time for preparation for each NGT session (with the exception of the first session) is about 3 to 4 hours. A key feature of HSLP is philosophy to enhance learning through the mutual understanding gained by exploring different ways of thinking. HSLP classes depend upon the active participation of all students. Simply listening to the faculty or other students violates this principle. You are expected to participate in class through active listening, taking notes, asking questions, speaking out based on your own analysis and opinions, engaging your mind on the topic matter, and respecting other people's viewpoints. Opinions from a variety of viewpoints and approaches are always welcome. Always raise your hand before sharing something with the class. In HSLP, students who do not participate in class discussions or who do not ask questions are believed to be unprepared for class. Do not be afraid to challenge one another by asking questions, but refrain from personal attacks. The goal is not to simply agree, but to gain a deeper understanding of the subject matter through thorough investigation and discussion.

参照ホームページ

Please refer the Science Tokyo LMS for each session's syllabus.

時間割番号	021h30				
科目名	アントレプレナー教育(アントレプレナーシップ入門)			科目ID	
担当教員	竹内 勝之, 茂櫛 薫, 長谷 武志, 峯岸 勇, 飯田 頼嗣, 土肥 栄祐, 小川 貴久, 板越 正彦, 表 孝憲, 内御堂 亮[TAKEUCHI Katsuyuki, MOGUSHI Kaoru, HASE Takeshi, MINEGISHI Yu, IIDA Yoritsugu, DOHI Eisuke, OGAWA Takahisa, ITAGOSHI Masahiko, OMOTE Takanori, UCHIMIDO Ryo]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
12 月 2 日水曜日開講予定:3 講 (5 限 13:30～14:15 6 限 14:25～15:10) 全学科専攻対象 2026 年度の対象学年は 2 年次、3 年次、4 年次 履修登録の案内は後日行う					
主な講義場所 履修者数によって決定する予定。					
授業の目的、概要等 本科目の狙いは大きく二点ある。ひとつは起業あるいは新規事業開発で実績のある医療専門職や研究者にリアルな活動をお話いただき、履修者の皆さんに将来のキャリアの参考にさせていただく機会を提供すること。もうひとつは、ビジネスにも医療活動にも研究にも共通して役に立つ汎用的なスキル(トランスファラブルスキル)の基本を学んでいただく機会を提供することである。					
授業の到達目標 将来のキャリアパスのひとつとして、起業や新規事業開発についても興味を持ってもらうこと、そして、アントレプレナーの能力要件のひとつであるトランスファラブルスキルの基礎を身に付けてもらうこと。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	12/2	13:30-14:15		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	土肥 栄祐 飯田 頼嗣 竹内 勝之
2	12/2	14:25-15:10		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	土肥 栄祐 飯田 頼嗣 竹内 勝之
3	12/9	13:30-14:15		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	土肥 栄祐 飯田 頼嗣 竹内 勝之
4	12/9	14:25-15:10		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	土肥 栄祐 飯田 頼嗣 竹内 勝之
5	12/16	13:30-14:15		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	小川 貴久 飯田 頼嗣 竹内 勝之

6	12/16	14:25-15:10		医療従事者であり起業家でもあるゲストをお招きし、起業家としてのキャリア選択の事例に学ぶ。	小川 貴久、 飯田 頼嗣 竹内 勝之
7	12/23	13:30-14:15		ヘルスケアを変えた技術革新の事例を解説し、その原動力となったベンチャー企業の事例も紹介する。	茂櫛 薫、長 谷 武志
8	12/23	14:25-15:10		ヘルスケアを変えた技術革新の事例を解説し、その原動力となったベンチャー企業の事例も紹介する。	茂櫛 薫、長 谷 武志
9	1/6	13:30-14:15		トランスファラブルスキルのエッセンス「デザインによる課題解決」	内御堂 亮 峯岸 勇
10	1/6	14:25-15:10		トランスファラブルスキルのエッセンス「デザインによる課題解決」	内御堂 亮 峯岸 勇
11	1/13	13:30-14:15		トランスファラブルスキルのエッセンス「リーダーシップ」	板越 正彦、 飯田 頼嗣 竹内 勝之
12	1/13	14:25-15:10		トランスファラブルスキルのエッセンス「リーダーシップ」	板越 正彦、 飯田 頼嗣 竹内 勝之
13	1/20	13:30-14:15		トランスファラブルスキルのエッセンス「プロジェクトマネジメント」	板越 正彦、 飯田 頼嗣 竹内 勝之
14	1/20	14:25-15:10		トランスファラブルスキルのエッセンス「プロジェクトマネジメント」	板越 正彦、 飯田 頼嗣 竹内 勝之
15	1/27	13:30-14:15		トランスファラブルスキルのエッセンス「ビジネスコミュニケーション」	表 孝憲、飯 田 頼嗣、竹 内 勝之
16	1/27	14:25-15:10		トランスファラブルスキルのエッセンス「ビジネスコミュニケーション」	表 孝憲、飯 田 頼嗣、竹 内 勝之

授業方法

講義とディスカッションを併行する。(対面)

授業内容

第1回～第5回は起業や新規事業開発で実績のある医療専門職・研究者の方をゲストにお招きし、アントレプレナーとしてのリアルな話題を提供し、キャリアについてディスカッションを行う。

第6回～第8回はプロジェクトマネジメント、リーダーシップ、ビジネスコミュニケーションなどトランスファラブルスキルの基本を講義する。

成績評価の方法

出席を重視する。授業中のディスカッション、課題の取り組み等を総合して評価する。出席 60%、その他(授業中のディスカッション、事前に提示する課題等)40%。

成績評価の基準
授業中の発言内容とレポート内容を踏まえ理解度を評価する。履修者の積極的な授業参加を期待する。
準備学習等についての具体的な指示
予習は必要ない。第6回以降は、トランスファラブルスキルの基本を扱うので、復習時間を確保のうえ次の授業に臨むこと。
試験の受験資格
2/3以上の出席が必須。
教科書
講義資料を配布するので、教科書は定めない。
参考書
授業時間内で紹介する。
他科目との関連
なし。より本格的に学習したい場合、次年度開講の「アントレプレナー育成育成プログラム」の受講を推奨する。募集時期など詳細は、医療・創薬イノベーション教育開発機構ホームページをご確認のこと。
履修上の注意事項
インタラクティブな授業内容もあるので、出席を重視する。
備考
キーワード:アントレプレナーシップ、トランスファラブルスキル
連絡先(メールアドレス)
竹内 勝之:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp
オフィスアワー
竹内 勝之:随時。但し事前にメールで予約。 問合せ先 医療・創薬イノベーション教育開発機構 竹内勝之 E-mail:takeuchi.k.mds@tmd.ac.jp

時間割番号	021h50				
科目名	疫学基礎			科目ID	
担当教員	藤原 武男, 谷 友香子[FUJIWARA Takeo, TANI Yukako]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所					
アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館)					
授業の目的、概要等					
授業目的					
疫学の基礎を理解する。					
概要					
疫学の基礎を理解し、臨床研究論文を適切に解釈し執筆するための土台をつくる。					
授業の到達目標					
臨床疫学研究を実施するにあたり必要となる疫学の知識を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	5/7	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疫学概論	谷 友香子
2	5/13	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疾患の測定、感度と特異度	谷 友香子
3	5/20	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	疫学研究のデザイン、生態学的研究	谷 友香子
4	5/27	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	交絡因子、妥当性と信頼性	谷 友香子
5	6/3	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	サンプリング、横断研究	谷 友香子
6	6/10	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	コホート研究、ケースコントロール研究	谷 友香子
7	6/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室ライブ	ランダム化比較試験、バイアス	谷 友香子
8	6/24	18:00-19:30	アクティブラーニ	Critical Appraisal	谷 友香子

			ング教室 ライブ		
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
参考書 日本疫学会, はじめて学ぶやさしい疫学 第3版. 南江堂; 2018. 木原正博. 疫学 -医学的研究と実践のサイエンス. メディカルサイエンスインターナショナル. 2010 Gordis L. Epidemiology. 6th edition. Philadelphia: Elsevier; 2018					
履修上の注意事項 講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					
連絡先(メールアドレス) 藤原 武男.fujiwara.hlth@tmd.ac.jp 谷 友香子.fujiwara.hlth@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 谷 友香子オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。					

時間割番号	021h60				
科目名	生物統計学基礎			科目ID	
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦[TAKAHASHI Kunihiko, ANZAI Tatsuhiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所					
アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館)(オンライン参加も可能)					
授業の目的、概要等					
授業目的					
生物統計学の基礎を復習し理解する。					
概要					
生物統計学の基本的な解析手法についての復習および理解を深め、臨床疫学研究における適用について学習する。					
授業の到達目標					
問題に応じて適切な統計手法を選択, 適用できるとともに, 解析結果を解釈できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/28	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	生物統計学概論	高橋 邦彦, 安齋 達彦
2	5/12	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	平均の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
3	5/19	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	頻度の比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
4	5/26	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	分散分析, 検定の多重性, 多重比較	高橋 邦彦, 安齋 達彦
5	6/2	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	相関と回帰	高橋 邦彦, 安齋 達彦
6	6/9	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	交絡調整のための多変量解析1:共分散分析, 重回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦
7	6/16	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	交絡調整のための多変量解析 2:Mantel-Haenszel, ロジスティック回帰分析	高橋 邦彦, 安齋 達彦
8	6/23	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	生存時間解析: Kaplan-Meier 法, ログラ	高橋 邦彦, 安齋 達彦

			ング教室 ライブ	ンク検定, Cox 比例ハザ ードモデル	
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。 成績評価には 5 回以上の出席を必要とする。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。					
参考書 ・古川俊之(監修), 丹後俊郎(著). 医学への統計学. 第3版. 朝倉書店. 2013. ・Pagano M, Gauvreau K. Principles of Biostatistics. 2nd ed. CRC Press. 2000.					
連絡先(メールアドレス) 高橋 邦彦 biostat.dsc@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 高橋 邦彦: 平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)					

時間割番号	021h70				
科目名	生物統計学応用 I			科目 ID	
担当教員	高橋 邦彦, 安齋 達彦, 星野 崇宏, 服部 聡, 野間 久史[TAKAHASHI Kunihiro, ANZAI Tatsuhiko, HOSHINO Takahiro, HATTORI Satoshi, NOMA Hisashi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)					
授業の目的、概要等 授業目的 生物統計学の発展的な内容であるベイズ統計学およびメタアナリシスについて理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、ベイズ統計学およびメタアナリシスの基本的事項と実践について学習する。					
授業の到達目標 ベイズ統計学を適用した推論, および少数例のメタアナリシスの実践を行うことができるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/16	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	ベイズ統計学の基礎1	高橋 邦彦
2	9/30	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	ベイズ統計学の基礎2	安齋 達彦
3	10/7	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	空間疫学研究における ベイズ統計学の応用	高橋 邦彦
4	10/14	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	ベイズアプローチによる 因果効果推定と疫学へ の応用	星野 崇宏
5	10/21	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	メタアナリシスの基礎1	高橋 邦彦
6	11/4	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	メタアナリシスの基礎2	高橋 邦彦
7	11/11	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	メタアナリシスの実践1: 診断法のメタアナリシス	服部 聡

8	11/18	18:00-19:30	アクティ ブラーニ ング教室 ライブ	メタアナリシスの実践2: ネットワークメタアナリ シス	野間 久史
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。 成績評価には5回以上の出席を必要とする。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。					
参考書 ・Lesaffre E, Lawson AB. Bayesian Biostatistics. Wiley. 2012. ・Spiegelhalter DJ, Abrams KR, Myles JP. Bayesian Approaches to Clinical Trials and Health-Care Evaluation. Wiley. 2004. ・丹後俊郎, 横山徹爾, 高橋邦彦. 空間疫学への招待. 朝倉書店. 2007. ・丹後俊郎. 新版メタアナリシス入門. 朝倉書店. 2016. ・Borenstein M, et al. Introduction to Meta-Analysis. 2nd ed. Wiley. 2021.					
連絡先(メールアドレス) 高橋 邦彦 biostat.dsc@tmd.ac.jp					
オフィスアワー 高橋 邦彦 平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。 M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)					

時間割番号	021h80				
科目名	生物統計学応用Ⅱ			科目ID	
担当教員	高橋 邦彦, 清水 秀幸, 安齋 達彦, 漆原 尚巳[TAKAHASHI Kunihiro, SHIMIZU Hideyuki, ANZAI Tatsuhiko, URUSHIHARA Hisashi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
全て日本語で行う					
主な講義場所 アクティブラーニング教室(M&D タワー4 階図書館本館) (オンライン参加も可能)					
授業の目的、概要等 授業目的 生物統計学の発展的な課題である薬剤疫学及び医療分野における AI の活用について理解する。 概要 生物統計学を応用した発展的な課題として、薬剤疫学および医療分野における AI の活用について、その基本的事項と実践について学習する。					
授業の到達目標 薬剤疫学を適用した医薬品のリスク評価および医療分野における AI 分析結果の評価を行うことができるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/15	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(1)	高橋 邦彦
2	9/29	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学の研究デザインと評価指標(2)	高橋 邦彦
3	10/6	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤のリスクマネジメントとシグナル検出	安齋 達彦
4	10/13	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	薬剤疫学研究の実践	漆原 尚巳
5	10/20	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(1)	高橋 邦彦, 安齋 達彦
6	11/10	18:00-19:30	アクティブラーニング教室 ライブ	医療 AI のための基礎(2)	高橋 邦彦, 安齋 達彦
7	11/17	18:00-19:30	アクティブラーニング教室	医療 AI の実践(1)	清水 秀幸

			ライブ		
8	11/24	18:00-19:30	共用講義 室2, ライ ブ	医療 AI の実践(2)	清水 秀幸

授業方法
科目担当者の講義による。

授業内容
別表のとおり。

成績評価の方法
成績評価は提出レポート内容(50%)と参加状況(50%)を総合して評価する。
成績評価には5回以上の出席を必要とする。

準備学習等についての具体的な指示
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。

参考書

- ・くすりの適正使用協議会. 実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩. レーダー出版センター. 2008.
- ・佐藤俊哉, 山口拓洋, 石黒智恵子(編). これからの薬剤疫学. 朝倉書店. 2021.
- ・景山茂, 久保田潔(編). 薬剤疫学の基礎と実践. 改訂第3版. ライフサイエンス出版. 2021.
- ・Naqa I, Murphy M (eds). Machine and Deep Learning in Oncology, Medical Physics and Radiology. Springer. 2022.

連絡先(メールアドレス)
高橋 邦彦 biostat.dsc@tmd.ac.jp
清水 秀幸 h_shimizu.dsc@tmd.ac.jp

オフィスアワー
高橋 邦彦: 平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。
M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)
清水 秀幸: 平日であれば随時可能。事前にメールで日時を相談してください。

時間割番号	021h90				
科目名	臨床試験方法論基礎			科目ID	
担当教員	平川 晃弘[HIRAKAWA Akihiro]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う。					
主な講義場所 遠隔講義(ZOOM)					
授業の目的、概要等 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
授業の到達目標 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/25	18:00-19:30	ライブ	臨床研究概論と様々な試験デザイン	平川 晃弘
2	6/30	18:00-19:30	ライブ	優越性試験と非劣性試験	平川 晃弘
3	7/2	18:00-19:30	ライブ	ランダム化と盲検化	平川 晃弘
4	7/7	18:00-19:30	ライブ	連続型・二値型エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
5	7/9	18:00-19:30	ライブ	時間イベント型(生存時間)エンドポイントとそのデータ解析法	平川 晃弘
6	7/21	18:00-19:30	ライブ	解析対象集団と欠測データの処理(経時データ解析の基礎を含む)	平川 晃弘
7	7/23	18:00-19:30	ライブ	サンプルサイズ設計の考え方	平川 晃弘
8	7/28	18:00-19:30	ライブ	Innovative clinical trial methodology 入門	平川 晃弘
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 臨床試験方法論の基礎から学習するカリキュラムのため事前学習は必要としないが、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針や ICH E9(臨床試験のための統計的原則)を理解していることが望ましい。					

教科書

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析／平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析(メディカル・サイエンス・インターナショナル)に沿って講義を進める。

連絡先(メールアドレス)

a-hirakawa.crc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

随時(事前にアポイントを取ること)、8号館北4階

時間割番号	02100				
科目名	臨床試験方法論応用			科目 ID	
担当教員	平川 晃弘, 佐藤 宏征[HIRAKAWA Akihiro, SATO Hiroyuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う。					
主な講義場所 遠隔講義(ZOOM)					
授業の目的、概要等 授業目的 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項を学習する。 概要 エビデンス創出に必要な臨床試験方法論の基本的考え方と臨床試験の計画と解析に必要な統計的事項(試験デザイン、ランダム化、盲検化、エンドポイント、解析対象集団、サンプルサイズ設計等)を体系的に学習する。					
授業の到達目標 研究目的や実施可能性を踏まえて、適切な臨床試験をデザインできるようになる。臨床試験の論文からそのエビデンスレベルを読み解けるようになる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	10/1	18:00-19:30	ライブ	中間解析と群逐次デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
2	10/8	18:00-19:30	ライブ	アダプティブ臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
3	10/15	18:00-19:30	ライブ	ベイズ流臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
4	10/22	18:00-19:30	ライブ	がん臨床試験デザイン	平川 晃弘 佐藤 宏征
5	10/29	18:00-19:30	ライブ	マスタープロトコル試験	平川 晃弘 佐藤 宏征
6	11/5	18:00-19:30	ライブ	診断性能試験(ROC 解析による診断能評価)	平川 晃弘 佐藤 宏征
7	11/19	18:00-19:30	ライブ	予後・治療効果予測アルゴリズムの構築と検証法	平川 晃弘 佐藤 宏征
8	11/26	18:00-19:30	ライブ	これからの臨床試験(最近の話題)	平川 晃弘 佐藤 宏征
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8 回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 臨床試験方法論(基礎)を必ず受講すること。					
教科書 臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析／平川晃弘:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025					

臨床試験方法論:エビデンス創出のための試験デザインと統計解析(メディカル・サイエンス・インターナショナル)に沿って講義を行う。

連絡先(メールアドレス)

平川 晃弘 a-hirakawa.crc@tmd.ac.jp

佐藤 宏征 h-sato.crc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

平川 晃弘 随時(事前にはアポイントを取る)、8 号館北 4 階

時間割番号	021i10				
科目名	口腔疫学基礎			科目ID	
担当教員	相田 潤, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Jun, MATSUYAMA Yusuke, KINO Shiho, ISHIMARU Miho]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う					
主な講義場所					
Zoom					
授業の目的、概要等					
授業目的					
歯科疫学の基礎を理解する。					
概要					
歯科口腔疾患の疫学の基礎を理解する。国際的なコンテキストを理解して論文がかけられる土台をつくる。					
授業の到達目標					
歯科・口腔保健分野で臨床疫学研究を実施するにあたり、基礎的な素養を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	6/29	18:00-19:30	オンデマンド	論文のコンテキスト: 歯科の記述疫学やEBMの理解	相田 潤
2	7/1	18:00-19:30	ライブ	観察研究を口腔保健領域の研究から理解する	相田 潤
3	7/6	18:00-19:30	オンデマンド	社会疫学を口腔保健領域の研究から理解する	木野 志保
4	7/8	18:00-19:30	オンデマンド	口腔保健分野のリアルワールドデータの解析	石丸 美穂
5	7/22	18:00-19:30	ライブ	口腔と全身の健康の関連とその批判	相田 潤
6	7/27	18:00-19:30	オンデマンド	既存データを利用した歯科疫学研究	松山 祐輔
7	7/29	18:00-19:30	ライブ	研究デザインを明確にした研究計画の立案	相田 潤, 松山 祐輔
8	8/3	18:00-19:30	ライブ	研究計画発表	相田 潤, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂
授業方法					
科目担当者の講義による。					
授業内容					
別表のとおり。					
成績評価の方法					
8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
履修上の注意事項					
講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					

連絡先(メールアドレス)

相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp

松山 祐輔:matsuyama.ohp@tmd.ac.jp

木野 志保:shiho.kino.ohp@tmd.ac.jp

石丸 美穂:ishimaru.ohp@tmd.ac.jp

オフィスアワー

相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

松山 祐輔オフィスアワーは特に定めないが、事前にメールで連絡してから訪問すること。

木野 志保:毎週火曜日 10:00~17:00 1 号館西 8 階 口腔疾患予防学分野・教授室

石丸 美穂:毎週水曜日 AM10:00-PM4:00 D 棟 10 階北 歯科公衆衛生学分野

先にメールの連絡をお願いします。

時間割番号	021i20				
科目名	疫学応用			科目ID	
担当教員	相田 潤, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 松山 祐輔, 木野 志保, 石丸 美穂[AIDA Jun, TANI Yukako, ISUMI Aya, DOI Satomi, MATSUYAMA Yusuke, KINO Shiho, ISHIMARU Miho]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～6	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
全て日本語で行う					
主な講義場所 Zoom、図書館情報検索室 1(M&D タワー4 階)					
授業の目的、概要等 授業目的 疫学の発展的な内容を理解する。 概要 疫学の発展的な内容を理解するために、統計ソフトを用いた解析の実際や発展的な内容を学習する。					
授業の到達目標 疫学研究を実施するにあたり、発展的な知識や実践的な技術を身に着ける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	9/18	18:00-19:30	情報検索室 1	傾向スコアを利用した解析1	谷 友香子
2	9/25	18:00-19:30	情報検索室 1	傾向スコアを利用した解析2	谷 友香子
3	10/2	18:00-19:30	ライブ	媒介分析と Structural Equation Modeling	伊角 彩, 土井 理美
4	10/9	18:00-19:30	オンデマンド	マルチレベル分析	木野 志保
5	10/16	18:00-19:30	オンデマンド	欠損値補完1	相田 潤
6	10/23	18:00-19:30	情報検索室 1	欠損値補完2	相田 潤, 松山 祐輔
7	11/6	18:00-19:30	オンデマンド	因果推論(DAG、IV、RD、DID など)1	松山 祐輔
8	11/20	18:00-19:30	オンデマンド	因果推論(DAG、IV、RD、DID など)2	木野 志保, 石丸 美穂
授業方法 科目担当者の講義による。					
授業内容 別表のとおり。					
成績評価の方法 8回のうち 5 回以上の出席が必要で、成績評価は提出レポート内容(50 点)と参加状況(50 点)を総合して評価する。					
準備学習等についての具体的な指示 講義概要に示す各担当教員の講義内容について、下記に示す参考書や文献などを参照して事前に予習することを勧める。また、事前に動画視聴などが必要な授業があるので、注意すること。					
参考書 Szklo M, Nieto F.J. 木原正博、木原雅子訳 アドバンスト分析疫学。メディカルサイエンスインターナショナル。2020					
履修上の注意事項 講義への出席は必須である。また、課されたレポート等は必ず提出すること。					

連絡先(メールアドレス)

相田 潤:aida.ohp@tmd.ac.jp

谷 友香子:fujiiwara.hlth@tmd.ac.jp

土井 理美:doi.hlth@tmd.ac.jp

松山 祐輔:matsuyama.ohp@tmd.ac.jp

木野 志保:shiho.kino.ohp@tmd.ac.jp

石丸 美穂:ishimaru.ohp@tmd.ac.jp

オフィスアワー

相田 潤:歯科公衆衛生学分野 教授 相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日 PM.4:30-5:30 歯科棟北 10 階 歯科公衆衛生学分野

谷 友香子オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡してから訪問すること。

松山 祐輔オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメールで連絡してから訪問すること。

木野 志保:毎週火曜日 10:00~17:00 1 号館西 8 階 口腔疾患予防学分野・教授室

石丸 美穂:毎週水曜日 AM10:00-PM4:00 D 棟 10 階北 歯科公衆衛生学分野

先にメールの連絡をお願いします。

規則集

目次

- 第1章 総則(第1条—第10条)
- 第2章 入学、再入学、転入学及び編入学(第11条—第18条)
- 第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系(第19条—第24条)
- 第4章 授業科目、単位数及び履修方法等(第25条—第28条)
- 第5章 履修の認定及び学位等(第29条—第36条)
- 第6章 入学料及び授業料(第37条—第43条)
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍(第44条—第46条)
- 第8章 科目等履修生等(第47条—第51条)
- 第9章 寄宿舍(第52条)
- 附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この学則は、学校教育法(昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。)第85条及び国立大学法人東京科学大学組織運営規則(令和6年規則第1号。次条において「組織運営規則」という。)第22条第1項及び第24条第1項の規定に基づき東京科学大学(以下「本学」という。)に置く学院並びに学部及び学部に置く学科の修業年限、教育課程その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

(学院並びに学部及び学科)

第2条 本学に置く学院並びに学部及び学部に置く学科は、次のとおりとする。

- 理学院
- 工学院
- 物質理工学院
- 情報理工学院
- 生命理工学院
- 環境・社会理工学院
- 医学部 医学科
- 保健衛生学科
- 歯学部 歯学科
- 口腔保健学科

2 前項に規定する学院並びに学部及び学部に置く学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的及び位置は、組織運営規則第22条第2項及び第24条第2項の定めるところによる。

(入学定員及び収容定員並びに系等)

第3条 学院並びに学部及び学部に置く学科の入学定員及び収容定員は、別表1のとおりとする。

2 学院に、教育上の目的に応じて、専門教育実施の基本的な単位として系を置く。

3 学部に置く学科に、専攻を置く。

4 前2項の系及び専攻は、別表1のとおりとする。

5 学修の課程については、別に定める。

(系への所属)

第4条 本学の学院に入学した1年次相当の学生に係る修学指導等については、各学院において行うこととし、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した学生は、前条第2項に規定する学院に置く系に所属するものとする。

(修業年限)

第5条 修業年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、4年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は、6年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の修業年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(在学年限)

第6条 在学年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、8年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の在学年限は、10年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の在学年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を、次の区分のとおり2学期に分ける。

前期 4月1日から毎年度において学長が定める9月中の日まで

後期 前期最終日の翌日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期を、前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第9条 学生の休業日は、次に掲げるとおりとする。

一 日曜日

二 土曜日

三 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

四 春期休業日、夏期休業日及び冬期休業日

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合には、休業日に授業を行うことができる。

3 第1項第4号の休業日は、その都度、学長が別に定める。

4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

(教授会の審議及び学長の決定事項)

第10条 入学、卒業、学位の授与その他学生の在籍に関する事項及び教育課程の編成に関する事項は、学院又は学部の教授会の議を経て、学長が決定する。

第2章 入学、再入学、転入学及び編入学

(入学資格)

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者(昭和23年文部省告示第47号)

七 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

八 学教法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

九 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の時期)

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第16条第4項に規定する者については、学期の始めとすることがある。

(入学志願の手続)

第13条 入学志願者は、入学願書に所定の書類と別に定める検定料を添えて、願い出なければならない。

2 前項の検定料は、別に定めるところにより、免除することがある。

3 一度納付した検定料は、別に定めがある場合を除き返還しない。

4 入学志願の時期は、その都度決定して公告する。

(入学者選考)

第14条 入学志願者に対しては、学力その他に基づき選考の上、入学者を決定する。

2 前項の入学者選考の方法、期日等については、その都度決定して公告する。

3 入学者選考に関し必要な事項は別に定める。

(再入学)

第15条 本学を卒業した者(第17条第2項第1号及び第4項第2号により編入学を願い出た場合を除く。)又は第21条若しくは第22条の規定により退学した者が再び入学を願い出たときは、前条の規定にかかわらず、収容定員に余裕がある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

2 三大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修する者(以下「複合領域コース履修者」という。)が第22条の規定により退学し、協定大学に編入学した後再び入学を願い出て入学を許可された場合であって、学院へ再び入学するときは3年次相当に、医学部医学科又は歯学部歯学科へ再び入学するときは退学時の在籍学科の在籍年次以上に入学する。

3 再入学に関し必要な事項は別に定める。

(転入学)

第16条 他の大学に在学している者で、本学に転入学を願い出る者があるときは、収容定員に余裕がある場合に限り、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することができる。

2 前項の規定により、次の各号に掲げる学院等に転入学を願い出ることができる者は、当該各号に定める大学等に在学する者とする。

- 一 学院 国内の他の大学又は本学と協定を締結している外国の大学
- 二 医学部医学科 国内の他の大学の医学部医学科
- 三 歯学部歯学科 国内の他の大学の歯学部歯学科
- 四 医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科 国内の他の大学又は外国の大学

3 協定大学に2年以上在学する複合領域コース履修者(第22条の規定により退学した者を除く。)が本学の学院に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は3年次相当に、医学部保健衛生学科に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は2年次に入学する。

4 本学と協定を締結している外国の大学に2年以上在学する外国人が本学の学院に転入学を願い出て入学を許可された場合は、3年次相当に入学する。

5 転入学に関し必要な事項は別に定める。

(編入学)

第17条 高等専門学校又は短期大学を卒業した者で、本学の学院に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

2 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の医学部医学科の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 一 大学(本学を含む。)を卒業した者(医学を履修する課程を卒業した者を除く。)
- 二 学教法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者(学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと本学において認めた者を含む。)

3 短期大学を卒業した者で、本学の医学部保健衛生学科の2年次又は歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

4 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 一 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- 二 大学(本学を含む。)を卒業した者
- 三 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

5 編入学に関し必要な事項は別に定める。

(誓約書)

第18条 入学を許可された者は、所定の誓約書を提出し、これに記載された事項を守らなければならない。

第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系

(休学)

第19条 傷病その他やむをえない理由のため一定期間以上学修することができないときは、許可を受けて休学することができる。

2 傷病のため学修することが不適当と認められる学生及び行方不明の学生に対しては、休学を命ずることができる。

3 休学した期間は、在学期間に算入しない。

4 休学に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第20条 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関等に留学しようとするときは、願い出て留学することができる。

2 留学した期間は、在学期間に算入する。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(願いによる退学)

第21条 傷病その他やむをえない事情があるときは、願い出て退学することができる。

(協定大学編入学のための退学)

第22条 複合領域コース履修者が協定大学に編入学するときは、願い出て退学するものとする。

(転学)

第23条 他の大学に転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

(転学院及び転系)

第24条 学院に所属する者のうち、転学院又は転系を志願する者については、別に定めるところにより、許可することができる。

第4章 授業科目、単位数及び履修方法等

(授業科目、単位数及び履修方法等)

- 第25条 教育上の目的を達成するために必要な授業科目、単位数及び履修方法等については、別に定める。
(授業の方法)
- 第26条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。
- 2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 第1項の授業の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 5 授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。
(成績評価基準等の明示等)
- 第27条 本学においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 2 本学においては、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。
(教育内容等の改善のための組織的な研修等)
- 第28条 本学においては、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 第5章 履修の認定及び学位等
(授業科目の履修の認定)
- 第29条 授業科目の履修の認定については、別に定める。
(他の大学における授業科目の履修等)
- 第30条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。
- 2 前項の規定は、学生が、第19条の規定により休学し、当該休学期間中に外国の大学において授業科目を履修する場合、第20条の規定により外国の大学に留学する場合、外国の大学等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
(入学前の既修得単位の認定)
- 第31条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程の履修(いわゆる履修証明プログラムをいう。))により修得した単位を含む。)を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。
- 2 前項の規定により認定することができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)の規定により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
(卒業)
- 第32条 第5条に規定する修業年限以上在学し、所定の授業科目を履修し、次の区分により定める単位数以上を修得した者については、卒業を認める。

学院／学部・学科・専攻			卒業に必要な単位数
学院			各学院が定める124単位以上の単位数以上
医学部	医学科		219.5単位以上
	保健衛生学科	看護学専攻	132単位以上
		検査技術学専攻	142.5単位以上
歯学部	歯学科		199.5単位以上
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	129.5単位以上
		口腔保健工学専攻	130.5単位以上

- 2 前項に規定する単位数には、各学院又は学部が別に定める授業科目の単位数を含まなければならない。
- 3 第1項の規定による卒業に必要な単位数のうち、第26条第2項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位数が124単位を超える学院又は学部にあつては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。
(早期卒業)
- 第33条 本学の学院に3年以上在学(学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第149条の規定に該当する者を含む。)し、所定の授業科目を履修し、前条第1項に規定する各学院の定める124単位以上の単位数以上を優秀な

成績をもって修得したと認められる者については、[第5条](#)及び[前条第1項](#)の修業年限に係る規定にかかわらず、卒業を認めることができる。

- 2 [前項](#)に規定する単位数には、各学院が別に定める授業科目の単位数を含まなければならない。
- 3 [第1項](#)の規定による卒業に必要な単位数のうち、[第26条第2項](#)に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位数が124単位を超える学院にあっては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。
- 4 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

(学位)

第34条 [前2条](#)の規定により、卒業を認められた者に対し、次の区分により学位を授与する。

学院／学部・学科・専攻			授与する学位(専攻分野)
理学院			学士(理学)
工学院			学士(工学)
物質理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
情報理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
生命理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
環境・社会理工学院			学士(工学)
医学部	医学科		学士(医学)
	保健衛生学科	看護学専攻	学士(看護学)
		検査技術学専攻	学士(保健学)
歯学部	歯学科		学士(歯学)
	口腔保健学科		学士(口腔保健学)

(学位の授与)

第35条 学位の授与については、[東京科学大学学位規程\(令和6年規程第91号\)](#)による。

(教育職員免許状)

第36条 学院において[教育職員免許法\(昭和24年法律第147号\)](#)及び[教育職員免許法施行規則\(昭和29年文部省令第26号\)](#)に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、[別表2](#)のとおりとする。

第6章 入学料及び授業料

(入学料)

第37条 入学、再入学、転入学及び編入学の選考に合格した者で入学のため所要の手續をとろうとする者は、所定の期日までに別に定める入学料を納付しなければならない。ただし、[第42条](#)の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

- 2 [前項](#)の規定にかかわらず、[第22条](#)の規定により退学した複合領域コース履修者が協定大学に編入学した後、再入学する場合は、入学料は徴収しないものとする。

(授業料)

第38条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、各年度に係る授業料について、次の区分で納付しなければならない。この場合において、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

納付区分	納期
前期分	5月31日まで
後期分	11月30日まで

- 2 [前項](#)の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期分の授業料を徴収するときに、当該年度の後期分の授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 [前2項](#)の規定にかかわらず、医学部及び歯学部の入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前期分又は前期分及び後期分の授業料を、入学を許可するときに併せて徴収するものとする。

(既納の入学料及び授業料)

第39条 一度納付した入学料及び授業料は返還しない。

(休学者及び復学者の授業料)

第40条 学生が休学を許可され、又は命ぜられ、[次の各号](#)のいずれかに該当する場合は、月割(前期の最終月は9月1日から前期の最終日まで、後期の初月は後期の開始日から10月末日までとみなす。以下同じ。)により、休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月)から復学当月の前月までの授業料を免除する。

- 一 [第38条第1項](#)に規定する授業料の納期までに休学を願い出た場合
 - 二 [第42条](#)の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合
- 2 [前項](#)の規定により、授業料の免除を受けた学生が、[第38条第1項](#)に規定する授業料の納期より後に復学した場合にあつては、復学当月から当該学期末までに係る授業料を、直ちに納付しなければならない。
(退学者等の授業料)
- 第41条 退学又は除籍の場合であっても、その学期に属する分の授業料は、納付しなければならない。ただし、学生が退学を許可され、[次の各号](#)のいずれかに該当する場合は、月割により、退学当月の翌月以降の授業料を免除する。
- 一 [第38条第1項](#)に規定する授業料の納期までに退学を願い出た場合
 - 二 [次条](#)の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合
- 2 停学を命ぜられた場合であっても、その期間中の授業料は、納付しなければならない。
- 3 [前2項](#)の規定にかかわらず、[第46条第7号](#)に規定する死亡による除籍となった者その他別に定める者の除籍日の属する学期の未納の授業料は、全額を免除することがある。
(入学科及び授業料の免除又は徴収猶予)
- 第42条 入学科及び授業料は、別に定める基準により、免除又は徴収猶予することができる。
(授業料返還の特例)
- 第43条 [第39条](#)の規定にかかわらず、[第38条第3項](#)の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により、当該授業料を返還する。
- 2 [第39条](#)の規定にかかわらず、授業料を納付した者において、当該授業料に係る期間に、休学した者については、月割により、休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日である場合にあつては休学当月)から復学当月の前月までの授業料を、卒業、退学又は除籍により在籍しなくなった者については、月割により、卒業日、退学日又は除籍日の属する月の翌月以降の授業料を返還する。
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍
(表彰)
- 第44条 学生に表彰に値する行為があつたときは、表彰することがある。
- 2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。
(懲戒)
- 第45条 学生が法令若しくは本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行ったときは懲戒する。
- 2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。
(除籍)
- 第46条 [次の各号](#)のいずれかに該当する者は、除籍する。
- 一 学力劣等で成業の見込みがないと認められるとき。
 - 二 在学期間が[第6条](#)に規定する年数を超えるとき。
 - 三 休学期間が[第19条第4項](#)に基づき別に定める期間を超えるとき。
 - 四 入学科の免除若しくは徴収猶予を許可されなかった者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入学科を所定の期日までに納付しなかったとき。
 - 五 授業料の納付を怠り、督促しても、なお、納付しなかったとき。
 - 六 [第19条第2項](#)の規定により休学を命ぜられた行方不明の学生が、別に定める休学期間を経過しても復学できないとき。
 - 七 死亡したとき
- 第8章 科目等履修生等
(科目等履修生)
- 第47条 本学の学生以外の者で、本学が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。
(特別聴講学生)
- 第48条 他の大学との協定に基づき、国内の他の大学の学生で本学が開設する授業科目を履修することを願い出る者があるときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。
- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。
(海外交流学生)
- 第49条 本学と外国の大学との学術交流協定等に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合には、海外交流学生として、入学を許可することがある。
- 2 海外交流学生に関し必要な事項は、別に定める。
(海外訪問学生)
- 第50条 本学と外国の大学との相互了解に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、海外訪

問学生として入学を許可することがある。

2 海外訪問学生に関し必要な事項は、別に定める。

(短期交流学生)

第51条 国内の他の大学等の学生で、本学と国内の他の大学等との間における学術交流のため、当該他の大学等の授業科目(別に定めるものを除く。)の一環として本学の教員から指導又は助言を受けることを志願する者があるときは、支障のない場合に限り、短期交流学生として入学を許可することがある。

2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

第52条 本学に、寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる学則は、廃止する。

一 東京工業大学学則(平成23年学則第3号)

二 東京医科歯科大学学則(平成16年規程第4号)

3 第2条第1項に定めるもののほか、本学に、次の学部及び学科(以下「旧学部等」という。)を置く。

理学部 数学科

地球惑星科学科

工学部 情報工学科

4 旧学部等は、この学則の施行の日(以下「施行日」という。)前に東京工業大学に入学し、施行日において引き続き当該学部等に在学する者(この項において「在学生」という。)が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、在学生の修学に係る取扱いについては、なお従前の例による。

5 別表1の規定にかかわらず、令和8年度の医学部医学科の入学定員は101人とし、令和8年度から令和13年度までの情報理工学院及び医学部医学科(令和9年度から令和13年度までにあつては、医学部医学科に限る。)に係る同表の「収容定員」欄に掲げる数並びに学院、学部及び大学の収容定員の合計については、次表のとおりとする。

学院・学部	系・学科	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	488	—	—	—	—	—
	(第3年次相当編入学定員)	4	—	—	—	—	—
計		492	—	—	—	—	—
学院計		4,452	—	—	—	—	—
医学部	医学科	604	589	574	558	542	526
	(第2年次編入学定員)	25	25	25	25	25	25
	計	629	614	599	583	567	551
学部計		1,450	1,435	1,420	1,404	1,388	1,372
合計		5,902	5,927	5,912	5,896	5,880	5,864

6 この学則第8章に定めるもののほか、当分の間、社会環境的な要因により、在籍している外国の大学での継続的な学修が困難となった者又は在籍予定の外国の大学での学修が困難となった者については、東京科学大学学則附則第6項及び大学院学則附則第6項に基づく海外特例学生に関する暫定取扱規程(令和7年規程第71号)の規定に基づき、海外特例学生として入学を許可することがある。

附 則(令6.10.1学3)

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

附 則(令7.7.4学3)

この学則は、令和7年7月4日から施行する。

附 則(令7.9.22学5)

この学則は、令和8年4月1日から施行する。

別表1(第3条関係)

学院・学部	系・学科	専攻	入学定員 人	編入学定員 人	収容定員 人
理学院	数学系 物理学系 化学系 地球惑星科学系	—	151		604

計			151		604
工学院	機械系 システム制御系 電気電子系 情報通信系 経営工学系	—	358		1,432
	(第3年次相当編入学定員)			9	18
計			358	9	1,450
物質理工学院	材料系 応用化学系	—	183		732
	(第3年次相当編入学定員)			5	10
計			183	5	742
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	—	132		528
	(第3年次相当編入学定員)			2	4
計			132	2	532
生命理工学院	生命理工学系	—	150		600
	(第3年次相当編入学定員)			10	20
計			150	10	620
環境・社会理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	—	134		536
	(第3年次相当編入学定員)			4	8
計			134	4	544
学院計			1,108	30	4,492
医学部	医学科	—	85		510
	(第2年次編入学定員)			5	25
	計		85	5	535
	保健衛生学科	看護学専攻	55		220
		検査技術学専攻	35		140
計			175	5	895
歯学部	歯学科	—	53		318
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	22		88
		口腔保健工学専攻	10		40
		(第2年次編入学定員)		5	15
	計		10	5	55
計			85	5	461
学部計			260	10	1,356
合計			1,368	40	5,848

別表2(第36条関係)

学院	免許状の種類	免許教科
理学院	中学校教諭一種免許状	数学、理科
	高等学校教諭一種免許状	数学、理科
工学院	高等学校教諭一種免許状	情報、工業
物質理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
情報理工学院	中学校教諭一種免許状	数学
	高等学校教諭一種免許状	数学、情報

生命理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科
環境・社会理工学院	高等学校教諭一種免許状	工業

(趣旨)

第1条 東京科学大学(以下「本学」という。)の学士課程における学修については、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規程による。

(授業科目及びその単位数等)

第2条 授業科目及びその単位数は、各学院又は各学部(以下「各学院等」という。)の定めるところによる。

2 各学院等は、授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて体系的に編成するものとし、卒業の要件として修得を必要としている授業科目のほか、卒業の要件に算入しない授業科目を置くことができる。

3 学院において必要と認める場合は、前項の授業科目のほか、選択必修科目を設けて、体系的に編成することができる。

4 授業科目及び単位数等に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法及び授業期間)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義及び演習については、15時間以上30時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。

二 実験、実習、製図及び実技については、30時間以上45時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。

2 各授業科目の授業は、各学院では、各クォーター(学則第8条第2項に基づき各学期を前半と後半に分けた期間をいう。)において8週にわたる期間を単位として行うものとし、各学部では、各学期において10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上の必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができる認められる場合は、この限りでない。

(履修申告及び再履修)

第4条 学生は、所定の期間内に、履修申告を行うものとする。

2 学生は、第6条第2項の規定により不合格となった授業科目を再履修することができる。

3 履修申告及び再履修に関し必要な事項は、別に定める。

(履修申告の上限単位数)

第5条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学年又は1学期に履修申告できる単位数の上限(以下「履修申告上限単位数」という。)を定めるものとする。

2 履修申告上限単位数に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目の履修の認定及び学修の評価)

第6条 授業科目の履修の認定は、授業の目的、形態又は内容に応じ、平常の学修成果や試験等の評価により、総合的に行う。

2 前項の規定による評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格とする。ただし、点数をもって評価しがたい場合は、合格(到達目標を最低限達成している。)及び不合格(到達目標を達成していない。)の評価をもってこれに代えることがある。

3 前2項の評価基準は、次の表のとおりとする。

評価基準	評価	単位認定
授業科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	90～100	合格
授業科目の到達目標を全て達成した	80～89	
授業科目の到達目標を概ね達成した	70～79	
授業科目の到達目標のうち最低限を達成した	60～69	
授業科目の到達目標を達成していない	0～59	不合格

4 第2項の評価により合格した者には、学期ごとに所定の単位を与える。なお、既修得単位の取消し及び成績の更新はできない。

5 学生は、第2項の評価の結果に疑義があるときは、別に定めるところにより、成績の確認又は不服申立てを行うことができる。

6 前各項のほか、授業科目の履修の認定及び学修の評価に関し必要な事項は、別に定める。

(学修の評価におけるGrade Point制度)

第7条 Grade Point(以下「GP」という。)とは、前条の学修の評価に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。

- 2 GPは、次の計算式により算出するものとする。ただし、学修の評価が59点以下の授業科目については「0」とする。

$$GP = (\text{学修の評価} - 55) / 10$$

- 3 Grade Point Average(以下「GPA」という。)とは、個々の学生の学修到達度を計る数値であって、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除して算出されるものをいう。
- 4 Grade Point Total(以下「GPT」という。)とは、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を特定の値で除して算出されるものをいう。
- 5 前各項のほか、GP、GPA及びGPTに関し必要な事項は、別に定める。
(試験等)

第8条 第6条第1項に定める試験等は、学院における期末試験及び学部における本試験並びに各学院等において独自に実施する試験等並びに追試験及び再試験とする。

- 2 試験方法は、授業の目的、形態に応じ、授業担当教員が決定する。
- 3 期末試験及び本試験等をやむを得ない理由により受けられなかった者については、別に定めるところにより、追試験を行うことがある。
- 4 期末試験及び本試験等又は追試験を受験し、第6条第2項の評価に合格しなかった者については、別に定めるところにより、再試験を行うことがある。
- 5 前各項のほか、試験等に関し必要な事項は、別に定める。
(他の大学における授業科目の履修等)

第9条 学生は、学則第30条第1項の規定に基づき、他の大学における授業科目の履修及び単位の認定を希望する場合は、所定の書類により所定の期間内に、所属する学院の長(以下「学院長」という。)又は学部の長(以下「学部長」という。)に申請し、許可を受けなければならない。

(外国の大学における授業科目の履修等)

第10条 学則第30条第2項の規定に基づき、外国の大学における授業科目の履修等を希望する場合の取扱いについては、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第11条 学則第31条の規定による単位認定を願い出た学生がある場合は、各学院等において教育上有益と認めるときは、別に定める授業科目及び単位数を超えない範囲で、かつ、合計60単位を超えない範囲で認定することができる。ただし、学院における系への所属に係る学生の選考に用いる授業科目として別に定めるもののうち、必修科目の認定は行わない。

(再入学者、転入学者及び編入学者の既修得単位の認定)

第12条 学則第15条の規定による再入学者に係る授業科目の既修得単位については、各学院等において審査の上、再入学した学院又は学部において修得した授業科目の単位として認定することができる。

2 学則第16条の規定による転入学者及び学則第17条の規定による編入学者に係る既修得単位については、各学院等において審査の上、別に定める授業科目の単位として認定することができる。

(卒業の要件等)

第13条 進級要件又は卒業要件等は、各学院等が別に定める。

(広域学修制度)

第14条 本学に、学生の所属する学院若しくは系又は学科等における専門分野以外の分野における幅広い教養及び専門力の涵養を目的として、広域学修制度を設ける。

2 前項の広域学修制度の目的を達成するため、本学に、学生が広域な学修を可能とするプログラムを置くものとする。

3 前項のプログラムは、次の各号に掲げるプログラムに分類するものとし、その趣旨は当該各号に定めるものとする。

- 一 挑戦的学修プログラム 新たな分野の学修に挑むことで、分野を横断した多様な素養及び幅広い視野や見識を身につけた人材を養成する。
- 二 特別専門学修プログラム 分野横断的、かつ、機動的に編成された教育拠点において、学士課程の異なる専門分野を有機的に連携した教育を実施し、先端的分野や社会の課題に対応できる実務的人材を養成する。

4 前項の分類に基づき置かれるプログラムの履修要件等については、別に定める。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、学士課程における学修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規程等は、廃止する。

- 一 東京工業大学学修規程(平成16年規程第10号)
- 二 東京工業大学におけるGPA制度に関する要項(平成28年1月8日制定)
- 三 東京医科歯科大学学部教育におけるGPA制度取り扱いに関する要項(平成28年3月31日制定)

- 3 令和6年9月30日において現に東京医科歯科大学の各学部に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和6年10月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者に適用するGPA制度については、[第7条](#)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(趣旨)

第1条 この規程は、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)第45条第3項及び東京科学大学大学院学則(令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。)第58条第3項の規定に基づき、東京科学大学(以下「本学」という。))における学生の懲戒及び教育的措置(以下「懲戒等」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(基本的な考え方)

第2条 懲戒等は、対象となる行為の態様、経緯、結果、影響等を総合的に判断し、教育的配慮を加えて行うものでなければならない。

2 懲戒等によって学生に科せられる不利益は、過重なものとなってはならない。

3 懲戒等の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

(懲戒等の対象となる行為)

第3条 懲戒等の対象となる行為は、次に掲げるとおりとする。

一 犯罪行為又は犯罪未遂行為

二 国立大学法人東京科学大学におけるハラスメントの防止等に関する規則(令和6年規則第57号)第2条第7号に規定する行為

三 国立大学法人東京科学大学情報倫理規則(令和6年規則第69号)第3条に規定する行為

四 試験における不正又は論文の作成における不正等学問的倫理に反する行為

五 本学の教育研究活動を妨害する行為

六 本学の名誉・信用を失墜させる行為

七 本学の規則に違反する行為

八 その他学生の本分に著しく反する行為

(懲戒処分の種類及び内容)

第4条 懲戒処分の種類及び定義は、次に掲げるとおりとする。

一 退学 本学の学生としての身分を喪失させること。

二 停学 6月以下の期間を定めて、又は期間を定めずに、登校を禁じること。

三 訓告 文書により注意を与え、将来を戒めること。

2 停学期間の計算は、暦日によるものとする。

3 停学期間は、在学期間に算入する。ただし、卒業又は修了に係る在学期間の要件においては、在学期間に算入しない。

4 停学期間が1月以内の場合には、前項ただし書の規定は適用しない。

5 停学又は訓告の懲戒処分を受けた学生は、学長に反省文を提出しなければならない。

(教育的措置)

第5条 学院、学部及び研究科(以下「学院等」という。)の長(以下「学院長等」という。)は、第3条に規定する行為を行った当該学院等に所属する学生が、懲戒処分に相当しないとされた場合においても、学生の本分についての反省を促すため、当該学生に対し、次に掲げる教育的措置を行うことができる。

一 嚴重注意 口頭又は文書により、強く反省を求めること。

二 注意 口頭又は文書により、反省を求めること。

(停学期間中の措置)

第6条 停学期間中の学生は、授業科目等の履修、定期試験等の受験、学位論文審査の申請、大学施設の利用及び課外活動への参加をすることができない。ただし、大学施設の利用については、学院長等が、特に必要と認めた場合は、許可することがある。

2 停学期間中の学生に対しては、当該学院等は、面談等により、更生に向けた指導を適宜行うものとする。

3 前項に規定する面談等は、必要に応じカウンセラー等の専門家の協力を得て行うことができるものとする。

4 停学期間中の休学の願い出は、受理しないものとする。

(定期試験等における不正行為)

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

(謹慎)

第8条 学生が懲戒に該当する行為を行ったことが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、学長は、当該学生に懲戒等の決定前に謹慎を命ずることができる。この場合において、謹慎開始日から懲戒等の決定した日までの間は懲戒に準じ、当該学生の登校等を禁止する。

2 謹慎の期間は、その全部又は一部を停学期間に通算することができる。

(自宅待機)

第9条 学院長等は、ハラスメントの防止その他の教育上の配慮が求められる場合は、[第3条](#)に規定する行為を行ったことが明白な学生に対し、懲戒等が決定するまでの間、自宅待機を命じることができる。

2 学院長等は、自宅待機を命じた学生に、授業科目の履修、大学施設の利用及び課外活動への参加を制限することができる。

3 自宅待機の期間は停学期間に含めないものとする。

4 自宅待機の期間中に謹慎に変更となる場合は、変更日から謹慎の扱いとする。

(懲戒等の決定前の休学又は自主退学)

第10条 学長は、[第3条](#)に規定する行為を行った学生が、懲戒等の決定前に休学又は退学を願い出た場合は、受理しないものとする。

(調査委員会)

第11条 学院長等は、学生の懲戒等の対象となる事案について、事実の確認及び当該学生を含む関係者への事情聴取(以下「事実調査」という。)を行うため、調査委員会を置くものとする。

2 異なる学院等に所属する複数の学生が関与している事案については、当該学生の所属する学院等で合同の調査委員会を置くことができる。合同の調査委員会を置かない場合であっても、各学院等の調査委員会は、相互に連携して事実調査を行うものとする。

3 [前2項](#)の規定にかかわらず、[第3条第2号](#)に係る事案については、ハラスメント対策委員会が行う事実調査をもって、[同条第3号](#)に係る事案については、情報倫理委員会が行う事実調査をもって、調査委員会及び事実調査に代えるものとする。

(学生懲戒審査委員会)

第12条 懲戒処分の可否及び懲戒処分を要する場合のその内容の案(以下「処分案」という。)、期間の定めのない停学の解除の可否及び不服申立の調査等について審議するため、学長の下に学生懲戒審査委員会(以下「審査委員会」という。)を置く。

2 審査委員会は、次に掲げる委員を持って組織する。

一 理事のうちから学長が指名する者 1人

二 副学長のうちから学長が指名する者 若干人

三 学院を主担当する専任の教授のうちから学長が指名する者 1人

四 大学院医歯学総合研究科、大学院保健衛生学研究科、医学部及び歯学部(以下「研究科等」という。)に所属する専任の教授から学長が指名する者 1人

五 学長が委嘱する学外有識者 1人

六 その他学長が必要と認める者

3 審査委員会に委員長を置き、[前項第1号](#)の委員をもって充てる。

4 委員長は、審査委員会を招集し、その議長となる。

5 審査委員会には、必要に応じ班を設けることができる。

6 審査委員会は、必要があると認めた場合は、オブザーバーとして委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(審査委員会に置ける議決)

第13条 審査委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 審査委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(懲戒等の手続)

第14条 学院長等は、学生について、懲戒等の対象となる事案が生じた場合は、速やかに事実関係を把握し、審査委員会を通じて学長に報告するとともに、調査委員会に、事実調査を行わせるものとする。

2 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束その他の事由により直接事情聴取を受けることができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。

3 調査委員会は、事情聴取に際し、学生から補佐人の同席及び補佐人からの陳述について求めがあった場合は、これに応じなければならない。ただし、事情聴取の妨げになると調査委員会が認めた場合、補佐人の数を制限することができる。

4 調査委員会は、事情聴取に際し、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。ただし、学生が、正当な理由なく事情聴取に応ぜず、弁明しない場合は、この権利を放棄したものとみなす。

5 学生は、本学が行う必要な調査については、誠実に協力しなければならない。

6 調査委員会は、事実調査の結果に基づき、調査結果報告書を作成し、学院長等に報告するものとする。

7 学院長等は、[前項](#)の報告を受けたときは、審査委員会に調査結果報告書を報告するものとする。

8 審査委員会は、[前項](#)の報告を受けたときは、学長に報告するとともに審査委員会において処分案の審議を開始するものとする。

9 審査委員会は、処分案の審議に当たり、事実関係の再調査が必要と認めた場合は、学生又は補佐人等から事情聴取を行うことができる。

10 第2項及び第3項の規定は、前項の事情聴取について準用する。

11 審査委員会は、処分案を作成し、学長に報告するものとする。

12 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に処分案を通知するものとする。

13 学院長等は、前項の規定により通知を受けた処分案が懲戒処分を要するものであったときは、処分案の審議を教授会に付議し、審査委員会を通じてその審議結果を学長に報告するものとする。この場合において、教授会の審議結果が審査委員会の処分案と異なる場合は、その理由を付するものとする。

(懲戒処分の決定)

第15条 学長は、前条第13項の報告に基づき、懲戒処分の要否及び懲戒処分を要する場合のその内容を決定し、審査委員会を通じて学院長等に通知するものとする。

(懲戒等の告知)

第16条 懲戒等の効力は、学生に懲戒等を告知したときに生じるものとする。

2 懲戒処分の告知は、前条の通知を受けた学院長等が学生及び保護者等又は連絡先人に懲戒処分通知書を交付して行うものとする。ただし、学生の所在を知ることができない場合においては、公示送達又は他の適切な方法により行うものとする。

3 教育的措置の告知は、学院長等が学生に行うものとする。

(懲戒処分の告示等)

第17条 学長は、懲戒処分を行ったときは、教育研究評議会に報告するとともに、学生の氏名を伏して学内に告示するものとする。

2 学院長等は、教育的措置を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。

(懲戒に関する記録)

第18条 懲戒処分を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。

(逮捕・勾留時の取扱い)

第19条 学生が逮捕・勾留され、学生からの事情聴取を行うことができない場合においては、事情聴取及び弁明の機会が付与されないことにより学生の権利を損なうことがないように十分に配慮した上で懲戒等を行うことができる。

(期間を定めない停学の解除)

第20条 学院長等は、期間を定めない停学の処分を受けた学生について、その反省の程度及び学修意欲等を総合的に判断して、処分を解除することが妥当であると認めた場合は、教授会の議を経て、審査委員会を通じて学長に対し、当該処分の解除を申請することができる。

2 学長は、前項の申請があったときは、当該処分の解除の可否の審議を審査委員会に依頼するものとする。

3 審査委員会は、当該処分の解除の可否を審議し、学長に報告するものとする。

4 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に審査委員会の審議結果を通知するものとする。

5 停学処分解除の告知は、学院長等が学生に停学処分解除通知書を交付して行うものとする。

6 学長は、停学処分の解除を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。

7 停学処分の解除を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。

8 期間を定めない停学は、6月を経過した後でなければ解除することができないものとする。

(不服申立て)

第21条 懲戒処分を受けた学生は、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由がある場合は、懲戒処分通知書を受け取った日の翌日から起算して14日以内に、文書により、学長に対し、審査委員会を通じて不服申立てをすることができる。

2 学長は、前項の不服申立てを受理したときは、不服申立てを却下する場合を除き、審査委員会の議を経て、速やかに再調査の要否を決定しなければならない。

3 前項において、学長が不服申立てを却下する場合又は再調査の必要がないと決定した場合は、速やかに、当該学生に通知するものとする。この場合の通知は、学院長等が学生に文書を交付して行うものとする。

4 第2項において、学長が再調査の必要があると決定した場合の調査等については、第14条から第18条までの規定を準用する。なお、当初の調査等を行った調査委員会の委員となった者については、再調査等を行う調査委員会の委員とすることはできない。

5 不服申立ては、懲戒処分の効力を妨げないものとする。

(科目等履修生等の懲戒等)

第22条 この規程の規定は、科目等履修生、特別聴講学生、海外交流学生、海外訪問学生、短期交流学生、大学院研究生及び特別研究学生の懲戒等について準用する。

(守秘義務)

第23条 学生の懲戒等に関する事項に関わった職員は、職務上知り得た情報を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務)

第24条 学生の懲戒等に関する事務は、教育推進部学生支援課において処理する。

(雑則)

第25条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規程等は、廃止する。

一 東京工業大学学生の懲戒等に関する規程(平成24年規程第1号。以下「旧東工大規程」という。)

二 東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ(平成20年2月8日申合せ。以下「旧医科歯科大申合せ」という。)

3 この規程の施行の日前にした行為に係る懲戒等については、旧東工大規程及び旧医科歯科大申合せの規定は、なおその効力を有する。ただし、令和7年4月1日以降、旧東工大規程の適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧東工大申合せ第11条の学生懲戒審査委員会とみなし、旧医科歯科大申合せの適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧医科歯科大申合せ6. (5)の懲戒委員会とみなす。

(趣旨)

第1条 この細則は、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)第15条の規定に基づき、東京科学大学に置く医学部及び歯学部における全学科に共通する授業科目(以下「全学科共通科目」という。))及び専門に関する授業科目(以下「専門科目」という。))の履修及び試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目及びその単位数)

第2条 授業科目の単位数及び履修学年については、別に定めるとおりとする。

- 2 必修科目は、教育目的を達成するため、修了要件として修得を必要としている科目とする。
- 3 選択科目は、学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を修了要件に算入する科目とする。
- 4 自由科目は、修了要件に算入しない科目とする。
- 5 授業科目の前3項の規定による区分については、別に定めるとおりとする。

(単位の計算方法)

第2条の2 学修規程第3条に定めるもののほか、講義実習(講義と実習を組み合わせた授業の形態をいう。以下に同じ)の授業科目の単位数は、講義10時間、実習15時間の授業をもって1単位とすることを基準として計算するものとする。

(成績不服申立て)

第3条 学修規程第6条第2項に規定する学修の評価の結果により付される授業科目の履修の認定の可否について疑義がある場合は、所定の期日までに科目責任者に対して確認を行うことができる。

- 2 前項の確認に対する回答に不服がある場合は回答受領後3日以内に別紙に定める「成績不服申立書」を所属する学科の教育委員会に対して学科を所掌する教務係を介して提出することができる。
- 3 前項の成績不服申し立て書に対して提出を受けた教育委員会は、別紙に定める「成績不服申立回答書」を用いて回答を行う。

(本試験)

第4条 学修規程第8条第1項に定める本試験は、定期試験と共用試験とする。

(定期試験)

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

- 2 定期試験を受験することのできる学生は、原則として次のとおりとする。
 - 一 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者
 - 二 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者
 - 三 講義実習 講義の授業時間数の3分の2以上履修し、実習の授業時間数の4分の3以上履修した者

(共用試験)

第6条 共用試験とは、医療従事者として必要となる知識、習得した技術を確認することを目的とした試験をいう。

- 2 共用試験を受験することのできる学生は、別に定める。
- 3 共用試験の結果は、可否をもって掲示する。
- 4 前3項のほか、共用試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気その他やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は、原則として1回限りとする。

- 2 追試験を受験しようとする者は、試験申請書を用いて、本試験終了後、原則として5日以内に医学部長又は歯学部長(以下「学部長」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。
- 3 追試験受験決定許可が否の場合は、本試験を不合格とする。
- 4 前3項のほか、追試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

- 2 再試験の実施日時は、所定の期日までに公示する。
- 3 再試験は学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。
- 4 再試験受験決定許可が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。
- 5 前各項のほか、再試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(入学前の既修得単位の認定(全学科共通科目))

第9条 学修規程第11条に定める入学前の既修得単位の認定にあたり、全学科共通科目の単位認定に関する必要な事項は、別に定める。

(編入学生の既修得単位の認定(全学科共通科目))

第10条 学修規程第12条に定める編入学者の既修得単位の認定に当たり、医学部医学科及び歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻における2年次編入学者の全学科共通科目の単位認定に必要な事項は、当該学部において別に定める。

(進級要件)

第11条 学生は、別に定める要件を満たさなければ、進級し、又は所定の授業科目を履修し、単位を修得することができない。

2 休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、2年を超える学生は、特別に考慮すべき事由のない限り、東京科学大学学則(令和6年学則第1号)第46条第1号に規定する「成業の見込みがない」者として、同条の規定により除籍する。

3 前項の場合において、大学は、教授会等における審議を行う前に、除籍の対象となる学生に対し、書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。ただし、当該学生が、弁明の機会を与えられたにもかかわらず、正当な理由なく欠席し、又は文書を提出しなかった場合は、この権利を放棄したものとみなす。

4 第2項の場合において、教授会等における審議の後、当該学生から不服が申立てられた場合で、学部長等が再審議の必要性があると判断したときは、学部長等は、教授会等に再度審議を行わせるものとする。

(仮進級)

第12条 別に定める進級要件(歯学部口腔保健学科3年次にあつては、後期以降の授業科目の履修要件を含む。)を満たさない者について、仮進級を認めることができる。

2 仮進級に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

附 則

1 この細則は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規則(以下「旧規則」という。)は廃止する。

一 東京医科歯科大学学部専門科目履修規則(平成22年規則第41号)

二 東京医科歯科大学試験規則(平成23年規則第1号)

三 東京医科歯科大学全学共通科目履修規則(平成16年規則第217号)

3 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京医科歯科大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、旧規則の規定は、なお効力を有する。

附 則(令6. 11. 5細75)

この細則は、令和6年11月5日から施行し、改正後の東京科学大学の学部における学修に関する細則の規定は、令和6年10月1日から適用する。

附 則(令6. 11. 5細76)

1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7. 3. 7細10)

1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。ただし、第2条の2、第5条、第9条、第12条及び別表2(1医学部医学科及び4歯学部歯学科の備考に限る。この項において同じ。)の改正規定は、令和7年3月7日から施行し、改正後の東京科学大学の学部における学修に関する細則第2条の2、第5条、第9条、第12条及び別表2の規定は、令和6年10月1日から適用する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則別表2(1医学部医学科及び4歯学部歯学科の備考を除く。)及び別表3の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7. 10. 14細35)

1 この細則は、令和8年4月1日から施行する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則別表1、別表2及び別表3の規定は、なお効力を有する。

別紙（成績不服申立書、成績不服申立回答書）

年 月 日

教育委員会 御中

（成績不服申立人）

学部 _____

学科・専攻 _____

学籍番号 _____

氏名 _____

成績不服申立書

科目名 _____

科目責任者名 _____

申立内容（記入欄）

科目責任者への確認内容（記入欄）
（確認実施日 年 月 日）
確認内容に対しての科目責任者の回答（記入欄）
（回答受領日 年 月 日）

※「科目責任者の確認内容」及び「確認内容に対しての科目責任者の回答」については、経緯の分かる資料を添付し記入に代えることも可能とする。

（成績不服申立書受領日 年 月 日）

年 月 日

(成績不服申立人)

学部

学科・専攻

学籍番号

氏名 _____ 殿

教育委員会

成績不服申立回答書

年 月 日付け成績不服申立書に対して、下記のとおり回答いたします。

記

成績不服申立書に対する回答

本件への措置

以上

(教育委員会議決日 年 月 日)

(趣旨)

第1条 この要項は、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)第7条第5項及び東京科学大学大学院学修規程(令和6年規程第94号。以下「大学院学修規程」という。)第8条第5項の規定に基づき、東京科学大学(以下「本学」という。)に置く学院並びに医学部、歯学部及び研究科における学修の評価におけるGrade Point Average(以下「GPA」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 Grade Point(以下「GP」という。)学修規程第7条第1項及び第2項並びに大学院学修規程第8条第1項及び第2項に規定する履修申告した授業科目の成績に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。
- 二 Grade Point Average(以下「GPA」という。)学修規程第9条第3項及び大学院学修規程第8条第3項に規定する授業科目のGPと単位数の積の総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除した数値をいう。
- 三 クォーターGPA 各クォーターにおけるGPAをいう。
- 四 学期GPA 各学期におけるGPAをいう。
- 五 年度GPA 各年度におけるGPAをいう。
- 六 通算GPA 在学期間におけるGPAをいう。

(対象学生)

第3条 GPA制度を適用する対象学生は、本学の学士課程、修士課程、博士課程及び専門職学位課程に在学する全ての学生とする。ただし、工学部に在学する学生を除く。

(対象授業科目)

第4条 GPA制度の対象とする授業科目(以下「対象授業科目」という。)は、各課程において卒業又は修了の要件となる全ての授業科目とする。ただし、次に掲げる授業科目は、対象としない。

- 一 学修規程第6条第2項ただし書及び大学院学修規程第7条第2項ただし書の規定により「合格」又は「不合格」をもって学修の評価を行う授業科目
- 二 学修規程第9条から第12条まで並びに大学院学修規程第10条及び第12条の規定により単位を認定された授業科目
- 三 東京科学大学の学院における学修に関する細則(令和6年細則第48号)別表に規定する研究関連科目、横断科目(教養科目)及び横断科目(専門科目)並びに東京科学大学大学院の学院における学修に関する細則(令和6年細則第50号)別表に規定する講究科目、研究関連科目、横断科目(教養科目)及び横断科目(専門科目)に分類される授業科目

(GPAの算出方法)

第5条 学院においては、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAについて、全ての対象授業科目によるGPA並びに専門科目群及び教養科目群のGPAを算出するほか、学院の学士課程の学生については、併せて授業科目区分ごとの対象授業科目によるGPAを算出するものとする。

2 医学部、歯学部及び研究科においては、全ての対象授業科目による年度GPA及び通算GPAを算出するものとする。

3 前2項のGPAは、次の各号の計算式により算出するものとし、その数値に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

- 一 $\text{クォーターGPA} = (\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 二 $\text{学期GPA} = (\text{当該学期に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該学期に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 三 $\text{年度GPA} = (\text{当該年度に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該年度に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 四 $\text{通算GPA} = (\text{在学期間に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{在学期間に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$

(再履修科目の単位修得時の取扱い)

第6条 不合格とされた授業科目を再履修し、単位を修得した場合は、当該科目の不合格とされた成績をGPAの算出から除外し、修正するものとする。

(GPAの成績証明書等への記載)

第7条 学院においては、成績証明書及び学業成績書、医学部、歯学部及び研究科においては成績証明書に、通算GPAを記載するものとする。

2 学院においては、教務Webシステムに、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAを記載するものとする。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、GPA制度の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和6年10月1日から施行する。

附 則(令7.3.7)

- 1 この要項は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 この要項の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る対象授業科目については、改正前の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7.6.16)

この要項は、令和7年6月16日から施行し、改正後の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、令和7年4月1日から適用する。

(趣旨)

第1条 この要項は、東京科学大学(以下「本学」という。)における公欠の制度(以下「公欠制度」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において「公欠」とは、本学の学生が、本学が認める一定の事由によりやむをえず授業を欠席した場合、これを欠席扱いとはしない取扱いをいう。

(対象学生)

第3条 公欠制度の対象学生は、次のとおりとする。

- 一 本学の学士課程又は大学院課程に在学する者
- 二 前号のほか、授業科目の履修が認められている者

(対象授業科目)

第4条 公欠制度が適用される授業科目は、原則として、学士課程及び大学院課程の全ての授業科目とする。ただし、授業科目の実施形態等を踏まえた授業担当教員の判断により、公欠制度が適用されない場合がある。

(適用事由)

第5条 公欠が適用される事由、公欠の期間の目安、届出時の必要書類及び届出時期は、次のとおりとする。

公欠事由	公欠として認められる期間の目安		届出時必要書類	届出時期の目安
(1) <u>学校保健安全法施行規則(昭和33年6月13日文部省令第18号。以下「施行規則」という。)第18条</u> に規定する感染症に罹患した場合、又は感染しているおそれがある場合	<u>施行規則第19条</u> に規定する出席停止の期間の基準のとおり(右記診断書等に記載されている出席停止の期間のとおり)		診断書等	公欠事由該当期間終了後1週間以内
(2) 親族(配偶者及び2親等以内の親族に限る。)が死亡した場合	配偶者及び1親等(父母・子)	連続する7日以内(休日を含む。)	会葬礼状等	公欠事由該当期間終了後1週間以内
	2親等(祖父母、兄弟・姉妹、孫)	連続する3日以内(休日を含む。)		
(3) 裁判員制度による裁判員若しくは裁判員候補者又は検察審査会制度による検察審査員若しくは補充員に選任された場合	裁判所又は検察審査会事務局からの通知書その他事実が確認できる書類に記載のある期間		裁判所又は検察審査会からの通知書等	書類到着後から公欠事由期間開始前まで
(4) 被災等により通学が困難と学長が認めた場合	学長が必要と認めた期間		罹災証明書等	公欠事由発生後、相当の期間内

(手続等)

第6条 学生は、前条に規定する事由が生じたことにより公欠を希望する場合は、別に定める公欠届に、同条に定める必要書類を添えて、担当部署を通じて学長に提出するものとする。

2 担当部署は、前項の届出があったときは、前条の規定により公欠が適用される事由に該当することを確認した上で、当該学生が公欠制度の適用を希望する履修科目の授業担当教員に、届出の内容を連絡するものとする。

3 前項の連絡を受けた授業担当教員は、授業科目の実施形態等を踏まえた上で、公欠の適否を判断し、適当と認める場合には、配慮の内容等を当該学生に通知するものとする。

(学生への配慮義務)

第7条 授業担当教員は、公欠が適当であると認めた学生から求めがあった場合は、当該学生に対して、履修上の不利益が生じないように配慮するものとする。

2 前項のほか、授業担当教員は、試験実施日に公欠が適当であると認めた学生に対しては、追試験又は課題提出による評価等の配慮を行うものとする。

(公欠制度の適用除外等)

第8条 第6条の規定により公欠が適当であると認めた場合であっても、公欠の期間が長期間にわたることにより、当該授業科目の単位を修得することが困難であると授業担当教員が判断した場合は、当該授業科目の履修申告を不許可とする場合がある。

2 第5条に規定する公欠が適用される事由に該当しない場合であっても、授業担当教員又は該当する授業科目を開設する部局の長等の判断により、欠席扱いとしない等の特別の配慮をする場合がある。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、公欠制度に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要項は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる申合せ及び要項は、廃止する。
 - 一 東京工業大学における公欠の制度に関する申合せ(令和元年11月28日教育・国際連携本部制定)
 - 二 国立大学法人東京医科歯科大学における授業欠席に関する取扱要項(令和2年11月30日制定)
- 3 学部及び研究科に在学する学生については、令和7年3月31日までの間、第4条ただし書の規定は適用しない。

(趣旨)

第1条 東京科学大学の歯学部における専門に関する授業科目(以下「専門科目」という。)の履修及び試験等に関しては、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)及び東京科学大学の学部における学修に関する細則(令和6年細則第49号。以下「学修細則」という。)に定めるもののほか、この内規の定めるところによる。

(授業科目及びその単位数)

第2条 学修細則第2条第1項に定める授業科目の単位数及び履修学年並びに同条第3項から第5項までの規定による区分については、別表1に定めるとおりとする。

(定期試験)

第3条 学修細則第5条第1項に定める定期試験とは、科目試験をいう。

2 科目試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

3 科目試験の受験資格は、学修細則第5条第2項の定めるところによる。

4 科目試験の受験資格について、授業科目の目的、形態又は内容により、学修細則第5条第2項各号の規定と異なる条件を課すときは、教育要項に明示する。

(共用試験)

第4条 学修細則第6条に定める共用試験(以下「共用試験」という。)については、臨床実習前共用試験と臨床実習後共用試験の2種類とし、歯学科において実施する。

2 共用試験のうち、臨床実習前共用試験は5年次の包括臨床実習導入履修前に実施する。

3 臨床実習前共用試験を受験することのできる学生は、別表1の1に定める歯学部歯学科における授業科目のうち4年次に履修する必修科目の全ての単位を修得した学生とする。

4 共用試験のうち、臨床実習後共用試験は6年次の包括臨床実習Ⅲの履修期間内に実施する。

5 共用試験のうち、臨床実習後共用試験を受験することのできる者は、包括臨床実習導入、包括臨床実習Ⅰ及び包括臨床実習Ⅱの単位を修得した学生とする。

(追試験)

第5条 学修細則第7条に定める追試験の実施時期については、次のとおりとする。

一 歯学科においては、原則として当該科目を履修した学年の末までに実施するものとする。

二 口腔保健学科においては、原則として当該科目を履修した学期の学期内に実施するものとする。

(再試験)

第6条 学修細則第8条に定める再試験の実施時期については、次のとおりとする。

一 歯学科においては、原則として当該科目を履修した学年の末までに実施する。

二 口腔保健学科においては、原則として当該科目を履修した学期の学期内に実施するものとする。

(進級要件)

第7条 学修細則第11条第1項に定める進級要件は、別表2に定めるとおりとする。

2 前項のほか、全学科共通科目に係る進級要件については、東京科学大学学部全学科共通科目学修内規(令和6年10月1日医学部教授会・歯学部教授会共同決定)の定めるところによる。

(仮進級)

第8条 本人の責によらない、やむを得ない事情により、試験等を受験できず、別表2に定める進級要件を満たさなかった学生については、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

2 前項のほか、科目試験の不合格により、前条に定める進級要件を満たさなかった学生については、不合格となった科目が3科目以内、かつ、特別な事情がある場合に限り、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

3 仮進級が認められた学生は、原則として翌年度4月末日(口腔保健学科3年次後期への仮進級が認められた学生にあっては原則として当年度の10月末日)までに、未修得科目の単位認定を受けなければならない。

4 第2項の不合格となった科目について、前項の単位認定を受けた場合の学修の評価は、60点とする。

附 則

1 この内規は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる内規は、廃止する。

一 東京医科歯科大学歯学部歯学科専門科目履修内規(平成23年2月2日歯学部長制定)

二 東京医科歯科大学歯学部歯学科試験内規(平成23年2月2日歯学部長制定)

三 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規(平成23年12月7日歯学部長制定)

四 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規(平成23年12月7日歯学部長制定)

附 則(令6. 12. 18)

1 この内規は、令和7年4月1日から施行する。

- 2 この内規の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の歯学部¹に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の歯学部¹に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る学修の評価におけるGrade Point制度及び歯学科における仮進級制度は、改正前の東京科学大学歯学部専門科目学修内規の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7.9.17)

この内規は、令和8年4月1日から施行する。

別表1 授業科目及び単位数(第2条関係)

1 菌学部菌学科

[illegible]

人体の構造と機能(人体解剖実習)	4				○									
人体の構造と機能(組織学総論)	1				○									
人体の構造と機能(組織学各論)	2					○								
人体の構造と機能(人体の発生)	1					○								
学年混合セミナーⅠ	0.5				○									
医療とAI・ビッグデータ応用	1				○									
人体の構造と機能(神経系の機能Ⅰ)	0.5				○									
人体の構造と機能(神経系の機能Ⅱ)	0.5				○									
人体の構造と機能(生命維持のための生体機能)	0.5					○								
人体の構造と機能(口腔生理)	0.5					○								
人体の構造と機能(生理学実習)	0.5					○								
人体の構造と機能(口腔組織学)	1					○								
予防と健康管理	3					○								
歯科医療基礎Ⅰ	1					○								
医療統計学・疫学基礎	1					○								
研究入門Ⅱ	0.5					○								
研究入門Ⅱα		1				○								
自然科学演習	1					○								
System—based medical terminologyⅠ	1						○							
System—based medical terminologyⅡ※2・※3	1							○		○		○		○
IMRAD Format Presentation in English※2	1						○	○	○	○				
多職種連携Ⅱ	0.5						○							
臨床歯学イントロダクション	1						○							
感染と生体防御(免疫学・細菌学)	4						○							
病因と病態(病理学)	3.5						○							
病態科学演習	3.5						○							
生体と薬物(薬理学)	3						○							
歯科法医学	1						○							

[illegible]

inical Dentist ry Advanced														
包括臨床実習Ⅱ	15											○		
口腔顎顔面臨床 解剖	1.5											○		
長寿口腔健康科 学	1.5											○		
包括医療統合教 育Ⅰ	1											○		
多職種連携Ⅲ	1												○	
包括臨床実習Ⅲ ※5	11												○	
包括医療統合教 育Ⅱ	1												○	
歯科医療総合学 習	2													○
配属選択実習		2												○
デンタルエク ス ターンシップ※ 1・※2		1～6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
計	163	6.5 ～1 1.5												

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、1プログラムにつき1単位を認定する。

ただし、一の学年に認定できる単位は、1単位を上限とする。

※2 履修学年が複数年にわたっている授業科目では、そのいずれかの学年で履修することができる。

※3 5科目から2単位以上修得する。

※4 包括臨床実習導入は、臨床実習前共用試験〔Computer Based Testing (CBT)及びPre—Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination(Pre—CC OSCE)〕に合格しなければ、履修することができない。

※5 包括臨床実習Ⅲは臨床実習後共用試験〔臨床実地試験：Clinical Practice Examination(CPX)及び一斉技能試験：Clinical Skill Examination(CSX)〕に合格しなければ、単位を修得することができない。

2 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

区分	授業科目	単位数			履修学年							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
		必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門 基礎 分野	科学英語Ⅰ	1					○					
	科学英語Ⅱ			1				○				
	英語Ⅱ			1～4			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) L1—L3 On—demand			1			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) L1—L3 On—line			1			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) Advanced			0.5								○
	人体の構造と機能	4				○	○	○				
	歯・口腔の構造と機能	5				○	○	○				
	疾病の成り立ちと回復過程の 促進	6					○	○	○			
	公衆衛生学	1				○						
	社会保障	1				○						
	高齢者福祉	1					○					

	保健医療サービス	2					○	○				
	社会調査・研究の基礎	1							○			
	生命倫理	0.5							○			
	メディア情報学基礎	1				○						
	多職種連携	1			○							
	AI・データサイエンスのための数学	2				○						
	医療とAI・ビッグデータ入門	2				○						
	アカデミック・リテラシー	1				○						
専門分野	歯科衛生学総論	1				○						
	臨床歯科医学	6					○	○	○			
	チーム医療の実践	1							○	○		
	口腔機能管理実習	1							○	○		
	高齢者歯科学	1							○	○		
	障害者歯科学	1								○		
	臨床医学	2							○			
	口腔疾患予防学	8					○	○	○			
	臨床口腔保健応用学	1									○	
	健康教育の基礎	2					○	○				
	食生活教育	1					○	○				
	健康教育の企画と実践	2							○	○		
	歯科衛生学演習	2									○	○
	生体材料学	1					○					
	口腔内科学	1						○				
	歯科診療補助論	7					○	○	○			
	歯科衛生臨床実習	13								○	○	○
	歯科衛生臨床実習	6									○	○
	臨床体験実習	1				○	○	○				
統合分野	歯科衛生過程	2						○	○			
	卒業研究	4				○	○	○	○	○	○	○
	児童・家庭福祉	1					○					
	障害児・者福祉	1					○					
	地域福祉	1					○					
	コミュニケーション論	1					○					
	社会福祉実習	1							○	○		
	口腔保健と国際協力※		1						○			
	地域口腔保健論※		1								○	○
	先端歯科医療学※		1								○	○
	在宅訪問・災害口腔保健医療※		1								○	○
口腔保健衛生選択科目	歯科衛生臨床・臨床応用論			1							○	○
	口腔保健衛生エクスターンシップ			1						○	○	○
	口腔保健マネジメント論			1							○	○
	保健行動科学			1							○	○
計		98.5	4	8.5 ～1 1.5								

※選択科目から1単位以上修得する。

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

区分		授業科目	単位数			履修学年							
						1年次		2年次		3年次		4年次	
			必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤と生活	口腔保健と専門職	1				○						
		科学英語Ⅰ	1					○					
		科学英語Ⅱ	1							○			
		英語Ⅱ			1～4			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—demand※1		1				○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—line			1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced			0.5								○
		ヘルスプロモーション	1					○					
		メディア情報学基礎	1				○						
		メディア情報学応用	1				○						
		コミュニケーション学	1							○			
		造形美術概論実習	1				○						
		グローバル口腔保健工学	1						○				
		グローバル口腔保健工学実習	1							○	○		
		AI・データサイエンスのための数学	2				○						
		医療とAI・ビッグデータ入門	2				○						
		アカデミック・リテラシー	1				○						
専門基礎分野	歯科技工と歯科医療	歯科技工士と法律	1									○	
		感染予防	2				○						
		ポストコロナ社会における感染症対策※1		1				○					
		口腔保健工学管理学	1							○			
		早期臨床体験実習	1				○						
		周産期手術支援工学	1							○			
		う蝕と歯周病	1				○						
		高齢者歯科学	2								○		
	歯・口腔の構造と機能	人体の構造と機能	2				○						
		歯の解剖学	1				○						
		口腔と全身の基礎医学	2					○	○				
		硬組織薬理学※1		1				○					
		画像解析学※1		1								○	
		歯の形態実習	2					○	○				
		臨床咬合学	1							○			
	歯科材料・	口腔保健理工学	3					○					
		口腔保健理工学実習	3					○					

	歯科 技工 器と 加工 技術	デジタルデンティスト リー基礎	1						○				
		デジタルデンティスト リー応用	1							○			
専門 分野	有床 義歯 工学	顎顔面補綴学	1								○		
		顎補綴学実習	2.5								○		
		顔面補綴学実習	1								○		
		臨床義歯管理工学	1								○		
		スポーツ歯科学※1		1								○	
		顎関節症とオーラルア プライアンス※1		1								○	
		睡眠とオーラルアプラ イアンス※1		1								○	
		全部床義歯補綴学	1					○					
		全部床義歯実習	2					○					
		デジタル全部床義歯実 習	2					○					
		部分床義歯補綴学	1						○				
		部分床義歯補綴学実習	4						○				
		デジタル金属床義歯実 習	2							○			
	歯冠 修復 工学	歯冠修復学	2						○				
		歯冠修復学実習	5						○				
		審美修復学実習	2							○			
		デジタル歯冠修復学実 習	1							○			
		デジタルデンティスト リー実習	1									○	
		インプラント歯科補綴 学実習	2							○			
	小児 歯科 技工 学	小児歯科学	1								○		
		小児歯科学実習	1								○		
	矯正 歯科 技工 学	矯正歯科学	2							○			
	歯科 技工 実習	再建工学包括臨床実習 Ⅰ	3.5								○		
		再建工学包括臨床実習 Ⅱ	6									○	○
		再建工学包括臨床実習 Ⅲ※2		2								○	○
		統合実習基礎	1.5										○
		統合実習応用※1		1									○
統合 分野	統合 口腔 保健 工学	医療倫理	1							○			
		研究体験実習※1		1			○						
		研究実習Ⅰ	1							○	○		
		研究実習Ⅱ	4									○	○
		研究実習Ⅲ※2		2								○	○
		多職種連携Ⅰ	0.5			○							
		多職種連携Ⅱ	0.5							○			

	多職種連携Ⅲ	1									○	
	口腔保健工学エクスターンシップ			1	○	○	○	○	○	○	○	○
	口腔保健工学企業研修※2		2								○	○
計		93.5	15	3.5 ～6.5								

※1 9科目から5単位以上修得する。

※2 3科目の中から1科目履修する。

4 全学科共通自由科目

授業科目	単位数	履修対象学年					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
Moral and Political Philosophy for Medicine	1	○	○	○	○	○	○
Biosocial Research Topics	1	○	○	○	○	○	○
Applied Critical Thinking for Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Fundamentals of Global Health	1	○	○	○	○	○	○
Leadership	1	○	○	○	○	○	○
Negotiation	1	○	○	○	○	○	○
オンライン異文化交流(※1)	0.5～3	○	○	○	○	○	○
ポストコロナ社会における感染症対策	1	○	○	○	○	○	○
AI実践演習	1		○	○	○	○	○
アントレプレナー教育	1		○	○	○	○	○
疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用I	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用II	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論基礎	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論応用	1	○	○	○	○	○	○
口腔疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
疫学応用	1	○	○	○	○	○	○
計	17.5～20						

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、0.5単位を認定する。ただし、同一年次・年度に認定できる単位は、0.5単位を上限とする。

5 医歯学系異分野研究プロジェクト科目

授業科目	単位数	履修対象学年			
		1年次	2年次	3年次	4年次
異分野研究プロジェクトA	1			○	○
異分野研究プロジェクトB	2			○	○
異分野研究プロジェクトC	4			○	○
異分野研究プロジェクトD	6			○	○

※東京科学大学の学院の学士課程に属する学生のみ履修可能。

別表2 進級要件(第6条、第7条関係)

1 歯学部歯学科

1年次	別表1の1に定める1年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、2年次に進級することができない。

2年次	別表1の1に定める2年次に履修する必修科目の単位を、全て修得しなければ、3年次に進級することができない。
3年次	別表1の1に定める3年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、4年次に進級することができない。
4年次	別表1の1に定める4年次に履修する必修科目の単位を全て修得し、かつ、共用試験に合格しなければ、5年次に進級することができない。
5年次	別表1の1に定める5年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、6年次に進級することができない。

2 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

1年次	1年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、2年次に進級することができない。 一 公衆衛生学 二 社会保障 三 歯科衛生学総論 四 メディア情報学基礎 五 多職種連携 六 AI・データサイエンスのための数学 七 医療とAI・ビッグデータ入門 八 アカデミック・リテラシー (以下、1年次に実施される授業を対象とする) 九 人体の構造と機能 十 歯・口腔の構造と機能
2年次	2年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次に進級することができない。 一 科学英語 I 二 人体の構造と機能 三 歯・口腔の構造と機能 四 高齢者福祉 五 保健医療サービス 六 健康教育の基礎 七 食生活教育 八 生体材料学 九 口腔内科学 十 臨床体験実習 十一 児童・家庭福祉 十二 障害児・者福祉 十三 地域福祉 十四 コミュニケーション論 (以下、2年次に実施される授業を対象とする) 十五 疾病の成り立ちと回復過程の促進 十六 臨床歯科医学 十七 口腔疾患予防学 十八 歯科診療補助論 十九 歯科衛生過程
3年次	3年次の前期までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 疾病の成り立ちと回復過程の促進 二 社会調査・研究の基礎 三 生命倫理 四 臨床歯科医学 五 臨床医学 六 口腔疾患予防学 七 歯科診療補助論 八 歯科衛生過程 (以下、3年次前期に実施される授業を対象とする) 九 健康教育の企画と実践 また、3年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、4年次に進級することができない。 十 チーム医療の実践 十一 口腔機能管理実習 十二 高齢者歯科学 十三 障害者歯科学 十四 健康教育の企画と実践 十五 社会福祉実習

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

1年次	1年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、2年次に進級することができない。 一 口腔保健と専門職 二 メディア情報学基礎 三 メディア情報学応用

	四 造形美術概論実習 五 AI・データサイエンスのための数学 六 医療とAI・ビッグデータ入門 七 アカデミック・リテラシー 八 感染予防 九 早期臨床体験実習 十 う蝕と歯周病 十一 人体の構造と機能 十二 歯の解剖学 十三 多職種連携Ⅰ
2年次	2年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次に進級することができない。 一 科学英語Ⅰ 二 ヘルスプロモーション 三 グローバル口腔保健工学 四 口腔と全身の基礎医学 五 歯の形態実習 六 口腔保健理工学 七 口腔保健理工学実習 八 デジタルデンティストリー基礎 九 全部床義歯補綴学 十 全部床義歯実習 十一 デジタル全部床義歯実習 十二 部分床義歯補綴学 十三 部分床義歯補綴学実習 十四 歯冠修復学 十五 歯冠修復学実習
3年次	3年次の前期までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 デジタル金属床義歯実習 二 審美修復学実習 三 デジタル歯冠修復学実習 また、3年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、4年次に進級することができない。 四 科学英語Ⅱ 五 コミュニケーション学 六 グローバル口腔保健工学実習 七 口腔保健工学管理学 八 周術期手術支援工学 九 高齢者歯科学 十 臨床咬合学 十一 デジタルデンティストリー応用 十二 顎顔面補綴学 十三 顎補綴学実習 十四 顔面補綴学実習 十五 臨床義歯管理工学 十六 インプラント歯科補綴学実習 十七 小児歯科学 十八 小児歯科学実習 十九 矯正歯科学 二十 再建工学包括臨床実習Ⅰ 二十一 医療倫理 二十二 研究実習Ⅰ 二十三 多職種連携Ⅱ

歯学科専門科目成績不服申立てに関して

成績開示日

その他学年
最終学年
1 3
月の教育委員会翌日

成績開示後
3日以内※

学生

直接確認
(下記の確認方法参照)

担当教員

回答

回答受領後
3日以内※

学生

回答受入

回答受領後
3日以内※

成績確定

不服

成績不服申立書提出

歯学科教育委員会

このフローは試験の合否結果に関する
不服申立てではありません

成績不服申立回答書

学生

担当教員

必要な場合成績変更

成績確定

湯島教務室歯学教務グループ

※土日祝日除く

<担当教員への直接確認方法>

確認の方法については、シラバスに記載の担当教員のメールアドレスに連絡を入れること。

その際に、教務グループをs-kyomu.adm@ml.tmd.ac.jpをCCに入れて送付すること。

CCに入れない場合は、受け付けない。